

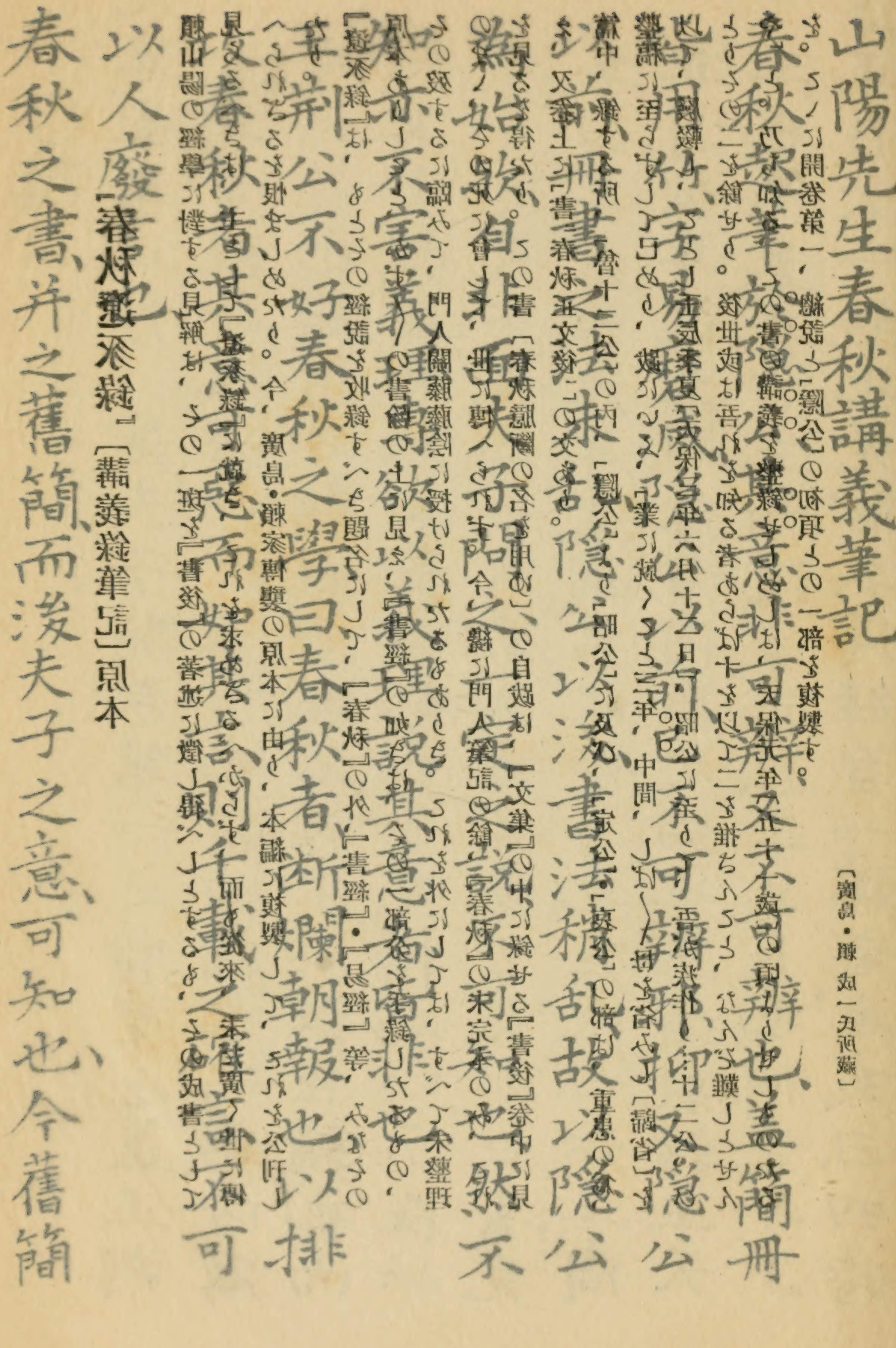


徳富猪一郎監修
木崎愛吉
頼成一　共編

# 頼山陽全書

賴山陽先生遺蹟顯彰會藏版

〔寶島・賴 成一氏所藏〕


山陽先生春秋講義筆記

春秋、[illegible]筆[illegible]書、其意非[illegible]、不可以文辭也、蓋簡冊

[illegible]、日月、字、[illegible]、[illegible]而有可[illegible]、何以辨之、即文、隱公

以前之簡冊書法、[illegible]隱公以後書法稍[illegible]、故以隱公

始[illegible]、自非重大之[illegible]說[illegible]定[illegible]也、然不

知者不害義理、欲[illegible]說其意者[illegible]非[illegible]也、

[illegible]荊公不好春秋之學、曰春秋者斷爛朝報也、以排

擯春秋者、其[illegible]而[illegible]千載之[illegible]可

以人廢[illegible]

春秋之書、并之舊簡而後夫子之意可知也、今舊簡

『春秋遺稿系録』〔講義録筆記〕原本

# 『春秋遼豕錄』〔講義錄筆記〕原本

賴山陽の經學に對する見解は、その一斑を『書後』の著述に徴し得べしとするも、その成書として見らるべきは、主として『遼豕錄』に就き、これを求めざるべからず、而も從來、未だ廣く世に傳へられざるを恨ましめたり。今、廣島・賴家傳襲の原本に由り、本編に複製して、これを公刊したり。

『遼豕錄』は、もとその經説を收錄すべき題名にして、『春秋』の外、『書經』・『易經』等、みなその原本ありしこと、かず〳〵の書翰の上に見え、『書經』の如きは、その一部分を手錄したるもの、その歿するに臨みて、門人關藤藤陰に授けられたるもありき。これを外にしては、すべて未整理のまゝ、その死に會して、世に傳へられず。今、纔に門人筆記の餘、『春秋』の未完本のみ、これを見るを得たり。この書〔春秋臆斷の名を用ゆ〕の自跋は、『文集』の中に錄せる『書後』卷中に見え、又卷上に「書春秋正文後」の文あり。篇中、錄する所、「魯十二公」の内、「隱公」より「昭公」に及び、「定公」・「哀公」の部は、重患の爲、整稿に至らずして已めり、跋にいふ、「業に就くこと三年、中間、しば〳〵母を省みし〔歸省〕を以て、廢輟し、ことし壬辰季夏〔天保三年六月十二日〕、昭公に至りて、吾が疾作り……十二公、ひとりその二を餘せり。後世或は吾れを知る者あらば、十を以てこれを推さんこと、なんぞ難しとせんや」と。乃ち知る、この書の講義を整錄せしめしは、天保元年〔五十一歳〕の頃よりせしものたるを。こゝに開卷第一、總説と「隱公」の初項との一部を複製す。

〔廣島・賴成一氏所藏〕

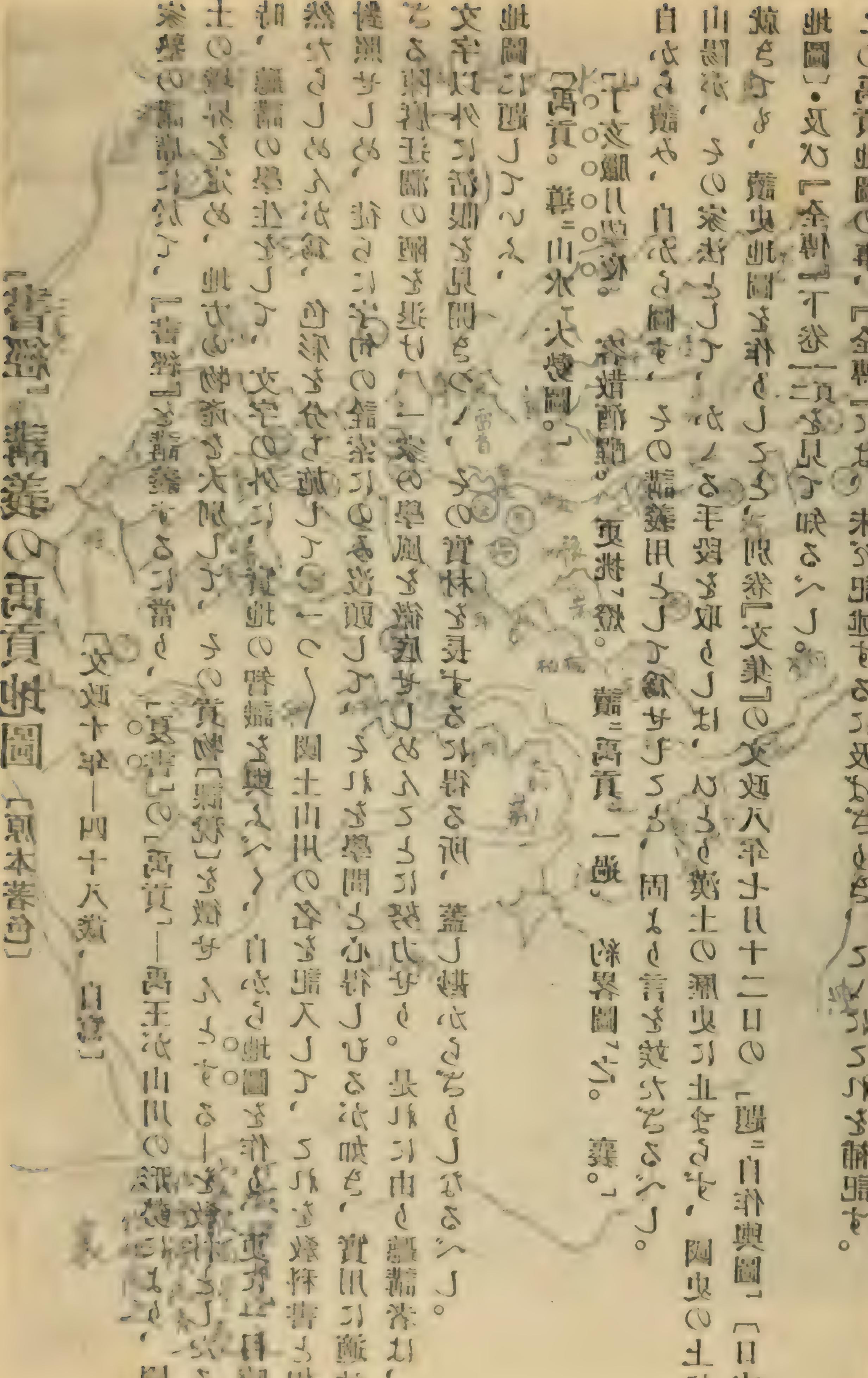
# 山陽先生春秋講義筆記

春秋起筆於隱公、其意非可辨、又不可辨也、蓋簡冊皆用竹、字易磨滅、隱公以前、已不可辨邪、抑又隱公以前、冊書之法未乱、隱公以後、書法稍乱、故以隱公為始歟、自非面夫子問之、一定之說、不可知也、然不知亦不害義理、專欲以義理說其意者、皆非也、王荊公不好春秋之學、曰、春秋者、斷爛朝報也、以排攻春秋者、其意可悪、而如其言、則千載之確言、不可以人廢言也、

春秋之書、并之舊簡、而後夫子之意、可知也、今舊簡

○隱公

元年、春、王正月、　是夫子開卷第一之特筆也、蓋正朔者、王者既命統、所以一天下也、當時諸侯所用、皆周之正月也、苟用之、朝覲貢賦、不可不以致臣職也、而忘其出於周、無致臣節者、故夫子先揭之、以示在此今日之天下者、無一人不為周臣者、可謂明白著見矣、公羊氏曰、元年者何、君之始年也、左氏曰、春王周正月、公羊氏又曰、春者何、歳之始也、王者孰謂、謂王天王也、曷為先言王而後言正月、王正月也、何言乎王正月、大一統也、是皆其得經旨一端者也、或曰、四時



## ○隱公『書經』講義の禹貢地圖 〔原本著色〕

〔文政十年―四十八歲、自寫〕

家塾の講席に於て、『書經』を講義するに當り、「夏書」の「禹貢」―禹王が山川の形勢により、國土の境界を定め、地方の物産を大別して、その貢物〔課稅〕を徴せんとするを教材としたる時、聽講の學生をして、文字の外に、實地の智識を與ふべく、自から地圖を作り、更に一目瞭然たらしめんが爲に、色彩を分ち施して、一つ〳〵國土山川の名を記入して、これを教科書と相對照せしめ、徒らに字句の詮索にのみ沒頭して、それを學問と心得しむるが如き、實用に適せざる陳腐迂濶の陋を退け、一家の學風を徹底せしめんことに努力せり。是れに由り聽講者は、文字以外に活眼を見開きつゝ、その實材を長ずるに得る所、蓋し尠からざりしなるべし。

地圖に題していふ、

「禹貢。導二山水一大勢圖。」

「丁亥臘月望夜。客散酒醒。更挑レ燈。讀二禹貢一一過。約略圖レ之。襄。」

自から讀み、自から圖す。その講義用として爲せしこと、固より言を俟たざるべし。山陽が、その家法として、かゝる手段を取りしは、ひとり漢土の歴史に止まらず、國史の上に就きても『讀史地圖』を作りしことと、別著『文集』の文政八年七月十二日の「題二自作輿圖一」〔日本地圖〕・及び『全傳』下巻一二一頁を見て知るべし。

この禹貢地圖の事、『全傳』には、未だ記述するに及ばざりしかば、こゝにこれを補記す。〔圖中・門田宮三郎氏藏〕

この圖、親しく門田朴齋の手に授けられしもの。


禹贡导山水大势图
客散酒醒更
挑灯读禹贡一
过约略图之
襄
恒山
太行
雷首
太华
熊耳
桐柏
陪尾
大别
荆
九江
衡山
徐
扬
梁
嶓冢
碣石

「文具句長。講究句短。為ㇾ佳。」

「林〔西仲〕云。四句作一句。然不ㇾ如ㇾ此則機不ㇾ起。不ㇾ厭ニ瀾重一。」

「上句長。并拆作短句。與ニ上句一為ㇾ偶。文法如ㇾ此。」

「商若蛇之内。有ニ數轉一。有ニ波瀾一。」

「□云。鋪原本收字作る字。全ニ收字一。語若合ㇾ符。」

を取れり。即ち [illegible] 之の原林 [illegible] 圏點ちなみに [illegible] の評語

は [illegible] 來に加へて北 [illegible] 原林 [illegible] 評語の [illegible]

第一段。敍ニ秦未ㇾ大一。而諸侯欲ㇾ敵ㇾ之。 [illegible] 段。 [illegible] 心 [illegible]

商 [illegible] 大 [illegible] 凡讀ニ古文一 [illegible]

「通論以ニ敍事一爲ㇾ主ニ議論一。是不ㇾ可ㇾ無。 [illegible] 文 [illegible]

「過秦論」〔 [illegible] 〕円本卷十・第十・目一葉 [illegible] 部分 [illegible] の評語

買讀の [illegible] [illegible] 其の [illegible] [illegible]

[illegible]

[illegible]

文 [illegible] 二 [illegible] 其 [illegible] [illegible]

[illegible]〔三十歳〕や [illegible]

「小文典」 [illegible] 本 [illegible] 同 [illegible] [illegible] 古文典 [illegible]

「古文典刑」原本

# 『古文典刑』原本

〔文化二年、廿六歳の選評〕

『小文規則』の姉妹本として、殆ど同時に自選せられたる『古文典刑』は、その淨錄を親友石井豐洲〔三十歳〕の手に託せり。

文化二年〔廿六歳〕九月廿六日と定むべき、豐洲に與へたる尺牘に、半紙よりも諸口紙を用ゐることを囑し、且、半紙に寫し了りたらば、それにても苦しからずとの意を述べたり。こゝに揭げたるは、半紙に寫されたるものに屬し、自評は、すべて山陽の筆に係れり。

賈誼の「過秦論」〔中〕は、刊本卷下・第十・十一葉に跨れる部分にして、その評語

「通篇以二敍事一爲二議論一。是不レ可レ無レ一。不レ可レ有レ二之文。」

「爲二三大段一讀。凡讀二古文一。須二字少者。多分レ段。字多者少分レ段。

第一段。敍二秦未レ大。而諸侯甚張一。」

は、未だ加へられず、この原本には、圈點をさへ加へて、仔細に字句の上に就き、舊來の評語を取れり、卽ち

「□云兼〔原本、取字に作る〕字至二收字一。皆苟不レ下。」

「商君佐二之内一。有二頓挫一。有二波瀾一。」

「上句長。幷呑句短。與二上句一爲レ偶。文法如レ此。」

「林〔西仲〕云。四句。此一句。然不レ如レ此則襯不レ起。不レ厭二癡重一。」

「之具句長。諸侯句短。爲レ偶。」

# 過秦論上

賈生

秦孝公據崤函之固，擁雍州之地，君臣固守以窺周室，有席卷天下，包舉宇內，囊括四海之意，并吞八荒之心。當是時也，商君佐之，內立法度，務耕織，修守戰之具；外連衡而鬭諸侯。於是秦人拱手而取西河之外。孝公既沒，惠文、武、昭襄蒙故業，因遺策，南取漢中，西舉巴蜀，東割膏腴之地，北收要害之郡。諸侯恐懼，會盟而謀弱秦，不愛珍器重寶肥饒之地，以致天下之士，合從締交，相與為一。當此之時，齊有孟嘗，趙有平原，魏有信陵，楚有春申。此四君者，皆明智而忠信

〔以上、原本の終、第十二葉表―頼山陽、卅一歳の書、朱筆、「山」の變體は、當時の慣用。〕

庚午夏日。　山陽外史。

不ㇾ至者。因題ㇾ後。命ㇾ存ㇾ之。茶翁見ㇾ之。　――　百年後。不ㇾ有ㇾ一十襲藏ㇾ焉者ㇾ也。

然嘆ㇾ之。亦有ㇾ言ㇾ喜。從ㇾ之公案。百思而　――　昔詩案金針。此翁雖ㇾ不ㇾ奔ㇾ鉢。安知ㇾ數

倘見ㇾ兒輩讀ㇾ錦繡段ㇾ者。此時人所ㇾ愧ㇾ與。　――　歲授ㇾ筆。加ㇾ一二評語ㇾ。於ㇾ是平片語。

山陽、これを見て一々朱もちて文字を校したる上、朱筆の句讀點を施し、更に、跋語を書して云く、

六十三歳の筆〕

〔以上一紙、原本第七葉裏―門田朴齋、文化七年夏、十四歳寫。六號文字は、菅茶山の評、罫書、

靑燈耿耿思悠々。　寶鴨香寒叶復收。　淸枕不ㇾ禁春睡重。　東風吹ㇾ夢落ㇾ滄洲ㇾ。

斉ㇾ東湖ㇾ。　虞繼之。

可ㇾ惡、又曰。南北二花、一局殘棊。王孫非ㇾ其道ㇾ輔十七年。

胡元本有ㇾ許渭時ㇾ乎。王孫曠什。處濟得意。

若人ㇾ蔻ㇾ揣ㇾ散ㇾ〔發 彫〕膚ㇾ。　無邊生意繞ㇾ池蓮ㇾ。　院鈴不ㇾ動文書靜。　默待芙蓉泣帶花。

橙子品芬帶芙蓉圖。　願讀中。

一杖仙遊足ㇾ白雲ㇾ。　蕭然塵思離ㇾ塵區ㇾ。　十洲三島經行處。　知有ㇾ眠鷗剣圖ㇾ無。　過巧

遊仙杖。　蕭眠之。

## 『啓發小結』〔錦繡段選〕原本の一部と、山陽自筆の跋〔卅一歳、白選本〕

『廚囊小結』〔錦繡段選選〕原本の一部と、山陽自筆の跋〔卅一歲、自選本〕

遊仙枕。　　　　蕭服之。

一枕仙遊足ニ自娛一。蕭然憶思離ニ塵區一。十洲三嶋經行處。知有ニ岷峨劍閣一無。　過巧

趙子昂竝蔕芙蓉圖。　　顧謹中。

春入ニ毫端一散ニ〔彩 脱〕霞一。無邊生意繞ニ穠華一。院鈴不レ動文書靜。貌得芙蓉竝蔕花。

胡元亦有ニ許淸時一乎。王孫膴仕。優游得意。
可レ想。又曰。南北二花。一房旣落。王孫非ニ其遺種子一乎。

客ニ東湖一。　　虞繼之。

青燈耿耿思悠々。寶鴨香寒吐復收。病枕不レ禁春睡重。東風吹レ夢落ニ滄洲一。

〔以上一紙、原本第七葉裏—門田朴齋、文化七年夏、十四歲寫。六號文字は、菅茶山の評、墨書、六十三歲の筆〕

山陽、これを見て一わたり文字を檢したる上、朱筆の句讀點を施し、更に、跋語を書していふ、

偶見下兒輩讀ニ錦繡段一者上。此時人所レ愧レ擧。
然視レ之。亦有レ可レ喜。後之名家。百思而
不レ至者。因點發。命抄レ之。茶翁見レ之。

——戲援レ筆。加ニ一二評語一。翁隻字片語。
——皆詩家金針。此等雖ニ零碎一。安知下數
——百年後。不上レ有ニ十襲藏レ焉者一也。

庚午夏日。　山陽外史。

〔以上、原本の終、第十二葉表—賴山陽、卅一歲の書、朱筆、「山」の變體は、當時の慣用。〕

〔福山・門田宮一郎氏襲藏〕

遊仙枕　　蕭服之

一枕仙遊足自娛蕭然憶恩離塵區十洲三嶋經行
遍知有岷峨劍閣無

趙子昂並蒂芙蓉圖　　顧謹中

春入毫端散霞無盡生意繞穠華泥鈴不動文書靜
貌得芙蓉並蒂花

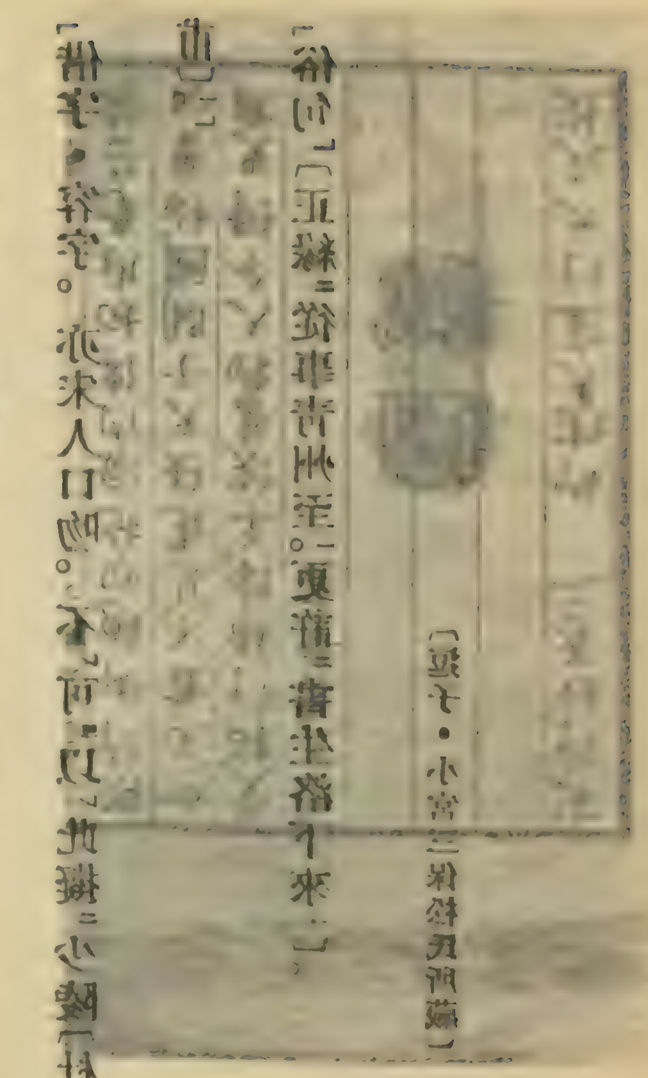
想了了有詩情時乎王孫聽付作詩否
可想　五日兩北二花一鼎隱落了孫非
之美猶了字

客東湖　　虞繼之

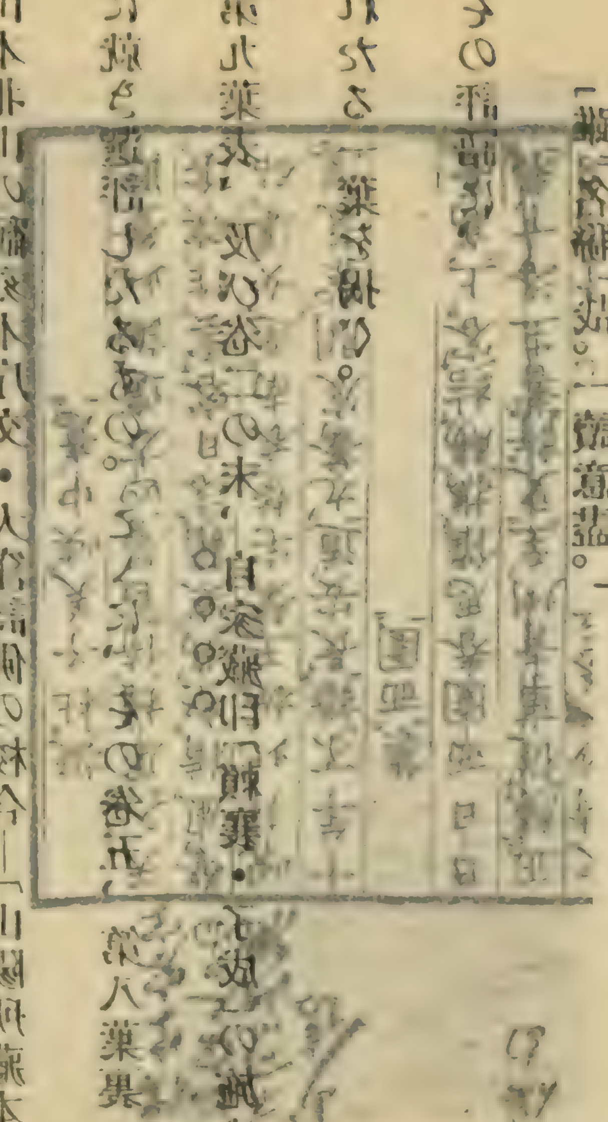
青燈耿耿思悠悠寶鴨香寒吐復收病枕不禁春睡
重東風吹夢落滄洲

偶見此筆讀錦繡段者此時人所愧
果然親之每有不喜後之名家而思而
不至古因題其命抑之筮翁見之
試援筆加一二評語翁隻字片語
此詩家金針此等雖零碎而亦皆
百年後不易十齡者爲者也

庚午五月　山陽叔史



〔小宮三保松氏所藏〕



山本北山の翻刻本序文・大窪詩佛の校合—〔山陽所藏本〕



#「宋詩鈔評本」

〔評語は自筆〕

山本北山の翻刻本序文・大窪詩佛の校合─〔山陽所藏本〕に就き選評したるもの。こゝに、その卷五、第八葉裏・第九葉表、及び卷二の末、山家藏印〔賴襄・子成〕の施されたる一葉を掲ぐ。

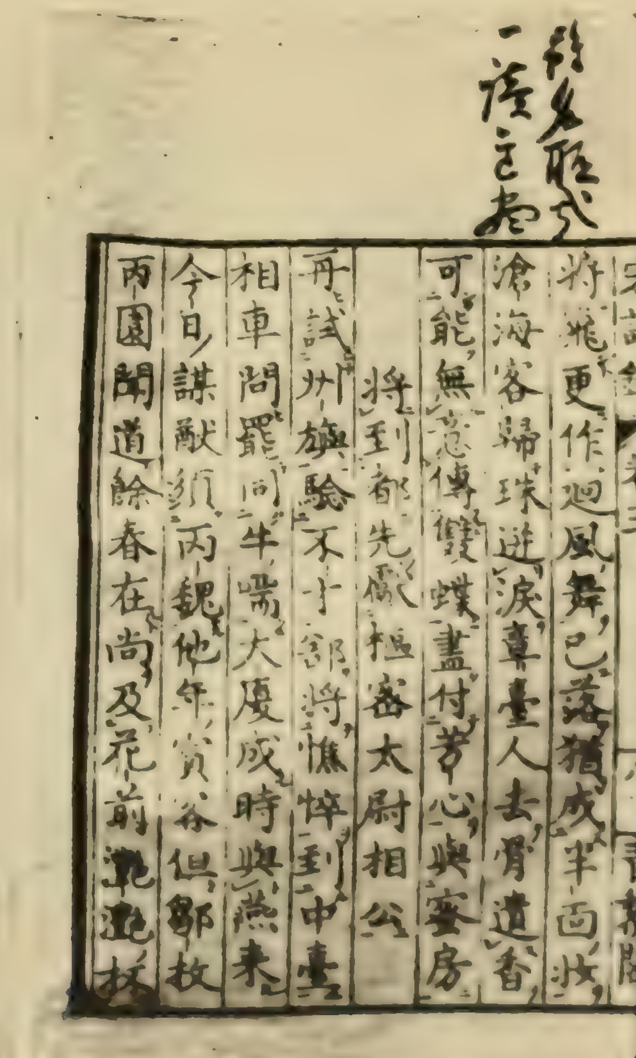
その評語に、

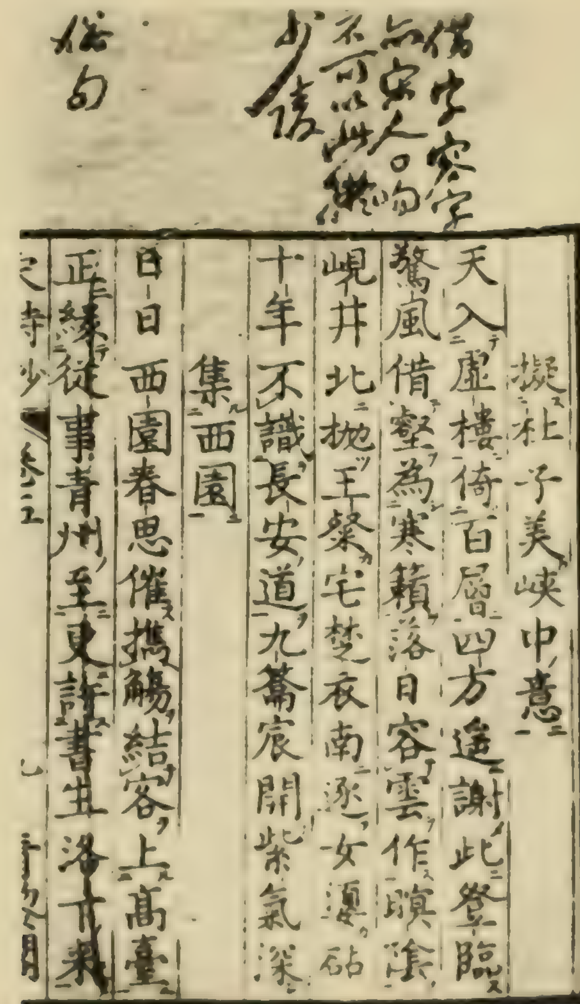
「雖二名勝一哉。一讀意盡。」

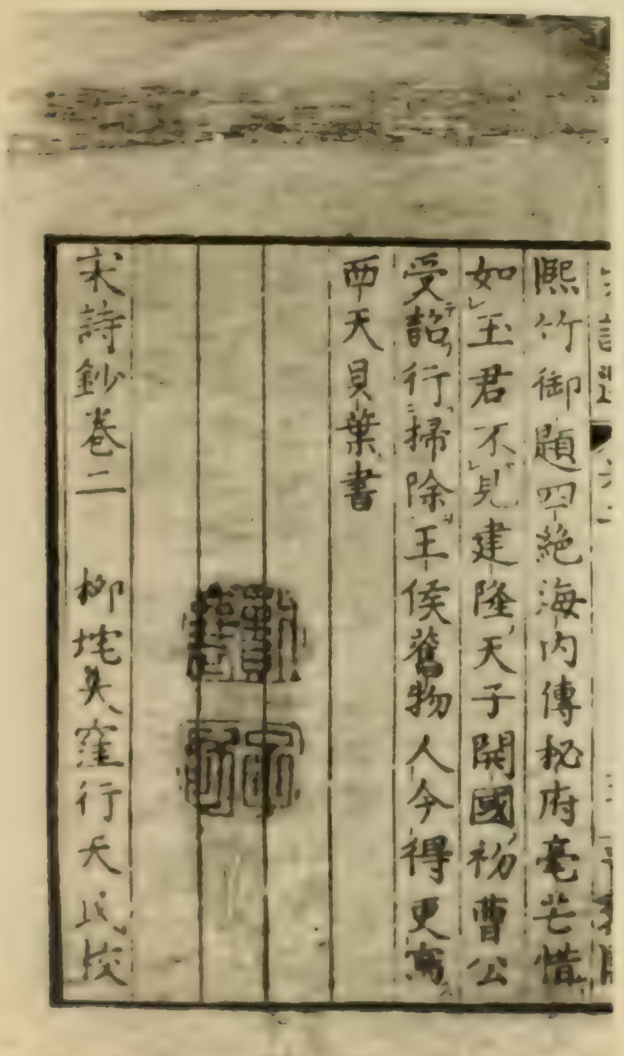
「借字・容字。亦宋人口吻。不レ可三以レ此擬二少陵〔杜甫〕一。」

「佳句」〔正maybe縁二從事青州至一。見レ許二書生濟下來一〕。

〔逗子・小宮三保松氏所藏〕


將飛更作迴風舞，已落猶成半面妝，
滄海客歸珠迸淚，章臺人去骨遺香，
可能無意傳雙蝶，盡付芳心與蜜房。
將到郡先獻樞密太尉相公
再試州旗驗不才，部將憔悴到中臺，
相車問罷同牛喘，大廈成時與燕來，
今日謀猷須丙魏，他年賓客但鄒枚，
西園聞道餘春在，尚及花前灎灎杯。


擬杜子美峽中意
天入虛樓倚百層，四方逢謝此登臨，
驚風借整為寒籟，落日容雲作瞑陰，
峴井北抛王粲宅，楚衣南逐女嬃砧，
十年不識長安道，九薾宸開紫氣深。
集西園
日日西園春思催，攜觴結客上高臺，
正緣從事青州至，更許書生洛下來，


熙竹御題四絕海內傳祕府毫芒惜
如玉君不見建隆天子開國初曹公
受詔行掃除王侯舊物人今得更寓
西天貝葉書
宋詩鈔卷二　柳垞吳窪行天氏校

## 『藝圃茗談』原本、第一葉と最尾

〔山陽、廿四歳の手稿〕

享和三年癸亥十一月、山陽〔廿四歳〕、京坂脱奔の廉を以て、廣島邸内の一室に幽屏中、一昨年四月廿八日より、「闘」を改めて「仁室」の名の下に、筆硯を許されつゝあり。後の『新策』・『日本外史』の起稿に著手する傍、經・子・史書を耽讀し、更に文章の修練に專心せる折柄、ことし十月八日、いよ〳〵廢嫡の身となり、仲父春風の子―從弟景讓〔初、熊吉・權二郎、廿一歳〕は迎へられて、家督相續者たらしむべく、春水は、藩府内伺の手續をなせり。十八日、景讓の竹原より至るに會し、もと自邸〔纈松廬〕に來學して同窓中尤も親交も重ねたる石井豐洲〔儀右衞門、廿八歳〕は、附添かた〴〵同行し來り〔十一月六日、竹原に歸る〕、互に文事を談じ、日夕倦むを知らず。

十一月十五日には、聿庵〔三歳〕の髮置祝は行はれ、十二月一日、景讓「本養子」の願は聽許となり、七月に至り、「仁室」は撤廢せらる。

かゝる環境の裡に在りて、『藝圃茗談』は、石井豐洲の爲に、自から筆を執りて書き示され、その日附は原本に記されざるも、十一月に入り五日までの間に在りしこと明かなるべし。

その内容は、本書複製の通り、主として古文に就き、その蘊蓄を傾けて談論指示、且說き且記しつゝ、學友の爲にその勞を辭せず、殊に、五歳の年長者たる豐洲その人を忘れて、恰も諸生に對するが如き態度を以てこれに臨みたるは、その勃々たる好學の一念を看取すべく、同時に益友の口に、筆に、熱意を籠めつゝ、その「茗談」を傾聽したる豐洲の態度さへ偲ばれて、眞に「藝圃」の一佳話としてよりも、文章修練の上に敎へらるゝ所、蓋し淺からざるものあるを觀るべし。

この原本、昨秋、竹原に於ける百年祭に際し、山陽遺墨展覽會開催の日、始めて發見せられ、從前全く世に出でざりしもの。

○藝園若談　凡二十條

小史藝園若談

●曾子固氏曰為人謀而不忠乎今僕之為足下謀[illegible]

[illegible]

下諒焉●[illegible]

後第一足下ニ不得不言事アリ僕已年来[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

利ナル文[illegible]

テ錦ノ[illegible]乾抑ノ[illegible]

[illegible]

●[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]且史ハ物[illegible]

●[illegible]

儀ヲ足下　凡二十條

小史氏

しは、十月十二日に在り。【全傳下巻四二九—四三五頁參照】

その時、山陽、亦同じく歸省—最後—の首途に臨み、静齋を伴ひて西下し、廣島にて袂を分ち餞するに當り、この一幅を表示す。

【宮崎・遠山寒泉氏所藏】

その「精金」即ち本來の意義を明かにす[illegible]を打破すべく、[illegible]に平易なる文章を以て[illegible]講ぜんとするは、世間一般の讀書者の[illegible]經書の研究者が、聖賢を説くること人間以上に祭り上げ[illegible]へ[illegible]

「十二律」は門人白石静齋（名立敏、廿八歳）。「辛卯季秋」—天保二年九月十六日、その[illegible]

「士族」[illegible]

其々辛衛内。故生荊棘林。炎皇火一過。焚蕭艾枝。泥沙若不淘。誰能精金。

[illegible]

○○○○○。○○○○○。○○○○○。○○○○○。

る。

## 「讀書」八首の内　詩幅

【天保二年、五十二歳の眞蹟】

「讀書。八首。」の作は、文政十一年（四十九歳）に成り、この詩は、即ちその第四首として列せ

# 「讀書」八首の内 詩幅

〔天保二年、五十二歳の眞蹟〕

「讀書。八首。」の作は、文政十一年〔四十九歳〕に成り、この詩は、卽ちその第四首として列せらる。

「吾生千載後。而求聖賢心。聖賢亦人耳。肝腸無古今。其言本平易。傳者故鑿深。坦々亨衢内。故生荊棘林。安得嬴皇火。焚蕩蕪穢侵。泥沙若不淘。誰能睹精金。

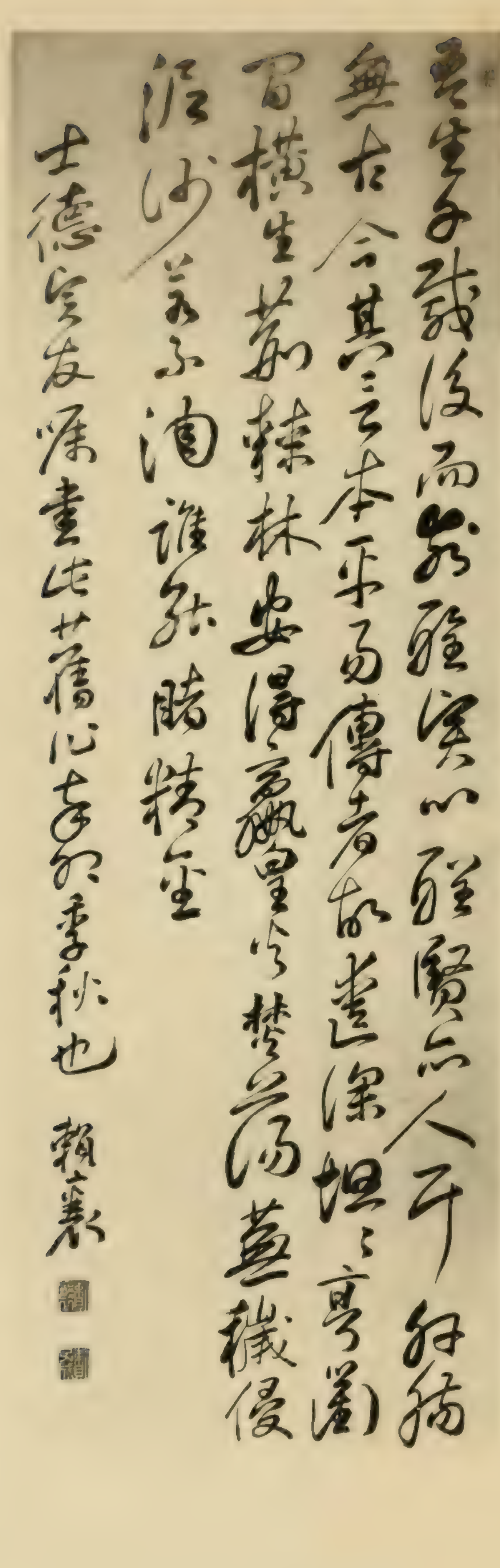
士德賢友囑。書此舊作。辛卯季秋也。賴襄。」

「士德」は門人白石靜齋〔名立敬、廿八歳〕。「辛卯季秋」―天保二年九月十六日、その鄕里日向延岡へ歸省せんとせし時、その訓誡として、この舊作を書し、家學の要旨を繰返したるなり。

謂ふこゝろは、世間一般の儒者が、經書の研究上、聖賢を視ること人間以上に祭り上げ、同時に平易なる文章を說くに、字句の詮索に全力を費し、而も却りてそれをむつかしく取扱へる陋習を打破すべく、今一たび秦の始皇帝が、經書を燒き亡ぼせしが如く、註疏の「泥沙」を去りて、その「精金」卽ち本來の經義を明かにすべしといふ意味を述べたるなり。こゝに山陽の遺書を收載するに當り、この一幅を表示す。

その時、山陽、亦同じく歸省―最後―の首途に臨み、靜齋を伴ひて西下し、廣島にて袂を分ちしは、十月十二日に在り。〔全傳下卷四二九―四三五頁參照〕

〔宮崎・遠山寒翠氏所藏〕



# 頼山陽全集 下卷

## 總目

## 古文典刑

### 卷上

## 卷下

## 宋詩鈔



## 浙西六家詩評

圖版目次

春秋遊家錄〔講義錄筆記〕原本

『書經』講義の禹貢地圖

『古文典刑』原本

『辟囊小結』〔錦繡段選選〕原本と跋

宋詩鈔評本

『讀書』八首の內　詩幅

# 春秋遼豕錄

# 『春秋遼豕錄』解題

## 未刊本

頼山陽ノ經說、ソノ要略ヲ窺フニ足ルベキモノ、主トシテコレヲ本書ニ求メザルヲ得ズ。他、『書經』・『易經』等ノ如キ、皆ソノ研究ノ事實ニ就キ、徵證セラルベキ資料ノ、幾多書翰ノ上ニ存スルモノアルモ、而モソノ在世、コレヲ整錄スルニ及バズシテ已メリ。ヒトリ『春秋』ノ一書、亦未ダソノ完稿ヲ告グルニ至ラズ、魯十二公中、ソノ二ヲ餘スニ止マリシモ、幸ニシテ聽講者ノ手ニ存錄セラレ――事實ハ夫子自身ノ手ニ成リシモノナルベケレド――「十ヲ以テ二ヲ推シ」得ベキナリ。更ニコレニ加フルニ、『書後』ノ中ニ就キ、ソノ經說ニ關スルモノヲ採リ、併セテソノ意ノ在ル所ヲ求ムレバ、一家ノ經說ハ、ソノ大旨ヲ徵シ得ベキニ庶カラン。

今、コノ稿本ニ跋スル所ヲ見ルニ、我ガ國體上、「最モ識ラザルベカラザル」モノトシテ、諸經ノ中、特ニ先ヅ――「自二隱公一以下。世道衰微。史失二其官一。於レ是孔子懼而脩レ之。

自ニ惠公一以上之文。無レ所レ改焉。自ニ隱公一以下。則孔子以ニ己意一脩レ之。所レ謂作ニ春秋一也。」――『春秋』ヲ擇ビ、孔子ガ脩史ノ本義ヲ究ムベク、天保元年〔五十一歳〕ノ頃ヨリ著手シテ、ソノ研究シ得タルヲ整録セシムルニ至リシヲ知ルベシ。

是レヨリ先、ソノ研究上ノ手段トシテ、先ヅ廣ク諸家ノ成說ヲ檢討シ、「康熙ノ彙纂ハ、群說ヲ一覽〔通覽〕スベキモ、然モ亦各本書ヲ覩ント欲シ、納喇成德〔清・納蘭性德〕ノ〔通志堂〕經解ニ就キ、コレヲ檢出スルニ、堆帙等身ニシテ、盡ク讀ムコト能ハズト雖モ、而モ各大旨ヲ領セリ、唯、宋ノ黃仲炎〔『春秋通說』〕・元〔明〕ノ趙汸〔『春秋集傳屬辭』〕ガ說ク所ハ、頗ル直截ナルヲ覺エ、後ニ淸ノ萬斯大ノ隨筆〔『春秋』未完本〕・方苞ノ『〔春秋〕通論』ヲ得タリシニ、『通論』ハ趙ノ意ニ本ヅケルニ似テ、而モ較簡明ナリ、ソノ他ハ率ネ公〔羊高〕・谷〔穀梁赤〕・胡〔安國〕ニ出入シテ、枝蔓轇轕ナリ。否ラズンバ則チ務メテ相排擊シ、毛奇齡〔『經集ノ中』〕ノ如キニ至リテハ、橫サマニ日例ヲ立テテ、ソノ辨博ヲ逞シクスルノミ」ト曰ヒ、ココニソノ手段ヲ轉ジテ、「姑ラク諸傳ヲ閣キ、獨リ正文ヲ熟覩ス

ルコトトナセルモ、左氏ヲ用ヰテ案トナサザルヲ得ズ、猶時アリテハ、ソノ妄ナルヲ覺エタリ、何ゾ況ンヤソノ佗ヲヤ、要ハ、特リコレヲ臆ニ取リ、心ノ安ンズル所ヲ求ムルノミ」ト述ベタリ。

此クノ如クニシテ、遂ニ獨自ノ見解ニ本ヅキ、一家ノ學說ヲ披瀝スルニ至リ、「コレヲ精ニ失スルモ、而モコレヲ粗ニ得、證ニ誤ルモ、而モコレヲ臆ニ中ル」アランコトヲ言ヘリ。是レ豈、自家獨特ノ經說ヲ發表シタルモノニ非ズシテ何ゾヤ。

試ミニ當年ノ學界ヲ通觀セヨ、誰カコノ言ヲ聞キ、ソノ耳ヲ聳タシメザルベキ。世ヲ擧リテコレヲ註疏訓詁ノ上ニ求ムルニ汲々トシテ、考證辨博、ヒタスラニソノ長ヲ示サントスルニ力メ、徒ラニ字句ノ末節ニ拘泥シテ、經旨ノ大本ハ知ラズ々々コレヲ捕捉ノ外ニ措クヲ免カレザルガ如キモノ、ソノ幾許ナルヲ知ラズ。コノ間ニ在リテ、吾レハ獨リソノ圈外ニ立チ、而モ古經文視ノ信條ヲ握リツツ、一ニ經旨ノ闡明ヲ主トシテ、自家ノ學說ヲ發揮シタルナリ。

山陽ハ、寛政九年（十八歳）ノ春、季父杏坪ニ伴ハレテ江戸ニ游學シ、昌平坂學問所ニ入リ、姨夫尾藤二洲ノ家ニ學ビ、傍ラ服部栗齋ノ麴溪書院ニ就キ、ソノ學說ヲ聽ケリ。栗齋［六十二歳］ハ山崎闇齋學派ノ名家トシテ著聞シ、春水ノ藩命ヲ以テ頻々江戸邸ニ予役スルヤ、每ニ經義ヲ質證シ、杏坪亦ソノ江戸在府ノ日ニハ、親炙、門人ノ禮ヲ執リ、ソノ講說ヲ筆記シタルモノ多カリシナルベク、山陽ガ十六歳ノ時、ソノ同窓石井豊洲ニ寫示シタル、「周子大極圖說［講義錄］」ノ如キ、蓋シ傳家ノ原本ニ據リシヲ疑ハザルナリ。予ハ近ゴロ偶然、山陽ノ族兄養堂［竹里］ノ遺書ヲ獲タルニ、亦ソノ原本ノ手寫ニ成レルモノノ如キヲ見タリ。

寛政二年、杏坪［卅五歳］ノ廣島ニ歸ラントスルヤ、栗齋ハ爲ニ送序ヲ作リテ曰フ、「狂狷ハ入聖ノ資ナリ、狂狷ニシテ裁スルアル、摹倣中行、陷リテ德ノ賊トナルニ愈ラズヤ。伯夷・伊尹・柳下惠ハ聖人ナリ、而モ且巧力兼ネ至ル能ハズ、イヅクンゾ備ハレルヲ夫人ニ責メンヤ、［孔門］七十子ノ徒、ソノ紕繆ノ多キ、或ハ後世庸人ダモ爲サザル所ノモノアリ。君子ハソノ過ヲ觀テ、斯ニ仁ヲ知ル。今ノ士大夫ハ、彌縫

周ネク至リテ、罅漏ヲ露ハサズ、陳熟老成ニシテ、千百人、一ノ如シ……奚ゾ貴ブニ足ラン……。嗚呼、仁、遠カランヤ、巧言令色ニ鮮クシテ、剛毅木訥ニ「仁ハ」近シ。學者コレヲ知リテ、然シテ後、以テ德ニ入ルベキナリ。前人、コレ「コノ意」ヲ廣メテ曰ヘリ、學者、宜シク眞丈夫タルベシ、僞道學タルコトナカレ。」

是レ「中行不レ可二必得一。其狂狷乎。鄕愿德之賊也」ノ本文ヲ敷演シタルナリ。杏坪ニ教フル所、卽チ山陽ガ栗齋ニ受ケタル心法ノ在ル所タラズンバアラズ。

栗齋ノ「行狀」ニ曰フ、

「先生ノ人ヲ教フル、循々トシテ序アリ、……コレヲシテソノ文義ヲ會スルヲ知ラシメ、然シテ後、四子・六經・近思「錄」ノ旨ヲ推極セシム……蓋シ字句ニ法アリ、篇章ニ則アリ、ソノ法ヲ得レバ、則チココニ以テ書ヲ讀ムベシ、能ク書ヲ讀メバ、則チ道、ソノ中ニ在リ。故ニ曰フ、未ダ「文」辭ニ得ズシテ、而シテ能ク「經」意ヲ得ルモノアラズ。崎門ノ先達ハ、讀書、密且博ナラザルニ非ズ、但、道ヲ求ムルニ急ニシテ、而モ肯ヘテ志ヲ字句ニ遜セズ。ココヲ以テ精義ハ神ニ入ルモ、而モ文ニ於テハ疎漏ナキ能ハズ。後輩ノ虛遠ニ馳セテ、字句ヲ視ルコト、弁髦ノゴトクナルハ、此レ吾黨ノ大患ナリ。」

以テ栗齋ノ家學ガ、他ノ闇齋學派ト、ソノ流ヲ殊ニスルヲ見ルベシ。山陽ノ經說、先ヅ

ソノ文辭ノ上ヨリ手ヲ著ケ、而シテ訓詁註釋ヲ第二義ニ附シ、文ヲ以テ經ヲ視ル上ニ、ソノ家學ノ特色アルヲ示スニ至リシモノ、ソノ由來スル所アルヲ思ハザルベカラズ。世儒動モスレバ輒チソノ學說ヲ擧ゲテ、彼レガ聖經ヲ玩ベルヲ云云ス、山陽便チコレニ答ヘテ、「是レ經ヲ尊ブナリ、媟スニハ非ズ」トイヘリ。

家學ノ要ハ、更ニソノ實用•適用ヲ旨トスルニ在リ、時勢ト世情ノ上ヨリスルハ、尤モソノ心ヲ用キタル所ニシテ、迂腐ト陳套トハ、コレヲ排擊スルニ餘力ナカリキ。故ニ曰フ、「『春秋』二百四十年內ヲ流覽シテ、當時ノ大勢•大情ヲ領會セバ、聖人ノ意、窺ヒ難カラザルナリ」〔春秋正文ノ後ニ書ス〕。又、曰フ、

「今ニ在リテ、經ヲ治ムルニ四病アリ。正文ヲ閣キテ、先ヅ注ヲ讀ムヲ、注ニ憑ルトイフ。注ノ妥ナラザルヲ覺リツツ、寧ロ經ニ繆ルモ、敢テ注ニ違ハザラントスルヲ、注ニ佞ストイフ。未ダ注ノ意ヲ繹ネズシテ、胸ニ爭氣ヲ横ヘ、一語ダニ合ハズンバ、詬リテ疵類トスルヲ、注ニ仇ストイフ。新義ヲ堅テント欲シ、勦說ニ歸センコトヲ耻ヂツツ、乃チ盡ク群注ヲ檢スルコト、帳簿ヲ稽フルガ如クスルヲ、注ニ役

セラルトイフ。」

トテ、一ニ正文〔白文〕ノ上ヨリ、文義ヲ解シ、而シテソノ大旨ヲ了會シテ、實用・適用ノ學風ヲ發揚センコトヲ力メタリ。カノ『書經』ヲ「沙汰書」・『詩經』ヲ「風土記」ナリト喝破シタルガ如キ、更ニ王安石ガ、『春秋』ヲ「斷爛朝報」トイヒシヲ、「千載ノ確言」ナリトスルガ如キ、ソノ本意、皆以テ見ルベシトスルナリ。

本書ノ説ク所、直チニ正文ノママ、ソノ要義ヲ尋繹スルヲ主トシ、一家ノ眼孔ニ照ラシテ、先人ノ成説ヲ可否シ、更ニ當時ノ大勢ト世情トノ上ニ、コレヲ我邦ノ史實ト相對證シ、簡明直截、直チニソノ概念ヲ喚起セシムルニ効アリシヲ見ルベキナリ。

コノ書、久シク世ニ顯ハレズ、世儒ガ、ソノ經説ヲ論ゼントスルモノ、未ダ多クハ寓目スルニ及バズ、纔ニ『書後』ノ片々タル隨筆ノ上ニ、可否ノ辯ヲ加フルニ止マレリ。今、廣島・賴家秘襲ノ原寫本ヲ得テ、コレヲ公刊スルノ機會ヲ與ヘラレ、我ガ儒學史ノ上ニ、少カラザル貢獻ヲ提示シ得タルハ、編者ノ欣幸トスル所ナリ。

『述家錄』ハ、固ト一家ノ經說ノ上ニ總標セラレ、『春秋』ハ即チ錄中ノ一部分タルニ過ギズ、他ノ『書』・『易』諸經ノ如キハ、ソノ年壽ノ短カリシ爲、終ニソノ整錄ノ果サレザリシハ、誠ニ痛惜措カザル所ナリ。

昭和七年、山陽先生歿後滿一百年、四月廿五日、東京青山ノ惜不發軒南窓ニ於テ識ス。

後學　木崎愛吉

# 例言

一、遼豕錄ハ一ニ春秋講義筆記ト名ヅク。山陽先生門下ノ記ス所タルハ卷尾ノ跋文ニヨリテ明ラカナリ。

一、本書ニ採用セル遼豕錄寫本ハ先生門下ノ筆寫セシモノ、族祖父庫山翁ノ舊藏ニ係ル。翁生前予ニ與ヘテ其ノ校訂ヲ托シタルモノナリ。

一、此ノ寫本ハ極メテ美麗ナル細楷ヲ以テ寫サル。而レドモ誤寫頗ル多ク、其ノ最モ著シキ者ハ之ガ訂正ヲ爲ス。今其ノ一例ヲ擧グレバ(斃ヲ弊。)(先ヲ生。)(令ヲ今。)(玉ヲ王。)(竢ヲ誤。)(時ヲ特。)(足ヲ定。)(亡ヲ己。)(未ヲ來。)(也ヲ之。)(武ヲ戒。)(責ヲ貴。)(君ヲ居。)(夫子ヲ史子。)而シテ(康熙彙纂ヲ庚熙遺簒)トスルガ如シ。

一、遼豕錄春秋說ハ昭公三十二年ニ止マリ、以下哀公十四年ニ迄デ之ヲ

闕ク。講義ノ此ニ終リシハ、書後題跋ニ見ユル臆斷跋文ニヨリテ之ヲ知ル可シ。

一、春秋ノ經文ハ三傳掲グル所各異同アリ。遼豕錄ニ於テハ、或ハ左氏ノ經ニ據ッテ論ヲ立テ、或ハ公羊、或ハ穀梁ニ據ッテ辨說スルアリ。之ヲ一定シ得ザルノ事情ニ在ルヲ以テ、故ニ本書ハ專ラ寫本掲出スル所ノ舊ニ仍ルコトヽセリ。

一、遼豕錄引用諸家ノ經說ハ、或ハ原文ノママナルアリ。或ハ原文ノ要ヲ撮ッテ意譯スルモノアリ。或ハ原文ノ文字ヲ省略シテ大意ヲ抄スルモノアリ。皆其ノ舊ニ仍ル。

一、寫本中往々脫字アリ。□ヲ以テ之ヲ示シ、敢テ私意ヲ加ヘズ。

一、頭註、及ビ本文中割弧ヲ用ッテスル者ハ、皆予ノ註記ナリ。

昭和七年五月　　賴成一識

# 春秋遼豕録

賴山陽先生講義　門生筆記

春秋起筆於隱公。其意非可辨。又不可辨也。蓋簡冊皆用竹。字易磨滅。隱公以前。已不可辨耶。抑又隱公以前。冊書之法未亂。隱公以後。書法稍亂。故以隱公爲始歟。自非面夫子問之。一定之說。不可知也。然不知亦不害義理。專欲以義理說其意者。皆非也。

王荆公不好春秋之學。曰。「春秋者斷爛朝報也」以排攻春秋者。其意可惡。而如其言。則千載之確言。不可以人廢言也。

春秋之書。併之舊簡。而後夫子之意可知也。今舊簡已亡矣。而可據者。獨有左傳耳。左氏說義理處。概賤陋無所見。而如事實。則非可妄作。雖非舊史。猶足以

焰經文而知夫子之意。

春秋之書。無意褒貶。直書其事。褒貶自明。

春秋之書。有文例。有特筆。有隱諱。是三者而已。有文例。以知彼此之可推。有特筆。以知大義之所係。有隱諱。以知不忍言國惡。

莊子曰。「春秋以道名分。」是可以見古人讀春秋之大法也。莊子又曰。「春秋經世。先王之志也。」聖人議而不辨。

夫子曰。「知我者。其惟春秋乎。罪我者。其惟春秋乎。」孟子曰。「孔子成春秋。而亂臣賊子懼。」非以褒貶也。舊史紛亂。雖臣弒其君。子賊其父者。其勢威盛者。不書其罪。雖高位重爵。其力衰者。侮之轢之。夫子立中道。直筆不撓。故亂臣賊子懼焉耳。

王貳於虢。周鄭交質。此等語。豈有夫子之言哉。而左氏尚傳之。則當時史書紛亂。大義顛倒。可推而知矣。左傳中。往往多類之者。蓋方左氏作傳時。有列國記載猶存者。而刪潤之乎。或得未經夫子之筆削之原本乎。

左氏。古來以爲魯人。然視其獨詳晉事。其爲晉人。亦不可知也。

## ○隱公

元年。春。王正月。

是夫子開卷第一之特筆也。蓋正朔者。王者既命統。所以一天下也。當時諸侯所用。皆周之正月也。苟用之。朝覲貢賦。不可不以致臣職也。而忘其出於周。無致臣節者。故夫子先掲之。以示在今日之天下者。無一人不爲周臣者。可謂明白著見矣。公羊氏曰。元年者何。君之始年也。左氏曰。王周正月。公羊氏又曰。春者何。歳之始也。王者孰謂。謂文王也。曷爲先言王而後言正月。王正月也。何言乎王正月。大一統也。是皆其得經旨一端者也。或曰。四時無事。則書首月。有事。則書有事之月。不書首月。是文例也。今三月有事。而特書首月。掲正月者。何哉。曰。是春秋第一義所存。故開卷先掲出周正。以示天下之大統。尚存乎周室。與他年書有事之月例。不可同日論也。不書即位者。不行即位禮也。故舊史闕之。夫子亦不以私意補之

也。胡氏云。仲尼削之也。夫子人臣。何以得削其先君之卽位哉。左氏云。攝也。果如其說。則不書卽位。可也。而國人稱公。會同朝聘。無一異於他公不攝者。左氏何以知其爲攝也。不可解也。歐陽氏論之。既詳矣。公穀及胡傳所論。皆不過以或書或不書爲說。是臆度之見耳。

三月。公及邾儀父盟于蔑。

稱君爲公。臣子之常言。及者。我與彼之辭。無他義。不用紛紛議論。儀父。名耶。字耶。經文無明證。其實不可知也。書名。或書字。非以見褒貶。以名行者則名。以字行者則字。其從當時稱謂書之耳。諸說何以知其爲字耶。何以知書字所以褒之耶。是未可解也。

左傳云。夏四月。費伯帥師。城郎。不書。非公命也。是國之大事。可以非公命而闕之乎。若此事不出於公命。費伯擅意起役。則可特書以見之也。要之。此等所謂其所斷爛者。今不可得而詳也。

夏。五月。鄭伯克段于鄢。

段不稱弟者。段強大。如二君于鄭。列國皆所知也。故不待稱弟以見之。譬之足利氏。設令高氏殺其弟直義。直義之爲高氏之弟。列國所素知。史筆者。必不稱弟以見之也。春秋舊文。亦如此。夫子從而不改焉耳。克者。力等勢敵。僅以取勝之辭。左傳云。「如二君。故曰克。」其意亦如此。

秋。七月。天王使宰咺來歸惠公仲子之賵。

此時。列國強僭。不復知有周室。思舊史書周室事。稱謂復與列國無分別矣。故春秋以春王正月起筆。次揭天王。以明名分之大者。是夫子特筆也。讀此書者。二百四十年。當如此讀去。庶幾不失春秋大旨歟。是此一經著眼之處也。仲子先是蓋既薨矣。故併歸二賵也。左氏誤讀下經夫人子氏薨。爲仲子之事。雖極亂之世。豈有賵生者之理哉。是左氏顚倒之太甚者也。

九月。及宋人盟于宿。

我涖盟者。使微者。故不書歟。又曰。「公與他國微者爲會盟者。諱而不書公

者多矣。」是亦不レ可レ知也。

左氏云。「冬。十月。庚申。改二葬惠公一。公弗レ臨。故不レ書。」是恐左氏視下他記載中有二此事一。而經文闕上レ之。爲二附會之說一乎。奚有二改葬事一。公豈得レ不レ臨焉哉。

公子益師卒。

不レ日者。舊史失レ之也。

二年。春。公會二戎于潛一。

春秋中。書二戎狄一。不レ以二爵號一。君臣同レ稱。不レ爲二等異一。蓋以下其正朔不レ加。禮制不上レ及。略レ之也。略稱二戎狄一。不レ加二細悉一。即所下以正二中國一待中戎狄上之名分上也。而策書體裁。亦備矣。此等書法。非レ有二意外一之。自有二至當一定之法一耳。何氏曰。「書レ會者。惡下其虛二內務一。恃中外好上也。」大得二夫子之意一。蓋是兼說二列國會盟之禍一。非二特爲レ戎而發一也。列國會盟。夫子猶所レ不レ與也。況其於二戎狄一。可レ知也。然夫子非下特書二其始一以貶上レ公也。史筆之體。從二事實一直書レ之。其臧否利害。自見焉。夫子惡下天下諸侯大夫失二其名分一。所三以著二春秋一。而己爲二人臣一。褒二貶其國君一。是己

先失名分也。焉能正人哉。故春秋褒貶之說。不足信也。

無駭帥師入極。

魯大夫書氏。常例也。此不氏者何。杜預云。未賜族。得之。公穀二傳以不氏爲貶。非也。若無駭非公命去族。他日公子翬弑公。何其具姓名。傳例不可信。如此。

九月。紀履綸來逆女。

公穀二傳。論之詳矣。

紀子伯莒子盟于密。

子伯。紀大夫字歟。或侯字誤分爲二字歟。

十有二月。乙卯。夫人子氏薨。

子氏蓋隱公之夫人。非其母仲氏。是穀梁傳說。胡傳亦從之。是也。

三年。三月。庚戌。天王崩。

特筆。雖夫子往々用特筆。然不過以成史冊之體。正史冊之體。則特筆見

焉。

夏。四月。辛卯。君氏卒。

啖氏曰「左傳云。君氏卒。聲子也。不書姓。爲公故。曰君氏。按。例無有改字以爲義者。豈有改其本姓乎。此實爲隱公之母。卒不行夫人禮。亦當如定十五年。姒氏卒。書姓也。」

秋。武氏子來求賻。

杜氏曰「魯不共奉王喪。致令有求。經直文以示不敬。」

四年。秋。翬帥師。會宋公・陳侯・蔡人・衛人。伐鄭。

公子翬强公。自立鄰國之交。其擅横太甚。足以見後來敢行大事之兆。左氏云「書曰翬帥師。疾之也。」胡氏不過敷演左氏也。是亦特筆也。

五年。春。公觀魚于棠。

春秋。內事。其過大者。諱而不書。臣子之心。不忍言君上之惡也。其過小者。直書不掩。是於其君。不以爲大辱。而足以垂戒於後君也。今也。鄰國有難。

大夫專命出師。是爲何等之時也。而公游畋自樂。不恤國事。如此。是夫子所以直書也。

夏。四月。葬衞桓公。

左氏云。衞亂。是以緩。胡氏云。魯往會。故書。可謂簡切矣。

秋。衞師入郕。

穀梁氏云。將卑師衆。曰師。按。下經。此例往往有不合者。不可拘束。

九月。考仲子之宮。初獻六羽。

胡傳。論魯用八佾之僭禮。以爲書初獻者。明前此用八之僭也。可謂的當。

冬。十有二月。辛巳。公子彄卒。

左傳書諡。曰臧僖伯。而書其名。是國史之體也。

六年。春。鄭人來。渝平。

左氏云。更成也。得其當矣。公・穀・胡氏各有家說。竟不若左氏之平穩也。

七年。春。王三月。叔姬歸于紀。

胡傳引蘇子由之說。以謂。書叔姬賢之也。此說恐近于是。

八年。

無說。

九年。春。天王使南季來聘。

天王是特筆。後世諸侯。相稱曰來聘。春秋時。猶稱之天使也。

十年。

無說。

十有一年。冬。十有一月。壬辰。公薨。

胡氏云。隱公見弑。魯史舊文。必以實書。其曰公薨者。仲尼親筆也。按。雖隱公以禍薨。如其事實。當時傳聞。國人無不知焉者。雖舊史亦不過如此耳。而後世據書薨。尋其事迹。曲折自著矣。

## ○桓公

元年。春。王正月。公卽位。

隱公立。不行卽位禮。故不書卽位。桓公雖簒立。禮則行之。不得不書之。以下十公。或書。或不書。皆此例也。公羊氏云。繼弑君。不言卽位。此其言卽位何。如其意也。或云。無事者不書。有事。特書見其有事。此文例多相矛楯者。不可從也。程氏曰。桓公弑君而立。不天無王之極也。而書春。王正月。公卽位。以天道王法。正其罪也。按。是與無事而書卽位者。例無少異矣。然與前經隱薨不書地。幷觀尋桓立。特鄭重書之之意。則可以見聖意所在。是春秋比事屬辭之妙也。

三月。公會鄭伯于垂。

桓公始立。國未可有事故。何與他國屢爲會盟也。蓋自知簒立。人心不與。故勉求鄰援。自立私黨。固其位也。其意見于直書之間。自不能掩。然讀者。

亦以比事屬辭。見其情也。

鄭伯以璧假許田。

桓公下意枉己。以求援於鄭。鄭乘以假許田。左傳云「公卽位。修好于鄭。鄭人請復祀周公。卒易祊田。公許之。」是其時情也。如胡傳。其言似正大可聞。而於時情。則如隔靴搔痒。

夏。四月。丁未。公及鄭伯盟于越。

左氏載其盟書曰「渝盟無享國。」享國。是桓公敢犯大虐之本意。全在此二字上。左氏以嘲笑語見之。所謂浮誇也。

秋。大水。

簒立之後。書天災。陰逆之應。不能自免。

二年。春。王正月。戊申。宋督弑其君與夷。及其大夫孔父。

夫子於鄰國簒弑之事。極意備書之。如秋霜烈日。其意。非獨以正華父督之罪也。蓋簒弑之人。其書法。不可不如此。而於桓公之事。獨隱微書之。

徒以諱國惡故耳。其實不異宋督也。春秋筆法如此。亦可以見夫子書桓公事之苦心也。

三月。公會齊侯・陳公・鄭伯于稷。以成宋亂。

以成宋亂一句。用註釋語。是變例也。蓋桓公簒立。又助鄰國逆臣。不自耻太甚。故筆法致丁寧。如此。胡傳論之詳矣。左傳云「以督爲有無君之心而後動於惡。」左氏不知君臣有輕重。如此。眞可謂不知大體。

夏。四月。取郜大鼎于宋。戊申。納于大廟。

左氏引臧哀伯諫言。桓公刺刀於兄腹。猶且忍爲之。豈暇問納鼎哉。所謂放飯流歠。問無齒決也。是不知大體者也。

蔡侯・鄭伯會于鄧。

左氏云「始懼楚也。」此等係天下之大形勢者。是左傳不可廢者。

三年。夏、齊侯・衞侯胥命于蒲。

胥命。當時會而不盟之辭命也。夫子從其通用之辭。書之無他意義。

公子翬如齊逆女。

桓公以公子翬之力取國。翬又爲公求強援。取齊女。翬方隱公時。未賜族。至此。桓公喜其爲己致力。以此賞之。故直書。見其同惡。

姜氏後來桓公之禍源。亦開於此。愼書之。

九月。齊侯送姜氏于讙。

左氏云「齊侯送姜氏。非禮也。」公穀大意同之。是也。

有年。

胡傳本程氏說言。有年。仲尼於佗公皆削之。獨存于桓・宣。以見其可得凶災。反得禎祥。則爲天地之變。按。年之有無。民命所關。雖其君有罪。非民所知。故有年則書。

四年。春。正月。公狩于郎。

公羊氏云「狩。常事不書。此何以書。譏。何譏爾。遠也」胡氏亦以爲譏之。諸侯狩蒐。常禮。不必書。實公羊氏說。是特書者。蓋桓公一代。此一舉爲最盛。譬

猶幕府小金原之狩。所以記非常也。非有意褒貶也。蓋前年迎夫人。今年又有此舉。而國用有餘者。以去秋有年故耳。

夏。天王使宰渠伯糾來聘。

王朝公卿。書爵爲例。左氏云「父在故名」。然未可信也。按舊史於此等不言天王使。恐言周使。故夫子特筆改今文也。是其大體處。不必辨伯糾之姓名也。

五年。春。正月。甲戌。己丑。陳侯鮑卒。

趙氏曰「左氏云。再赴。豈有正當禍亂之時。而暇競使人赴告哉。假令實再赴。夫子亦當詳定其實曰何乃總載之乎。且傳云。公疾病而亂作。此文亦據陳國史而記之。驗之則經文甲戌下。當記陳佗作亂之事。今簡脫之耳。」

此說最穩當。如公・穀二傳。不駁而破矣

夏。齊侯・鄭伯如紀。

二大國無故朝一小侯。其懷陰謀。不待左氏而知之。聖人用筆之妙。如此。

三國來赴。曰從王。魯不從之罪。益見矣。

天王使仍叔之子來聘。

書曰之子。其弱少可知矣。亦足以見周室陵夷乏使人。左氏云「弱也。」亦得其當。

秋。蔡人・衞人・陳人從王伐鄭。

公羊傳云「其言從王伐鄭何。從王正也。」三國從王得正。則其餘不從者。不正可知也。魯不勤王之罪自不能掩。若書策曰王以蔡人・衞人・陳人伐鄭。則是天下公行之策書。如朱子綱目書法是已。故夫子從三國來告之辭。直書曰從王。不曰王以。是爲魯史之體也。是等筆削最用意者。可潛心而讀焉。胡氏云「王以私怨伐鄭。乃非天討也。故不稱天。」非也。夫子雖大聖。身則匹夫也。豈得損益天子稱謂哉。策書之體偏稱王。則得其體。不須稱天也。

六年。春。正月。寔來。

受前年冬。州公如曹。書之。寔字。左氏得之。公羊氏亦同義。胡氏獨以爲州

公名、恐非也。

九月。丁卯。子同生。

後世簒奪之禍、往往發於儲位不預定。如桓公之弑兄、亦是已。故夫子慎其月日書之。十二公無書太子生者。而此獨書之。其旨深矣。公羊氏云「其諸以病桓與。」穀梁氏云「疑故志之。」雖二傳出漢人、其說如此。恐古來相傳之說矣。

七年。春。二月。己亥。焚咸丘。

公穀二傳皆曰「疾其以火攻也。」胡氏亦依此。按。是徒記田事。夫子從而不改耳。非寓貶意也。

夏。穀伯綏來朝。鄧侯吾離來朝。

二國皆處僻遠。不常通。魯故具其爵名紀之。左氏云「賤之也」非也。胡傳罪其越國來朝、爲大惡人。何其太酷哉。

八年。天王使家父來聘。

是今冬爲逆王后于紀。預來納言耳。胡傳云、「下聘弒逆之人、而不加貶、何也。既名冢宰於前。其餘無責焉。」桓公固大逆人耳。然既正位、則其國君也。聖人既致其意於即位之初。無意每事責之也。後世傳者。一見其犯有罪。聖人修史、不如此之淺迂也。

夏、五月。丁丑。烝。

正月既烝。至此又烝。其瀆祭祀、自見。亦屬事之一法也。

祭公來、遂逆王后于紀。

胡氏譏王當使大夫、而使三公。故王以輕使爲失、祭公以遂行爲罪矣。亦酷論也。蓋魯兄弟之國也。而紀亦在魯之鄰境。魯既與王婚娶之事、故先來魯告之而如紀逆后耳。如胡說、可謂平地起風波者。

九年。

無說。

十年。冬十有二月。丙午。齊侯・衛侯・鄭伯來戰于郎。

按、左傳、此役、魯國有辭、而三國皆有罪。書曰來戰、其意明矣、今考之、魯恐不能與三國爭、我必失利、而經文不書勝敗者、彼以有罪伐有辭、勝敗不足言也、

十有一年。春。正月。齊人・衞人・鄭人盟于惡曹。

胡氏云「三國之君、前以無道伐我、故以來戰著罪。後書此盟、奪爵小貶」今據經斷之、書曰人、則爲微者明矣、夫子安得與奪人君之爵哉。

九月。宋人執鄭祭仲。

公羊氏云「書字。貴賢也。」此說固不足取、胡傳又云「仲天子命大夫、故貴之、貴之、乃所以見不得其職也。」是皆由仲獨書字起紛紛之論、按仲當時所以行於諸國之通稱也、故舊史書字、夫子亦從舊文耳、無佗異義、

突歸于鄭。

突單稱不繫之鄭、公穀及胡傳議論紛起、按、杜註「文連蔡仲、故不言鄭」此爲至當不易矣、鄭伯寤生既卒、嫡庶鬪爭、權臣居其間、擅廢立、其國無綱

紀。可見。是夫子所以備錄也。

柔會宋公・陳侯・蔡叔盟于折。

杜註云「柔未賜族。」或云「罪大夫會于國君。」非也。

十有二年。

無說。

十有三年。春。二月。公會紀侯・鄭伯。己巳。及齊侯・宋公・衛侯・燕人戰。齊師・宋師・衛師・燕師敗績。

以小勝大。夫子喜而備書之。郎之戰。言戰不言勝敗。觀此役得勝則書。乃可以知郎戰我敗而經諱而不書。

十有四年。夏。五。

如此等。闕文無疑。可以知佗年猶多闕文。後儒不觀全書。動多依闕文。起疑案者。

十有五年。春。二月。天王使家父來求車。

三傳及胡氏。皆以爲非禮。按。此時桓王既崩。秘喪未發。使使同姓諸侯求葬具也。蓋周室衰微。諸侯不供貢賦。至使王室不能自備葬禮。是非諸侯之罪哉。夫子據實直書。所以寓歎息也。不必論褒貶。

五月。鄭伯突出奔蔡。鄭世子忽復歸于鄭。

諸說紛紛。不一定。書曰鄭伯。見突既爲君於鄭。書曰世子。見忽元可嗣立。二人各有其義。不必置輕重於其間。然書忽曰世子。其可立必矣。則蔡仲擁立突逐忽之罪自見矣。

許叔入于許。

胡氏云「入云者。難詞也」按。書曰許叔繫之許。其人可入。豈不明白乎。胡氏云「爲叔者。當上告天子。下赴方伯。求復其國」此時周室頽敗。不能自其喪車。其餘力豈能却齊・鄭。以納許叔乎否。如方伯。人人欲兼小吞弱。縱令有幸其滅者。恐不欲興既絶之國也。此等說所謂迂遠濶事情者也。

十有六年、冬城向。

左氏曰。書時也。此說未必然。

十有七年。秋。八月。蔡季自陳歸于蔡。

與許叔入許同一例。左氏云。蔡人嘉之也。蔡季聞喪而歸。只恐不及。何嘉之之有。

癸巳。葬蔡桓侯。

胡氏以伯子男謚號稱公。爲非禮。如桓侯稱侯。爲得其當。按。是經傳皆誤公作侯。無他意義。

十有八年。

此經全以桓公薨于齊一事終始焉。其以禍取死之由。絕而不見。是臣子修史之體也。然以公不書即位及夫人遜于齊等。比事屬辭考之。自有不能掩者。

## ○莊公

元年。春。王正月。

左氏云。「不稱即位。文姜出故也。」皮膚之見耳。公穀及胡傳。各有說。亦不可信。按。前年經。備錄桓公死于齊之始末。而莊公不稱即位。夫人亦遜于齊。讀者必起疑。使人思而得之。是聖人筆削之大旨大法也。凡讀春秋者。當連前後數年並觀。則聖作大旨所存。自見其間。是所謂比事屬辭春秋讀法也。世之學者。概於隻字零句之間。求其褒貶。故動失其大旨在目睫者。

啖助云、「遇弒。則嗣子廢即位之禮。」左氏不達其意。而云文姜出故也。不舉其大。而舉其細。補注云。「不稱姜氏。承上文公與夫人姜氏如齊。用一事再見之例略之。夫人罪。但傳以去姜氏發義。則非。」此說最得大體。

三月。夫人遜于齊。

左氏云。「不稱姜氏。絕不為親。」按。二年以後。夫人數會于齊侯。皆稱以姜氏。

左氏之不可信。如此。論者。夫人不自安。出奔于齊。蓋是非魯人責之而出奔也。亦以奸往焉耳。而聖人書曰遜者何。以見夫人不可安居于魯。必遜而得其常。是等假設此義。示天下之大法。

夏。單伯送王姬。

公穀二傳。送字作逆。是也。單伯爲魯臣。亦是也。

王使榮叔來錫桓公命。

王不繫天字。胡氏云。桓公簒立之君。而王不行天誅。反賜之命。是王不能行天道。故去之。是其臆鑿之尤甚者。桓公骨已朽。而貴之不止。又何其苛酷之尤甚也。按下文。有王姬字。故此亦單稱王耳。固無意于褒貶。

二年。夏。公子慶父帥師。伐於餘丘。

慶父亦殺子般者。與公子翬同一人物耳。隱公十年。書翬去族。說者以爲惡之。今慶父亦同一罪人。而不去族。則族之書不書。因既賜之與未賜。非以此見褒貶也。明矣。

冬。十有二月。夫人姜氏。會齊侯于禚。

此以後。夫人屢與齊侯相會。經。逐一錄之不厭。蓋夫人者。國母也。以會禮與敵國之君相見。係國之大事。策書必不可不錄者。故不敢諱其媿。直書之。如不知其以姦而往者。是史臣之禮。當然也。而其姦。千載不能自掩。非聖人特筆。安能如此哉。胡氏專責莊公縱母以陷大惡。然此時。公年甫十四。未可知國事。母氏方強悍當國。其不能制之。宜也、蓋聖人所以書之。其責在大臣。未在於公也。

三年。秋、紀季以酅入于齊。

齊圖紀久矣、酅知其將亡。以地入齊。以存先祀。論者曰。故書字貴之。按。以地降仇讎。寧不如與國共存亡。是實賊子弟。何貴之之有。書字不關褒貶說。見于前。

四年。春。王二月。夫人姜氏享齊侯于祝丘。

杜注云、兩君相見之禮。非夫人所用。直書以見其失。得筆削之大旨。兩君

相見。恐若兩君相見誤。

三月。紀伯姬卒。

我女適紀者。不得不書。

紀侯大去其國。

說者往往咎紀侯去國。雖然。强國朶頤。弟亦叛而去。勢欲不去。得哉。其可咎者。魯在姻戚。恐齊强大。坐視其亡而不救。自見言外。

六月乙丑。齊侯葬紀伯姬。

胡氏論齊襄迫逐紀侯。故不稱齊人。而目其君。可謂善得聖意矣。

左氏於經文外。敍楚所以興。以補經文。所謂夷狄之有君。不如諸夏之亡也。是左傳不可闕者。

五年。夏。夫人姜氏如齊師。

此時莊公既長。能將兵。與鄰國兵事。則其成立。可以知矣。而母氏頻頻如齊。不能制之。前年。胡氏責公縱母氏姦。當移置于此。

冬。公會齊人・宋人・陳人・蔡人伐衞。

公羊傳曰「此伐衞何。納朔也。曷爲不言納衞侯朔。辟王也。」穀梁傳曰「是齊侯・宋公也。其曰人何也。人諸侯所以人公也。其人公何也。逆天王之命也。」二傳最得筆削之本旨。恐是古來相傳之說。雖胡氏不過祖述之。

六年。春。王正月。王人子突救衞。

王人奉命救諸侯。是春秋希有之擧。不可不美而具其姓名。然其書名書字。無佗異義。從當時稱謂耳。杜氏云「王人。王之微官也。雖官卑而見授以大事。故稱人而又稱字。」

夏。六月。衞侯朔入于衞。

穀梁傳盡之矣。公羊氏云「其言入篡辭。」亦同意也。但其敘名非貶之。是最不可不審其人。故書。穀云「其不言伐衞納朔何也。不逆天王之命也。入者。內弗受也。何用弗受也。爲以王命絕之也。朔之名惡也。朔入逆則出順矣。朔出入名以王命絕之也。」

秋。公至自伐衞。

公經年在外。今秋僅得歸。所以書也。諸傳以爲貶公伐衞者。非也。

冬。齊人來歸衞俘。

諸侯連年暴露伐衞者。何。其志在利耳。以歸俘終結此事。直書之於最後。其意尤明。齊者。强國也。而分其俘於我者。穀梁氏以爲分惡於我也。可謂得時情矣。

七年。夏。四月辛卯。夜恒星不見。夜中星隕如雨。

此經。連書天變。是陰盛之兆。蓋文姜淫縱之譴也。公亦不得辭也。如雨如字。讀如字。左氏强爲謬解。不可解也。

秋。大水。無麥苗。

左傳云。不害嘉穀也。是愼記天災。何美不害之有。

八年。春。王正月。師次于郎。以俟陳人蔡人。（闕文）

甲午。治兵。（闕文）

夏。師及齊師圍郕。郕降于齊師。

公。春秋鼎盛。兵糧亦足自立。而受強鄰之制。其母爲鄰國所褻視。不知恥之。又受其驅使。暴露自春至秋。所攻者反爲齊所有。其不能成立。可謂太甚矣。是夫子所以俯仰感慨也。左氏云。以善莊公。何說哉。

冬。十有一月。癸未齊無知弑其君諸兒。

胡傳曰。無知以齊爲氏。罪僖公也。無知實爲齊諸公子。故繫之齊耳無他褒貶。

九年。公及齊大夫盟于蔇。

胡氏云。譏公釋父怨親仇讐。按聖意不在于此。蓋公受齊驅使不能自振也。日久矣。至此僅欲自奮發納子糾。雖事不成。志則可美。夫子書之所以見喜也。左氏云。齊無君也。此傳亦得時情。

夏。公伐齊納子糾。齊小白入于齊。

子糾。公穀二傳無子。獨左氏文有之正也。程子嘗以薄昭之言證桓公之

爲兄。朱子又因荀子語駁之。依是觀之。子糾之爲兄。明矣。子者。喪主之稱。以見糾之當爲後嗣。曰齊小白與衛侯朔入于衛同一文例。是言其不可立也。胡氏之說。與之相反。恐非也。

八月。庚申。及齊師戰于乾時。我師敗績。

杜註云。不稱公戰公敗諱之。可謂簡明矣。

冬。浚洙。

魯正與齊構難。浚洙乃是戰守大策。何可廢哉。賴有此備。故以致次春之勝。胡氏譏之。何也。眞陋儒之見耳。

子糾・小白輩行。宋以來。其說紛紛不定。要之。拘論語管仲之事故也。平心讀經錄子糾事。其理甚明。無可疑。且清人說之。亦以子糾爲兄。

一部左傳。專敘齊桓・晉文二家事。而先創霸者。桓公也。文公祖述之耳。然傳敘桓公始興事甚簡。敘文公事。特爲詳明。故世疑左氏爲晉人。

十年。春。王正月。公敗齊師于長勺。

是亦聖人美之之詞也。此時。齊桓始興。日盛之勢。固不可敵。而魯齊方爲深讎。桓公不得志於魯。魯亦得以立國者。賴依此一勝耳。不然。魯之爲齊未可知也。胡氏責魯以詐謀得勝。可謂陋矣。其所引或說云「敵加於己。不得已而後應者也。疑若無罪。」是眞爲確言耳。是等聖人所寓喜意。下文敗宋師於乘丘。亦做之。

二月。公侵宋。

公既得一勝。足以自振。而更求仇怨。所謂添蛇足也。穀梁氏云「侵時。此其月。何也。乃深其怨於齊。又退侵宋。以衆其敵惡之。故謹而月之。」此說恐是。公羊氏云「曷爲或言侵。或言伐。觕者曰侵。精者曰伐。戰不言伐。圍不言戰。入不言圍。滅不言入。書其重者也。」亦是也。經書侵伐戰圍入滅。錯見每外。非從義否爲褒貶。下皆做之。

秋。九月。荊敗蔡師于莘。以蔡侯獻舞歸。

公羊傳。荊者。何。州名也。州。不如國。國不若氏。氏不若人。人不若名。名不若

字。字不若子。」得之矣。是蓋魯史受蔡人告辭而書之。故蔡加詳。楚則略之。蔡侯書名。以見其爲何君。蓋此時。蔡亡。故愼之。非因褒貶。此等。聖人深□王法墜潰。諸侯力爭。不可復振。主意不在蔡楚之義不義。

冬。十月。齊師滅譚。

譚不來赴。故不書名。左傳「譚無禮。故齊滅之。」左氏往往以成敗爲與奪。不可信。

十有一年。秋。宋大水。

公羊氏云。「外災不書。此何以書。及我也。」是也。

冬。王姬歸于齊。

說者云「魯主婚。所以書也。」按。齊魯爲仇國。下經數年。兩國和始成。今日無爲仇主婚之理。蓋王姬降嫁。國史書之。恒例也。左傳不可信。○歸字說。胡氏得大體。

十有二年。春。王三月。紀叔姬歸于酅。

叔姬遇其國亡。不能與夫共亡。宜歸父母之國。今嫂而就其去國之叔。不爲美事。唯爲我出故書之耳。胡氏極口贊其節操。不可解也。

秋。八月。甲午。宋萬弑其君捷。及其大夫仇牧。

此與齊無知弑其君諸兒同例。胡氏云。無知繫齊者。罪僖公。如宋萬將罪誰乎。蓋雖公子大夫。其人不同。同繫之國者。謹其爲何國人也。○及其大夫仇牧。是亦與桓公二年督殺孔父同例。而釋例矛楯。傳例不可信。如此。

冬。十月。宋萬出奔陳。

陳納逆臣罪不得辭。石祁子曰。天下之惡。一也。可以解此經。

十有三年。春。齊侯。宋人。陳人。蔡人。邾人會于北杏。

齊侯獨出。他國皆微者。據實書之。不可平地生風波。如胡氏强求異義。欲以罪人者也。穀梁傳。作齊人。或然乎。桓公始與會。宋有亂。因平之。乘勢取霸。聖人雖賤五霸。其功自有不可沒者。當并觀前年數年而知其意。是春秋大節目處也。

夏。六月。齊人滅遂。

雖小國滅必書。聖人傷之之詞。罪在滅之者。

十有四年。夏。單伯會伐宋。

東遷以還。諸夏交亂。無大相過者。不知貴周室也。桓公有見於此。於是。挺然請王命。假義聲制人。是其所以開霸業也。

秋。七月。荊入蔡。

荊蠻猖獗。漸有北侵之勢。聖人所以愼記也。

冬。單伯會齊侯・宋公・衛侯・鄭伯于鄄。

按舊史。書單伯於諸侯下。及仲尼筆削抽置之於齊桓之上。示天下以王室之可尊。聖人最用意者也。

十有五年。夏。夫人姜氏如齊。

齊襄既卒傳又不敘其由。然經據實書之。其非美事。可知矣。

秋。宋人・齊人・邾人伐郳。

於是宋既與齊成。杜注云「宋主兵。故序齊上」。蓋從舊史。

十有六年。夏。宋人・齊人・衞人伐鄭。

宋主兵。請援於齊。愈明矣。

秋。荊伐鄭。

十四年。荊入蔡。今年又進伐鄭。既有席卷中原之勢。故聖人必謹錄之。春秋之大處。全在此等處。而說者寂然不爲發一言。何也。

冬。十有二月。會齊侯・宋公・陳侯・衞侯・鄭伯・許男・滑伯・滕子。同盟于幽。

胡傳云「尊首叛盟。故削公字」。按。公羊傳。會上有公字。公穀二傳。滑伯上有曹伯二字。左傳共無之。則穀梁傳已有闕文。左氏更闕之耳。從公穀爲正。後來紛紛議論。皆後儒強陷人於罪之陋見耳。胡氏所謂首叛盟者。受鄭詹耳。然方此歲。莊公助桓公。同扶王室。攘夷狄。何叛盟之有。

左傳云「王使虢公命曲沃伯以一軍爲晉侯」。是係春秋大節目。用筆正筆揭之。公穀所無。

十有七年。春。齊人執鄭詹。

詹者。微者也。然春秋書之者。何。蓋密通意於楚。以誤華盟者。叛覆小人。桓公所以執之也。豐公朝鮮之役。如沈惟敬。亦其人也。

秋。鄭詹自齊逃來。

魯納盟主之逋逃人。若帥諸侯來討。我何以辭之。

十有八年。夏。公追戎于濟西。

左氏曰。不言其來。諱之也。允當不易。胡氏又述其意未伸者。論國無武備。啓戎心。亦是也。

秋。有蜮。

麋蜮小物。然必謹錄之者。何。其害於國也。因如春秋存國家大體之書。以字句間。一一求褒貶。豈不亦謬乎。

十有九年。秋。公子結媵陳人之婦于鄄。遂與齊侯・宋公盟。

胡氏說委曲詳盡。無復餘蘊。公羊氏大夫受命之說。是或古說。而不可以

解此經。

夫人姜氏如莒。

夫人外行。固不美事。從實直書。說見于前。此時。莊公益壯強。而不能制母氏縱欲。其責所不得辭也。下文傚之。

冬。齊人・宋人・陳人伐我西鄙。

伐字。說見于十年。公子結以無禮招國禍。固有罪。而魯強族權臣之憂可見也。

二十年。春。王正月。夫人姜氏如莒。

說見于前。

夏。齊大災。

從赴直書。

冬。齊人伐戎。

魯齊接地。我亦有戎備之事。故書。

二十有一年。夏。五月。辛酉。鄭伯突卒。

胡傳駁杜註是也。

秋。七月。夫人姜氏薨。

其人如文姜。不見一字貶意。春秋無以一字句。爲褒貶之法。於是等可知矣。

二十有二年。春。王正月。肆大眚。

據穀梁傳。古代或有此禮。莊公不能救其母氏過惡於生前。至死後。特厚之。是意在於言外。非爲後世大赦。預垂戒言。然後世可以此悟大赦之非焉。

陳人殺其公子禦寇。

書曰殺其。則殺者之非見焉。

秋。七月。丙申。及齊高傒盟于防。

公羊傳云「曷爲不言公。諱與大夫盟也。此說得之。此歲以降。至廿五年。連

書與齊婚姻之始末。不厭其煩者。何哉。蓋齊。我仇讐之國也。而其女。於魯則可謂不祥矣。然公不能自強立國。屈膝於伯主。榮取其女。此等處。聖人極致意之處也。

冬。公如齊納幣。

公不使卿而親往。直書不諱。其諂於齊之媿。不能掩矣。

二十有三年。祭叔來聘。

是與魯有私交者。穀梁傳云。其不言使。何也。天子之內臣也。不正其外交。故不與使也。

夏。公如齊觀社。

此等之事。其最可愧者。而公意唯在榮齊寵。是夫子所以備悉不遺也。

荊人來聘。

胡傳祖述公傳。其書人。以爲進之。非也。人字。無褒無貶。不可謂荊來聘。故連人字。以成語耳。然蠻夷入侵之意。自見。

蕭叔朝公。

魯公自輕。招附庸國於穀。

秋。丹桓宮楹。

後年。又刻其桷。蓋公喜齊許己婚姻。費國用於無用。以取齊之悅。

二十有四年。春。王二月。刻桓宮桷。

左氏載御孫諫辭。有人如此。公不用。何也。

八月。丁丑。夫人姜氏入。

穀梁氏云、「入者。內弗受也。日入。惡入者也。何用不受也。以宗廟弗受也。其以宗廟弗受。何也。娶仇人子弟。以薦舍於前。其義不可受也。」此說明白痛快。可謂得聖筆大旨。

戊寅。大夫宗婦。覿用幣。

公用異等遇夫人。失禮固明矣。齊婚之事。止此矣。

曹羈出奔陳。赤歸于曹。

亦冒上曹字。非有貶意。

郭公。

杜註云。蓋經闕誤也。以此亦可知春秋有殘缺文。

二十有五年。春。陳侯使女叔來聘。

鄰國來聘。或書名書字。一從舊史。非有褒貶。觀下文公子友如陳。女叔亦與季友有舊者。

六月。辛未。朔。日有食之。鼓用牲于社。

亦從舊史所記。而不改其失禮。自見焉。凡此等之事。非夫子以爲失禮。特筆之也。夫子唯書其實事。讀者知所以戒警耳。

冬。公子友如陳。

大夫私行。非禮也。

二十有六年。曹殺其大夫。

此大夫恐是結私黨拒公子赤歸國者也。是其戮力殺之者多。故不書曰

某殺。蓋亦其赴辭如此。凡春秋無國殺之法。他國之事。往往書國。而不書其殺之者之主者。是魯史之體也。與書我國事。體自有別。說者不省。春秋元是爲魯史。動不辨國事與他國。動平等論其書法。以爲有褒貶。誤矣。下皆倣之。

二十有七年。春。公會杞伯姬于洮。

伯姬。實莊公所生。然已嫁他人。其父會之於外。非禮太甚。亦記實而過見者也。

夏。六月。公會齊侯・宋公・陳侯・鄭伯。同盟于幽。

胡氏云「書同盟。其意各不同。是盟鄭之所欲也」。春秋豈爲此等瑣細之書乎。無他。公同盟于諸侯。則書曰同盟耳。

秋。公子友如陳。葬原仲。

亦稱字於外國大夫。其無褒貶可以見也。但公子季友私行之罪。見于直書之間矣。公羊傳云「季友行會葬原仲。實避內難也」。此說可參觀矣。三十

二年。復奔于陳。其有舊也。凌稚隆曰、「大夫非君命、不越境。況以舊故適他國、而葬之乎。春秋未有書外大夫葬者。特書葬原仲、以示戒也。」

紀呂慶來逆叔姬。

姬書字、書女、共無褒貶。一從舊史所書。胡傳非也。

二十有八年。春。王三月。甲寅。齊人伐衞。衞人及齊人戰。衞人敗績。

按、左傳爲齊侯親出。而經稱人、則非其親出明矣。當廢傳而信經也。且左傳云、「此役爲衞嘗立子頽、請齊伐之也。」然子頽事在十年前。今而忽討其罪、實不可信。又與齊桓責茀問昭王等之類、事體自異。左氏往往有類附會者。張洽云、「桓公再擧同盟之禮、以申伯令。而一諸侯之心也。魯宋陳鄭偕至、而衞獨不來。故有此役。」公穀二傳、觀經稱人、亦爲侯親往。蓋據左氏也。則二傳後於左氏、可知也。

秋。荊伐鄭。公會齊人・宋人救鄭。

南北分立之勢見焉。救之之善、又見焉。

冬。築郿。大無麥禾。

二件。穀梁氏說。得其正。

臧孫辰告糴于齊。

以上三件。胡傳敷演穀梁氏。是也。天災鄰國相救。固爲有禮。而築郿。小利也。見小利而忘大利。其責自見矣。

二十有九年。春。新延廐。

胡傳。亦本公穀二氏。是也。

三十年。春。王正月。夏。次于成。

按。公穀二傳。次上有師。是也。蓋公欲取郕。郕降齊。非魯之美事。故諱不書公。

冬。公及齊侯遇于魯濟。

觀明年齊來獻山戎之捷。蓋公及齊遇于魯濟。謀伐戎也。不然。齊自屈徙歸捷哉。左氏云「以其病燕故也。」不然。是齊魯以爲强國資耳。

三十有一年。春。築臺于郎。夏。四月。築臺于薛。秋。築臺于秦。

連書三築臺。公遇年穀不登。不務恤國。糜財於無用之舉。而不顧其老幸。可知也。

三十有二年。春。城小穀。

左氏云。爲管仲也。縱使爲諸侯伯主。亦不至此也。

秋。七月。癸巳。公子牙卒。八月。癸亥。公薨于路寢。冬。十月。己未。子般卒。公子慶父如齊。

以上四件。連之下經。比事屬辭讀之。使人得其必有事。是國事可諱者夫子所以致意也。

公子牙・子般之死。以病赴告。故不書殺。非以爲褒貶。公子般書曰子。其可爲喪主又明。

## ○閔公

元年。春。王正月。

左氏云。不書即位。亂故也。蓋閔公即位時。內亂未靖。故不能備禮耳。是其所以不書。非貶而闕之也。

齊人救邢。

是係大事。不可不書。非善之也。

季子來歸。

季友前年奔陳。明年。以僖公奔邾。經皆不書。而於其來歸。特書之。解者曰。其出諱之。其歸善之也。夫魯君之出也。猶書之不諱。豈獨有諱之於季友之理哉。將經有闕文。失之乎。亦無二奔共闕之理、然則季子何爲善而書之也。曰。從魯人之望也。夫子以見其當時之情狀耳。蓋季友嘗受莊公托子般之任。及子般見殺、奔而避之於陳。及閔公立。則來歸。而其立、非季友

在所與。及公見殺、再挾僖公而出、要之、子般與閔公之死、皆因其殺叔牙而遺慶父之過也。左氏云、其歸也、閔公請之齊也、然公時僅八歲、未必知季子可用也。且設使大夫言之公乎。大夫何不自靖難而必須於季友也。吾觀季友元納成風之托、悅其媚事己。其意屬僖公、子般・閔公之立、皆非其所欲也、其來歸。亦非閔公請之齊也、彼有舊於陳、因陳托齊、借伯主之威、使迫魯逆之也、蓋方魯之亂也、季友計在謗全身。觀其元惡既去。事將自定、乃徐入立僖公、以安國人。國人得之。以爲有再生之恩是季友之本謀也。夫子於三家、最惡季氏、而季友爲其始祖、書曰季子來歸、有旨也夫。

冬、齊仲孫來。

夫子不欲魯借齊力、靖我國難、故書仲孫、以自來爲文。魯史之體宜如此也。次年、高子來、亦同例也。如公羊傳乖理太甚、不足辨。

二年、夏五月、乙酉、吉禘于莊公。

三傳共言其非禮、此等非禮固不待論發矣然夫子記之。不過其事實其

譏意可以見焉。

八月。辛丑。公薨。

不地。必有事也。

九月。夫人姜氏孫于邾。

是與文姜同一罪人。而文姜之孫齊。不稱姜氏。事連前年也。是事爲初見。故不可不書。其不以姜氏爲輕重。又可見也。公薨不地。夫人孫于邾。慶父出奔。三事相連。讀者自知其有內難。

冬。齊高子來盟。

謂之高子者。史筆者從魯人喜其來之詞也。事詳于公羊傳。

十二月。狄入衞。

夷狄猾夏。大事。不可不書。

鄭棄其師。

此等棄字。又無他例者。眞特筆。胡傳得之矣。其罪鄭大夫者。非經文本意。

也。

## ○僖公

元年。春。王正月。

左氏云。不稱即位。公出故也。按。非獨出故也。內亂不行禮也。

齊師・宋師・曹伯。次于聶北。救邢。

胡氏以爲責救邢之不速。非也。諸侯相救。係天下之大勢。故書。

夏。六月。邢遷于夷儀。

左氏・公羊氏皆爲美之。各得其當矣。

齊師・宋師・曹師城邢。

公羊氏云。此一事也。曷爲復言齊師・宋師・曹師。不復言師。則無以知其爲一事也。此說得筆削之意。

秋。七月。戊辰。夫人姜氏薨于夷。齊人以歸。

左氏曰。君子以齊人殺哀姜也。爲已甚矣。女子從人者也。可謂平穩矣。胡

氏以以字。橫生議論。不可信也。蓋姜氏元伯主之女、魯憚齊、不能制其淫縱。故桓公殺之。以示威信於諸侯、

冬。十月。壬午。公子季友帥師。敗莒師于酈、獲莒挐。

季氏之功。於是爲大矣。而賞之以汶陽及費。季氏之致强大。實因於此。書曰帥師。夫子所以致意也。蓋季友定策國老。是僖公所以過賞也。

十有二月。丁巳、夫人氏之喪。至自齊。

不稱姓者。豈以冒前文姜氏薨于夷。且葬稱哀姜。其人易知。省之乎。是一說也。恐原有姜字。傳寫闕之耳、胡氏之說過巧。不可信、

二年、春。王正月、城楚丘。

左氏以爲衞地。不可信、按。魯人有卜楚丘。殿有楚宮。是亦魯之地名。

夏。五月。辛巳。葬我小君哀姜。

葬則備書稱姓。諸家以姓爲褒貶之說。可以廢也、如其有貶意者自見于事實之間。夫子則直書之耳、

三年。春。王正月。不雨。夏。四月。不雨。

自前年十月不雨。至今年四月。每一時。愼擧首月錄之。按。文公二年。大旱。一筆總錄之。穀梁氏云、「歷時而言不雨。文不憂雨也。」此傳則云「不雨者勤雨也。一時言不雨者。閔雨也、閔雨者。有志乎民者也。」蓋當時史筆者。親見恤旱之政。各有厚薄。從實書之。非夫子私加詳略也。而其君之賢否。自見是春秋之大旨也。胡傳祖述穀梁氏。更過高妙。一說云「文公之時。國多大事。故略之。此則更無大事可書。故詳之。」亦通。

六月。雨。

喜意自見。

秋、齊侯・宋公・江人・黃人。會于陽谷。

此合明年次于陘之謀也。

四年。春。王正月。公會齊侯・宋公・陳侯・衞侯・鄭伯・許男・曹伯侵蔡。蔡潰。遂伐楚。次于陘。

（李笠翁之說。蓋本二王樵春秋纂述。）

是齊桓一代之功業。全本於此一舉。而春秋大節目之所在也。故備事直書之。不可以字句之間。爲其褒貶。胡傳過瑣。失本旨之所在。左傳云「此役始於歸蔡姬事。」補注云。「歸蔡姬。當時適有是事。或者假此爲名。欲出楚人不意。左氏惟記所聞。故未盡。」此說是。李笠翁云「楚僭王。大惡也。桓舍之不問。而問其小者遠者。何哉。蓋楚之僭。已非一日。必欲行天討以正之非滅其國。不足申明大義。而楚勢方強。勝負有未可必者。故僅以小者遠者爲言。庶楚之爲辭也易。不盡力以抗我。彼之服我也亦易。不勞師而有功。蓋桓獨籌之熟。允伯者之用心固如此。」此說甚得時情。

楚屈完來盟于師。

按。左傳。載桓公屈完之問答。誠如此也。屈完屈辱桓公於衆諸侯中。桓公豈有何面目乎。蓋當時有附會爲此說者。左氏不詳實否。受而錄之耳。公穀二氏及胡傳。皆信左氏所說。以爲權在屈完。故重之非也。是無他。楚先是。未與中華通。故僅錄使人姓名而已。自是史筆之體也。

齊人執陳轅濤塗。

左傳爲鄭申侯所讒。恐不必然。蓋陳實有陰謀。爲管仲所發也。

五年。春。晉侯殺其世子申生。

春下脫王字及月名。而無他異義。因知他年不書王正月者。適失之耳。非以爲褒貶也。胡傳可謂明正矣。蓋殺之者・見殺者。各有其罪也。

杞伯姬來。朝其子。

杜註云「伯姬歸寧成風。曰見其子於公。時子年十歲左右未能行朝禮。故繫於母而曰朝其子也」侯伯來朝。必書之册。是亦一例耳不可以褒貶論之。

夏。公孫茲如牟。

杜註云「卿非君命不越境。故奉公命聘于牟。因自爲逆。而傳實其事。

公及齊侯・宋侯・陳侯・衛侯・鄭伯・許男・曹伯。會王世子于首止。

按。舊史王世子與諸侯連書。不加異等。夫子抽置之於諸侯之外。是鄭重

之也。春秋筆法。可於此等處而論之也。宋班爵在齊上。而春秋常先書齊侯。皆與桓公意也。

秋。八月。諸侯盟于首止。

是與前事相連。而換頭錄盟者。見事至此始成也。

鄭伯逃歸不盟。

按。左傳。鄭伯逃歸。出於王意。故不獨責鄭伯。又刺王失處置。在其中矣。

楚人滅弦。弦子奔黃。

楚始滅中夏之國。可惡之太甚。而書曰人。可以見他書人者無輕重褒貶也。

冬。晉人執虞公。

不書滅虢。蓋經文失之。按。虞虢共畿內諸侯而世任三官者。故與外諸侯滅者不同例乎。一說。不書滅虢者。以二年滅下陽。總之胡傳以爲執者猶衆執獨夫。然晉無故滅人國。豈爲無罪哉。

六年。夏。公會齊侯・宋公・陳侯・衛侯・曹伯。伐鄭。圍新城。

公羊傳云、「邑不言圍。此其言圍何。彊也。」穀梁傳云、「伐國不言圍邑。此其言圍何也。病鄭也。著鄭伯之罪也。」二說共是。

冬。公至自伐鄭。

穀梁氏云、「其不以救許致何也。大伐鄭也。」蓋伐鄭。爲今年之大事。是其所以書至自伐鄭成文也。胡傳云、「責其久。」非也。

七年。鄭殺其大夫申侯。

凡諸國書殺者。以其國有難。不必歸罪於一人。春秋。魯國之史也。在魯國執史筆者。體宜如此也。

八年。春。王正月。公會王人・齊侯・宋公・衛侯・許男・曹伯・陳世子款。盟于洮。

揭王人。在諸侯伯之上。聖人特筆在於此。公穀二傳。共論此意。得正矣。按是皆夫子改舊史者。

秋。七月。禘于大廟。用致夫人。

夫人直受元年。夫人氏之喪。至自齊文。今省氏者。其間不錯。別夫人也。一說爲成風者、非也。穀梁氏云「用者、不宜用者也。致者、不宜致者也」公羊氏亦同。其得聖旨。

九年、夏、公會宰周公・齊侯・宋子・衞侯・鄭伯・許男・曹伯于葵丘

特抽宰周公。加於齊桓之上。是亦特筆。穀梁氏論宋子稱子之是非。聖意不涉此等瑣事也。

冬。晉里克殺其君之子奚齊。

殺字。公羊氏本作弑。是也。又曰。其言弑其君之子奚齊何。弑未踰年君之號也。按。里克本意。在立文公。文公立。終成霸業。蓋舊史文必與里克立之故夫子特揭其罪。改書曰殺其君之子。以見一犯大逆。雖有他美。不見稱也。穀梁傳云「其君之子云者。國人不子」此說非也。胡氏祖述之何也。且弑其君之子五字。乃不成文。

十年、晉里克弑其君卓。及其大夫荀息。○晉殺其大夫里克。

里克再弑其君。夷吾殺之。宜以國討文例書也。然今以國稱殺何也。穀梁氏曰「不以其罪也。」蓋里克弑二君。罪名既定。不復須特筆。而夷吾殺之。意非討其罪。在其迫己耳。是等書法。聖人最致意者。所謂造化之筆也。其書大夫。固無輕重。以成文體耳。

十有一年。春。晉殺其大夫㔻鄭父。

例同殺里克。此加大夫者。㔻鄭父初見。以見其人品。

夏。公及夫人姜氏會齊侯于陽穀。

此等。當時君臣共爲瑣事而不顧者。而太史一書。千古不能雪恥。所以爲鑑戒也。胡傳引許翰說曰「先乎陽穀之會。爲大雨雪。後乎陽穀之會。爲大雩。僖公賢君。不能禮佐齊桓。儆其怠忽。而更與之俱肆于寵樂。是以見戒於天。」如此。以公夫人陽穀之會觀之。齊桓伯業怠矣。故楚人伐黄不能救。凡此類。屬詞比事。直書于策。而義自見者也。此說甚得讀春秋之大體。凡二百四十年間事。以此法讀之。庶幾不失大體乎。

冬。楚人伐黃。

見于前解中。

十有二年。夏。楚人滅黃。

穀梁氏云。貫之盟。管仲曰。江黃遠齊而近楚。楚爲利之國也。若伐而不能救。則無以宗諸侯矣。桓公不聽。遂與之盟。管仲死。楚伐江滅黃。桓公不能救。故君子閔之也。趙鵬飛云。冬伐夏始滅。黃守以待救也。三時而齊救不至。黃倘何以存之。桓之伯業。於是乎不克終矣。二說皆得時情。故經備書明其意。與他書滅者。例自不同。是所謂屬詞比事。

十有三年。春。狄侵衞。

趙鵬飛云。前年狄滅溫。溫子奔衞。今狄侵衞。以衞納溫子也。伯主豈容安視而不討乎。楚滅黃。畏其大而不救。狄滅溫。以其小而不恤。大者吾畏之。小者吾忽。則諸侯安用夫伯主也。

左傳載秦輸粟于晉事。曰自雍及絳相繼。細悉如此。非晉人安得詳之蓋

左氏爲晉人。愈明。

十有四年。春。諸侯城緣陵。

前年。鹹會以下。無復大事。此經直受書城緣陵。不須更序諸侯。與築邢時。義各不同。胡傳可謂鑿空起說矣。

夏。六月。季姬及鄫子。遇于防。使鄫子來朝。

蓋是見非禮者。然如其實。難得而詳矣。諸說紛紛不定。不若姑闕疑之爲勝也。

十有五年。三月。公會齊侯・宋公・陳侯・衞侯・鄭伯・許男・曹伯。盟于牡丘。遂次于匡。

公孫敖帥師。及諸侯之大夫。救徐。

孔子出于定哀之際。天下喪亂極。常歎冀得伯主如齊桓。猶不能得。則如諸侯救徐之舉。其所以寓仰慕之意也。胡氏云「救而書次。則尤罪其當速而故緩。失用師之義矣。」不亦酷薄哉。

季姬歸于鄫。

來寧不書、偏書其歸鄫、蓋先是既嫁于鄫、前年與鄫子同來也、

己卯、晦、震夷伯之廟。

書天變。高士奇曰、「公羊曰。晦者。何、冥也、穀梁亦同。按晦非瞑也、月之三十日也。春秋書晦者二、成十六年。甲午、晦、是也、此說可以見二傳雖盡信、

十有一月。壬戌。晉侯及秦伯戰于韓。獲晉侯。

胡傳以爲專罪晉侯。不然、蓋秦晉之罪、不必論輕重、晉者得之通國也、是秦不告而晉告之也、記者受告辭而書。故先晉爲主耳、雖然、來而伐之者、秦也、而晉得爲之主者。以見兵端自晉起之也胡氏云「不書敗績者、借爲重。師次之。非也、書曰、獲晉侯敗績不待言也。與莊十年。楚獲蔡侯例不同者、彼大國伐小國之辭。是敵國相對之辭也。

左傳、載晉作爰田。作州兵等事。亦見左氏悉晉事。或爲其國人。

十有六年、春。王正月戊申朔隕石于宋五。是月六鷁退飛過宋都。

按、舊史載此類甚多。夫子及再修之見其適與泓之敗相應存之垂鑑戒。

耳。公羊氏六鷁退飛傳。淺陋可笑。左氏云「風也。」是左傳不可缺者。

三月。壬申。公子季友卒。

胡傳至當不易。不可易一字。

十有七年。夏。滅項。

公自前年冬。出在於淮會。而魯乘間滅項。蓋公密命。及己不在國取之。使如出于守臣之意。竟爲齊桓所執。夫子於前年。書其出會。次書夫人會于齊侯。次書公至自會。使人隱然知其情實。然亦不過直書其實也。左氏云。「書曰。至自會。猶有諸侯之事焉。且諱之也。」甚得經意。

十有八年。春。王正月。宋公・曹伯・衞人・邾人伐齊。

桓公一沒。諸夏潰裂如亂麻。所以見桓公一時之盛。亦所以見覇者之不以及王者之治也。

夏。師救齊。

穀梁氏云「善救齊也。」甚得經意。

狄救齊。

穀梁氏云「善救齊也。」是也。夷狄猶知以報桓公舊德。其在諸夏者。熟視不爲一援手。何面目之有。況如衞有再造之恩者乎。

秋。八月。丁亥。葬齊桓公。

前年。十二月。書卒。經十一月。書葬。其亂可知矣。

冬。邢人・狄人伐衞。

凡救齊事。胡傳敷演穀梁傳。皆得其肯綮。

按。左傳。桓公與管仲。屬孝公於宋襄公。夫桓公之盛。管仲之智。自不能定後嗣。依鄰國取重。豈有此理哉。蓋宋襄公慕桓公之盛。常有代桓公取伯主之意。及其卒。孝公來奔。以爲奇貨可居。因託言嘗納其屬。以義名於諸侯也。當時執史筆者。不知其實。徒直書其事耳。

十有九年。春。王三月。宋人執滕子嬰齊。

此經大意譏宋襄不自知其才。妄慕齊桓。凌轢旁近小國。欲以示遠威。

夏。六月。宋公・曹人・邾人盟于曹南。

曹南之盟。諸侯若魯衞。無一人至者。至者不過旁近小國。其不振。可知也。

冬。會陳人・蔡人・楚人・鄭人。盟于齊。

按。左傳。「陳穆公請修好於諸侯。以無忘齊桓之德。」是恐非其情實。蓋楚欲托陳以結諸夏。陳侯無言可以致之故。設此召諸侯耳。此會。僖公親出。而不書。諱其與於楚人也。

二十年。春。新作南門。

僖公不能援宋襄而却楚人。而費財於無用物。譏見于言外。

二十有一年。宋人・齊人・楚人盟于鹿上。

是實各國大夫。非君親出者。甚哉。宋襄之爲昏。是其立霸之始。而首與夷狄盟。其敗可必也。

秋。宋公・楚子・陳侯・蔡侯・鄭伯・許男・曹伯。會于盂。執宋公以伐宋。

公羊氏云。「不言楚子執之。不與夷狄之執中國也。」穀梁氏云「以重辭也。」胡

（曰之。宋本・阮元本。竝作日之。）

氏云、「分惡於諸侯也。」三傳皆是也。但胡氏春秋爲賢者諱之說非也。爲中國諱則有此。雖有賢名者、聖人豈得私其爲惡哉。

冬、公伐邾。

左傳載成風語云々。婦人出此正論。中國諸侯有何面目、益見世道變遷。

楚人使宜申來獻捷。

穀梁氏云「捷、軍得也。其不曰宋捷何也、不與楚捷於宋也」胡傳亦不過敷演穀梁氏。

十有二月、癸丑。公會諸侯、盟于薄。釋宋公。

穀梁氏云「會者、外爲主焉爾、外釋不志。此其志、何也。以公之與之盟曰之也、不言楚不與楚專釋也」亦是也。蓋應上之盟以下。魯常陰助楚、然以國惡諱而不書。釋宋公、特爲美事、故獨書之歟。

二十有二年、春、公伐邾、取須句。

按、左傳公納成風之屬。有此役。雖名爲母、實自取焉耳。

秋。八月。丁未。及邾人戰于升陘。

莊公納子糾。爲齊所破。乃書敗績。而敗績不書。何哉。蓋彼敵國相戰。雖敗尙有辭。此役。公所自爲。反爲小國所敗。爲恥太甚。所以不書敗績也。

冬。十有一月。己巳。朔。宋公及楚人戰于泓。宋師敗績

書曰宋公。見其自好取敗衂。與韓原之戰。同一書法。

二十有三年。春。齊侯伐宋。圍緡。

齊孝公爲宋襄所納。而問其敗而伐之。爲罪尤甚。如左傳。事實不可信也。

冬。十有一月。杞子卒。

杞。伯爵之國。今以子稱之。蓋周制五等。有漸進位階之法。杞子未至本爵而卒乎。或嗣子夭死。未及卽位而卒乎。傳略事實。不知孰是。其用夷禮故貶爲子之說。決非聖人之意。夫爵者。時王之所以分班位。聖人豈得以筆墨與奪之哉。

二十有四年。夏。狄伐鄭。

按、鄭時睦王室。故狄爲子帶伐之也。

冬。天王出居于鄭。

諸傳多以爲譏王。然是一時變起。實不得已之事也。王與鄭共無褒貶。而使天下耳目知王播在於外。不可以不勤王赴難。而子帶之不可與力。亦可見也、吳氏曰。天王居狄泉。不書出者、王雖去京師而猶在畿內也。此則去畿內而越在諸侯之國。故書出。

按。左傳。王以狄伐鄭。納狄后。子帶通后。王出居鄭。皆爲今年自夏至冬之事。是於時情尤迂。且王與鄭已爲讎敵。而又出依之。更不可解也。蓋傳包括數十年之事。集爲一時之事也。但甘昭公通狄后。以狄師伐王之事。爲今年所有耳。

二十有五年。春。王正月。丙午。衞侯燬滅邢。

朱子曰。諸侯滅國。未嘗書名。衞侯燬滅邢。說者以爲滅同姓之故。今經文。只隔夏四月癸酉一句。便書衞侯燬卒。恐是因而傳寫之誤。亦未可知。此

說。是也。且同姓相滅。書名罪之。至晉滅虞、楚滅夔、其說不通。

宋蕩伯姬來逆婦。

是異事。故舊史記之。夫子因而不改耳。然非婦人所美、可知矣。胡傳「刺其慢宗廟、卑朝廷」何其責之之深。

宋殺其大夫。

大夫失名。故不稱名。公穀共無足論者。可以見其他多不足信者。

秋、楚人圍陳。納頓子于頓。

城濮之役將興。陳爲晉楚必爭之地。故謹書之。胡氏云「是夷狄伐義正諸夏也。」以責中國。夫子之意、豈在于此哉。

冬。十有二月。癸亥。公會衛子・莒慶、盟于洮。

衛侯平魯莒二國者。不可不親來。莒子不親來。使慶代已者、猶爲懼魯也。

二十有六年。己未、公會莒子・衛甯速、盟于向。

莒子前年既受盟於我。於是始親來。衛侯前年親涖盟。故今使卿代來。

公以楚師伐齊。取穀。

僖公忘齊桓之舊好。依夷狄以自爲助。既而遇晉文起。乃叛楚又就晉。其反覆不能自立。可恥之太甚。是皆國惡可諱者。故夫子先以齊伐我西鄙起筆。次書公子遂如楚乞師。而及公以楚師伐齊。如兵端先起自齊我不得已而應之者。而不必曲言飾過。復書其事實耳。是夫子尤用意者也

左傳云。宋以其善於晉侯也叛楚卽晉。夷狄而曰叛。舊史失辭。可以見也

二十有七年。春。杞子來朝。

左傳非也。說見于前。

冬。楚人。陳侯。蔡侯。鄭伯。許男圍宋。

諸傳云是楚子也。稱人貶之。按左傳楚子明年始入居於申。而佗無明徵疑是非楚子親出。以經爲正。然則陳蔡鄭許之君叙于楚人之下。何哉。其以華夏甘受蠻夷之驅役。以伐諸夏。其罪可知也。是夫子所以致意也

十有二月。甲戌。公會諸侯盟于宋。

圍宋之役。蓋僖公亦與焉。而經不書。媿受楚人之命也。而策不可獨闕此事。故及與諸侯盟而書之。其意謂。是與諸侯也。非特與楚盟也。聖人苦心如此。

二十有八年。春。晉侯使曹。晉侯伐衞。

不言遂。再揭晉侯。非貶意。蓋今年大事。始於曹衞。□爲此經頭腦。故今爲兩行。所以鄭重之也。且下文連於衞故。

公子買戍衞。不卒戍。刺之。

魯將絕楚而降晉。故殺公子買說之也。然是不可明言之事。夫子託言不卒戍。朦朧書爲魯諱之也。

三月。丙午晉侯入曹。執曹伯。畀宋人。

凡此經。連書晉事。明其一戰取霸之勢。不必一一尤文公以譎御人也。

夏。四月。己巳。晉侯・齊師・宋師・秦師及楚人戰于城濮。楚師敗績。

楚師稱人。及陳蔡不錄。蓋以其無所關係。畧之也。非關褒貶也。先揭晉侯

次叙齊宋秦三國之師。以見天下形勢向背有所歸也。

楚殺其大夫得臣。

上文書敗績。此書殺。可見其敗因得臣也。

衞侯出奔楚。

胡氏云、「衞侯之不名者。著文公之罪也。」此說。非也。下文於復歸于衞書名。自有其義。此不必須書名也。

五月。癸丑。公會晉侯・齊侯・宋公・蔡侯・鄭伯・衞子・莒子。盟于踐土。

據左傳。此會。王實在焉。而王子虎從執事於其間。王既不可言會。當以王子虎列晉侯上。而以王實在會。故不敢列也。是夫子筆削之意。穀梁氏云「諱會天王也。」可謂簡而明矣。胡傳亦得大體。

陳侯如會。

陳始屬楚於是、懼歸于晉也。

公朝于王所。

穀梁氏云。「朝不言所。言所者。非其所也。」得經意矣。蓋朝王所美事也。不可以不書。且見及踐土之盟。王既來在焉。胡傳云。「天子在是。其可以不朝乎。天子在是。而諸侯就朝。禮之變也。春秋不以諸侯就朝為非。而以王所非其所。為貶。正其本之意也。」亦是也。

六月。衛侯鄭自楚復歸于衛。

此特稱名者。別於上經衛子也。非因褒貶。

衛元咺出奔晉。

衛侯既入。元咺乃出。衛侯之出。實由元咺。可以見也。蓋備錄衛事。明君父之命。臣子不可敢校。其罪元咺深矣。臨川吳氏云。「衛侯怒元咺之立叔武。而殺其子。故前驅歂犬探衛侯之心。陽為不識叔武。而射殺之。歂犬見衛侯哭弟之哀。於是走出。衛侯使殺之者。亦聊以歸獄云爾。」此說尤得時情。蓋雖君有大惡。臣不可以抗。況元咺假強晉之威。劫制其君。其惡甚矣。夫子備錄不略。所以深戒臣子也。且衛侯之取禍。亦可見暗愚所以致也。

冬。公會晉侯・齊侯・宋公・蔡侯・鄭伯・陳子・莒子・邾人・秦人于溫。

此會天子在是。而不書。穀梁傳云「諱會天王也」。恐是古來相傳之說。

天王狩于河陽。

穀梁傳云「全天王之行也。爲若將狩而遇諸侯之朝也。爲天王諱也」。蓋夫子雖晉文召王。王亦來蒞。其交失禮。而得王狩河陽。乃託狩書之所以幸之也。胡氏亦能盡穀梁氏所未盡矣。

諸侯遂圍許。

遂遂溫會也。因知春秋從事直敘去。未嘗於隻字苓句之間而費思。

曹伯襄復歸于曹。遂會諸侯圍許。

與起筆環合。終一年之局。

二十有九年。春。介葛盧來。

公羊氏云「不言朝。不能乎朝也。」

公至自圍許。

汪氏謂「不以王所致。而致闔許。尤之也。」是等所謂平地起風波者。夫子從實直書耳。無他義。明白矣。

夏。六月。會王人・晉人・宋人・齊人・陳人・蔡人・秦人。盟于翟泉。

此會。僖公實與焉。而不書公字。胡傳本程子之說。論下凌而無君之罪。未爲得時情也。蓋當時僖公。年德共高于列國。故晉請公。代主大夫盟。魯人榮之。舊史亦必大書公字。見其所美也。及夫子刪修春秋。諱其辱國體。刪公字耳。按。公羊傳有公字。

秋。大雨雹。

左傳云「爲災也。」此說不復須他議。

冬。介葛盧來。

再書葛盧來。明年又使蕭。張氏云「求援而後擧兵也。」陳氏云「一歲再至。其意將安在乎。故亟書之。」蓋懼遠夷窺諸夏也。兩說未知孰是。

三十年。夏。狄侵齊。

據左傳。可想見晉文盛隆之極也。

秋。衞殺其大夫元咺及公子瑕。

是國誅之文。而元咺不刪大夫。以別公子也。胡傳云。幷罪之也。參觀前數年。元咺抗君之罪。自不能掩。而衞侯失處置之罪。亦見焉。不可幷罪君臣也。

衞侯鄭歸于衞。

書名。亦別於衞子也。係號。其當君衞可知也。然歸不言復者。以衞子在內也。

晉人·秦人圍鄭。

是兩君共出。晉辱爲秦所欺。告以偏師。史書從告也。非貶辭也。

冬。天王使宰周公來聘。

揭天王。亦聖人特筆。當在於此等處說者。件件皆鑿求褒貶於其特筆處。反鉗口不發一言。是陋儒之通病也。

公子遂如京師。遂如晉。

胡傳以爲是不待貶絕。而罪惡見者。是所謂吹毛求疵。眞獄手理聖經也。聘周室。聘盟主。共是爲美事。未見其惡也。然直書事實。始無褒貶之意。

三十有一年。春。取濟西田。

左氏云。「分曹地也」。胡氏祖述公羊傳。以爲魯故田。未知其何所據也。

夏。四月。四卜郊。不從。乃免牲。猶三望。

胡氏云。「因禮之變。而書于策」。得之矣。按。乃字。猶字。此等不爲貶意。蓋史册多載此等之事。當時史官書以備後日索閲。以爲典例。夫子因存其涉教戒者。以爲世鑑耳。

冬。杞伯姬來求婦。

亦直書異事。其非美事。從而可知也。

狄圍衛。十有二月。衛遷于帝丘。

夷狄侵掠中國。是固大事也。而其時勢可見。此聖人所以寓歎慨也。胡傳

以爲晉文無御四夷安諸夏之功。酷論也。唯衞輕棄祖先之故土不爲無罪也。按左傳寧武子言。當時已有其非者。

三十有二年。秋。衞人及狄盟。

胡氏責衞就廬帳受盟。不知其何以知爲廬帳也。蓋衞伐狄。狄服而請。自是美事耳。

冬。十有二月。己卯。晉侯重耳卒。

左氏載文公柩有聲。王元美云。柩中聲。本與西師無關。但卜偃已聞秦襲鄭之計。故依是而設權。以正衆心。按誠有此事。爲之臣子者。冀其再蘇。將開柩而檢之。豈啻拜而已哉。明是先軫所設也。

三十有三年。夏。四月。辛巳。晉人及姜戎敗秦師于殽。

此役晉襄實出。而經書人者。蓋晉人自避其喪服及干戈。以偏師告諸侯也。晉襄能繼父志。是可美也。胡傳譏其忘親卽戎。酷論也。誠若其說。則喪中受兵者盡爲人有。何以面其祖先哉。是害於世太甚矣。

公伐邾取訾婁。

諸侯已無盟主。僖公欲乘時取邾。胡氏引或說。以爲僖公爲成風報怨之事。何其迂哉。

乙巳。公薨于小寢。

春秋謹書終地。然無別於路寢與小寢。若罪之。頓死者。不暇走就路寢也。然小寢之不若路寢之得正。自見于直書間。

隕霜不殺草。李梅實。

公羊傳云。記異也。

冬。十月。公如齊。

齊桓已卒。僖公去而就楚。文公已興。又去屬晉。既而文公又卒。又去媚事齊。閱其一生。無特操。如此宜。不能自立國哉。經直書不厭夫子之所以見感慨於言也。

## ○文公

元年。春。王正月。公卽位。

君薨。嗣子越年卽位。固得其當矣。國不可一日無君故也。如胡傳可謂平地起風波。所謂百官總己。聽於冢宰三年者。蓋君在新喪。百官不得而稟之喪次。就冢宰聽之。冢宰入稟之於君也。非謂冢宰攝位決國事也。且夫嗣子繼位之際。多以疑似招禍者。是爲嗣君者。最當明白其事以定人心也。

天王使叔服來會葬。

天王使使會葬者。唯僖公得此。可見僖公名望顯於當時。

天王使毛伯來錫公命。

胡傳引穀梁氏之說。以爲非禮。固得其意。而在言外。如正面。喜天子寵命。書之而已。

叔孫得臣如京師。

王再使人。魯一報之。聖人直書其實。乃惰慢之罪。不得自掩。

冬。十月。丁未。楚世子商臣弑其君頵。

弑君父。萬世不磨之罪也。然世子必繼其位者。不須於簒弑也。而弑之。是必起人疑問。尋其情實。則爲之父者。不能處其子之過。亦自見焉。蓋舊史以爲病死。夫子改從今文也。胡傳引唐世子弘事。是也。世子不喜春秋。故夫知處父之道。自取毒殺。使君父取殺子之名。胡氏不論及此。是爲可恨耳。

二年。春。王二月。甲子。晉侯及秦師。戰于彭衙。秦師敗績。

胡氏以爲及字有貶晉侯意。可笑之甚。是唯從晉人告辭。書之耳。魯史之體。自不可不如此。豈有褒貶哉。

丁丑。作僖公主。

魯人尊崇僖公。作其主。特與恒例異。故書之册。後日躋位之漸。已見焉。

三月。乙巳。及晉處父盟。

左氏載晉人使陽處父盟公。以耻之事。書曰。及晉處父盟。以厭之也。適晉。不書。諱之也。尤得經旨。

夏。六月。公孫敖會宋公・陳侯・鄭伯・晉士穀。盟于垂隴。

士穀。大夫也。而書名。列于諸侯之下。蓋魯使公孫敖與其盟。志其來會者之名位。故雖他國大夫。不得不書。此亦史筆之體也。

八月。丁卯。大事于大廟。躋僖公。

魯得禘祭。夫子固所不喜也。故特書大事。而曰躋。其不可躋。可知也。胡傳可謂正論。

冬。晉人・宋人・陳人・鄭人伐秦。

是佗國相會。不與我關。大夫之名。不錄而可。亦魯史之體。當然也。

公子遂如齊納幣。

於是。僖公薨。未經二十五月。而納幣。失禮見矣。

三年。春。王正月。叔孫得臣會晉人·宋人·陳人·衞人·鄭人。伐沈。沈潰。

我大夫稱名。他國不稱。是詳內略外之法。蓋楚世子商臣既犯大逆無道。而六國置而不問。凌轢近傍小國。聖人所以謹書之也。且大夫專兵之弊。亦在於言外。胡傳缺斷定。

夏。五月。王子虎卒。

王子虎與諸侯會盟。其卒。告之各國。不可恒例論之。胡氏尤天子內臣無外交。是膠柱之論。不解時情也。且以稱王子。爲貶。則書以何銜也。亦不能不自窮也。

秦人伐晉。

胡氏云「貶而稱人。備責之也」按。春秋。親晉斥秦。不啻此也。且據左氏。此役。孟明主之。非秦伯親來也。

雨螽于宋。

蓋魯與宋。境壤相接。故於其變特詳之。齊雖與我鄰。有泰山限其間。地勢

隔絶。不與宋同。故從略乎。公羊傳非也。

冬。公如晉。

書如晉。書及晉侯盟。明年。又書至自晉。特用詳明之筆。如前與陽處父盟。不書如。又不書至。而不付言我何人盟之。極用略筆。以其詳照其略。乃聖人之筆削。可見。是春秋比事屬詞之法也。

晉陽處父帥師伐楚。以救江。

文公之威。猶不能服楚人。況襄公乎。苟出兵救江。猶爲有乃父之餘風。胡傳譏其無謀。不能服楚。不亦迂哉。

四年。夏。逆婦姜于齊。

穀梁氏云。「公自逆。」又云。「曰婦。有姑之辭也。」蓋此書法異於常例。其間必有不稱禮者。故書法自異也。意公自往。私成婚於齊。事畢。歸告之國人也。胡傳云。「不正其始之過也。」言外不爲無此意。

秋。楚人滅江。

前年。書晉救江。竟爲楚所滅。晉不畢德之罪。見焉。

晉侯伐秦。

學者觀秦誓列書末。多以穆公爲夫子所取。何知尙書者。天下之公典。非孔氏之私書。夫子得敢以私意取捨之哉。胡傳動欲強歸罪於晉。以與穆公。亦坐讀書之謬耳。無他。是內晉而外秦之詞耳。晉魯同出於周室。當爲通國。魯之執史筆者。體當然也。

五年。春。王正月。王使榮叔歸含且賵。

穀梁傳云。「其曰且。志兼也。」公羊傳亦同意。皆以爲貶之。是漢儒陋習。不足取也。胡氏云。「不稱天王者。弗克若天也。」論者引莊元年王錫桓公命。亦不稱天。以爲明證。其意謂。桓公簒立。成風妾而爲嫡夫人。各有其罪。桓公成風實有罪。然以此與奪天子之名號。是夫子以臣子賞罰時王也。天下豈有此理哉。且桓公在位中。數有王使。皆稱天王。其生猶稱天。及其死。無奪之理。不可以此爲證。亦明矣。此等一字有無。固非以褒貶。一從舊史之文。

不及改之耳。觀左傳敘此事。亦無天字。舊史之文。可推知也。然其以妾僭嫡之罪。夫子意。豈爲美事哉。自見于直書中矣。是胡傳之所未可全廢也。

秦人入鄀。秋。楚人滅六。

入鄀滅六。皆僻遠之細事而已。然所以愼錄者。以見晉雖稍衰。猶主諸夏之盟。戎蠻不敢侵入。不過徒事近傍小國也。

六年。秋。季孫行父如晉。

連年數書王使來聘。而魯使如京師者。不一見。唯其如晉者。數見。是魯唯知有盟主。而不知有王之罪。見於言外。

晉殺其大夫陽處父。

狐射姑實殺陽處父。公穀及胡傳皆云。以君漏言。故稱國以殺而不言大夫相殺。是亦陋見也。凡列國之事。從赴直書者。春秋之體也。若瑣細錄其曲折。乃是稗官家之言。非國史也。且春秋中。於列國殘殺之事。揭其首名書之者。僅不過一二。彼各有其說。未可以概他年也。

閏月不告月。猶朝于廟。

左氏云。「閏月不告朔。非禮也。」最爲正當。公穀二傳。皆云「閏月。故不言告朔。而曰月。」今按。月。蓋朔字誤也。胡氏云。「猶字。幸其不已之詞。」蓋本蘇子由之說。是也。

七年。春。公伐邾。

經時有書年。不書王正月者。事多係一時。而不係一月也。又正月無事。而有書王正月者。要之。夫子一正正朔。揭之冊首。其不必年年正之也。

三月。甲戌。取須句。

取須句。伐邾之最顯者。舊記幸存月日。故不改耳。

夏。四月。宋公王臣卒。

書卒。不書葬。而下文書殺大夫。其亂可知也。

宋人殺其大夫。

胡氏云。「書宋人者。國亂無政。非君命。而衆人擅殺之也。大夫不名。義繫於

殺大夫。而其名不足紀也。簡明切實。不可增損一字。使胡傳每事如是。豈須紛紛議論哉。

戊子。晉人及秦人戰于令狐。

亦是內晉外秦之辭。且非事關係於我者。故略稱人。非貶稱人。公穀無論。蓋如未視左氏事實者。

秋。八月。公會諸侯・晉大夫。盟于扈。

此盟。蓋公與諸侯。往就趙盾受盟也。失國體之甚者。故特沒盾姓名。徒稱晉大夫。且盾擅權之罪。自見。胡傳云。「趙盾內專廢置其君。外强諸侯爲此盟。其不名者。見大夫之强也。」是也。其論諸侯不序。見公之不及於會。不足取也。經主意在失國體。不在後至與否也。

公孫敖如莒涖盟。

當連下經見其有事。

八年。春。王正月。夏。四月。

按。古時史冊。預署四時首月。以待有事。有則註於其下。無則闕之。經中往往有唯書首月無事者。豈其闕者乎。

冬。十月。壬午。公子遂會晉趙盾。盟于衡雍。乙酉。公子遂會雒戎。盟于暴。

春秋未有各國大夫擅盟者。有者。始于此。公子遂後殺君嗣。擁宣公擅政。趙盾亦逆賊。二人會盟。其所謀實可疑也。故夫子再書。書名。不曰晉大夫。而特曰趙盾。鄭重其筆。使讀者醒目。是聖作大旨也。胡氏以爲惡會戎狄。皮毛之見耳。如左氏顚倒錯謬。固無論矣。

公孫敖如京師。不至而復。丙戌奔莒。

據實直書。國無綱紀。君臣失禮之罪。自見焉。胡傳。其論則正矣。然欲於此輩講道學。不亦迂矣也。

宋殺其大夫司馬。

胡氏以其書官而不稱名。爲聖意所在。不然。是在國無綱紀。國人相殺之上。故書官則是足矣。不必名也。凡係其君命者。不拘其罪之有無。國計爲

文。皆國人擅殺者稱人。書殺、書官、書名、皆從其所赴之辭。蓋舊史如此。夫子從而不改耳。

九年。春。正月。毛伯來求金。

毛伯受命求金。不言天王使者。爲時王諱也。而周室衰微。不能自給。諸侯不共之罪。自見矣。況當時稱盟主者。安得辭其責哉。

辛丑。葬襄王。

公羊傳云「我有往者則書。」一句盡之。公穀概多妄誕。時有如此明解。蓋古來相傳之說也。

三月。夫人姜氏至自齊。

夫人書至。更不他見。是爲變例。聖人之筆削。常在異例處。胡傳盡之矣。

晉人殺其大夫士縠及箕鄭父。

穀梁稱人以殺誅有罪也。是本其國討之例而言耳。胡傳亦然。但胡之爲衆人擅殺之稱者。意義太勝。然曰以不去其官知非討賊之辭者。不過乎。

書國殺者、有無罪者。不去其官者。有有罪者。不可一例言也。如北條義時專權。除異己者。冊書曰、鎌倉人殺其士所別當和田義盛。則義時之罪。固不待言。義盛見殺。亦不爲無可咎。而源氏之權下移。亦可見也。而書義時則失冊書之體矣。

公子遂會晉人・宋人・衞人・許人。救鄭。

卿不稱者。此會無成事。不足以稱名也。亦爲得史書之體。其或稱名者。必有故。左氏云「以懲不恪。」胡氏從之。非春秋本旨。

冬、楚子使椒來聘。

春秋之始。稱荊者。以遠且疎略之。當此時。楚漸强大。與中國通使聘。不得略之也、故具書其爵。使人稱名者。未得其姓也。是時勢之所以使然。非始夷之。今華之譬、猶我於奧羽也。奧州之未通也。我未知彼中有何人也。其使犯者、書曰蝦夷犯某地。或曰奧人入其處。無他可書也。及至武則・秀衡。係朝官。納朝貢。又通使鎌倉。不與內地守異也。則鎌倉之史。書曰藤原秀

衛使某人來聘。或侵伐。亦與他國相伐同。事情漸變、册書之體、亦宜從而變也。

秦人來歸僖公成風之襚。

惠公仲子。僖公成風、皆據實直書。孔子何容意其間、爲夫婦母子之訓哉。穀梁傳、秦人弗夫人也。卽外之。弗夫人而見正焉。可謂善得經旨矣。蓋成風、魯人所貴。而秦不屑稱之夫人也。故於其卒、稱夫人書之、從魯人所稱也。此稱以成風者、從秦人來告之辭。以見其非正夫人。是聖人造化之筆也。如胡傳。不知其爲何說也。

十年、夏秦伐晉。

此役、晉先侵秦、秦以報之也。而書曰秦伐晉者、晉不赴已取、少陵偏赴秦取北徵。故從赴書之。兩國共無是非、又無褒貶。胡傳引程氏之說曰、晉有舍適而外求君之罪。既而悔之、而秦猶伐之。故反罪秦、戎狄書之。可謂鑿矣。

楚殺其大夫宜申。

宜申謀逆。是國賊也。楚子命誅之。故以國討書之。其官。大夫也。故曰殺其大夫。有罪亦然。無罪亦然。夫子據實直書而已矣。而如其當否。則詳其事。而後可見。胡傳謂誅逆。當曰楚人。而稱國且大夫者。穆王亦有逆罪。故如此。此說拘無罪者稱國。有罪者稱人之說。故遂發迂濶之說耳。然依此。可知春秋書法。始無定式。國人相殺則稱人。係君命則稱國。不論其罪之有無也。

及蘇子盟于女栗。

王氏曰。不書公諱與王臣盟也。襄王喪。公未嘗往。頃王既立。公又不朝。乃及王臣。爲不相信之盟。臣子之義。安在哉。家氏之說亦如此。深得經意。不曰如周。則知女栗亦魯近郊之地已。文公不恭之罪。更爲太甚。蓋舊史詳記其名。夫子特刪之。沒其爲何人。使讀者思而得之。是夫子沈吟不得已之筆也。而有意於褒貶也。論者每於平易明白之處。妄生風波。至如此大

旨所在。則寂然無一言。何哉。

冬。狄侵宋。

是實狄書之也。不與秦伐晉例同。故曰。春秋始無定法。當審事實與時情。而得其旨也。

楚子・蔡侯次于厥貉。

此時。南邊諸侯。聞楚出師。皆戒嚴待之。明年。因有承筐之會。自是大事。諸書之册。胡氏論先次後伐。先伐後次之是非。而不可信也。何者。方齊師次陘而後伐楚之時。魯固與之。同在其陣中。詳悉其事。故不可不書。而非以先後爲與奪也。書其實也。不幸齊師先伐後次。則將何以書之。若楚子次于厥貉。中國戒嚴。有來告之者。故書之。其意所欲伐者。魯不預知。故不書伐。且論陳・鄭・宋・蔡皆在焉。特略三國。皆有不可已之辭。故恕之。亦非也。蔡固密邇楚。尙奉其使命。如三國。皆中夏列侯。深愧與楚。故不來赴也。且以三國皆在。不問赴與不赴。欲必書其實。是楚之檮杌也。非魯之春秋也。

十有一年。夏叔仲彭生會晉郤缺于承筐。

前年有楚師北侵之勢。故謀國事也。固爲美事。因知他大夫相會者。不必一一罪之也。當連讀前後數年。屬詞比事。以知其當否也。

冬。十月。甲午。叔孫得臣敗狄于鹹。

據左傳。是舉國喧傳之事也。舊史蓋詳載其事跡。書曰獲長狄僑如。夫子删之如今經。以正國冊之失體也。或曰。得臣獲長狄內事。秦伯獲晉侯外事。而春秋詳略反相反。何也。曰。若獲晉侯。係天下列國之策。無不書。叔孫事雖舊事。其獲臣人。徒供兒童誇談耳。不書得體。

十有二年。春。王正月。郕伯來奔。

據左傳。嫌太子朱儒未卽位來奔。故趙劉二家。紛紛駁其非而不止。是坐不善讀經耳。既書稱伯。其已卽位於夫鍾明矣。而國人弗徇逐之。罪在國人。君臣之分。固不可校其曲直也。脅以諸侯逆之。是也。左氏論其非禮。誤也。然其曰不書地。尊諸侯也者。甚得經意。如武田信玄逐其信虎。若使之

奔。列國史冊。必書曰甲斐侯來奔。可以知其時情矣。

二月。庚子。子叔姬卒。

叔姬已笄有嫁。經故書卒耳。公穀二傳。得大意。獨左氏以上有杞伯來朝文。次叔姬卒。妄意相連二件。生絕婚之說。康熙彙纂論之、既詳矣。

夏、楚人圍巢。

是小事耳。而猶記之魯史。可見當時中國。常覘楚人動靜。又戒守備也。

秦伯使術來聘。

前年歸僖公・成風之襚。又使術來聘。是取親於我也、故經亦書之、漸加詳矣。蓋此時秦欲攻晉、故先結信於晉之與國。殺其勢也、是所謂遠交近攻之祖也、魯固辭其玉者、蓋憚晉討之也。

冬。十有二月。戊午、晉人・秦人戰于河曲。

河曲之戰、兩國對壘爲戰、故備事書之而大不勝敗者、交綏無勝敗也。兩國爲無名之師。殘暴國人。猶兩虎相鬬、故以人稱之是爲得其體如胡傳

所云。是夫子取權衡。折兩國錙銖之罪也。是豈修春秋之意哉。

季孫行父帥師。城諸及鄆。

諸・鄆。蓋皆近於費。而有要害。故季氏取之。以自謀富強。夫子謹書。使讀者知他日專魯之漸在於是。其意深矣。張氏云「與莒有仇。由鄆始。」皮膚之見耳。

十有三年。世室屋壞。

左氏云「書不共也。」可見書法始無與奪。據實直書。褒貶自見。

十有四年。春。王正月。

據左傳「春頃王崩。曰不書。懲不敬也。」其意。以不赴告罪周也。夫天王之崩。列國諸侯。當奔走赴弔之不暇。豈可待赴而後知哉。公穀胡三傳。不一言及此。家鉉翁獨謂著諸侯無王也。蓋當時諸侯。視周如同列。無存心於王室者。故舊史失之。夫子以爲。是因其失。足以垂教矣。故夫子不復補之也。讀者能於無文字處。念孔子之意。則善讀春秋者也。

邾人伐我南鄙。叔彭生帥師伐邾。

叔下脫失仲字。闕文耳。左氏云。「邾人怒我使人不敬。來討。」然以小國敢抗大國。又招其怨。恐此事不可信也。蓋邾魯有舊怨。或因爭疆之事。來侵魯借此凌轢小國也。

六月。公會宋公・陳侯・衞侯・鄭伯・許男・曹伯・晉趙盾。癸酉同盟于新城。

七年。扈之盟。與此同例。而略而不錄者。諱公就受趙盾之盟也。如此之盟楚師在厥貉。將有北伐之勢。而宋・陳・鄭亦爲其所劫制。文公周旋其間。使之皆受晉盟。是魯之功也。且會盟。各通使幣。則不得不列敍各國。列敍各國。則趙盾獨不可曰晉大夫。故亦書名。文體爲然。又其時情。自與扈盟異矣。同字。穀梁云。「同外楚也。」胡氏亦祖述其意。不必夫子意也。且若厥貉之役。三國不從楚之由。詳見十年注矣。抑舊史之文。雖不可觀。而以時勢察之。如趙盾。必當抽書於宋公上。夫子改從今文。是春秋之所以爲春秋也。嘗以北條氏之事考之。設使此時有會盟。書相模守。以在東諸侯上。若朝

臣之上亦猶此耳。

晉人納捷菑于邾。弗克納。

此役。趙盾實爲帥。而稱人。略外事之例也。納者言不易也。弗克納者。言雖小國如邾。一旦據義拒人。則爲盟主者。以八百乘之衆。不能強之。所以見當時小國。動被大國凌轢。不能自振者。皆不能以義從事也。左公胡三傳。以弗克納爲美趙盾。聖人作春秋。不應如此之迂也。穀梁論趙盾見機之晩。其義稍爲優。左傳、周公將與王孫蘇訟于晉。王叛王孫蘇云。此等。可以見舊史之顚倒錯謬矣。蓋國史。載北條足利之事。其於王家事。多類於此者。故非知舊史。則聖人筆删所在。不可以見也。

九月。甲申。公孫敖卒于齊。

大夫卒。書之恒例也。下加于齊二字。使人尋其事實。則知其終於淫奔也。而國失紀綱。亦見其間焉。然如其書法。不過據實記之也。

齊公子商人弑其君舍。

舍立來踰歲遇逆。故公穀以來。論議紛出、蓋不踰歲則未成君者、就其嗣子之情、不忍親死即襲之、而言之。自國人視之、國不可一日無君、其爲喪主者、即其君也、豈有踰歲與不踰之分哉。一悟此義。其佗荊棘。不破而自破矣、必若諸家之說、嗣未踰年。則弒之可乎。如里克弒其君之子。則奚齊不當立者也。胡傳云「於州吁。以國爲氏。商人稱公子者。州吁機起于莊公。故累及于上。」然據左傳、齊昭公不立嫡庶之分。遂使商人生禍心是豈異於莊公哉、故胡說亦難通。要之、其書國、書公子並無異義、夫子豈考二百四十年之例。一一區別之哉。

宋子哀來奔。

穀云「失之也、」此傳近是。胡氏稱其知機來奔。聖人春秋豈論機之書哉疑子上脫公字耳。

冬、單伯如齊、齊人執單伯。

單伯、魯大夫也。以下經書單伯至自齊、知之也非周卿士也說者以周有

單氏附會耳。是國諱也。然直書不諱者。齊侯敢行弑逆。是妄人也已。是孟子所謂禽獸。又何難焉者。而魯使爲其所制。不足以爲國惡。是所以直書不避也。然不稱侯而稱人者。於我無輕重。外事略之例。是春秋之常法。非若胡氏所論也。

齊人執子叔姬。

竝書不諱。其意益明矣。公穀二傳。叔姬淫奔之說。以其相聯屬疑其或然。可笑之甚。胡傳云「稱齊人所以窮逆賊之黨與也」春秋家。時有此說。亦不可信用。或云。叔姬非魯女。非魯女。豈有册書之理哉。

十有五年。三月。宋司馬華孫來盟。

左傳云「華耦以其先有弑逆辭公賜宴。魯人美其敏」書以官字。悖理太甚。杜註。轉敏字爲不敏義。雖稍勝。固是不過據左氏附會耳。且華孫之言。稱先君曰宋殤公。不類臣子之辭。蓋左氏見逆臣子孫來盟。妄作無根之談耳。穀梁傳云「其以官稱無君之辭也」是恐古來相傳之說。胡傳「不稱使。以

是專行爲無君矣。此一句頗得經意。其謂督弒殤公。使其後世繼政、而以欲後世以賢者之類。功臣之冑。爲世臣等之說。不足取。是幷取左者、生此迂避耳。按。華耦、當時以字行。舊史書字。夫子不及正之也。且言宋司馬華孫來盟。其不待君命。私結交鄰國之罪見、而宋國無綱紀陪臣執權可知也。

齊人歸公孫敖之喪。

敖自始奔莒。至其歸葬。備錄不厭者。蓋所以歎國無紀綱。君權下移。遂致三家驕僭不可制之憂也。胡傳曰「感二子之孝而與之。」若其說。書其奔莒。亦有以與之乎。春秋非旌異行之書也。

六月。辛丑。朔。日有食之。鼓用牲于社。

莊公在位中。兩書日食。與之不詳略一字。左傳所論是也。高閱曰「後世人君。有擧行先朝故事。不顧義之可否。皆因陋承誤、不知春秋之義者也」此說更有卓識。

單伯至自齊。

稱伯無異義。從魯人所稱也。穀梁云「天子之命大夫也。」此說似是。

冬。十有一月。諸侯盟于扈。

左傳云「晉爲援魯爲此會。取齊賂而還。公不會。書曰諸侯盟于扈。無能爲故也。」略得經意。蓋以爲不足列叙同盟也。然設使公與會。不得不列叙其同盟也。胡氏云「八國略之者。黨其弒君之齊人。故等之夷狄。」可謂鑿矣。又云「不曰晉人會諸侯。曰諸侯盟于扈者。分惡於諸侯也。」此說更非。誠如其說。是與晉以天子之權也。設令舊史如此。仲尼必應改書列晉於諸國。是春秋正名分之本意也。

十有二月。齊人來歸子叔姬。

公穀二傳。似費解。胡氏云「稱人。惡其黨弒君之賊也。」非也。偏稱齊則不爲文。故以人字爲文耳。然魯爲強國所凌轢。不能自振。其戒君臣深矣。

齊侯侵我西鄙。遂伐曹。入其郛。

是齊怒晉爲魯爲扈會也。左氏云「伐曹、討其來朝魯也」雖商人妄作、不爲此誶說也。無佗、貪其地、狂賂入之耳。

十有六年。春。季孫行父會齊侯于陽穀。齊侯弗及盟。

觀十四年齊公子商人弑其君舍以來。至此歲郪丘之盟魯爲齊所蔑視。爲太甚。而魯之君偸安。而甘受其刧制。夫子慨之深矣。或云。齊侯篡立。難以人倫論之。故夫子不諱而書之。亦一說也。

夏。五月。公四不見朔。

公羊傳甚得經意。蓋古來相傳之說也。按前後皆書齊所以蔑視我者。而中間挾公不視朔一事。其旨甚深矣。文公不能勵精自振。偸安至不見朝四。是其所以取輕侮。季孫行父・公子遂之僭橫皆所由生也。是春秋屬詞比事之法也。胡云「其心放而不知求。久矣」而不言及于此。爲可憾矣。

六月。戊辰。公子遂及齊侯盟于郪丘。

據此及字。則上文弗及盟之及字。當從杜註訓與。

毀泉臺。

書曰毀。可見其用人力。蓋魯之君臣。甘受齊之戮辱。而不知愧焉。信妖蛇之說。用力於無用之事。是夫子所以謹書也。胡云、「雖勿居可也。」又云。「有輕先祖之心。」是知其一、而不知其二之說也

楚人・秦人・巴人滅庸。

胡氏云、「楚善用蔿賈之謀、故善之列書三國。而楚不稱師、滅楚之罪詞也、」

胡氏汎論蔿賈則得矣。而爲以此減罪、是不知史冊體裁之論也。若論之、據左傳、是役楚子親出。而不稱子。何不論及之乎。按、滅國者。天地之變。不論大小。必謹書之。而稱人。是春秋記外事之體也。

冬、十有一月。宋人弑其君杵臼。

胡傳本左氏說。以爲書宋人者。昭公無道。國人之所欲弑也。若信此說。可行弑逆者。皆可借此名以免其首名。其害名教。爲太甚。胡氏亦自知其非。更引人臣無將之說。爲辭要之不免牽強也。公羊傳。杜撰太甚。考左傳杵

曰之弑。實出於公子鮑。事跡甚詳。據趙盾弑夷皐之例。夫子當以公子鮑爲首名也。而以人稱之何也。蓋以歐陽公修春秋之法斷之。非公子鮑實弑之、左傳錄趙盾之事已有未盡其實者。於公子鮑事信當時謬傳。而錄之耳。然則誰實弑之。蓋昭公死於亂兵中。無知其下手者焉耳。趙匡云「昭公知其將死。猶出田甘受其禍。不近人情」是傳不可信。此說恐是也。且如蕩意諸死。守節殉君。當因孔父荀息之例而書之。而經不見蕩意諸。亦爲亂兵所害耳。

十有七年。春。晉人・衞人・陳人・鄭人伐宋。

胡氏云「列國之卿。不書者不能討宋亂。而立文公成其亂也」是酷論耳。按。此後百餘年。當孔子之時。陳恒弑君。夫子請討。蓋喪亂既極。亂賊公行。盟主無復問之者。夫子請討之。出於不得已也。吾意。夫子筆削至此。猶幸諸侯有此事也。非有貶意也。其稱人者。魯之君臣。不與此事。故略之耳。

齊侯伐我西鄙。六月。癸未。公及齊侯盟于穀。

被伐而受盟。爲辱甚矣。如前年齊侯不及盟等。每事直書不諱。其意謂彼弑逆人。已不足以爲我辱。而其實則夫子歎魯之君臣安游惰而不振也。

諸侯會于扈。

意同十五年諸侯盟于扈。

十有八年。春。王二月。丁丑。公薨于臺下。

穀梁傳云「臺下非正也。」固雖不若書路寢之得正。其得壽終。無疑也。與偏書薨者異。

夏五月。戊戌。齊人弑其君商人。

左傳杜注云「職・歜微不稱盜而稱齊人。所以罪商人也。」雖元凱非專修經者。然其簡明確切如此者。蓋深得左傳之意。因及經意耳。夫懿公用刖父之子。狃奪妻之夫。以爲近臣。固滅亡之道也。而二人相命弑之。而無一人齟齬者。是擧國皆欲弑之。故曰齊人。胡傳大意謂「初商人之行弑也。齊人受其私施。而不知討之。故及其遇弑。亦以罪歸諸齊人也。」商人固逆賊也

然既已立爲君。聖人責人、不如此之酷也。其人一犯罪、終身責之不止。是後儒之弊也。

秋。公子遂・叔孫得臣如齊。

穀梁傳、「使舉上客、而不稱介。不正其同倫而相介。故列而數之也。」此傳深得經意。胡傳亦祖述穀梁、而暢言其所不及、「使舉上客。將稱元帥。此春秋立文之常體也。」是可謂得看經之大體也。雖春秋立例。固不如杜氏釋例。亦各自有其體也。又云「上書大夫並使。下書夫人歸于齊。中曰子卒云云。」是說明亮簡易。眞善得春秋大旨者也。蓋文公卽位。媮惰荒政。至四不視朝。方七年。公子遂盟于趙盾。又盟于戎。十四年、齊人執單伯以來。動起兵來侵。公甘受其侵侮。敬嬴私事公子遂、終致弑太子之禍而不知察之。是皆公媮惰。不能自振之所致也。聖人謹首書公子遂・叔孫得臣如齊。次書子卒。次書夫人歸于齊。次書季孫行父如齊。越明年。又書正月公子遂如齊逆女。夏季孫行父如齊。繼公子遂如齊。六月齊取濟西田。而後事始定

矣。蓋公子遂等、挾强鄰。擁立宣公。得擅國權。聖人從事直書、姦人徑蹊。不能自掩。是春秋屬辭比事之妙也。

冬。十月。子卒。

胡傳云「何以不日。遇弑不忍言也。」其說本穀梁傳。然考左傳。亦不書日。是舊史適失日也。且公子般之弑、書日。不可以此爲例也。然其曰何以知其賊乎以下一節、可善謂得經意矣。張氏曰「叔仲彭生身爲大臣。既無以救文公之失政。又不能撓仲遂之邪謀。有公冉務人之忠言。不能用。甘心就死。無一毫扶持之實、沒而不書。有以也哉。」汪氏云「仲遂殺惠伯而埋之。史官畏遂威權。不敢書、此說亦近時情。然使惠伯實有可書之節。設令舊史闕之、夫子當補記之也。又與荀息例。有小異。彼外事也、故從赴書之。惠伯內事也。不可不爲國諱也。

夫人姜氏歸于齊。

胡傳亦的當矣。唯書姜氏。則知其非見絕於先君之一節。未免拘見也。

季孫行父如齊。

於夫人歸之後。書行父如齊。則行父亦遂與得臣之黨耳。

莒弑其君庶其。

據左傳。是爲太子僕之弑。是不可不謹錄首名者。而經不見。今據歐陽氏論斷之。蓋非必太子之實弑也。左傳季文子對公之詞。蓋挾正論劫制君上者也。大姦之術。間有此。不可不察也。

# ○宣公

元年。春。王正月。公卽位。

凡十二公。有書卽位者。有不書者。蓋其行卽位者。擧皆書之。不問其有故與無故也。公羊云、其言卽位何。其意也。穀梁亦云、卽位、與聞乎故也。此二說。雖不可以爲常例。然得孔子書此經之微旨矣。

公子遂如齊逆女。

胡傳、其論則正矣。然宣公旣弑適嗣奪。何喪禮之不除之有哉。是所謂放飯流歠問無齒決也

三月、遂以夫人婦姜至自齊。

遂去公子者。連上文如齊故也。公羊傳云、一事而再見者。卒名也。此說是也。左傳云、尊君命。尊夫人。何之說爲哉。姜氏稱婦而不稱氏。非有褒貶也蓋前年有夫人姜氏歸于齊之文。嫌於哀姜再歸于齊。故以婦字別之也

公羊氏云、「稱婦。有姑之辭也。」穀梁氏云、「其曰婦。緣姑言之之辭也。」者得其當。公羊又云、「不稱氏。以貶夫人也。」夫人。齊之處女耳。已非與知宣公簒位者。何罪之之深也。故胡傳雜引詩易。救其不得情而遂不免拘泥也。故胡氏論敬嬴私事襄仲出適夫人。亢顏以姑自處之罪。其說巧則巧矣。夫子豈憎敬嬴之得志。遽變策書之體哉。

夏季孫行父如齊。

左傳最明矣。不須云云。

晉放其大夫胥甲父于衞。

胡氏云、「放猶羈。」是也。又云「或以爲近正。非矣云云。」此一節。不免迂論。若使此事請天子。告司寇。得其當乎。更爲何書法。不過作文如此也。又云「秦晉戰爭于河曲云云。」此一節明快周到。甚得事情。然以此謂稱國書放者亦未免拘束。

公會齊侯于平州。

平州。是齊地也。就而會之。故不稱及。胡傳辨春秋以來。簒立之君。已列於諸侯。則不復致討之非。可謂確論矣。唯其曰會者討賊之一節。爲未免拘束耳。

公子遂如齊。

胡傳的當。無一字之瑕。其末節所謂此皆直書于策。而義自見者也。不獨此一事。二百四十年。皆當以此意讀也。

六月。齊人取濟西田。

取字。公穀紛然有解。胡氏以爲罪齊。皆非也。蓋魯以賂齊也。當曰使公子遂致濟西田。而夫子難其暴露太甚。故用曲筆。使人思其以爲賂。

楚子・鄭人侵陳。遂侵宋。

穀梁云。遂。繼事也。鄭稱人者。明非鄭伯親出也。胡傳以爲貶之。謬矣。

晉趙盾帥師救陳。

傳書陳宋。而經不書宋。何異。豈陳先告急於晉。蓋志在于救陳。故不及宋

乎。抑爲救宋而先救陳耶。蓋不過此二端。胡傳云「削之也。」聖人豈如此之酷也。不稱人而名趙盾者。下文有四國之君會之。故先鄭重之也。且見晉文雖衰。紀綱未墜于地。今會猶行於諸侯也。而盾之專權。終至于弑逆。其漸既兆矣。

宋公・陳侯・衞侯・曹伯會晉師于棐林。伐鄭。

上文署晉帥之名。此徒稱晉師。受此之詞。冊書文體當然也。胡傳駁穀梁傳。似所見而曰地以著其美。是與穀梁同見耳。

冬。晉趙穿帥師侵崇。

公羊傳無論矣。書法亦同上文。

晉人・宋人伐鄭。

將卑師少。故稱人。胡氏以爲宋人有弑君之罪。故貶而人之也。宋人弑君。事既前定矣。孔子作春秋。不如此之苛酷迂遠乎。

二年。春。王二月壬子。宋華元帥師。及鄭公子歸生帥師戰于大棘。宋師敗績獲

宋華元。

穀梁氏云、「獲者。不與之辭也、言盡其衆以救其將也。以三軍敵華元。華元雖獲不病矣。」趙匡駁穀梁傳云、「兵敗身獲而云不病。非也。但緣師先敗績。身乃見獲。依次第書之、有何褒貶乎。若欲褒貶、乃足見其不身先士卒爾。何得云善矣。」李盧陵云、「韓戰不書師敗。而書獲。爲晉侯失民。此戰先書師敗。而後書獲。爲華元得衆。」胡傳亦似迂、穀梁各有一理。而未得至當。凡師敗績、將見獲。且君自督戰、君重而師輕。君已見獲。則師之敗績。不書而可知。大棘之戰。則不然。將帥君之師。師重於將。敗績一國人命之所係。不可不先書。而元帥見獲。又不可國也。故次序如此。○大棘注云、「陳留地。」蓋宋鄭間之地。而非兩國之所有。而兩師相遇爲戰。是亦不可不書也。按、春秋二百四十年間。錄他國事。無如此詳而盡者。蓋歸生後弒靈公。華元亦專國政者。故夫子特重筆。使讀者知世道之變至于此。豈在於區區書法之上哉。

夏。晉人・宋人・衞人・陳人侵鄭。

晉人嘗納宋賂。不討其弒君之罪。胡傳如猶責之者。何其視聖人之酷也。是與趙盾帥師救陳。趙穿帥師伐崇者。事體自異。錄之魯之春秋。如此而足矣。若書之晉之乘。當書曰趙盾帥師也。

秋。九月。乙丑。晉趙盾弒其君夷皐。

是千古之疑案。衆論錯出。不一定。及歐陽公論一出於世。衆論皆廢矣。蓋歐論信經。而衆論信傳故也。左傳曰「趙宣子。古之良大夫也。爲法受惡。惜也。越境則免。」是所謂齊東野人之語耳。豈聖人之所言哉。後世諸論。坐誤信此一語耳。夫趙盾老奸猾賊。外養人望。而內藏禍心。久矣。引趙穿爲己腹心。遂嗾之。行大事。而恐己取逆名。避之境上。待事定而後反。國人服其名望。而不知首謀出於盾。雖或知之。畏盾威權。不敢訐。獨董狐知而不畏。直書其罪。以爲直指彼謂賊。彼或不首服。不若諸責其進退出處。使之辭之無可以遁。故曰「子爲正卿。亡不越境。反不討賊。非子而誰。」蓋越境謂

亡適他國不後返。設使越境奔秦楚。反不討賊。其義一也。縱使盾不自下手、視其反不討賊。是明盾使穿也。不必待其節服。罪案既決矣。董狐之言。實中盾之心病、使老賊不能敢開口。是董狐之所以爲良也、觀後盾使穿逆公子黑臀。爲其首謀。益明矣。學者善讀太史言。不待歐論。斷案已定。是非孔子之特筆。太史之特筆耳。夫子之作春秋。蓋感此等之事。以爲使天下盡如晉太史。則喪亂不至此極也。是春秋之所以起也。胡傳本歐論。可謂明正矣。又引高貴鄉公之事。可謂允當矣。朱子亦已有此說。其假令不與聞者。而縱賊不討以下一節。猶未免惑於野人之語、盾之惡。暴露如此。又有歐陽公之論。明正如此。而猶且惑之如此、是不可解也。

三年。春。王正月。郊牛之口傷、改卜牛。牛死、乃不郊。猶三望。

郊、天子之禮也、非諸侯可行也。魯因周公之勳。故周許之。雖然。魯苟知其僭禮。則廢可也。何必行之哉。而行之者。此瞎大義。而襲先世之誤。況天子崩而未葬乎、牛傷且死、乃不郊。非牛傷且死。則郊必矣。不郊而猶倘三望。

是非禮中之非禮也。故孔子因舊史之記異。不殺其繁文。使讀者依乃字猶字。以知其意也。蓋聖人嘗欲示其僭而不可。故因事之變。以明之焉耳。左氏云「望。郊之屬也。不郊。亦無望。可也」此不知大義也。若行郊則望可歟。公羊穀梁皆不拘束。特胡氏之說近之。而特言王未葬。是亦未知大義也。

葬匡王。

胡氏所說。的當矣。

楚子伐陸渾之戎。夏。楚人侵鄭。

陸渾鄭國。並近王都之地也。而楚侵伐之。皆周之警也。故謹書之耳。胡氏於楚侵鄭曰「經與鄭之改過」可謂迂遠矣。

宋師圍曹。

此役。因武穆之亂。而武穆之族。以曹師伐宋。則是因告與否而然爾。

四年。春。王正月。公及齊侯。平莒及郯。莒人不肯。公伐莒取向。

實事如此。據而直書耳。公羊氏云「其言不肯何辭取向也」胡氏云「書取。以

著其罪。皆可謂穿鑿矣。左氏穀梁二說。亦推察之論也。直不得經之正旨也。若以推察論之。則有大於彼者。曰。參考前後數年。或曰公如齊。或曰大夫如齊。或曰公及齊伐某會于某。蓋宣公以齊援居篡位。事齊如君。唯彼所命。徒務苟偸之媚。而不顧社稷之辱。外受隣國之笑。內爲國之洪費也。故事每關係齊。不殺其繁。存舊史之文。而明示此義也。此論雖未知叶聖意否。然比於左穀。或得其大且切者歟。

夏六月。乙酉。鄭公子歸生弑其君夷。

靈公與子公皆粗暴人。紈袴貴游之習耳。爲食指動。爲嘗之。而怒欲殺之。其事皆如兒戲。子家奸雄也。外飾言行。而內藏賊心。以貴戚之卿。執國之政權。竊欲行弑逆。而恐己蒙賊名。故待時窺釁。而未發也。至此時。乃激子公。借其手以成己志也。其始之不從。特推子公之信否也。知其信矣。則從之也。而子家雖欲免弑之名。國人悉知其宿心。故歸獄於子家。而靈公之不君。亦著矣。是皆從其告書之者。卽晉趙盾弑其君夷皐同例也。胡傳非

也。左氏記此一事。奇手神筆。摸出如見。然至仁而不武之論。不免迂濶。是亦爲子家所欺者耳。

秋。公如齊。公至自齊。

胡傳得其當。

五年。春。公如齊。夏。公至自齊。

宣公數如齊。蓋公依齊之力。得定簒位。其阿事齊之情。不能自掩。是屬辭比事之妙也。左傳云。書過也。豈可就一章一句。知其爲書過哉。

秋。九月。齊高固來逆子叔姬。

穀梁云。來者。接內也。義不明快。胡氏云。來者。以公自爲之主。亦似費解。蓋來字無異義。以爲文體耳。然足以見公阿事齊。遂取其陪臣之横侮也。

叔孫得臣卒

胡氏云。內大夫卒。無有不日者。以春秋魯史也。其或不日。則見恩數之略。爾。此說是也。然其以其與弑謀。爲聖人貶削日者。非也。誠若其說。是聖人

以匹夫僭公權也。蓋偶闕日耳。

冬、齊高固及子叔姬來。

是見其嫂褻狎侮。左傳反馬之禮。未知何所據也。

六年。春。晉趙盾・衞孫免侵陳。

弒君者。不復經見之說。歐陽公已辨之。明矣。胡傳云「按。傳稱。陳及楚平。荀林父伐陳。經皆不書者。以下書晉衞加兵于陳。即陳及楚平。可知矣。」此說。是也。唯其以侵伐二字。爲分褒貶。則非也。觀左傳書秋。赤狄伐晉。狄猶得書伐。蓋曰侵曰伐。皆當時之通言耳。共無輕重也。穀梁氏云「不言帥師。不正其敗前事也。」非也。是趙盾以其屬兵侵之耳。與代公帥三軍而往者。文體不得不異。

七年。春。衞侯使孫良夫來盟。

由左傳觀之。蓋舊史書衞孫良夫來盟。而夫子改之也。衞侯使之故也。與宋華耦來盟。異矣。

夏。公會齊侯。伐萊。

左氏曰「不與謀也。」胡傳本此。辨及會二字之義。引平莒及鄭爲證。是適稱例耳。他未盡然也。且兩君相會伐入國。何有不通謀者哉。蓋宣公爲齊所援立。唯其令是從。是可以鑑後君也。胡傳非其恃強凌弱。是皮毛之見耳。

秋。公至自伐萊。大旱。

胡傳無可取。唯大旱之說。得其當耳。然未盡也。宣公媚事于齊。內忽國政。宗社不享。民庶患苦。得不致天災哉。

冬。公會晉侯・宋公・衞侯・鄭伯・曹伯于黑壤。

此經。得左傳按。始知公見留于晉之由。是左傳之不可以無者。蓋公唯知阿事于齊。而忽于晉。晉所以起怒也。

八年。夏。六月。公子遂如齊。至黃乃復。

胡傳敷演公穀二傳。甚得經意。此等春秋異例筆法也。讀者最當著眼也。公子遂恃定策之功。其專橫可見也。

辛巳。有事于太廟。仲遂卒于垂。

是等。胡傳無一字之遺憾。設使經意不如此。修春秋者。不可不如此讀也。

壬午。猶繹。萬入去籥。

猶者。如謂依舊。胡氏云、「猶者。可已之辭。」是與猶三望同例。是議論字法。不類春秋紀事之文體。胡氏又云、「失寵遇大臣之禮矣。」是正面之說。實則不然。蓋仲遂挾擁主之德。宣公忌其專橫。既久矣。猶漢宣之於霍光。而今得其死。公意。陽感陰喜。其猶用繹。自然可推也。

戊子、夫人嬴氏薨。

胡氏論成風之事。其論則美矣。蓋魯國以夫人之禮待之。則書以夫人。而後人閱實事。知其非嫡夫人。是所謂春秋無褒貶。紀實存戒也。下書小君亦此意也。

雨不克葬。庚寅。日中而克葬。

胡氏云。「其於終事。雨不克葬。著咎徵焉。」可謂明快矣。雖聖人不必以此著

咎徵。於其筆削之時。有感於其心。可知也。夫敬嬴仲遂協心陰謀。殺適立庶。國人從之。不得免天譴。故仲遂卒于大廟禮中。敬嬴雨不克葬。宜哉。夫子詳書其實。而兩人之罪。隱然有不可掩者。是春秋之筆。如肅霜無心而下殺也。

九年。春。王正月。公如齊。公至自齊。夏仲孫蔑如京師。

胡傳論發宣公屢之齊。而不之周之罪。可謂至當的切矣。

九月。晉侯・宋公・衞侯・鄭伯・曹伯會于扈。晉荀林父帥師伐陳。

外諸侯之會。公不與者。書某人。可也。而此會。列國具書者。晉主夏盟。不來者則討之。是關天下之大事也。荀林父以陪臣帥列侯。可愧之甚者。故但書帥師。而以存國體。而列國會在其中。不言而可知也。

辛酉。晉侯黑臀卒于扈。

公羊傳得之矣。

楚子伐鄭。晉郤缺帥師救鄭。

胡氏云、「楚稱人・稱爵。書侵・書伐。有異等。」非也。蓋楚子親出者、書爵。不親者、書人。雖親不告者、亦書人。大軍圍城者。書伐。偏師纂掠者。書侵。是當時定稱如此耳。

陳殺其大夫洩冶。

春秋無國殺之例。論之已詳。如洩冶。全就義而死者。而魯册書之。不過如此。可以見他書國殺者。皆從告辭也。

十年。春。公如齊。公至自齊。

不書月。史官失之耳。胡氏說。謂君臣之名分。可謂迂矣。

齊人歸我濟西田。

諸傳就我字立說。紛紛不定。皆不免拘束。或云、「今年取之。今年歸之。無我字。隔年歸之。有我字。故元年。齊取濟西田。不用我字。」此說稍似平穩。蓋元年。齊取濟西田。自魯賂之也。故夫子削我字。沒賂之之跡。諱之也。至此。及其歸之。更用我字。明前齊之所取。爲自我賂之之田。前後映發。使讀者悟

之也。是春秋大旨也。

齊崔氏出奔衛。

左氏云、「書曰崔氏、非其罪也。」可謂顛倒錯謬。穀梁氏云、「氏者、舉族而出之之辭也。」此說得當。

公如齊。五月。公至自齊。

胡氏以爲譏其媚於齊而忽於周。曰、「詞繁而不殺、聖人之情見矣。」可謂善解矣。

癸巳、陳夏徵舒弑其君平國。

胡氏論徵舒書名之由。不可從焉。蓋書名者、魯史從赴書實之體耳。豈有云云哉。

宋師伐滕。

胡氏以爲稱師貶之也。宋有出師。來而告我、我卽書之耳。豈可容褒貶於其間哉。

晉人・宋人・衞人・曹人伐鄭。

胡氏又云「稱人貶之也」是各國皆微者耳。故冊書之體。如此。

秋。天王使王季子來聘。

胡氏之說。可謂明確矣。但自是王聘。春秋亦不書矣一節。不可從。蓋周無使聘耳。非有使聘而不書也。

公孫歸父帥師伐邾取繹。

帥師二字。春秋希有之法也。以視陪臣執國權之弊也。

季孫行父如齊。冬。公孫歸父如齊。

左氏云「子家如齊伐邾故也」是恐不然。亦如季孫行父如齊之類已。

齊侯使國佐來聘。

胡傳責其喪事未畢。使聘鄰國。是酷論也。蓋魯之君臣朝聘相繼不絕。齊豈可無爲之報一使哉。是等直書無褒貶者也。

楚子伐鄭。

是亦據實直書、無褒貶。不用多言。

十有一年。夏、楚子・陳侯・鄭伯盟于辰陵。

陳鄭列於楚子之下。以時勢考之、體不得不如此也。事無是非。文亦無褒貶。使讀者知楚莊之盛耳。如胡氏說。近鑿求義者。

秋、晉侯會狄于攢函。

書狄或戎者。以遠畧之也。不言及者。文體自如此耳。非外夷狄也。穀梁氏說。非也。

冬。十月、楚人殺陳夏徵舒。丁亥、楚子入陳。

楚人先殺夏徵舒。而後楚子入陳、經書曰。以明其前後次叙、左氏紀事實。似與經齟齬、不可信矣。蓋經文詳備、故左氏略叙事實。繁簡相讓耳。其意非欲辨楚子殺之與楚人殺之之輕重也。諸傳皆信左氏往往失經意不可不辨也。

納公孫寧・儀行父于陳。

胡氏說。得當。

十有二年。春。葬陳靈公。

遇弒之君。多不載葬者。蓋其國亂。不能行葬儀。雖或行葬儀。不能告於列國。故不書爾。不獨魯不書。列國皆然。公羊氏就討賊書葬之例。更生異議。謬矣。胡氏說。似公羊有小異。亦不免牽强耳。

楚子圍鄭。

不過據實直書。不用紛紛之說。

夏。六月。乙卯。晉荀林父帥師。及楚子戰于邲。晉師敗績。

經文主晉。胡氏以爲。曲在于晉也。按。晉與魯。叔姪之國。而常通使聘。若楚。不獨異姓。又居遼遠。故魯史所主在晉。故先叙晉。而後及楚。是魯史之體爲然。非以爲與楚也。

冬。十有二月。戊寅。楚子滅蕭。

滅國大事。雖小必書。然不過據實直書也。

晉人．宋人．曹人同盟于清丘。

列國之卿。或書名。或稱人。始無一定之例。非以爲與奪也。蓋其書名者必有所以關係前後者居多。

十有三年。冬。晉殺其大夫先縠。

胡氏曰。不去其官。罪累上也。此說亦未免拘束。是從告辭耳。非有意於褒貶也。下經。衞殺孔達。亦同義。

十有四年。春。衞殺其大夫孔達。

春秋之例。無國殺。不問見殺者之曲直。一皆從赴辭。晉殺先縠。亦同體也。其或書殺者之名。自有其義。然二百四十年間。希有之例也。胡傳。不能免舊套。

晉侯伐鄭。

胡傳以爲報怨復讐之兵。聖人有曰。以直報怨。豈非其報復怨讐哉。縱雖聖人美其行盟主之法。譏之則決無之也。宋人不知報怨復讐。終畢于南

渡。其陋弊自見焉。

秋。九月。楚子圍宋。

前年。楚伐宋。今年。遂圍宋。公孫歸父會齊侯。明年。遂會楚子。方此時。楚莊猖獗。晉不能競。中國諸侯。皆牽納媚於蠻夷。以爲自免之計。是天下之大形勢。所關係也。故夫子謹連錄之。

冬。公孫歸父會齊侯于穀。

楚有席卷中原之勢。列國戒嚴。故魯人就齊合謀也。胡傳云。君若贅旒。陪臣執命。此意亦自在其中矣。

十有五年。春。公孫歸父會楚子于宋。

胡氏以爲。魯以周公之裔。千乘之國。謀其不免。至於薦賄。不亦鄙乎。此傳甚得經意。夫子屢歎魯不能自立國。往往見於言外。不獨此也。按。左傳。載孟獻子之言。彼賢大夫也。其言如此。足以見當時之國是矣。

夏五月。宋人及楚人平。

按。公羊傳「外平不書。此何以書。大其平乎己也。」蓋楚之猖獗。關於中國之盛衰。故雖外事。不得不備錄也。是恐古來相傳之說也。兩國行平。書國則定矣。何以稱人。公羊云「華元與子反通謀。劫兩君。成其平。」是平出於二人之手。非其君意也。故稱人。明其意矣。左傳云「華元入楚師。劫子反。」子反・華元皆一國之執政。自輕身。不宜如此。恐是子反告楚子。勸平之言。實非有此事也。胡傳「二卿自以情實。私相告語云云。」一節。可謂君臣大體也。又云。「若以大義責之。曰云云。」是迂腐之論。當時人心危險。難諭以義理。非以利害。不動之。若使華元無有以國斃。不能從也之一言。則楚豈退其軍哉。

六月。癸卯。晉師滅赤狄潞氏。以潞子嬰兒歸。

公穀無論。胡傳云「其稱口。謹之也。」此說似勝。又云「上卿爲主將。略而稱師者。著其暴也。」此說未免拘束。蓋是役。非荀林父一人主其謀。故不可不係之一國。又云「爲晉計者。執鄷舒。轘諸市。」一節。最是也。當時楚莊之威。震于中國。晉知不能共爭。潞小而近晉。晉知其易取而貪之。實非有意於討。故

潞子稱爵。所以見其無罪也。

王札子殺召伯・毛伯。

胡傳主穀梁說。甚缺明快。推之以列國殺人之例。則當書曰周殺其大夫某。而周者。天子之國也。故直錄殺之者。與列國異例。以見天子無佗。按舊史文。恐無非書周殺其大夫某耶。夫子特改之耳。此等當以其異例窺聖人之意也。

秋。螽。

胡傳得之矣。

仲孫蔑會齊高固于無婁。

是舉前年會楚之事。胡傳譏大夫專政。恐非也。

初稅畝。

左傳云。穀出不過藉。以豐財也。此等正論。實義相傳者。不與其佗說相類。

胡傳亦可謂正論矣。

十有六年。晉人滅赤狄甲氏及留吁。

前年稱爵。今年不稱。蓋若滅潞氏。以中軍之師。纔取一國。其大可知矣。是以偏師。一時幷取二國。其小明矣。乃因用師之多寡。其書法異體也。杜注云「稱人從告。」前年注亦如此。比之諸家。似較勝。然荀林父固有聞於諸侯。士會亦有賢名。豈有不赴名之理哉。比事觀之。前年滅潞氏。今年亦如此。此皆晉之不能與楚競。僅吞滅其近傍小國。以快其意。是不待夫子褒貶。而是非之自見者也。

夏。成周宣榭火。

宣榭。諸論不定。杜注云「講武屋。」恐是也。此等孔子修舊史之文。存而不刪者。以見王朝衰微。有變如此。諸侯一人無赴弔者。胡傳其論則正。未得其旨。

冬。大有年。

前年不登。是記喜也。胡氏云「宣公弒立之君。而其應反如此。」蓋胡氏觀桓・

宣皆簒立。而書有年。其他十公無之。生此議論也。然安知非十公未嘗有年。二公偶有年。故書之哉。

鄭伯姬來歸。

我女嫁于他者。時有歸寧。是一國之大事。故舊史書此。夫子因不改耳。胡氏謂正人倫之本。其說如可取。然夫子故意爲以正人倫而書之哉。

十有七年。夏。葬許昭公。葬蔡文公。

許・蔡皆小國。從楚者。魯又不會葬。故舊史略日耳。胡傳譏不用意於小國者。恐不然也。

己未。公會晉侯・衞侯・曹伯・邾子。同盟于斷道。

穀梁云。同外楚也。楚莊圖北方。勢如潮來。士會新將中軍。故謀此會也。胡氏云。爲明年伐齊。然據左傳。伐齊之兵端起自此會。齊侯不自來。而辱晉使。胡傳偶失檢閲耳。

冬十有一月。壬午。公弟叔肹卒。

穀梁傳曰「賢之也」其如事實甚詳。則古傳耳。然經旨。非必賢之。雖此未居卿位。實宣公母弟也。其卒。不可不書。然不稱公子。曰弟者。先公既薨。已兄在位也。成公二年。其子公孫嬰齊始見於經。列于卿位。依是觀之。此嬰齊始賜族也。

十有八年。春。晉侯・衞世子臧伐齊。

齊不同會于斷道。晉討之。猶有晉文之遺烈。胡傳譏其克伐怨欲。何哉。

秋。七月。邾人戕鄫子于鄫。

鄫子曾爲宋襄所戕。又如此。何其不幸也。是邾用兵。而不言伐曰戕。從其重者也。蓋聖人深嫉邾。胡氏以鄫之無禦。責其臣子。亦通。

甲戌。楚子旅卒。

公羊傳盡之矣。無一字可議。蓋古來相傳之說也。胡氏曰「吳楚稱王。夫子特筆而稱子。可謂的當。然以滕杞稱子之例比之。非也。滕・杞伯爵。而稱子。未進爵者耳。如吳・楚。夫子非以降之也。彼稱王。僭也。故降之復天子所賜

之舊爵耳。春秋正名分之書。夫子與奪其爵號。不足以爲春秋也。

公孫歸父如晉。

晉將有事於齊。齊懼納好於晉也。左氏云「謀三桓」非也。蓋歸父恃乃父定策之功。專權已久矣。而三家憚之屏息。不見擅橫。何以謀之哉。蓋季文子密有奪其權之志。會其出使晉。而公亦薨矣。因流言其之晉。圖我三家之謀也。以聳動孟叔二桓。左氏不窮其事實。取流言爲傳耳。胡傳亦祖述左傳。亦誤矣。

歸父還自晉。至笙。遂奔齊。

用筆特似鄭重。論者或以賢之。非也。亦不過據實直書耳。然後讀者就其直書。詳推情實。則歸父恃其父功。劫君擅政。三家乘公之薨而斃之。以奪其權之徑蹊。皆可以見也。

## ○成公

元年。三月。作丘甲。

公羊無論。穀梁云「丘作甲。」非也。杜注「過制」。又非也。左氏云「爲齊難故。作丘甲。」最得時情。胡傳非作丘甲。是也。云「三甸而增一乘乎。每乘而增一甲乎。」而不立一定之說。此說稍近穩當。蓋自宣公爲齊所援立。終身甘受其驅役。公孫歸父等。亦容媚於齊。自以重位。及斷道之盟。魯初懼晉。季孫行父等。謀逐歸父。歸父走齊。於是。成公猶幼。丘甲之制。非公意。明矣。蓋季孫等懼歸父借齊力復入。知晉將有鞍之役。盡力事晉。豫增兵賦待之。其志在必勝矣。凡前後一二年。魯國之情。不外於此。當以此意讀之。

夏。臧孫許及晉侯盟于赤棘。

是亦三家因交於晉也。

秋。王師敗績于茅戎。

杜注云、「王者至尊。天下莫之得校。故以自敗爲文」。此說淵源于公穀二傳。

蓋孔子之特筆也。

二年。春、齊侯伐我北鄙。

鞍戰始末。今年大事。而自是北鄙開矣。

夏、四月、丙戌、衞孫良夫帥師、及齊師戰于新築。衞師敗績。

是以衞爲主者、非責衞之使虐、衞使大夫帥師。不得不書其姓名。若文改作齊師及衞孫良夫帥師。戰新築。則失冊體矣。按、魯・衞同讐齊。其通謀可知矣。故此敗主衞者。親之之辭也。

六月、癸酉、季孫行父・臧孫許・叔孫僑如・公孫嬰齊、帥師會晉郤克・衞孫良夫・曹公子首。及齊侯戰于鞍。齊師敗績。

魯卿盡國而出。其志在必勝。是所以作丘甲也。穀梁云、「曹無大夫。其曰公子、何也。以吾之四大夫在焉。舉其貴者也」。此說是也。胡傳「此以一笑之微、殘民毒衆。故書以四國主之」。是其家言耳。聖意豈在此孑孑哉。

秋。七月。齊侯使國佐如師。己酉。及國佐盟于袁婁。

是與召陵之盟。屈完來盟。同一事義。而筆法有異同。胡傳備論。巧則巧矣。而如其義。未可知果得聖意否也。或又云。召陵以見蠻夷猖獗。是以見大夫專國命。是亦一說也。蓋自召陵之役。楚始接中國。故未得詳其國事。故姑錄其使名。未審其君爲何人。若齊。固與魯姻戚之國也。故固詳其國事。是史體所以有異同也。非以異同寓褒貶也。且悟此等經文。比事見其時勢。知他文每事不用一意也。

八月。壬午。宋公鮑卒。

據左傳。始用厚葬。經文宋公卒在衛公上。而葬在衛公下。其厚葬自見焉。

取汶陽田。

是與取濟西田。同一筆法。後年又曰。晉使魯歸汶陽田。依是。其取始于此。如不可取而取者。是一疑案也。蓋取歸。其無意義。取者。謂收非我。歸者。謂付於彼也。若其事之是非。前後比事屬詞則見。

十有一月。公會楚公子嬰齊于蜀。

蜀者。魯之南地。可以見楚使入也。下文略嬰齊稱人。是直書不諱者。何哉。是公獨與楚人會。非他國所與。冊體自如此。

丙申。公及楚人・秦人・宋人・陳人・衛人・鄭人・齊人・曹人・邾人・薛人・鄫人盟于蜀。

此盟。國君獨魯侯耳。佗姓名。是益著我之辱也。故同私人。使讀者不覺。左傳云「卿不書。匱盟也。」如匱盟。事實恐然。而不書大夫。如首所論。

三年。春。正月。公會晉侯・宋公・衛侯・曹伯伐鄭。

此戰爲鄭所敗。胡氏云「略而不紀。勝負微也。」此說甚得時情。其他論晉・鄭曲直。及侵伐之分。與宋・衛稱爵之由。皆不足取也。蓋比事屬詞觀之。公前年會晉伐齊。受袁婁之盟。既又畏楚受蜀之盟。至今春。復背楚助晉伐楚之與國。魯之反覆無常。務爲自免之計。其不能自立。明矣。是聖意之所在也。如胡氏論他國之曲直。非魯史所主也。

甲子。新宮災。三日哭。

公穀共得聖意矣。蓋史官備記後來之典例。胡傳平地起風波。後儒多信之者。何哉。

乙亥。葬宋文公。

胡氏之說。的當矣。

公至自晉。

胡傳。論當時上下悖禮之形勢曰。此春秋所爲作也。可謂得夫子作春秋之本旨。又曰。公行多不致一節。鑿空立說。恐是屬蛇足耳。

秋。叔孫僑如帥師圍棘。

左氏。及公羊氏。皆同意也。胡傳。亦無害于辭。是與晉文伐原同意也。以我國史考之。源右將平奧州。制度一從藤原秀衡之舊。我德川氏取甲州。從信玄舊規。取關東。則從北條氏舊規。皆爲懼此也。況當時晉之賦斂。過其舊制哉。

冬。十有一月。晉侯使荀庚來聘。衛侯使孫良夫來聘。丙午。及荀庚盟。丁未。及

孫良夫盟。

上文既書晉侯使荀庚。衞侯使孫良夫及其盟。豈用再繫國哉。胡傳論不繫於國之罪。可謂陋矣。

鄭伐許。

胡氏云。稱國以伐。狄之也。貶其一歲再伐也。次年鄭伯復伐許。而經無貶辭。是再伐貶爲夷。三伐反復華也。聖人用筆。不如此之輕易也。蓋鄭公子去疾始伐許也。其用兵多矣。故告以將帥名。鄭伯伐之。亦然。獨是用兵固寡。其將亦微者。故告亦略之。書亦略之耳。胡氏駁告辭略而從告。乃實錄之說。吾反從其見駁者。

四年。春。宋公使華元來聘。

華元權臣也。而書曰使。其奉君命來聘。明矣。則上而華耦來聘。非君命。又明矣。

杞伯來朝。

左傳爲歸叔姬。世豈有將絕其婦、其夫自來告之者哉。左傳往往牽强、如此等、雖錄事實者、亦有不可信者。

公如晉。

公既卽楚。又如晉。晉之不禮。固宜矣。然晉亦無抗楚之力。故不能明白讓公也。

鄭伯伐許。

此鄭伯親出。故稱鄭伯。胡傳云「所以著其惡也」。非不足辨。詳見于前年。

五年。夏。叔孫僑如會晉荀首于穀。

盟主之權臣。過其疆上。不得不禮也。或譏其非禮、非也。

梁山崩。

公羊傳云「爲天下記異也」。胡傳。敷演盡其所未發、是也。唯其引左氏絳人之語云云以下。爲蛇足耳。高氏曰「先王之制。名山大川不以封。梁山雖屬於韓。而非諸侯正受封之地。故春秋書梁山崩。而不繫之國者。爲天下記

異也。是以不書晉。夫國主山川。豈特晉當之哉。此說可謂盡矣。

冬。十有一月。己酉。天王崩。

高氏曰。不書葬。罪諸侯之不會也。

十有二月。己丑。公會晉侯・齊侯・宋公・衛侯・鄭伯・曹伯・邾子・杞伯。同盟于蟲牢。

前月。天王崩。諸侯置之度外。私爲會盟。胡傳論之。得的當。然聖意不在書同字。以見其意也。

六年。二月。辛巳。立武宮。

左傳盡之。公羊傳云。武公之宮也。恐不然也。是時。魯國用不足。至作丘甲倍賦。寧又有作十一世前之祖廟之理哉。

取鄟。

左傳。言易也。簡明盡義。胡傳。明目張膽論之。可謂徒勞矣。

衛孫良夫帥師侵宋。

衛赴之也。

秋。仲孫蔑・叔孫僑如帥師侵宋。

胡傳。論魯受晉命伐與國。不能自立之意。尤得時情。然使字。見其罪者。自其家言耳。書侵書伐。無二義。因兵之多寡。戰之大小。異其稱耳。

晉欒書帥師救鄭。

書救。意不必美之。事實如此。則書如此。更有別體之文哉。胡傳每不免此病。

七年。春。王正月。鼷鼠食郊牛角。改卜牛。鼷鼠又食其角。乃免牛。

胡傳引穀梁傳。言災異之說。是也。然未探其蘊奧。蓋魯之有郊。夫子平生所意不滿。此存舊史記異之文。以著其意。

吳伐郯。

吳始經見。與楚始見。同一筆意。春秋中。天下形勢。一大變革也。晉患楚强。與吳通。遠交近攻之謀。而吳反爲中國之害。猶宋與金合謀滅遼。更受金禍。左氏亦詳叙申公之事。見其意。

不郊、猶三望。

史策以待後來之典例、故錄見不郊猶有三望。而夫子借以見其非也。蓋不郊者。夫子之所與。三望者夫子之所不與、故加猶字。其意明白矣。

秋楚公子嬰齊帥師伐鄭。公會晉侯・齊侯・宋公・衞侯・曹伯・莒子・邾子・杞伯救鄭。八月。戊辰。同盟于馬陵。

是與晉之筆也、胡傳言救則楚罪益明云云以下一說、得之、唯以書大夫名氏為見楚之罪者、其家言。

衞孫林父出奔晉。

君臣皆不得其道。

八年。春。晉侯使韓穿來言汶陽之田。歸之于齊。

按左傳。是舊史全文也。夫子存其全文。不損益一字。凡經文。無如此詳而盡者、不與他文類。其有深意可知也。蓋魯初借晉力取此田、取之已借人力、失之、又為人力所奪、其取之也、為作丘甲盡全國之力、忽為他人所奪

與奪皆在人、尊不能自立。可知也、公穀亦無害之說也、胡傳彌密彌遠。

夏、宋公使公孫壽來納幣。

公羊傳。是也。伯姬之賢烈。爲當時所宣傳。舊史特詳其事。古今之同情也。

胡傳不足取焉。

晉殺其大夫趙同・趙括。

胡氏論國殺之例。亦其家言也。以見晉之失政刑之一句。甚得經意。

秋。七月。天子使召伯來賜公命。

胡傳的當。如公穀二傳。各有長處。左傳所錄。亦足以見舊史之失體。故夫子揭天子二字。改其文。是亦春秋所以起也。

冬。十月。癸卯。杞叔姬卒。

左傳得之。

晉侯使士燮來聘。叔孫僑如會晉士燮・齊人・邾人伐郯。

左氏以爲。此役以郯事吳也。是恐屬附會。晉新與吳結交。豈有伐其與國

之理哉。蓋吳伐鄭不克。請晉借其力耳。

衞人來媵。

公穀共是也。與上文宋公使公孫壽來納幣同意。孔子修史至此。思後來伯姬有事跡。不厭其煩。存之耳。

九年。春。王正月。杞伯來逆叔姬之喪以歸。

左傳云。「春。杞桓公來逆叔姬之喪。請之也。」蓋非魯請之。杞伯請之耳。杜注非也。蓋杞伯意。不欲絕婚。叔姬不安杞伯。歸於父母之國。故前年自來疏之。至此會其卒。以未絕婚之故。請歸葬於杞也。公穀胡三傳。不足信。

公會晉侯・齊侯・宋公・衞侯・鄭伯・曹伯・莒子・杞伯。同盟于蒲。

左傳云「爲歸汶陽之田。故諸侯貳於晉。故爲此盟」此說。不近人情。雖晉與奪無常。諸侯豈遽至懷貳心哉。蓋記者以此取前後紀事之筋節耳。非實有之也。左氏又云「將姑會吳云云。」此二句。爲此會實事。胡傳論盟之同字。是拘其家說。強爲不得已之說也。

夏、季孫行父如宋致女。晉人來媵。

公穀二傳皆是也。胡傳引或說曰、魯女雖賢。豈能聞於遠乎。此說近時情。蓋來媵之禮。各國所常有也。唯舊記重伯姬之貞節。鄭重書之。佗女不及耳。夫子亦依其舊。

晉人執鄭伯。晉欒書帥師伐鄭。

是今年大事。下文數事。是爲綱領。穀梁氏云。不言戰。以鄭伯也。曰帥師。三軍皆行。可知也。曰伐。其戰可知也。揭其大者。而略其小者。經不書子重救鄭。胡傳貶之。非也。執鄭伯。是天下之變故。若子重救之。略之耳。

楚公子嬰齊帥師伐莒。庚申。莒潰。楚人入鄆。

莒潰。入鄆。是二事。事體與救鄭異。故不能略之也。聖意傷夷狄橫暴。凌虐小國也。胡傳引孟子論。則美矣。然大意不在於此。

秦人白狄伐晉。

間晉楚兵結而不解也。左氏非也。

鄭人圍許。

左氏云。「示晉不急君也。」此說得時情。

城中城。

備楚也。左氏云。「書時也。」若使不得其時。則不城而待自斃乎。故此說不可信也。

十年。春。衛侯之弟黑背帥師侵鄭。

范氏「稱弟例有四。一接我稱弟。一罪兄稱弟。一惡之稱弟。一賢稱弟。」胡傳本此。似不可全棄。按。稱公子者。是已賜族。下爲人臣者也。稱弟。先君已薨。未爲人臣者也。故其稱謂不得不自異。

夏。四月。五卜郊。不從。乃不郊。

高氏曰。「魯不當郊也。」蓋夫子不滿於其僭禮。久矣。是謂五卜不從。固其所也。天意或使然焉耳。杜註據左氏。非也。

五月。公會晉侯・齊侯・宋公・衛侯・曹伯伐鄭。

劉氏曰、「左氏謂、晉人先立太子州蒲以爲君。按經但言晉侯也。無以明其是州蒲。若欲貶晉。書其名乃可明爾。此大事也。仲尼豈忘之哉。信經足矣。」此說是也。此等。左傳時有不可信者。

齊人來媵。

公羊氏誹異姓來媵非禮。未詳其禮然否也。

丙午。晉侯孺卒。

據此經。其歸自伐鄭而卒。明矣。

秋。七月。公如晉。

胡傳確論。左傳「羅茷未反。」是言楚晉之和。成否未分。故衆諸侯望觀未至。魯公獨在晉。爲之也。杜注非也。

冬。十月。

公羊無此三字。何休以爲闕之責成公。可見古來修經之陋見矣。

十有一年。春。王三月。公至自晉。

左傳云「晉人以公爲貳於楚云云。」是晉人之疑公止之始焉。

晉侯使郤犨來聘。己丑。及郤犨盟。

書曰及。成公及之。明矣。而不曰公及之者。諱之也。自前年公如晉。至下文季孫行父如晉。比事觀之。魯爲晉所辱。可知也。

十有二年。春。周公出奔晉。

左傳云「凡自周無出。周公自出故也。」公穀亦同義。此相傳之說。非左氏撰出。胡傳云「見周室衰微。刑政號令。不行於天下爾。」此等大得聖人之大旨。按左傳此年有晉楚之成。是天下之大事也。而經不微見。如周公於天下。似無甚關係。而春秋略彼詳此者。意見欲止晉楚干戈之事。在先正王家綱紀也。蓋舊史書曰周周公。夫子删上周字。名義凜然。是特筆。

夏。公會晉侯・衛侯于瑣澤。

此會。爲明年伐秦合謀耳。左傳。以晉楚之成。爲此經事。按晉楚之成。自是別事。左氏取附會之耳晉楚之成。其從何啻魯衛而已哉。又按此成晉將

有事于秦。故先自屈請之楚也。

秋、晉人敗狄于交剛。

左傳亦爲狄人間宋之盟。不然。是亦爲明年晉伐秦。先取其與國耳。

十有三年。春。晉侯使郤錡來乞師。

乞字。諸儒紛紛有說。皆不免拘見。按。是史筆之定例也。非必有異議。

夏。五月。公自京師。遂會晉侯・齊侯・宋公・衞侯・鄭伯・曹伯・邾人・滕人伐秦。

此行也、爲專會晉師伐秦也。如京師。實其餘事耳。然筆法如此者胡氏曰。「書公自京師。以伐秦爲遂事者。此仲尼親筆明朝王爲重存人臣之禮也。眞可謂善讀春秋矣。凡二百四十年間。當如此讀也。唯胡氏以如京師之如字。爲有深意。亦其家言耳。是史筆定例。無他義。與河陽之狩。公朝王所。體裁自別。按左傳。此役秦師敗績。而經不書。傳各有家說。蓋此師秦堅自守。不爲戰乎。觀左傳極力構絕秦書。傳記殘缺以此姑爲彌縫乎二義未知孰勝。要之不書敗績。不過如此耳。

十有四年。夏。衛孫林父自晉歸于衛。

書曰自晉。特用詳筆。蓋其假霸主之威。劫制其君之罪。不能自掩。七年。林父以戚奔晉。晉所以受之者。以其有戚耳。既而還之。無復用於林父。林父視之。固請晉求歸。而應晉命令。故晉強衛歸之。若衛不納之。欲因爲兵端。是晉之本謀也。石川伯耆守出奔於大阪。後關白數使之接待三河人。亦與此同情。

九月。僑如以夫人婦姜氏至自齊。

僑如不書族。是一事再見之例。無他義。左傳云。舍族。尊夫人也。固不足取。然其引君子之說。萬世不朽之至論。可謂能讀春秋之大旨。蓋孔門相傳之說也。胡傳平穩。其如孫林父事。寂然無一言。反細論嫁娶。亦不免棄大取小之譏。

秦伯卒。

不名者。舊史失之。

十有五年。三月乙巳。仲嬰齊卒。

公羊傳爲公子遂之子。諸說因此。胡傳云、以後歸父則弟不可爲兄嗣云云。可謂至論矣。而猶拘於公羊傳。今按嬰齊是歸父之子。而襄仲者其王父已。故以其字爲族。

晉侯執曹伯歸于京師。

胡傳明確。不可動。此解一出。衆說盡廢。是胡傳之所以有大功春秋者也

宋華元出奔晉。宋華元自晉歸于宋。宋殺其大夫山。宋魚石出奔楚。

據左傳華元事跡甚明。而不言及其情。今謹按經文聖人於華元之事不厭重複極意詳之。胡氏以爲美華元。而不知其挾晉自重也。蓋元老奸巨猾。擅權於其公朝。桓氏之族。今之未敢發。其公既卒。桓氏乃依國人逐之於是元不得已而出。依晉求歸。復逐桓氏之族。是其勢不兩立者也。其殺蕩澤也。以蕩澤嘗殺公子肥爲罪名耳。山不書氏。胡氏本左傳有說。恐是闕文耳。又按經文書華元自晉是實奔至於晉也。不與左傳合。以經爲正

冬。十有一月。叔孫僑如會晉士燮・齊高無咎・宋華元・衞孫林父鄭公子鰌邾人。會吳于鍾離。

自此春秋天下形勢。一變矣。夫子以重筆著其興廢變革之機關。法與會王世子于首止同。蓋彼貴王子。此特見吳强而諸侯相謀往而從之。

許遷于葉。

中國諸侯。折入蠻夷。雖小事。亦係天下之形勢。

十有六年。春。王正月。雨木冰。

是今年。有內亂之兆。聖人以存戒也。

甲午。晦。晉侯及楚子・鄭伯。戰于鄢陵。楚子・鄭師敗績。

公羊傳云。敗者稱師。楚何以不稱師。王痍也。穀梁胡傳皆同。蓋子字師誤。上文隔一句。有楚子鄭伯字。因誤之耳。以矢集於目。鑿求其說。注疏家迂遠。多類於此。

楚殺其大夫公子側。

與殺子玉同一筆法。

秋、公會晉侯・齊侯・衞侯・宋華元・邾人于沙隨。不見公。

穀梁氏云「不見公者、可以見公也」胡傳敷演此意、謂「曲在於晉。故不諱也」其說似平穩、而未得經意。蓋夫子以此著晉有內亂耳。下讀僑如出奔齊、刺公子偃、此事屬辭、可窺聖意也。

曹伯歸自京師。

諸傳以其不名立說、非也。蓋聖意在係之京師、何以係之京師、著曹伯列國之君、非晉侯之所得而擅也。

乙酉、刺公子偃。

左傳以叔孫僑如爲亂首、然今觀公子偃無辜見殺、季孫蓋宜言僑如之罪、盡除黨於己者耳。明年、晉殺三郤、是亦疑欒書讒殺之耳。

十有七年、夏、公會尹子・單子・晉侯・齊侯・宋公・衞侯・曹伯・邾人伐鄭。

鄢陵之勝、一振其威、雖內亂在近、猶能得帥諸侯伐鄭、與楚爭強。

六月。乙酉。同盟于柯陵。

同盟者。皆伐鄭諸侯也。不書諸侯者。冒上而言。不俟書也。他凡曰同盟皆如此。故因同字生義者。皆爲鑿說。可以此見也。

齊高無咎出奔莒。

高無罪。罪由於慶克。然從告而書。策書體而如此。春秋之不必褒貶。此亦可見其一端也。

九月。辛丑。用郊。

郊者夏初之祭。以有事故延至此。故策書用九月辛丑之意。如此非用此日月不可以行郊祭。故點出用字。以示其意也。然書其實而不可用之意自著矣。公穀非是。胡傳襲公穀。更有用人之說。杜撰之甚。

冬。公會單子・晉侯・宋公・衞侯・曹伯・齊人・邾人伐鄭。

夏會諸侯伐鄭。今又會諸侯伐鄭。務示威耳。

壬申。公孫嬰齊卒于貍脤。

十有八年。春。庚申。晉弑其君州蒲。

壬申。蓋日之誤。非月之誤。公穀皆繫

左氏穀梁皆曰。「稱國以弑。其君無道也。」爾來諸儒大同小異。邪說害名教者。胡氏引趙盾・許止・歸生・楚比・陳乞發疑。論難而不置斷論者。謂胡意在於可廢不可弑。果然。可謂迂而悖理。孔子之意。決不然。此章春秋中一大疑案也。余考諸說中較當理者。獨有乾隆彙纂案與方苞通說而已。彙纂案曰。「靈厲相去不遠。而靈書盾。厲稱國者。彼有董狐在筆。盾遂受惡。今書弑厲。史無董狐。書亦不受惡。其赴告列國。必有所諉其罪。僞史從赴書之。春秋不與其諉。書曰晉弑其君。使後世考其被弑之實。而眞兇不得漏網。此論如頗得其當者。然夫子誠不與其諉。而恐眞兇之漏網。則何不直書曰欒書弑其君州蒲。今乃含糊不敢斥主名。爲國弑之文。後世何以考其實哉。方苞曰。「弑君。目其人者。大臣貴戚赴告有主名也。稱人者。倉卒生亂。賊由微者。未得主名也。不目其人。不稱國人。而以國舉者。懸獄而不敢有

所歸也。如宋杵臼齊商人。皆賊由微者。舍宋人齊人。無可書。乃舊史之文也。弑君而稱國者。晉州蒲・吳僚之弑。赴告不以程滑・鱄設諸。必曰衆亂而無主名也。舊史承赴而書。必曰晉人・吳人也。而實欒書・公子光也。欲仍其舊。則非實。欲正其失。則無徵。故第書其國有是事。而不敢溢一辭焉。若書晉人・吳人。是決其爲衆亂。賊由微者。而書光。得自脫于是獄之外矣。此說較之彙纂。加密焉。然不曰晉人。而曰晉。相去幾何。第書其國有此事。何能使書光不得脫此獄哉。且此事。去孔子。年代不遠。非如杵臼商人之比也。故左氏明叙欒書中行偃之弑。月日詳審。重複不厭。何得謂無徵哉。曰。然則如何。凡殺弑以國擧者。固非一國共之之意。亦非懸獄而不敢有所歸之意也。國者。指政令之所出也。故君殺其大夫。則爲國殺之文。是常例也。於弑君亦然。稱國以弑君。則其弑者。執政出令之臣。案籍可以知其名。而其大逆不可免也。厲公之被弑。欒書罪之魁也。中行偃以下亞之。范匄韓厥不肯就而已。而傍觀不討賊。亦不得免其罪。豈獨此輩。雖悼公之英毅。

能收權復霸。然爲國賊之所立。安然處之。不敢問其罪。雖事勢之然。縱以名義。亦有不慊。故夫子書曰晉弑其君。而欒書首罪。已自不可免。而中行偃范匄韓厥。推而上之。及於悼公。皆不得漏於責。以悼公推之。則吳光之事。其旨亦渙然矣。是夫子之神筆。所以爲萬世不可及也。

## ○襄公

元年。春。王正月。公卽位。仲孫蔑會晉欒黶・宋華元衞甯殖・曹人・莒人・邾人・滕人・薛人。圍宋彭城。

左傳簡明。非親侍夫子之側。悉知筆削之意者。不能如此。公穀以下諸傳。皆於其藩籬中。呶呶耳。與翌年。築虎牢章參觀。夫子之意。益明。

二年。冬。仲孫蔑會晉荀罃・齊崔杼・宋華元・衞孫林父・曹人・邾人・滕人・薛人・小邾人于戚。遂城虎牢。

虎牢不繫鄭者。示天下之虎牢。非鄭之虎牢也。公羊鑿甚。其曰諱伐喪者。最不知時情之說也。自成十八年。至於此。晉悼公新立。與楚爭雄。晉每右伐爭鄭、楚每右伐向宋。如角力者。相搏爭力腕。輸贏未定。至於此。晉城虎牢。以塞其咽喉。楚遂不競。是春秋下半篇之一大關捩也。讀者宜考其大體。就其些細鑿求。則大失聖人之意。

三年。

左氏記事。上半篇精微。將帥言動。兵士戰狀。皆極力詳錄。下半篇則不及焉。而天下大勢。開卷而瞭然。比之吾國乘。襄公以前。太平記以前書體也。襄公以下太平記以下書體也。

春。楚公子嬰齊帥師伐吳。

始楚疎於中國。故稱楚耳。漸親則稱其人名。是自然之詳略也。

公如晉。夏。四月。壬戌。公及晉侯盟于長樗。公至自晉。

魯史底本。必書公朝晉。夫子改作如晉。而名分定矣。

六月。公會單子・晉侯・宋公・衞侯・鄭伯・莒子・邾子・齊世子光。己未。同盟于雞澤。

同者。冒上而言。胡傳未免拘束。齊。大國也。而世子光列莒・邾子之下。是亦夫子特筆。

戊寅。叔孫豹及諸侯之大夫。及陳袁僑盟。

諸侯已盟。而袁僑至。使諸大夫與之盟。得其宜。正也。非失正也。不知穀梁

氏何所見、發此妄說。

四年。秋。七月。戊子。夫人姒氏薨。八月、辛亥葬我小君定姒。

曰薨曰葬。以露速葬之失。蓋夫子惡季文子之擅也。

五年。叔孫豹・鄫世子巫如晉。

叔孫豹內也、鄫世子外也、先內後外。是史之常法。非比諸魯大夫也、鄫雖小弱。受命於天王。魯焉得比諸我大夫乎、左氏之說大害名義。

楚殺其大夫公子壬夫。

是策書之體裁也、左氏曰「貪也。」亦皆作其所謂國殺之文也、左氏又曰「君子謂。楚共王於是不刑。」是正面之論。如面壁不顧者。夫春秋之彊國、無若楚者。二百四十年中。諸侯奔走會盟者。要之、折楚之謀、居多、楚何以如此擅強盛哉。以其刑罰之嚴重而不假也。當時諸侯、文弱成風、大夫擅權、君不能制焉、楚獨能自握權柄、雖威重之臣。有罪則君誅之。不敢少假、已能握政柄、以御彊國。以臨衰弱之諸侯、諸侯不能抑、不亦宜哉、故讀史者、以

活眼觀之、不可拘於迂腐之說。

公會晉侯・宋公・陳侯・衛侯・鄭伯・曹伯・莒子・邾子・滕子・薛伯・齊世子光・吳人・鄫人于戚。

吳雖新通中國、而猶疎遠、故略記其大槩。是策書自然之體裁也。夏、會善道、稱吳、以黜國名耳。今稱人者、列叙諸侯、則不可吳獨稱國名也。且云吳鄫人、則不爲辭。公羊氏所說、得其宜。如胡傳所說、則聖人之情不見矣。春秋之義、不明矣。

楚公子貞帥師、伐陳。公會晉侯・宋公・衛侯・鄭伯・曹伯・齊世子光、救陳。

楚亦春秋中始通中國者、與吳同也。而漸親、則漸知其國事、不異列國。故書體隨而變。不復略。是自然之體裁也。

六年、莒人滅鄫。

穀梁氏所說、其或然也。

七年、夏、四月、三卜郊、不從、乃免牲。

直書義自見。

城費。

履霜堅氷之戒。其意自見。如胡傳所說。而以行父爲忠。不搜時情之說也。

十有二月。公會晉侯・宋公・陳侯・衛侯・曹伯・莒子・邾子于鄬。鄭伯髡頑如會。未見諸侯。丙戌。卒于鄵。陳侯逃歸。

胡傳原公穀諸儒之說。出入於三子中。而夫子之公正。何必如此區區於貴中國斥夷狄哉。或曰。左公記事實。各異。宜從歐公之說。去傳就經。此說亦通矣。而今把左公兩家之傳。平心察之。左氏太澗事情。何者。人豈有以其君之無禮於我。怒而弑之者哉。若苟然。則國人焉舍之哉。今國人服之。且弑君立其子。而不敢仇之。則其弑之。不惟其無禮也。是必係社稷之大計。不得已而忍行弑逆者。公羊所說。得其實。蓋當時楚強而中國衰。陳侯逃歸。全其國。鄭伯不從大夫之諫。遂爲其所弑。是勢之使然也。曰。然則夫子何爲不書鄭子駟弑其君髡頑。罰歸子駟一人。而不盡國情也。然則何

爲不爲國弑之文。曰、於文不可書鄭伯髠頑如會、未見諸侯、丙戌鄭弑其君髠頑。是其所不書弑也。夫春秋記大體書也。如此等從告書卒而下筆鄭重。如有與眞卒者異。讀者先著眼於此而後讀傳記考其曲折。則當時國勢。君之愚。臣之惡。瞭然明白於目前。

八年。季孫宿會晉侯・鄭伯・齊人・宋人・衞人・邾人于邢丘。

大夫與大夫會。外大夫或名。事係國家之重。其人不得略也。大夫之會。侯伯加之。則外大夫略而稱人。是自然之詳略。自然之體裁也。左氏穀梁以下。諸子所說。皆不得其當。蓋以時勢考之。左氏紀事實。大可疑也。何哉。曰、朝聘之數。諸侯之大義也。悼公以英毅之主。爲諸侯盟主。殆十年矣。而今始及此事。是大可疑也。然則何爲而會。曰、晉侯惡諸侯之貳於楚。爲此會也。前年鄬之會。鄭伯被弑。陳侯逃歸。皆貳於楚也。晉侯痛不制之。何以立天下哉。因知魯公正月如晉。歷夏而歸。是晉侯疑魯。留公爲質。終會而後返之也。不然。有如此長留。而經不書其意者哉。又知鄭人侵蔡者。懼晉之

怒而然也。鄭伯猶至於會。亦懼之也。非獻捷也。後年。諸侯同盟于戲者。終晉侯之志也。

九年。春。宋災。

宋之與魯同盟。而國亦密邇。非如秦楚遠且疎也。且大災。諸國皆傳以諷評者。故舊史書之。而夫子不改焉耳。非以王者之後故記之也。

冬。公會晉侯・宋公・衞侯・曹伯・莒子・邾子・滕子・薛伯・杞伯・小邾子・齊世子光伐鄭。十有二月。己亥。同盟于戲。

公出則於其還書至。是通例也。而今不致。諸儒因而發議。非也。不致者。不行飲至之禮耶。抑既書而後斷者耶。竊意不過此二者矣。

十年。

無說。

十有一年。春。王正月。作三軍。

杜說得其當。

秋。七月。己未。同盟于亳城北。公至自伐鄭。楚子・鄭伯伐宋。公會晉侯・宋公・衞侯・曹伯・齊世子光・莒子・邾子・滕子・薛伯・小邾子伐鄭。會于蕭魚。公至自會。

　公再伐鄭會盟。而一其至以伐鄭。一其至以會。是聖筆之妙。與造化同功者。以一筆之不同。盡羣國之情。至矣。

十有二年。季孫宿帥師救台。遂入鄆。

　季孫書名。特筆。讀者見體面也。書帥師。記實。讀者見季孫之專也。遂入鄆者。事宜也。非惡季孫也。

十有三年。

　無說。

十有四年。春。王正月。季孫宿・叔老會晉士匄・齊人・宋人・衞人・鄭公孫蠆・曹人・莒人・邾人・滕人・薛人・杞人・小邾人會吳于向。

　胡傳所說的中。無遺憾。

夏。四月。叔孫豹會晉荀偃・齊人・宋人・衞北宮括・鄭公孫蠆・曹人・莒人・邾人・滕

人・薛人・杞人・小邾人伐秦。

齊崔杼・宋華閱稱人者、非惡其情也。蓋舊史斷爛之處也。

己未、衞侯出奔齊。

國君出其國、則春秋之法、書出奔。往往皆然。不因善惡以變其文。此簡書之體也。策則曲記其情。如左傳是也。胡傳、因甯殖將死之語、以發疑。可謂深春秋者也。而其斷疑之説、大失聖旨。蓋古有簡策之別。而胡氏渾之也。

冬、季孫宿會晉士匄・宋華閱・衞孫林父・鄭公孫蠆・莒人・邾人于戚。

衞侯出奔、未幾而孫林父及諸侯大夫、會己之邑、則林父之專横、不待傳而見。故春秋以比事爲先。

十有五年、劉夏逆王后于齊。

左傳云、官師從單靖公、逆王后于齊。逆者單靖公也、非官師也。經爲劉夏。傳爲單靖公。經傳相表裏。不可考也。杜預欲以左牽合於經。故以官師爲劉夏、何所據哉。抑如此之類。是比於我。無得失。且不可考定也。學者莫費

力於無用之地。

夏。齊侯伐我北鄙。圍成。公救成。至遇。

成。季孫之邑。季孫。魯之臣。則魯公之救成者。當然也。救成至遇者。書其所至。史策之當然也。蓋至遇而止者。以其畏齊耶。抑至遇而成之圍解者耶。二者未可知也。公羊竝杜氏。察其一。不察其二。護以己之臆斷定經意之所在。非也。後世諸儒。更發說曰。魯弱。故書公救成至遇穿鑿益甚。蓋公杜之爲倆也。

季孫宿・叔孫豹帥師城成郛。

有寇爲之修守備。是魯公之當然也。諸儒之說皆非。

十有六年。戊寅。大夫盟。

杜氏曰。「雞澤會。重序諸侯。今此間無異事。即上諸侯大夫可知。此解。得其當。可與雞澤會相照。而知其異矣。

叔老會鄭伯・晉荀偃・衞甯殖・宋人伐許。

左氏曰、「書曰會鄭伯、爲夷故也。」若不爲夷、則應如何書。是不通之論也。或曰、「晉主事、而引鄭伯於筆頭、何哉。」曰、鄭伯、國君也。荀偃雖強盛、臣也。是春秋之所以正名義也。」或曰、「荀偃伐楚、經不載、何乎。」曰、伐許者、諸國之志也。伐楚者、晉之私志也。書其大、略其細、是春秋之體裁也。」

十有七年。

無說。

十有八年。春。白狄來。

白狄者狄也。其來、雖不足審朝禮之行否、不可不書。不止也。故書來。以記其略。簡書之體、宜然也。公羊以下諸儒所解、皆失輕重之當矣。

夏。晉人執衞行人石買。

杜氏曰、「因其爲使執之。故稱行人。」行人非可執者。而石買自知惡爲備。非因爲行人而執之。則遂不可執。是晉之意也。以時勢論之、晉之謀爲得也。以名義論之、執行人、爲非也。

（案二据本一。此斷簡直接二陳侯云云一。由二陳侯上無一レ冒二二十年之字一觀レ之。則此文所レ言之事。亦屬二二十年一。可レ知矣。所二以不一レ繫二二十八年十月一也。）

（以下至二十九年一据本闕文）

十有九年。

二十年。夏。六月。庚申。公會二晉侯・宋公・衞侯・鄭伯・曹伯・莒子・邾子・滕子・薛伯・杞伯・小邾子。盟二于澶淵一。（此經文亦据本闕レ之）

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□義而不レ知二時勢一則不レ通之書也。夫子能權二此二者一。故爲二萬世之大法一。蓋晉侯盟主。故先二諸侯一。莒・邾・滕。其國近二於薛・杞一。故先二薛・杞一。是時勢也。列國之卿。雖三其勢過二於小國之君一者。必序二其下一。不三敢躐二其等一。是名義也。

陳侯之弟黃出二奔楚一。

書二公子一。書レ弟無二異義一。而書レ弟則讀者皆知三黃陳侯之母弟。非レ可二出奔一者。陳侯亦非レ可レ使二其弟出奔一也。

二十有一年。邾庶其以二漆閭丘一來奔。

胡傳是非間雜。試□二其拘束者一曰。庶其。邾大夫也。春秋。小國之大夫不レ書

其姓氏。微也、其以事接戎。則書其姓氏。諱之也。此叛臣。何以不書叛。書名書地。而竊邑叛君之罪見矣。書來奔。而魯受叛臣。納其地之罪。亦見矣。

公會晉侯・齊侯・宋公・衞侯・鄭伯・曹伯・莒子・邾子于商任。

堂堂列國之君。而欲錮一欒氏。不厭會盟之勞。費天下。皆失輕重也。諸儒於此不著一語。何哉。

二十二年冬。公會晉侯・齊侯・宋公・衞侯・鄭伯・曹伯・莒子・邾子・薛伯・杞伯・小邾子于沙隨。

此復錮欒氏也。其費天下如此。不特不能問諸侯。使欒氏激發也。晉之計。失矣。

二十有三年。夏陳殺其大夫慶虎及慶寅。

杜氏曰。及字。無義例。

晉欒盈復入晉。入于曲沃。

杜說當矣。

冬。十月。臧孫紇出奔邾。

國卿出奔。大事也。故書。莫論其罪之不罪。而罪之有無。自見。

晉人殺欒盈。

不係晉者。受上文也。

二十有四年。春。叔孫豹如晉。

杜氏曰。賀克欒氏。蓋不然。前年。豹救晉次于雍榆。會齊師還。乃不敢進。其實因循避齊也。故今往謝之。告非畏齊不來救也。

仲孫羯帥師侵齊。

近侵齊。遠媚于晉。非得計也。

齊崔杼帥師伐莒。

胡澹庵曰。如趙盾崔杼。書曰帥師者。皆以示行弑逆者。必有執兵權也。雖然。多執兵權。而不行弑逆者。知是年仲孫羯既可以見矣。夫子據實直書耳。

公會晉侯・宋公・衛侯・鄭伯・曹伯・莒子・邾子・滕子・薛伯・杞伯・小邾子于夷儀。

左氏曰、「水不克。」然水在七月。既以八月會。而爲其不克。似可疑也。

冬。楚子・蔡侯・陳侯・許男伐鄭。

左氏曰「楚子伐鄭、以救齊。」據掎角之勢察之。似宜然。雖然、鄭之叛楚既久。則楚之伐之、非爲齊、亦未可知也。

大饑。

五穀不升曰饑。非人陷於饑莩也。秋。大水。故田穀不豐。乃據實書之而已。

胡傳穿鑿甚。

二十有五年。春。齊崔杼帥師。伐我北鄙。

說見前年。

夏。五月。乙亥。齊崔杼弑其君光。

胡氏謂「賈舉・州綽等。不得以死節稱者。獨以勇力聞。皆逢君之惡。從於昏亂、死非其所。」此可謂偏淺之見也。春秋雖死節之臣。而其人衆多。位次微

賤。皆不載、蓋策書之體裁也。如宋孔父・晉里克以大臣立要路關係逆黨之安危者、故特書之。今賈舉・州綽等、微賤嬖臣、於杼何有、且安得連書十名。其不書、非謂死非其所也。又如大史兄弟。決然死職而不書此皆爲修春秋之體裁。則分明矣、蓋胡氏爲晏子所欺、故爲此說、左氏孜孜記之亦似所欺者。晏子赴難臨盟。強爲聽說因循中立免身盜名眩惑當時後世之人如此、嗚呼。大姦雄哉。

公會晉侯・宋公・衞侯・鄭伯・曹伯・莒子・邾子・滕子・薛伯・杞伯・小邾子于夷儀○

秋八月、己巳、諸侯同盟于重丘、

同者。結束之辭。國數太多、故以此字一之耳諸侯得賂不討賊之罪在讀者以事實求之耳、安有以一同字寓貶斥之意哉。

衞侯入于夷儀。

獻公先是久爲衞君。今歸入于夷儀謂之衞侯。固當然。如鄭厲公入于櫟名之則其年與昭公相出入不名之則彼此不分明也故今衞侯雖不

名。至明年。有弑剽之事。則名。胡氏以或名或不名。爲必示褒貶。故不得不爲穿鑿迂遠之說也。

二十有六年。春。王二月。衞甯喜弑其君剽。

喜弑君者。隨父命。欲納衎。故弑剽也。故雖胡氏有疑。宜從末減。夫子斷然以弑君書者。雖一日。在位則君也。弑之者。雖有父命。不免弑逆之名也。

衞孫林父入于戚以叛。

林父入于戚時。剽見弑。衎將入。剽。己之所立也。衎。己之所逐也。今林父雖欲留國。衎將入。不可留也。此不得已之勢也。故晉人恕而納之。時亦不必深咎林父也。雖然。守己之下邑。付大國。非叛而何。於當時疑議紛緼之中。夫子特筆斷之以叛書之。猶齊文襄斷亂絲也。

甲午。衞侯衎復歸于衞。

衎以名書者。說見前年。

公會晉人。鄭良霄。宋人。曹人于澶淵。

諸說紛紛。皆不通也。毛奇齡曰「鄭良霄獨主其事」則無所取徵。此說非也。他經。卿不書者。史之闕文也。此獨不然。林父負國入晉、晉宜正法以罪之、而納之。不嘗納之、助而伐衛、故稱人以貶之。且明公之助叛人也。宋向戌不書何。若書向戌。嫌獨貶晉而已。然則何爲書鄭良霄、而後知晉宋卿舊皆有名。貶之故稱人也。非曰良霄獨無罪也。

秋。宋公殺其世子痤。

不書左師及伊戾、皆國之陰事。罪宜歸于公也。

晉人執衛甯喜。

不書執衛公、公止於晉不久、故衛不告也。

二十有七年。春。齊侯使慶封來聘。

以時勢觀之、慶封之來、固崔慶之志、而非出於齊侯也。而書曰齊侯使之。策書之體裁得矣。君臣之名分判矣。

夏。叔孫豹會晉趙武・楚屈建・蔡公孫歸生・衛石惡・陳孔奐・鄭良霄・許人・曹人

于宋。

宋雖與列國聯書。而所會地卽宋。其與會盟。不待傳而後知也。且昉此會者。宋向戌也。書曰于宋。安知非歸重於會主也。陳常在衞上。今倒置。據當時坐次而書耳。若夫楚先歃而書先晉。則晉中國而周同姓。楚夷而異姓。尊卑如此。且以勢書之。晉未嘗讓於楚。凡諸侯所隨從。不在楚而在晉。晉之先楚。久矣。安得以大夫一小爭。改策書之大體哉。

衞殺其大夫甯喜。

以國弑爲文。不拘人之善惡。策書之體裁。不得不如此。若其人有罪無罪。則著眼前後事狀。則昭然。

衞侯之弟鱄出奔晉。

穀梁氏謂。鱄喜之徒也云云。是亦弑君者也。此說得矣。若鱄其曰弟。鱄有是信者云云。鱄之去。合乎春秋之說。則鑿矣。胡氏不從。捨彼而從於此。益陷臆斷。不曰公子而曰侯之弟。從告辭。

秋。七月。辛巳。豹及諸侯之大夫盟于宋。

叔孫豹去族者。讓前文也。夫其不肯爲魯之比邾滕者。能執大體不阿季孫損國威也。聖人何貶之爲。左氏誤矣。再言豹、內外文也。再言宋、其間以有別事也。公穀胡氏亦不得當矣。然哀人倫之滅傷中國之衰。則固矣。如言著其意於字面則不可。

二十有八年。冬。十一月。公如楚。十二月。甲寅。天王崩。乙未。楚子昭卒。

諸侯不朝王室。而朝夷狄。聞天王崩、依然若不知者。遇楚子卒。遂葬踰年而歸。時勢之變至于此。春秋雖據實直書。而斯等連書處。聖人垂涙下筆。慨嘆衰世之狀。可想矣。

二十有九年。春。王正月。公在楚。

公穀簡而得矣。胡氏敷演二傳。使了然也。董仲舒曰「公在楚。不一日無君之意。」亦同意。蓋皆孔門傳來之說也。

夏。五月。公至自楚。

比比詳書。以見時勢之變也。

閽弒吳子餘祭。

穀梁傳當矣。

仲孫羯會晉荀盈·齊高止·宋華定·衞世叔儀·鄭公孫段·曹人·莒人·滕人·薛人·小邾人。城杞。

胡傳當矣。

杞子來盟。

杞稱子者。蓋諸侯。爵尊則國用大。爵卑則國用少。故或時有侯爲伯。伯爲子者也。猶我邦有以大國。不過待從四品之諸侯也。

吳子使札來聘。

公羊氏謂。賢者不名。名季子者云云。穀梁氏謂。吳稱子者。善使季子也。皆强爲一偏之說也。至胡傳。則益迂濶矣。或曰。吳子使札。與楚子使椒。秦伯使術一例云云。使人之來。皆略之。此說的當矣。凡諸侯。與魯交熟者。未熟

　者。據其所知詳略而書耳。非一出於褒貶也。如屈完子突當時偶得審族與字而已。

齊高止出奔北燕。

　子雅・子尾除慶氏。擅國權。而高氏。齊之上卿。閥無比。其勢不利於二子也。故二子除之是務。左氏以出奔爲罪之之文。故爲不得時情之說也。

三十年。春。王正月。楚子使薳罷來聘。

　楚之通使。已久矣。其大夫氏族。相知既熟。故詳書之。夫薳罷非賢於季札者。而所書如此。於是。可見賢者不名之說非矣。

夏。四月。蔡世子般弑其君固。

　不論景公之淫不淫。於大義般不得免弑君父之大罪也。

五月。甲午。宋災。宋伯姬卒。

　可左袒穀梁氏說矣。

天王殺其弟佞夫。

舊紀。蓋書曰周殺王子佞夫。孔子改書。係天王其弟字。以示天倫之大變也。然以此爲特罪王。則不可。佞夫居危疑之地。及大夫爲黨。其勢不得無禍。亦其不幸而已。

王子瑕奔晉。

杜說。當矣。

鄭良霄出奔許。自許入于鄭。鄭人殺良霄。

凡諸侯之大夫出奔。書曰某某出奔某。而不曰某大夫某出奔某。出奔某。至其被殺。則曰某國殺其大夫某。此二百四十二年之書法也。今良霄不言大夫者。受上文鄭良霄云云而書。於文不得揭出大夫字。且讓上文而略族略官者。往往有焉。先儒或曰「惡之也。」或曰「討賊之辭也」皆竟陷穿鑿。

冬。十月。葬蔡景公。

討賊而書葬者。三子說爾。諸侯之葬。魯會之則書。不會則否而已。

晉人・齊人・宋人・衞人・鄭人・曹人・莒人・邾人・滕人・薛人・杞人・小邾人會于澶淵。

宋災故。

胡傳明快得當。而欲附從之者。不特刺不討蔡也。刺不致力周室。王子遇害。大夫相攻。爲諸侯盟主者。不可不往平之也。而若不知者。唯宋災之事。聖人豈無垂戒於此哉。

三十有一年。夏。六月。公薨于楚宮。

雖據實直書。而自見其爲變例也。

秋。九月。癸巳。子野卒。

胡傳適當。而子野有命以下。蛇足。

十有一月。莒人弑其君密州。

如左氏所叙。則子弑其父也。春秋不書曰莒人弑。展輿非得罪者。明矣。蓋左氏傳聞之誤歟。不然。文句必有顚倒錯亂者也。經云密州。而傳云買朱鉏。亦似不可解也。若夫言罪之在也。則安知外後人即經而爲左氏平常之說也。趙匡以以字爲之字。竟使文句險澁不成義。故亦不從也。

## ○昭公

元年。春。王正月。叔孫豹會晉趙武・楚公子圍・齊國弱・宋向戌・衞齊惡・陳公子招・蔡公孫歸生・鄭罕虎・許人・曹人于虢。

陳公子招。胡氏曰「曰公子者。其本當稱者也。曰弟者。因事而特稱之也。」此說得當矣。公羊氏穿鑿太甚。而若曰「春秋不待貶絕。而罪惡見者。不貶絕以見罪惡也。」則得春秋之本意。蓋孔門傳來之說也。先晉後楚者。華夷尊卑之大體也。宋・齊・衞。以中國不得在楚上者。所以示國威時勢也。故春秋正名義。而不沒事實也。

三月。取鄆。

毛奇齡曰「據左氏。魯伐莒取鄆。莒人告之於會。然經取鄆在三月。而會在正月。其事不可信也。」余謂。左氏所記。非實事者。固多矣。雖然。不過一議論一奇事耳。如斯叔孫事。晉楚論之於外。季孫勞之於內。必非無實事也。不

得以月日齟齬之也。安知非書正月者。叔孫出奔之日。而會實在五月也。不然。傳寫之誤歟。不曰伐莒取鄆者。鄆莒魯爭之久矣。當時蓋不必爲莒地也。故不係莒也。

夏。秦伯之弟鍼出奔晉。

春秋。懼臣子之書也。故君臣相惡。罪之在臣。父子相惡。罪之在子。則兄弟不相善。罪之在弟也。今鍼既至出奔。猶持千乘之富。其平常奢侈。可知也。孔子何以獨罪秦伯也哉。紛紛之說。不可從也。書弟者。見君之母弟而勢權相抗。其及出奔。唯是之由。故不曰公子而曰弟也。

六月。晉荀吳帥師。敗狄于大鹵。

凡師。及既戰也。變詐奇詭。無復所憚。要取勝也。聖人豈譏之爲。胡傳迂濶太甚。

秋。莒去疾自齊入于莒。莒展輿出奔吳。

稱國。不稱國。無褒貶也。稱莒者。不係之莒。則不可知爲何國人也。忽突與

小白・子糾。皆此例也。忽・小白不係之鄭・齊。則其爲何國人。不可知也。突・糾不稱國者。既曰。突歸于鄭。則其爲鄭人。必矣。曰伐齊納糾。則其爲齊人。必矣。此皆使讀者分明而已。

冬。十有一月。己酉。楚子麇卒。

胡傳甚不明快。可謂困窮之說矣。實弒而書卒者。從赴也。其實雖弒。不得以傳聞之說。改策書之定法也。蓋舊紀固如此。而聖人因而從之耳。豈憫之懼之。掩實者哉。宋藝祖崩。其實涉於弒也。然續綱目書曰崩者。蓋得春秋之遺意歟。

二年。秋。鄭殺其大夫公孫黑。

春秋書法。無國討者之例。說見上。

冬。公如晉。至河乃復。季孫宿如晉。

公會少姜葬。求媚於晉也。魯之辱。甚矣。晉辭之乃復。使季氏往。聖人有欣幸之之意也。公穀所說。大誤矣。胡傳稍得當。而或曰以下。不可見也。以不

得入皆爲辱。何不辨大義之甚也。

三年。冬。北燕伯款出奔齊。

凡國君出奔。多出於大夫逐之者。然未嘗有書大夫逐之者。無他策書之體裁、書赴告大事。而不書內實區區也、諸說皆以爲罪君之文誤矣。

四年。春。王正月。大雨雹。

雹之降。蓋不特魯國也。故無爲何象之義也。然胡氏擊破申豐佞媚之說。其論明快可誦矣。

夏、楚子・蔡侯・陳侯・鄭伯・許男・徐子・滕子・頓子・胡子・沈子・小邾子・宋世子佐・淮夷會于申。

胡傳當矣、此會、魯不與焉、聖人公然下筆無所忌憚也、

楚人執徐子。

稱人以執策書之常例、不拘罪之有無也、

秋、七月、楚子・蔡侯・陳侯・許男・頓子・胡子・沈子・淮夷伐吳、

杜說的當。

執齊慶封殺之。

慶封以齊氏者。公・穀皆云、「爲齊誅也。」陸氏云、「明示其當死之義也。」不再書楚子者。陳氏云。「不予楚以討齊慶封之辭也。」汪氏云、「移楚善於諸侯也。」書執者。張氏云、「無罪而不服者、則書執而殺之、慶封有罪。而曰執者、楚靈有諸己。而非諸人。是以慶封不服。而春秋亦不得純以討賊之法書之也。」此諸家皆本一字褒貶之例。故陷紛紛迂濶之論也。聖人畢竟據實直書耳。以上下文法觀之。此條下筆。不得不如此也。何者、今伐吳也、殺慶封。不係之齊。則嫌其爲吳人與齊地也。曰執者。此見伐吳軍中之一事也。故亦不再言楚子。觀下文遂字。則受上文之意。愈明矣。

五年。春。王正月。舍中軍。

左氏謂、「卑公室也、」眞然。公穀二氏。蓋出於左傳未流布于世之時。故不得審時事。而爲一己推察之說也、胡氏則否。雖然、至其曰微詞以著三家之

罪。則亦鑿矣。

楚殺其大夫屈申。

杜氏曰、「書名以罪之。」春秋雖不罪之。而不得不書名。體裁然也。

公如晉。夏。莒牟夷以牟婁及防茲來奔。秋七月。公至自晉。戊辰。叔弓帥師敗莒師于蚡泉。

春秋。不可就一條上而窺聖人之意。當時之事實也。如此幷觀。則分明矣。

公出在晉。其間。叛人來奔。爾卽受之。而公經五六月之久而歸。歸則既有與莒戰之事。此皆出三家之所爲。而公不與知。不獨不與知其留晉之久。亦乃三家之所致。可推而知也。

秦伯卒。

同盟書名。以必相知名也。不同盟之國。則不然。故不書名而已。非別有書不書之例也。

冬。楚子・蔡侯・陳侯・許男・頓子・沈子・徐人・越人伐吳。

蘇子由曰。越稱人者。於文詞不可曰沈子・徐・越伐吳也。此說的當。胡氏主持一字褒貶之例。故不得不駁之也。一字褒貶。固非春秋意。至文詞則爲下筆者。不得不拘之也。聖人亦不免矣。

六年。夏。季孫宿如晉。

前年莒之變。皆季氏所致。於是躬行謝罪也。

宋華合比出奔衞。

胡氏曰。凡此類。直書而義自見矣。不獨此類也。

冬。叔弓如楚。

左氏曰。聘且弔敗也。蓋不然。荊楚之遠國。不可有弔敗之禮。且敗其所自諱。何有疎遠人往問之哉。明年。春。公行。則此叔弓之行。先告之。豫爲諸務也。

七年。春。王正月。暨齊平。

此魯與齊平也。而不曰魯者。內外之辭也。左氏不注目於此。以前年。冬。有

齊伐燕之事。爲燕齊之平。而杜氏從而謂間無異事。故不重言燕。皆非也。春秋或雖有受前文而略筆之事。而未嘗見隔年而如此者也。且魯之行成於齊。雖事實不審。而以小國之勢察之。公將如楚。恐齊擣其虛。故先爲和而行也。公既在楚。季氏畏晉。及其使來。賂以成之大邑。其意亦是也。

八年。春。陳侯之弟招殺陳世子偃師。

胡傳的當。

冬。十月。壬午。楚師滅陳。執陳公子招。放之于越。殺陳孔奐。

以事之次第言之。則當曰楚師執陳公子招。放之于越。殺陳孔奐。遂滅陳。而今下筆。即言滅陳。而後及招奐者。蓋寓楚志非討亂。而在必滅之爲縣之意也。

九年。春。叔弓會楚子于陳。

畏楚勢熾。故往會之也。

秋。仲孫貜如齊。

亦畏齊也。

十年。夏。齊欒施來奔。

據實直書。固無褒貶。然魯之於齊。已去年遣仲孫貜修好。今受其叛臣。失國政甚矣。聖人憂之之意。自見於文外矣。

秋。七月。季孫意如・叔弓・仲孫貜帥師伐莒。

杜說直實而當矣。

十有一年。夏。四月。丁巳。楚子虔誘蔡侯般。殺之于申。

胡氏敷演公穀。其說備矣。蘇子由曰。「楚子非討蔡侯之罪。則見於其弒矣。」亦得春秋意。卽誘字而觀之。則其敘及細密處。見聖人之特筆。而所以惡楚子也。高閌曰。「楚子非眞治般。志在滅蔡也。故春秋書楚子虔誘蔡侯般。同斥其名。以見其罪同。此亦補諸家所未言之說也。

仲孫貜會邾子。盟于祲祥。

左氏曰。「禮也。」然邾之小國。雖不急會盟。而必無係魯之存亡者。故喪中蒐

于比蒲。既非禮、則此亦當非禮也。

秋。季孫意如會晉韓起・齊國弱・宋華亥・衛北宮佗・鄭罕虎・曹人・杞人于厥慭。

晉以下。諸侯會者。如此般衆。而不能救蔡。其志亦固無欲必卻楚中國之不競。甚矣。

冬。十有一月。丁酉。楚師滅蔡。執蔡世子有以歸。用之。

公穀二說。淺陋甚矣。胡氏快明。得情實。蓋此其所以與三傳並行於千古也。

十有二年。春。齊高偃帥師。納北燕伯于陽。

北燕伯。君也。北燕人。其臣也。以臣不受君。其罪固矣。春秋雖無褒貶之例。而若言其所罪孰在。則在北燕人也。故其君。既離十餘年之久者。而鄭重下筆曰北燕伯。示北燕人之不可不受也。穀梁氏曰。納者。內不受也。彼雖受之。自齊言之。則不得不曰納也。

夏。公如晉。至河乃復。

魯受莒之叛臣叛邑。以伐其國。敗其師者。皆季氏之所爲。而公不與知也。然季氏晏然居安。反使公受霸主之卻斥。君弱臣强。時勢之變。至于此。故聖人悲之。下筆詳細如此。

楚殺其大夫成熊。

成熊逢讒寃死。聖人曰懷寵。以罪之哉。春秋之意。不如此苛刻也。左氏謬矣。

冬。晉伐鮮虞。

杜說當矣。

十有三年。春。叔弓帥師圍費。

前年。公子憖奔齊。今年。叔弓圍費。皆南蒯以費叛之所致也。春秋皆書之。而不及南蒯之叛者。何也。古今無得其解者。杜・林二子所言。淺易固甚。如胡氏反求諸己云云之說。是乎。當一議論。而非切實說春秋者也。如其書圍費。欲著其實之說。則可從也。蓋此條。注眼春秋體裁則得矣。夫南蒯。季

氏家臣。其叛于費者。非叛于魯也。叛於季氏也。而春秋者。魯國之策書。則家臣之內亂。非所書也。故南蒯不書。此可見春秋之大體面矣。如夫公子憖・叔弓。則其人卿也。雖其事出乎家臣之亂。其出奔與出師。皆不可不書也。

夏。四月。楚公子比自晉歸于楚。弒其君虔于乾谿。

公穀二傳。屑屑不足論。杜氏亦不明快。而若其言比雖脅立。猶以罪加也。則切實可從。胡氏所說。確然不可改之論也。但其答或問曰。比雖當次序云云以下。則直就左氏之案而論之者。乃其五難五利之類。是左氏常套議論。畢竟其所論之事。屬瑣屑也。說經之大旨。非所可求用也。以春秋之大旨論之。則先是。靈王實弒郟敖。而春秋書卒。今公子比實非弒王。而所書如此。蓋以傳聞之說。不廢內實。說見於上。且靈王者。得惡名固甚。其必不能終。人人所知也。今有乾谿之縊。遇弒之說。應沸然而生也。楚亦勢竟妄見君之平生。則以比爲弒故君者。來赴亦如此。不可知也。不然。左氏之

案。失實也。若直就左氏。比雖非實弑。亦雖非自立。而關此時之逆謀者。立其上者。不得辭叛亂逆弑之罪。不然。後世以脅立藉口。而行大惡者。不可防也。是春秋之正意歟。

楚公子棄疾殺公子比。

杜氏所謂不稱人。罪棄疾之說。的實得聖意。

秋。公會劉子・晉侯・齊侯・宋公・衞侯・鄭伯・曹伯・莒子・邾子・滕子・薛伯・杞伯・小邾子于平丘。八月。甲戌。同盟于平丘。

衆說中可從者。獨胡傳而已。重書平丘者。文勢也。不如此。則事不明也。蓋諸侯赴會盟。其地遠近。相先後而至。既悉會。而後刻日相盟。是自二事。其間甚久。不可不別書。既別書。不再書地。則不可知盟于何地也。

公不與盟。

穀梁氏所說。可謂謬傳。不如胡氏之的切得時情也。蓋不書不與盟。則雖其與盟。且與下條晉人執季孫幷視。以見公之受此辱。爲誰所致也。

晉人執季孫意如以歸。

胡傳的當。而其解稱人者。從一字褒貶之例。誤之也。凡書執。則於文辭。不得不書某人也。季孫。魯之大臣專權者也、魯之向背叛服、皆係季孫方寸。晉欲動魯。則不若得季孫也。故不執公而執季孫。以其所執、見其爲魯之罪魁矣。夫春秋魯史也、聖人之修之、爲魯而非爲天下後世也、故此條之事。鄭重直書。主意在魯之君臣也。與上段并視、可歎君臣事勢之至于此也。

蔡侯盧歸于蔡、陳侯吳歸于陳。

公羊氏曰「不與諸侯專封也、」穀梁氏曰「不與楚滅也、」皆得春秋意、蓋傳來之正說也。胡氏敷演二說、以左氏事實、合而疏解之、辨說圓備、無遺憾也。

公如晉、至河乃復。

亦據實直書、見季孫不臣。竟使人君比比有此事也。

吳滅州來。

書辭太粗略者。遠境之事。固不得詳。且不必詳也。

十有四年。春。意如至自晉。

左氏謂「尊晉罪已也」。甚謬矣。晉信夷狄之讒。絕兄弟之國。何可尊之有。意如不書族者。承前年所執文。假而略之也。

冬。莒殺其公子意恢。

杜氏曰「意恢與亂君爲黨。故書名惡之」。噫。可謂善惡顚倒之說矣。郊公固可立之人而立。亦非有大暴惡可廢逐也。而蒲餘侯・公子鐸之徒。以己好惡行廢立。營私利。使春秋果有褒貶之例。則所惡罪在此。不在於彼。意恢之善於郊公。其不幸也。聖人寧憐之。豈惡爲也。書名者。策書之定法。別無可書之法也。

十有五年。二月。癸酉。有事于武宮。籥入。叔弓卒。去樂卒事。

胡傳說盡通暢。不可復必求他說也。杜氏謂「略書有事者。爲叔弓卒起」。亦

然。

夏。蔡朝吳出奔鄭。

據實直書而已。書名無褒貶。說見上。胡氏謂、朝吳以名利累其心。而莫之覺。可謂不倫之論。凡望當時人物無名利之心。則無人也。

十有六年。春。楚子誘戎蠻子殺之。

楚子虔誘蔡侯般殺之。書名者。以蔡中國王爵之諸侯。使書名以鄭重詳密也。戎蠻則否。故略不書名。戎蠻既不書名。不可獨書楚子之名也。

夏。公至自晉。

左氏謂、正月。公在晉。不書。諱之也。雖非無是義。去年。冬。書曰公如晉。今日。公至自晉。則其在晉明矣。故曰略不書之。亦可也。不可必以多年在乾侯之例推之也。

秋。九月。季孫意如晉。

魯公之數受辱於晉。皆季氏之所致也。季氏不忠於己君。如此。而於他國

君。則遠行會葬。此條所書幷視。則其罪見矣。

十有七年。春。小邾子來朝。秋。郯子來朝。

方望溪曰。「小國之君。比比來朝如此者。非畏魯公也。畏季氏也。」蓋然。

八月。晉荀吳帥師。滅陸渾之戎。

家鉉翁・汪克寬・王樵之徒。各有說。其意大略謂「先是。遷陸渾之戎於伊洛者。乃晉也。今自起大衆。蠶食之地。可貶也」此皆比胡傳之淺薄。則踰絕數等。然未知必然也。今晉之國勢。君弱而臣强。烏知非此舉。乃出韓宣子等之貪欲私意。而春秋所惡在乎此也。且林父・士會之於潞氏・甲氏。皆不書其名氏。而獨荀吳書之者。蓋舊紀偶如此。而夫子從之而已。既有時世之遠近。則其事亦當有審・不審也。

冬。有星孛于大辰。

春秋之書天變者。非慮必有其應而書之也。胡傳終陷過深。蓋說此段者。公羊氏所謂。記異也之三字而足矣。

楚人及吳戰于長岸。

胡傳當矣。

十有八年夏。五月。壬午。宋・衛・陳・鄭災。

公羊傳及穀梁氏所說。起首十三字允當。得魯史本意。使二傳每如此。則無遺憾也。

冬。許遷于白羽。

以自遷作文者。許雖小國。而周室之諸侯也。策書之體裁。不得係之於楚。

十有九年。春。宋公伐邾。

宋公伐邾圍蟲取之。而經不書圍與取者。彼所來赴辭。止於宋伐邾也。且伐邾二字。是大事。如圍蟲。則其中之小事也。他國之事。不必詳密及小事也。胡氏所說未當。

夏。五月。戊辰。許世子止殺其君買。

此段。諸家各有紛紛議論。而歐陽公之說。最明快矣。然大凡說春秋其事

實則不得不因左氏也。蓋左氏者、非必說春秋。而敍其事者也。觀其有往往與經文齟齬者。則其敍所聞見之實事。可知也。如此許世子之事。亦非可得構成此虛事而筆之也。則其爲實事。萬萬無疑也。歐公之說未可從也。然則左氏所敍。既實事。而春秋所書如此。何也。世子雖非有意而行弒逆者。而既誤投不良之藥。而君因是死。則其迹嫌於弒。使在上者處之。則不得以其過失恕之也。猶律法。殺人者不拘其故過。皆不免死罪也。今以策書下筆。簡潔之體裁。則不得不書曰弒其君也。

二十年。夏、曹公孫會自鄸出奔宋。

公羊氏所謂。爲賢者後諱之者。非通論也。胡傳祖述之。亦陷迂濶。獨穀梁氏之說、稍近穩當。要之、自鄸二字。爲貶責之辭。無疑也。蓋雖未至以鄸叛。而幾近之者歟。

秋、盜殺衞侯之兄縶。

兩下相殺。不各書名。春秋之書體也。雖然。今亦不得書曰衞殺其君之兄

繫。故汎稱盜。且作亂者。不止乎齊豹也。褚師圃・公子朝之徒。皆與其謀而繫之遭殺。亦非豹之親下其手也。其迹紛擾。似不可知爲誰所致也。故所赴諸侯之辭。不必言一齊豹也。今記之策書曰盜。固當矣。三傳牽强之說。不可從也。所謂求名而不得之說。最失春秋。夫豹殺君之骨肉。其大逆之罪。固無所逃。人人所知也。獨豹何求名之有。

冬。十月。宋華亥・向寧・華定出奔陳。

三人姓名。連書不略者。各亂首大臣。罪無輕重也。

二十有一年。夏。宋華亥・向寧・華定自陳入于宋南里。以叛。

胡氏謂「戚與朝歌及蕭。皆不係之國者。其所食私邑也。然則以私邑叛者。不得罪國君耶。蓋不然。自大處視之。私邑亦公之物也。臣下不得比之他國之地也。蓋如戚與朝歌及蕭。則所謂通邑大都。而其名素著。不必係之國也。今南里。則城內之一小里。不言宋則不分明也。

冬。公如晉。至河乃復。

公至河乃復者。既數矣。是據實直書而已。然續續書之處。適足以見季氏不臣。

二十有二年。春。宋華亥・向寧・華定自宋南里出奔楚。

不言自南里。則嫌華向業已得歸國。爲無罪之人。而今別有出奔之事。故聖人不避重複。直書以見實。且見其罪也。胡氏謂、譏宋之縱釋有罪。不能致討。以不然。夫春秋者、爲亂臣賊子設之書也。何有恕叛逆之臣。而責無勢之君哉。

大蒐于昌間。

胡傳中。昭公之時。凡三書蒐。大意在權臣專行。公不與也之說。當矣。三綱軍政云云之說、迂濶可厭。

夏。六月。叔鞅如京師葬景王。

非常之速葬。以見將有亂之勢矣。

王室亂。

此特筆也。必有意矣。而何有深遠難測之義乎。公・穀・胡氏以下、陳・高・家・汪各有主說。皆陷穿鑿。此無他。是夏以後數年。王室之亂、策書如彼其多。故先揭出王室亂三字於此而已。無此三字。則下文續續所書。不分明也。如子頽・子帶之時。則春秋所載。不至如此之繁多。故雖無三字。可也。且夫劉・單二氏者。奉宜立之正嗣。奔走四出。無雙之忠臣也。今無此三字。則下文以王猛居于皇云云之事。嫌乎分黨營私。此所以此三字之揭出也。

劉子・單子以王猛居于皇。

猛雖爲正嗣。而未卽位。終乎不爲王。故不言王而言王猛。王猛猶王子猛也。必付名者。欲使別乎諸王子而分明也。劉單稱子者。從平常所稱來也。

冬。十月。王子猛卒。

未卽位而卒。故不得言王崩也。既言王子。則亦無假稱薨之義也。

二十有三年。春。正月。晉人執我行人叔孫婼。

罪在晉固矣。杜說無不可也。

晉人圍郊。

胡傳當矣。蓋舊紀言周郊。而夫子刪正之也。

秋。吳敗頓・胡・沈・蔡・陳・許之師于雞父。胡子髡・沈子逞滅。獲陳夏齧。

叙六國而不及楚。言敗而不言戰者。如胡氏所說也。滅字諸家紛紛。皆難從之說也。蓋以君死而國滅言之乎。不然。恐文有誤脫。

天王居于狄泉。尹氏立王子朝。

穀梁傳當矣。王猛既死。劉單奉敬王。則王正嗣。可立之人也。而終立矣。故既稱天王。又如言尹氏立王子朝。則其爲一家叛黨之私。可以見矣。

冬。公如晉。至河有疾。乃復。

公羊傳當矣。蓋古來所傳之說也。

二十有四年。春。婼至自晉。

胡氏所說意則美矣。抑非春秋下筆之本意也。本意、不過杜氏所謂喜得赦歸也。穀梁氏之說、亦不可捨也。公羊傳書此。而左・穀無之。無之、蓋非缺

事。承前年晉執行人叔孫婼而略之也。在前年則不得略。今年則否。猶與意如至自晉同例。方望溪斷曰「公羊之衍文。」可也。胡氏則就其衍文而立論也。

冬。吳滅巢。

胡氏眩於左傳沈尹戌之論。故生陵楚入郢之漸云云之議論。則失春秋所以作之大意矣。春秋。魯史也。非爲他國者。唯及其大事來赴而書而存之耳。

二十有五年。叔孫婼如宋。

此因聘而爲季氏逆婦也。意如之專橫。固矣。婼之肯聽之。亦可鄙也。於是觀之。則婼者。未必如胡氏褒論也。

夏。叔詣會晉趙鞅・宋樂大心・衞北宮喜・鄭游吉・曹人・邾人・滕人・薛人・小邾人于黃父。

胡氏謂「此會無美辭者云云。」此自家之說也。春秋之體裁。下筆簡潔。不得

爲美辭鄙辭也。蓋亦平未亂之類乎。彼特筆其故。不如彼。則事不分明。如是年。則王室大亂之際。新爲此會者。不必得特筆而後知也。

有鸜鵒來巢。

鸜鵒非平常在魯國之鳥也。而忽來巢。故記異也。未可謂爲亂兆記之者也。

秋。七月。上辛。大雩。季辛。又雩。

胡氏以爲責昭公不知提。罔克自省。而求於禱祠之末。此就事後成敗立論也。君微臣強。事不可爲。當時之大勢也。聖人何獨責昭公之踈於所爲哉。公羊氏曰「又雩者。非雩也。聚衆以逐季氏也。」此說則未可棄去也。我邦後鳥羽上皇之將討北條氏也。託佗事聚兵。大凡以衰世之君。欲討滅豪横之大臣。則勢不得無如此之舉也。

九月。己亥。公孫于齊。次于陽州。

十二公中。昭公獨罹此難。季氏之不臣。至于此。亦甚哉。此聖人所揮泣而

下筆、春秋之作。曰在于此。亦可也。孫字、與夫人姜氏孫于齊同意、諱隱之語也。胡氏論昭公之不明。何其迂而刻也。強論昭公平常之處置。則似矣。說春秋者。宜得夫子下筆之本意也。夫子下筆之本意。豈如其說哉。書曰孫。書曰次。皆不著放逐迸散之意。以存君臣大體也。

齊侯唁公于野井。

胡傳於此條。最失矣。夫當時之事。如何哉。以臣逐君之時也。而無故之齊侯。汲汲奉護。以微弱逃散之人。欲納之於舊國。復本位。其恩不可勝言也。夫子之意。決感喜齊侯之情厚。而不識其後之納變臣說不果事也。此書之。所以爲戒者。在亂臣賊子。今觀無故之齊侯。親出唁之。則於累世恩義之季氏。其不臣。使人切齒而欲食其肉也。此斯書之所以爲戒也。

冬。十月戊辰。叔孫婼卒。

叔孫之勢力。雁行季孫者也。誠果有意於公室耶。猶能必有善處之者。至如宋逆季氏婦。則其不正。似與季氏者。然及其自闞歸季氏之稽顙之也。

又其欲從公也。其跡固異。及其雖奈之時。決意祈死。其情亦可悲矣。

十有一月。己亥。宋公佐卒于曲棘。

此特筆也。胡傳得其意。公羊氏所說亦可矣。

十有二月。齊侯取鄆。

公羊氏之不得當。不足言也。胡傳丁寧辨說。亦大失春秋之大意。如公已絕於魯之說。則最可謂惡說之甚者矣。蓋按事實。舊紀書曰公以齊師取鄆。而聖人改定如此者也。其苦心亦甚矣。夫言公取。則固公之地。於義於辭。不可然也。故係之於齊。而不係於公者。不絕公於魯之意也。而以下。頻頻揭出居鄆字。則可知齊之取之。非自爲也。又齊侯盡力於公如此。而在魯之臣。爲何狀之意。亦見矣。

二十有六年。三月。公至自齊。居于鄆。

至自齊。穀梁氏曰「不外公也。」得矣。胡氏曰「居者。有其土地人民之稱也。」其字義則然。春秋下居字之意。不然。曰居于鄆者。其意猶曰公偶出國都。假

游居于某邑也。公既出奔、離國都、然每事必鄭重書之、不絕於魯者、實魯之正君。而皆不可不奉迎之也。

夏。公圍成。

胡傳復責昭公・齊侯。不得時勢事情之說也。此條不係於齊、而係於公、與取鄆。書法相反。雖書法相反。其意則一也。曰尊重魯侯也。此處若係於齊、則凡事一無公之力、而皆出齊之處置。不獨徒歸重於齊也、甚沒事實。故或又出公字、以見公討叛臣之舉也。

秋。公會齊侯・莒子・邾子・杞伯、盟于鄟陵。

齊侯爲公盡力者。不獨出其師伐魯叛臣也。又爲此會以結公。故喜而書之也。

公至自會。居鄆。

穀梁氏曰、「公在外也、至自會、道義不外公也。」汪克寬曰、「昭公之居鄆、則非宗廟之所在矣。而昭公會鄟陵、如齊、如乾侯、無不書至、若公之在國。春秋

大義。所以存君而勵臣子忠義之心。銷亂賊悖逆之惡也。此二說得聖意。
克寬又曰。「曾子問云。君去其國。太宰取群廟之主以從。則昭公之去耶而返。亦或告于祖禰矣。此說不必言也。告廟行飲至之禮而書至。固似無例也。縱令有其例。而今雖不行之。必書至者。親之尊之。以不絕於魯也。亦固君臣之大義也。

冬十月。天王入于成周。尹氏・召伯・毛伯以王子朝奔楚。

如此并視。則正嗣寵子之邪正曲直。最判然矣。以字固見其涉贊私作黨矣。如單劉以王猛居于皇。則前條有王室亂。未必其係於私舉可知也。又彼曰居于皇。此則曰奔楚。其意亦既分明矣。

二十有七年春。公如齊。公至自齊。居于鄆。

說見前年。

夏。四月。吳弑其君僚。

說見成公十八年。晉弑其君州蒲條。

楚殺其大夫郤宛。

說見上。

秋。晉士鞅・宋樂祁犂・衞北宮喜・曹人・邾人・滕人會于扈。

胡氏所說。近是。

冬。公如齊。公至自齊。居于鄆。

說見前年。

二十有八年。春。王三月。葬曹悼公。

時公在外。大夫往會。諸侯葬者。皆出季氏之命。而所書。不異平常。如公在國然者。存君臣之義也。以下傚此。

公如晉。次于乾侯。

次于陽州。如齊。至自齊。居于鄆。如晉。次于乾侯。至自乾侯。居于鄆。既歸復往。書之詳悉不漏者。以其固爲君。書以審其舉動也。雖審其舉動。而絕無醜辱之辭者。策書之體裁也。君臣之大義也。

二十有九年。春。公至自乾侯。居于鄆。

說見前年。

齊侯使高張來唁公。

按左氏。齊侯使高張唁公。其禮甚卑薄也。然此一時之事。非公然可載於策書之事也。可載於策書者。止齊侯使高張來唁公八字。此事之大者也。胡氏眼不能出左氏。故復發責齊侯之論。可謂迂而刻矣。諸儒之說。出入胡傳者。亦固不足論矣。以其特責昭公與齊侯故也。夫魯之君弱臣強。上爲下所制。有由來矣。非始矣昭公也。假令昭公中主以上。時勢既有難奈何者。其罹禍出逃。聖人何必責之爲哉。所必責者。在季孫矣。又夫齊侯。他國之君而已。望其必爲方伯連帥之任。亦謬矣。苟望方伯連帥之任。則在晉矣。

公如晉。次于乾侯。

說見前年。

冬、十月。鄆潰。

方望溪辨公穀胡傳之謬。甚當矣。又謂「前年左傳所載、孟懿子・陽虎伐鄆。鄆人戰敗。當爲此條下錯簡。然既隔三年之久。則果爲錯簡、未易信。蓋此條下、亦有如彼之事。而左氏脱之者歟。

三十年。春。王正月。公在乾侯。

左氏・杜氏之穿鑿悖謬。不待辨論也。獨穀梁氏所說可矣。胡氏祖述之、明快切實。然亦有頗謬者。何也。曰「于今五年。每歲首月。不書公者、在魯四封之内。則無適而非其所也。至是鄆潰。客寄乾侯。非其所矣」。余以爲不然。先是五年。歲首之月。不書者。其春及夏秋冬。往返入、多可書者。而輒書焉。其舉動甚詳。不必故下別筆之贅也。此年以後。則終留於一地而不去、故歲首。必拈出在乾侯字也。

冬、十有二月。吳滅徐。徐子章羽奔楚。

徐子書名、從告也。

三十有一年。春正月。公在乾侯。

說見前年。

季孫意如會晉荀躒于適歷。晉侯使荀躒唁公於乾侯。

穀梁氏所說。與左氏叙事相反。不可解也。而季孫大姦雄。與范鞅結。其來於晉。固知公決不還也。則焉知非左氏所叙者。徒爲文飾。而穀梁所說者。得實也。

三十有二年。春。王正月。公在乾侯。

說見上。左氏每年此條。務爲一說。其附會穿鑿之明。不待論矣。

取闞。

邾婁地。而魯取之。

冬。仲孫何忌會晉韓不信・齊高張・宋仲幾・衛世叔申・鄭國參・曹人・莒人・薛人・杞人・小邾人。城成周。

穀梁傳當矣。不曰京師。而曰成周者。斥其地名。而明示其處也。

十有二月。己未。公薨于乾侯。

胡氏說。以爲後世君臣之戒。夫後世君臣視以爲戒者。在其人而已。聖人把筆書策之意。則正直叙實。以存君臣之大義也。

春秋遼豕錄　終

跋遯家錄。

在今治經有四病。閣正文而先讀注。曰憑注。注覺不安。寧繆於經。不敢違注。曰佞注。未繹注意。胸横爭氣。一語不合。詬爲疵類。曰仇注。欲豎新義。恥歸勦說。乃盡檢羣注。如稽帳簿。曰役於注。夫注期於解經。經期於爲己。余治經。唯求安於心。而補於身。故熟玩正文。其於注。不敢憑。不敢佞。又無事仇與役也。每謂。昔人代吾費精。吾可以已。不可以已而言。或出其所既言。而吾未之覩。適足見心所同然耳。且勦與否。辭氣自不可掩。苟出實見。必有少補。何必攤排陳編。如獺祭魚哉。近從遊。錄平日所說。來問名。余取朱浮謂彭寵語。題曰遯家。蓋不妨爲家。不暇爲獺也。

跋春秋臆斷稿本。

宣尼手筆無疑者。獨春秋。佗易彖象傳是已。況春秋之旨。在我國。最似不可不識。而未有專攻者。余不自揣。發憤窺測。謂康熙彙纂。可一覽群說。然亦欲觀各本書。就納喇成德之經解。撿出之。堆帙等身。雖不能盡讀。而各領大旨。唯宋黄仲炎・元趙汸所說。頗覺直截。後得清萬斯大隨筆。方苞通論。通論似本趙意。而較簡明。其他率出入公・穀・胡。而枝蔓轇轕。否則務相排擊。至如毛奇齡。横立目例。逞其辨博耳。余於是姑閣諸傳。獨熟觀正文。不能不用左氏爲案。猶時覺其妄。何況其佗。要特取之臆。求心所安而已。從游者。隨聽錄之。成冊。自知粗淺非可比數昔人。然烏知無失諸精而得諸粗者。又烏知

無誤於證。而中於臆者邪。就業三年。中間以數省母廢輟。今茲。壬辰季夏。至於昭公。而吾疾作。醫言。將不起。自慨此事不終。然十二公特餘其二。後世或有知吾者。以十推二。詎爲難哉。

遼豕錄三卷。先師　山陽先生說春秋。而其門人聽者筆錄之。機下江寓坂後。　先生之子又次郎兄。手謄見寄之。唐山春秋之傳。雖多多矣。除元趙汸金鎖匙外。恐莫若此錄簡明直捷者。阿所好之譏。機固所不辭。

安政己未仲秋十又九日　　後藤機識

# 孟子評點

# 『孟子評點』解題

『孟子』ノ評點ハ、文化五年〔廿九歳〕五月ニ成レリ。是レヨリ先、友人・竹原ノ石井豊洲ニ與ヘシ書翰ニ

「近年、孟子白文へ批圏抹了、種々之評語を加へ、一部孟子如ニ霰小紋一になり居申候。然處、僕眼疾依然、欲レ得ニ一明快文一、所持の別本あれども須〔外に入用〕あり、何卒無レ須〔今御手元にて入用なき〕白文あらば、右小紋を割愛、引替に仕度候。是も見てくれる人に讓りたし、如何々々。此地〔廣島〕に、くれよと云者あれども、未ニ之許一也。」〔二月十九日〕

眼疾ニ惱ミツツ、白文ノ上ニ評點ヲ加へ、コレヲ「見てくれる」學友ノ手ニ割愛セントスルナリ。更ニ成稿ト同時ニ、自序ヲ作リテ曰フ、

「世儒ハ孟子ヲ經視シテ、孟子ヲ文視セズ。夫レ未ダソノ文ヲ知ラズシテ、而シテソノ意ヲ得ンコト、難キカナ。吾レ孟子ノ文ヲ好ミ、日夕コレヲ讀ミ、偶々心ニ會ス

ルモノ、コレヲ批シ、コレヲ圏シ、コレヲ勾截〔段落〕シ、コレニ評論ヲ加ヘ、積ミテ一書ト爲ス、敢テ古經ヲ玩弄スルニ非ズ、亦因リテ以テソノ意ヲ得ントスレバナリ。友人、見テコレヲ好ム者アリ、吾レ乃チコレヲ授ケ、且告ゲテ曰フ、吾レ聞ク、昔蘇氏〔老泉〕コノ舉ヲ爲セリト云フ、而モ後世傳フルナシ、ソノ傳フルモノハ僞ナリ、タトヒソノ眞ナルモノヲ傳ヘシメンカ、則チ吾ガ爲ス所異同果シテ如何ゾヤ。」

本書ノ命題ト、ソノ抱負ノ在ル所、以テ觀ルベキナリ。經意ヲ得ルニハ、先ヅソノ文義ヲ尋繹セザルベカラズ、山陽ノ家學ハ、卽チココニソノ一端ヲ漏ラセリ、蓋シ服部栗齋ノ學說ヨリ傳統セラレタルナルベシ。

文政元年〔卅九歲〕二月六日、稿本ハ更ニ門人牧百峯ニ授ケラレ、

「余嘗テ孟子ノ白文一本ヲ置キ、每晨朗誦シ、隨ヒテ點評ヲ加フ。世ニ老蘇ノ批點本トイフモノヲ傳フルモ、恐ラクハ假託ニ屬セン。余ガ爲ス所ハ陋ナリト雖モ、乃チ吾ガ眞ノミ、今以テ輗ニ付ス。人必ズ嗤ハン、其ノ文ヲ以テ經ヲ視ルハ、經ヲ侮

ルナリト。則チコレニ對ヘテ曰ハン、經モト文ニ非ズヤ、文ヲステテ經ヲ言ハヾ、經ハ始メヨリ艱澁頑痺ノ物トナラン、此レ「文視スルハ」經ヲ尊ブナリ、侮ルニ非ザルナリ。」

百峯、スデニコレヲ師授ニ得テ、ソノ傳寫セラレタルモノ、廣ク世ニ布キ、從來山陽ノ經書ニ對スル見解ノ一斑ハ、主トシテコノ書ニ由リテ徴セラルルニ至レリ。

明治十三年四月、福山・濱野箕山ノ「書ニ賴山陽孟子評本後」ノ文ヲ閲ルニ、今井誠説トイフ人ガ、ソノ兒ノ爲ニ購ヒタル白文孟子ノ評點本ハ、「字、行草ヲ襍ヘ、運筆遒健ニシテ逸氣アリ、」ソノ親シク交リテ、ソノ書風ヲ熟知セル「宮原・後藤・森田・關藤・江木」等ノ人々ノ傳寫ニハ非ズトテ、コレヲ山陽ノ手筆ナルベシト説キ、但、ソノ評中、「楷體ニシテ、稍謹嚴ナルモノハ、蓋シ門人諸子ノ補寫ナルベシ」ト云ヘリ。

ココニ本書ヲ複製スルニ當リ、未ダ箕山ガ謂フ所ノモノヲ獲テ、コレヲ對校スルニ及バザリシモ、別ニ寺内將軍傳家ノ一寫本アルヲ示サルルヲ得、更ニ幾多ノ異本ヲ參校シ

テ、コノ定本ヲ作ルヲ得タリ。

山陽ノ評點本、一タビ世ニ出デテ後、大槻磐溪ノ「古經文視」・有井進齋ノ「論語論文」ノ如キ、幾多堆積セラレタル註疏。箋解類ノ外ニ在リテ、ソノ研究上、一種新味ノ加ヘラルルニ至リシモノアルヲ看取セズンバアラズ。〔好尙生〕

# 孟子評點例言

一、本書ノ編纂ニ當リテ參考セシ諸本ハ左ノ如シ。

○寺內伯爵家藏本孟子評點

○井上揆纂評 增補蘇批孟子

○木崎好尙所藏本孟子評點

○賴成一所藏本孟子評點

一、諸本異同太甚シ。寺內本ヲ基本トナシ、他ヲ參酌シテ、其ノ最モ妥當ト思ハルヽモノヲ揭出ス。

一、諸本大抵諸家ノ評語ヲ混載シ、中ニ於テ往々山陽先生ノ評語ト文勢異ルモノアリ。ソノ最モ明ラカナルモノハ之ヲ削ルコトヽセリ。

一、行間ノ評語ハ空間狹小ナル爲メ、句讀返點ヲ施ス能ハズ、讀者ノ判讀ニ俟ツ。

一、書中間々語義ヲ朱記セリ。往々ニシテ之ヲ省略ス。煩ヲ避クルガ爲メナリ。

一、評語ノ上ニ▲印ヲ貼スルハ藍評ヲ示ス。之無キハ朱評ナリ。藍評ハ文化五年ノ記入ニシテ朱評ハ文政元年ニ屬ス。

一、孟子經文ハ仿宋朱熹集註本ニヨリ、ソノ讀法ハ主トシテ同集註ニ從フ。

昭和七年正月

頼成一識

# 孟子評點卷之一

賴襄子成 評點

孟子批點凡例　此例發其大意耳。臨文假借。不必泥。觀者領念焉。

、妙處　○妙處　◦著眼　」大段　一小段　｜主意

何必二字。而已矣三字。是孟子一生法門。惜後儒不識到。

## 梁惠王章句上 凡七章

○孟子見梁惠王。王曰。叟不遠千里而來。亦將有以利吾國乎。孟子對曰。王何必曰利。亦有仁義而已矣。王曰何以利吾國。大夫曰何以利吾家。士庶人曰何以利吾身。上下交征利。而國危矣。萬乘之國。弑其君者。必千乘之家。千乘之國。弑其君者。必百乘之家。萬取千焉。千取百焉。不爲不多矣。苟爲後義而先利。不奪不饜。未有仁而遺其親者也。未有義而後其君者也。王亦曰仁義而已矣。何

必字蓋傳　劈頭第一義　則　三好　足利　細川　必字了然

▲二大段。前長後短。乃有二節奏。

▲有二章。竝趁他人口角。以爲談柄。

必曰利。

〇孟子見梁惠王。王立於沼上。顧鴻鴈麋鹿曰。賢者亦樂此乎。孟子對曰。（▲總提）（放提）賢者而後樂此。不賢者雖有此不樂也。（▲引證）詩云。經始靈臺。經之營之。庶民攻之。不日成之。經始勿亟。庶民子來。王在靈囿。麀鹿攸伏。麀鹿濯濯。白鳥鶴鶴。王在靈沼。於物魚躍。文王以民力爲臺爲沼。（矣）而民歡樂之。（不以爲病而）謂其臺曰靈臺。謂其沼曰靈沼。（是）樂（以文王得以）其有麋鹿魚鼈。（是何也無他）（斷語）古之人與民偕樂。故能樂也。湯誓曰。時日害喪。予及女偕亡。（夫）民（如此）欲與之偕亡。（斷語）（夫如是）雖有臺池鳥獸。豈能獨樂哉。

〇梁惠王曰。寡人之於國也。盡心焉耳矣。（帶歎息聲）河內凶。則移其民於河東。移其粟於河內。河東凶亦然。察鄰國之政。無如寡人之用心者。（而）鄰國之民不加少。寡人之民不加多。何也。孟子對曰。王好戰。請以戰喩。塡然鼓之。兵刃既接。棄甲曳兵而走。或百步而後止。或五十步而後止。以五十步笑百步。則何如。曰。不可。（欲得此答詞）直不百

▲起手唱醒。

▲題腹正論。

▲末尾發策。

▲豈獨鄰國之民哉。呼應甚緊。

▲反問而後發論。是文章縱橫法。

步耳。是亦走也。曰（敏捷）王如知此。則無望民之多於鄰國也。不違農時。（而已則）穀不可勝食也。數罟不入洿池。（而已則）魚鼈不可勝食也。（孟子經濟唯是如此不必如後儒談禮樂強所難爲）斧斤以時入山林。（而已則）材木不可勝用也。穀與魚鼈不可勝食。材木不可勝用。是使民養生喪死無憾也。養生喪死無憾。王道之始也。五畝之宅。樹之以桑。（而已則）五十者可以衣帛矣。雞豚狗彘之畜。無失其時。（而已則）七十者可以食肉矣。百畝之田。勿奪其時。（而已則）數口之家。可以無飢矣。謹庠序之教。申之以孝悌之義。（而已則）頒白者不負戴於道路矣。七十者衣帛食肉。黎民不飢不寒。然而不王者。未之有也。狗彘食人食。而不知檢。塗有餓莩。而不知發。人死則曰。非我也。歲也。是何異於刺人而殺之。曰非我也。兵也。王無罪歲。（何止鄰國哉）斯天下之民至焉。

○梁惠王曰。寡人願安承教。孟子對曰。殺人以梃與刃。有以異乎。（孟子每々鈎出人口中語爲己之議論）曰無以異也。以刃與政。（虛）有以異乎。曰無以異也。曰庖有肥肉。（不爲峻刻嶄絕而其鋒不可當）廄有肥馬。民有飢色。野有餓莩。

▲說我。

▲說彼。

此率獸而食人也。獸相食。且人惡之。爲民父母行政。不免於率獸而食人。惡在其爲民父母也。仲尼曰。始作俑者。其無後乎。爲其象人而用之也。如之何其使（蓋動有血氣者）斯民飢而死也。

○梁惠王曰。晉國天下莫強焉。叟之所知也。及寡人之身。東敗於齊。長子死焉。西喪地於秦七百里。南辱於楚。寡人恥之。願比死者一洒之。如之何則可。孟子對曰。地方百里而可以王。（今千里而有不可以王者乎）王如施仁政於民。省刑罰。薄稅斂。深耕易耨。壯者以暇日。修其孝悌忠信。入以事其父兄。出以事其長上。可使制梃（泗上亭長即是）以撻秦楚之堅甲利兵矣。彼奪其民時。使不得耕耨以養其父母。父母凍餓。兄弟妻子離散。彼陷溺其民。王往而征之。夫誰與王敵。（何止爲死者一洒之而已）故曰。仁者無敵。王請勿疑。

○孟子見梁襄王。出語人曰。望之不似人君。就之而不見所畏焉。卒然問曰。天下惡乎定。吾對曰。定于一。孰能一之。對曰。不嗜殺人者能一之。孰能與之。對曰

▲人牧字。下得切。孟子經世大文。此爲外王。浩然章。是內聖也。踴躍震蕩。不可段落。

▲是孟子說治人大文字。

▲波瀾汪洋。開架宏濶。抑揚開闔之法。盡乎此。

天下莫不與也。王知夫苗乎。七八月之閒旱。則苗槁矣。天油然作雲。沛然下雨。則苗浡然興之矣。其如是。孰能禦之。今夫天下之人牧。未有不嗜殺人者也。如有不嗜殺人者。則天下之民。皆引領而望之矣。誠如是也。民歸之。由水之就下。沛然。誰能禦之。

○齊宣王問曰。齊桓晉文之事。可得聞乎。（英雄心事）孟子對曰。仲尼之徒。無道桓文之事者。（與衞公子如何也）是以後世無傳焉。臣未之聞也。無以則王乎。曰。德何如則可以王矣。曰。保民而王。莫之能禦也。曰。若寡人者。可以保民乎哉。曰。可。曰。何由知吾可也。曰。臣聞之胡齕。曰。王坐於堂上。有牽牛而過堂下者。王見之曰。牛何之。對曰。將以釁鐘。王曰。舍之。吾不忍其觳觫若無罪而就死地。對曰。然則廢釁鐘與。曰。何可廢也。以羊易之。不識有諸。曰。有之。曰。是心足以王矣。百姓皆以王爲愛也。臣固知王之不忍也。王曰。然。誠有百姓者。齊國雖褊小。吾何愛一牛。卽不忍其觳觫若無

畢竟是英雄豁達。露ニ肝膈一而言。可ニ與語一處。

▲以上代レ王分疏。

罪而就死地。故以羊易之也。曰。王無異於百姓之以王爲愛也。以小易大。彼惡知之。王若隱其無罪而就死地。則牛羊何擇焉。王笑曰。是誠何心哉。我非愛其財而易之以羊也。宜乎百姓之謂我愛也。曰。無傷也。是乃仁術也。見牛未見羊也。君子之於禽獸也。見其生。不忍見其死。聞其聲。不忍食其肉。是以君子遠庖廚也。王說曰。詩云。他人有心。予忖度之。夫子之謂也。夫我乃行之。反而求之。不得吾心。夫子言之。於我心有戚戚焉。此心之所以合於王者何也。曰。有復於王者。曰。吾力足以擧百鈞。而不足以擧一羽。明足以察秋毫之末。而不見輿薪。則王許之乎。曰。否。今恩足以及禽獸。而功不至於百姓者。獨何與。然則一羽之不擧。爲不用力焉。輿薪之不見。爲不用明焉。百姓之不見保。爲不用恩焉。故王之不王。不爲也。非不能也。曰。不爲者與不能者之形何以異。曰。挾太山以超北海。語人曰。我不能。是誠不能也。爲長者折枝。語人曰。我不能。是不爲也。非不能也

未全對且發一問

伏禽獸百姓案

無心曲折變盡

如雲觸天風至文至文韓歐所望而不至在此後來唯賈生彷彿之

一問

未肯少貸

一唱在空際

▲一篇喫緊處。

▲以上問難已究。更起一端。揣摳王心頭事。

看大頓挫處。信賈生治安第一策藍本。

故王之不王。非挾太山以超北海之類也。王之不王。是折枝之類也。老吾老。以及人之老。幼吾幼。以及人之幼。天下可運於掌。詩云。刑于寡妻。至于兄弟。以御于家邦。言舉斯心。加諸彼而已。故推恩足以保四海。不推恩無以保妻子。古之人所以大過人者。無他焉。善推其所為而已矣。今恩足以及禽獸。而功不至於百姓者。獨何與。權然後知輕重。度然後知長短。物皆然。心為甚。王請度之。（未全對）抑王興甲兵。（又發一問）危士臣。構怨於諸侯。然後快於心與。王曰。否。吾何快於是。將以求吾所大欲也。曰。王之所大欲可得聞與。王笑而不言。（故為不言者是頓）曰。為肥甘不足於口與。輕煖不足於體與。抑為采色不足視於目與。聲音不足聽於耳與。便嬖不足使令於前與。王之諸臣。皆足以供之。而王豈為是哉。曰。否。吾不為是也。曰。然則王之所大（猜得定是押）欲可知已。欲辟土地。朝秦楚。莅中國。而撫四夷也。以若所為。求若所欲。猶緣木而求魚也。王曰。若是其甚與。（王前番唉而不言。共雖心事被孟叟猜得。為其所鼓舞。不覺發此一語）曰。殆有甚焉。緣木求魚。雖不得魚。無後災。以若所

孟子每事較時勢人力。非如後儒張膽明目。說大頭話。

▲以上正說一段。

爲求若所欲。盡心力而爲之。後必有災。曰。可得聞與。曰。鄒人與楚人戰。則王以爲孰勝。曰。楚人勝。曰。然則小固不可以敵大。寡固不可以敵衆。弱固不可以敵彊。海内之地方千里者九。齊集有其一。以一服八。何以異於鄒敵楚哉。蓋亦反其本矣。今王發政施仁。使天下仕者皆欲立於王之朝。耕者皆欲耕於王之野。商賈皆欲藏於王之市。行旅皆欲出於王之塗。天下之欲疾其君者。皆欲赴愬於王。其若是。孰能禦之。王曰。吾惛不能進於是矣。願夫子輔吾志。明以教我。我雖不敏。請嘗試之。曰。無恆產而有恆心者。惟士爲能。若民則無恆產。因無恆心。苟無恆心。放辟邪侈。無不爲已。及陷於罪。然後從而刑之。是罔民也。焉有仁人在位。罔民而可爲也。是故明君制民之產。必使仰足以事父母。俯足以畜妻子。樂歲終身飽。凶年免於死亡。然後驅而之善。故民之從之也輕。今也制民之產。仰不足以事父母。俯不足以畜妻子。樂歲終身苦。凶年不免於死亡。此惟救死

未判先發一問

東坡文與此口吻

仍前唯欲字上下此欲字也

千轉萬折而來所謂爲淵驅魚計在一唇者在末幅

後世奏議論策先議論後區畫本此字

仍前唯心上下此心字也

以若所爲求若所欲

勢不能不然

▲一篇歸宿處。即章首保字注脚。

而恐不贍。奚暇治禮義哉。王欲行之。則盍反其本矣。所爲五畝之宅。樹之以桑。五十者。可以衣帛矣。雞豚狗彘之畜。無失其時。七十者。可以食肉矣。百畝之田。勿奪其時。八口之家。可以無飢矣。謹庠序之教。申之以孝悌之義。頒白者。不負戴於道路矣。老者衣帛食肉。黎民不飢不寒。然而不王者。未之有也。

土地可辟秦楚可朝中國四夷可莅撫也 所欲

先置一句。不說破其故。留問答餘地。孟子慣家。使王不得不問。問亦不直答。反問之。得其口中兩句。為己把柄。好。是通儒語。亦是眞儒見。非拘古。非阿世。不如是。亦不顯得闡也。

▲下文一反一正。亦常格。有此問難。故生波瀾。

▲反說一段。

# 梁惠王章句下

凡十六章

〇莊暴見孟子曰。暴見於王。王語暴以好樂。暴未有以對也。曰。好樂何如。孟子曰。王之好樂甚。則齊國其庶幾乎。他日見於王曰。王嘗語莊子以好樂。有諸。王變乎色曰。（畢竟是英雄無隱諱語是孟子可觀定樂說）寡人非能好先王之樂也。直好世俗之樂耳。曰。王之好樂甚。則齊其庶幾乎。今之樂。由古之樂也。曰。可得聞與。曰。獨樂樂。與人樂樂。孰樂。曰。不若與人。（本其）曰。與少樂樂。與衆樂樂。孰樂。曰。不若與衆。（其）臣請為王言樂。（無曰字妙）今王鼓樂於此。百姓聞王鐘鼓之聲。管籥之音。舉疾首蹙頞而相告曰。吾王之好鼓樂。夫何使我至於此極也。父子不相見。兄弟妻子離散。今王田獵於此。百姓聞王車馬之音。（有）見羽旄之美。（驚和故可下音字）舉疾首蹙頞而相告曰。吾王之好田獵。夫何使我至於此極也。父子不相見。兄弟妻子離散。此無他。不與民同樂也。今王鼓樂於此。百姓聞王鐘

▲正說一段。

▲是以奇險語。掉尾有餘力。

先安頓一虛字。包含全章意。是慣手

鼓之聲、管籥之音。舉欣欣然有喜色。而相告曰。吾王庶幾無疾病與。何以能鼓樂也。今王田獵於此。百姓聞王車馬之音。見羽旄之美。舉欣欣然有喜色。而相告曰。吾王庶幾無疾病與。何以能田獵也。此無他。與民同樂也。今王與百姓同樂。則王矣。故曰王之好樂甚則齊其庶幾乎臣惜其未甚耳

○齊宣王問曰。文王之囿。方七十里。有諸。孟子對曰。於傳有之。曰。若是其大乎。曰。民猶以爲小也。亦敏捷亦狡獪曰。寡人之囿。方四十里。民猶以爲大。何也。曰。文王之囿。方七十里。芻蕘者往焉。雉兎者往焉。與民同之。民以爲小。不亦宜乎。臣始至於境。問國之大禁。然後敢入。臣聞。郊關之內。有囿方四十里。殺其麋鹿者。如殺人之罪。則是方四十里。爲阱於國中。民以爲大。不亦宜乎。

○齊宣王問曰。交鄰國有道乎。換戰字爲此三字孟子對曰。有。惟仁者爲能以大事小。是故湯事葛。文王事昆夷。惟智者爲能以小事大。故大王事獯鬻。句踐事吳。以大事小者。

以此三字動之。不料。鄒老儒先生。下相重瞳漢二百年。已爲此語。

▲唯挿一而字。亦字。乃不合掌。是以雖快語。掉尾有餘力。

樂天者也。以小事大者。畏天者也。樂天者保天下。（主）畏天者保其國。（客）詩云。畏天之威。于時保之。王曰。大哉言矣。寡人有疾。寡人好勇。對曰。王請無好小勇。夫撫劍疾視曰。彼惡敢當我哉。此匹夫之勇。敵一人者也。王請大之。（包戰字在中）詩云。王赫斯怒。爰整其旅。以遏徂莒。以篤周祜。以對于天下。此文王之勇也。文王一怒而安天下之民。書曰。天降下民。作之君。作之師。惟曰其助上帝。寵之四方。有罪無罪。惟我在。天下曷敢有越厥志。（釋書辭）一人衡行於天下。武王恥之。此武王之勇也。而武王亦一怒而安天下之民。今王亦一怒而安天下之民。民惟恐王之不好勇也。（▲搔著痒處。使王呼快。）

○齊宣王見孟子於雪宮。王曰。賢者亦有此樂乎。孟子對曰。有。（不復曰而後樂之）人不得則非其上矣。（▲客。不專責上。使知是公論。妙。）不得而非其上者非也。爲民上而不與民同樂者亦非也。（▲主。自主句偏入。使彼不覺。妙。）樂民之樂者。民亦樂其樂。憂民之憂者。民亦憂其憂。樂以天下。憂以天下。然而不王者。未之有也。昔者齊景公問於晏子曰。吾欲觀於轉附朝儛。遵海而南。放于琅邪。吾何脩

▲是以二君適語。掉尾有餘力。全學晏子問答。不攪己語結了。疊下送李愿序。表忠觀碑。效嚬乎後也。王意中不欲毀。有司則欲者不急土木也。不如此答。

而可以比於先王觀也。晏子對曰。善哉問也。天子適諸侯曰巡狩。巡狩者。巡所守也。諸侯朝於天子曰述職。述職者。述所職也。無非事者。（二句通天子諸侯而言）春省耕而補不足。秋省斂而助不給。夏諺曰。吾王不遊。吾何以休。吾王不豫。吾何以助。一遊一豫。爲諸侯度。今也不然。師行而糧食。飢者弗食。勞者弗息。睊睊胥讒。民乃作慝。方命虐民。飲食若流。流連荒亡。爲諸侯憂。從流下而忘反。謂之流。從流上而忘反。謂之連。從獸無厭。謂之荒。樂酒無厭。謂之亡。先王無流連之樂。荒亡之行。惟君所行也。景公說。大戒於國。出舍於郊。於是始興發補不足。召太師曰。爲我作君臣（以人言應己）相說之樂。（言妙）蓋徵招角招是也。（知非宮商大調。恨其曲今不傳）其詩曰。畜君何尤。畜君者。好君也。（餘音悠然）

○齊宣王問曰。人皆謂我毀明堂。毀諸。已乎。孟子對曰。夫明堂者。王者之堂也。王欲行王政。則勿毀之矣。王曰。王政可得聞與。對曰。昔者文王之治岐也。耕者九一。（一）仕者世祿。（二）關市譏而不征。（三）澤梁無禁。（四）罪人不孥。（五）（其治鑿然犁然可按而行之）老而無妻曰鰥。老而無夫

則不欲問也。

所謂顧力行如何耳。斷而行之。鬼神避之也。

有此一句。乃成議論。堯舜不過如此。非如理學人以天理人欲說責人主也。

▲双關收上。不為結束。又是一格。

▲意在言外。妙。

曰寡。老而無子曰獨。幼而無父曰孤。此四者天下之窮民。而無告者。（雖四曰其數無幾。思易施。施數人而千萬人悅服。主）文王發政施仁。必先斯四者。（六）詩云。哿矣富人。哀此煢獨。（孤立貌）王曰。善哉言乎。曰。王如善之。則何為不行。王曰。寡人有疾。寡人好貨。對曰。昔者公劉好貨。詩云。乃積乃倉。乃裹餱糧。于橐于囊。思戢用光。弓矢斯張。干戈戚揚。爰方啓行。（首途也）故居者有積倉。行者有裹糧也。然後可以爰方啓行。王如好貨。與百姓同之。於王何有。王曰。寡人有疾。寡人好色。對曰。昔者大王好色。愛厥妃。詩云。古公亶父。來朝走馬。率西水滸。至于岐下。爰及姜女。聿來胥宇。當是時也。內無怨女。外無曠夫。王如好色。與百姓同之。於王何有。

○孟子謂齊宣王曰。王之臣有託其妻子於其友。而之楚遊者。比其反也。則凍餒其妻子。則如之何。王曰。棄之。曰。士師不能治士。則如之何。王曰。已之。曰。四境之內不治。則如之何。王顧左右而言他。

曉此章法。乃平地起波手也。

○孟子見齊宣王曰。所謂故國者。非謂有喬木之謂也。（先著一句乃可謂無是平平耳）有世臣之謂也。王無親臣矣。昔者所進。今日不知其亡也。王曰。吾何以識其不才。而舍之。曰。國君進賢。如不得已。將使卑踰尊。疏踰戚。可不愼與。左右皆曰賢。（姿致在複皆曰字上歐公與范司諫書似此）未可也。諸大夫皆曰賢。未可也。國人皆曰賢。然後察之。（兩然後字見其鄭重處）見賢焉。然後用之。左右皆曰不可。勿聽。諸大夫皆曰不可。勿聽。國人皆曰不可。然後察之。見不可焉。然後去之。左右皆曰可殺。勿聽。諸大夫皆曰可殺。勿聽。國人皆曰可殺。然後察之。見可殺焉。然後殺之。故（國人用之去之亦可也獨纖其一項可見古文不拘處）曰國人殺之也。如此。然後可以爲民父母。

○齊宣王問曰。湯放桀。武王伐紂。有諸。孟子對曰。於傳有之。曰。臣弑其君。可乎。曰。賊仁者。謂之賊。賊義者。謂之殘。殘賊之人。（隱々注射時君非論湯武也後儒說癡人說夢）謂之一夫。聞誅一夫紂矣。未聞弑君也。

○孟子見齊宣王曰。爲巨室。則必使工師求大木。工師得大木。則王喜以爲能

▲譬語起。譬語結。

勝其任也。匠人斲而小之。則王怒以爲不勝其任矣。夫人幼而學之。壯而欲行之。王曰姑舍女所學而從我。則何如。今有璞玉於此。雖萬鎰。必使玉人彫琢之。至於治國家。則曰姑舍女所學而從我。則何以異於教玉人彫琢玉哉。（此亦結後段不結前段不拘如此而讀者不覺後來唯大蘇時有之）

○齊人伐燕勝之。宣王問曰。或謂寡人勿取。或謂寡人取之。以萬乘之國。伐萬乘之國。五旬而擧之。人力不至於此。不取。必有天殃。（唯欲取之而已）取之何如。孟子對曰。取之（一刀而斷）而燕民悅。則取之。古之人有行之者。武王是也。取之（初說何等迂濶）而燕民不悅。則勿取。古之人有行之者。文王是也。以萬乘之國。伐萬乘之國。簞食壺漿。以迎王師。豈有他哉。避水火也。（熟聽何等緊切）如水益深。如火益熱。亦運而已矣。

○齊人伐燕取之。（畢竟取之）諸侯將謀救燕。（果然）宣王曰。諸侯多謀伐寡人者。（恇怯如見何若初不取也）何以待之。孟子對曰。臣聞七十里爲政於天下者。湯是也。（譬識後來宣華李綱子譜皆是詭談也）未聞以千里畏人者也。書曰。湯一征。

化敗局爲成局。應變決議。處置不失宜。其機全在速字。猶可及字上。少緩則制於人。

自葛始。天下信之。東面而征。西夷怨。南面而征。北狄怨。曰。奚爲後我。民望之。若（自七十里于里說至其征伐之意隨口而出）大旱之望雲霓也。歸市者不止。耕者不變。誅其君而弔其民。若時雨降。民大悅。書曰。徯我后。后來其蘇。今燕虐其民。王往而征之。民以爲將拯己於水火之中也。簞食壺漿。以迎王師。（雖湯不過此局不成可惜）若殺其父兄。係累其子弟。毀其宗廟。遷其重器。如之何其可也。天下固畏齊之彊也。今倍地而不行仁政。是動天下之兵也。（何益之有）王速出令。反其旄倪。止其重器。謀於燕衆。（何等體面）置君而後去之。則猶可及止也。

○鄒與魯鬨。穆公問曰。吾有司死者三十三人。而民莫之死也。誅之則不可勝誅。不誅。則疾視其長上之死而不救。（二字有快之之意）如之何則可也。孟子對曰。凶年饑歲。君之民。老弱轉乎溝壑。壯者散而之四方者。幾千人矣。而君之倉廩實。府庫充。有司莫以告。是上慢而殘下也。曾子曰。戒之戒之。出乎爾者。反乎爾者也。夫民今而後。得反之也。君無尤焉。君行仁政。斯民親其上。死其長矣。

▲引古語。而後排其語中字發論。是古文多姿處。



○滕文公問曰。滕小國也。閒於齊楚。事齊乎。事楚乎。孟子對曰。是謀非吾所能及也。（是蘇張輩所能及）無已則有一焉。鑿斯池也。築斯城也。與民守之。效死而民弗去。則是可爲也。（有此本領則事齊事楚權皆在我無此城池亦徒作詳）

○滕文公問曰。齊人將築薛。吾甚恐。如之何則可。孟子對曰。昔者大王居邠。狄人侵之。去之岐山之下居焉。非擇而取之。不得已也。苟爲善。後世子孫必有王者矣。（參國之事並事明白）君子創業垂統。爲可繼也。若夫成功則天也。君如彼何哉。彊爲善而已矣。

○滕文公問曰。滕小國也。竭力以事大國。則不得免焉。如之何則可。孟子對曰。昔者大王居邠。狄人侵之。事之以皮幣。不得免焉。事之以犬馬。不得免焉。事之以珠玉。不得免焉。（前章所云惟智者能以小事大者）乃屬其耆老。而告之曰。狄人之所欲者。吾土地也。吾聞之也。君子不以其所以養人者害人。二三子何患乎無君。我將去之。去邠踰梁山。邑于岐山之下居焉。邠人曰。仁人也。不可失也。從之者。如歸市。或曰。世守也。非身（前序太長此）

君子順境逆境。竝以天處之。其胸懷可想。

節太短然寸鐵殺人却在此節

之所能爲也。效死勿去。君請擇於斯二者。

○魯平公將出。嬖人臧倉者請曰。他日君出。則必命有司所之。今乘輿已駕矣。有司未知所之。敢請。公曰。將見孟子。曰。何哉。君所爲輕身以先於匹夫者。以爲賢乎。禮義由賢者出。而孟子之後喪踰前喪。君無見焉。公曰。諾。樂正子入見曰。君奚爲不見孟軻也。曰。或告寡人曰。孟子之後喪踰前喪。是以不往見也。曰。何哉。君所謂踰者。前以士。後以大夫。前以三鼎。而後以五鼎與。（四句不是問詞乃是折倒平公語）曰。否。謂棺槨衣衾之美也。曰。非所謂踰也。貧富不同也。樂正子見孟子曰。克告於君。（熱甚）君爲來見也。嬖人有臧倉者。沮君。君是以不果來也。曰。行或使之。（冷甚）止或尼之。行止非人所能也。吾之不遇魯侯。天也。臧氏之子。焉能使予不遇哉。

孟子評點卷之一 終

# 孟子評點卷之二

## 公孫丑章句上 凡九章

○公孫丑問曰。夫子當路於齊。（以論人品起）管仲晏子之功。可復許乎。（俗極）孟子曰。子（然然）誠齊人也。知管仲晏子而已矣。或問乎曾西曰。吾子與子路孰賢。曾西蹴然曰。吾先子之所畏也。曰。然則吾子與管仲孰賢。曾西艴然不悅。曰。爾何曾比予於管仲。管仲得君。如彼其專也。行乎國政。如彼其久也。功烈。如彼其卑也。爾何曾比予於是。曰。管仲曾西之所不爲也。而子爲我（悶極）願之乎。曰。管仲以其君霸。晏子以其君顯。（猶僞此言）管仲晏子。猶不足爲與。曰。以齊王。（是時勢非是人物優劣非唯丑不知人物優劣併時勢亦不知）由反手也。曰。若是則弟子之惑滋甚。且以文王之德。百年而後崩。猶未洽於天下。武王周公繼之。然後大行。今言王若易然。

則文王不足法與。曰。文王何可當也。由湯至於武丁。（全自時勢上論之不如後儒迂論也）賢聖之君六七作。天下歸殷久矣。久則難變也。武丁朝諸侯。有天下。猶運之掌也。紂之去武丁。未久也。其故家遺俗。流風善政。猶有存者。又有（家語）微子微仲王子比干（呂氏春秋）箕子膠鬲皆賢人也。相與輔相之。故久而後失之也。尺地莫非其有也。一民莫非其臣也。然而文王猶方百里起。是以難也。

▲說其難。

齊人有言。曰。雖有智慧。不如乘勢。雖有鎡基。不如待時。今時則易然也。夏后殷周之盛。地未有過千里者也。而齊有其地矣。雞鳴狗吠相聞而達乎四境。而齊有其民矣。地不改辟矣。民不改聚矣。行仁政而王。莫之能禦也。且王者之不作。未有疏於此時者也。民之憔悴於虐政。未有甚於此時者也。飢者易爲食。渴者易爲飲。孔子曰。德之流行。速於置郵而傳命。當今之時。萬乘之國行仁政。民之悅之。猶解倒懸也。故事半古之人。功必倍之。惟此時爲然。

▲說其易。

不動心。是主意。浩然之氣。特形容之而已。

▲是孟子說修己大文字。局面之大。不及齊宣王問章。而造語之精過之。

一篇筋骨。却在於此。特不明言至自家身上耳。

○公孫丑問曰。（後人誤加之四字）夫子加齊之卿相。得行道焉。雖由此霸王（纔帶王字來）不異矣。如此（猶爲此言）則動心否乎。孟子曰。否。（此字妙）我四十不動心。曰。若是（好笑）則夫子過孟賁遠矣。曰。是不難。告子先我不動心。曰。不動心有道乎。曰。有。（妙在此一字）（勇即不動心）北宮黝之養勇也。不膚撓。不目逃。思以一毫挫於人。若撻之於市朝。不受於褐寬博。亦不受於萬乘之君。視刺萬乘之君。若刺褐夫。無嚴諸侯。惡聲至。必反之。孟施舍之所養勇也。曰。視不勝。猶勝也。量敵而後進。慮勝而後會。是畏三軍者也。舍豈能爲必勝哉。能無懼而已矣。孟施舍似曾子。北宮黝似子夏。夫二子之勇。（漸々引人）未知其孰賢。然而孟施舍（偏人）守約也。昔者曾子謂子襄曰。（曾子之養勇只理直爲主）子好勇乎。吾嘗聞大勇於夫子矣。自反而不縮。雖褐寬博。吾不惴焉。自反而縮。雖千萬人。吾往矣。孟施舍之守氣。又不如曾子之守約也。曰。敢問夫子之不動心。與告子之不動心。可得聞與。告子曰。（告子之養勇以冥悍強制爲主）不得於言。勿求於心。不得於心。勿求於氣。不得於心。勿求於氣可。不得於言。勿求於心不可。夫志氣之帥

至到也。次從也。非至極亞次也。觀下文了然。

▲前說北宮黝孟施舍告子。而及自己。有次第。一節深於一節。說至自家上。

▲不動心之論。終于此。下其餘論也。此段無冒虛字而起。

也。氣體之充也。夫志至焉。氣次焉。故曰。持其志。（孟子之養勇）無暴其氣。既曰。（偏入益深）志至焉。氣次焉。又曰。持其志。無暴其氣者。何也。曰。志壹則動氣。氣壹則動志也。今夫蹶者趨者。（衍了有字）是氣也。而反動其心。敢問。（偏入極底）夫子惡乎長。曰。我知言。我善養吾浩然之氣。敢問何謂浩然之氣。曰。難言也。（妙在此一句）其爲氣也。至大至剛。以直養而無害。則塞于天地之間。其爲氣也。配義與道。無是餒也。是集義所生者。非義襲而取之也。行有不慊於（動心）心則餒矣。我故曰。告子未嘗知義。（小波瀾隨口而生就結了告子）以其外之也。必有事焉而勿正。心勿忘。勿助長也。無若宋人然。（又一瀾隨口而生）宋人有閔其苗之不長而揠之者。芒芒然歸。謂其人曰。今日病矣。予助苗長矣。其子趨而往視之。苗則槁矣。天下之不助苗長者寡矣。以爲無益而舍之者。不耘苗者也。助之長者。揠苗者也。非徒無益而又害之。（衍了羅言也句）何謂知言。曰。詖辭知其所蔽。（仍有告子在中）淫辭知其所陷。邪辭知其所離。遁辭知其所窮。生於其心。（不脫心字）害於其政。發於其政。害於其事。聖人復起。必從吾言矣。宰我子貢善爲說辭。（齊合說知言處[illegible]）冉

又以無冐虛字起。

是大照應。隱然以己挾置三人中。所以不屑爲管仲也。乃知二章合則雙美。分則兩傷。

牛閔子顏淵、善言德行。孔子兼之。曰。我於辭命。則不能也。然則夫子既聖矣乎。曰、惡。是何言也。昔者子貢問於孔子曰。夫子聖矣乎。孔子曰。聖則吾不能。我學不厭。而教不倦也。子貢曰。學不厭智也。教不倦仁也。仁且智。夫子既聖矣。夫聖。孔子不居。（斷非聖人）是何言也。昔者竊聞之。子夏子游子張。皆有聖人之一體。冉牛閔子顏淵。則具體而微。敢問所安。曰。姑舍是。（妙在此一句）曰。伯夷伊尹何如。曰。不同道。（妙在此二句）非其君不事。非其民不使。治則進。亂則退。伯夷也。何事非君。何使非民。治亦進。亂亦進。伊尹也。可以仕則仕。可以止則止。可以久則久。可以速則速。孔子也。皆古聖人也。吾未能有行焉。乃所願。則學孔子也。（衍了不同字所以曰姑舍是也）伯夷伊尹於孔子。若是班乎。曰。否。（妙在此字）自有生民以來。未有孔子也。（故曰否）曰。然則有同與。曰。有。（妙在此字）得百里之地而君之。皆能以朝諸侯。（論三人力量）有天下。行一不義。殺一不辜。而得天下。（語人心術）皆不爲也。是則同。曰。敢問其所以異。曰。（先論人品。次第論時勢。論學問。終歸於論人品了）宰我子貢有若。智足以知聖人。汙不至阿其所好。宰我曰。以予觀於夫子。賢於

堯舜遠矣。子貢曰。見其禮而知其政。聞其樂而知其德。由百世之後。等百世之王。莫之能違也。自生民以來。未有夫子也。有若曰。豈惟民哉。麒麟之於走獸。鳳凰之於飛鳥。太山之於丘垤。河海之於行潦。類也。聖人之於民。亦類也。（衍了吾有二字不）出於其類。（同有異二句）拔乎其萃。自生民以來。未有盛於孔子也。△（而吾願學之。豈屑爲管仲哉十一字看）

○孟子曰。以力假仁者霸。霸必有大國。（有字做待字看）以德行仁者王。王不待大。湯以七十里。文王以百里。以力服人者。非心服也。力不贍也。以德服人者。中心悅而誠服也。如七十子之服孔子也。詩云。自西自東。自南自北。無思不服。此之謂也。

○孟子曰。仁則榮。不仁則辱。今惡辱而居不仁。是猶惡濕而居下也。（一喩甞出內循情態）如惡之莫如貴德而尊士。（頂上復分承）賢者在位。能者在職。國家閒暇。及是時。明其政刑。雖大國。必畏之矣。詩云。迨天之未陰雨。徹彼桑土。綢繆牖戶。今此下民。或敢侮予。孔子曰。爲此詩者。其知道乎。能治其國家。誰敢侮之。今國家閒暇。及是時。般樂怠敖。是自

五下二矣字一。三下二也字一。相配成レ文。其轉捩頓挫處。在下率二子弟一攻二父母一一句上。

▲層層翻跌有レ勢。是九層浮圖法。孟所二慣用一。

求レ禍也。禍福無レ不二自レ己求一之者。（頂上復分承）詩云。永言配レ命。自求二多福一。（因人爲不善）太甲曰。天作孼猶可レ違。自作孼不レ可レ活。此之謂也。

○孟子曰。尊レ賢使レ能。俊傑在レ位。則天下之士。皆悅而願レ立二於其朝一矣。市廛而不レ征。法而不レ廛。則天下之商。皆悅而願レ藏二於其市一矣。關譏而不レ征。則天下之旅。皆悅而願レ出二於其路一矣。耕者助而不レ稅。則天下之農。皆悅而願レ耕二於其野一矣。廛無二夫里之布一。則天下之民。皆悅而願レ爲二之氓一矣。信能行二此五者一。則鄰國之民。仰レ之若二父母一矣。率二其子弟一。攻二其父母一。自レ生レ民以來。未レ有二能濟者一也。如レ此則無レ敵二於天下一。無レ敵二於天下一者。天吏也。然而不レ王者。未二之有一也。

○孟子曰。（如破題）人皆有二不レ忍レ人之心一。先王有二不レ忍レ人之心一。斯有二不レ忍レ人之政一矣。以二不レ忍レ人之心一。行二不レ忍レ人之政一。治二天下一可レ運二之掌上一。所三以謂二人皆有二不レ忍レ人之心一者。（抽起處如承題）今人乍見二孺子將一レ入二於井一。皆有二怵惕惻隱之心一。非レ所三以內二交於孺子之父母一也。

端是端緒。觀上下文了然。自是擴充至保四海。經義家。紛々異同。何哉。

▲三喩皆取於射。愈出愈妙。

非所以要譽於鄉黨朋友也。非惡其聲而然也。由是觀之。無惻隱之心。非人也。無羞惡之心。非人也。無辭讓之心。非人也。無是非之心。非人也。惻隱之心仁之端也。羞惡之心。義之端也。辭讓之心。禮之端也。是非之心。智之端也。人之有是四端也。猶其有四體也。有是四端。而自謂不能者。自賊者也。謂其君不能者。賊其君者也。（以上如題腹以下如題尾）凡有四端於我者。知皆擴而充之矣。（喩不能自已狀）若火之始然。泉之始達。苟能充之。足以保四海。苟不充之。不足以事父母。

○孟子曰。矢人豈不仁於函人哉。矢人惟恐不傷人。函人惟恐傷人。巫匠亦然。故術不可不愼也。孔子曰。里仁爲美。擇不處仁。焉得智。夫仁天之尊爵也。人之安宅也。莫之禦而不仁。是不智也。不仁不智。無禮無義。人役也。人役而恥爲役。由弓人而恥爲弓。矢人而恥爲矢也。如恥之。莫如爲仁。仁者如射。射者正己而後發。發而不中。不怨勝己者。反求諸己而已矣。

○孟子曰。子路人告之以有過則喜。禹聞善言則拜。大舜有大焉。善與人同。舍己從人。樂取於人以爲善。自耕稼陶漁以至爲帝。無非取於人者。取諸人以爲善。是與人爲善者也。故君子莫大乎與人爲善。

有此成文

○孟子曰。伯夷非其君不事。非其友不友。不立於惡人之朝。不與惡人言。立於惡人之朝。與惡人言。如以朝衣朝冠坐於塗炭。推惡惡之心。思與鄉人立。其冠不正。望望然去之。若將浼焉。是故諸侯雖有善其辭命而至者。不受也。不受也者。是亦不屑就已。柳下惠不羞汙君。不卑小官。進不隱賢。必以其道。遺佚而不怨。阨窮而不憫。故曰。爾爲爾。我爲我。雖袒裼裸裎於我側。爾焉能浼我哉。故由由然與之偕。而不自失焉。援而止之而止。援而止之而止者。是亦不屑去已。孟子曰。伯夷隘。柳下惠不恭。隘與不恭。君子不由也。

如兩人合傳此論贊

▲凡作議論文者。以此章為法。不足他求。

▲孫子十三篇主意。亦是此已。

▲順逆對縮法。

▲前双行起。後單行收。故有委致。

# 公孫丑章句下

凡十四章

○孟子曰。天時不如地利。地利不如人和。（▲合提）三里之城。七里之郭。環而攻之而不勝。夫環而攻之。必有得天時者矣。（複一語成波瀾音調遒折）然而不勝者。（句法有波瀾）是天時不如地利也。城非不高也。（前節上短下長此節反之異樣不俗）池非不深也。兵革非不堅利也。米粟非不多也。委而去之。（兩處頓挫出於自然）是地利不如人和也。故曰。域民不以封疆之界。固國不以山谿之險。威天下不以兵革之利。得道者多助。失道者寡助。寡助之至。親戚畔之。（兩意對縮收上直到究竟項一句如塔尖插雲）多助之至。天下順之。以天下之所順。攻親戚之所畔。故君子有不戰。戰必勝矣。

○孟子將朝王。王使人來曰。寡人如就見者也。有寒疾。不可以風。（貴人往々有此飾詞）朝將視朝。不識可使寡人得見乎。對曰。不幸而有疾。不能造朝。明日。出弔於東郭氏。公孫丑曰。昔者辭以病。今日弔。或者不可乎。曰。昔者疾。今日愈。（此中消息非丑輩所得知）如之何不弔。王使人問

疾。醫來。孟仲子對曰。昔者有王命。有采薪之憂。不能造朝。今病小愈。趨造於朝。（多少周旋委）我不識能至否乎。（曲爲家先生危處可想）使數人要於路。曰。請必無歸。（俗情）而造於朝。不得已而之景丑氏宿焉。景子曰。內則父子。外則君臣。人之大倫也。父子主恩。君臣主敬。丑見王之敬子也。（俗情帶正）未見所以敬王也。曰。惡是何言也。齊人無以仁義與王言者。（論）豈以仁義爲不美也。（爲不知其意先言己意妙）其心曰。是何足與言仁義也云爾。則不敬莫大乎是。我非堯舜之道。不敢以陳於王前。故齊人莫如我敬王也。（加齊人二字妙）景子曰。否。非此之謂也。（孟叟固知彼必發此問也）禮曰。父召無諾。君命召。不俟駕。（論語）固將朝也。聞王命而遂不果。宜與夫禮若不相似然。曰。豈謂是與。（如始解其意妙）曾子曰。晉楚之富。不可及也。彼以其富。我以吾仁。彼以其爵。我以吾義。吾何慊乎哉。夫豈不義而曾子言之。（與不解事人言故語調如此以下正色而言）是或一道也。天下有達尊三。爵一。齒一。德一。朝廷莫如爵。鄉黨莫如齒。輔世長民莫如德。惡得有其一以慢其二哉。故將大有爲之君。（本意在）必有所不召之臣。（此公孫丑孟仲子景丑一輩俗漢皆不能知處）欲有謀焉。則就之。其尊德樂道。不如是不足與有（非徒爲此體而妄自尊）

▲以伊管双敲。而未即引管去。爲結。乃不費力。凡結語不可不健。又不可不擇健語。故意置之。就前而語中。下一冷棒。可也。

一乎字發端。三矣字疏辨。以乎與二字收之。三也字決斷。決斷者。却在他人口上。妙。

大也爲也。故湯之於伊尹。學焉而後臣之。故不勞而王。桓公之於管仲。學焉而後臣之。故不勞而霸。今天下地醜德齊。莫能相尚。無他。好臣其所教。而不好臣其所受教。湯之於伊尹。桓公之於管仲。則不敢召。（則字妙）管仲且猶不可召。（抱負可想。）而況不爲管仲者乎。（而況二字更妙）

○陳臻問曰。前日於齊。王餽兼金一百而不受。於宋。餽七十鎰而受。於薛。餽五十鎰而受。前日之不受是。則今日之受非也。今日之受是。則前日之不受非也。夫子必居一於此矣。孟子曰。皆是也。當在宋也。予將有遠行。行者必以贐。辭曰。餽贐。予何爲不受。當在薛也。予有戒心。辭曰。聞戒。故爲兵餽之。予何爲不受。若於齊。則未有處也。無處而餽之。是貨之也。焉有君子而可以貨取乎。

○孟子之平陸。謂其大夫曰。子之持戟之士。一日而三失伍。則去之否乎。曰。不待三。（自喩入正。敏捷只戰國策有之。）然則子之失伍也亦多矣。凶年饑歲。子之民。老羸轉於溝壑。壯者散而之

▲兩段借他人口爲結。而已不措辭妙。

四方者幾千人矣。曰。此非距心之所得爲也。曰。今有受人之牛羊而爲之牧之者。則必爲之求牧與芻矣。求牧與芻而不得。則反諸其人乎。抑亦立而視其死與。曰。此則距心之罪也。他日見於王曰。王之爲都者。臣知五人焉。知其罪者。惟孔距心。爲王誦之。王曰。此則寡人之罪也。

○孟子謂蚳鼃曰。子之辭靈丘而請士師。似也。爲其可以言也。今既數月矣。未可以言與。蚳鼃諫於王而不用。致爲臣而去。齊人曰。所以爲蚳鼃。則善矣。所以自爲。則吾不知也。公都子以告。曰。吾聞之也。有官守者。不得其職則去。有言責者、不得其言則去。我無官守。我無言責也。則吾進退。豈不綽綽然有餘裕哉。

○孟子爲卿於齊。出弔於滕。王使蓋大夫王驩爲輔行。王驩朝暮見。反齊滕之路。未嘗與之言行事也。公孫丑曰。齊卿之位。不爲小矣。齊滕之路。不爲近矣。反俗
情之而未嘗與言行事。何也。曰。夫既或治之。予何言哉。丑未可與語此中消息也。

▲把一可字一翻弄。前正後喩。而語々相對。至尾不必用何以異於是句。扭合之。又是一格。

▲結語健。又應問者語。甚緊切。

○孟子自齊葬於魯。反於齊。止於嬴。充虞請曰。前日不知虞之不肖。使虞敦匠事。嚴。虞不敢請。今願竊有請也。木若以美然。曰。古者棺椁無度。中古棺七寸。椁稱之。自天子達於庶人。非直爲觀美也。然後盡於人心。不得。不可以爲悅。無財。不可以爲悅。得之。爲有財。古之人皆用之。吾何爲獨不然。且比化者。無使土親膚。於人心獨無恔乎。吾聞之。君子不以天下儉其親。此句所談者廣不專就棺椁言

○沈同以其私問曰。燕可伐與。孟子曰。可。子噲不得與人燕。子之不得受燕於子噲。有仕於此。而子悅之。不告於王。而私與之吾子之祿爵。夫士也。亦無王命。而私受之於子。則可乎。何以異於是。齊人伐燕。或問曰。勸齊伐燕。有諸。曰。未也。沈同問燕可伐與。吾應之曰。可。彼然而伐之也。彼如曰孰可以伐之。則將應之曰。爲天吏。則可以伐之。今有殺人者。或問之曰。人可殺與。則將應之曰。可。彼如曰孰可以殺之。則將應之曰。爲士師。則可以殺之。今以燕伐燕。雖勸無前何爲勸之哉。

○燕人畔。王曰。吾甚慙於孟子。陳賈曰。王無患焉。王自以爲。與周公孰仁且智。王曰。惡是何言也。曰。周公使管叔監殷。管叔以殷畔。知而使之。是不仁也。不知而使之。是不智也。仁智周公未之盡也。而況於王乎。賈請見而解之。何等意氣見孟子問曰。周公何人也。曰。古聖人也。曰。使管叔監殷。管叔以殷畔也。有諸。曰。然。曰。周公知其將畔而使之與。曰。不知也。然則聖人且有過與。曰。周公弟也。管叔兄也。周公之過。不亦宜乎。且古之君子。過則改之。今之君子。過則順之。古之君子。其過也。如日月之食。民皆見之。及其更也。民皆仰之。今之君子。○想見陳賈不能開其吻逡巡而退光景豈徒順之。又從爲之辭。

○孟子致爲臣而歸。王就見孟子曰。前日願見而不可得。得侍同朝甚喜。今又棄寡人而歸。不識可以繼此而得見乎。對曰。不敢請耳。固所願也。他日王謂時子曰。我欲中國而其語氣陽尊而陰驕之授孟子室。養弟子以萬鍾。使諸大夫國人。皆有所矜式。飾辭子盍

如馮婦章。先設喩。題下注題意。不復置結語。亦一法也。

▲孟子善用乎字。韓退之獨得此法。

爲我言之。時子因陳子而以告孟子。陳子以時子之言告孟子。孟子曰然。夫時子惡知其不可也。如使予欲富。辭十萬而受萬。是爲欲富乎。季孫曰。異哉子叔疑。使己爲政。不用則亦已矣。又使其子弟爲卿。人亦孰不欲富貴。而獨於富貴之中。有私龍斷焉。古之爲市也。以其所有。易其所無者。有司者治之耳。有賤丈夫焉。必求龍斷而登之。以左右望而罔市利。人皆以爲賤。故從而征之。征商自此賤丈夫始矣。

○孟子去齊。宿於晝。有欲爲王留行者。坐而言。不應。隱几而臥。客不悅曰。弟子齊宿而後敢言。夫子臥而不聽。請勿復敢見矣。曰坐。我明語子。昔者魯繆公無人乎子思之側。則不能安子思。泄柳申詳無人乎繆公之側。則不能安其身。子爲長者慮。而不及子思。子絕長者乎。長者絕子乎。

○孟子去齊。尹士語人曰。不識王之不可以爲湯武。則是不明也。識其不可。然

彼此是非。在尹士口中。斷決定。妙。

誰也下。加所以不豫否則六字看。

且至。則是干澤也。千里而見王。不遇故去。三宿而後出晝。是何濡滯也。士則茲不悅。高子以告。曰。夫尹士惡知予哉。千里而見王。是予所欲也。不遇故去。豈予所欲哉。予不得已也。予三宿而出晝。於予心猶以爲速。王庶幾改之。王如改諸。則必反予。夫出晝而王不予追也。予然後浩然有歸志。予雖然。豈舍王哉。王由足用爲善。王如用予。則豈徒齊民安。天下之民擧安。王庶幾改之。予日望之。予豈若是小丈夫然哉。諫於其君而不受。則怒。悻悻然見於其面。去則窮日之力而後宿哉。（複一哉字省文法。）尹士聞之曰。士誠小人也。

○孟子去齊。充虞路問曰。夫子若有不豫色然。前日虞聞諸夫子曰。君子不怨天。不尤人。曰。彼一時。此一時也。五百年必有王者興。其閒必有名世者。由周而來。七百有餘歲矣。以其數則過矣。以其時考之則可矣。夫天未欲平治天下也。（也字無限俯仰感慨。）如欲平治天下。當今之世。舍我其誰也。吾何爲不豫哉。

○孟子去齊。居休。公孫丑問曰。仕而不受祿。古之道乎。曰非也。於崇吾得見王。退而有去志。不欲變。故不受也。繼而有師命。不可以請。久於齊非我志也。

孟子評點卷之二終

# 孟子評點　卷之三

## 滕文公章句上 凡五章

○滕文公爲世子。將之楚。過宋而見孟子。孟子道性善。言必稱堯舜。世子自楚反。復見孟子。孟子曰。世子疑吾言乎。（古今來人若通病唯在不決行而已）夫道一而已矣。成覸謂齊景公曰。彼丈夫也。我丈夫也。吾何畏彼哉。顏淵曰。舜何人也。予何人也。有爲者亦若是。公明儀曰。文王我師也。周公豈欺我哉。今滕絕長補短。將五十里也。猶可以爲善國。書曰。若藥不瞑眩。厥疾不瘳。

○滕定公薨。世子謂然友曰。昔者孟子嘗與我言於宋。於心終不忘。今也不幸至於大故。吾欲使子問於孟子。然後行事。然友之鄒。問於孟子。孟子曰。不亦善

▲結得簡。承得徹。

乎。親喪固所自盡也。曾子曰。生事之以禮。死葬之以禮。祭之以禮。可謂孝矣。諸
（古人之學。非如後儒。可知也）
侯之禮。吾未之學也。雖然吾嘗聞之矣。三年之喪。齊疏之服。飦粥之食。自天子
達於庶人。三代共之。然友反命。定爲三年之喪。父兄百官皆不欲。曰。吾宗國魯（如此議論古今同然）
先君莫之行。吾先君亦莫之行也。至於子之身而反之不可。且志曰。喪祭從先
祖。曰。吾有所受之也。謂然友曰。吾他日未嘗學問。好馳馬試劍。今也父兄百官
不我足也。恐其不能盡於大事。子爲我問孟子。然友復之鄒問孟子。孟子曰。然。
不可以他求者也。孔子曰。君薨。聽於冢宰。歠粥面深墨。卽位而哭。百官有司莫
敢不哀。先之也。上有好者。下必有甚焉者矣。君子之德風也。小人之德草也。草
尚之風必偃。（孔子之語止於偃）是在世子。然友反命。世子曰。然。是誠在我。（是皆國大本大體不可暫廢一件）五月居廬。未有命戒。百
官族人可謂曰知。及至葬。四方來觀之。顏色之戚。哭泣之哀。弔者大悅。（同體同情之人）
○滕文公問爲國。孟子曰。民事不可緩也。詩云。晝爾于茅。宵爾索綯。亟其乘屋。

注疏語入文。却古雅。兩處皆用注疏。古雅鏗鏘。

是學詩之有益實用者。

其始播百穀。民之爲道也。有恆產者有恆心。無恆產者無恆心。苟無恆心。放辟邪侈。無不爲已。及陷乎罪。然後從而刑之。是罔民也。焉有仁人在位。罔民而可爲也。是故賢君必恭儉禮下。取於民有制。陽虎曰。爲富不仁矣。爲仁不富矣。夏后氏五十而貢。殷人七十而助。周人百畝而徹。其實皆什一也。徹者徹也。助者藉也。龍子曰。治地莫善於助。莫不善於貢。（龍子語止此）貢者（揚炎）校數歲之中以爲常。樂歲粒米狼戾。多取之而不爲虐。則寡取之。凶年糞其田而不足。則必取盈焉。爲民父母。使民盻盻然將終歲勤動。不得以養其父母。又稱貸而益之。使老稚轉乎溝壑。惡在其爲民父母也。夫世祿。滕固行之矣。詩云。雨我公田。遂及我私。惟助爲有公田。由此觀之。雖周亦助也。設爲庠序學校以教之。庠者養也。校者教也。序者射也。夏曰校。殷曰序。周曰庠。學則三代共之。皆所以明人倫也。人倫明於上。小民親於下。有王者起。必來取法。是爲王者師也。詩云。周雖舊邦。其命惟新。文王

▲以上已了一篇。以下措置區畫。勉之。即是力行。

在君與子。亦是大本大機。

▲是問答大文字。作冊書文者。取法于此足矣。

之謂也。子力行之。亦以新子之國。（畢竟顧力行如何而已）（新國應上文爲國字）使畢戰問井地。孟子曰。子之君將行仁政。選擇而使子。子必勉之。夫仁政。必自經界始。經界不正。井地不鈞。穀祿不平。是故暴君汙吏。必慢其經界。經界既正。分田制祿。可坐而定也。夫滕壤地褊小。將爲君子焉。將爲野人焉。無君子莫治野人。無野人莫養君子。請野九一而助。國中什一使自賦。卿以下必有圭田。圭田五十畝。餘夫二十五畝。死徙無出鄉。鄉田同井。出入相友。守望相助。疾病相扶持。則百姓親睦。方里而井。井九百畝。其中爲公田。八家皆私百畝。同養公田。公事畢。然後敢治私事。所以別野人也。此其大略也。若夫潤澤之。則在君與子矣。

○有爲神農之言者許行。自楚之滕。踵門而告文公曰。遠方之人聞君行仁政。願受一廛而爲氓。文公與之處。其徒數十人。皆衣褐。捆屨織席。以爲食。陳良之徒陳相與其弟辛。負耒耜而自宋之滕。曰。聞君行聖人之政。是亦聖人也。願爲

一句如轉圓石千仞之山。下文數百言。皆趨勢滾下。▲拴入口語。拏定去以出已議論。不如此敘妙。不足以服人。

聖人氓。陳相見許行而大悅。盡棄其學而學焉。陳相見孟子。道許行之言曰。滕君。則誠賢君也。雖然未聞道也。君未知君道 賢者與民並耕而食。此其主意 饔飧而治。今也滕有倉廩府庫。則是厲民而以自養也。惡得賢。孟子曰。我却不言主意先反問之尤妙先問種粟後及它事 許子必種粟而後食乎。曰然。許子必織布而後衣乎。曰否。鉤其口中然字故能鉤得其否字也 許子衣褐。許子冠乎。曰冠。曰奚冠。曰冠素。曰自織之與。曰否。以粟易之。曰許子奚爲不自織。曰害於耕。曰許子以釜甑爨。以鐵耕乎。曰。然。自爲之與。曰否。以粟易之。直粘其口中語而起 以粟易械器者。不爲厲陶冶。微露 陶冶亦以其械器易粟者。豈爲厲農夫哉。且許子何不爲陶冶。舍皆取諸其宮中而用之。何爲紛紛然與百工交易。何許子之不憚煩。曰。百工之事。亦粘起 固不可耕且爲也。然則治天下。大露 獨可耕且爲與。有大人之事。有小人之事。且一人之身。而百工之所爲備。如必自爲而後用之。是率天下而路也。故曰。古語似止六字 或勞心。或勞力。勞心者治人。勞力者治於人。治於人者食人。治人者食於人。天下之通義也。當堯之時。天下猶未平。洪

水横流。氾濫於天下。草木暢茂。禽獸繁殖。五穀不登。禽獸偪人。獸蹄鳥跡之道。交於中國。堯獨憂之。擧舜而敷治焉。舜使益掌火。益烈山澤而焚之。禽獸逃匿。禹疏九河。瀹濟漯。而注諸海。決汝漢。排淮泗。而注之江。然後中國可得而食也。當是時也。禹八年於外。三過其門而不入。雖欲耕得乎。（只一句回顧處即頓挫下文兩次皆用此法滾下之勢不一放）后稷教民稼穡。樹藝五穀。（放了）五穀熟而民人育。人之有道也。飽食煖衣。逸居而無教。則近於禽獸。聖人（指舜）有憂之。使契爲司徒。教以人倫。父子有親。君臣有義。夫婦有別。長幼有序。朋友有信。放勳曰。勞之來之。匡之直之。輔之翼之。使自得之。又從而振德之。聖人之憂民如此。而暇耕乎。堯以不得舜爲己憂。舜以不得禹皐陶爲己憂。夫以百畝之不易爲己憂者。農夫也。分人以財。謂之惠。教人以善。謂之忠。爲天下得人者。謂之仁。是故以天下與人易。爲天下得人難。孔子曰。大哉堯之爲君。惟天爲大。惟堯則之。蕩蕩乎。民無能名焉。君哉舜也。巍巍乎。有天下而不與焉。堯舜之治天

▲三排耕字。為結。篇法匝密。以下餘論。

▲以變字相呼應。以下一問答。以為字相呼應。

下豈無所用其心哉。亦不用於耕耳。吾聞用夏變夷者。未聞變於夷者也。陳良楚產也。悅周公仲尼之道。北學於中國。北方之學者。未能或之先也。彼所謂豪傑之士也。子之兄弟。事之數十年。師死而遂倍之。（言衆人不倍師）昔者孔子沒。三年之外。門人治任將歸。入揖於子貢。相嚮而哭。皆失聲。然後歸。子貢反。（言子貢不倍師）築室於場。獨居三年。然後歸。他日子夏子張子游。以有若似聖人。欲以所事孔子事之。彊曾子。曾子（言曾子不倍師）曰。不可。江漢以濯之。秋陽以暴之。皜皜乎不可尚已。今也南蠻鴃舌之人。非先王之道。子倍子之師而學之。亦異於曾子矣。吾聞出於幽谷遷于喬木者。未聞下喬木而入於幽谷者。魯頌曰。戎狄是膺。荊舒是懲。周公方且膺之。子是之學。亦為不善變矣。從許子之道。則市賈不貳。國中無偽。雖使五尺之童適市。莫之或欺。布帛長短同。則賈相若。麻縷絲絮輕重同。則賈相若。五穀多寡同。則賈相若。屨大小同。則賈相若。曰。夫物之不齊。物之情也。或相倍蓰。或相什佰。或相千

夫泚也。掩之誠是也。自實事上一轉。下便入議論。何等快利。

萬子比而同之。是亂天下也。巨屨小屨同賈。人豈爲之哉。從許子之道。相率而爲僞者也。惡能治國家。（寫終一小波就數項中獨拍轉折）（只一句咄然而止如斷鐵）

○墨者夷之因徐辟而求見孟子。孟子曰。吾固願見。今吾尚病。病愈我且往見。夷子不來。他日又求見孟子。孟子曰。吾今則可以見矣。不直則道不見。我且直之。吾聞夷子墨者。墨之治喪也。以薄爲其道也。夷子思以易天下。豈以爲非是而不貴也。然而夷子葬其親厚。則是以所賤事親也。徐子以告夷子。夷子曰。儒者之道。古之人若保赤子。此言何謂也。之則以爲愛無差等。施由親始。徐子以告孟子。孟子曰。夫夷子。信以爲人之親其兄之子。爲若親其鄰之赤子乎。（惜用）彼有取爾也。赤子匍匐將入井。非赤子之罪也。且天之生物也。使之一本。而夷子二本故也。蓋上世嘗有不葬其親者。其親死。則擧而委之於壑。他日過之。狐狸食之。蠅蚋姑嘬之。其顙有泚。睨而不視。夫泚也。非爲人泚。中心達於面目。蓋歸反

不下於言語上爭。直抽出心苗。使其一反照。所以屈服。

虆梩而掩之。掩之誠是也。則孝子仁人之掩其親。亦必有道矣。徐子以告夷子。夷子憮然爲間曰。命之矣。

餘意爲結。更矯健。

# 滕文公章句下

凡十章

○陳代曰。不見諸侯。宜若小然。今一見之。大則以王。小則以霸。且志曰。枉尺而直尋。宜若可爲也。孟子曰。昔齊景公田。招虞人以旌。不至。將殺之。志士不忘在溝壑。勇士不忘喪其元。孔子奚取焉。取非其招不往也。如不待其招而往何哉。且夫枉尺而直尋者。以利言也。如以利。則枉尋直尺而利。亦可爲與。昔者趙簡子使王良與嬖奚乘。終日而不獲一禽。嬖奚反命曰。天下之賤工也。或以告王良。良曰。請復之。彊而後可。一朝而獲十禽。嬖奚反命曰。天下之良工也。簡子曰。我使掌與女乘。謂王良。良不可曰。吾爲之範我馳驅。終日不獲一。爲之詭遇。一朝而獲十。詩云。不失其馳。舍矢如破。我不貫與小人乘。請辭。御者且羞與射者比。比而得禽獸。雖若丘陵。弗爲也。如枉道而從彼何也。且子過矣。枉己者。未有

尋大則王小則伯

指諸侯

言只爭一寸一步

廣居正道大道。皆喩中含正說。

兩章設喩大同。用筆各異。

周問仕處三層。問雜仕處一層。而一層中。多少踊躍變化。是文局也。

能直人者也。

○景春曰。公孫衍張儀。豈不誠大丈夫哉。（俗情）一怒而諸侯懼。安居而天下熄。孟子曰。是焉得爲大丈夫乎。（妾婦之道也）子未學禮乎。（此八字是帶說）丈夫之冠也。父命之。女子之嫁也。母命之。往送之門。戒之曰。往之女家。必敬必戒。無違夫子。（故）以順爲正者。妾婦之道也。（然則何）居天下之廣居。（謂大丈夫）立天下之正位。行天下之大道。得志與民由之。不得志獨行其道。富貴不能淫。貧賤不能移。威武不能屈。此之謂大丈夫。

○周霄問曰。古之君子仕乎。孟子曰。仕。傳曰。孔子三月無君則皇皇如也。出疆必載質。公明儀曰。古之人三月無君則弔。（周霄又問）三月無君則弔。不以急乎。曰。士之失位也。猶諸侯之失國家也。禮曰。諸侯耕助。以供粢盛。夫人蠶繅。以爲衣服。犧牲不成。粢盛不潔。衣服不備。不敢以祭。惟士無田。則亦不祭。牲殺器皿。衣服不備。不敢以祭。則不敢以宴。亦不足弔乎。出疆必載質。何也。曰。士之仕也。猶農夫之

▲三段皆以譬喩結之。問答三層、而文法如不窮。韓退之三上宰相書藍本。

耕也。農夫豈爲出疆舍其耒耜哉。曰、晉國亦仕國也。未嘗聞仕如此其急。仕如此其急也、君子之難仕何也。曰、丈夫生而願爲之有室。女子生而願爲之有家。父母之心。人皆有之。不待父母之命、媒妁之言、鑽穴隙相窺、踰牆相從、則父母國人皆賤之。古之人未嘗不欲仕也。又惡不由其道。不由其道而往者、與鑽穴隙之類也。

○彭更問曰、後車數十乘、從者數百人、以傳食於諸侯、不以泰乎。孟子曰、非其道、則一簞食不可受於人。如其道、則舜受堯之天下、不以爲泰。子以爲泰乎。曰、否。士無事而食、不可也。曰、子不通功易事、以羨補不足、則農有餘粟、女有餘布。子如通之、則梓匠輪輿、皆得食於子。於此有人焉。入則孝、出則悌、守先王之道、以待後之學者、而不得食於子。子何尊梓匠輪輿、而輕爲仁義者哉。曰、梓匠輪（三梓匠輪）輿、（輿復自然妥致）其志將以求食也。君子之爲道也、其志亦將以求食與。曰、子何以其志爲哉。

▲三問三對。末更端自我問之。而斷以一語。篇法絕佳。

後世唯漢祖伐秦。唐宋伐隋。明祖伐元。庶幾似之。我邦神武征大和。桓武征蝦夷。後醍醐征北條氏。有此氣象。

其有功於子。可食而食之矣。〔語未畢忽出一問奇變〕且子食志乎。食功乎。曰。食志。曰。有人於此。毀瓦畫〔四字唯形容拙工耳非言故意爲害者也〕墁。其志將以求食也。則子食之乎。曰。否。曰。然則子非食志也。食功也。〔兩鉤出其口中否字自然起結〕

○萬章問曰。宋小國也。今將行王政。齊楚惡而伐之。則如之何。孟子曰。湯居亳。與葛爲鄰。葛伯放而不祀。湯使人問之曰。何爲不祀。曰。無以供犧牲也。湯使遺之牛羊。葛伯食之。又不以祀。湯又使人問之曰。何爲不祀。曰。無以供粢盛也。湯使亳衆往爲之耕。老弱饋食。葛伯率其民。要其有酒食黍稻者奪之。不授者殺之。有童子以黍肉餉。殺而奪之。書曰。葛伯仇餉。此之謂也。爲其殺是童子而征之。四海之內皆曰。非富天下也。爲匹夫匹婦復讎也。湯始征。自葛載。十一征而無敵於天下。東面而征西夷怨。南面而征北狄怨。曰。奚爲後我。民之望之。若大旱之望雨也。歸市者弗止。芸者不變。誅其君弔其民。如時雨降。民大悅。書曰。徯我后。后來其無罰。有攸不惟臣。東征綏厥士女。匪厥玄黃。紹我周王見休。惟臣

以上唯述古事實。此處以此五句成議論。絶後世文人逕蹊。

行文措詞。古雅秀拔。愈玩愈妙。全在對待重複處生姿。是古文佳處。

▲語々古雅。篇法章法。句法字法。皆具。

▲結得陗勁。

附于大邑周。其君子實玄黄于匪。以迎其君子。其小人簞食壺漿。以迎其小人。救民於水火之中。取其殘而已矣。太誓曰。我武惟揚。侵于之疆。則取于殘。殺伐用張。于湯有光。不行王政云爾。苟行王政。四海之内。皆擧首而望之。欲以爲君。齊楚雖大。何畏焉。

○孟子謂戴不勝曰。子欲子之王之善與。我明告子。有楚大夫於此。欲其子之齊語也。則使齊人傅諸。使楚人傅諸。曰。使齊人傅之。曰。一齊人傅之。衆楚人咻之。雖日撻而求其齊也。不可得矣。引而置之莊嶽之閒數年。雖日撻而求其楚。亦不可得矣。子謂薛居州善士也。使之居於王所。在於王所者。長幼卑尊皆薛居州也。王誰與爲不善。在王所者。長幼卑尊皆非薛居州也。王誰與爲善。一薛居州。獨如宋王何。（句收束主意在此。）

○公孫丑問曰。不見諸侯何義。孟子曰。古者不爲臣不見。段干木踰垣而辟之。

泄柳閉門而不內。是皆已甚。迫斯可以見矣。陽貨欲見孔子。而惡無禮。大夫有賜於士。不得受於其家。則往拜其門。陽貨矙孔子之亡也。而饋孔子蒸豚。孔子亦矙其亡也。而往拜之。當是時陽貨先。豈得不見。曾子曰。脅肩諂笑。病于夏畦。子路曰。未同而言。觀其色赧赧然。非由之所知也。由是觀之。則君子之所養可知已矣。

自是兩章牽而合之則費解矣

○戴盈之曰。什一去關市之征。今茲未能。請輕之。以待來年然後已。何如。孟子曰。今有人日攘其鄰之雞者。或告之曰。是非君子之道。曰。請損之。月攘一雞以待來年。然後已。如知其非義。斯速已矣。何待來年。

不置對語直出喩妙

此句寫得問者口吻不易一字妙末二句是對正意然不待道之而意已了然於喩中矣孟子每々有此法

○公都子曰。外人皆稱夫子好辯。敢問何也。孟子曰。予豈好辯哉。予不得已也。天下之生久矣。一治一亂。當堯之時。水逆行氾濫於中國。蛇龍居之。民無所定。下者爲巢。上者爲營窟。書曰。洚水警余。洚水者洪水也。使禹治之。禹掘地而注

列我三聖人撥亂處。然後入自己身上事業來。文勢一開一闔。昌黎原道。韻學此樣子。

之海。驅蛇龍而放之菹。水由地中行。江淮河漢是也。險阻既遠。鳥獸之害人者消。然後人得平土而居之。堯舜既沒。聖人之道衰。暴君代作。壞宮室以爲汙池。民無所安息。棄田以爲園囿。使民不得衣食。邪說暴行又作。園囿汙池沛澤多而禽獸至。及紂之身。天下又大亂。周公相武王。誅紂伐奄。三年討其君。驅飛廉於海隅而戮之。滅國者五十。驅虎豹犀象而遠之。天下大悅。書曰。丕顯哉文王謨。丕承哉武王烈。佑啓我後人。咸以正無缺。世衰道微。邪說暴行有作。臣（州吁[illegible]）弑其君者有之、子（許子翟）弑其父者有之。孔子懼。作春秋。春秋天子之事也。是故孔子曰。知我者其惟春秋乎。罪我者其惟春秋乎。聖王不作。諸侯放恣。處士橫議。楊朱墨翟之言盈天下。天下之言。不歸楊則歸墨。楊氏爲我。是無君也。墨氏兼愛。是無父也。無父無君。是禽獸也。公明儀曰。庖有肥肉。廏有肥馬。民有飢色。野有餓莩。此率獸而食人也。楊墨之道不息。孔子之道不著。是邪說誣民。充塞仁義也。仁

▲一語起結。此法甚好。蘇子瞻善得此法。一意重提。作起作結。開後世法門。卻剩二兩句。在尾一掉。文氣更豐。文心更永。

義充塞。則率獸食人。人將相食。吾爲此懼。閑先聖之道。距楊墨（指其人）。放淫辭（指其書）。邪說者不得作。作於其心。害於其事。作於其事。害於其政。聖人復起。不易吾言矣。（再收疊前）昔者（三段然後大繳）禹抑洪水。而天下平。周公兼夷狄。驅猛獸。而百姓寧。孔子成春秋。而亂臣賊子懼。詩云。戎狄是膺。荊舒是懲。則莫我敢承。無父無君。是周公所膺也。我亦欲正人心。息邪說。距詖行。放淫辭。以承三聖者。豈好辯哉。予不得已也。能言距楊墨者。聖人之徒也。

○匡章曰。陳仲子豈不誠廉士哉。居於陵。三日不食。耳無聞。目無見也。井上有李。螬食實者過半矣。匍匐往將食之。三咽。然後耳有聞。目有見。孟子曰。（欲抑先揚）於齊國之士。吾必以仲子爲巨擘焉。雖然。仲子惡能廉。充仲子之操。（先下一捧然後統解此叟慣手）則蚓而後可者也。夫蚓。上食槁壤。（解蚓止此不復見至尾一見便結後世所不決爲）下飲黃泉。仲子所居之室。伯夷之所築與。抑亦盜跖之所築與。所食之粟。伯夷之所樹與。抑亦盜跖之所樹與。是未可知也。曰。是何傷哉。彼身

亦一語起結。

織屨。妻辟纑。以易之也。曰。仲子齊之世家也。兄戴。蓋祿萬鍾。以兄之祿爲不義之祿而不食也。以兄之室爲不義之室而不居也。辟兄離母處於於陵。他日歸。則有饋其兄生鵝者。己頻顣曰。惡用是鶃鶃者爲哉。他日其母殺是鵝也與之食之。其兄自外至曰。是鶃鶃之肉也。出而哇之。以母則不食。以妻則食之。以兄之室則弗居。以於陵則居之。是尚爲能充其類也乎。若仲子者。蚓而後充其操者也。

甚言其不可行也

頗與魚熊章章結法語意相類亦此叟口吻

孟子評點卷之三　終

# 孟子評點　卷之四

## 離婁章句上 凡二十八章

▲自家之論。與引證之語。相夾錯而爲章。逍遙從容。西京之祖也。

○孟子曰。離婁之明。公輸子之巧。不以規矩。不能成方員。師曠之聰。不以六律。不能正五音。堯舜之道。不以仁政。不能平治天下。今有仁心仁聞。而民不被其澤。不可法於後世者。不行先王之道也。故曰。徒善不足以爲政。徒法不能以自行。詩云。不愆不忘。（此句結上起下）率由舊章。遵先王之法而過者。未之有也。聖人既竭目力焉。繼之以規矩準繩。（仍是客）以爲方員平直。（似孫子說奇正處文法）不可勝用也。既竭耳力焉。繼之以六律。（仍是客）正五音。不可勝用也。既竭心思焉。（主中之主）繼之以不忍人之政。而仁覆天下矣。（矣字挫）故曰。爲高必因丘陵。爲下必因川澤。爲政不因先王之道。可謂智乎。是以惟仁者宜在高位。

首二句。正喩對峙。意已了然。以下注疏之而已。敷衍之而已。曲折之而已。數章皆用詩書古詞。以此之謂也一句爲結。而時有不置結語者。可悟文勢語氣。自然變化處。

不仁而在高位。是播其惡於衆也。上無道揆也。下無法守也。朝不信道。工不信度。君子犯義。小人犯刑。國之所存者幸也。故曰。城郭不完。兵甲不多。非國之災也。田野不辟。貨財不聚。非國之害也。上無禮。下無學。賊民興。喪無日矣。詩曰。天之方蹶。無然泄泄。泄泄猶沓沓也。（注疏語自成波瀾）事君無義。進退無禮。言則非先王之道者。猶沓沓也。故曰。責難於君謂之恭。陳善閉邪謂之敬。（平行交宜以蟬聯收之）吾君不能謂之賊。

○孟子曰。規矩方員之至也。聖人人倫之至也。欲爲君盡君道。欲爲臣盡臣道。二者皆法堯舜而已矣。不以舜之所以事堯事君。不敬其君者也。不以堯之所以治民治民。賊其民者也。孔子曰。道二。仁與不仁而已矣。暴其民甚則身弒國亡。不甚則身危國削。名之曰幽厲。雖孝子慈孫。百世不能改也。詩云。殷鑒不遠。在夏后之世。此之謂也。

○孟子曰。三代之得天下也以仁。（道一而已矣）其失天下也以不仁。（無他）國之所以廢興存亡者（無他）（包第二十二章）

受命字。恥字。師字。隨手引證轉摺。是等文膽。後來唯大蘇時有之。

亦然。天子不仁。不保四海。諸侯不仁。不保社稷。卿大夫不仁。不保宗廟。士庶人不仁。不保四體。今惡死亡而樂不仁。是猶惡醉而強酒（長星勸汝一杯酒好頭顱誰當斷之）

○孟子曰。愛人不親。反其仁。治人不治。反其智。禮人不答。反其敬。行有不得者。皆反求諸己。其身正而天下歸之。詩云。永言配命。自求多福。（何其平易簡約也）

○孟子曰。人有恆言。皆曰。天下國家。天下之本在國。國之本在家。家之本在身。（一篇大學注疏此章而已正心誠意亦身中事目也）

○孟子曰。爲政不難。不得罪於巨室。巨室之所慕。一國慕之。一國之所慕。天下慕之。故沛然德教溢乎四海。（實話實着後世人君有志而不成者皆坐此姦雄得志亦由此）

○孟子曰。天下有道。小德役大德。小賢役大賢。（三代盛時）天下無道。小役大。弱役強。（春秋戰國）斯二者天也。（換時）（度勢非是常套議論）順天者存。逆天者亡。齊景公曰。既不能令。又不受命。是絕物也。涕出而女於吳。今也小國師大國。而恥受命焉。是猶弟子而恥受命於先師也。如恥之。莫若師文王。師文王。大國五年。小國七年。必爲政於天下矣。詩云。商之孫子。其

古訓確切痛快。使三人悚然在二此等處一。

▲篇法匝密。語調妙絕。

▲正說。

麗不億。上帝既命。侯于周服。侯服于周。天命靡常。殷士膚敏。祼將于京。孔子曰。仁不可爲衆也。夫國君好仁。天下無敵。今也欲無敵於天下而不以仁。是猶執熱而不以濯也。詩云。誰能執熱。逝不以濯。

○孟子曰。不仁者可與言哉。安其危（廿二史事跡歷然）而利其菑。樂其所以亡者。（古文委致每在重複）不仁而可與言。（而轉喉處）則何亡國敗家之有。有孺子。歌曰。滄浪之水清兮。可以濯我纓。滄浪之水濁兮。可以濯我足。孔子曰。小子聽之。清斯濯纓。濁斯濯足矣。自取之也。夫人必自侮。然後人侮之。家必自毀。而後人毀之。國必自伐。而後人伐之。太甲曰。天作孽。猶可違。自作孽。不可活。此之謂也。

○孟子曰。（破題　人君有天下非有綱維之也得民心之謂也故）桀紂之失天下也。失其民也。失其民者。失其心也。（承題）得天下有道。得其民。斯得天下矣。得其民有道。得其心。斯得民矣。（以上客以下主。〇〇〇）得其心有道。（自篇首層累而下者看）所欲與之聚之。所（下手處在此〇　題腹）惡勿施爾也。民之歸仁也。猶水之就下。獸之走壙也。故爲淵敺魚者獺也。爲叢

▲反說。

引證陡結。絶作。

說大經濟。大作用。全自誠身上作出。

敺爵者鸇也。爲湯武敺民者桀與紂也。（回顧）今天下之君。有好仁者。則諸侯皆爲之（頓挫）敺矣。雖欲無王。不可得已。（題尾）今之欲王者。猶七年之病。求三年之艾也。（又粘王字起借一喩生議論）苟爲不畜。（自）終身不得。（喩入正不費力）苟不志於仁。終身憂辱。以陷於死亡。詩云。其何能淑。載胥及溺。（引詩爲結篇法肅然）此之謂也。

○孟子曰。自暴者。不可與有言也。自棄者。不可與有爲也。言非禮義。（唐德宗）謂之自暴也。（曰）吾身不能居仁由義。（唐文宗）謂之自棄也。（是等要體貼其意知其不苟日）仁人之安宅也。義人之正路也。曠安宅而弗居。舍正路而不由。哀哉。（而行荆棘）

○孟子曰。道在爾。（良知）而求諸遠。事在易。（良能）而求之難。（俗儒見識）人人親其親。長其長。而天下平。

○孟子曰。居下位。而不獲於上。民不可得而治也。獲於上有道。不信於友。弗獲於上矣。信於友有道。事親弗悅。弗信於友矣。悅親有道。反身不誠。不悅於親矣。誠身有道。不明乎善。不誠其身矣。（結穴在此兩句然誠字是眼目故下文專說誠字功夫誠字效驗）是故誠者天之道也。思誠者人之道也。（郭子）至誠

▲妙語。

眸子胸中。若出後人口。人必嗤其語不雅。

儀庶幾似之

而不動者。未之有也。不誠未有能動者也。

○孟子曰。伯夷辟紂。居北海之濱。聞文王作興曰。盍歸乎來。吾聞西伯善養老者。太公辟紂。居東海之濱。聞文王作興曰。盍歸乎來。吾聞西伯善養老者。二老者。天下之大老也。而歸之。是天下之父歸之也。天下之父歸之。其子焉往。諸侯有行文王之政者。七年之內。必爲政於天下矣。

○孟子曰。求也爲季氏宰。無能改於其德。而賦粟倍他日。孔子曰。求非我徒也。小子鳴鼓而攻之可也。由此觀之。君不行仁政。而富之。皆棄於孔子者也。況於爲之强戰。爭地以戰。殺人盈野。爭城以戰。殺人盈城。此所謂率土地而食人肉。罪不容於死。故善戰者服上刑。連諸侯者次之。辟草萊任土地者次之。

徐々而入

妙語

故爲拗辭不近人情語以警世耳

○孟子曰。存乎人者。莫良於眸子。眸子不能掩其惡。胸中正。則眸子瞭焉。胸中不正。則眸子眊焉。聽其言也。觀其眸子。人焉廋哉。

孟叟對人問。每以正理大道。明々白々。無枝蔓。不逆詐而防之。而問者屈服。如刀斬亂絲。爲不喩其旨者決斷之。不戰之戰。孟子每形容人之聲口。故不煩言而了然。則字。也字。矣字。轉摺極徹。決斷極定。

○孟子曰。恭者不侮人。儉者不奪人。侮奪人之君。惟恐不順焉。惡得爲恭儉。恭儉豈可以聲音笑貌爲哉。

不見貫生自謂過之

○淳于髡曰。男女授受不親。禮與。孟子曰。禮也。曰。嫂溺則援之以手乎。曰。嫂溺不援。是豺狼也。男女授受不親。禮也。嫂溺援之以手者。權也。曰。今天下溺矣。夫子之不援。何也。曰。天下溺。援之以道。嫂溺。援之以手。子欲手援天下乎。

○公孫丑曰。君子之不教子何也。孟子曰。勢不行也。教者必以正。以正不行。繼之以怒。繼之以怒。則反夷矣。夫子教我以正。夫子未出於正也。則是父子相夷也。父子相夷。則惡矣。古者易子而教之。父子之閒不責善。責善則離。離則不祥莫大焉。

故曰勢不行也

○孟子曰。事孰爲大。事親爲大。守孰爲大。守身爲大。不失其身而能事其親者。吾聞之矣。失其身而能事其親者。吾未之聞也。孰不爲事。事親。事之本也。孰不

爲守。守身。守之本也。（自是兩章）曾子養曾皙。必有酒肉。將徹。必請所與。問有餘。必曰有。曾皙死。曾元養曾子。必有酒肉。將徹。不請所與。問有餘。曰亡矣。將以復進也。此所謂養口體者也。若曾子則可謂養志也。事親若曾子者。可也。

○孟子曰。人不足與適也。政不足閒也。惟大人爲能格君心之非。（陸宣公庶幾似之）君仁莫不仁。君義莫不義。君正莫不正。一正君而國定矣。

○孟子曰。有不虞之譽。有求全之毀。

○孟子曰。人之易其言也。無責耳矣。（諸君唯以舌擊賊）

○孟子曰。人之患在好爲人師。（是昌黎師說所以不行）（或人自滿）

○樂正子從於子敖之齊。樂正子見孟子。孟子曰。子亦來見我乎。（十分冷笑）曰。先生何爲出此言也。曰。子來幾日矣。曰。昔者。曰。昔者。則我出此言也。不亦宜乎。曰。舍館未定。曰。子聞之也。（十分親熱）舍館定。然後求見長者乎。曰。克有罪。（十分心服）

獨在樂上爲委曲解。自然波瀾。

○孟子謂樂正子曰。子之從於子敖來。徒餔啜也。我不意。子學古之道。而以餔啜也。

○孟子曰。不孝有三。無後爲大。舜不告而娶。爲無後也。君子以爲猶告也。

○孟子曰。仁之實事親是也。義之實從兄是也。智之實知斯二者弗去是也。禮之實節文斯二者是也。樂之實樂斯二者。樂則生矣。生則惡可已也。惡可已。則不知足之蹈之手之舞之。

○孟子曰。天下大悅而將歸己。（突然妙）視天下悅而歸己。猶草芥也。惟舜爲然。不得乎親。不可以爲人。不順乎親。不可以爲子。舜盡事親之道。而瞽瞍厎豫。瞽瞍厎豫。而天下化。瞽瞍厎豫。而天下之爲父子者定。此之謂大孝。

此章告君之體如此。後人遂以此爲孟子之書不可爲訓。亦是癡人說夢。

# 離婁章句下

凡三十三章

○孟子曰。舜生於諸馮。遷於負夏。卒於鳴條。東夷之人也。（▲金阿骨打可以藉口）文王生於岐周。卒於畢郢。西夷之人也。（元太祖鐵木眞可以藉口）地之相去也。千有餘里。世之相後也。千有餘歲。得志行乎中國。若合符節。先聖後聖。其揆一也。

○子產聽鄭國之政。以其乘輿。濟人於溱洧。孟子曰。惠而不知爲政。歲十一月徒杠成。十二月輿梁成。民未病涉也。（苟如此）君子平其政。行辟人可也。焉得人人而濟之。故爲政者。每人而悅之。日亦不足矣。（以上兩語一到則了然。古文此類甚多）

○孟子告齊宣王曰。君之視臣如手足。則臣視君如腹心。（雲臺廿八將凌煙廿四人）君之視臣如犬馬。則臣視君如國人。（漢眞宰書代）君之視臣如土芥。則臣視君如寇讎。（秦始隋煬）王曰。禮爲舊君有服。何如斯可爲服矣。曰。諫行言聽。膏澤下於民。有故而去。則君使人導之出疆。又先於

▲註意處。却在寇讎句。下文亦取之爲結。

其所往。去三年不反。然後收其田里。此之謂三有禮焉。如此則爲之服矣。今也爲臣。諫則不行。言則不聽。膏澤不下於民。有故而去。則君搏執之。又極之於其所往。去之日。遂收其田里。此之謂寇讎。寇讎何服之有。（警世君也）

○孟子曰。無罪而殺士。則大夫可以去。無罪而戮民。則士可以徙。（東漢黨人唐白馬明東林不明此義）

○孟子曰。君仁莫不仁。君義莫不義。

○孟子曰。非禮之禮。非義之義。大人弗爲。

○孟子曰。中也養不中。才也養不才。故人樂有賢父兄也。（樂字正從養字來）如中也棄不中。才也棄不才。則賢不肖之相去。其閒不能以寸。（妙語）

○孟子曰。人有不爲也。而後可以有爲。（六經之旨包括在此二句中。中三字是大節目大機括）

○孟子曰。言人之不善。當如後患何。

○孟子曰。仲尼不爲已甚者。

○孟子曰。大人者。（郭子儀）言不必信。行不必果。惟義所在。

○孟子曰。大人者不失其赤子之心者也。

○孟子曰。養生者。不足以當大事。惟送死可以當大事。（霍子孟諸葛孔明）（可以托六尺之孤）

○孟子曰。君子深造之以道。欲其自得之也。自得之則居之安。居之安則資之深。資之深則取之左右逢其原。故君子欲其自得之也。（會心實歷語它人不能喩）

○孟子曰。博學而詳說之。將以反說約也。（不然則大博亦何益）

○孟子曰。以善服人者。（漢文帝）未有能服人者也。以善養人。然後能服天下。天下不心服而王者。未之有也。

○孟子曰。言無實不祥。不祥之實。蔽賢者當之。（李林甫）

○徐子曰。仲尼亟稱於水曰。水哉水哉。何取於水也。（若使道學先生得之。許大高妙的話出之不窮）孟子曰。原泉混混。不舍晝夜。盈科而後進。（進之有漸）放乎四海。（會之有歸）有本者如是。是之取爾。苟爲無本。（看其轉摺處。與上文意思相反。雨上不）七八月之閒雨集。

是亦水也。而仲尼不曰水哉水哉。待也下。加此句看。

此孟子曰三字。移在舜字上可也。或全刪去。則可以連人異禽獸云々爲一章矣。

上下數千年。縱橫一萬里。數句盡之。大治亂大學問。包括不餘。語帶嘆息意。亦帶欣幸意。

（合晝夜相反）溝澮皆盈。（與盈科相反）其涸也。可立而待也。（與放乎四海相反）故聲聞過情。君子恥之。（看其收結處）

○孟子曰。人之所以異於禽獸者幾希。（所謂道心惟微）庶民去之。君子存之。（如藥合中麝香眞珠）舜明於庶物。（自是兩章）察於（與物）人倫。（格知至）由仁義行。非行仁義也。（意誠心正似）

○孟子曰。禹惡旨酒。而好善言。湯執中。立賢無方。文王視民如傷。望道而未之見。武王不泄邇。不忘遠。周公思兼三王。以施四事。其有不合者。仰而思之。夜以繼日。幸而得之。坐以待旦。

○孟子曰。王者之迹熄。而詩亡。詩亡然後春秋作。晉之乘。楚之檮杌。魯之春秋一也。其事則齊桓晉文。其文則史。孔子曰。其義則丘竊取之矣。（春秋之義）

○孟子曰。君子之澤。五世而斬。小人之澤。五世而斬。予未得爲孔子徒也。予私淑諸人也。

○孟子曰。可以取。（一思）可以無取。（再思）取傷廉。（決再思）可以與。可以無與。與傷惠。可以死。可以無

▲是與子產放魚同意。皆引古解今也。而是獨敍事不置議論。置議論則意索矣。意已明於外也。是妙在唯敍事敍言不置己議論。

死。死傷勇。（故君子不可不學也）

○逢蒙學射於羿。盡羿之道。思天下惟羿為愈己。於是殺羿。孟子曰。是亦羿有罪焉。公明儀曰。宜若無罪焉。曰。薄乎云爾。惡得無罪。鄭人使子濯孺子侵衛。衛使庾公之斯追之。子濯孺子曰。今日我疾作。不可以執弓。吾死矣夫。問其僕曰。追我者誰也。其僕曰。庾公之斯也。曰。吾生矣。其僕曰。庾公之斯。衛之善射者也。夫子曰。吾生何謂也。（總於重複處生姿致）曰。庾公之斯學射於尹公之他。尹公之他學射於我。夫尹公之他端人也。其取友必端矣。庾公之斯至。曰。夫子何為不執弓。曰今日我疾作。不可以執弓。曰。小人學射於尹公之他。（看其繁不殺處）尹公之他學射於夫子。我不忍以夫子之道反害夫子。雖然今日之事君事也。我不敢廢。抽矢扣輪去其金。發乘矢。（敍事却簡淨與前言語繁簡相）（犯成文。）而後反。

○孟子曰西子蒙不潔。則人皆掩鼻而過之。雖有惡人。齊戒沐浴。則可以祀上

公孫丑下篇與孟子爲卿於齊章合看。古文每似繁而簡。似直而曲。似率而深。

▲單起。

▲一頓。

帝。

○孟子曰。天下之言性也。則故而已矣。故者以利爲本。所惡於智者爲其鑿也。如智者若禹之行水也。則無惡於智矣。禹之行水也。行其所無事也。如智者亦行其所無事。則智亦大矣。天之高也。星辰之遠也。苟求其故。千歳之日至。可坐而致也。（推千歳已前求千歳以後）

○公行子有子之喪。右師往弔。入門（右師）有進而與右師言者。有就右師之位而與右師言者。孟子不與右師言。右師不悅曰。諸君子皆與驩言。孟子獨不與驩言。是簡驩也。孟子聞之曰。禮朝廷不歷位而相與言。不踰階而相揖也。我欲行禮。子敖以我爲簡。不亦異乎。

○孟子曰。君子所以異於人者。以其存心也。君子以仁存心。以禮存心。仁者愛人。有禮者敬人。愛人者人恆愛之。（順境）敬人者人恆敬之。有人於此。（逆境）其待我以橫逆。

▲一頓。

學問總爲逆境。逆境不爲患。乃始君子。故特於逆境上詳之。

▲一挫。

▲也字。矣字。錯雜爲節奏。而以焉字斷定之。是前後筋骨處。

▲双收。

皆然下加不然則何必急如是。是顏子已故十三字看。

▲文字凡用譬喩。乃有委致。不襄寡學文者宜知此境。

則君子必自反也。我必不仁也。必無禮也。此物奚宜至哉。其自反而仁矣。自反而有禮矣。其橫逆由是也。君子必自反也。我必不忠。自反而忠矣。其橫逆由是也。君子曰。此亦妄人也已矣。如此則與禽獸奚擇哉。於禽獸又何難焉。是故君（結上）子有終身之憂。無一朝之患也。乃若所憂則有之。（一轉出變調正々堂々）舜人也。我亦人也。舜爲法於天下。可傳於後世。我由未免爲鄉人也。是則可憂也。憂之如何。如舜而已矣。若（必）（也下有脫誤）夫君子所患則亡矣。非仁無爲也。非禮無行也。如有一朝之患。則君子不患矣。

○禹稷當平世。（疑案）三過其門而不入。孔子賢之。顏子當亂世。居於陋巷。一簞食。一瓢飲。人不堪其憂。顏子不改其樂。孔子賢之。孟子曰。禹稷顏回同道。（斷案）禹思天下有溺者。由己溺之也。稷思天下有飢者。由己飢之也。是以如是其急也。禹稷顏子。易地則皆然。今有同室之人鬭者。救之。雖被髮纓冠而救之可也。（自然委致）鄉鄰有鬭者。被髮纓冠而往救之。則惑也。（自然頓挫）雖閉戶可也。

▲結語法。

○公都子曰。匡章通國皆稱不孝焉。夫子與之遊。又從而禮貌之。敢問何也。孟子曰。世俗所謂不孝者五。惰其四支。不顧父母之養。一不孝也。博奕好飲酒。不顧父母之養。二不孝也。好貨財私妻子。不顧父母之養。三不孝也。從耳目之欲。以爲父母戮。四不孝也。好勇鬭很。以危父母。五不孝也。章子有一於是乎。（先爲他淸悵然）夫章子。（後說其有罪處）子父責善而不相遇也。責善朋友之道也。父子責善。賊恩之大者。（是則不爲無罪也然亦有可憐處）夫章子豈不欲有夫妻子母之屬哉。爲得罪於父。不得近。出妻屛子。終身不養焉。其設心以爲不若是。是則罪之大者。是則章子已矣。（世俗人能如此乎）

○曾子居武城。（疑案）有越寇。或曰。寇至。盍去諸。曰。無寓人於我室。（冷眼）毀傷其薪木。寇退則曰。修我牆屋。我將反。寇退。曾子反。左右曰。待先生。如此其忠且敬也。寇至則先去。以爲民望。寇退則反。殆於不可。沈猶行曰。是非汝所知也。昔沈猶有負芻之禍。從先生者七十人。未有與焉。子思居於衛。有齊寇。或曰。寇至。盍去諸。子思

▲小品文字。宜以此爲法。

▲敍事法。

▲凡譬喩之後。以正意承之。以譬中語直置其間。不復用類此奚異此等語。是古文妙處。唐名家所未至也。

也字而字。臨去一波。

曰。如假去。（熱腸）有誰與守。孟子曰曾子子思（斷案）同道。曾子師也。父兄也。子思臣也。微也曾子子思。易地則皆然。

○儲子曰。王使人瞯夫子。果有以異於人乎。孟子曰。何以異於人哉。堯舜與人（是聲異語非）同耳。（自負語）

○齊人（絕妙小品柳州多藍本於此）有一妻一妾而處室者。其良人出。則必饜酒肉而後反。其妻問所與飲（複語）食者。（生姿）則盡富貴也。其妻告其妾曰。良人出則必饜酒肉而後反。問其與飲食者盡富貴也。而未嘗有顯者來。吾將瞯良人之所之也。蚤起（知書省其敍事精細處）施從良人之所之。徧國中無與立談者。卒之東郭墦閒之祭者。乞其餘不足又顧而之他。此其爲饜足之道也。其妻歸告其妾曰。良人者所仰望而終身也。今若此。與其妾訕其良人。而相泣於中庭。而良人未之知也。施施從外來。驕其妻妾。由君子觀之。則人之所以求富貴利達者。其妻妾不羞也。而不相泣者幾希矣。

卷之四　終

# 孟子評點 卷之五

## 萬章章句上 凡九章

▲也字獨在此句。當思。故是承上起下處。

○萬章問曰。舜往于田。號泣于旻天。何爲其號泣也。孟子曰。怨慕也。（三字是對以下注）萬章曰。父母愛之。喜而不忘。父母惡之。勞而不怨。然則舜怨乎。（釋此三字）曰。長息問於公明高曰。舜往于田。則吾既得聞命矣。號泣于旻天于父母。則吾不知也。公明高曰。是非爾所知也。夫公明高以孝子之心。爲不若是恝。（不恝者如何）我竭力耕田。（敍事）共爲子職而已矣。（以下亦體貼其心寫其聲）父母之不我愛。於我何哉。帝使其子九男二女。百官牛羊倉廩備。以事舜於畎畝之中。（▲議論）天下之士多就之者。帝將胥天下而遷之焉。爲不順於父母。（所怨在此所慕亦在此）如窮人無所歸。天下之士悅之。人之所欲也。而不足以解憂。好色人之所欲。（好妻之義皆如字）妻帝之二女。而

此亦烏知非齊東野人語乎。孟子不必論其眞僞。唯說道理云云

不足以解憂。富人之所欲。富有天下。而不足以解憂。貴人之所欲。貴爲天子。而不足以解憂。人悅之。好色富貴。無足以解憂者。惟順於父母。可以解憂。人少則慕父母。知（如字）好色。則慕少艾。有妻子。則慕妻子。仕則慕君。不得於君。則熱中。（▲言智怨字）大孝終身慕父母。五十而慕者。予於大舜見之矣。（不得於父母則熱中、怨慕也三字意至此釋然）

○萬章問曰。詩云。娶妻如之何。必告父母。信斯言也。宜莫如舜。舜之不告而娶。何也。孟子曰。告則不得娶。男女居室。人之大倫也。如告則廢人之大倫。以懟父母。是以不告也。萬章曰。舜之不告而娶。則吾既得聞命矣。帝之妻舜而不告。何也。曰。帝亦知告焉則不得妻也。萬章曰。父母使舜完廩。捐階。瞽瞍焚廩。使浚井。出。從而揜之。象曰。謨蓋都君。咸我績。牛羊父母。倉廩父母。（▲父母字疑當在下句去、穪）干戈朕。琴朕。弤朕。二嫂使治朕棲。象往入舜宮。舜在牀琴。象曰。鬱陶思君爾。忸怩。舜曰。惟茲臣庶。汝其于予治。不識舜不知象之將殺己與。曰奚而不知也。象憂亦憂。象喜亦喜。曰。

而已。後儒乃執爲實有此事。痴人前眞不可說夢。下一否字。不復說其所以否。閑々引一故事。詳述一番。不殺一語。末只三句繳人舜。妙。
▲引古。解古。不用自家語。妙。

然則舜僞喜者與。曰。否。昔者有饋生魚於鄭子產。子產使校人畜之池。校人烹之。反命曰。始舍之圉圉焉。少則洋洋焉。悠然而逝。（眞景）子產曰。得其所哉。得其所哉。（復語妙）校人出曰。孰謂子產智。予既烹而食之。曰。得其所哉。得其所哉。故君子可欺以其方。難罔以非其道。彼以愛兄之道來。故誠信而喜之。奚僞焉。

○萬章問曰。象日以殺舜爲事。立爲天子。則放之。何也。孟子曰。封之也。或曰。放焉。萬章曰。舜流共工于幽州。放驩兜于崇山。殺三苗于三危。殛鯀于羽山。四罪而天下咸服。誅不仁也。象至不仁。封之有庳。有庳之人奚罪焉。仁人固如是乎。（此問亦宜遜）（下詞）在他人則誅之。在弟則封之。曰。仁人之於弟也。不藏怒焉。不宿怨焉。親愛之而已矣。親之欲其貴也。愛之欲其富也。封之有庳。富貴之也。身爲天子。弟爲匹夫。（不成體面）可謂親愛之乎。敢問。或曰。放者。何謂也。曰。象不得有爲於其國。（得體面）天子使吏治其國。而納其貢稅焉。故謂之放。豈得暴彼民哉。雖然。欲常常而見之。故源源而來。（得體面）

不及貢。以政接于有庳。此之謂也。

○咸丘蒙問曰。語云。盛德之士。君不得而臣。父不得而子。舜南面而立。堯帥諸侯北面而朝之。瞽瞍亦北面而朝之。舜見瞽瞍。其容有蹙。（野人語自是淺俗有趣）孔子曰。於斯時也天下殆哉。岌岌乎。不識此語誠然乎哉。孟子曰。否。此非君子之言。齊東野人之語也。堯老而舜攝也。堯典曰。二十有八載。放勳乃徂落。百姓如喪考妣。三年。四海遏密八音。孔子曰。天無二日。民無二王。舜既爲天子矣。又帥天下諸侯。以爲堯三年喪。是二天子矣。（成何世界）咸丘蒙曰。舜之不臣堯。則吾既得聞命矣。詩云。普天之下。莫非王土。率土之濱。莫非王臣。而舜既爲天子矣敢問瞽瞍之非臣如何。曰是詩也。非是之謂也。勞於王事而不得養父母也。曰。此莫非王事。我獨賢勞也。故說詩者。不以文害辭。不以辭害志。以意逆志。是爲得之。如以辭而已矣。雲漢之詩曰。周餘黎民。靡有孑遺。信斯言也。是周無遺民也。（則率土王臣、亦未可一槩爲卑也）孝子之至。莫大乎尊親。尊

▲以問者語結之。此法甚可學也。

▲把一天字。段々洗發其語。實韓柳之祖也。

▲四案者。是三案中波瀾耳。故與他案異。

八十餘字。對其實解前十二字。

▲此章三疊錯綜法。極有結構。當熟讀深思以得其法。苟得其法。文章之法盡于此。

親之至、莫大乎以天下養。爲天子父。尊之至也。以天下養。（得體面）養之至也。詩曰。永言孝思。孝思維則。此之謂也。書曰。祗載見瞽瞍。夔夔齊栗。瞽瞍亦允若。是爲父不（非）得而子也。（如齊東野人語也）

○萬章曰。堯以天下與舜。有諸。孟子曰。否。天子（一字對　▲伏一案）不能以天下與人。然則舜有天下也、孰與之。曰。天與之。（三字對　▲伏二案）天與之者諄諄然命之乎。曰。否。（一字對十二字對　▲伏三案）天不言。以行與事。示之而已矣。曰。以行與事示之者。如之何。曰。天子（八十餘字對）能薦人於天。不能使天與之天下。諸侯（猶夫）能薦人於天子。不能使天子與之諸侯。大夫能薦人於諸侯。不能使諸侯與之大夫。（也、▲伏四案）昔者堯薦舜於天。而天受之。暴之於民。而民受之。故曰。（了三案）天不言。以行與事示之而已矣。曰。敢問薦之於天。而天受之。暴之於民。而民受之。如何。曰。使（百）之主祭。（六十餘字對）而百神享之。是天受之。使之主事。而事治。百姓安之。是民受之也。天與之。人與之。故曰。天子不能以天下與人。（▲以上已了一案以其餘意了二案而主意却在此）舜相堯二十有八載。非人之所能爲也。

百六十餘字對。其實解前三字。拈出天子不能以天下與人一句。天與此三字錯綜而言。天花眩人。臨終一轉。下是篡也三字。爲大頓挫。使讀者悚然。▲束語之後。更引證語。餘音嫋々。

天也。堯崩。三年之喪畢。舜避堯之子於南河之南。天下諸侯朝覲者不之堯之子而之舜。訟獄者不之堯之子而之舜。謳歌者不謳歌堯之子而謳歌舜。故曰天也。（了二条）夫然後之中國踐天子位焉。（▲而字一轉下神妙。）而居堯之宮。逼堯之子。是篡也。非天與也。（好）太誓曰。（引證）天視自我民視。天聽自我民聽。此之謂也。

○萬章問曰。人有言。至於禹而德衰。不傳於賢而傳於子。有諸。孟子曰。否。不然（細刀）也。（斷亂絲）天與賢則與賢。天與子則與子。昔者舜薦禹於天。十有七年。舜崩。三年之喪畢。禹避舜之子於陽城。天下之民從之。若堯崩之後不從堯之子而從舜也。（豈非天哉）禹薦益於天。七年。禹崩。三年之喪畢。益避禹之子於箕山之陰。朝覲訟獄者。不之益而之啓。曰。吾君之子也。（亦豈非天哉）謳歌者不謳歌益而謳歌啓曰。吾君之子也。（下書天所以然）丹朱之不肖。舜之子亦不肖。舜之相堯。禹之相舜也。歷年多。施澤於民久。啓賢能敬承繼禹之道。益之相禹也。歷年少。施澤於民未久。舜禹益相去久遠。其子之賢不

圈。
▲亦引古解古。然是却不下與他處同。
合兩項為一結。不更置照應語。後來唯大蘇時有之。
然引孔語代之。全體肅然。
就孔語中一也兩字。即用收文氣。
▲以孔子語總繳前數段。意簡潔之甚。

皆天也。非人之所能為也。莫之為而為者天也。莫之致而至者命也。匹夫而（又出間外。暢言之。而間內之意釋然）有天下者。德必若舜禹。而又有天子薦之者。故仲尼不有天下。繼世以有天下。天之所廢。必若桀紂者也。故益伊尹周公。不有天下。伊尹相湯以王於天下。湯崩。太丁未立。外丙二年。仲壬四年。太甲顛覆湯之典刑。伊尹放之於桐三年。太（猶益於啓）甲悔過。自怨自艾。於桐處仁遷義三年。以聽伊尹之訓己也。復歸于亳。周公之（亦猶益於啓）不有天下。猶益之於夏伊尹之於殷也。孔子曰。唐虞禪。夏后殷周繼。其義一也。

○萬章問曰。人有言。伊尹以割烹要湯。有諸。孟子曰。否。不然。（所述鄙陋之甚。故曰否。又曰不然）伊尹耕於有莘之（敍事）野。而樂堯舜之道焉。非其義也。非其道也。祿之以天下。弗顧也。繫馬千駟。弗視也。非其義也。非其道也。一介不以與人。一介不以取諸人。湯使人以幣聘之。囂囂然曰。我何以湯之聘幣為哉。我豈若處畎畝之中。（是亦想像其心摸寫其口吻）由是以樂堯舜之道哉。湯三使往聘之。既而幡然改曰。與我處畎畝之中。由是以樂堯舜之道。吾豈若使

是君爲堯舜之君哉。吾豈若使是民爲堯舜之民哉。吾豈若於吾身親見之哉。天之生此民也。使先知覺後知。使先覺覺後覺也。予天民之先覺者也。予將以斯道覺斯民也。非予覺之而誰也。思天下之民。匹夫匹婦。有不被堯舜之澤者。若己推而內之溝中。其自任以天下之重如此。故就湯而說之以伐夏救民。吾（恐萬章以俗說爲實然致其失身故不難煩言老婆心切）未聞枉己而正人者也。況辱己以正天下者乎。聖人之行不同也。或遠。或近。或（如此何以割烹爲　▲議論）去。或不去。歸潔其身而已矣。吾聞其以堯舜之道要湯。未聞以割烹也。伊訓曰（▲引[illegible]）天誅造攻自牧宮。朕載自亳。

○萬章問曰。或謂孔子於衛主癰疽。於齊主侍人瘠環。有諸乎。孟子曰。否不然也。好事者爲之也。於衛主顏讎由。彌子之妻與子路之妻兄弟也。彌子謂子路曰。孔子主我衛卿可得也。子路以告。孔子曰。有命。孔子進以禮。退以義。得之不得曰有命。而主癰疽與侍人瘠環。是無義無命也。孔子不悅於魯衛。遭宋桓司

▲篇法似疎而密。大可法也。

割烹字至末一見。蓋不欲多汚口吻也。

更部陋之甚。故曰否不然也。又曰好事者爲之也。

▲而字甚有力。

▲餘論引證。

智不智。賢不賢。錯綜而不疊重複。天然文章。非後世韓歐以下所及也。五謂字。與五乎字連下。自問自答。亦一法。

馬將要而殺之。微服而過宋。是時孔子當阨。主司城貞子。爲陳侯周臣。吾聞。觀近臣以其所爲主。觀遠臣以其所主。若孔子主癰疽與侍人瘠環。何以爲孔子。

○萬章問曰。或曰。百里奚自鬻於秦養牲者五羊之皮。食牛以要秦穆公。信乎。孟子曰。否。不然。好事者爲之也。▲敍事 百里奚。虞人也。晉人以垂棘之璧與屈產之乘。假道於虞以伐虢。宮之奇諫。百里奚不諫。知虞公之不可諫而去之秦。年已七十矣。▲議論 曾不知以食牛干秦穆公之爲汙也。可謂智乎。不可諫而不諫。可謂不智乎。知虞公之將亡。而先去之。不可謂不智也。時舉於秦。知穆公之可與有行也。而相之。可謂不智乎。相秦而顯其君於天下。可傳於後世。不賢而能之乎。自鬻以成其君。鄉黨自好者不爲。而謂賢者爲之乎。

▲三段敍事。各着數箇議論。評品之。末乃總斷之而歸重於孔子。

▲前排後疊。是孟子慣用家法。

# 萬章章句下

凡九章

○孟子曰。伯夷目不視惡色。耳不聽惡聲。非其君不事。非其民不使。治則進。亂則退。橫政之所出。橫民之所止。不忍居也。思與鄉人處。如以朝衣朝冠坐於塗炭也。當紂之時。居北海之濱。以待天下之清也。故聞伯夷之風者。頑夫廉。懦夫（以知言以字）言有立志。伊尹曰。何事非君。何使非民。治亦進。亂亦進。曰天之生斯民也。使先知覺後知。使先覺覺後覺。予天民之先覺者也。予將以此道覺此民也。思天下之民。匹夫匹婦。有不與被堯舜之澤者。若己推而內之溝中。其自任以天下之重也。柳下惠不羞汙君。不辭小官。進不隱賢。必以其道。遺佚而不怨。阨窮而不憫。與鄉人處。由由然不忍去也。爾爲爾。我爲我。雖袒裼裸裎於我側。爾焉能浼我哉。故聞柳下惠之風者。鄙夫寬。薄夫敦。孔子之去齊。接淅而行。去魯曰。遲遲吾

▲末連下十七個也字。如短兵陷陣。連下十七個也字。句法不必變爲異樣。而自然曲折。至末鏗然而止。韓昌黎有意變化。却不能及是數等。

觀門人鄭重記存。益知當時制度之籍

行也。去父母國之道也。可以速而速。可以久而久。可以處而處。可以仕而仕。孔子也。孟子曰。伯夷聖之清者也。伊尹聖之任者也。柳下惠聖之和者也。孔子聖之時者也。孔子之謂集大成。集大成也者。金聲而玉振之也。金聲也者。始條理也。玉振之也者。終條理也。始條理者。智之事也。終條理者。聖之事也。智譬則巧也。聖譬則力也。由射於百步之外也。其至爾力也。其中非爾力也。

○北宮錡問曰。周室班爵祿也。如之何。孟子曰。其詳不可得聞也。諸侯惡其害（固是知周禮王）（制不可信）己也。而皆去其籍。然而軻也嘗聞其略也。（略學制度法）天子一位。公一位。侯一位。伯一位。子男同一位。凡五等也。君一位。卿一位。大夫一位。上士一位。中士一位。下士一位。凡六等。天子之制。地方千里。公侯皆方百里。伯七十里。子男五十里。凡四等。不能五十里。不達於天子。附於諸侯。曰附庸。天子之卿。受地視侯。大夫受地視伯。元士受地視子男。大國地方百里。君十卿祿。卿祿四大夫。大夫倍上士。上士倍

不傳。使如兩漢馬鄭講經時。則何必須此。

中士。中士倍下士。下士與庶人在官者同祿。祿足以代其耕也。次國地方七十里。君十卿祿。卿祿三大夫。大夫倍上士。上士倍中士。中士倍下士。下士與庶人在官者同祿。祿足以代其耕也。小國地方五十里。君十卿祿。卿祿二大夫。大夫倍上士。上士倍中士。中士倍下士。下士與庶人在官者同祿。祿足以代其耕也。耕者之所獲。一夫百畝。百畝之糞。（字活看）上農夫食九人。上次食八人。中食七人。中次食六人。下食五人。庶人在官者。其祿以是爲差。

○萬章問曰。敢問友。孟子曰。不挾長。不挾貴。不挾兄弟而友。友也者。友其德也。不可以有挾也。孟獻子百乘之家也。有友五人焉。樂正裘牧仲。其三人則予忘（直率成自然語調）之矣。（裘救）獻子之與此五人者友也。無獻子之家者也。此五人者。亦有獻子之家。則不與之友矣。非惟百乘之家爲然也。雖小國之君亦有之。費惠公曰。吾於子思。則師之矣。吾於顏般。則友之矣。王順長息則事我者也。非惟小國之君爲然也。

▲三段。一段深於一段。末以數語結之。絕佳。

此句依倒置章首。文勢不便。

此章錯綜極多。而大意則可以意推之。

雖大國之君亦有之。晉平公之於亥唐也。入云則入。坐云則坐。食云則食。雖疏食菜羹未嘗不飽。蓋不敢不飽也。（非唯大國君爲然也雖天子亦有之）然終於此而已矣。弗與共天位也。弗與治天職也。弗與食天祿也。（▲承上起下節骨處然與前二段非推云々句遞持以長短異故爲中權耳）士之尊賢者也。非王公之尊賢也。舜尚見帝。帝館甥于貳室。亦饗舜。迭爲賓主。是天子而友匹夫也。用下敬上。謂之貴貴。用上敬下。謂之尊賢。貴貴尊賢。其義一也。

○萬章問曰。敢問交際何心也。孟子曰。恭也。曰。卻之卻之爲不恭何哉。曰。尊者賜之。曰其所取之者。義乎不義乎。而後受之。以是爲不恭（衍文）。故弗卻也。曰。請無以辭卻之。以心卻之。曰其取諸民之不義也。而以他辭無受。不可乎。曰。其交也以道。其接也以禮。斯孔子受之矣。萬章曰。今有禦人於國門之外者。其交也以道。其餽也以禮。斯可受禦與。曰。不可。康誥曰。殺越人于貨。閔不畏死。凡民罔不譈。是不待教而誅者也。殷受夏。周受殷。所不辭也。於今爲烈。如之何其受之。曰。今

以上三段了二正意一。以下餘論。

△三意連點。不レ爲二單纖一。此法古文多有。有二委態一。

之諸侯取二之於民一也。猶レ禦也。苟善二其禮際一矣。斯君子受レ之。敢問何說也。曰。子以爲有二王者作一。將下比二今之諸侯一而誅上レ之乎。其敎レ之不レ改而後誅レ之乎。夫謂二非二其有一而取一レ之者盜也。充レ類至二義之盡一也。孔子之仕二於魯一也。魯人獵較。孔子亦獵較。獵較猶可。而況受二其賜一乎。曰。然則孔子之仕也。非レ事レ道與。曰。事レ道也。事レ道奚獵較也。曰。孔子先簿二正祭器一。不下以二四方之食一供中簿正上。曰。奚不レ去也。曰。爲二之兆一也。兆足以行矣。而不レ行而後去。是以未下嘗有上レ所レ終二三年淹一也。孔子有二見行可之仕一。（以下別言完結一章可也）有二際可之仕一。有二公養之仕一。於二季桓子一。見行可之仕也。於二衛靈公一。際可之仕也。於二衛孝公一。公養之仕也。

○孟子曰。仕非レ爲レ貧也。而有レ時乎爲レ貧。（猶）娶レ妻非レ爲レ養也。（疊也字故有節奏）而有レ時乎爲レ養。（也）爲レ貧者。（如何而可曰）辭レ尊居レ卑。辭レ富居レ貧。（可也）辭レ尊居レ卑。辭レ富居レ貧。（可也）惡乎宜乎。（曰）抱關擊柝。（亦可）（是也）孔子嘗爲二委吏一矣。曰。會計當而已矣。嘗爲二乘田一矣。曰。牛羊茁壯長而已矣。（是仕爲貧者也）位卑而言高罪也。立

蓋一時問答。而時分章句。故有是等結句。

乎人之本朝。而道不行恥也。所以辭尊居卑辭富居貧

○萬章曰。士之不託諸侯何也。孟子曰。不敢也。諸侯失國。而後託於諸侯。禮也。士之託於諸侯。非禮也。萬章曰。君餽之粟。則受之乎。曰。受之。受之何義也。曰。君之於氓也。固周之。曰。周之則受。賜之則不受何也。曰。不敢也。曰。敢問其不敢何也。曰。抱關擊柝者。皆有常職。以食於上。無常職而賜於上者。以爲不恭也。曰。君餽之則受之。不識可常繼乎。曰。繆公之於子思也。亟問亟餽鼎肉。子思不悅。於卒也摽使者。出諸大門之外。北面稽首再拜而不受。曰。今而後知君之犬馬畜伋。蓋自是臺無餽也。悅賢不能擧。又不能養也。可謂悅賢乎。上文孟子語未畢而發疑問曰。敢問國君欲養君子。如何斯可謂養矣。曰。以君命將之。再拜稽首而受。其後廩人繼粟。庖人繼肉。得體而引證作者不以君命將之。子思以爲。鼎肉使己僕僕爾亟拜也。非養君子之道也。堯之於舜也。使其子九男事之。二女女焉。百官牛羊倉廩備。以養舜於畎畝之中。後

▲孟子常於自己論中。忽出問難。是他人所無。而以且字爲發語。有勢。

舉而加諸上位。故曰王公之尊賢者也。

○萬章曰。敢問。不見諸侯何義也。孟子曰。（禮也）在國曰市井之臣。在野曰草莽之臣。皆謂庶人。庶人不傳質爲臣。不敢見於諸侯。（故曰）禮也。萬章曰庶人召之役。則往役。君欲見之召之。則不往見之何也。曰。往役義也。往見不義也。且君之欲見之也。何爲也哉。曰。（對中又自問自對妙法也）爲其多聞也。爲其賢也。（▲不殺也字故作）曰。爲其多聞也。則天子不召師。而況諸侯乎。爲其賢也。則吾未聞欲見賢而召之也。繆公（▲引古）亟見於子思曰。古千乘之國以友士。何如。子思不悅曰。古之人（此尚指古人言）有言曰。事之云乎。豈曰友之云乎。子思之（三十二字作一）不悅也。（句讀）豈不曰。以位則子君也。我臣也。何敢與君友也。以德則子事我者也。奚可以與我友。千乘之君。（▲斷今）求與之友。而不可得也。而況可召與。齊景公田招（▲引詩）虞人以旌不至。將殺之。志士（省孔子曰）不忘在溝壑。勇士不忘喪其元。孔子奚取焉。取非其招不往也。曰。敢問招虞人何以。（語未畢問一項事成自然波瀾）曰。以皮冠。庶人以旃。士以旂。大夫以旌。以大夫之招招

妙語。

▲二段引古而斷之。餘意却有波。

自門字隨口生此語。照應篇首。開八家法門。末別成一問答。出餘波。亦開一法門。

中間一波。如夏雲出奇峯。若移在末尾。平々而已。

虞人。虞人死不敢往。以士之招（此以分言之）招庶人。庶人豈敢往哉。況乎（斷今欲言此耳）以不賢人之招（此以德言之）招賢人乎。欲見賢人而不以其道。猶欲其入而閉之門也。夫義路也。禮門也。惟君（胸中義理融明故口中言語縱橫）子能由是路出入是門也。詩云。周道如底。其直如矢。君子所履。小人所視。萬章曰。孔子君命召。不俟駕而行。然則孔子非與。曰。孔子當仕有官職。而以其官召之也。

○孟子謂萬章曰。一鄉之善士。斯友一鄉之善士。一國之善士。斯友一國之善士。天下之善士。斯友天下之善士。以友天下之善士爲未足。又尚論古之人。（尚論古之人如何）頌其詩。讀其書。不知其人可乎。是以論其世也。是尚友也。

○齊宣王問卿。孟子曰。王何卿之問也。王曰。卿不同乎。曰。不同。有貴戚之卿。有異姓之卿。王曰。請問貴戚之卿。曰。君有大過則諫。反覆之而不聽則易位。王勃然變乎色。曰。王勿異也。王問臣。臣不敢不以正對。王色定。然後請問異姓之卿。

曰。君有過則諫、反覆之而不聽。則去。

孟子評點卷之五終

# 孟子評點卷之六

## 告子章句上 凡二十章

只辨得一爲字。

○告子曰。性猶杞柳也。義猶桮棬也。以人性爲仁義。猶以杞柳爲桮棬。孟子曰。子能順杞柳之性。而以爲桮棬乎。將戕賊杞柳。而後以爲桮棬也。如將戕賊杞柳而以爲桮棬。則亦將戕賊人。以爲仁義與。率天下之人。而禍仁義者。必子之言夫。

文如疊浪抵岸乃躍是孟子慣手

只辨得一決字。

○告子曰。性猶湍水也。決諸東方則東流。決諸西方則西流。人性之無分於善不善也。猶水之無分於東西也。孟子曰。水信無分於東西。無分於上下乎。人性之善也。猶水之就下也。人無有不善。水無有不下。今夫水搏而躍之。可使過顙。

精采

只辨得一生字。

告子之言。是徒泥其色之同。而不思其質之異。

問得極使彼不能答。語氣健擧。後來昌黎善學之。

只辨得義外字。

激而行之。可使在山。是豈水之性哉。其勢則然也。人之可使爲不善。其性亦猶是也。

○告子曰。生之謂性。孟子曰。生之謂性也。[亦疊浪打岸法]猶白之謂白與。曰。然。白羽之白也。猶白雪之白。白雪之白。猶白玉之白與。曰。然。然則犬之性。猶牛之性。牛之性。猶人之性與。

○告子曰。食色性也。仁內也。非外也。義外也。非內也。孟子曰。何以謂仁內義外[先反問使彼發言以爲]也。曰。[我把柄]彼長而我長之。非有長於我也。猶彼白而我白之。從其白於外也。[乃是把柄授我]故謂之外也。曰。異於白馬之白也。無以異於白人之白也。不識長馬之長也。無以異於[亦是]長人之長與。[疊浪法]且謂長者義乎。長之者義乎。曰。吾弟則愛之。秦人之弟則不愛也。是以我爲悅者也。故謂之內。長楚人之長。亦長吾之長。是以長爲悅者也。[猶言快是]故謂之外也。曰。耆秦人之炙。無以異於耆吾炙。[自彼口中一悅字得來]夫物則亦有然者也。然則耆炙亦有

有外之有。當作在。

外與。

○孟季子問公都子曰。何以謂義內也。曰。行吾敬。故謂之內也。鄉人長於伯兄一歲。則誰敬。曰。敬兄。酌則誰先。曰。先酌鄉人。所敬在此。所長在彼。果在外。非由內也。公都子不能答。以告孟子。孟子曰。（子曰）敬叔父乎。敬弟乎。彼將曰。敬叔父。曰。弟爲尸則誰敬。彼將曰。敬弟。子曰。惡在其敬叔父也。彼將曰。在位（尸）故也。子亦曰。在位（賓）故也。庸敬在兄。斯須之敬在鄉人。季子聞之曰。（毎以二字括上起下）敬叔父則敬。敬弟則敬。果在外。非由內也。公都子曰。冬日則飲湯。夏日則飲水。然則飲食亦在外也。

○公都子曰。告子曰。性無善無不善也。或曰。性可以爲善。可以爲不善。是故文武興則民好善。幽厲興則民好暴。或曰。有性善。有性不善。是故以堯爲君而有象。以瞽瞍爲父而有舜。以紂爲兄之子。且以爲君。而有微子啓。王子比干。今曰性善。然則彼皆非與。孟子曰。乃若其情則可以爲善矣。乃所謂善也。若夫爲不

才字專指下發二於性一者上而言。連二下無數有字。終以二有字一結レ局。

此章主意。發二明人性之善一。▲同字一篇樞紐。與二離婁之明章。意同而體異。合看可三以曉二文章之變一。連二下無數同字。終以二同字一結レ局。

善。非才之罪也。（先秦道學平坦直截無後世所謂體用未發已發等說也）惻隱之心。人皆有之。羞惡之心。人皆有之。恭敬之心。人皆有之。是非之心。人皆有之。惻隱之心仁也。羞惡之心義也。恭敬之心禮也。是非之心智也。仁義禮智。非由外鑠我也。我固有之也。（如執斧破竹節々迎刃而解）弗思耳矣。故曰。求則得之。舍則失之。或相倍蓰而無算者。不能盡其才者也。詩曰。天生蒸民。有物有則。民之秉夷。好是懿德。孔子曰。爲此詩者。其知道乎。（先秦注疏簡易明白馬鄭以下夢想不及）故有物必有則。民之秉夷也。故好是懿德。○孟子曰。富歲子弟多賴。凶歲子弟多暴。非天之降才爾殊也。其所以陷溺其心者。然也。今夫麰麥。播種而耰之。其地同。樹之時又同。浡然而生。至於日至之時。皆熟矣。雖有不同。則地有肥磽。雨露之養。人事之不齊也。故凡同類者。舉相似也。何獨至於人而疑之。聖人與我同類者。故龍子曰。不知足而爲屨。我知其不爲蕢也。屨之相似。天下之足同也。口之於味。有同耆也。易牙先得我口之所耆者也。如使口之於味也。其性與人殊。若犬馬之與我不同類也。則天下何

獨抽口對照。了然。題曰未說是處。小品文字。開韓柳淵源。此章。元存發工夫也。▲借容形主文法。

者皆從易牙之於味也。至於味。天下期於易牙。是天下之口相似也。惟耳亦然。（兩惟字做虛字看）至於聲。天下期於師曠。（何其深切著明也）是天下之耳相似也。惟目亦然。至於子都。天下莫不知其姣也。不知子都之姣者。無目者也。故曰。口之於味也。有同耆焉。耳之於聲也。有同聽焉。目之於色也。有同美焉。至於心。獨無所同然乎。心之所同然者何也。謂理也義也。聖人先得我心之所同然耳。故理義之悅我心。猶芻豢之悅我口。

○孟子曰。牛山之木嘗美矣。（▲容）以其郊於大國也。斧斤伐之。可以爲美乎。是其日夜之所息。雨露之所潤。非無萌蘖之生焉。牛羊又從而牧之。是以若彼濯濯也。人見其濯濯也。以爲未嘗有材焉。此豈山之性也哉。（▲主）雖存乎人者。豈無仁義之心哉。其所以放其良心者。亦猶斧斤之於木也。旦旦而伐之。可以爲美乎。其日夜之所息。平旦之氣。（一點復明遠於獸近於人也）其好惡與人相近也者幾希。則其旦晝之所爲。（異樣乃不合掌）有梏亡之矣。梏之反覆。（以草木取喩故人亦以夜氣平旦氣言耳非奥妙眞訣也妙）則其夜氣不足以存。夜氣不足以存。則其違禽獸不遠矣。人見其

▲二段若不得此結。乃板。亡鄉。自然諧調。

▲結句使它人答之。而意已判然絕妙。此章令人不失羞惡之心。先引喩。前喩後正。是常法。此則一喩一正。錯綜成文。妙法。可有一。不可

禽獸也。而以爲未嘗有才焉者。是豈人之情也哉。故（主意在此）苟得其養。無物不長。苟失其養。無物不消。孔子曰。操則存。舍則亡。出入無時。莫知其鄉。（五字孟子判語）惟心之謂與。

○孟子曰。無或乎王之不智也。雖有天下易生之物也。一日暴之。十日寒之。未有能生者也。吾見亦罕矣。吾退而寒之者至矣。吾如有萌焉何哉。（輕妙）今夫奕之爲數。小數也。不專心致志。則不得也。奕秋。通國之善奕者也。使奕秋誨二人奕。其一人專心致志。惟奕秋之爲聽。一人雖聽之。一心以爲有鴻鵠將至。思援弓繳而射之。雖與之俱學。弗若之矣。爲是其智弗若與。曰。非然也。（絕妙結法。冷雋無比）

○孟子曰。魚（絕妙起法）我所欲也。熊掌亦我所欲也。（所欲甚於魚）二者不可得兼。舍魚而取熊掌者也。生亦我所欲也。義亦我所欲也。（所欲甚於生）二者不可得兼。舍生而取義者也。生亦我所欲。所欲有甚於生者。故不爲苟得也。死亦我所惡。所惡有甚於死者。故患有所不辟也。如使（婆心悟人。不嫌絮複。其實非絮也）人之所欲莫甚於生。則凡可以得生者。何不用也。使人之所惡莫甚

有二。▲與牛山之木章。意同而體異。▲凡八段。以第六段。爲上下筋脈。是一篇主意。却於中腹出之。不如後世破題必於首腦也。義字繳首節。讀者不覺。死字單行。却分爲三層。奇變。△此章双提單收。有姿態。只一句收上。又一句繳入本意。冷然。仁字解。莫明盡於此。後儒千書萬語。皆

於死者。則凡可以辟患者。何不爲也。由是則生。而有不用也。由是則可以辟患。而有不爲也。是故所欲有甚於生者。所惡有甚於死者。非獨賢者有是心也。人皆有之。賢者能勿喪耳。（後段寫此心實狀）一簞食。一豆羹。得之則生。弗得則死。嘑爾而與之。行道（前段生死二意双々講來至是單說死字）之人弗受。（然猶帶生字）蹴爾而與之。乞人不屑也。萬鍾則不辨禮義而受之。萬鍾於我何加焉。爲宮室之美。妻妾之奉。所識窮乏者得我與。鄉爲身死而不受。今爲宮室之美爲之。鄉爲身死而不受。今爲妻妾之奉爲之。鄉爲身死而不受。今爲所識窮乏者得我而爲之。是亦不可以已乎。此之謂失其本心。

○孟子曰。仁人心也。義人路也。舍其路而弗由。放其心而不知求。哀哉。人有雞犬放。則知求之。有放心。而不知求。學問之道無他。求其放心而已矣。

○孟子曰。今有無名之指。屈而不信。非疾痛害事也。如有能信之者。則不遠秦楚之路。爲指之不若人也。指不若人則知惡之。心不若人則不知惡。此之謂不

屬贅疣。

此章與仁人心也章。並前正後喩。而此則於正喩合處不說破。主意在中腹。魚熊同一法。
▲以上四章。意同體異。譬喩之法盡矣。

知類也。

○孟子曰。拱把之桐梓。人苟欲生之。皆知所以養之者。至於身。而不知所以養之者。豈愛身不若桐梓哉。弗思甚也。

○孟子曰。人之於身也。兼所愛。兼所愛。則兼所養也。無尺寸之膚不愛焉。則無尺寸之膚不養也。所以考其善不善者。豈有他哉。於己取之而已矣。體有貴賤。有小大。無以小害大。無以賤害貴。養其小者爲小人。養其大者爲大人。今有場師。舍其梧檟。養其樲棘。則爲賤場師焉。養其一指。而失其肩背。而不知也。則爲狼疾人也。飲食之人。則人賤之矣。爲其養小以失大也。飲食之人。無有失也。則口腹豈適爲尺寸之膚哉。

漸々引入

○公都子問曰。鈞是人也。或爲大人。或爲小人。何也。孟子曰。從其大體爲大人。從其小體爲小人。曰。鈞是人也。或從其大體。或從其小體。何也。曰。耳目之官。不

藏心字在中。隱然不全說破。亦自一法

思而蔽於物。物交物則引之而已矣。心之官則思。思則得之。不思則不得也。此（雖古奥而不如後世理學涵養頓悟兩派竝視此覺類深）天之所與我者。先立乎其大者。則其小者不能奪也。此爲大人而已矣。

○孟子曰。有天爵者。有人爵者。仁義忠信。樂善不倦。此天爵也。公卿大夫。此人爵也。古之人。修其天爵。而人爵從之。今之人。修其天爵。（以下更進一層）以要人爵。既得人爵。而棄其天爵。則惑之甚者也。（元明以後科第仕進者皆是也）終亦必亡而已矣。

○孟子曰。欲貴者。人之同心也。（古人立論本自體貼人情）人人有貴於己者。弗思耳。人之所貴者。非良貴也。（一言悟人了然々後世寧有之乎）趙孟之所貴。趙孟能賤之。詩云。既醉以酒。既飽以德。言飽乎仁義也。（單承飽德句）所以不願人之膏粱之味也。令聞廣譽施於身。所以不願人之文繡也。

○孟子曰。仁之勝不仁也。猶水勝火。今之爲仁者。猶以一杯水。救一車薪之火也。不熄則謂之水不勝火。此又與於不仁之甚者也。亦終必亡而已矣。（一句是衍因相類而複出耳）

○孟子曰。五穀者種之美者也。苟爲不熟。不如荑稗。夫仁亦在乎熟之而已矣。

篇中譬喩。層見疊出。横說竪說。極二其變態一。取レ喩之法。莫レ不レ備二於此一。

○孟子曰。羿之教二人射一。必志二於彀一。學者亦必志二於彀一。大匠誨レ人。必以二規矩一。學者亦必以二規矩一。

▲凡文字生姿致者。以其故重複之不更改之也。此章所問所答。皆有數個則字乎字。重複不更改。故知此有姿致。

▲取譬有濃色。是文章粉黛。

口吻鋒針。相對快絕。然下語勃窣郿野。所以情采百倍。後來三蘇得此旨。

▲亦問得究。興告子三章。

# 告子章句下

(凡十六章)

○任人有問屋廬子曰。禮與食孰重。(點)曰。禮重。色與禮孰重。曰。禮重。曰。以禮食則飢而死。不以禮食則得食。必以禮乎。親迎則不得妻。不親迎則得妻。(亦自難對)必親迎乎。屋廬子不能對。(宜矣)明日之鄒。以告孟子。孟子曰。於答是也何有。不揣其本而齊其末。方寸之木。可使高於岑樓。金重於羽者。豈謂一鉤金與一輿羽之謂哉。(意對而詞不對奇)取食之重者與禮之輕者而比之。奚翅食重。取色之重者與禮之輕者而比之。奚翅色重。(二奚翅見膽識)往應之曰。紾兄之臂而奪之食則得食。不紾則不得食。則將紾之乎。(破它飢而死之說)踰東家牆而摟其處子則得妻。不摟則不得妻。則將摟之乎。(破它不得妻之說)

○曹交問曰。人皆可以爲堯舜。有諸。孟子曰。然。交聞文王十尺。湯九尺。今交九尺四寸以長。(使人欲笑然眞率可愛)食粟而已。如何則可。曰。奚有於是。亦爲之而已矣。(此節只破其形體之拘)有人於此。力不

同。曰。日字誤。

孔孟立教。皆平易明白。豈如後儒致知存養。多少事目。艱深拒人哉。

▲一語起結。是戰國策慣用法。初學倣之。乃文有結束。音節亦佳。直出一譬。不復拙合本事。此法唯孟子有之。

能勝一匹雛。則爲無力人矣。今日舉百鈞。則爲有力人矣。然則舉烏獲之任。是亦爲烏獲而已矣。（伏案）夫人豈以不勝爲患哉。弗爲耳。徐行後長者。（人々可能）謂之弟。疾行先長者。（人或不能）謂之不弟。夫徐行者。豈人所不能哉。所不爲也。堯舜之道。孝弟而已矣。子服堯之服。誦堯之言。行堯之行。（不必語默動靜盡中天理）是堯而已矣。子服桀之服。誦桀之言。行桀之行。（不必無一毫人欲）是桀而已矣。曰。交得見於鄒君。可以假館。願留而受業於門。曰。夫道若大路然。豈難知哉。人病不求耳。子歸而求之。有餘師。

○公孫丑問曰。高子曰。小弁。小人之詩也。孟子曰。何以言之。曰。怨。曰。固哉高叟之爲詩也。有人於此。越人關弓而射之。則己談笑而道之。無他。疏之也。其兄關弓而射之。則己垂涕泣而道之。無他。戚之也。小弁之怨。親親也。親親仁也。固矣（一語）夫高叟之爲詩也。（重提而後轉下後世文法多本此者）曰。凱風何以不怨。曰。凱風親之過小者也。小弁親之過大者也。親之過大而不怨。是愈疏也。親之過小而怨。是不可磯也。愈疏不孝也。不可

▲上面曰三軍之士。則下面人臣・人子・人弟。既在其中。與開卷第一章。意同體異。彼簡勁。此詳密。其文則彼善于此也。

磯亦不孝也。孔子曰。舜其至孝矣。五十而慕。

○宋牼將之楚。孟子遇於石丘。曰。先生將何之。曰。吾聞秦楚構兵。我將見楚王說而罷之。楚王不悅。我將見秦王說而罷之。二王我將有所遇焉。曰。軻也請無問其詳。願聞其指。說之將何如。曰。我將言其不利也。曰。先生之志則大矣。先生之號則不可。先生以利說秦楚之王。秦楚之王悅於利。以罷三軍之師。是三軍之士。樂罷而悅於利也。爲人臣者。懷利以事其君。爲人子者。懷利以事其父。爲人弟者。懷利以事其兄。是君臣父子兄弟。終去仁義。懷利以相接。然而不亡者未之有也。先生以仁義說秦楚之王。秦楚之王悅於仁義。而罷三軍之師。是三軍之士。樂罷而悅於仁義也。爲人臣者。懷仁義以事其君。爲人子者。懷仁義以事其父。爲人弟者。懷仁義以事其兄。是君臣父子兄弟。去利懷仁義以相接也。然而不王者。未之有也。何必曰利。

（與答梁惠第一章同而文不如彼奇健）

（有此乃成文）

（句結有力）

▲孟子不爲多辨。而屋廬子能得其旨。故其答或問。亦簡潔如此。妙。

三難皆說客口氣。孟子正色莊語對之。用正兵也。

▲淳于髠辯士。而孟子折其辯舌端有鋒。所當細玩。雖是正色莊語。要看其儵然高引視髠輩。如蚊虻在前處。

○孟子居鄒。季任爲任處守。以幣交。受之而不報。處於平陸。儲子爲相。以幣交。受之而不報。他日由鄒之任。見季子。由平陸之齊。不見儲子。屋廬子喜曰。連得閒矣。問曰。夫子之任見季子。之齊不見儲子。爲其爲相與。（問得凡鄙）曰。非也。書曰。享多儀。儀不及物。曰不享。惟不役志于享。爲其不成享也。屋廬子悅。或問之。屋廬子曰。季子不得之鄒。儲子得之平陸。（悟得明敏）

○淳于髠曰。先名實者。爲人也。（人字該君民說爲是下文上下句可見）後名實者。自爲也。夫子在三卿之中。名實未加於上下而去之。仁者固如此乎。（嘲得慢侮）孟子曰。居下位。不以賢事不肖者。伯夷也。（貼自爲）五就湯。五就桀者。伊尹也。（貼爲人）不惡汙君。不辭小官者。柳下惠也。（此蓋倂人已）三子者不同道。其趨一也。一者何也。曰仁也。（儵然）君子亦仁而已矣。何必同。曰。魯繆公之時。公儀子爲政。子柳子思爲臣。魯之削也滋甚。若是乎賢者之無益於國也。（罵得輕薄）曰。虞不用百里奚而亡。秦穆公用之而霸。不用賢則亡。（更進一層）削何可得與。（儵然）曰。昔者王豹處於淇。而河西善

▲三問三答。如斷如續。此等法。唯呂黎得之。如諍臣論是也。

▲與公孫丑第一章意異而體同。

▲此章三疊文法。

謳。緜駒處於高唐。而齊右善歌。華周杞梁之妻。善哭其夫。而變國俗。有諸內必形諸外。爲其事而無其功者。髡未嘗覩之也。是故無賢者也。有則髡必識之。曰。嘲罵之極孔子爲魯司寇。不用。從而祭。燔肉不至。不稅冕而行。不知者以爲爲肉也。孟子在眼前而曰不識々猶覩也語亦妙自是老賊 ▲前而數个脚色最後出个仲尼斷盡之使它不得措辭 其知者以爲爲無禮也。乃孔子則欲以微罪行。不欲爲苟去。君子之所爲。儻然 衆人固不識也。宜矣子之不識也

○孟子曰。五霸者三王之罪人也。今之諸侯。五霸之罪人也。今之大夫。今之諸侯之罪人也。天子適諸侯曰巡狩。諸侯朝於天子曰述職。春省耕而補不足。秋省斂而助不給。入其疆土地辟。田野治。養老尊賢。俊傑在位。則有慶。慶以地。入其疆。土地荒蕪。遺老失賢。掊克在位。則有讓。一不朝則貶其爵。再不朝。則削其 ▲一語翻覆略 地。改數字乃可誦 三不朝則六師移之。是故天子討而不伐。諸侯伐而不討。五霸者摟諸侯以伐諸侯者也。故曰。共名伐而其實討故以爲罪人　看它轉下處 五霸者三王之罪人也。五霸桓公爲盛。葵丘之會。諸侯束牲

▲後段比前二段太短。却稱其結尾。

宜乎當時以爲迂濶遠事情也。而其實不然。

載書而不歃血。初命曰。誅不孝。無易樹子。無以妾爲妻。（使今諸侯聞之。一一項門鍼。故擧此一盟。不須更頭言晉文秦穆如何々々）再命曰。尊賢育才。以彰有德。三命曰。敬老慈幼。無忘賓旅。四命曰。士無世官。官事無攝。取士必得。無專殺大夫。（必告盟主）五命曰。無曲防。無遏糴。無有封而不告。（亦必告盟主）曰。凡我同盟之人。既盟之後。言歸于好。今之諸侯。皆犯此五禁。故曰。今之諸侯。五霸之罪人也。長君之惡其罪小。逢君之惡其罪大。今之大夫。皆逢君之惡。（所謂五犯）故曰。今之大夫。今之諸侯之罪人也。○魯欲使愼子爲將軍。（圖取齊南陽）孟子曰。不教民而用之。謂之殃民。殃民者。不容於堯舜之世。一戰勝齊。（假令）遂有南陽。然且不可。（況其不可必乎）愼子勃然不悅曰。此則滑釐所不識也。（此二字亦宜單承上文不可邊來）曰。吾明告子。天子之地方千里。不千里。不足以待諸侯。諸侯之地方百里。不百里。不足以守宗廟之典籍。周公之封於魯。爲方百里也。地非不足。而儉於百里。大公之封於齊也。亦爲方百里也。地非不足也。而儉於百里。今魯方百里者五。子以爲有王者作。則魯在所損乎。在所益乎。徒取諸彼以與此。然且仁者不爲。

兩疊平易。只兩結句。古勁無敵。故可師。

▲當面搶白。然而不辨其故。且閑反問。故文有紆餘。有曲折。

兩結亦古勁無敵。

況於殺人以求之乎。（▲故不容於堯舜之世容於堯舜者如此）君子之事君也。務引其君以當道。志於（道者仁之發仁者道之存）仁而已。

○孟子曰。今之事君者曰。我能爲君辟土地充府庫。今之所謂良臣。古之所謂民賊也。君（宇文融裴延齡）不鄉道。不志於仁。而求富之。是富桀也。我能爲君約與國。戰必克。（不置曰字氣盛語急）今之所謂良臣。古之所謂民賊也。君不鄉道。不志於仁。而求爲之強戰。是輔桀也。（楊素來獲兒）由今之道。無變今之俗。雖與之天下。不能一朝居也。

○白圭曰。吾欲二十而取一。何如。孟子曰。子之道。貉道也。（當面搶白然後徐發問難慣家）萬室之國。一人陶。（▲是未知其所以問之者）則可乎。曰。不可。器不足用也。（已自了然）曰。夫貉五穀不生。惟黍生之。無城郭宮室宗廟祭祀之禮。（何由至下面發之）（▲三句々法）無諸侯幣帛饔飧。無百官有司。故二十取一而足也。今居中國。去人倫。無（章首一喩設）君子。如之何其可也。陶以寡。且不可以爲國。況無君子乎。（問移挿此間亦可成文所以不然可悟文章變平爲奇法在孟子非有意作之）欲輕之於堯舜之道者。（▲至此）大貉小貉也。（始發其由妙々）欲重之於堯舜之道者。大桀小桀也。（此亦不可不言）（▲應首大緻）

○白圭曰。丹之治水也。愈於禹。（何不以溺自照）孟子曰。子過矣。禹之治水。水之道也。是故禹以

▲妙語。

當時列國執政情狀。蓋盡於此。

唯三去就。多

四海爲壑。（使人欲笑）今吾子以鄰國爲壑。水逆行謂之洚水。洚水者。洪水也。仁人之所惡也。吾子過矣。（語冷）

○孟子曰。君子不亮。惡乎執。（自然肖孔語豈法言中說所及）

○魯欲使樂正子爲政。孟子曰。吾聞之。喜而不寐。公孫丑曰。樂正子強乎。（俗見）曰。否。有知慮乎。（俗見）曰。否。多聞識乎。（俗見）曰。否。然則奚爲喜而不寐。曰。其爲人也好善。（好善則不强無知慮少聞識亦可）好善足乎。曰。好善優於天下。（故優於天下）而況魯國乎。夫苟好善。則四海之內。皆將輕千里而來告之以善。夫苟不好善。則人將曰。訑訑予既已知之矣。訑訑之聲音顏色。距人於千里之外。士止於千里之外。（亦如無大害然無奈云々）則讒諂面諛之人至矣。與讒諂面諛之人居。國欲治可得乎。

○陳子曰。古之君子。何如則仕。孟子曰。所就三。所去三。迎之致敬以有禮。言將行其言也。則就之。禮貌未衰。言弗行也。則去之。其次雖未行其言也。迎之致敬。

少錯綜。非義精仁熟。烏能一一處之不失也。

如武田勝頼。入有拂士。出有敵國。國亦亡。

余嘗謂。聖賢之語。痛切不浮縵。如生於憂患死於安樂。是自驚心動魄語。人人稔讀。故平平視之。所以不能猛省也。

以有禮則就之。禮貌衰則去之。其下。朝不食。夕不食。飢餓不能出門戶。君聞之曰。吾大者不能行其道。又不能從其言也。使飢餓於我土地。吾恥之。周之。亦可受也。免死而已矣。

○孟子曰。舜發於畎畝之中。傅說舉於版築之閒。膠鬲舉於魚鹽之中。管夷吾舉於士。孫叔敖舉於海。百里奚舉於市。故天將降大任於是人也。（讀參河記可知此語信然）必先苦其心志。勞其筋骨。餓其體膚。空乏其身。行拂亂其所爲。所以動心忍性。曾益其所不能。人恆過。然後能改。困於心。衡於慮。而後作。徵於色。發於聲。而後喩。入則無法（未過則不知改未困且衡則不作未徵且發則不喩此段結上起下）家拂士。出則無敵國外患者。國恆亡。然後知生於憂患。而死於安樂也。（▲結得警妙）

○孟子曰。教亦多術矣。予不屑之教誨也者。（猶曰不教之教）是亦教誨之而已矣。

孟子評點卷之六 終

也字。則字。矣字多少注脚。多少議論。多少功夫學問。

▲此下多短章。似無法者。而無不有法者。今不復一一舉之。且咀嚼其雋永處。可也。

是故二字。如洪流一轉深淵。而不費力。

# 孟子評點 卷之七

## 盡心章句上 凡四十六章

○孟子曰。盡其心者。（無他）知其性也。（故）知其性。則知天矣。存其心。養其性。所以事天也。（有此兩語道德五千言大藏一切）殀壽不貳。（皆可發矣）修身以俟之。所以立命也。

○孟子曰。莫非命也。（▲先舉一句此格甚佳可學也。）順受其正。是故知命者。不立乎巖牆之下。盡其道而死者。正命也。桎梏死者。非正命也。

○孟子曰。求則得之。（是心是性）舍則失之。是求有益於得也。（者）求在我者也。求之有道。（是富貴是功名）得之有命。是求無益於得也。（者）求在外者也。

○孟子曰。萬物皆備於我矣。（是求有益於得者）反身而誠。樂莫大焉。強恕而行。求仁莫近焉。（故曰安宅）

苟能恥其無恥。則無有可恥之行矣。亦通。

---

○孟子曰。行之而不著焉。習矣（句中矣字法）而不察焉。終身由之。而不知其道者衆也。（何不思哉）

○孟子曰。人不可以無恥。無恥之恥。無恥矣。（無猶非矣猶也）（▲一字翻弄是古語妙處學者要知之則君房可爲也）

○孟子曰。恥之於人大矣。爲機變之巧者。無所用恥焉。不恥不若人。何若人有。

○孟子曰。古之賢王。好善而忘勢。（則轉得好）古之賢士。（孟子自期待者如此）何獨不然。（去然字連下讀則了然）樂其道而忘人之勢。故王公不致敬盡禮。則不得亟見之。見且由不得亟。而況得而臣之乎。

○孟子謂宋句踐曰。子好遊乎。吾語子遊。人知之亦囂囂。人不知亦囂囂。曰。何如斯可以囂囂矣。曰。尊德樂義。則可以囂囂矣。故士窮不失義。達不離道。窮不失義。故士得己焉。（不然則管黄龍湯）達不離道。故民不失望焉。（不然則胡椒八百石）（孟子自期待者如此）古之人得志。澤加於民。不得志。脩身見於世。窮則獨善其身。（▲是正所謂囂々也）達則兼善天下。（何往而不囂々哉）

○孟子曰。待文王而後興者凡民也。若夫豪傑之士。雖無文王猶興。（夫子自道）

○孟子曰。附之以韓魏之家。（古人議論不甚高務着實如此）如其自視欿然。則過人遠矣。

恐是兩章兩有闕脫。

▲寥々短章。而道體性命。修己治人之妙具矣。非亞聖不能言。

○孟子曰。以佚道使民。（諸葛孔明庶幾似之）雖勞不怨。以生道殺民。雖死不怨殺者。

○孟子曰。霸者之民。驩虞如也。王者之民。皥皥如也。（▲是正所謂皥々也）殺之而不怨。利之而不庸。民日遷善。而不知爲之者。夫君子所過者化。所存者神。上下與天地同流。豈曰小補之哉。

○孟子曰。仁言不如仁聲之入人深也。（秦漢以後善政而已）善政不如善教之得民也。善政民畏之。善教民愛之。善政得民財。善教得民心。

○孟子曰。人之所不學而能者。其良能也。所不慮而知者。（非餘姚所謂也）其良知也。孩提之童。（一擧亦了然）無不知愛其親也。及其長也。無不知敬其兄也。親親仁也。敬長義也。無他。（何其簡易直截也）達之天下也。

○孟子曰。舜之居深山之中。（非有四目兩口也）與木石居。與鹿豕遊。其所以異於深山之野人者幾希。及其聞一善言。見一善行。若決江河。沛然莫之能禦也。

二字句法。

推進三層法。

▲亦一語起結。而中分三段。雖短文有法。

▲也君之間。入故字看。

○孟子曰。無爲其所不爲。無欲其所不欲。如此而已矣。（不須多言。）

○孟子曰。人之有德慧術知者。恆存乎疢疾。獨孤臣孽子。其操心也危。其慮患也深。故達。（古今來英雄豪傑皆是）

○孟子曰。有事君人者。事是君則爲容悅者也。有安社稷臣者。以安社稷爲悅者也。（是亦不易得）有天民者。達可行於天下而後行之者也。有大人者。（更大難得）正己而物正者也。

○孟子曰。君子有三樂。而王天下不與存焉。父母俱存。兄弟無故。一樂也。（三件事其樂々於王天下人）仰不愧於天。俯不怍於人。二樂也。（不知耳 大學所謂自慊也）得天下英才而教育之。三樂也。君子有三樂。而王天下不與存焉。

○孟子曰。廣土衆民。君子欲之。所樂不存焉。中天下而立。定四海之民。君子樂之。所性不存焉。君子所性。雖大行不加焉。雖窮居不損焉。分定故也。（然則所謂一）君子所性。（何哉曰）仁義禮智根於心。其生色也。睟然見於面。（其所欲可樂雖廣土衆民中天下定四海未是以換此也）盎於背。施於四體。四體不言而喩。

數個矣字。見其事簡。而其效速之意。

▲此一段議論。孟子數言之。而其文數變矣。要看其變處。

▲無論名言不磨。看他層層洗發。不費力處。自是實治。非如蕭道成曰可使金如土也。

○孟子曰。伯夷辟紂。居北海之濱。聞文王作。興曰。盍歸乎來。吾聞西伯善養老者。太公辟紂。居東海之濱。聞文王作。興曰。盍歸乎來。吾聞西伯善養老者。天下有善養老。則仁人以為己歸矣。五畝之宅。樹牆下以桑。匹婦蠶之。則老者足以衣帛矣。五母雞二母彘。無失其時。老者足以無失肉矣。百畝之田。匹夫耕之。八口之家。足以無飢矣。所謂西伯善養老者。制其田里。教之樹畜。導其妻子。使養其老。（如此而已矣非有它術也）五十非帛不煖。七十非肉不飽。不煖不飽。謂之凍餒。（所謂二句蓋古語）文王之民。無凍餒之老者。此之謂也。

○孟子曰。易其田疇。薄其稅斂。民可使富也。食之以時。用之以禮。財不可勝用也。民非水火不生活。昏暮叩人之門戶。求水火。無弗與者。至足矣。（矣術也）聖人治天下。使有菽粟如水火。菽粟如水火。而民焉有不仁者乎。（何必嚴刑名設方術以防之也）

○孟子曰。孔子登東山而小魯。登太山而小天下。故觀於海者難為水。遊於聖

姿体滋味。全在兩雞鳴而起句上。

▲此亦復語生姿。學者得此法。爲尋常語。而爲絶妙語。

何等直截。何等深透。後世心學家言。千語萬語。總瞠若乎後。

人之門者。難爲言。觀水有術。必觀其瀾。日月有明。容光必照焉。流水之爲物也不盈科不行。君子之志於道也。不成章不達。

○孟子曰。雞鳴而起。孳孳爲善者。舜之徒也。雞鳴而起。孳孳爲利者。蹠之徒也。欲知舜與蹠之分。無他。利與善之間也。自反省察之。爲舜之徒乎。爲蹠之徒乎。豈有不泚顙

○孟子曰。楊子取爲我。拔一毛而利天下。不爲也。墨子兼愛。摩頂放踵。利天下。爲之。子莫執中。執中爲近之。執中無權。猶執一也。所惡執一者。爲其賊道也。舉一而廢百也。

○孟子曰。飢者甘食。渴者甘飲。是未得飲食之正也。飢渴害之也。豈惟口腹有飢渴之害。人心亦皆有害。人能無以飢渴之害爲心害。則不及人不爲憂矣。曰仁人曰君子明其是而已

○孟子曰。柳下惠不以三公易其介。

○孟子曰。有爲者。辟若掘井。掘井九軔而不及泉。猶爲棄井也。

然則假亦可矣。孟子之論。不苛對如此。宋儒對症之藥也。何不服用。

▲斷盡於後世無數姦雄之罪。

孟子之論。亦有嚴不假如此者。

▲小文而有無數變化。簡易。

○孟子曰。堯舜性之也。湯武身之也。五霸假之也。久假而不歸。惡知其非有也。

○公孫丑曰。伊尹曰。予不狎于不順。放太甲于桐。民大悅。太甲賢。又反之。民大悅。賢者之爲人臣也。其君不賢。則固可放與。孟子曰。有伊尹之志。則可。無伊尹之志。則簒也。

○公孫丑曰。詩曰。不素餐兮。君子之不耕而食何也。孟子曰。君子居是國也。其君用之則安富尊榮。其子弟從之則孝弟忠信。不素餐兮。孰大於是。與對彭更章同意

○王子墊問曰。士何事。孟子曰。尙志。曰。何謂尙志。曰。仁義而已矣。殺一無罪非仁也。非其有而取之非義也。居惡在。仁是也。路惡在。義是也。居仁由義。大人之事備矣。

○孟子曰。仲子不義與之齊國而弗受。人皆信之。是舍簞食豆羹之義也。極形容小者人莫大焉亡親戚君臣上下。以其小者信其大者。奚可哉。

▲膽識自造詣中來。故文字不求妙而妙。不求健而健。

▲前後句。唯要言此句也。

句法古勁。

與下敎屋盧子對。待來年同。

○桃應問曰。舜爲天子。皐陶爲士。瞽瞍殺人。（爲有此事）則如之何。孟子曰。執之而已矣。然則舜不禁與。曰。夫舜惡得而禁之。夫有所受之也。（以道理言耳）然則舜如之何。曰。舜視棄天下。猶棄敝蹝也。竊負而逃。遵海濱而處。終身訢然樂而忘天下。（推舜之爲心言之耳）

○孟子自范之齊。望見齊王之子。喟然歎曰。居移氣。養移體。大哉居乎。夫非盡人之子與。孟子曰。王子宮室車馬衣服。多與人同。而王子若彼者。其居使之然也。況居天下之廣居者乎。魯君之宋。呼於垤澤之門。守者曰。此非吾君也。何其（言正意在中前後皆譬喩是許可非疑詞）聲之似我君也。此無他。居相似也。

○孟子曰。食而弗愛。豕交之也。愛而不敬。獸畜之也。恭敬者。幣之未將者也。恭（已有恭敬必有其實）敬而無實。君子不可虛拘。（亦以此文之也）

○孟子曰。形色天性也。惟聖人然後可以踐形。

○齊宣王欲短喪。公孫丑曰。爲朞之喪。猶愈於已乎。孟子曰。是猶或紾其兄之

一口吻。同一精采。

▲一語起結。亦有改數字者。是與王天下不與存焉章。可幷看。丑問語。亦自妙。

臂。子謂之姑徐徐云爾。亦敎之孝弟而已矣。王子有其母死者。其傅爲之請數月之喪。公孫丑曰。若此者何如也。曰。是欲終之而不可得也。雖加一日。愈於已。謂夫莫之禁而弗爲者也。

○孟子曰。君子之所以敎者五。有如時雨化之者。有成德者。有達財者。有答問者。有私淑艾者。此五者。君子之所以敎也。

○公孫丑曰。道則高矣美矣。宜若登天然。似不可及也。何不使彼爲可幾及而日孶孶也。孟子曰。大匠不爲拙工改廢繩墨。羿不爲拙射變其彀率。君子引而不發。躍如也。中道而立。能者從之。

○孟子曰。天下有道。以道殉身。天下無道。以身殉道。未聞以道殉乎人者也。

○公都子曰。滕更之在門也。若在所禮。而不答何也。孟子曰。挾貴而問。挾賢而問。挾長而問。挾有勳勞而問。挾故而問。皆所不答也。滕更有二焉。焉字法

▲物與民。一順一逆。親親親三字連下。更妙。

預知後世有無數注蟲魚之儒。故言爾。

○孟子曰。於不可已而已者。（以處事言）無所不已。於所厚者薄。（以待人言）無所不薄也。其進銳者。其退速。

○孟子曰。君子之於物也。（等級秩然所以異墨）愛之而弗仁。於民也。仁之而弗親。親親而仁民。（文如玉環）仁民而愛物。

○孟子曰。知者無不知也。當務之爲急。仁者無不愛也。急親賢之爲務。堯舜之知而不徧物。急先務也。堯舜之仁不徧愛人。急親賢也。不能三年之喪。而緦小功之察。放飯流歠。而問無齒決。是之謂不知務。

▲孟子長於一字飜弄法。學文者。苟得此法。筆端撒輝。

預知有毛奇餘。朱彝尊一輩人。於千載前。一筆抹殺。

▲結得斷鐵。

# 盡心章句下

凡三十八章

○孟子曰。不仁哉梁惠王也。仁者以其所愛。及其所不愛。不仁者以其所不愛。及其所愛。公孫丑曰。何謂也。梁惠王以土地之故。糜爛其民而戰之。大敗。將復之。恐不能勝。故驅其所愛子弟以殉之。是之謂以其所不愛及其所愛也。子弟 故曰不仁教仁者反之

○孟子曰。春秋無義戰。彼善於此則有之矣。征者上伐下也。天子諸侯 敵國不相征也。

○孟子曰。盡信書則不如無書。吾於武成取二三策而已矣。仁人無敵於天下。以至仁伐至不仁。而何其血之流杵也。▲而字法

○孟子曰。有人曰。我善爲陳。我善爲戰。大罪也。國君好仁。天下無敵焉。南面而征。北狄怨。東面而征。西夷怨。曰。奚爲後我。武王之伐殷也。革車三百兩。虎賁三千人。王曰。無畏。寧爾也。非敵百姓也。若崩厥角稽首。征之爲言正也。各欲正己 法統孟結上開後世法門

也。焉用戰。三字寸鐵

○孟子曰。梓匠輪輿能與人規矩。不能使人巧。

○孟子曰舜之飯糗茹草也若將終身焉。及其爲天子也被袗衣鼓琴。二女果。若固有之。

○孟子曰。吾今而後知殺人親之重也。殺人之父。人亦殺其父。殺人之兄人亦殺其兄。然則非自殺之也。一閒耳。可不懼哉

○孟子曰。古之爲關也。爲關一也所以爲關則大異將以禦暴。今之爲關也將以爲暴。

○孟子曰。身不不字道理行道。不行於妻子。使人不以道不能不能二字勿易行於妻子。

○孟子曰。周于利者眞經濟凶年不能殺。周于德者眞道德邪世不能亂。

○孟子曰。好名之人。能讓千乘之國。苟非其人簞食豆羹見於色。

○孟子曰。不信仁賢古今國弊不出三言末句最妙則國空虛。無禮義則上下亂。無政事則財用不足。

▲妙論妙文。亦是一順一倒。

乎下。入而不興起者非人也八字上看。

○孟子曰。不仁而得國者有之矣。不仁而得天下。未之有也。（元龜章雄）

○孟子曰。民爲貴。（破天荒）社稷次之。君爲輕。是故得乎丘民而爲天子。得乎天子爲諸侯。得乎諸侯爲大夫。諸侯危社稷則變置。犧牲既成。粢盛既潔。祭祀以時。然而旱乾水溢。則變置社稷。（▲而字一見不復用句法長短之變）

○孟子曰。聖人百世之師也。伯夷柳下惠是也。故聞伯夷之風者。頑夫廉。懦夫有立志。聞柳下惠之風者。薄夫敦。鄙夫寬。奮乎百世之上。百世之下。聞者莫不興起也。非聖人而能若是乎。而況於親炙之者乎。

○孟子曰。仁也者人也。合而言之道也。（決有脫語）

○孟子曰。孔子之去魯。（萬章下篇）曰遲遲吾行也。去父母國之道也。去齊。接淅而行。去他國之道也。

○孟子曰。君子之戹於陳蔡之閒。無上下之交也。

▲輕鬆語可咀嚼。是春秋戰國妙處。

▲取譬法。

▲尋常譬喩。前敍後斷。此章則前斷後敍。各一格也。

○貉稽曰。稽大不理於口。孟子曰。無傷也。士憎茲多口。詩云。憂心悄悄。慍于羣小。孔子也。肆不殄厥慍。亦不隕厥問。文王也。

○孟子曰。賢者以其昭昭。使人昭昭。今以其昏昏。使人昭昭。

○孟子謂高子曰。山徑之蹊閒。介然用之而成路。爲閒不用。則茅塞之矣。今茅（豐）塞子之心矣。（國語調）

○高子曰。禹之聲。尙文王之聲。孟子曰。何以言之。曰。以追蠡。曰。是奚足哉。城門之軌。兩馬之力與。

○齊饑。陳臻曰。國人皆以。夫子將復爲發棠。殆不可復。孟子曰。是爲馮婦也。晉（何）人有馮婦者。（謂馮婦）善搏虎。卒爲善士。則之野。有衆逐虎。虎負嵎。莫之敢攖。（看其技事躍々欲出）望見馮婦。趨而迎之。馮婦攘臂下車。衆皆悅之。其爲士者笑之。

○孟子曰。口之於味也。目之於色也。耳之於聲也。鼻之於臭也。四肢之於安佚

看其譬喩。所以讀而不厭。異世理學家集。

▲妙譬。要看其造語古錬處。否則亦墮俗矣。

也。性也。有命焉。君子不謂性也。仁之於父子也。義之於君臣也。禮之於賓主也。智之於賢者也。聖人之於天道也。命也。有性焉。君子不謂命也。小人反之

○浩生不害問曰。樂正子何人也。孟子曰。善人也。信人也。何謂善。何謂信。曰。可欲之謂善。有諸己之謂信。充實之謂美。充實而有光輝之謂大。大而化之之謂聖。聖而不可知之之謂神。樂正子二之中。四之下也。

○孟子曰。逃墨必歸於楊。逃楊必歸於儒。歸斯受之而已矣。今之與楊墨辯者。如追放豚。既入其苙。又從而招之。

○孟子曰。有布縷之征。粟米之征。力役之征。君子用其一。緩其二。用其二。而民有殍。用其三。而父子離。

○孟子曰。諸侯之寶三。土地。人民。政事。珠玉不與焉寶珠玉者。殃必及身。東山養政

○盆成括仕於齊。孟子曰。死矣盆成括。盆成括見殺。門人問曰。夫子何以知其

何其簡易直截也。亦一語翻弄體。錯綜出之。最見其妙。中三段抽出上段。覆言之。以爲結。妙。

將見殺。曰。其爲人也小有才。（惡左府信西）未聞君子之大道也。則足以殺其軀而已矣。

○孟子之滕。館於上宮。有業屨於牖上。館人求之弗得。或問之曰。若是乎從者之廋也。曰。子以是爲竊屨來與。曰。殆非也。夫子之設科也。往者不追。來者不距。苟以是心至。斯受之而已矣。

○孟子曰。人皆有所不忍。達之於其所忍。仁也。人皆有所不爲。達之於其所爲。義也。人能充無欲害人之心。而仁不可勝用也。人能充無穿踰之心。而義不可勝用也。人能充無受爾汝之實。無所往而不爲義也。士未可以言而言。（然日用小々言語亦有穿窬不可不愼愼之是所謂充也）是以言餂之也。可以言而不言。是以不言餂之也。是皆穿踰之類也。

○孟子曰。言近而指遠者。善言也。守約而施博者。善道也。君子之言也。不下帶（言近指遠之狀）而道存焉。君子之守。修其身而天下平。（守約施博之實）人病舍其田而芸人之田。所求於人者（尊重皆盡本）重。而所以自任者輕。

此外不須一一言加增。

▲語意堂々。與君子有三樂。及大丈夫二章同一文法。

○孟子曰。堯舜性者也。湯武反之也。動容周旋中禮者（非一々求其然也）。盛德之至也。哭死而哀。非爲生者也。經德不回。非以干祿也。言語必信。非以正行也。君子行法。以俟命而已矣。

○孟子曰。說大人則藐之。勿視其巍巍然。（見其）堂高數仞。榱題數尺。（俯而思之使亦）我得志弗爲也。（見其）食前方丈。侍妾數百人。（俯而思之使亦）我得志弗爲也。（見其）般樂飲酒。驅騁田獵。後車千乘。（俯而思之使）我得志（亦）弗爲也。（然則）在彼者。皆我所不爲也。在我者。皆古之制也。（而）吾何畏彼哉。

○孟子曰。養心（養天之聽明）莫善於寡欲。其爲人也寡欲。雖有不存焉者寡矣。其爲人也多欲。雖有存焉者寡矣。

○曾晳嗜羊棗。而曾子不忍食羊棗。公孫丑問曰。膾炙與羊棗孰美。孟子曰。膾炙哉。公孫丑曰。然則曾子何爲食膾炙。而不食羊棗。曰。膾炙所同也。羊棗所獨也。（猶夫）諱名不諱姓。姓所同也。名所獨也。

▲此章五問五答。如遞下。而其中有錯綜處。

君子憂世道人心。預爲之防。必思狂狷。懸鄕原。漢光武有見於此。

▲是亦複語。而更數字者。其取姿處。正在此。

○萬章問曰。孔子在陳曰。盍歸乎來。吾黨之士狂簡。進取。不忘其初。孔子在陳。何思魯之狂士。孟子曰。孔子不得中道而與之。必也狂獧乎。狂者進取。獧者有所不爲也。孔子豈不欲中道哉。不可必得。故思其次也。敢問何如斯可謂狂矣。曰。如琴張曾皙牧皮者。孔子之所謂狂矣。何以謂之狂也。曰。其志嘐嘐然。曰古之人。古之人。夷考其行。而不掩焉者也。狂者又不可得。欲得不屑不潔之士而與之。是獧也。是又其次也。孔子曰。過我門。而不入我室。我不憾焉者。其惟鄕原乎。鄕原德之賊也。曰何如斯可謂之鄕原矣。曰。何以是嘐嘐也。言不顧行。行不顧言。則曰。▲則字法 古之人。古之人。行何爲踽踽涼涼。生斯世也。爲斯世也。善斯可矣。閹然媚於世也者。是鄕原也。萬子曰。一鄕皆稱原人焉。無所往而不爲原人。孔子以爲德之賊何哉。曰。非之無擧也。刺之無刺也。同乎流俗。合乎汙世。居之似忠信。行之似廉潔。衆皆悅之。自以爲是。○無奈此一件何也 而不可與入堯舜之道。故曰德之賊也。孔

到底非獨善者。所以異後世議論。

▲下數箇也字。必以一箇矣字斷之。是古文多有。重在聞而知之一個上。

▲是爲一書之尾。故曲終奏雅悠然。有江上數峯青之意。

子曰。惡似而非者。惡莠。恐其亂苗也。惡佞。恐其亂義也。惡利口。恐其亂信也。惡鄭聲。恐其亂樂也。惡紫。恐其亂朱也。惡鄉原。恐其亂德也。君子反經而已矣。經正。則庶民興。庶民興。斯無邪慝矣。

○孟子曰。由堯舜至於湯。五百有餘歲。若禹皐陶。則見而知之。若湯。則聞而知之。由湯至於文王。五百有餘歲。若伊尹萊朱。則見而知之。若文王。則聞而知之。由文王至於孔子。五百有餘歲。若太公望散宜生。則見而知之。若孔子。則聞而知之。由孔子而來至於今。百有餘歲。去聖人之世。若此其未遠也。近聖人之居。若此其甚也。然而無有乎爾（豈無聞而知之者乎。）（指見知）則亦無有乎爾。（指聞知）

孟子評點卷之七終

書孟子評點後。

古語槩平易明白。本不須注。須注者。名物度數而已。大抵注家。胸有成見。牽古語從之。後人未讀正文。而先讀注。處處礙心目。況甲是乙非。吾誰適從。故盡去諸注。如芟荆棘露松柏。姿儀呈露。脈理流通。古人之心。躍躍而出。是吾治經法也。古書最平易者論語。而孟子更明快。以其戰國人言語也。余嘗置孟子白文一本。每晨琅誦。隨加點評。世傳老蘇批點本。恐屬假託。余所爲雖陋。乃吾眞已。今以付覗人。必嗤其以文視經侮經也。則對之曰。經非文乎。舍文言經。經始爲艱澁頑痒之物。此尊經也。非侮也。

戊寅二月六日　　山陽外史頼某題

書孟子評點後。（寺內本）

世儒經視孟子。不敢文視孟子。夫未知其文而得其意難矣哉。吾好孟子之文日夕讀之、偶會心者。則批焉、圈焉。勾截焉。加之評論積爲一書。非敢玩弄古經亦欲因以得其意也。友人有見而好之者。吾乃授之、且告曰、吾聞昔蘇氏嘗爲斯舉云。而後世無傳。其傳者僞也。假使其眞者傳乎。則與吾所爲異同果若何也、雖然。人之好惡同也、彼之所批而我圈之。我之所勾而彼截之如此焉耳無有大異。且蘇氏之子有言。曰。孟子眞執筆學爲如此之文哉。其氣充其中而溢其外。動其言見其文章。而不自知也。然則能文視孟子而拘々於批圈勾截之異同者。亦非知其文者也。（文化五年）（藍書）

古語皆平易明白、槩不須注、須注釋者。名物度數而已。大抵注家胸有成見牽古語從之、後人未讀正文。而先讀注處、注處礙目、況甲是乙非吾誰適從盡去諸注、如芟荊棘露嘉木。姿儀呈露脈理流通古人之心躍然而出是吾治經法也。古書最平易者論語而孟子更明快以其戰國人言語也雖大經所謂以儀

秦漢古。明、周孔心胸、卓識明辨、蘇醒萬世者、確論也。余嘗置白本一卷、每晨琅誦、隨加點評。今以付某生。或曰、以文視經媟矣。則答之曰、經非文乎。舍文言經。經所以必須於注、而經始爲艱澁頑疎之物矣。我尊經也。非媟經也。（朱書）

戊寅（文政元年）二月六日　　山陽外史頼某題

書孟子評點後。（賴　本）

世儒經視孟子。而不敢文視孟子。故莫能知其妙也。吾好孟子之文。日夕讀之。每遇有會意者。則批之。圈之。勾截之。加之評論。成卷帙。非敢以古經爲玩。其亦欲因其文以得意也。友人有見而好之者。吾乃授之。且告曰。吾聞昔蘇老泉嘗爲斯舉云。而後世無傳焉。其傳者僞也。假使其眞者傳乎。與吾所爲異同乎否。雖然。人之好惡同也。彼之所批而吾圈之。我之所勾而彼截之焉耳。寧有大異哉。且蘇氏子有言。曰孟子豈執筆學爲如此之文哉。其氣充其中而溢其外。動其言。見其文。而不自知也。夫然。故文視孟子。而拘々於批圈・勾截之異同。亦非知其文者也。

文化五年戊辰仲夏　　山陽外史賴襄謹跋

# 古文典刑

# 「古文典刑」解題

賴山陽、少年作ルトコロノ文脈ヲ味フ者、孰レカソノ秦・漢以上ノ古文ヲ咀嚼シタルノ深キモノアルヲ疑フモノアラン。更ニ本書ノ選評ニ徴シテ、ソノ用力ノ特ニ厚キモノアルヲ思ハザルヲ得ザラン。

山陽ハ由來、「文」ニ由リ、「經」ヲ解セントスル一家ノ見ヲ立テ、經旨ヲ透觀スルニ、文法ヲ明カニスベキヲ唱道シタルハ、蓋シソノ青年期ニ當リ、服部栗齋ノ指導ニ得タルモノアリ。

今、「古文典刑」ヲ選評シテ、ソノ凡例ニ述ブル所ヲ見ルニ、

「今ノ謂ハユル文ハ、記ニ非ズンバ則チ序ナリ。故ニソノ選文ハ、専ラ韓・柳以後ヲ取リ、而モ時アリテ古ニ及ベルアルノミ、今、斷斷然、獨リ周・秦・兩漢ニ取レリ、蓋シ諸選ノ「唐宋」八家ニ於ケル、聚シテ周備セルコト、必ズシモ贅セザルナリ。且八家ノ文ハ、人、コレヲ文視シテ、周・秦ノ文ハ、人コレヲ經視シ、マタコレヲ史子視ス

ルノミ、余ガコノ選アルハ、人ヲシテ亦コレヲ文視シ、以テソノ法ヲ得セシメント欲スレバナリ。」

人ハ、漢以上ノ文ヲ經・史・子トシテ視、已レハコレヲ文章トシテ視ル、コヽニ一家ノ學說ハ樹立セラル。經ハ文ナリ、文ヲ離レテ經トイフモノアルベクモアラズ。文ヲ究メズンバ、經ハ解スベカラズ、文ノ重ンゼラレザルベカラザルコト、以テ見ルベク、『典刑』ノ選ニ已ムベカラザリシ所以ナリ。

カヽル意圖ノ下ニ、『典刑』ノ編セラレタルハ、蓋シ文化ノ初「廿五六歲」ニ在リシナルベシ。ソノ友・石井豐洲ニ與フル書ニイフ、

「典刑ノ淨寫、足下ヲ煩ハセシコト多シ、悚息ス。家翁云フ、原本、半紙ヲ以テ寫セルハ、諸口紙ヲ以テ寫スノ優レリトスルニ若カザルナリト。スデニ半紙ヲ以テ寫サルレバ則チ可シ、否ラズンバ則チ諸口紙ヲ以テ寫ス、則チ幸ナリ。」

コノ文ノ成ル、予、コレヲ文化二年ニ擬セリ。即チ『典刑』ノ稿本ハ、豐洲ノ手ニ由リテ

浄寫セラレタルヲ思フベク、ソノ後、文化十二年ノ秋、一旦、開版ノ意アリシモ、果サレズシテ止メリ。文政七年〔四十五歳〕二月廿六日ニ至リ、初稿本ノ塗抹縱橫ナルモノ、ソノママ久シク篋底ニ委セラレタルヲ取リ、村瀨藤城・江馬細香ニ柬シテ、

「此文章典刑〔初、秦漢小品、後、古文ト改題〕と申もの、僕少時選輯、村瀨數欲ニ一見一候へども、アマリ面白もなきもの故、弃置申候。八家〔評本貸與〕延引之理に、此度篋底蠹魚堆裡より引ズリ出し、供レ覽候。此儘にては見るもウルサカルベシ。村瀨之手に而、一浄錄いたしもらひ申度候。凡例もあり、自レ跡可レ遣候。」

知ラズ、藤城本ノ成否如何。

山陽歿後、在大坂後藤松陰塾・賴三樹〔十八歳〕ガ、天保十三年九月廿日、賴聿庵ニ宛テシ書翰ニ、

「先便より多々御願申上候文章典刑、何卒御寫取被レ下候はゞ、早々御願申上候。若又御公用にて、御忙敷御座候はゞ、何卒〔大坂へ〕御上せ奉レ願候成共〔ことし夏、廣

島にて」奉別之時、承候儀も有レ之候へ共、又二兄〔支峯と〕も、何處にて〔か〕、相共々寫取、返璧可レ仕候、何卒〳〵御遣奉レ願候。若黨・塾中之人目、又ハ紛失之御念慮も有間敷候へ共、若左樣之義成ば、幸ひ又二兄、京寓臥床、定而御待と存候故、京都へ直樣上せ申候間、何卒一月ほど、借用仕候はゞ、直樣返璧可レ仕候。……明年にても、若向ニ江府ニ之儀も、はかりがたく、其故何卒及ニ今時ニ一覽可レ仕存念に御座候。」

見ルベシ、三樹ガ先考ノ遺編ニ對スル眷々ノ至情ヲ寓スルモノアリシヲ。而モ事實、ソノ翌年ヲ以テ、江戸游學ノ擧アリ。ソノ存念、亦果シテ達セラレシヤ否。

今假リニ、山陽ノ手ヨリ親シク藤城ニ送ラレタル初稿本ガ、聿庵ノ襲藏シタルモノト同一本ナリト見做シテ、爾後開版セラレタル原本ヲ、コレニ擬定シ得ラレザルニアラザレド、尚別ニ三樹ヨリ森田節齋ニ贈リシ一本アリ、

「節齋亦先人弟子。深志ニ於斯文一者。曰。將レ欲ニ枕藉終一レ身。以長ニ其文與一レ識。則不レ負ニ此贈一者ニ乃不レ負ニ此遺一也。」嘉永甲寅〔安政元年〕孟春、不肖醇拜」

卷末ノ題識、右ノ如シ。予ハ未ダコレヲ實見スルヲ得ザレド、ソノ刊本ニ非ザル限リ、コノ贈本ハ、誰ガ手ニ由リテ寫サレタルモノニヤ。

今京都・賴家襲藏ノモノハ、蓋シ山陽ノ初稿本タルヲ疑ハズ、卽チ刊本ノ成ル、是レソノ原ヅクトコロナリシナルベシ。

現行刊本、ソノ開版ノ年月ヲ明カニセズ。上卷ハ藤城・中卷ハ聿庵・下卷ハ支峯ト三樹トノ校本トシテ署名セラレタルヲ見レバ、藤城ノ手ニ托セラレタル初稿本ガ、後ニ聿庵ノ傳襲スル所トナリ、支峯・三樹ノ謄寫ヲ經テ開版ノ擧アルニ及ベリト見テ、不可ナカルベキコト、亦三樹ノ書翰ニ、ソノ徵證アリ。而モソノ初稿本ハ、今ヤ轉ジテ京都ニ保存セラレタルナルベキ歟。〔好尙生〕

# 古文典刑凡例

一以和人選漢文。以今人選古文。非僭則贅矣。然有不得已者。夫昭明之選。非選文也。選詞也。宋明以來。其選文者。指不暇僂。而其所收取。辟於一偏。彼蹈此襲。殊爲厭觀。林西仲自矜獨見。猶循故轍。餘可知矣。蓋彼專爲場屋。勢必至此。我方無此事。可以肆意取舍。是余所以敢於自選。自選自讀。滿吾意而已。豈敢因差排古人。而摸範後生哉。

一漢人之選。皆利擧子。故取議論舍叙事。如左史二書。亦唯取其辭令論贊而已。今不敢倣。譬之畫。使黃徐爲山水。倪黃爲花卉。豈無可觀。終非本色。

一眞西山及淸人儲欣所輯。在諸選中。獨能及於叙事。而卷帙頗繁。不便觀覽。余謂。所庸於選者。以其簡便也。必責其備。守書庫而後可。彼陳九鼎抽一臠。某爲大武。某爲明視。雖未屬饜。可以知味。他日入庖大嚼。吾不汝禁也。

一今之所謂文者。非記則序。故其選文專取韓柳以後。而時有及於古。今斷斷

然獨取周秦兩漢者。蓋諸選於八家。粲爲周備。不必贅也。且八家之文。人文視之。周秦之文。人經視之。而史子視之而已。余有此選。欲使人亦文視之以得其法也。且韓柳定體。而後人沿之。沿而不泝。所以不及其如江如海者也。譬若學書。學米而不學褚。終不成米。學蘇而不學顏。終不成蘇。余欲使人悟韓柳用筆之所本也。夫古帖愈摸愈差。唯存形體。古文不啻典刑。猶有存其光彩精神。無毫髮缺損。其可不俛首臨摹。

一析義全編所取。有一二及敍事者。而大不滿人意。且如史記鉅鹿之戰以前後布置取勢。而彼特取渡河一段。全無精彩。此類甚多。今取其就一節中略成光甚者。如左氏韓濮。皆鉅鹿類也。所以不取。

一伯夷傳丰韵絕世。然可誦不可學。蓋史公當初欲立傳。而苦其事少文短。故極力敷衍。又牽引經史以充一卷耳。且附驥一句。開後人套語陋習。竟屬壁環。選家必取。亦矮人觀場矣。屈原傳妙在合賈生觀贊可見。選家截賈傳而附其贊。何哉。貨殖傳妙在全文。而節取潁川南陽以下。不知何說。此類不可

指數。余選非敢爲異也。

一文衰於東漢。古今通論。然西漢既有衰者。鄒陽。枚乘。終軍。司馬相如。杜欽。谷永。皆開六朝風習。蓋議論至長沙。敘事至龍門。周秦詞源傾瀉無餘。使有此一派濁流出來。世運轉化。機在於此。選家乃顧取之。蓋收其華藻駢儷。以資帖括耳。今皆不取。如出師表。簡嚴雄整。不可以時代限。焉得不取。

一漁父辭。語意膚淺。不類他騷。疑景差唐勒輩所僞撰。其他屬辭賦者。雖巧不取。

一敘事中有議論者。史也。議論中有敘事者。子也。諸選主議論而取史遺子。至如韓非。亦唯取其收入史中者而已。皆不可解。夫先秦諸子。乃天地精華所鍾。選文而遺此。眞赤水之珠也。雖余非罔象。畧收拾之。觀者諒其勞。則幸矣。

一所取。有未經昔人論評者。有已經焉者。而體無全膚者。今不復考檢。唯隨讀讀批之。又加鄙見。或有雷同。觀者勿尤。抑余何人。敢評海外古人。譬如鄙人評三都優伶巧拙。苟有可評。彼都人士既盡之矣。何以此呶呶爲然。倍爻與

語其所觀。性情相近。語言相習。欣異之語。此或愈彼耳。至於叙事以余嘗修私史。於古人苦心處。似略窺彷彿。今所評多身涉歷語。非必矮人觀場也

一唐宋以後。有意作文。兩漢以上不然。唯摸擬昉於子雲。剽竊昉於孟堅。此二人本不可齒作者。其他大抵據事直叙。意到筆隨。但有自然節族。開後人法門者。此不可不言耳。如析義。莊子因左繡史記論文曰。某句應某句。某字伏某字之類。近誣古人。今不敢傚。獨金聖歎才子必讀。方望溪左氏舉要。其評語直截簡明。啓發吾人者。略取一二。附見之。

一近時碩匠。以綴緝爲古文。乃取歷城太倉。配呂黎河東。毋論刻畫無鹽唐突西施。其例言謂選及秦漢者。爲無用。今之造文者。視古書以爲取材之府。不復察其行文。觀漢人諸選。闌置其前半。而先讀其韓云柳云者。積習所染。有不自知者。余有此選。欲蒙學因此以有悟。力探本源。會其神理。不徒襲其皮毛也。

一正享間文人以聱牙戟口相高。今則變爲流便。爲輕儇。爲鄙俚猥陋。或規摸

小說演史。或取詩文論評之語。高文典冊。一切用此。非此則不入時。間有言韓柳者。斥爲陳腐。當是時。而有是著。猶售商鼎周彝於張三李四之前。誰不笑其迂。然世間不可無此迂男子也。愛其古色。摩挲不厭。寧問售否哉。

一文字當視題擬體。譬如詩。其題目有宜古風。有宜近體。故題跋小品。不可不學元明諸名家之體。八家猶有不道到者。至論說序記。是八家當行。而八家所原。最不可不知。且秦漢之雄麗奇橫。固足爲論說序記之源。而其輕妙簡雋。又題跋小品之鼻祖。此中消息。豈可與味者道哉。

藝國　賴襄子成氏識

# 古文典刑 卷上

藝國 賴襄子成 評選
三野 村瀨褧士錦 校

## 檀弓

三疊法。末借二穆公口一。贊嘆爲レ結。亦用二三疊一。相映成レ趣。檀弓每以二複語一生レ姿。

### 重耳答秦

晉獻公之喪。秦穆公使レ人弔二公子重耳一。且曰。寡人聞レ之。亡レ國恆於レ斯。得レ國恆於レ斯。雖二吾子儼然在一憂服之中一。喪亦不レ可レ久也。時又不レ可レ失也。孺子其圖レ之。以告二舅犯一。舅犯曰。孺子其辭焉。喪人無レ寶。仁親以爲レ寶。父死之謂何。又因以爲レ利。而天下其孰能說レ之。孺子其辭焉。公子重耳對レ客曰。君惠弔二亡臣重耳一。身喪父死。不レ得レ與二於哭泣之哀一。以爲二君憂一。父死之謂何。或敢有二他志一。以辱二君義一。稽顙而不レ拜。哭而起。起而不レ私。子顯以致二命於穆公一。穆公曰。仁夫公子重耳。夫稽顙而不レ

布置整暇。

哉焉矣三字無限之烟波。

好箇一篇堂記。

兩疊音節鏗鏘。末以二句玉振之。

拜則未爲後也。故不成拜。哭而起則愛父也。起而不私則遠利也。

曾子易簀

曾子寢疾。病。樂正子春坐於床下。曾元曾申坐於足。童子隅坐而執燭。童子曰。華而睆。大夫之簀與。子春曰。止。曾子聞之。瞿然曰。呼。曰。華而睆。大夫之簀與。曾子曰。然。斯季孫之賜也。我未之能易也。元起易簀。曾元曰。夫子之病革矣。不可以變。幸而至於旦。請敬易之。曾子曰。爾之愛我也。不如彼。君子之愛人也以德。細人之愛人也以姑息。吾何求哉。吾得正而斃焉。斯已矣。擧扶而易之。反席未安而沒。

獻文子成室

晉獻文子成室。晉大夫發焉。張老曰。美哉輪焉。美哉奐焉。歌於斯。哭於斯。聚國族於斯。文子曰。武也得歌於斯。哭於斯。聚國族於斯。是全要領以從先大夫於九京也。北面再拜稽首。君子謂之善頌善禱。

趙文子知人

不獨文有風調。描畫一通。左氏亦有遜色。又并叔譽陽處父舅犯人品。歷歷可見。如史記合傳體。

此一句。一篇振子。

着式而聽之一句。乃有生色。

用焉字法。

一掉尾。通體皆勁。柳州捕蛇・青田・賣柑。視此。皆覺吻吻。

起得何等奇崛。

趙文子與叔譽觀乎九原。文子曰。死者如可作也。吾誰與歸。叔譽曰。其陽處父乎。文子曰。行并植於晉國。不沒其身。其知不足稱也。其舅犯乎。文子曰。見利不顧其君。其仁不足稱也。我則隨武子乎。利其君不忘其身。謀其身不遺其友。晉人謂文子知人。文子其中退然。如不勝衣。其言吶吶然。如不出諸其口。所舉於晉國。管庫之士。七十有餘家。生不交利。死不屬其子焉。

## 死於虎者

孔子過泰山側。有婦人哭於墓者而哀。夫子式而聽之。使子路問之曰。子之哭也。壹似重有憂者。而曰然。昔者吾舅死於虎。吾夫又死焉。今吾子又死焉。夫子曰。何爲不去也。曰無苛政。夫子曰。小子識之。苛政猛於虎也。

# 考工記

## 序工

粤無鎛。燕無函。秦無廬。胡無弓車。粤之無鎛也。非無鎛也。夫人而能爲鎛也。燕

總提分應法。

夫人而能爲者。不謂之工也。

是豈夫人所能爲哉。

粘下不得地氣也句。先敍地氣爲兩段波瀾。以材美段插其後。自金錫幹笴直接艸木水石。應上文天有時句。是古文頂針回環法。

先著議論。後敍物件。眞序文體裁。

通篇連下也字。下以此段收束。則流蕩矣。

亦總提分應。

之無函也非無函也。夫人而能爲函也。秦之無廬也。非無廬也夫人而能爲廬也。胡之無弓車也非無弓車也。夫人而能爲弓車也。知者創物。巧者述之。守之世。謂之工。百工之事。皆聖人之作也。爍金以爲刃。凝土以爲器。作車以行陸。作舟以行水。此皆聖人之所作也。天有時。地有氣。材有美。工有巧。合此四者。然後可以爲良。材美工巧。然而不良。則不時。不得地氣也。橘踰淮而北爲枳。鸜鵒不踰濟。貉踰汶則死。此地氣然也。鄭之刀。宋之斤。魯之削。吳・粤之劍。遷乎其地而弗得爲良。地氣然也。燕之角。荆之幹。妢胡之笴。吳粤之金錫。此材之美者也。天有時以生。有時以殺。草木有時以生。有時以死。石有時以泐。水有時以凝。有時以澤。此天時也。凡攻木之工七。攻金之工六。攻皮之工五。設色之工五。刮摩之工五。搏埴之工二。攻木之工。輪・輿・弓・廬・匠・車・梓。攻金之工。築・冶・鳧・㮚・段・桃。攻皮之工。函・鮑・韗・韋・裘。設色之工。畫・繢・鍾・筐・㡛。刮摩之工。玉・楖・雕・矢・磬。搏埴之工。陶・旊。

## 梓人

波瀾。

語愈複。意愈明。調愈遒。是考工妙處。

余幼時讀到此。自謂得昌黎從東野粉本。既而知昔人已有道及者矣。

餘波奇麗。

梓人爲筍虡。天下之大獸五。脂者·膏者·臝者·羽者·鱗者。宗廟之事。脂者·膏者以爲牲。臝者·羽者·鱗者以爲筍虡。外骨內骨。卻行仄行。連行紆行。以脰鳴者。以注鳴者。以旁鳴者。以翼鳴者。以股鳴者。以胷鳴者。謂之小蟲之屬。以爲雕琢。厚脣弇口。出目短耳。大胸燿後。大體短脰。若是者。謂之臝屬。恒有力而不能走。其聲大而宏。有力而不能走。則於任重宜。聲大而宏。則於鍾宜。若是者。以爲鍾虡。是故擊其所縣。而由其虡鳴。銳喙決吻。數目顅脰。小體騫腹。若是者。謂之羽屬。恒無力而輕。其聲清陽而遠聞。無力而輕。則於任輕宜。其聲清陽而遠聞。則於磬宜。若是者。以爲磬虡。是故擊其所縣。而由其虡鳴。小首而長。摶身而鴻。若是者。謂之鱗屬。以爲筍。凡攫閷援簭之類。必深其爪。出其目。作其鱗之而。深其爪。出其目。作其鱗之而。則於眡必撥爾而怒。苟撥爾而怒。則於任重宜。且其匪色必似鳴矣。爪不深。目不出。鱗之而不作。則必頹爾如委矣。苟頹爾如委。則加任焉則必如將廢措。其匪色必似不鳴矣。

# 孟子

## 魚熊掌

正喩對起。此法古文中罕觀者。三段重說。以是故一節束一轉下。

是心二字通篇血脈。挿此一段。有彩色。以雙關起。以三疊結。平波穩流。忽作層濤疊波。格局可學。

魚我所欲也。熊掌亦我所欲也。二者不可得兼。舍魚而取熊掌者也。生亦我所欲也。義亦我所欲也。二者不可得兼。舍生而取義者也。生亦我所欲。所欲有甚於生者。故不爲苟得也。死亦我所惡。所惡有甚於死者。故患有所不辟也。如使人之所欲莫甚於生。則凡可以得生者。何不用也。使人之所惡莫甚於死。則凡可以辟患者。何不爲也。由是則生。而有不用也。由是則可以辟患。而有不爲也是故所欲有甚於生者。所惡有甚於死者。非獨賢者有是心也。人皆有之。賢者能勿喪耳。一簞食。一豆羹。得之則生。弗得則死。嘑爾而與之。行道之人弗受。蹴爾而與之。乞人不屑也。萬鍾則不辨禮義而受之。萬鍾於我何加焉。爲宮室之美妻妾之奉。所識窮乏者得我與。鄉爲身死而不受。今爲宮室之美爲之。鄉爲身死而不受。今爲妻妾之奉爲之。鄉爲身死而不受。今爲所識窮乏者得我而

孟辯詰文最可誦者。昌黎毎學此種手法。

鄒夫子善用反語。

復梓匠輪輿。即諱辨復官宦官宮妾語調。

四問四答。最後以且字一轉。執他口中。爲出一否字。斷定之。

柳州小品多自此等來。

蚤起施三字

爲之。是亦不可以已乎。此之謂失其本心。

彭更

彭更問曰。後車數十乘。從者數百人。以傳食於諸侯。不以泰乎。孟子曰。非其道則一簞食不可受於人。如其道則舜受堯之天下。不以爲泰。子以爲泰乎。曰否。士無事而食。不可也。曰。子不通功易事。以羨補不足。則農有餘粟。女有餘布。子如通之。則梓匠輪輿。皆得食於子。於此有人焉。入則孝。出則悌。守先王之道。以待後之學者。而不得食於子。子何尊梓匠輪輿。而輕爲仁義者哉。曰。梓匠輪輿。其志將以求食也。君子之爲道也。其志亦將以求食與。曰子何以其志爲哉。其有功於子。可食而食之矣。且子食志乎。食功乎。曰。食志。曰。有人於此。毀瓦畫墁。其志將以求食也。則子食之乎。曰否。曰然則子非食志也。食功也。

齊人

齊人有一妻一妾。而處室者。其良人出。則必饜酒肉。而後反。其妻問所與飲食者。則盡富貴也。其妻告其妾曰。良人出。則必饜酒肉。而後反。問其與飲食者。盡

如畫。是等後世人筆寫不到。

寫醜態不耐。着此其云云一句。文有收拾。

篇內三用而字。皆妙。

提東同語法。

柳蘇二家。善用此法。

袁子才云。荊公性拗折。故琢句撰詞。迴別凡調。余於荀卿亦云。孟子俊爽。荀文雅贍。彼以才。此以學也。

富貴也。而未嘗有顯者來。吾將瞯良人之所之也。蚤起施從良人之所之。徧國中無與立談者。卒之東郭墦間之祭者。乞其餘。不足。又顧而之他。此其爲饜足之道也。其妻歸告其妾曰。良人者。所仰望而終身也。今若此。與其妾訕其良人。而相泣於中庭。而良人未之知也。施施從外來。驕其妻妾。由君子觀之。則人之所以求富貴利達者。其妻妾不羞也。而不相泣者。幾希矣。

## 荀子

### 持國

持國之難易。事強暴之國難。使強暴之國事我易。事之以貨寶。則貨寶單。而交不結。約信盟約。則約定。而畔無日。割國之錙銖以賂之。則割定。而欲無饜。事之彌煩。其使人愈甚。必至於資單國舉然後已。雖左堯而右舜。未有能以此道得免焉者也。辟之是猶使處女嬰寶珠佩寶玉負戴黃金而遇中山之盜也。雖爲之逢蒙視。詘要撓膕。君盧屋妾。由將不足以免之。故非有一人之道也。直將巧繁

此數句。聯合兩段鐵紐索也。兩段譬喩。前畧數十言。此只一句。錯落勁健。

莊生之文雖幻變百出。亦有慣家。一經窺破。學之匪難。今舉其最易覩者數首。莊生大文字。連用乎字。又連用不知其

拜請而畏事之。則不足以持國安身。故明君不道也。必將修禮以齊朝。正法以齊官。平政以齊民。然後節奏齊於朝。百事齊於官。衆庶齊於下。如是則近者競親。遠方致願。上下一心。三軍同力。名聲足以暴炙之。威強足以捶笞之。拱揖指麾。而強暴之國莫不趨使。譬之是猶烏獲與焦僥搏也。故曰。事強暴之國難。使強暴之國事我易。此之謂也。

# 莊子

## 對東郭子

東郭子問於莊子曰。所謂道惡乎在。莊子曰。無所不在。東郭子曰。期而後可。莊子曰。在螻蟻。曰。何其下邪。曰。在稊稗。曰。何其愈下邪。曰。在瓦甓。曰。何其愈甚邪。曰。在屎溺。東郭子不應。莊子曰。夫子之問也。固不及質。正獲之問於監市履豨也。每下愈況。汝唯莫必。無乎逃物。至道若是。大言亦然。周徧咸。三者異名同實。其指一也。嘗相與遊乎無何有之宮。同合而論。無所終窮乎。嘗相與無爲乎。澹

所字。句法同。而長短異。昌黎蓋自是等悟入。

直言之。一兩句可盡。乃爲掀舞之筆。使讀者不能端倪。是這叟弄狡獪處。

莊生小品。

仙人之語。凡夫亦可領解。是南華勝場。

行文亦砉然嚮然。

假文惠口。發

而靜乎。漠而清乎。調而閒乎。寥已吾志。無往焉而不知其所至。去而來不知其所止。吾已往來焉。而不知其所終。彷徨乎馮閎。大知入焉。而不知其所窮。物物者與物無際。而物有際者。所謂物際者也。不際之際。際之不際者也。謂盈虛衰殺。彼爲盈虛非盈虛。彼爲衰殺非衰殺。彼爲本末非本末。彼爲積散非積散也。

## 庖丁

庖丁爲文惠君解牛。手之所觸。肩之所倚。足之所履。膝之所踦。砉然嚮然。奏刀騞然。莫不中音。合於桑林之舞。乃中經首之會。文惠君曰。譆善哉技。蓋至此乎。庖丁釋刀對曰。臣之所好者道也。進乎技矣。始臣之解牛之時。所見無非牛者。三年之後。未嘗見全牛也。方今之時。臣以神遇。而不以目視。官知止而神欲行。依乎天理。批大郤。導大窾。因其固然。技經肯綮之未嘗。而況大軱乎。良庖歲更刀割也。族庖月更刀折也。今臣之刀十九年矣。所解數千牛矣。而刀刃若新發於硎。彼節者有閒。而刀刃者無厚。以無厚入有閒。恢恢乎其於遊刃必有餘地矣。是以十九年而刀刃若新發於硎。雖然每至於族。吾見其難爲。怵然爲戒。視

全篇本旨。譬如畫龍一點其睛。而八十一鱗皆動。

爲止。行爲遲。動刀甚微。謋然已解。如土委地。提刀而立。爲之四顧。爲之躊躇。滿志。善刀而藏之。文惠君曰。善哉。吾聞庖丁之言。得養生焉。

用矣字法。

## 南伯子綦

南伯子綦隱几而坐。仰天而噓。顏成子入見曰。夫子物之尤也。形固可使若槁骸。心固可使若死灰乎。曰。吾嘗居山穴之中矣。當是時也。田禾一覩我。而齊國之衆三賀之。我必先之。彼故知之。我必賣之。彼故鬻之。若我而不有之。彼惡得而知之。若我而不賣之。彼惡得而鬻之。嗟乎。我悲人之自喪者。吾又悲夫悲人者。吾又悲夫悲人之悲者。其後而日遠矣。

樊山賦阿房。結語蓋此意。乃獲名百世。

寓言是這叟一生把柄。借古人。借今人。又借鳥獸蟲魚。卒借無目無口之物。使之問答。自己姓名却借其

## 罔兩問景

罔兩問景曰。曩子行。今子止。曩子坐。今子起。何其無特操與。景曰。吾有待而然者邪。吾所待又有待而然者邪。惡識所以然。惡識所以不然。昔者莊周夢爲蝴蝶。栩栩然蝴蝶也。自喩適志與。不知周也。俄而覺。則蘧蘧然周也。不知周之夢爲蝴蝶與。蝴蝶之夢爲周與。周與蝴蝶。則必有分矣。此之謂物化。

口見之。是仙人游戲於斯文處。後生學之亦可醫滯礙之病。

色態全存栩栩蘧蘧字上。

三能字伏下二十餘能字。

一部大藏經不出此範圍。

此職字繳上文三職字。

四無字根無爲之無來。

# 列子

## 天地無全功

天地無全功。聖人無全能。萬物無全用。故天職生覆。地職形載。聖職教化。物職所宜。然則天有所短。地有所長。聖有所否。物有所通。何則生覆者不能形載。形載者不能教化。教化者不能違所宜。宜定者不出所位。故天地之道。非陰則陽。聖人之教。非仁則義。萬物之宜。非柔則剛。此皆隨所宜。而不能出所位者也。故有生者。有生生者。有形者。有形形者。有聲者。有聲聲者。有色者。有色色者。有味者。有味味者。生之所生者死矣。而生生者未嘗終。形之所形者實矣。而形形者未嘗有。聲之所聲者聞矣。而聲聲者未嘗發。色之所色者彰矣。而色色者未嘗顯。味之所味者嘗矣。而味味者未嘗呈。皆無爲之職也。能陰能陽。能柔能剛。能短能長。能圓能方。能生能死。能暑能涼。能浮能沈。能宮能商。能出能沒。能玄能黃。能甘能苦。能羶能香。無知也。無能也。而無不知也。而無不能也。

蘇家史論。横絕今古。似下自此等得來。

法度嚴切。無毫髮解弛。眞法家之文。

前段兩節。皆一提一束。後段亦兩節提束。皆同而節節唯兩句。後節三百來字。爲三疊。變化不測。

# 韓非子

## 齊桓公論

齊桓公之時。管客至。有司請禮。桓公曰。告仲父者三。而優笑曰。易哉爲君。一曰仲父。二曰仲父。桓公曰。吾聞。君人者。勞於索人。佚於使人。吾得仲父已難矣。得仲父之後。何爲不易乎哉。或曰。桓公之所應優。非君人者之言也。桓公以君人。爲勞於索人。何索人爲勞哉。伊尹自以爲宰干湯。百里奚自以爲虜干穆公。虜所辱也。宰所羞也。蒙羞辱而接君上。賢者之憂世急也。然則君人者。無逆賢而已矣。索賢不爲人主難。且官職所以任賢也。爵祿所以賞功也。設官職。陳爵祿。而士自至。君人者奚其勞哉。使人又非所佚也。人主雖使人。必以度量準之。以刑名參之。以事遇於法則行。不遇於法則止。功當其言則賞。不當則誅。以刑名收臣。以度量準下。此不可釋也。君人者焉佚哉。索人不勞。使人不佚。而桓公曰。勞於索人。佚於使人者。不然。且桓公得管仲又不難。管仲不死其君而歸桓公。

如老吏斷獄。舞文巧詆。

把桓公口中一易字。翻爲兩層波瀾。妙意妙文。

餘波作結。

一結筆力斷鐵。

鮑叔輕官讓能而任之。桓公得管仲又不難明矣。已得管仲之後奚遽易哉。管仲非周公且。周公且假爲天子七年。成王壯。授之以政。非爲天下計也。爲其職也。夫難奪子而行天下者。必不背死君而事其讎。背死君而事其讎者。必不難奪子而行天下。不難奪子而行天下者。必不難奪其君國矣。管仲公子糾之臣也。謀殺桓公而不能。其君死而臣桓公。管仲之取舍非周公且未可知也。若使管仲大賢也。且爲湯武。湯武桀紂之臣也。桀紂作亂。湯武奪之。今桓公以易居其上。是以桀紂之行。居湯武之上。桓公危矣。若使管仲不肖人也。且爲田常。田常簡公之臣也而弑其君。今桓公以易居其上。是以簡公之易居田常之上也。桓公又危矣。管仲非周公且亦以明矣。然爲湯武與田常未可知也。爲湯武有桀紂之危。爲田常。有簡公之亂也。已得仲父之後。桓公奚遽易哉。若使桓公之任管仲必知不欺己也。是知不欺主之臣也。然雖知不欺主之臣。今桓公以任管仲之專借豎刀易牙。蟲流出戶而不葬。桓公不知臣欺主與不欺主已明矣。而任臣如彼其專也。故曰桓公闇主也。

二論語意相類。而後論更俊爽快利。韓非有此等妙文。而選家不知。唯取說難一篇。直爲矮人觀場。

筆快利如刀。觸物便斷。管仲告豎刁之詞。忽爲韓非所持。連累其身。妙絕。

## 管仲論

管仲有病、桓公往問之曰。仲父病。不幸卒於大命。將奚以告寡人。管仲曰。微君言。臣故將謁之。願君去豎刁。除易牙。遠衛公子開方。易牙爲君主味。君惟人肉未嘗。易牙烝其首子而進之。夫人情莫不愛其子。今弗愛其子。安能愛君。君妬而好內。豎刁自宮以治內。人情莫不愛其身。身且不愛。安能愛君。開方事君十五年。齊衛之間不容數日行。棄其母。久宦不歸。其母不愛。安能愛君。臣聞之。矜僞不長。蓋虛不久。願君去此三者也。管仲卒死。桓公弗行。及桓公死。蟲出尸不葬。

或曰。管仲所以見告桓公者。非有度者之言也。所以去豎刁易牙者。以不愛其身適君之欲也。曰不愛其身。安能愛君。然則臣有盡死力以爲其主者。管仲將弗用也。曰不愛其死力。安能愛君。是欲君去忠臣也。且以不愛其身。度其不愛其君。是將以管仲之不能死公子糾。度其不死桓公也。是管仲亦在所去之域矣。明主之道不然。設民所欲以求其功。故爲爵祿以勸之。設民所惡以禁其姦。

三段皆以且字起。以明主之道四字爲眼。

讀至此、疊老蘇論、已屬陳腐。

起結同語。是初學最易學者。

故爲刑罰以威之。慶賞信而刑罰必。故君舉功於臣、而姦不用於上。雖有豎刁其奈君何。且臣盡死力以與君市、君垂爵祿以與臣市。君臣之際、非父子之親也。計數之所出也。君有道則臣盡力而姦不生。君無道則臣上塞主明、而下成私。管仲非明此度數於桓公也。使去豎刁、一豎刁又至、非絕姦之道也。且桓公所以身死蟲流出戶不葬者、是臣重也。臣重之實、擅主也。有擅主之臣、則君令不下究、臣情不上通。一人之力能隔君臣之間、使善敗不聞、禍福不通、故有不葬之患也。明主之道、一人不兼官、一官不兼事、卑賤不待尊貴而進、大臣不因左右而見、百官修通、羣臣輻湊、有賞者君見其功、有罰者君知其罪、見知不悖於前、賞罰不蔽於後、安有不葬之患。管仲非明此言於桓公也。使去三子、故曰、管仲無度矣。

## 孫子

### 軍形

莊妙於用虛。左妙於用實。兼之者孫子之論兵也。翻弄一勝字成文。凡廿五勝字。句法廿五變。愈出愈奇。千古妙文。學士家罕見及者。

熟讀此。可悟虛字錯綜之法。

形字是一篇題目。却於結處點出之奇格。

昔之善戰者。先爲不可勝。以待敵之可勝。不可勝在己。可勝在敵。故善戰者。能爲不可勝。不能使敵之必可勝。故曰。勝可知。而不可爲。不可勝者。守也。可勝者。攻也。守則不足。攻則有餘。善守者。藏於九地之下。善攻者。動於九天之上。故能自保。而全勝也。見勝不過衆人所知。非善之善者也。戰勝。而天下曰善。非善之善者也。故舉秋毫不爲多力。見日月不爲明目。聞雷霆不爲聰耳。古之所謂善戰者。勝於易勝者也。故善戰者之勝也。無智名。無勇功。故其善戰勝不忒。不忒者。其所措勝。勝已敗者也。故善戰者。立於不敗之地。而不失敵之敗也。是故勝兵先勝。而後求戰。敗兵先戰。而後求勝。善用兵者。脩道而保法。故能爲勝敗之政。兵法。一曰度。二曰量。三曰數。四曰稱。五曰勝。地生度。度生量。量生數。數生稱。稱生勝。故勝兵若以鎰稱銖。敗兵若以銖稱鎰。勝者之戰。若決積水於千仞之谷者。形也。

## 尉繚子

雄鷙奇傑。文有刀槊之氣。是戰國風雲蘊釀而成者。天地間有此等奇文。選家乃外而不問。可惜。

有收拾。

有開合。

加王霸之兵

## 制談

凡兵制必先定。制先定則士不亂。士不亂則刑乃明。金鼓所指則百人盡鬬。陷行亂陣。則千人盡鬬。覆軍殺將。則萬人齊刃。天下莫能當其戰矣。古者士有什伍。車有偏列。鼓鳴旗麾。先登者未嘗非多力國士也。先死者亦未嘗非多力國士也。損敵一人而損我百人。此資敵而損我甚焉。世將不能禁。征役分軍而逃歸。或臨戰自北則逃傷甚焉。世將不能禁。殺人於百步之外者。弓矢也。殺人於五十步之內者。矛戟也。將已鼓而士卒相囂。拗矢折矛。抱戟利後。發戰有此數者。內自敗也。世將不能禁。士失什伍。車失偏列。奇兵捐將而走。大衆亦走。世將不能禁。夫將能禁此四者。則高山陵之。深水絕之。堅陣犯之。不能禁此四者。猶亡舟楫絕江河。不可得也。民非樂死而惡生也。號令明。法制審。故能使之前。明賞於前。決罰於後。是以發能中利。動則有功。令百人一卒。千人一司馬。萬人一將。以少誅衆。以弱誅強。試聽臣言其術。足使三軍之衆誅一人無失刑。父不敢舍子。子不敢舍父。况國人乎。一賊仗劍擊於市。萬人無不避之者。臣謂非一人

也一句。然後轉下如二鵰翼始展。何等氣勢。

二句譬喻。前短後長。使有勢。

談鋒風生。

之獨勇。萬人皆不肯也。何則必死與必生。固不侔也。聽臣之術。足使三軍之衆爲一死賊。莫能當其前。莫能隨其後。而能獨出獨入焉。獨出獨入者。王霸之兵也。有提十萬之衆。而天下莫敢當者。誰。曰桓公也。有提七萬之衆。而天下莫敢當者。誰。曰吳起也。有提三萬之衆。而天下莫敢當者。誰。曰武子也。今天下諸國士所率。無不及二十萬之衆者。然不能濟功名者。不明乎禁舍開塞也。明其制。一人勝之。則十人亦以勝之也。十人勝之。則百千萬人亦以勝之也。故曰便吾器用。養吾武勇。發之如鳥擊。如水赴千仞之谿。今國被患者。以重幣出聘。以愛子出質。以地界出割。得天下助卒。名爲十萬。其實不過數萬爾。其兵來者。無不謂其將曰。無爲人下先戰。其實不可得而戰也。量吾境內之民。無伍莫能正矣。經制十萬之衆。而主必能使之衣吾衣。食吾食。戰不勝。守不固者。非吾民之罪。內自致也。天下諸國助我戰。猶良驥騄駬之駃。彼駑馬鬐興角逐。何能紹吾氣哉。吾用天下之用爲用。吾制天下之制爲制。修吾號令。明吾刑賞。使天下非農無所得食。非戰無所得爵。使民揚臂爭出農戰。而天下無敵矣。故曰發號令令。

首尾相救。作法匝密。

信行國內。民言有可以勝敵者。毋許其空言。必試其能戰也。視人之地而有之。分人之民而畜之。必能內有其賢者也。不能內有其賢。而欲有天下。必覆軍殺將。如此雖戰勝。而國益弱。得地而國益貧。由國中之制弊矣。

古文典刑卷上終

# 古文典刑 卷中

藝國 賴襄子成 選
男 賴元協 校

左氏叙戰。有長短者。有長者。長者如百尺重錦。短者如一片精金。

前後對待加使字與字。便活動。

燕人句。通篇過脈。

如一篇之贊。

叙戰短篇。最巧緻者。

## 左氏

### 北制之戰

四月。鄭人侵衛牧。以報東門之役。衛人以燕師伐鄭。鄭祭足。原繁。洩駕。以三軍軍其前。使曼伯與子元潛軍軍其後。燕人畏鄭三軍。而不虞制人。六月。鄭二公子以制人敗燕師于北制。君子曰。不備不虞。不可以師。

### 繻葛之戰

王奪鄭伯政。鄭伯不朝。秋。王以諸侯伐鄭。鄭伯禦之。王爲中軍。虢公林父將右軍。蔡人。衛人屬焉。周公黑肩將左軍。陳人屬焉。鄭子元請爲左拒以當蔡人衛

先叙區畫。忽入議論。簡捷圓健。

于此點出戰地。奇。

全篇生色全在膽動一句上。

左氏叙戰長篇。韓・濮・邲・鞌・鄢。凡爲五大戰。格局各異。而鄢最奇。

楚所以敗。累數十言。晉所以勝。唯須三言。

人。爲右拒以當陳人。曰。陳亂。民莫有鬭心。若先犯之。必奔。王卒顧之。必亂。蔡・衞不枝。固將先奔。既而萃於王卒。可以集事。從之。曼伯爲右拒。祭仲足爲左拒。原繁・高渠彌以中軍奉公。爲魚麗之陳。先偏後伍。伍承彌縫。戰於繻葛。命二拒曰。旝動而鼓。蔡・衞・陳皆奔。王卒亂。鄭師合以攻之。王卒大敗。祝旆射王中肩。王亦能軍。祝旆請從之。公曰。君子不欲多上人。況敢陵天子乎。苟自救也。社稷無隕多矣。夜鄭伯使祭足勞王。且問左右。

## 鄢陵之戰

十有六年。夏四月。晉侯將伐鄭。范文子曰。若逞吾願。諸侯皆叛。晉可以逞。若唯鄭叛。晉國之憂。可立俟也。欒武子曰。不可以當吾世而失諸侯。必伐鄭。乃興師。欒書將中軍。士燮佐之。郤錡將上軍。荀偃佐之。韓厥將下軍。郤至佐新軍。荀罃居守。郤犨如衞。遂如齊。皆乞師焉。欒黶來乞師。孟獻子曰。有勝矣。戊寅。晉師起。鄭人聞有晉師。使告于楚。姚句耳與往。楚子救鄭。司馬將中軍。令尹將左。右尹子辛將右。過申。子反入見申叔時。曰。師其何如。對曰。德・刑・詳・義・禮・信。戰之器也。

凡敍大役。當用刀于前後布置。余修外史。屢歷此境。悉古人苦心也。

一鄢字。寫盡情勢。映越中洲之戰如此。

德以施惠刑以正邪詳以事神義以建利禮以順時信以守物民生厚而德正。用利而事節時順而物成。上下和睦周旋不逆。求無不具。各知其極。故詩曰。立我烝民。莫匪爾極。是以神降之福。時無災害。民生敦厖。和同以聽。莫不盡力以從上命。致死以補其闕。此戰之所由克也。今楚內棄其民而外絕其好。瀆齊盟而食話言。奸時以動而疲民以逞。民不知信。進退罪也。人恤所底。其誰致死。子其勉之。吾不復見子矣。姚句耳先歸。子駟問焉。對曰。其行速。過險而不整。速則失志。不整喪列。志失列喪。將何以戰。楚懼不可用也。五月。晉師濟河。聞楚師將至。范文子欲反曰。我僞逃楚。可以紓憂。夫合諸侯。非吾所能也。以遺能者。我若群臣輯睦以事君。多矣。武子曰。不可。六月。晉楚遇於鄢陵。范文子不欲戰。郤至曰。韓之戰。惠公不振旅。箕之役。先軫不反命。邲之師。荀伯不復從。皆晉之恥也。子亦見先君之事矣。今我辟楚。又益恥也。文子曰。吾先君之亟戰也有故。秦狄齊楚皆强。不盡力。子孫將弱。今三强服矣。敵楚而已。唯聖人能內外無患。自非聖人。外寧必有內憂。盍釋楚以爲外懼乎。甲午晦。楚晨壓晉軍而陳。軍吏患之。

合敘敵我。筆力神巧。如一箭貫雙鵰。古今奇文。

着戰乎一句頓挫。

前後皆對敘兩國。獨此段總敘。又着皆曰乃皆四字。極力渾合。爲一篇扼塞處。

范匄趨進曰。塞井夷竈。陳於軍中。而疏行首。晉楚唯天所授。何患焉。文子執戈逐之。曰。國之存亡天也。童子何知焉。欒書曰。楚師輕窕。固壘而待之。三日必退。退而擊之。必獲勝焉。郤至曰。楚有六間。不可失也。其二卿相惡。王卒以舊。鄭陳而不整。蠻軍而不陳。陳不避晦。在陳而囂。合而力囂。各顧其後。莫有鬭心。舊不必良。以犯天忌。我必克之。楚子登巢車。以望晉軍。子重使大宰伯州犂侍于王後。王曰。騁而左右何也。曰。召軍吏也。皆聚於中軍矣。曰。合謀也。張幕矣。曰。虔卜於先君也。徹幕矣。曰。將發命也。甚囂。且塵上矣。曰。將塞井夷竈而爲行也。皆乘矣。左右執兵而下矣。曰。聽誓也。戰乎。曰。未可知也。乘而左右皆下矣。曰。戰禱也。伯州犂以公卒告王。苗賁皇在晉侯之側。亦以王卒告。皆曰。國士在。且厚。不可當也。苗賁皇言於晉侯曰。楚之良在其中軍王族而已。請分良以擊其左右。而三軍萃於王卒。必大敗之。公筮之。史曰。吉。其卦遇復。曰。南國蹙。射其元王中其目。國蹙王傷。不敗何待。公從之。有淖於前。乃皆左右相違於淖。步毅御晉厲公。欒鍼爲右。彭名御楚共王。潘黨爲右。石首御鄭成公。唐苟爲右。欒范以其族夾

公行。陷於淖。欒書將載晉侯。鍼曰。書退。國有大任。焉得專之。且侵官。冒也。失官慢也。離局。姦也。有三罪焉。不可犯也。乃掀公以出於淖。癸巳。潘尫之黨與養由基蹲甲而射之。徹七札焉。以示王。曰。君有二臣如此。何憂於戰。王怒曰。大辱國。詰朝爾射死藝。呂錡夢射月中之。退入於泥。占之。曰。姬姓。日也。異姓。月也。必楚王也。射而中之。退入於泥。亦必死矣。及戰。射共王中目。王召養由基。與之兩矢。使射呂錡。中項伏弢。以一矢復命。郤至三遇楚子之卒。見楚子。必下免冑而趨風。楚子使工尹襄問之以弓。曰。方事之殷也。有韎韋之跗注。君子也。識見不穀而趨。無乃傷乎。郤至見客。免冑承命。曰。君之外臣至從寡君之戎事。以君之靈。間蒙甲冑。不敢拜命。敢告不寧。君命之辱。為事之故。敢肅使者。三肅使者而退。晉韓厥從鄭伯。其御杜溷羅曰。速從之。其御屢顧。不在馬。可及也。韓厥曰。不可以再辱國君。乃止。郤至從鄭伯。其右茀翰胡曰。諜輅之。余從之乘。而俘以下。郤至曰。傷國君有刑。亦止。石首曰。衛懿公唯不去其旗。是以敗於熒。乃內旌於弢中。唐苟謂石首曰。子在君側。敗者壹大。我不如子。子以君免。我請止。乃死。楚師

叙淖。伏後入泥。

方望溪曰。追叙措筆甚難。直舉日子使無類。然承接無迹。

又曰。因由基連類及呂錡。遂就夢占必楚王而以及戰二字。直入射王中目。與前臨陣事相綰。此等神巧。唯左氏有之。若韎韋一句。便有色態。此事此文。戰國以後。為廣陵散矣。

楚人謂十五字删之。亦通。然神氣索然。後學左者。特務簡省。不爲宋景文幾希。

豈有酖人羊叔子乎。

著免使者而復鼓句。不推對書使者。接下旦而戰。文勢尤順。

楚兵敗狀最大者。正文不叙。乃借子反口見之。奇。

薄於險、叔山冉謂養由基曰、雖君有命。爲國故子必射。乃射。再發盡殪、叔山冉搏人以投。中車折軾。晉師乃止。囚楚公子茷。欒鍼見子重之旌。請曰。楚人謂夫旌子重之麾也、彼其子重也。日臣之使於楚也。子重問晉國之勇。臣對曰。好以衆整。曰又何如。臣對曰。好以暇。今兩國治戎。行人不使。不可謂整。臨事而食言。不可謂暇。請攝飲焉。公許之。使行人執榼承飲。造于子重。曰寡君乏使。使鍼御執矛。是以不得犒從者。使某攝飲。子重曰。夫子嘗與吾言於楚。必是故也。不亦識乎。受而飲之、免使者而復鼓。旦而戰、見星未已。子反命軍吏察夷傷。補卒乘。繕甲兵。展車馬、鷄鳴而食、唯命是聽、晉人患之、苗賁皇徇曰。蒐乘補卒。秣馬利兵。修陳固列、蓐食申禱。明日復戰。乃逸楚囚。王聞之。召子反謀。穀陽豎獻飲於子反。子反醉、而不能見。王曰。天敗楚也夫。余不可以待。乃宵遁。晉入楚軍。三日穀、范文子立於戎馬之前、曰、君幼、諸臣不佞、何以及此。君其戒之。周書曰。惟命不于常。有德之謂、楚師還、及瑕。王使謂子反曰。先大夫之覆師徒者、君不在。子無以爲過。不穀之罪也。子反再拜稽首曰。君賜臣死。死且不朽。臣之卒實奔。臣

前篇數千言。此篇數十言。而其法一也。可以悟神縮法。

作二十段讀。

敘議合一法。將字未字以字可字一篇字母。

此一行通體脊梁骨。前三疊後兩扇。相配成文。字字兵機。五十三家不出此篇目。亂轍皆作一

之罪也。子重使謂子反曰。初隕師徒者。而亦聞之矣。盍圖之。對曰。雖微先大夫有之。大夫命側。側敢不義。側亡君師。敢忘其死。王使止之。弗及而卒。

## 笠澤之戰

三月。越子伐吳。吳子禦之笠澤。夾水而陣。越子爲左右勾卒。使夜或左或右。鼓譟而進。吳師分以禦之。越子以三軍潛涉。當吳中軍而鼓之。吳師大亂。遂敗之。

## 曹劌

十年春。齊師伐我。公將戰。曹劌請見。其鄉人曰。肉食者謀之。又何間焉。劌曰。肉食者鄙。未能遠謀。乃入見。問何以戰。公曰。衣食所安。弗敢專也。必以分人。對曰。小惠未徧。民弗從也。公曰。犧牲玉帛。弗敢加也。必以信。對曰。小信未孚。神弗福也。公曰。小大之獄。雖不能察。必以情。對曰。忠之屬也。可以一戰。戰則請從。公與之乘。戰于長勺。公將鼓之。劌曰。未可。齊人三鼓。劌曰。可矣。齊師敗績。公將馳之。劌曰。未可。下視其轍。登軾而望之。曰可矣。遂逐齊師。既克。公問其故。對曰。夫戰。勇氣也。一鼓作氣。再而衰。三而竭。彼竭我盈。故克之。夫大國難測也。懼有伏焉。

字句一讀。昔人評書。曰脚水源來歷分明者爲能品。余於左氏叙事亦云。一段中兩患之見君臣相搆處。此事觀之公谷。乃知左氏之巧。二字句。三字句。重疊成文。如玉浮圖映徹玲瓏。叙事有表裏相間法。晉侯云云忽用趙重之筆。如史公叙項羽晨朝上將軍宋義。

吾視其幟亂。望其旗靡。故逐之。

董狐

晉靈公不君。厚斂以彫牆。從臺上彈人。而觀其辟丸也。宰夫胹熊蹯不熟。殺之。寘諸畚。使婦人載以過朝。趙盾士季見其手。問其故而患之。將諫。士季曰。諫而不入。則莫之繼也。會請先。不入則子繼之。三進。及溜而後視之。曰。吾知所過矣。將改之。稽首而對曰。人誰無過。過而能改。善莫大焉。詩曰。靡不有初。鮮克有終。夫如是則能補過者鮮矣。君能有終。則社稷之固也。豈唯群臣賴之。又曰。袞職有闕。惟仲山甫補之。能補過也。君能補過。袞不廢矣。猶不改。宣子驟諫。公患之。使鉏麑賊之。晨往。寢門闢矣。盛服將朝。尚早。坐而假寐。麑退歎而言曰。不忘恭敬。民之主也。賊民之主。不忠。弃君之命。不信。有一於此。不如死也。觸槐而死。秋九月。晉侯飲趙盾酒。伏甲將攻之。其右提彌明知之。趨登曰。臣侍君宴。過三爵。非禮也。遂扶以下。公嗾夫獒焉。明搏而殺之。盾曰。弃人用犬。雖猛何爲。鬭且出。提彌明死之。初宣子田於首山。舍于翳桑。見靈輒餓。問其病。曰。不食三日矣。食

忙裡偸閒。是盲史長技。三問三答。何法各異。此篇兩下也字。是叙事撇開處。前後疑似曲折。得此鐵筆。如刀斷亂絲。借孔子言爲結。如傳之贊。使趙穿云云。如贊中補叙。三段皆立案。然後詳叙。最後又結一案。八家文以請難起手者。皆出公谷。

之。舍其半。問之曰。宦三年矣。未知母之存否。今近焉。請以遺之。使盡之。而爲之簞食與肉。寘諸橐以與之。既而與爲公介。倒戟以禦公徒。而免之。問何故。對曰。翳桑之餓人也。問其名居。不告而退。遂自亡也。乙丑。趙穿攻靈公於桃園。宣子未出山而復。大史書曰。趙盾弑其君。以示於朝。宣子曰。不然。對曰。子爲正卿。亡不越竟。反不討賊。非子而誰。宣子曰。烏呼。我之懷矣。自詒伊慼。其我之謂矣。孔子曰。董狐古之良史也。書法不隱。趙宣子古之良大夫也。爲法受惡。惜也越竟乃免。宣子使趙穿逆公子黑臀于周。而立之。壬申。朝于武宮。

## 公羊傳

### 陳乞

齊陳乞弑其君舍。弑而立者。不以當國之辭言之。此其以當國之辭言之何。爲諼也。此其爲諼奈何。景公謂陳乞曰。吾欲立舍。何如。陳乞曰。所樂乎爲君者。欲立之則立之。不欲立則不立。君如欲立之。則臣請立之。陽生謂陳乞曰。吾聞子

畵出老奸狀態。如見。

諸大夫三字六見。不厭重複。

加一坐字。便生動。

公羊善用然字。左國所無。

四諾四解。而人敍事。有破竹勢。

蓋將不欲立我也。陳乞曰。夫千乘之主。將廢正而立不正。必殺正者。吾不立子者。所以生子者也。走矣。與之玉節。而走之。景公死。而舍立。陳乞使人迎陽生于諸其家。除景公之喪。諸大夫皆在朝。陳乞曰。常之母有魚菽之祭。願諸大夫之涖我也。諸大夫皆曰諾。於是皆之陳乞之家。坐。陳乞曰。吾有所爲甲。請以示焉。諸大夫皆曰諾。於是使力士舉巨囊而至于中霤。諸大夫見之。色然而駭。開之。則闖然公子陽生也。陳乞曰。此君也已。諸大夫不得已。皆逡巡北面。再拜稽首。而君之。爾自是往弑舍。

## 穀梁傳

### 晉滅虞

虞師晉師滅夏陽。非國而曰滅。重夏陽也。虞無師。其曰師何也。以其先晉。不可以不言師也。其先晉何也。爲主乎滅夏陽也。夏陽者虞虢之塞邑也。滅夏陽而虞虢舉矣。虞之爲主乎滅夏陽何也。晉獻公欲伐虢。荀息曰。君何不以屈產之乘

雙關處。文氣注虢國矣。

語語伏下文。

對舉璧馬。而已加則字。也字。而字。矣字。便流動。

外傳之病在平緩。是篇不然。宜古今膾炙之。

垂棘之璧。而借道乎虞也。公曰。此晉國之寶也。如受吾幣。而不借吾道。則如之何。荀息曰。此小國之所以事大國也。彼不借吾道。必不敢受吾幣。如受吾幣。而借吾道。則是我取之中府。而藏之外府。取之中廐。而置之外廐也。公曰。宮之奇存焉。必不使受之也。荀息曰。宮之奇之爲人也。達心而懦。又少長於君。達心則其言略。懦則不能強諫。少長於君。則君輕之。且夫玩好在耳目之前。而患在一國之後。此中知以上。乃能慮之。臣料虞君。中知以下也。公遂借道而伐虢。宮之奇諫曰。晉國之使者。其辭卑而幣重。必不便於虞。虞公弗聽。遂受其幣。而借之道。宮之奇又諫曰。語曰。脣亡則齒寒。其斯之謂與。挈其妻子以奔曹。獻公亡虢。五年而後舉虞。荀息牽馬操璧而前曰。璧則猶是也。而馬齒加長矣。

## 國語

### 叔向賀韓宣子貧。

叔向見韓宣子。宣子憂貧。叔向賀之。宣子曰。吾有卿之名。而無其實。無以從二

二段錯綜。使不板。

郤子一段與前相配。截然三疊。今加幾个虛字。以唯無德也爲總結之筆。使不板。是八家所無。

柳州賀失火書結處。闘此反振。覺輸一着。

國策雜奇。其游說多出常套。此篇論兵事。文亦非周非漢。一種異彩。

三子。吾是以憂。子賀我何故。對曰。昔欒武子無一卒之田。其官不備其宗器。宣其德行。順其憲則。使越於諸侯。諸侯親之。戎狄懷之。以正晉國。行刑不疚。以免於難。及桓子。驕泰奢侈。貪欲無藝。畧則行志。假貸居賄。宜及於難。而賴武之德。以沒其身。及懷子。改桓之行。而修武之德。可以免於難。而離桓之罪。以亡於楚。夫郤昭子其富半公室。其家半三軍。恃其富寵。以泰於國。其身尸於朝。其宗滅於絳。不然。夫八郤五大夫三卿。其寵大矣。一朝而滅莫之哀也。唯無德也。今吾子有欒武子之貧。吾以爲能其德矣。是以賀。若不憂德之不建。而患貨之不足。將弔不暇。何賀之有。宣子拜稽首焉曰。起也將亡。賴子存之。非起也敢專承之。其自桓叔以下。嘉吾子之賜。

## 戰國策

### 趙奢田單論兵

趙惠文王三十年。相平都君田單問趙奢曰。吾非不說將軍之兵法也。所以不

古文正險渾融。是八家所不及。昌黎長於譬喩。猶着有頗於此。何以異此等句。不及此輕妙。以而字代則字。用戰國多此法。加而字使語勢不迫。結搭用短句。老勁甚。即君之齊已一句束上提下。扛鼎金鼓也。余幼喜讀國策。獲手絕編。未覩奇于此篇者。選家乃

服者。獨將軍之用衆。用衆者使民不得耕作。糧食輓賃不可給也。此坐而自破之道也。非單之所爲也。單聞之帝王之兵所用不過三萬。而天下服矣。今將軍必負十萬二十萬之衆乃用之。此單之所不服也。馬服君曰。君非徒不達於兵也。又不明其時勢。夫吳子之劍。肉試則斷牛馬。金試則截盤匜。薄之柱上而擊之。則折爲三。質之石上而擊之。則碎爲百。今以三萬之衆而應強國之兵。是薄柱擊石之謂也。且夫吳子之劍材難夫。無脊之厚而鋒不入。無脾之薄而刃不斷。兼有是二者。無鉤竿鐔蒙須之便。操其刃而刺。則未入而手斷。若無十萬二十萬之衆而爲此鉤竿鐔蒙須之便。而徒以三萬行於天下。君焉能乎。且古者。四海之內。分爲萬國。城雖大無過三百丈者。人雖衆無過三千家者。而以集兵三萬距此奚難哉。今取古之爲萬國者。分以爲戰國七。不能具數十萬之兵。曠日持久數歲。即君之齊已。齊以二十萬之衆攻荊。五年乃罷。趙以二十萬之衆攻中山。五年乃歸。今者齊韓相方。而國圍攻焉。豈有敢曰我其以三萬救是者乎哉。今千丈之城。萬家之邑相望也。而索以三萬之衆圍千丈之城。不存其一

角而野戰。不足用也。君將以此何之。卒都君喟然大息曰。單不至也。

## 齊鄒忌說威王。

鄒忌修八尺有餘。而形貌昳麗。朝服衣冠窺鏡。謂其妻曰。我孰與城北徐公美。其妻曰。君美甚。徐公何能及君也。城北徐公。齊國之美麗者也。忌不自信。而復問其妾曰。吾孰與徐公美。妾曰。徐公何能及君也。旦日。客從外來。與坐談。問之吾與徐公孰美。客曰。徐公不若君之美也。明日。徐公來。孰視之。自以爲不如。窺鏡而自視。又弗如遠甚。暮寢而思之曰。吾妻之美我者。私我也。妾之美我者。畏我也。客之美我者。欲有求於我也。於是入朝見威王曰。臣誠知不如徐公美。臣之妻私臣。臣之妾畏臣。臣之客欲有求於臣。皆以美於徐公。今齊地方千里。百二十城。宮婦左右。無不私王。朝廷之臣。莫不畏王。四境之內。莫不有求於王。由此觀之。王之蔽甚矣。王曰善。乃下令。群臣吏民。能面刺寡人之過者。受上賞。上書諫寡人者。受中賞。能謗議於市朝。聞寡人之耳者。受下賞。令初下。群臣進諫。門庭若市。數月之後。時時而間進。朞年之後。雖欲言無可進者。燕趙韓魏聞之。

不取顧取酒味色莊辛幸臣等平縛文字何也。

與谷梁孟勞者魯寶刀也。史記彊父者范增也。同一法。

井井三疊。看其點綴化板爲活。再着窺鏡字。尤精神。

林西仲曰。妙在至此喟然而止。若添平句納諫字樣。便鈍置。金聖歎曰。只爲有此一結予贈中。便愚

收攬起此一篇文字。雙關中用一而字。愈活動。兩意對縮。是國策妙訣。利害曲折處。每用此。剖折莫不透徹。後來唯眉山一家窺其祕矣。前雙關。後單行相配。使錯落有致。

皆朝於齊。此之謂戰勝於朝廷。

### 孫臣諫魏王

華軍之戰。魏不勝秦。明年。將使段干崇割地而講。孫臣謂魏王曰。魏不以敗之上割。可謂善用不勝矣。而秦不以勝之上割。可謂不善用勝矣。今處期年乃欲割。是羣臣之私。而王不知也。且夫欲璽者段干子也。王因使之割地。欲地者秦也。而王因使之授璽。夫欲璽者制地。而欲地者制璽。其勢必無魏矣。且夫姦人固皆欲以地事秦。以地事秦。譬猶抱薪而救火也。薪不盡則火不止。今王之地有盡。而秦之求無窮。是薪火之說也。魏王曰。善。雖然吾已許秦矣。不可以革也。對曰。王獨不見夫博者之用梟耶。欲食則食。欲握則握。今君劫於羣臣而許秦。因曰不可革。何用智之不若梟也。魏王曰。善。乃按其行。

## 史記

### 鴻門之會

五十萬言中第一篇文字。不獨其前後布置向背開合之妙。即事之緩急。語之疾徐。无不適真。一部廿一史無復此事。無復此文。未得相見一句。一篇胚胎。兩句。一篇指南。

悉載問答。不惜見沛公危迫之態。使後人就其語中一接當日情偽。借沛公口。叙其交來歷。

楚軍夜擊阬秦卒二十餘萬人新安城南。行略定秦地。函谷關有兵守關不得入。又聞沛公已破咸陽。項羽大怒。使當陽君等擊關。項羽遂入至于戲西。沛公軍霸上。未得與項羽相見。沛公左司馬曹無傷使人言於項羽曰。沛公欲王關中。使子嬰爲相。珍寶盡有之。項羽大怒曰。旦日饗士卒。爲擊破沛公軍。當是時。項羽兵四十萬。在新豐鴻門。沛公十萬。在霸上。范增說項羽曰。沛公居山東時。貪於財貨。好美姬。今入關。財物無所取。婦女無所幸。此其志不在小。吾使人望其氣。皆爲龍虎。成五采。此天子氣也。急擊勿失。楚左尹項伯者。項羽季父也。素善留侯張良。張良是時從沛公。項伯乃夜馳之沛公軍。私見張良。具告以事。欲呼張良與俱去。曰。毋從俱死也。張良曰。臣爲韓王送沛公。沛公今事有急。亡去不義。不可不語。良乃入。具告沛公。沛公大驚曰。爲之奈何。張良曰。誰爲大王爲此計者。曰。鯫生說我曰。距關毋內諸侯。秦地可盡王也。故聽之。良曰。料大王士卒。足以當項王乎。沛公默然曰。固不如也。且爲之奈何。張良曰。請往謂項伯。言沛公不敢背項王也。沛公曰。君安與項伯有故。張良曰。秦時與臣游。項伯殺人。

沛公與樊噲一兩人之詞。要看其字增減。

項伯許諾。沛公曰諾。項王許諾。項王曰諾。張良曰謹諾。皆後史所不必着。

項王亦當注

大度。

着范增也一句。參差有致。

日蓋斜睨。

臣活之。今事有急。故幸來告良。沛公曰。孰與君少長。良曰。長於臣。沛公曰。君爲我呼入。吾得兄事之。張良出。要項伯。項伯卽入見沛公。沛公奉巵酒爲壽。約爲婚姻。曰。吾入關。秋毫不敢有所近。籍吏民。封府庫。而待將軍。所以遣將守關者。備他盜之出入與非常也。日夜望將軍至。豈敢反乎。願伯具言臣之不敢倍德也。項伯許諾。謂沛公曰。旦日不可不蚤自來謝項王。沛公曰。諾。於是項伯復夜去。至軍中。具以沛公言報項王。因言曰。沛公不先破關中。公豈敢入乎。今人有大功。而擊之。不義也。不如因善遇之。項王許諾。沛公旦日從百餘騎。來見項王。至鴻門。謝曰。臣與將軍戮力而攻秦。將軍戰河北。臣戰河南。然不自意能先入關破秦。得復見將軍於此。今者有小人之言。令將軍與臣有郤。項王曰。此沛公左司馬曹無傷言之。不然。籍何以至此。項王卽日因留沛公與飮。項王項伯東嚮坐。亞父南嚮坐。亞父者范增也。沛公北嚮坐。張良西嚮侍。范增數目項王。舉所佩玉玦以示之者三。項王默然不應。范增起出。召項莊。謂曰。君王爲人不忍。若入前爲壽。壽畢。請以劍舞。因擊沛公於坐。殺之。不者若屬皆且爲所虜。莊則

為壽。壽畢。請以劍舞。前條再叙而略加數語。古史每于此等處見委致。

項伯下不着知其意三字。益見危急間處。

使後史叙。只曰張良至軍門告急樊噲使入救而已。今詳叙問答。

又曰。其意云云。得此句益生動。

先點出劍盾二字。有來處。叙事中用則字法。

能復飲乎。是叙事。入叙言處。如微風燕子斜日半。是

入為壽。壽畢曰、君王與沛公飲。軍中無以為樂。請以劍舞。項王曰、諾。項莊拔劍起舞。項伯亦拔劍起舞。常以身翼蔽沛公。莊不得擊。於是張良至軍門見樊噲。樊噲曰、今日之事何如。良曰、甚急。今者項莊拔劍舞。其意常在沛公也。噲曰、此迫矣。臣請入與之同命。噲即帶劍擁盾入軍門。交戟之衛士欲止不內。樊噲側其盾以撞衛士仆地。噲遂入披帷西嚮立。瞋目視項王。頭髮上指。目眥盡裂。項王按劍而跽曰、客何為者。張良曰、沛公之參乘樊噲者也。項王曰、壯士。賜之卮酒。則與斗卮酒。噲拜謝起。立而飲之。項王曰、賜之彘肩。則與一生彘肩。樊噲覆其盾於地。加彘肩上。拔劍切而啗之。項王曰、壯士。能復飲乎。樊噲曰、臣死且不避。卮酒安足辭。夫秦王有虎狼之心。殺人如不能舉。刑人如恐不勝。天下皆叛之。懷王與諸將約曰。先破秦入咸陽者王之。今沛公先破秦入咸陽。毫毛不敢有所近。封閉宮室。還軍霸上。以待大王來。故遣將守關者。備他盜出入與非常也。勞苦而功高如此。未有封侯之賞。而聽細說。欲誅有功之人。此亡秦之續耳。竊為大王不取也。項王未有以應。曰、坐。樊噲從良坐。坐須臾。沛公起如廁。因招

敍言。接敍事一處。如細雨魚兒出。

沛公已出云云。此句不可無。

使後史敍。必曰。我初持白璧云云。今借張良一問。見之妙。

再提此句。爲關鍵。又見其相去遠近。

敍戰略法。

樊噲出。沛公已出。項王使都尉陳平召沛公。沛公曰。今者出。未辭也。爲之奈何。樊噲曰。大行不顧細謹。大禮不辭小讓。如今人方爲刀俎。我爲魚肉。何辭爲。於是遂去。乃令張良留謝。良問曰。大王來何操。曰。我持白璧一雙。欲獻項王。玉斗一雙。欲與亞父。會其怒。不敢獻。公爲我獻之。張良曰。謹諾。當是時。項王軍在鴻門下。沛公軍在霸上。相去四十里。沛公則置車騎。脫身獨騎。與樊噲夏侯嬰靳彊紀信等四人。持劍盾。步走。從酈山下。道芷陽。間行。沛公謂張良曰。從此道至吾軍。不過二十里耳。度我至軍中。公乃入。沛公已去。間至軍中。張良入謝曰。沛公不勝桮杓。不能辭。謹使臣良奉白璧一雙。再拜獻大王足下。玉斗一雙。再拜奉大將軍足下。項王曰。沛公安在。良曰。聞大王有意督過之。脫身獨去。已至軍矣。項王則受璧。置之坐上。亞父受玉斗。置之地。拔劍撞而破之。曰。唉。豎子不足與謀。奪項王天下者。必沛公也。吾屬今爲之虜矣。沛公至軍。立誅殺曹無傷。

## 垓下之戰

五年。高祖與諸侯兵。共擊楚軍。與項羽決勝垓下。淮陰侯將三十萬。自當之。孔

先叙陣勢、後叙戰狀、而見敵兵數于中間。文勢不迫。曰卻曰縱、千軍萬馬擊刺馳驟、皆在此一字內。

叙戰詳法。

點出脚色。

成安君儒者也。着此一句、爲頓挫妙。

將軍居左、費將軍居右、皇帝在後。絳侯柴將軍在皇帝後。項羽之卒可十萬。淮陰先合不利。卻。孔將軍費將軍縱。楚兵不利。淮陰侯復乘之大敗垓下。項羽卒聞漢軍之楚歌、以爲漢盡得楚地。項羽乃敗而走。是以兵大敗。使騎將灌嬰追殺項羽東城。斬首八萬、遂略定楚地。

## 韓信破趙

信與張耳以兵數萬、欲東下井陘擊趙。趙王成安君陳餘聞漢且襲之也、聚兵井陘口。號稱二十萬。廣武君李左車說成安君曰、聞漢將韓信涉西河、虜魏王、禽夏說、新喋血閼與。今乃輔以張耳、議欲下趙。此乘勝而去國遠鬬、其鋒不可當。臣聞、千里餽糧、士有飢色、樵蘇後爨、師不宿飽。今井陘之道、車不得方軌、騎不得成列。行數百里、其勢糧食必在其後。願足下假臣奇兵三萬人、從間道絕其輜重。足下深溝高壘堅營、勿與戰。彼前不得鬬、退不得還。吾奇兵絕其後、使野無所掠、不至十日、而兩將之頭可致於戲下。願君留意臣之計。否必爲二子所禽矣。成安君儒者也。常稱義兵不用詐謀奇計。曰、吾聞兵法、十則圍之、倍則

以客形主。不失其體。要見其換轉撇脫處。

諸將皆莫信。與諸將皆服相呼應。

軍軍壁壁。皆用項針法。形容急遽狀。是子長慣手。而字檀弓有此例。敘事中用也字法。

戰之。今韓信兵號數萬。其實不過數千。能千里而襲我。亦已罷極。今如此避而不擊。後有大者。何以加之。則諸侯謂吾怯。而輕來伐我。不聽廣武君策。廣武君策不用。韓信使人閒視。知其不用。還報。則大喜。乃敢引兵遂下。未至井陘口三十里止舍。夜半傳發。選輕騎二千人。人持一赤幟。從閒道萆山而望趙軍。誡曰。趙見我走。必空壁逐我。若疾入趙壁。拔趙幟。立漢赤幟。令其裨將傳飡。曰。今日破趙會食。諸將皆莫信。佯應曰。諾。謂軍吏曰。趙已先據便地爲壁。且彼未見吾大將旗鼓。未肯擊前行。恐吾至阻險而還。信乃使萬人先行出背水陳。趙軍望見而大笑。平旦。信建大將之旗鼓。鼓行出井陘口。趙開壁擊之。大戰良久。於是信張耳佯弃鼓旗。走水上軍。水上軍開入之。復疾戰。趙果空壁爭漢鼓旗。逐韓信張耳。韓信張耳已入水上軍。軍皆殊死戰。不可敗。信所出奇兵二千騎。共候趙空壁逐利。則馳入趙壁。皆拔趙旗。立漢赤幟二千。趙軍已不勝。不能得信等。欲還歸壁。壁皆漢赤幟。而大驚。以爲漢皆已得趙王將矣。兵遂亂遁走。趙將雖斬之。不能禁也。於是漢兵夾擊。大破虜趙軍。斬成安君泜水上。禽趙王歇。信乃

了脚色。

鴛鴦繡出與君看。不把金針度與人。

自漢叙入胡。自胡叙入漢。總不費力。是項針回環法。余修外史。多得力於此。用短句法。

令軍中。毋殺廣武君。有能生得者。購千金。於是有縛廣武君而致戲下者。信乃解其縛。東鄉坐西鄉對。師事之。諸將效首虜。休畢賀。因問信曰。兵法右倍山陵。前左水澤。今者將軍令臣等反背水陳。曰。破趙會食。臣等不服。然竟以勝。此何術也。信曰。此在兵法。顧諸君不察耳。兵法不曰。陷之死地而後生。置之亡地而後存。且信非得素拊循士大夫也。此所謂驅市人而戰之。其勢非置之死地。使人人自爲戰。今予之生地。皆走。寧尚可得而用之乎。諸將皆服曰。善。非臣所及也。

衛青擊單于。

郎中令爲前將軍。太僕爲左將軍。主爵趙食其爲右將軍。平陽侯襄爲後將軍。皆屬大將軍。兵即度幕。人馬凡五萬騎。與驃騎等咸擊匈奴單于。趙信爲單于謀曰。漢兵既度幕。人馬罷。匈奴可坐收虜耳。乃悉遠北其輜重。皆以精兵待幕北。而適值大將軍軍出塞千餘里。見單于兵陳而待。於是大將軍令武剛車自環爲營。而縱五千騎往當匈奴。匈奴亦縱可萬騎。會日且入。大風起。砂礫擊面。

用長句法。

字字挾風霜。

別提追敘法。

補敘法。又以見青之戰功。

古今膾炙秦楚月表。余恨其結處解弛。不如此篇波瀾壯闊。結構嚴整。

兩軍不相見。漢益縱左右翼繞單于。單于視漢兵多。而士馬尚彊。戰而匈奴不利。薄莫。單于遂乘六贏壯騎可數百。直冒漢圍。西北馳去。時已昏。漢匈奴相紛挐。殺傷大當。漢軍左校捕虜言。單于未昏而去。漢軍因發輕騎夜追之。大將軍軍因隨其後。匈奴兵亦散走。遲明行二百餘里。不得單于。頗捕斬首虜萬餘級。遂至窴顏山趙信城。得匈奴積粟食軍。留一日而還。悉燒其城餘粟以歸。大將軍之與單于會也。而前將軍廣。右將軍食其軍。別從東道。或失道。後擊單于。大將軍欲使使歸報。令長史簿責前將軍廣。廣自殺。右將軍至下吏。贖爲庶人。大將軍軍入塞。凡斬捕首虜萬九千級。是時匈奴衆失單于十餘日。右谷蠡王聞之。自立爲單于。單于後得其衆。右王乃去單于之號。

## 漢興以來諸侯年表第五

太史公曰。殷以前尚矣。周封五等。公侯伯子男。然封伯禽康叔於魯衛地各四百里。親親之義。褒有德也。太公於齊。兼五侯地。尊勤勞也。武王成康復封數百。而同姓五十五。地上不過百里。下三十里。以輔衛王室。管蔡康叔曹鄭或過或

先撇開股以前。不費言。

叙次海内形勢。如指上螺紋。

子長列東西南北處。毎左右折旋。故有活動之致。

覩於上古句顧首段。有收拾。

前二段。皆以也字結。此段

損幽厲之後。王室缺。侯伯彊國興焉。天子微弗能正。非德不純。形勢弱也。漢興序二等。高祖末年。非劉氏而王者。若無功上所不置而侯者。天下共誅之。高祖子弟同姓爲王者九國。唯獨長沙異姓。而功臣侯者百有餘人。自鴈門太原以東至遼陽。爲燕代國。常山以南太行左轉。度河濟阿甄。以東薄海。爲齊趙國。自陳以西南至九疑。東帶江淮穀泗。薄會稽。爲梁楚吳淮南沙國。皆外接於胡越。而內地北距山以東盡諸侯地。大者或五六郡。連城數十。置百官宮觀僭於天子。漢獨有三河東郡穎川南陽。自江陵以西至蜀。北自雲中至隴西。與內史凡十五郡。而公主列侯頗食邑其中。何者。天下初定。骨肉同姓少。故廣彊庶孽。以鎭撫四海。用承衛天子也。漢定百年之間。親屬益疎。諸侯或驕奢。怵邪臣計謀爲淫亂。大者叛逆。小者不軌于法。以危其命。殞身亡國。天子觀於上古。然後加惠。使諸侯得推恩分子弟國邑。故齊分爲七。趙分爲六。梁分爲五。淮南分三。及天子支庶子爲王。王子支庶爲侯。百有餘焉。吳楚時。前後諸侯或以適削地。是以燕代無北邊郡。吳淮南長沙無南邊郡。齊趙梁楚支郡名山陂海咸納於漢。諸

乃以矣字結。至末段無復掉尾虛字、文氣便不流散。

謹嚴莊重。眞得史臣之體。

得此一結。乃成文章。

筆帶烟雲。風調絕世。千古唯一子長。

史紀事而已。贊本贊兆。特補傳所遺。或詠歎結之。是史贊正體。後世不然。甚則張瞻明日。累數百言。吁失

侯稍微、大國不過十餘城。小侯不過數十里。上足以奉貢職。下足以供養祭祀。以蕃輔京師。而漢郡八九十。形錯諸侯間。犬牙相臨。秉其阨塞地利。強本幹弱。枝葉之勢也。尊卑明而萬事各得其所矣。臣遷謹記高祖以來至太初諸侯譜。其下益損之時。令後世得覽形勢。雖強要之以仁義爲本。

## 河渠書贊。

余南登廬山。觀禹疏九江。遂至于會稽太湟。上姑蘇。望五湖。東闚洛汭大邳。迎河行淮泗濟漯洛渠。西瞻蜀之岷山及離碓。北自龍門至于朔方。曰。甚哉水之爲利害也、余從負薪塞宣房。悲瓠子之詩而作河渠書。

## 淮陰侯傳贊

吾如淮陰。淮陰人爲余言。韓信雖爲布衣時。其志與衆異。其母死。貧無以葬。然乃行營高敞地。令其旁可置萬家。余視其母家。良然。假令韓信學道謙讓。不伐己功。不矜其能。則庶幾哉。於漢家勳可以比周召太公之徒。後世血食矣。不務出此。而天下已集。乃謀畔逆。夷滅宗族。不亦宜乎。

レ之矣。數語而漢之刻薄。信之寃枉。隱然可レ見。不三必待二弇山叟一。

古文典刑卷中終

# 古文典刑 卷下

藝國 賴襄子成評選
男 賴復士剛
男 賴醇子春 同校

## 春秋文

### 絕秦書　晉厲公

此春秋辭令。局勢最大。結構最奇者。

也字住。

矣字斷。

昔逮我獻公。及穆公相好。戮力同心。申之以盟誓。重之以婚姻。天禍晉國。文公如齊。惠公如秦。無祿獻公卽世。穆公不忘舊德。俾我惠公用能奉祀于晉。又不能成大勳。而爲韓之師。亦悔于厥心。用集我文公。是穆之成也。文公躬擐甲冑。跋履山川。踰越險阻。征東之諸侯。虞夏商周之胤而朝諸秦。則亦既報舊德矣。

也字佳。

字烹句錬。

也字佳。

乎字頓挫。史公項羽紀。以東西二字。爲眼。此書亦然。隱筆帶出獻穆字。回顧首段。

鄭人怒君之彊場。我文公帥諸侯。及秦圍鄭。秦大夫不詢於我寡君擅及鄭盟。諸侯疾之將致命于秦。文公恐懼綏靜諸侯。秦師克還無害。則是我有大造于西也。無祿文公卽世。穆爲不弔蔑死我君寡我襄公。迭我殽地。奸絕我好伐我保城。殄滅我費滑。散離我兄弟撓亂我同盟傾覆我國家。我襄公未忘君之舊勳而懼社稷之隕。是以有殽之師。猶願赦罪于穆公。穆公弗聽而卽楚謀我。天誘其衷成王隕命。穆公是以不克逞志于我。穆襄卽世。康靈卽位。康公我之自出。又欲闕翦我公室傾覆我社稷。帥我蝥賊。以來蕩搖我邊疆。我是以有令狐之役。康猶不悛。入我河曲伐我涑川俘我王官。翦我羈馬。我是以有河曲之戰。東道之不通則是康公之絕我好也。及君之嗣也。我君景公引領西望曰庶撫我乎。君亦不惠稱盟。利吾有狄難入我河縣。焚我箕郜。芟夷我農功虔劉我邊陲。我是以有輔氏之聚。君亦悔禍之延而欲徼福于先君獻穆使伯車來命我景公曰吾與女同好棄惡復脩舊德以追念前勳。言誓未就景公卽世。我寡君是以有令狐之會。君又不祥背棄盟誓。白狄及君同州君之仇讎而我昏姻也。

二也字搖曳作態。

一篇歸宿處。

矣字斷。

以壞字起基字。

春秋人引證譬喩之法具此一書。

以載字收輿字。

君來賜命曰。吾與女伐狄。寡君不敢顧昏姻。畏君之威。而受命于吏。君有二心於狄。曰。晉將伐女。狄應且憎。是用告我。楚人惡君之二三其德也。亦來告我曰。秦背令狐之盟。而來求盟于我。昭告昊天上帝秦三公楚三王曰。余雖與晉出入。余唯利是視。不穀惡其無成德。是用宣之。以懲不壹。諸侯備聞此言。斯是以痛心疾首。暱就寡人。寡人帥以聽命。唯好是求。君若惠顧諸侯。矜哀寡人。而賜之盟。則寡人之願也。其承寧諸侯以退。豈敢徼亂。君若不施大惠。寡人不佞。其不能以諸侯退矣。敢盡布之執事。俾執事實圖利之。

## 與范宣子書　　公孫僑

子爲晉國。四鄰諸侯。不聞令德。而聞重幣。僑也惑之。僑聞。君子長國家者。非無賄之患。而無令名之難。夫諸侯之賄聚於公室。則諸侯貳。若吾子賴之。則晉國貳。諸侯貳則晉國壞。晉國貳則子之家壞。何沒沒也。將焉用賄。夫令名。德之輿也。德。國家之基也。有基無壞。無亦是務乎。有德則樂。樂則能久。詩云。樂只君子。邦家之基。有令德也夫。上帝臨女。無貳爾心。有令名也夫。恕思以明德。則令名

一篇莊雅文字。以奇崛收之方。乃可誦。

陳情獻狀之祖。

劈口以臣字先王字對起。以臣字先王字錯綜。

君即先王。士即臣。

載而行之。是以遠至邇安。毋寧使人謂子子實生我。而謂子沒我以生乎。象有齒。以焚其身。賄也。

## 戰國文

### 答燕惠王書。　　樂毅

臣不佞。不能奉承先王之教。以順左右之心。恐抵斧質之罪。以傷先王之明。而又害於足下之義。故遁逃奔趙。自負以不肖之罪。故不敢爲辭說。今王使使者數之罪。故臣恐侍御者之不察先王之所以畜幸臣之理。而又不白於臣之所以事先王之心。故敢以書對。臣聞。賢聖之君。不以祿私其親。功多者授之。不以官隨其愛。能當者處之。故察能而授官者。成功之君也。論行而結交者。立名之士也。臣以所學者觀之。先王之舉錯。有高世之心。故假節於魏王。而以身得察於燕。先王過舉擢之乎賓客之中。而立之乎群臣之上。不謀於父兄。而使臣爲亞卿。臣自以爲奉令承教。可以幸無罪矣。故受命而不辭。先王命之曰。我有積

世知此書爲出師表藍本。而不知此一段又爲隆中對淵源。不以功自稱。何等婉曲。

以功名二字爲眼。而最後以義字陪輔。乃知毅之學不止功名。

怨深怒於齊。不量輕弱。而欲以齊爲事。臣對曰。夫齊霸國之餘教。而驟勝之遺事也。閑於兵甲。習於戰攻。王若欲伐之。則必舉天下而圖之。舉天下而圖。莫徑於結趙矣。且又淮北宋地。楚魏之所同願也。趙若許約楚趙宋。盡力四國攻之。齊可大破也。先王曰。善。臣乃口受令具符節。南使臣於趙。顧反命。起兵隨而攻齊。以天之道。先王之靈。河北之地。隨先王舉而有之於濟上。濟上之軍奉令擊齊大勝之。輕卒銳兵。長驅至國。齊王逃遁走莒。僅以身免。珠玉財寶。車甲珍器。盡收入於燕。大呂陳於元英。故鼎反乎磿室。齊器設於寧臺。薊丘之植植於汶篁。自五伯以來。功未有及先王者也。先王以爲順于其志。以臣爲不頓命。故裂地而封之。使之得比乎小國諸侯。臣不佞自以爲。奉令承教。可以幸無罪矣。故受命而不辭。臣聞。賢明之君。功立而不廢。故著於春秋。蚤知之士。名成而不毀。故稱於後世。若先王之報怨雪恥。夷萬乘之強國。收八百歲之蓄積。及至棄群臣之日。餘教未衰。執政任事之臣。修法令。愼庶孼。施及萌隸。皆可以教於後世。臣聞之。善作者不必善成。善始者不必善終。昔者伍子胥說聽乎闔閭。故吳王遠

四段皆以臣聞起。曰以所學者觀之。曰數奉教於君子。陸宣公所謂上不負所事。下不負所學者。可謂異代同心。

奏劾辨白之祖。凡文豐縟者闕痛切。直截者苦枯淡。此兼之矣。

二而字。四今字。二何也字。

迹至於郢。夫差弗是也。賜之鴟夷。而浮之江。故吳王夫差不悟先論之可以立功。故沈子胥而不悔。子胥不蚤見主之不同量。故入江不改。夫免身全功。以明先王之迹者。臣之上計也。離毀辱之非。墮先王之名者。臣之所大恐也。臨不測之罪。以幸爲利者。義之所不敢出也。臣聞。古之君子。交絶不出惡聲。忠臣之去也。不潔其名。臣雖不佞。數奉教於君子矣。恐侍御者之信左右之說。而不察疏遠之行也。故敢以書報。惟君之留意焉。

# 秦文

## 諫逐客書

李斯

臣聞。吏議逐客。竊以爲過矣。昔者繆公求士。西取由余於戎。東得百里奚於宛。迎蹇叔於宋。求丕豹公孫文于晉。此五人者。不產於秦。而繆公用之。并國二十。遂霸西戎。孝公用商鞅之法。移風易俗。民以殷盛。國以富強。百姓樂用。諸侯親服。獲楚魏之師。舉地千里。至今治強。惠王用張儀之計。拔三川之西。并巴蜀。北

三則是字。虛字拉雜。見其不平口吻。

添向使數句。文便流動。

一順一逆。鄭接相生。乃不平板。

自必秦國之所生。至若是何也。删之亦可。然花團錦簇。方在此段。

收上郡。南取漢中。包九夷。制鄢郢。東據成皐之險。割膏腴之壤。遂散六國之從。使之西面事秦。功施到今。昭王得范雎。廢穰侯。逐華陽。強公室。杜私門。蠶食諸侯。使秦成帝業。此四君者。皆以客之功。由此觀之。客何負於秦哉。向使四君卻客而不內。疏士而不用。是使國無富利之實。而秦無強大之名也。今陛下致崑山之玉。有隨和之寶。垂明月之珠。服太阿之劍。乘纖離之馬。建翠鳳之旗。樹靈鼉之鼓。此數寶者。秦不生一焉。而陛下悅之何也。必秦國之所生然後可。則是夜光之璧不飾朝廷。犀象之器不爲玩好。而鄭衛之女不充後宮。駿馬駃騠不實外廐。江南金錫不爲用。西蜀丹青不爲采。所以飾後宮充下陳娛心意悅耳目者。必出於秦然後可。則是宛珠之簪。傅璣之珥。阿縞之衣。錦繡之飾。不進於前。而隨俗雅化。佳冶窈窕趙女。不立於側也。夫擊甕叩缶。彈箏搏髀。而歌呼嗚嗚快耳者。眞秦之聲也。鄭衛桑間。韶虞象武者。異國之樂也。今棄擊甕而就鄭衛。退彈箏而取韶虞。若是者何也。快意當前。適觀而已矣。今取人則不然。不問可否。不論曲直。非秦者去。爲客者逐。然則是所重者。在乎色樂珠玉。而所輕

聳動之。

惆惕之。

一篇主意。只此二句。

此十一句關四百年文章之源。分五段讀。古今第一檄文也。楊誠齋云。一色三軍雪染衣。拔山氣力陡然衰。善形容此檄。

者。在乎人民也。此非所以跨海內制諸侯之術也。臣聞。地廣者粟多。國大者人衆。兵强則士勇。是以泰山不讓土壤。故能成其大。河海不擇細流。故能就其深。王者不卻衆庶。故能明其德。是以地無四方。人無異國。四時充美。鬼神降福。此五帝三王之所以無敵也。今乃棄黔首。以資敵國。卻賓客。以業諸侯。使天下之士退而不敢西向。裹足不入秦。此所謂藉寇兵而齎盜糧者也。夫物不產於秦。可寶者多。士不產於秦。願忠者衆。今卻客以資敵國。損民以益讎。內自虛而外樹怨諸侯。求國之無危。不可得也。

## 西漢文

### 伐項羽檄　　高帝

天下共立義帝。北面事之。今項羽放殺義帝於江南。大逆無道。寡人親爲發喪。諸侯皆縞素。悉發關內兵。收三河士。南浮江漢以下。願從諸侯王。擊楚之殺義帝者。

劈頭名分儼然。

中朝消息暴白不隱。詞謙而意壯。

在漢之曲。不必分疏。

此書可擬殷書周誥。不可與拘儒言耳。

書漢仁。書越暴。

用忽字。忽入彼國事。着不忍為句。忽入我國事。轉換處。總不費力。

謂勢分懸絕。本不足爭。使其懾服。絕妙。

金聖嘆曰。亦字。矣字。稍露皇帝風力。

## 賜尉佗書　　文帝

皇帝謹問南粵王。甚苦心勞意。朕高皇帝側室之子。棄外奉北藩于代。道里遼遠。壅蔽樸愚。未嘗致書。高皇帝棄羣臣。孝惠皇帝即位。高后自臨事。不幸有病。日進不衰。以故誖暴乎治。諸呂爲變。故亂法不能獨制。廼取他姓子。爲孝惠皇帝嗣。賴宗廟之靈。功臣之力。誅之已畢。朕以王侯吏不釋之。故不得不立。今即位。乃者聞王遺將軍隆慮侯書。求親昆弟。請罷長沙兩將軍。朕以王書。罷將軍博陽侯。親昆弟在眞定者。已遣人存問。修治先人冢。前日聞王發兵于邊。爲寇災不止。當其時長沙苦之。南郡尤甚。雖王之國。庸獨利乎。必多殺士卒。傷良將吏。寡人之妻。孤人之子。獨人父母。得一亡十。朕不忍爲也。朕欲定地犬牙相入者。以問吏。吏曰。高皇帝所以介長沙土也。朕不能擅變焉。吏曰。得王之地。不足以爲大。得王之財。不足以爲富。服領以南。王自治之。雖然王之號爲帝。兩帝竝立。亡一乘之使以通其道。是爭也。爭而不讓。仁者不爲也。願與王分棄前患。終今以來。通使如故。故使賈馳諭告王朕意。王亦受之。毋爲寇災矣。上褚五十衣。

中褚三十衣。下褚二十衣。遣王顧王聽樂娛憂存問隣國。

帝他制詔規摹三代。不如此一紙表眞面目。分四段讀。

## 求材詔。　武帝

蓋有非常之功。必待非常之人。故馬或奔踶而致千里。士或有負俗之累而立功名。夫泛駕之馬。跅弛之士。亦在御之而已。其令州郡察吏民有茂材異等可為將相及使絕國者。

通篇以叙事為議論。是不可無一不可有二之文。凡讀古文須為三大段讀。字少者多分段。字多者少分段。第一段叙秦未大而諸侯甚強。

## 過秦論。　賈誼

秦孝公據殽函之固。擁雍州之地。君臣固守。以窺周室。有席卷天下包舉宇內囊括四海之意。并吞八荒之心。當是時。商君佐之內立法度務耕織修守戰之具。外連衡而鬭諸侯。於是秦人拱手而取西河之外。孝公既沒惠文武昭襄蒙故業因遺策。南兼漢中西舉巴蜀東割膏腴之地北收要害之郡諸侯恐懼會盟而謀弱秦不愛珍器重寶肥美之地以致天下之士。合從締交相與為一。當是時。齊有孟嘗趙有平原楚有春申魏有信陵此四君者皆明智而忠信寬厚而愛人。尊賢而重士。約從離衡并韓・魏・燕・趙・齊・楚・宋・衛・中山之衆於是六國之

賈生恨秦不內以此計策陳涉而已。觀下篇可見。乃所謂攻守異勢者也。諸儒解爲逆取順守。遂致紛紛。使賈生本意千載不見。乃知。讀書亦非易事。

第二段敍秦極大而陳涉至微。

士有寧越・徐尚・蘇秦・杜赫之屬。爲之謀。齊明・周最・陳軫・召滑・樓緩・翟景・蘇厲・樂毅之徒通其意。吳起・孫臏・帶佗・兒良・王廖・田忌・廉頗・趙奢之朋制其兵。嘗以什倍之地百萬之衆。叩關而攻秦。秦人開關而延敵。九國之士逡巡遁逃而不敢進。秦無亡失遺鏃之費。而天下諸侯已困矣。於是從散約解。爭割地而賂秦。秦有餘力而制其弊。追亡逐北。伏尸百萬流血漂櫓。因利乘便。宰割天下。分裂河山。強國請伏弱國入朝。施及孝文王莊襄王。享國日淺。國家無事。及至始皇。奮六世之餘烈。振長策而御宇內。吞二周而亡諸侯。履至尊而制六合。執敲朴以鞭笞天下。威振四海。南取百粵之地。以爲桂林象郡。百粵之君俛首係頸。委命下吏。乃使蒙恬北築長城而守藩籬。卻匈奴七百餘里。胡人不敢南下而牧馬。士不敢彎弓而報怨。於是廢先王之道。燔百家之言以愚黔首。墮名城。殺豪俊。收天下之兵。聚之咸陽。銷鋒鍉。鑄以爲金人十二。以弱天下之民。然後踐華爲城。因河爲池。據億丈之城。臨不測之谿。以爲固。良將勁弩守要害之處。信臣精卒陳利兵而誰何。天下已定。始皇之心自以爲關中之固。金城千里。子孫帝王

然而二字通篇機關。千門萬戶。由此開闔。坊本乃有刪去者。何哉。

第三段合前二意而總斷。以一句有此頓挫。方成議論。

如決積水於千仞之谿。

經世之文是爲第一。後來六代論・皆帝

萬世之業也。始皇既沒。餘威震於殊俗。然而陳涉甕牖繩樞之子。甿隸之人。而遷徙之徒也。材能不及中庸。非有仲尼・墨翟之賢。陶朱・猗頓之富。躡足行伍之間。而倔起阡陌之中。率罷散之卒。將數百之衆。而轉攻秦。斬木爲兵。揭竿爲旗。天下雲集響應。贏糧而景從。山東豪俊遂竝起。而亡秦族矣。且夫天下非小弱也。雍州之地。崤函之固。自若也。陳涉之位。不尊於齊・楚・燕・趙・韓・魏・宋・衛・中山之君也。鉏櫌棘矜。不銛於鉤戟長鎩也。適戍之衆。非抗於九國之師也。深謀遠慮。行軍用兵之道。非及曩時之士也。然而成敗異變。功業相反也。試使山東之國與陳涉度長絜大。比權量力。則不可同年而語矣。然秦以區區之地。致萬乘之權。招八州而朝同列。百有余年矣。然後以六合爲家。崤函爲宮。一夫作難而七廟隳。身死人手。爲天下笑者。何也。仁義不施。而攻守之勢異也。

## 治安第一策　　賈誼

夫樹國固必相疑之勢。下數被其殃。上數爽其憂。甚非所以安上而全下也。今或親弟謀爲東帝。親兄之子西鄉而擊。今吳又見告矣。天子春秋鼎盛。行義未

紀贊・封建論・審勢・策略諸文莫不出於此者。一段多少轉換。文心靈動。

金聖嘆曰。韓如海。蘇如潮。二公猶有墻壁可依。路逕可覓。至治安策則無之。眞謂之海矣。眞謂之潮矣。

分論三不能。此一節附注前段。言所以不能。爲波瀾。

過德澤有加焉。猶尙如是。況莫大諸侯權力且十此者乎。然而天下少安。何也。大國之王幼張未壯。漢之所置傅相。方握其事。數年之後。諸侯之王。大抵皆冠。血氣方剛。漢之傅相稱病而賜罷。彼自丞尉以上。偏置私人。如此有異淮南濟北之爲耶。此時而欲爲治安。雖堯舜不治。黃帝曰。日中必熭。操刀必割。今令此道順而全安甚易。不肯早爲。已廼墮骨肉之屬。而抗剄之。豈有異秦之季世乎。夫以天子之位。乘今之時。因天之助。尙憚以危爲安。以亂爲治。假設陛下居齊桓之處。將不合諸侯而匡天下乎。臣又知陛下有所必不能矣。假設天下如曩時。淮陰侯尙王楚。黥布王淮南。彭越王梁。韓信王韓。張敖王趙。貫高爲相。盧綰王燕。陳豨在代。令此六七公者皆無恙。當此時而陛下卽天子位。能自安乎。臣有以知陛下之不能也。天下殽亂。高皇帝與諸侯並起。非有側室之勢以豫席之也。諸公幸者廼爲中涓。其次廑得舍人。材之不逮至遠也。高皇帝以明聖威武。卽天子位。割膏腴之地。以王諸公。多者百餘城。少者三四十縣。惠至渥也。然其後七年之間。反者九起。陛下之與諸公。非親角材而臣之也。又非身封王之

言䟽及親。插此句爲撇開。

言親顧䟽。着此句爲收拾。

痛哭中亦帶嗚咽聲。一路文勢飛瀉而來。以此段翻跌之。萬里長河。必須有此一洄曲。

也。自高皇帝不能以是一歲爲安。故臣知陛下之不能也。然尚有可諉。曰䟽臣請。試言其親者。假令悼惠王王齊。元王王楚。中子王趙。幽王王淮陽。共王王梁。靈王王燕。厲王王淮南。六七貴人皆無恙。當此時陛下卽位。能爲治乎。臣又知陛下之不能也。若此諸王。名雖爲臣。實皆有布衣昆弟之心。慮亡不帝制而天子自爲者。擅爵人。赦死辠。甚者或戴黃屋。漢法令非行也。雖行不軌如厲王者。令之不肯聽。召之安可致乎。幸而來至。法安可得加。動一親戚。天下圜視而起。陛下之臣雖有悍如馮敬者。適啓其口。匕首已陷其胷矣。陛下雖賢。誰與領此。故䟽者必危。親者必亂。已然之效也。其異姓負彊而動者。漢已幸勝之矣。又不易其所以然。同姓襲是跡而動。既有徵矣。其勢盡又復然。殃禍之變。未知所移。明帝處之尚不能以安。後世將如之何。屠牛坦一朝解十二牛。而芒刃不頓者。所排擊剝割。皆衆理解也。至於髖髀之所。非斤則斧。夫仁義恩厚。人主之芒刃也。權勢法制。人主之斤斧也。今諸侯王皆衆髖髀也。釋斤斧之用。而欲嬰以芒刃。臣以爲不缺則折。胡不用之淮南濟北。勢不可也。臣竊跡前事。大抵彊者先

鄭板橋詩云。英雄何必讀書史。直攄血性爲文章。縱橫議論析時事。如醫視病選藥方。余謂治安策是一篇醫案。以上是病因。以下是處方。

議論一直下。隨手。以丘壑界畫之。如潮勢暴漲而自有脊紋。末又以餘波收之。

反、淮陰王楚最強。則最先反。韓信倚胡、則又反。貫高因趙資、則又反。陳豨兵精則又反。彭越用梁、則又反。黥布用淮南、則又反。盧綰最弱、最後反。長沙乃在二萬五千戶耳、功少而最完、勢疏而最忠。非獨性異人也。亦形勢異也。曩令樊酈絳灌據數十城而王、今雖以殘亡可也。令信越之倫、列爲徹侯而居。雖至今存可也、然則天下之大計。可知已。欲諸王之皆忠附。則莫若令如長沙王。欲臣子勿菹醢、則莫若令如樊酈等。欲天下之治安、莫若衆建諸侯而少其力。力少則易使以義。國小則無邪心。令海內之勢如身之使臂。臂之使指。莫不制從。諸侯之君不敢有異心。輻湊並進。而歸命天子。雖在細民。且知其安。故天下咸知陛下之明。割地定制。令齊趙楚各爲若干國。使悼惠王・幽王・元王之子孫。畢以次各受祖之分地。地盡而止。及燕梁他國皆然、其分地衆。而子孫少者。建以爲國。空而置之。須其子孫生者。舉使君之。諸侯之地。其削頗入漢者。爲徙其侯國及封其子孫也、所以數償之。一寸之地。一人之衆、天子亡所利焉。誠以定治而已。故天下咸知陛下之廉。地制壹定。宗室子孫莫慮不王。下無倍畔之心。上無誅

剴切激昂口角如生。

憚字起。憚字結。文帝病源在此一字。

此喩應上身臂。

西京奏疏。多病平直。此獨不然。

第一段。一篇冒頭。如制藝破題。

第二段。承上一段。生下兩

伐之志。故天下咸知陛下之仁。法立而不犯。令行而不逆。貫高利幾之謀不生。柴奇開章之計不萌。細民鄉善。大臣致順。故天下咸知陛下之義。臥赤子天下之上。而安。植遺腹。朝委裘。而天下不亂。當時大治。後世誦聖。一動而五業附。陛下誰憚而久不爲此。天下之勢方病大瘇。一脛之大幾如要。一指之大幾如股。平居不可屈信。一二指搐。身慮亡聊。失今不治。必爲錮疾。後雖有扁鵲。不能爲已。病非徒瘇也。又苦䠞盭。元王之子。帝之從弟也。今之王者。從弟之子也。惠王者。親兄子也。今之王者。兄子之子也。親者或亡分地以安天下。疏者或制大權以偪天子。臣故曰。非徒病瘇也。又苦䠞盭。可痛哭者。此病是也。

## 貴粟疏。　鼂錯

聖王在上。而民不凍饑者。非能耕而食之。織而衣之也。爲開其資財之道也。故堯禹有九年之水。湯有七年之旱。而國亡捐瘠者。以畜積多而備先具也。今海內爲一。土地人民之衆。不避湯禹。加以亡天災數年之水旱。而畜積未及者。何也。地有遺利。民有餘力。生穀之土未盡墾。山澤之利未盡出也。游食之民未盡

段。如承題。

兩段皆民字起。夫字轉。故字收。文法嚴驟。賴其爲人。

第三段第四段分說務農貴粟。第五段說農貧商富。合爲一大段。如題腹。

歸農也。民貧則姦邪生。貧生於不足。不足生於不農。不農則不地著。不地著則離鄉輕家。民如鳥獸。雖有高城深池。嚴法重刑。猶不能禁也。夫寒之於衣。不待輕煖。饑之於食。不待甘旨。饑寒至身。不顧廉恥。人情一日不再食則饑。終歲不製衣則寒。夫腹饑不得食。膚寒不得衣。雖慈母不能保其子。君安能以有其民哉。明主知其然也。故務民於農桑。薄賦斂。廣畜積。以實倉廩。備水旱。故民可得而有也。民者在上所以牧之。趨利如水走下。四方亡擇也。夫珠玉金銀。饑不可食。寒不可衣。然而衆貴之者。以上用之故也。其爲物輕微易藏。在於把握。可以周海內而亡饑寒之患。此令臣輕背其主。而民易去其鄉。盜賊有所勸。亡逃者得輕資也。粟米布帛。生於地。長於時。聚於力。非可一日成也。數石之重。中人弗勝。不爲姦邪爲利。一日弗得而饑寒至。故明君貴五穀而賤金玉。今農夫五口之家。其服役者不下二人。其能耕者不過百畝。百畝之收不過百石。春耕夏耘。秋穫冬藏。伐薪樵。治官府。給繇役。春不得避風塵。夏不得避暑熱。秋不得避陰雨。冬不得避寒凍。四時之間亡日休息。又私自送往迎來。弔死問疾。養孤長幼。

前兩段兩扇對說。此一段只用二矣字一而字一爲二過脈一而末總斷之。化板爲活。

在其中。勤苦如此。尚復被水旱之災。急政暴虐。賦斂不時。朝令而暮改。當其有者半賈而賣。亡者取倍稱之息。於是有賣田宅鬻子孫以償債者矣。而商賈大者積貯倍息。小者坐列販賣。操其奇贏。日游都市。乘上之急。所賣必倍。故其男不耕耘。女不蠶織。衣必文采。食必粱肉。亡農夫之苦。有阡陌之得。因其富厚。交通王侯。力過吏執。以利相傾。千里游敖。冠蓋相望。乘堅策肥。履絲曳縞。此商人所以兼并農人。農人所以流亡者也。今法律賤商人。商人已富貴矣。尊農夫。農夫已貧賤矣。故俗之所貴。主之所賤也。吏之所卑。法之所尊也。上下相反。好惡乖迕。而欲國富法立。不可得也。方今之務。莫若使民務農而已矣。欲民務農。在於貴粟。貴粟之道。在於使民以粟爲賞罰。今募天下入粟縣官。得以拜爵。得以除罪。如此富人有爵。農民有錢。粟有所渫。夫能入粟以受爵。皆有餘者也。取於有餘以供上用。則貧民之賦可損。所謂損有餘補不足。令出而民利者也。順於民心。所補者三。一曰主用足。二曰民賦少。三曰勸農功。今令民有車騎馬一匹者。復卒三人。車騎者天下武備也。故爲復卒。神農之教曰。有石城十仞。湯池

第六段發務農貴粟要著。如題尾。

大書牘之祖。可爲五大段讀。

第一段先略自解。又謝闕報。

林西仲以不相師推賢進士用流俗言分爲三段。拘矣。

百步帶甲百萬而亡粟弗能守也。以是觀之。粟者王者大用。政之本務。令民入粟受爵。至五大夫以上。迺復一人耳。此其與騎馬之功相去遠矣。爵者。上之所擅。出於口而亡窮。粟者。民之所種。生於地而不乏。夫得高爵與免罪。人之所甚欲也。使天下人入粟於邊。以受爵免罪。不過三歲。塞下之粟必多矣。

## 答任安書

司馬遷

太史公。牛馬走司馬遷再拜言。少卿足下。曩者辱賜書。教以愼於接物推賢進士爲務。意氣懃懃懇懇。若望僕不相師而用流俗人之言。僕非敢如此也。僕雖罷駑。亦嘗側聞長者遺風矣。顧自以爲身殘處穢。動而見尤。欲益反損。是以獨抑鬱而誰與語。諺曰。誰爲爲之。孰令聽之。蓋鍾子期死。伯牙終身不復鼓琴。何則士爲知己者用。女爲說己者容。若僕大質已虧缺矣。雖材懷隨和。行若由夷。終不可以爲榮。適足以見笑而自點耳。書辭宜答。會東從上來。又迫賤事。相見日淺。卒卒無須臾之閒得竭指意。今少卿抱不測之罪。涉旬月迫季冬。僕又薄從上雍。恐卒然不可爲諱。是僕終已不得舒憤懣以曉左右。則長逝者魂魄私

第二段說已刑餘不可薦士。

滿腔不平。銜吻而發。故語語稜角。疊紙上隱起。

第三段說己被刑之由。

恨無窮。請略陳固陋。闕然不報。幸勿爲過。僕聞之。修身者。智之府也。愛施者。仁之端也。取予者。義之府也。恥辱者。勇之決也。立名者。行之極也。士有此五者。然後可以託於世。而列於君子之林矣。故禍莫憯於欲利。悲莫痛於傷心。行莫醜於辱先。詬莫大於宮刑。刑餘之人。無所比數。非一世也。所從來遠矣。昔衛靈公與雍渠載。孔子適陳。商鞅因景監見。趙良寒心。同子參乘。袁絲變色。自古而恥之。夫中材之人。事有關於宦豎。莫不傷氣。而況於忼慨之士乎。如今朝雖乏人。奈何令刀鋸之餘。薦天下豪儁哉。僕賴先人緒業。得待罪輦轂下。二十餘年矣。所以自惟。上之不能納忠效信。有奇策材力之譽。自結明主。次之又不能拾遺補闕。招賢進能。顯巖穴之士。外之不能備行伍。攻城野戰。有斬將搴旗之功。下之不能累日積勞。取尊官厚祿。以爲宗族交遊光寵。四者無一遂。苟合取容。無所短長之效。可見於此矣。鄉者僕亦嘗廁下大夫之列。陪外廷末議。不以此時引維綱。盡思慮。今已虧形爲掃除之隸。在闒茸之中。迺欲仰首信眉。論列是非。不亦輕朝廷羞當世之士邪。嗟乎。嗟乎。如僕尚何言哉。尚何言哉。且事本末未

子長多愛處。其傳人每有此意。緊切痛快乃如此。後世目文如豆腐湯者曰西京西京可笑。

易明也、僕少負不羈之才。長無鄉曲之譽。主上幸以先人之故。使得奏薄技出入周衛之中。僕以爲戴盆何以望天。故絕賓客之知。忘室家之業。日夜思竭其不肖之材力。務壹心營職。以求親媚於主上。而事乃有大謬不然者。夫僕與李陵俱居門下。素非能相善也。趣舍異路。未嘗銜杯酒接殷勤之餘歡。然僕觀其爲人。自守奇士。事親孝。與士信。臨財廉。取予義。分別有讓。恭儉下人。常思奮不顧身。以狥國家之急。其素所畜積也。僕以爲有國士之風。夫人臣出萬死不顧一生之計。赴公家之難。斯已奇矣。今舉事壹不當。而全軀保妻子之臣。隨而媒孽其短。僕誠私心痛之。且李陵提步卒不滿五千。深踐戎馬之地。足歷王庭。垂餌虎口。橫挑彊胡。仰億萬之師。與單于連戰十有餘日。所殺過當。虜救死扶傷不給。旃裘之君長咸震怖。迺悉徵左右賢王。舉引弓之民。一國共攻而圍之。轉鬭千里。矢盡道窮。救兵不至。士卒死傷如積。然陵一呼勞軍。士無不起。躬自流涕。沫血飲泣。更張空弮。冒白刃。北首爭死敵。陵未沒時。使有來報。漢公卿王侯皆奉觴上壽。後數日。陵敗書聞。主上爲之食不甘味。聽朝不怡。大臣憂懼。不知

前日奉觴上壽。今者不知所出。全軀保妻子之臣。固宜如此。

第四段說已被刑不死之故。

事未一句。從前諸注皆屬上段結語。非是。

節節頓挫。節節撤翻。如結如起。無不入

所出。僕竊不自料其卑賤。見主上慘愴怛悼。誠欲効其款款之愚。以爲李陵素與士大夫。絕甘分少。能得人之死力。雖古之名將。不能過也。身雖陷敗。彼觀其意。且欲得其當而報於漢。事已無可奈何。其所摧敗。功亦足以暴於天下矣。僕懷欲陳之。而未有路。適會召問。卽以此指。推言陵之功。欲以廣主上之意。塞睚眦之辭。未能盡明。明主不曉。以爲僕沮貳師。而爲李陵游說。遂下於理。拳拳之忠。終不能自列。因爲誣上。卒從吏議。家貧貨賂不足以自贖。交遊無救。視左右親近不爲壹言。身非木石。獨與法吏爲伍。深幽囹圄之中。誰可告愬者。此眞少卿所親見。僕行事豈不然邪。李陵既生降。隤其家聲。而僕又佴之蠶室。重爲天下觀笑。悲夫悲夫。事未易一二爲俗人言也。僕之先人非有剖符丹書之功。文史星歷近乎卜祝之間。固主上所戲弄。倡優所畜。流俗之所輕也。假令僕伏法受誅。若九牛亡一毛。與螻蟻何以異。而世俗又不能與死節者比。特以爲智窮罪極。不能自免。卒就死耳。何也。素所自樹立使然也。人固有一死。死或重於太山。或輕於鴻毛。用之所趨異也。太上不辱先。其次不辱身。其次不辱理色。其次

妙。所謂氣昌則言之短長與聲之高下皆宜者。

李陵書非不痛快。以比此書視之。如巧手贋古畫。其氣韻厚薄。不能免明眼鑒別。

不辱辭令。其次詘體受辱。其次易服受辱。其次關木索。被箠楚受辱。其次鬄毛髮。嬰金鐵受辱。其次毀肌膚。斷支體受辱。最下腐刑極矣。傳曰。刑不上大夫。此言士節不可不勉勵也。猛虎處深山。百獸震恐。及其在穽檻之中。搖尾而求食。積威約之漸也。故士有畫地爲牢。埶不可入。削木爲吏。議不可對。定計於鮮也。今交手足。受木索。暴肌膚。受榜箠。幽於圜牆之中。當此之時。見獄吏則頭槍地。視徒隸則心惕息。何者積威約之埶也。及已至此。言不辱者。所謂彊顏耳。曷足貴乎。且西伯伯也。拘羑里。李斯相也。具五刑。淮陰王也。受械於陳。彭越張敖南鄉稱孤。繫獄抵罪。絳侯誅諸呂。權傾五伯。囚於請室。魏其大將也。衣赭衣關三木。季布爲朱家鉗奴。灌夫受辱於居室。此人皆身至王侯將相。聲聞鄰國。及罪至罔加。不能引決自裁。在塵埃之中。古今一體。安在其不辱也。由是言之。勇怯埶也。彊弱形也。審矣。曷足怪乎。且人不能蚤自財繩墨之外。已稍陵夷。至於鞭箠之間。廼欲引節。斯不亦遠乎。古人所以重施刑於大夫者。殆爲此也。夫人情莫不貪生惡死。念父母。顧妻子。至激於義理者不然。廼有所不得已也。今僕不

自事未易爲俗人言至難爲俗人言也八百餘言須一氣讀

幸蚤失二親無兄弟之親獨身孤立少卿視僕於妻子何如哉且勇者不必死節怯夫慕義何處不勉焉僕雖怯耎欲苟活亦頗識去就之分矣何至自湛溺縲紲之辱哉且夫臧獲婢妾猶能引決況若僕之不得已乎所以隱忍苟活幽於糞土之中而不辭者恨私心有所不盡鄙陋沒世而文采不表於後也古者富貴而名磨滅者不可勝記唯俶儻非常之人稱焉蓋西伯拘而演周易仲尼戹而作春秋屈原放逐乃賦離騷左丘失明厥有國語孫子臏脚兵法修列不韋遷蜀世傳呂覽韓非囚秦說難孤憤詩三百篇大氐賢聖發憤之所爲作也此人皆意有所鬱結不得通其道故難往事思來者及如左丘明無目孫子斷足終不可用退論書策以舒其憤思垂空文以自見僕竊不遜近自託於無能之辭網羅天下放失舊聞略考其事綜其終始稽其成敗興壞之紀上計軒轅下至于茲爲十表本紀十二書八章世家三十列傳七十凡百三十篇亦欲以究天人之際通古今之變成一家之言草創未就適會此禍惜其不成是以就極刑而無慍色僕誠已著此書藏之名山傳之其人通邑大都則僕償前辱之

第五段。就被辱處。餘波流連。寛寫來意。

放聲大哭。

千里來龍到頭一穴。昌黎學此。作答孟簡書。

止哭拭涕。

小尺牘之祖。學乃舅書。而風韻過之。

是一書主意。

下文錯綜疏解。

責。雖萬被戮。豈有悔哉。然此可爲智者道。難爲俗人言也。且負下未易居。下流多謗議。僕以口語遇遭此禍。重爲鄕黨所戮笑。以汙辱先人。亦何面目復上父母之丘墓乎。雖累百世。垢彌甚耳。是以腸一日而九回。居則忽忽若有所亡。出則不知其所往。每念斯恥。汗未嘗不發背霑衣也。身直爲閨閤之臣。寧得自引深藏於巖穴邪。故且從俗浮湛。與時俯仰。以通其狂惑。今少卿迺敎以推賢進士。無迺與僕之私指謬乎。今雖欲自彫琢曼辭以自飾。無益於俗不信。祇足取辱耳。要之死日然後是非迺定。書不能悉意。略陳固陋。謹再拜。

## 答孫會宗書　楊惲

惲材朽行穢。文質無所底。幸賴先人餘業。得備宿衛。遭遇時變。以獲爵位。終非其任。卒與禍會。足下哀其愚蒙。賜書敎督以所不及。殷勤甚厚。然竊恨足下不深推其終始。而猥隨俗之毀譽也。言鄙陋之愚心。則若逆指而文過。默而息乎。恐違孔氏各言爾志之義。故敢略陳其愚。唯君子察焉。惲家方隆盛時。乘朱輪者十人。位在列卿。爵爲通侯。總領從官。與聞政事。曾不能以此時有所建明。

通篇宜作冷笑聲讀。下三矣字。見自弃意。

下二也字。文氣便宕。此一段。風流千古。明二李王汪輩。極力模倣而不能及者。

以宣德化。又不能與群僚同心併力。陪輔朝廷之遺忘。已負竊位素餐之責久矣。懷祿貪勢。不能自退。遂遇變故。橫被口語。身幽北闕。妻子滿獄。當此之時。自以夷滅不足以塞責。豈意得全首領。復奉先人之丘墓乎。伏惟聖主之恩不可勝量。君子游道。樂以忘憂。小人全軀。說以忘罪。竊自思過已大矣。行已虧矣。長爲農夫。以沒世矣。是故身率妻子。戮力耕桑。灌園治產。以給公上。不意當復用此爲譏議也。夫人情所不能止者。聖人弗禁。故君父至尊親。送其終也。有時而既。臣之得罪。已三年矣。田家作苦。歲時伏臘。亨羊炰羔。斗酒自勞。家本秦也。能爲秦聲。婦趙女也。雅善鼓瑟。奴婢歌者數人。酒後耳熱。仰天拊缶。而呼烏烏。其詩曰。田彼南山。蕪穢不治。種一頃豆。落而爲萁。人生行樂耳。須富貴何時。是日也。拂衣而喜。奮袖低昂。頓足起舞。誠淫荒無度。不知其不可也。惲幸有餘祿。方糴賤販貴。逐什一之利。此賈豎之事。汙辱之處。惲親行之。下流之人。衆毀所歸。不寒而栗。雖雅知惲者。猶隨風而靡。尚何稱譽之有。董生不云乎。明明求仁義。常恐不能化民者。卿大夫之意也。明明求財利。常恐困乏者。庶人之事也。故道

韓柳送序。及其土風以取韵致。似自此等來也。科頭箕踞。白眼看人。

不同。不相爲謀。今子尚安得以卿大夫之制而責僕哉。夫西河魏土。文侯所興。有段干木・田子方之遺風。凛然皆有節槩。知去就之分。頃者足下離舊土臨安定。安定山谷之間。昆戎舊壤。子弟貪鄙。豈習俗之移人哉。於今迺睹子之志矣。方當盛漢之隆。願勉旃。毋多談。

## 東漢文

### 與彭寵書

朱浮

先辨大意。次就恩義情勢責之。末又爲開導之言。凡五段。一氣呵成。勁健爽朗。在東京爲有數世

蓋聞。智者順時而謀。愚者逆理而動。嘗竊悲。京城太叔以不知足而無賢輔。卒自棄於鄭也。伯通以名字典郡。有佐命之功。臨民親職。愛惜倉庫。而浮秉征伐之任。欲權時救急。二者皆爲國耳。卽疑浮相譖。何不詣闕自陳。而爲族滅之計乎。朝廷之於伯通。恩亦厚矣。委以大郡。任以威武。事有柱石之寄。情同子孫之親。匹夫媵母。尚能致命一飡。豈有身帶三綬。職典大郡。而不顧恩義。生心外叛者乎。伯通與吏民語。何以爲顏。行步拜起。何以爲容。坐臥念之。何以爲心。引鏡

特誦斑彪王命。而不知有此。何耳食之多也。

挿此一段譬喩。色態濃至。否則不免寂寥矣。

結尾名言。只兩句而情事曲折。皆盡足以振起通體。

語語引先主。使左右小人

窺影。何以舒眉目。舉措建功。何以爲人。惜乎。棄休令之嘉名。造梟鴟之逆謀。捐傳葉之慶祚。招破敗之重災。高論堯舜之道。不忍桀紂之性。生爲世笑。死爲愚鬼。不亦哀乎。伯通與耿俠游。俱起佐命。同被國恩。俠游謙讓。屢有降挹之言。而伯通自伐。以爲功高天下。往時遼東有豕。生子白頭。異而獻之。行至河東。見郡豕皆白。懷慙而還。若以子之功。論於朝廷。則爲遼東之豕也。今乃愚妄自比六國。六國之時。其勢各盛。廓土數千里。勝兵將百萬。故能據國相持。多歷年所。今天下幾里。列郡幾城。奈何以區區漁陽。而結怨天子。此猶河濱之人。捧土以塞孟津。多見其不知量也。方今天下適定。海內願安。士無賢不肖。皆樂立名於世。而伯通獨中風狂走。自捐盛時。內聽嬌婦之失計。外信讒邪之諛言。長爲羣后惡法。永爲功臣鑒戒。豈不悞哉。定海內者無私讎。勿以前事自疑。願留意顧老母少弟。凡舉事無爲親厚者所痛。而爲見讎者所快。

## 前出師表。

諸葛亮

臣亮言。先帝創業未半。而中道崩殂。今天下三分。益州疲敝。此誠危急存亡之

秋也。然侍衛之臣不懈於內。忠志之士忘身於外者。蓋追先帝之殊遇。欲報之於陛下也。誠宜開張聖聽。以光先帝遺德。恢弘志士之氣。不宜妄自菲薄。引喩失義。以塞忠諫之路也。宮中府中俱爲一體。陟罰臧否。不宜異同。若有作姦犯科。及爲忠善者。宜付有司論其刑賞。以昭陛下平明之治。不宜偏私使內外異法也。侍中侍郎郭攸之・費禕董允等。此皆良實。志慮忠純。是以先帝簡拔以遺陛下。愚以爲。宮中之事。事無大小。悉以咨之。然後施行。必能裨補闕漏。有所廣益。將軍向寵性行淑均。曉暢軍事。試用於昔日。先帝稱之曰能。是以衆議擧寵以爲督。愚以爲。營中之事。事無大小。悉以咨之。必能使行陳和穆。優劣得所也。親賢臣。遠小人。此先漢所以興隆也。親小人。遠賢臣。此後漢所以傾頹也。先帝在時。每與臣論此事。未嘗不歎息痛恨於桓靈也。侍中尙書長史參軍。此悉貞亮死節之臣也。願陛下親之信之。則漢室之隆。可計日而待也。臣本布衣。躬耕南陽。苟全性命於亂世。不求聞達於諸侯。先帝不以臣卑鄙。猥自枉屈。三顧臣於草廬之中。諮臣以當世之事。由是感激。遂許先帝以驅馳。後値傾覆。受任於

不待開口。又明己不樹黨營私。以預防掣肘之患。古來只極口贊其精忠。少拈出此意。

第一段總論內外。

公之行文如其軍。八陣整肅。無懈可擊。然讀者要看其陣間容。陣又要看其遊軍二十四陣往來點綴。

第二段根下侍衛之臣不懈於內句上來。

極敍己初心不變於此。

第三段根忠志之士忘身於外句來。

言內事及外事。而竟歸內事。即常山蛇勢也。

敗之際。奉命於危難之間。爾來二十有一年矣。先帝知臣謹愼。故臨崩寄臣以大事也。受命以來。夙夜憂慮。恐付託不效。以傷先帝之明。故五月渡瀘。深入不毛。今南方已定。甲兵已足。當獎帥三軍北定中原。庶竭駑鈍。攘除姦凶。興復漢室。還於舊都。此臣所以報先帝而忠陛下之職分也。至於斟酌損益進盡忠言。則攸之・褘允之任也。願陛下託臣以討賊興復之效。不效則治臣之罪。以告先帝之靈。若無興德之言。則責攸之・褘允之咎。以彰其慢。陛下亦宜自課諮諏善道。察納雅言。以深追先帝遺詔。臣不勝受恩感激。今當遠離。臨表涕泣。不知所云。

古文典刑卷下 終

# 小文規則

# 『小文規則』解題

『古文典刑』ノ、秦漢以上ノ文ニ就キ、文範ヲ求メシムルニ對シ、『小文規則』ハ、唐宋四家〔韓・柳・歐・蘇〕ノ手ニ成レル古文ニ採リ、小品文ノ作法ヲ示サントテ、殆ンド同ジ年代ニ脱稿ヲ告ゲタルナリ。ソノ目ヲ分チテ、敍遊・紀別・題名・書後・識事ヲ正集ニ、簡牘・銘贊ヲ續集ニ編シ、各體ノ目ニ就キ、ソノ作意ノ在ルトコロヲ示シ、自序ノ外ニ、文化三年正月、賴春水〔拙巣老人〕ノ序〔支峯書〕・嘉永四年八月、支峯・三樹〔正集〕・五年八月、後藤松陰ノ跋ヲ附シ、大坂・河内屋吉兵衞〔龍章堂〕ノ手ニ開版セラレ、又、明治十二年八月十一日ニ成リシ翻刻本アリ。

本書ノ手稿本〔大家小品ト題ス〕ハ、予、嘗テコレヲ竹原・賴家ノ收藏ニ就キ一覧セリ。本書ノ選輯ハ、春水ノ序ニ、「自身コレヲ抄シ、「兒襄、コレヲ勸セリ」トアリ、父子合選ノ形ナルベキモ、文評ハ全然山陽ノ手ニ出デタリ。今、松陰ノ跋ニ說クトコロヲ見ル

二、

「機、先師頼翁ニ輦下ニ從ヒシコト、凡ソ三年、未ダ嘗テ翁ノ語リテ、コノ遷〔ノ事〕ニ及ブコトヲ聞カザリキ。……既ニシテ余、浪華ニ移寓シ、又凡ソ廿餘年ニシテ、始メテコレヲ翁ノ子士剛〔支峯〕ニ得タリ、乃チ一本ヲ謄シテ、以テ弆セリ。……聞ク、コノ本、士剛コレヲ但馬〔出石〕ノ道士林欽ニ借リ、林欽ハコレヲソノ鄕友井上謙藏〔靜軒〕ニ借レリ。謙藏ノ所藏ハ、乃チ翁ノ手書ナリト云ヘリ。謙藏、モト翁ノ父春水先生ニ從遊セシ者ナリ、豈當時、原本ヲソノ手授ニ得タリシカ。」

又、支峯・三樹ノ跋文ニハ、「嚮ニ、コレ〔山陽手稿〕ヲ一舊社ニ獲テ、謹ミテ家ニ藏ス」トアリ、一舊社ハ、卽チ靜軒ヲ指セルナルベシ。〔好尙生〕

# 小文規則序

文章之有小品。所貴簡明也已。瀟洒也已。人或謂。是藝園餘事。一時游戲也耳。曰。否否。文紀其事。言其實。而成大成小。其勢也。人知大文之有結構。而不知小文亦有規則。故欲簡明。而爲衡決。欲瀟洒。不免厖雜。或以一二俚葛藤取功。可醜。今抄韓・柳・歐・蘇小品。編曰規則。兒襄勒焉。因題此語。以爲發引。』文化丙寅〔三年〕。正月。拙巣老人〔春水〕。

## 自序

襄嘗謂。行文猶用兵也。所用益多。而其法益不可失。本邦人不善行大文。五六百言以往。亂雜焉耳。譬之庸將之統多兵。適足以自累也。夫唐宋四家。文之韓・白也。多多益善。而時用寡勝焉。今且取其用寡勝焉者。以爲學者法。學者。苟熟此法。能領一隊。則異日登壇。千軍萬馬。奇正闔闢亦以此法推之而已。　頼襄題。

# 小文規則

安藝 賴襄子成 選

## 敍遊

時竃易於詩而難於文。獨敍遊一體。描山寫水。自詩入文。是其閾也。本邦人敍遊務解人頤。故體冗韻卑。如俗書點綴大過。今取古人落筆尤蕭疎者。以見法則。學者倣此。

### 記遊嵩山。

韓昌黎

此爲題名之體。然簡而盡。儼然一篇紀行。

元和四年。三月二十六日。與著作佐郎樊宗師。處士盧同。自洛中至少室。謁李徵君渤。樊次玉泉寺。疾作。歸。明日。遂與李盧道士韋滌僧榮。並少室而東。抵衆寺。上太室中峰。宿封禪壇下石室。遂自龍泉寺。釣龍潭水。遇雷。明日觀啓母石。入此觀。與道士趙玄遇。乃歸。閏月三日。國子博士韓愈書。

### 題李生壁。

前篇自春秋來。此篇自史記來。

余始得李生於河中。今相遇於下邳。自始及今。十四年矣。始相見。吾與之皆未

永之十記闕一不可。然其高簡澹宕。可洗邦人俗習者。當以此篇爲第一。

則字。先秦遺法。

冠。未通人事。追思多有可笑者。與生皆然也。今者相遇。皆有妻子。昔時無度量之心。寧復可有是。生之爲交。何其近古人也。是來也。余黜於徐州。將西居於洛陽。汎舟於淸冷池。泊於文雅臺下。西望商邱。東望修竹園。入微子廟。求鄒陽枚叔。司馬相如之故文。久立於廟階間。悲那頌之不作於是者。已久。隴西李翶。太原王涯。上谷侯喜。實同與焉。貞元十六年。五月。十四日。昌黎韓愈書。

## 鈷鉧潭記。

柳柳州

鈷鉧潭在西山西。其始蓋冉水自南奔注。抵山石。折東流。其顚委勢峻。盪擊益暴。齧其涯。故旁廣而中深。畢至石乃止。流沫成輪。然後徐行。其淸而平者。且十畝。有樹環焉。有泉懸焉。其上有居者。以予之亟游也。一旦款門來告曰。不勝官租私券之委積。既芟山而更居。願以潭上田貿財以緩禍。予樂而如其言。則崇其臺。延其檻。行其泉於高者。墜之潭。有聲潨然。尤與中秋觀月爲宜。於以見天之高。氣之迥。孰使予樂居夷而忘故土者。非茲潭也歟。

## 至小邱西小石潭記。

如一幀小絹著色。泉。一作全。

從小邱西行。百二十步。隔篁竹。聞水聲。如鳴佩環。心樂之。伐竹取道。下見小潭。水尤清洌。泉石以爲底。近岸卷石底以出。爲坻。爲嶼。爲嵁。爲巖。青樹翠蔓。蒙絡搖綴。參差披拂。潭中魚可百許頭。皆若空遊無所依。日光下徹。影布石上。怡然不動。俶爾遠逝。往來翕忽。似與遊者相樂。潭西南而望。斗折蛇行。明滅可見。其岸勢犬牙差互。不可知其源。坐潭上。四面竹樹環合。寂寥無人。淒神寒骨。悄愴幽邃。以其境過清。不可久居。乃記之而去。同遊者。吳武陵。龔古。余弟宗玄。隸而從者。崔氏二小生。曰恕己。曰奉壹。

蘇公小品此爲第一。

已寫月。又寫竹柏。終合月與竹柏贊之。自成局勢。

先考据後景致。用筆疎密。互相映發。

## 記承天夜遊。　蘇東坡

元豐六年。十月。十二日夜。解衣欲睡。月色入戶。欣然起行。念無與爲樂者。遂至承天寺。尋張懷民。懷民亦未寢。相與步於中庭。庭下如積水空明。水中藻荇交橫。蓋竹柏影也。何夜無月。何處無竹柏。但少閑人如吾兩人者耳。

## 記赤壁與李委飲。

黃州少西。山麓斗入江中。石色如丹。傳云。曹公敗所。所謂赤壁者。或曰。非也。時

吾嘗評。此文勝於前後賦。未有信焉者。

雖小文。紹應匝密。

曹公敗歸。華容路多泥濘。使老弱先行踐之而過。曰。劉備智過人。而見事遲。華容夾道皆葭葦。使縱火。則吾無遺類矣。今赤壁少西。對岸即華容鎭。庶幾是也。然岳州復有華容縣。竟不知孰是。今日李委秀才來相別。因以小舟載酒。飲赤壁下。李善吹笛。酒酣作數弄。風起水涌。大魚皆出。上有栖鶻。坐念孟德公瑾。如昨日耳。適會范子豐兄弟來。遂書以與之。

記與二王飲花下。

僕在徐州。王子立子敏。皆館於官舍。而蜀人張師厚來過。二王方年少。吹洞簫。飲酒杏花下。予作此詩。乃杏花飛簾詩也。明年。予謫黃州。對月獨飲。嘗有詩云。去年花落在徐州。對月酣歌美清夜。今年黃州見花發。小院閉門風露下。蓋憶與二王飲時也。張師厚久已死。今年子立復故矣。哀哉。

記遊白水佛迹院。

紹聖元年。十月十二日。與幼子過。遊白水佛迹院。浴於湯池。熱甚。其源殆可熟物。循山而東少北。有懸水百仞。山八九折。折處。輒爲潭。深者縋石五丈。不得其

五醉一句。如無此句。則此篇亦凡品耳。

所止。雪濺雷怒。可喜可畏。水涯有巨人迹數十。所謂佛迹也。暮歸倒行。觀山燒。壯甚。俛仰度數谷。至江山月出。擊汰中流。掬弄珠璧。到家二鼓。復與過飲酒。食餘甘煮菜。顧影頹然。不復甚寐。書以付過。東坡翁。

記遊定惠院。

黄州定惠院東。小山上。有海棠一株。特繁茂。每歲盛開。必携客置酒。已五醉其下矣。今年復與參寥師二三子。訪焉。則園已易主。主雖市井人。然以予故。稍加培治。山上多老枳木。性瘦韌。筋脈呈露。如老人頂頸。花白而圓。如大珠纍纍。香色皆不凡。此木不爲人所喜。稍稍伐去。以予故。亦得不伐。既飲。往憩於尚氏之第。尚氏亦市井人也。而居處修潔。如吳越間人。竹林花圃皆可喜。醉臥小板閣上。稍醒。聞坐客崔成老彈雷氏琴。作悲風曉月。錚錚然。意非人間也。晚乃步出城東。鬻大木盆。意者謂可以注清泉。瀹瓜李。遂夤緣小溝。入何氏韓氏竹園。時何氏方作堂。竹間既闢地矣。遂置酒竹陰下。有劉唐年主簿者。饋油煎餌。其名爲甚酥。味極美。客尚欲飲。而予忽興盡。乃徑歸。道過何氏小圃。乞其叢橘移種

雪堂之西。坐客徐君得之。將適閩中。以後會未有期。請予記之。爲異日拊掌。時參寥獨不飲。以棗湯代之。

## 牡丹記。見古今詩文錄。闕。　歐廬陵

## 紀別

本邦人送序。必呶呶談論。所謂捫腹索墨者。無怍其露醜也。目前之景目前之情。筆而授之。以紀其別足矣。此之所收。分手之贈。皆精鍊簡勁。足以當千金寶劍者。

## 送董邵南序。　昌黎

燕趙古稱多感慨悲歌之士。董生擧進士。連不得志於有司。懷抱利器。鬱鬱適茲土。吾知其必有合也。董生勉乎哉。夫以子之不遇時。苟慕義强仁者。皆愛惜焉。矧燕趙之士。出乎其性哉。然吾嘗聞。風俗與化移易。吾惡知其今不異於古所云邪。聊以吾子之行卜之也。董生勉乎哉。吾因子有所感矣。爲我弔望諸君之墓。而觀於其市。復有昔時屠狗者乎。爲我謝曰。明天子在上。可以出而仕矣。

古今送序此爲第一。苟暗記此文。會其匠心。可以化出送序千萬首。

## 送區册序。

陽山。天下之窮處也。陸有丘陵之險。虎豹之虞。江流悍急。橫波之石。廉利侔劍

此序不若送薛存義序。而舍彼取此者。書生所須在此。不在彼。

戟。舟上下失勢。破碎淪溺者。往往有之。縣郭無居民。官無丞尉。夾江荒茅篁竹之間。小吏十餘家。皆鳥言夷面。始至。言語不通。畫地爲字。然後可告以出租賦。奉期約。是以賓客遊從之士。無所爲而至。愈待罪於斯。且半歲矣。有區生者。誓言相好。自南海挐舟而來。升自賓階。儀觀甚偉。坐與之語。文義卓然。莊周云。逃空虛者。聞人足音跫然而喜矣。況如斯人者。豈易得哉。入吾室。聞詩書仁義之說。欣然喜。若有志於其間也。與之翳嘉林。坐石磯。投竿而漁。陶然以樂。若能遺外聲利。而不厭乎貧賤也。歲之初吉。歸拜其親。酒壺既傾。序以識別。

送獨孤申叔序。　柳州

河東。古吾土也。家世遷徙。莫能就緒。聞其間有大河條山。氣蓋關左。文士往往彷徉臨望。坐得勝槪焉。吾固翹翹褰裳。奮懷舊都。日以滋甚。獨孤生。周人也。往而先我。且又愛慕文雅。甚達經要。才與身長。志益強力。挾是而東。夫豈徒往乎。溫淸奉引之隙。必有美製。儻飛以示我。我將易觀而待。所不敢忽。古之序者。期以申導志義。不爲富厚。而今也反是。生至於晉。出吾斯文於筆硯之伍。其有評

矣字。也字。下得何等濟宕。

江南一句。他人所不能道。

我太簡者。愼勿以知文許之。

別子開。　東坡

子開將往河北。相渡河寧。以冬至前一日。被旨。過節遂行。僕以節日來賀。且別之。留飮數盞。頽然竟醉。案上有此佳紙。故爲作草露書數紙。遲其北還。則又春矣。當爲我置酒盤山藥桃杏。是時。當復從公飮也。

別姜君元。

元符己卯。閏九月。瓊守姜君。來儋耳。日與予相從。庚辰三月。乃歸。無以贈行。書柳子厚飮酒讀書二詩。以見別意。子歸。吾無以遣日。獨此二事。日相與往還耳。二十一日。書。

別文甫。

僕以元豐三年。二月一日。至黃州。時家在南都。獨與兒子邁來。郡中無一人舊識者。時時策杖。至江上。望雲濤渺然。亦不知有文甫兄弟在江南也。居十餘日。有長而髯者。惠然見過。乃文甫之弟子辯。留語半日。云。迨寒食。且歸東湖。僕送

同登二字包括千景萬情。

之江上。微風細雨。葉舟橫江而去。僕登夏陝尾高丘。以望之。髣髴見舟及武昌。乃還。爾後遂相往來。及今四周歲。相過殆百數。遂欲買田而老焉。然竟不遂。近忽量移臨汝。念將復去此。而後期未可必。感物悽然。有不勝懷者。浮屠不三宿桑下。有以也哉。

送田畫秀才序。闕　　廬陵

題名。

題名。乂文之一體。學者所尤易爲。而及其至則山由焉益青。水由焉益綠。使後經過者徘徊不能去。文之時用。於是乎大矣。或紀時與名。或寓情於景。要其高簡。一言之題。千峯萬壑。爲之生色。

長安慈恩塔題名。　　昌黎

韓愈退之。李翱習之。孟郊東野。柳宗元子厚。石洪濬川。同登。

洛北惠林寺題名。

韓愈。李景興。侯喜。尉遲汾。貞元十七年。七月二十二日。魚于溫洛。宿此而歸。昌黎。韓愈書。

題雲安下岩。　　東坡

矣字有鏗爾之音。

眞醉人口吻。

子瞻子由與侃師至此。院僧以路惡見止。不知僕之所歷。有百倍於此者矣。丁未正月。二十日書。

題壽聖寺。

蜀人蘇軾子瞻。南遷。幼子過同遊壽聖寺。遇隱者石君汝礪器之。話羅浮之勝至暮酒去。

書天慶觀壁。

東坡飲酒此室。進士許毅甫自五羊來。邂逅一杯而別。

書臨皐亭。

東坡居士酒醉飯飽。倚於几上。白雲左繞。清江右洄。重門洞開。林巒坌入。當此時若有思而無所思。以受萬物之備。慚愧慚愧。

題鳳翔東院王畫壁。

嘉祐癸卯上元夜。來觀王維摩詰筆。時夜已闌。殘燈耿然。畫僧踽踽欲動。恍然久之。

書後。

題跋昉於宋。宴會之際。品鑒之次。淋漓揮筆。述往思來。眞藝園一佳事。要其澹宕。如雨露氣。

書韋應物西澗詩後。　　廬陵

右唐韋應物滁州西澗詩。今州城之西。乃是豐山。無所謂西澗者。獨城之北。有一澗水。極淺。遇夏潦漲溢。恆爲州人之患。其水亦不勝舟。又江潮不至此。豈詩家務作佳句。而實無此邪。然當時偶不以圖經考正。恐在州界中也。聞左司郭員外新授滁陽。欲以此事問之。

書梅聖兪河豚魚詩後

予友梅聖兪於范饒州席上。賦此河豚魚詩。余每體中不康。誦之數過。輒佳。亦屢書以示人。爲奇贈。翰林東閣書。

跋醉翁吟。

余以至和二年。奉使契丹。明年。改元嘉祐。與聖兪作此詩。後五年。聖兪卒。作詩追今。十有五年矣。而聖兪之亡。亦十年也。閱其辭翰。一爲泫然。遂軸而藏之。熙寧三年。五月十三日。

有龍門史贊風味。

題青州山齋。

吾常喜誦常建詩。云。竹逕通幽處。禪房花木深。欲效其語作一聯。久不可得。迺知造意者爲難工也。晩來青州。始得山齋宴息。因謂不意平生想見。而不能道以言者。乃爲己有。於是益欲希其髣髴。竟爾莫獲一言。夫前人爲開其端。而物景又在其自然。不得自稱其懷。豈人才有限。而不可强。將吾老矣。文思之衰邪。茲爲終身之恨爾。熙寧庚戌。仲夏月望日。題。

跋李陽冰庶子泉銘。

右庶子泉銘。李陽冰撰。幷書。慶曆五年。余自河北都轉運使。貶滁陽。屢至陽冰刻石處。未嘗不徘徊其下。庶子泉。昔爲流谿。今爲山僧塡爲平地。起屋於其上。問其泉。則指一大井。示余曰。此庶子泉。可不惜哉。

書李百藥汎愛寺碑後。

李百藥字僅存。其下磨滅。而書字猶可辨。疑此碑。百藥自書。字畫老勁可喜。秋暑鬱然。覽之。可以忘倦。

煙波千里。

題高閑草書後。

高閑草書。審如此。則韓子之言。爲實錄矣。永豐歐陽修。

書許道寧畫後。　　東坡

秦人有屈鼎筆者。許道寧師之。善分布澗谷。間見屈曲之狀。然有筆而無思致。林木皆晻靄耳。道寧氣格。似過之。學不及也。

題蘭亭序後。

眞本已入昭陵。世徒見之而已。然此本最善。日月愈遠。此本當復缺壞。則後生所見愈微愈疎矣。

書自書後。

過天色明暖。筆硯和暢。便宜作草書數紙。非獨以適吾意。亦使百年之後。與我同病者。有發之也。

跋草書後。

僕醉後。輒作草書十數行。便覺酒氣拂拂。從十指間出去也。

小品文猶有經世大議論。這翁露本色處。

### 書戴嵩畫。

蜀中有杜處士。好書畫。所寶以百數。有戴嵩畫牛一軸。尤所愛。錦囊玉軸。常以自隨。一日曝書畫。有一牧童。見之。拊掌大笑曰。此畫鬬牛也。牛鬬。力在角。尾搐入兩股間。今乃掉尾而鬬。謬矣。處士笑而然之。古語有云。耕當問奴。織當問婢。不可改也。

識事。應酬之文。不便於間獨之人。所以設此一體也。苟有會此。耳目所遇。草木蟲魚。無非我文者矣。

### 蝜蝂傳　柳州

蝜蝂者。善負小蟲也。行遇物。輒持取。卬其首負之。背愈重。雖困劇不止也。其背甚澀。物積因不散。卒躓仆不能起。人或憐之。爲去其負。苟能行。又持取如故。又好上高。極其力不已。至墜地死。今世之嗜取者。遇貨不避。以厚其室。不知爲己累也。唯恐其不積。及其怠而躓也。黜棄之。遷徙之。亦以病矣。苟能起。又不艾。日思高其位。大其祿。而貪取滋甚。以近於危墜。觀前死亡。不知戒。雖其形魁然大者也。其名人也。而智則小蟲也。亦足哀矣。

## 三戒。

吾恆惡世之人。不推己之本。而乘物以逞。或依勢以干非其類。出技以怒強。竊時以肆暴。然卒迨于禍。有客談麋驢鼠三物。似其事。作三戒。

### 臨江之麋

臨江之人畋得麋麑。畜之入門。羣犬垂涎揚尾皆來。其人怒怛之。自是日抱就犬。習示之。使勿動。稍使與之戲。積久犬皆如人意。麋麑稍大。忘己之麋也。以爲犬良我友。抵觸偃仆。益狎。犬畏主人。與之俯仰甚善。然時啖其舌。三年。麋出門見外犬在道甚衆。走欲與戲。外犬見而喜且怒。共殺食之。狼藉道上。麋至死不悟。

### 黔之驢。

黔無驢。有好事者。船載以入。至則無可用。放之山下。虎見之。尨然大物也。以爲神。蔽林間窺之。稍出近之。慭慭然莫相知。他日驢一鳴。虎大駭遠遁。以爲。且噬己也。甚恐。然往來視之。覺無異能者。益習其聲。又近出前後。終不敢搏。稍近益

傳贊條理縝密。

三首東語是爲最品。以其雋冷。

狎。蕩倚衝冒。驢不勝怒。蹄之。虎因喜計之曰。技止此耳。因跳踉大㘎。斷其喉。盡其肉。乃去。噫形之尨也。類有德。聲之宏也。類有能。向不出其技。虎雖猛。疑畏卒不敢取。今若是焉。悲夫。

## 永之鼠。

永有某氏者。畏日拘忌異甚。以爲己生歲直子。鼠子神也。因愛鼠。不畜猫犬。禁僮勿擊鼠。倉廩庖廚。悉以恣鼠不問。由是鼠相告。皆來某氏。飽食而無禍。某氏室無完器。椸無完衣。飲食大率鼠之餘也。晝累累與人兼行。夜則竊齧鬭暴。其聲萬狀。不可以寢。終不厭。數歲某氏徙居他州。後人來居。鼠爲態如故。其人曰。是陰類惡物也。盜暴尤甚。且何以至是乎哉。假五六猫。闔門撤瓦灌穴。購僮羅捕之。殺鼠如丘。棄之隱處。臭數月乃已。嗚呼。彼以其飽食無禍爲可恆也哉。

## 記先夫人不殘鳥雀。

東坡

少時所居書堂前。有竹柏雜花。叢生滿庭。衆鳥巢其上。武陽君惡殺生。兒童婢僕。皆不得捕取鳥雀。數年間。皆巢於低枝。其鷇可俯而窺之。又有桐花鳳四五。

小題大做。

日翔集其間。此鳥羽毛至爲珍異難見而能馴擾。殊不畏人。閭里間見之以爲異事。此無他。不忮之誠信於異類也。有野老。言鳥雀巢去人太遠。則其子有蛇鼠狐狸鴟鳶之憂。人既不殺。則自近人者。欲免此患也。由是觀之。異時鳥雀。巢不敢近人者。以人爲甚於蛇鼠之類也。苛政猛於虎。信哉。

書硯一條。

澤州呂道人澄泥硯。多作投壺樣。其首有呂字。非刻非書。堅緻可以試金。道人已死。硯漸難得。元豐五年。三月七日。偶至沙湖黃氏家。見一枚。黃氏初不知貴。乃取而有之。

驗草木長。

或謂余言。草木之長。常在昧明間。早起伺之。乃見其拔起數寸。竹筍尤甚。夏秋之交。稻方含秀。黃昏月出。露珠起於其根。累累然。忽自騰上。若推之者。或綴於莖心。或綴於葉端。稻乃秀實。驗之信。此二事。與子由養生之說契。故以此爲寄。

書嶺南紙。

但字。上下可疑。

遺。一作貴。

硯細而不退墨。紙滑而字易燥。皆尤物也。吾平生無嗜好。獨好佳筆墨。既得罪。謫嶺南。凡養生具。十無八九。佳紙筆行且盡。至用此等。將何以自娛。爲之慨然。書付子過。

硯譜一條。

紅絲石硯者。君謨贈余。云。此青州石也。得之唐彥猷。云。須飮以水使足。乃可用。不然渴燥。彥猷甚奇此硯。以爲發墨不減端石。君謨又言。端石瑩潤。惟有鋒者。尤發墨。歙其類也。此言與余特異。故幷記之。

書月石事。

張景山在虢州時。余命治石橋小板。一石中有月形。石色紫而月白。石中有樹。森森然。其文黑而枝葉老勁。雖世之工畫。有不能爲。蓋奇物也。景山南謫。留以遺予。予念此石。古所未有。欲但書事。則懼不爲信。因令善畫工來松寫以爲圖。子美見之當愛嘆也。其月滿。西旁微有不滿處。正如十三四時。其樹橫生。一枝外出。皆其實如此。不敢增損。遺可信也。

錄賣油翁事。

陳康肅公善射。當世無雙。公亦以此自矜。嘗射於家圃。有賣油翁釋擔而立。睨之。久而不去。見其發矢十中八九。但微頷之。康肅問曰。汝亦知射乎。吾射不亦精乎。翁曰。無佗。但手熟爾。康肅忿然曰。爾安敢輕吾射。翁曰。以我酌油知之。乃取一葫蘆。置於地。以錢覆其口。徐以杓酌油瀝之。自錢孔入。而錢不濕。因曰。我亦無他。惟手熟爾。康肅笑而遣之。此與莊生所謂解牛斲輪何異。

小文規則　終

尺一。包紀行。此其鼻祖。明人有述其意者。而俗陋矣。

# 小文規則 續集

正集五體。小文盡焉。然交游之有尺一也。人物之有金石題。小文之不可少者。因各取類。輯以爲續集。

## 簡牘

柬牘者。大小二體。求之西京。史遷答任安書。大柬之祖也。楊惲答孫會宗。小牘之祖也。今此所列則楊惲門派矣。

### 與梅聖兪　　廬陵

某又啟。去年夏中。因飲滁水。甚甘。問之有一土泉。在城東百步許。遂往訪之。乃一山谷中。山勢一面高峰。三面竹嶺。回抱泉上。舊有佳木一二十株。乃天生一好景也。遂引其泉爲石池。甚清甘。作亭其上。號豐樂亭。亦宏麗。又於州東五里許。菱溪上。有二怪石。乃馮延魯家舊物。因移至亭前。廣陵韓公聞之。以細芍藥十株見遺。亦植於其側。其他花竹。不可勝紀。山下一徑。穿入竹篠蒙密中。豁然

如書。

路盡。遂得幽谷。已作一記。未曾刻石。亦有詩。托王仲儀寄去。不知達否。告乞一篇留亭中。因便。望示及。千萬千萬。

與張職方。

某啓。相聚逾年。別來豈勝思戀。道塗無阻。行已及陳。時時得雨。舟中不熱。自過界溝。地土卑薄。桑柘蕭條。始知潁眞樂土。徒令人眷眷爾。小兒輩望見萬壽塔尙指以爲臺頭。聞其語。不覺愴然爾。過陳。恐難附書。秋暑多愛。

與蘇子容。

某啓。晴色可佳。必遂出城之行。泥濘。竊惟勞頓。清明之約。幸率唐公見過。喫一椀不托爾。餘無可以爲禮也。專此不宣。

與姜唐佐秀才。　東坡

今日雨霽。尤可喜。食已。當取天慶觀乳泉潑建茶之精者。念非君莫與共之。然早來市中無肉。當共啖菜飯耳。不嫌可只今相過。某啓上。

與毛維瞻。

銘硯乃銘李元賓也。

歳行盡矣。風雨淒然。紙窓竹屋。燈火青熒。時於此間得少佳趣。無由持獻。獨享爲愧。想當一笑也。

銘贊。銘贊有序焉者。有否者。諸家多因序舒其所欲言。贊源史遷。不必抑約要其簡逸雋永。辭卽焉而出。攷工不言乎。鼓大而短則其聲疾而短聞。鼓小而長。則其聲舒而遠聞。

瘞硯銘。 昌黎

隴西李觀元賓。始從進士貢在京師。或貽之硯。既四年。悲歡窮泰。未嘗廢其用。凡與之試藝春官。實二年。登上第。行于褒谷。役者劉胤誤墜之地毀焉。乃匣歸。埋于京師里中。昌黎韓愈。其友人也。贊且識云。

土乎質。陶乎成器。復其質。非生死類。全斯用。毀不忍棄。埋而識之。仁之義。硯乎硯乎。與瓦礫異。

文與可琴銘。 東坡

攫之幽然。如水赴谷。醳之蕭然。如葉脫木。按之噫然。應指而長言者似君。置之枵然。遺形而不言者似僕。

挿一而字便不板。是化板作活法也。

大文字調。又是一格。後人畫虎類狗。

菖蒲自比。以文石石英比秦黃鼂張。特未知以昌陽比何人也。

王定國眞贊。

溫然而澤者。道人之腴也。凛然而清者。詩人之癯也。雍容委蛇者。貴介之公子。而短小精悍者。游俠之徒也。人何足以知之。此皆其膚也。若人者。泰不驕。因不撓。而老不枯也。

石菖蒲贊。并序

本草。菖蒲味辛溫。無毒。開心。補五臟。通九竅。明耳目。久服輕身。不忘延年。益心智。高志不老。注云。生石磧上。概節者良。生下濕地。大根者。乃是昌陽。不可服。韓退之進學解云。訾醫師以昌陽引年。欲進其豨苓。不知退之卽以昌陽爲菖蒲邪。抑謂其似是而非。不可以引年也。凡草木之生石上者。必須微土以附其根。如石韋石斛之類。雖不待土。然去其本處。輒槁死。惟石菖蒲并石取之。濯去泥土。漬以清水。置盆中。可數十年不枯。雖不甚茂。而節葉堅瘦。根鬚連絡。蒼然於几案間。久而益可喜也。其輕身延年之功。既非昌陽之所能及。至於忍寒苦。安澹泊。與清泉白石爲伍。不待泥土而生者。亦豈昌陽之所能髣髴哉。余游慈湖

山中得数本。以石盆養之。置舟中。間文石石英。璀璨芬郁。意甚愛焉。顧恐陸行不能致也。乃以遺九江道士胡洞微。使善視之。余復過此。將問其安否。贊曰。清且泚。惟石與水。託於一器。養非其地。瘠而不死。夫孰知其理。不如此。何以輔五臟而堅髮齒。

小文規則續集 終

小文軌〔規〕則。及古文典刑。皆先人少時所輯。以置之家塾。後散落失處。先人不復收錄。蓋瑣瑣小著。不深留意也。然是著歷徵古今。審確體制。自選自習。又習之子弟。其用意之深。不獨軌範初學。亦足以見先人文筆所原矣。世議先人文者。徒見其奔放縱橫。以爲任氣勇往。無所根柢。甚則至於哂曰英雄欺人。皆坐未知有此等選耳。嚮獲之一舊社。謹藏于家。近者浪華龍章堂主人。因後藤先生。請以壽木。乃欣然先付以軌則。刻成。因識此語卷尾云。嘉永辛亥四年秋八月。不肖男賴復醇同跋。

機從先師賴翁於　輦下。凡三年。未嘗聞翁語及此選也。蓋是係其少時事。故
不屑之也。既余移寓浪華。又凡廿餘年。始得之於翁子士剛。乃謄一本以奔。偶
書舖某。來而見之。請刊而行世。因謀之於士剛兄弟。皆諾之。而此本。士剛借之
於但馬道士林欽。林欽借之於其鄉友井上謙藏。謙藏所藏乃翁手書云。謙藏
元從遊翁父春水先生者。豈當時得原本於其手授歟。憶機在京。見翁小著數
種。率皆其手寫。用草體。故不諳草書者。遽謄之。不能無訛轉。轉轉相謄。訛上承
訛者。往往有之。此編。時覺有難澁缺闕焉。亦得無承訛之弊乎。但覺其有裨學
文者。故施點乙。使某也刊行。讀者或就正之於謙藏藏本。則庶乎得其本面目
矣。」嘉永壬子〔五年〕。桂華月〔八月〕。後藤機僭題。

# 謝選拾遺

# 『謝選拾遺』解題

『謝選』―宋・謝疊山選評ノ『文章軌範』『拾遺』トシテ、韓・柳・歐陽・三蘇ノ文五十八篇ヲ採リ、以テ明・鄒東郭ノ批選ト稱セラルル『續文章軌範』ニ代ヘ、直チニ正編ニ續ケラルベク、コノ標題ノ下ニ、古文ノ軌範ヲ示セルモノ、ソノ稿本ノ門人牧百峯ニ授ケラレタルヲ、賴立齋ノ校本成リ、百峯ノ序〔嘉永二年八月〕・立齋ノ跋〔九月〕ヲ附シ、嘉永三年正月、大坂書肆河內屋喜兵衞〔積玉圃〕・江戸須原屋茂兵衞〔千鍾房〕・京都菱屋孫兵衞〔五車樓〕等ノ手ニ開版發兌セラルルニ至レリ。

本書諸篇ノ評語ハ、別ニ右諸家ノ文ニ加ヘラレタル山陽ノ評本ヨリ、百峯ノ手ニテ、コレヲ採錄シ、立齋ハ更ニ清・沈歸愚ノ『唐宋八家文』ニ於ケル評語ヲ補入シタルナリ。山陽ノ『八家文』原評ハ、文政三年十一月十四日以來、雲華ノ爲メニ、ソノ藏本ニ加評シ、六年二月十八日ニ、ソノ全部ヲ畢リ、更ニ四月廿五日、歸愚ノ原序及ビ凡例ノ評ヲ加ヘ

タルモノニ係レリ。

明治十六年三月、大阪・行徳玉園ガ、『集註纂評謝選拾遺』ト題シ、山陽ノ外、諸家ノ評語ヲ雑ヘ、頼支峯ノ校閲ヲ標榜シテ、刊行シタルモノアリ。〔好古生〕

# 例言

一、本書ニ收ムル謝選拾遺、小文規則、古文典刑、唐絶新選等諸本ノ文字讀法ハ、一二之ガ補訂ヲナセシモノヲ除クノ他、大抵既ニ通行セル板本ノ舊ニ仍レリ。

一、謝選拾遺ノ山陽先生評語ハ元來悉ク鼇頭ニ標記セラル。今印刷ノ都合ニヨリ其中全般的評語ヲ篇尾ニ附隨セリ。而シテ間々否ザル者アルハ已ムヲ得ザルニ出ヅ。但ダ書物ノ體裁上篇尾ノ評語活字號數ハ本文ノ字體ト同大ノモノトナス。讀者其他意ナキヲ諒セラレヨ。

一、謝選拾遺所收ノ文章ハ四部叢刊左記書中ノ同文ト對校シ、其文字ノ異同アル毎ニ鼇頭「」印ヲ附シテ之ヲ標記セリ。固ヨリ編者一片ノ婆心ニ過ギズ。

韓愈撰　元刊本朱文公校昌黎先生文集
柳宗元撰　元刊本增廣註釋音辨唐柳先生文集
歐陽修撰　元刊本居士集
蘇洵撰　影宋鈔本嘉祐集
蘇軾撰　宋刊本經進東坡文集事略
蘇轍撰　明嘉靖活字本欒城集
昭和七年六月晦

賴　成　一識

刻謝選拾遺敍。

古文之有選。不下數十百家。而好尙如而。互有同異。獨謝疊山文章軌範。論選公平。最稱簡且要。宜乎世之學文章者。奉爲金科玉條。以至于今。先師賴翁。亦喜讀之。其說文章。必先示法於此。然其選元爲擧子設。專主程式。且便裴齋。故有不遑編蒐者。王敍所謂古文之奧。不止於是。不其然乎。今坊間所合刻續編者、題爲鄒東郭選。務擧世所艷稱者。以投俗好。蓋東郭嘗學于王氏。進士成名者。而王序所論又如此。故當時書賈。更託手於其門人。以求售焉耳。先師常惜謝選之精。而其觀易止。而歎續編之蕪雜。不足以補其遺漏。以謂秦漢以來。古文之可學者固多。而其體至於韓柳歐蘇而備焉。其篇章字句之法。開合頓挫之節。正變互見。豐約合度。可以準于萬世矣。謝氏原選。雖取焉居多。而猶不無遺珠。遂就各家集中。拾其最可法者若干篇。分爲七卷。名曰謝選拾遺。併之原選。以授覩輩。余嘗欲請上諸梓以傳同好。會先師易簀。事寢。屬者書肆某等。更來乞刻。乃與先師族弟子常謀。校而授之。先師又嘗批評四家文。稿本具存。今

採錄之上額。以便讀者。其無焉者。闕如不敢增損一字也。嗚呼。先師既逝殆垂廿歲。始竣此擧。所憾者。使先師猶在。其取捨評論。未知尙焉否。而今不及也。余輩唯幸先師遺惠之得以及四方。若其編次之意。則覽者其審之。刻成書之爲序。

嘉永二年己酉桂月　牧　輗　謹撰

# 謝選拾遺 卷之一

小字集

賴襄子成 選評

〔蜒。昌黎集作蟺。〕

○先秦文字皆以重複取姿。昌黎竊之也。後來明人效顰。乃疊其醜。

〔昌黎集。閒下有而。〕

〔人。昌黎集作民。〕

## 送廖道士序。

昌黎

五岳於中州。衡山最遠。南方之山。巍然高而大者以百數。獨衡爲宗。最遠而獨爲宗。其神必靈。衡之南八九百里。地益高。山益峻。水清而益駛。其最高而橫絕南北者嶺。郴之爲州。在嶺之上。測其高下。得三之二焉。中州清淑之氣。於是焉窮。氣之所窮。盛而不過。必蜿蟺扶輿磅礴而鬱積。衡山之神既靈。而郴之爲州。又當中州清淑之氣蜿蜒●扶輿而鬱積。其水土之所生。神氣之所感。白金・水銀・丹砂・石英・鍾乳・橘柚之包。竹箭之美。千尋之名材。不能獨當也。意必有魁奇忠信材德之民生其間。吾又未見也。其無乃迷惑溺沒於佛老之學而不出耶。廖師郴人。而學於衡山。氣專而容寂。多藝而善遊。豈吾所謂魁奇而迷溺者耶。廖

○作二不了語一作レ結。最高。東坡方山子傳似レ學レ此。

〔有誠。唐柳先生集作二誠有一。揚。作レ楊。險。作レ儉。友。作レ反。〕

師善知レ人。若不レ在二其身一。必在二其所一レ與遊。訪レ之而不二吾告一何也。於二其別一申以問レ之。

突然而來。翛然而止。韓文之高深不レ可レ及。觀二此等文一可レ知也。

送二僧浩初一序。　柳州

儒者韓退之與レ余善。嘗病三余嗜二浮圖言一。訾三余與二浮圖一遊。近隴西李生礎自二東都一來。退之又寓レ書罪レ余。且曰。見下送二元生一序上。不レ斥二浮圖一。浮圖有誠。不レ可レ斥者。往往與二易・論語一合。誠樂レ之。其於二性情一奭然不下與二孔子一異上レ道。退之好レ儒。未レ能レ過二揚子一。揚子之書。於二莊・墨・申・韓一皆有レ取焉。浮圖者。反不レ及二莊・墨・申・韓之怪僻險賊一耶。曰。以二其夷一也。果不レ信レ道。而斥焉以レ夷。則將レ友二惡來盜跖一。而賤二季札由余一乎。非二所レ謂去レ名求レ實者一矣。吾之所レ取者。與二易・論語一合。雖二聖人復生一。不レ可レ得而斥一也。退之所レ罪者其跡也。曰。髡而緇。無二夫婦父子一。不レ爲二耕農蠶桑一而活二乎人一。若レ是雖レ吾亦不レ樂也。退之忿二其外一而遺二其中一。是知レ石而不レ知レ韞レ玉也。吾之所三以嗜二浮圖之言一以レ此。與二其人一遊者。未二必能通二其言一也。且凡爲二其道一者。不レ愛レ官。不レ爭レ能。樂二山水一而嗜二閑安一

〔爲北使。嘉祐集作使北。情作悔。悶作苦。心作甚。〕〔嘉祐集無日字。〕○此段似史記盧綰傳。〔嘉祐集無之。庭。自。大。曰五字。〕○自嬉戲啖棗栗。叙到下第。大旆從騎數百。乃有色態。〔健。嘉祐集作大。域作役。則作者。〕

者爲多。吾病世之逐逐然。唯印組爲務。以相軋也。則舍是其焉從。吾之好與浮圖遊以此。今浩初閑其性。安其情。讀其書。通易論語。唯山水之樂。有文而文之。又父子咸爲其道。以養而居。泊焉而無求。則其賢於爲莊墨申韓之言。而逐逐然唯印組爲務。以相軋者。其亦遠矣。李生礎與浩初又善。今之往也。以吾言示之。因北人寓退之。視何如也。

## 送石昌言爲北使引。　老泉

昌言舉進士時。吾始數歲。未學也。憶與群兒戲先府君側。昌言從傍取棗栗啖我。家居相近。又以親戚故甚狎。昌言舉進士。日有名。吾後漸長。亦稍知讀書。學句讀屬對聲律。未成而廢。昌言聞吾廢學。雖不言。察其意甚恨。後十餘年。昌言及第。第四人。守官四方。不相聞。吾日以壯大。乃能感悟。摧折復學。又數年遊京師。見昌言長安。相與勞問如平生歡。出文十數首。昌言甚喜稱善。吾晚學無師。雖日爲文。中心自慚。及聞昌言說。乃頗自喜。今十餘年。又來京師。而昌言官兩

○建大旆云云。無此數句無色態。○富貴不足怪。百忙中挿此句。不獨自占地步。語有波折。得彭任話爲議論根本。又加色態。通篇不著議論。至此曰。嗚呼何其不思之甚也。一句是議論。已而忽引史記一事。又曰。今之匈奴云云。此句是議論。結尾引孟子一句。此纔是從石昌言正面文字也。簡勁奇拔千古無兩。

制。乃爲天子出使萬里之外。强悍不屈之虜庭。建大旆。從騎數百。送車千乘。出都門。意氣慨然。自思爲兒時。見昌言先府君旁。安知其至此。富貴不足怪。吾於昌言。獨自有感也。大丈夫生不爲將。得爲使。折衝口舌之間足矣。往年。彭任從富公使還。爲我言曰。既出境。宿驛亭。聞介馬數萬騎馳過。劍槊相摩。終夜有聲。從者怛然失色。及明視道上馬跡。尚心掉不自禁。凡虜所以誇耀中國者。多此類。中國之人不測也。故或至於震懼而失辭以爲夷狄笑。嗚呼何其不思之甚也。昔者奉春君使冒頓。壯士健馬。皆匿不見。是以有平城之域。今之匈奴。吾知其無能爲也。孟子曰。說大人則藐之。況於夷狄。請以爲贈。

宋人送序。當推此篇爲第一。雖昌黎恐無此奇傑處。蓋善學遷者也。○文氣一氣呵成。著段落乃失之矣。○蘇氏之文、每遇議論議之時。覺可厭。如東坡前赤壁末段是也。獨此文閑閑自平昔通好叙起。又叙出使意氣。又叙北虜情狀。通體叙事。末尾議論唯三句。是文品所以獨高讀之萬遍不厭也。

〔是。居士集作此。於作于。〕

〔居士集無留字。〕

○夷陵者云云。醇肖史遷。明人喜摹倣此等處。而痕迹宛然可厭。〔摹。恐摹訛。〕

送田畫秀才寧親萬州序。　六一

五代之初。天下分爲十三四。及建隆之際。或滅或微。其在者猶七國。而蜀與江南地最大。以周世宗之雄。三至淮上。不能舉李氏。而蜀亦恃險爲阻。秦隴山南。皆被侵奪。而荊人縮手歸峽。不敢西窺以爭故地。及太祖受天命。用兵不過萬人。舉兩國如一羣縣吏。何其偉歟。當是時。文初之祖。從諸將西平成都。及南攻金陵。功最多。於時語名將者稱田氏。田氏功書史官。祿世於家。至今而不絕。及天下已定。將率無所用其武。士君子爭以文儒進。故文初將家子。反衣白衣從鄉進士。舉於有司。彼此一時。亦各遭其勢而然也。文初辭業通敏。爲人敦潔可喜。歲之仲春。自荊南西拜其親於萬州。維舟夷陵。予與之登高以遠望。遂遊東山。窺綠蘿溪。坐磐石。文初愛之。留數日乃去。夷陵者。其地志云。北有夷山以爲名。或曰。巴峽之險至此地始平夷。蓋今文初所見。尚未爲山川之勝者。由此而上泝江湍。入三峽。險怪奇絕。乃可愛也。當王師伐蜀時。兵出兩道。一自鳳州以入。一自歸州以取忠萬以西。今之所經。皆王師嚮所用武處。覽其山川。可以慨

〔決。穎城集作
决。北作比。〕

然而賦矣。

古今稱昌黎送序。如此篇亦昌黎所無。○全篇不著議論。而中間忽感慨時勢異同。是不關涉中之關涉。是老歐獨擅。韓蘇諸公不及也。

上樞密韓太尉書。　　穎濱

太尉執事。轍生好爲文。思之至深。以爲文者。氣之所形。然文不可以學而能。氣可以養而致。孟子曰。我善養吾浩然之氣。今觀其文章。寬厚宏博。充乎天地之間。稱其氣之小大。太史公行天下。周覽四海名山大川。與燕趙間豪俊交游。故其文疎蕩。頗有奇氣。此二子者。豈嘗執筆學爲如此之文哉。其氣充乎其中。而溢乎其貌。動乎其言。而見乎其文。而不自知也。轍生十有九年矣。其居家所與游者。不過其隣里鄉黨之人。所見不過數百里之間。無高山大野可登覽以自廣。百氏之書。雖無所不讀。然皆古人之陳迹。不足以激發其志氣。恐遂汨沒。故●決然捨去。求天下奇聞壯觀。以知天地之廣大。過秦漢之故都。恣觀終南嵩華

○自轍生十九年矣。筆勢驅突而來。至面轍也未之見焉。一頓力截奔馬。

○自且夫再提前意。重言之。如波濤沓疊。非是則一瀉去不成文矣。

欒城集。憾下有者。

○爲政。與學文。輕重較然。然此篇主意。在學文上。故云云耳。

之高。北顧黃河之奔流。慨然想見古之豪傑。至京師仰觀天子宮闕之壯。與倉廩府庫城池苑囿之富且大也。而後知天下之巨麗。見翰林歐陽公。聽其議論之宏辯。觀其容貌之秀偉。與其門人賢士大夫游。而後知天下之文章聚乎此也。太尉以才略冠天下。天下之所恃以無憂。四夷之所憚以不敢發。入則周公・召公。出則方叔・召虎。而轍也未之見焉。且夫人之學也。不志其大。雖多而何爲。轍之來也。於山見終南嵩華之高。於水見黃河之大且深。於人見歐陽公。而猶以爲未見太尉也。故願得觀賢人之光耀。聞一言以自壯。然後可以盡天下之大觀而無憾矣。轍年少未能通習吏事。嚮之來。非有取於斗升之祿。偶然得之。非其所樂。然幸得賜歸待選。使得優游數年之間。將歸益治其文。且學爲政。太尉苟以爲可教。而辱教之。又幸矣。

此篇。讀者唯稱其豪宕。余獨稱其靜恬。何則上權要人書。誰不自衒以求其援引者。今謂魏公是天下壯觀之一。欲一見以壯己之文氣。其立意豈不澹泊可以想見其爲人也。

[唫。居士集作吟。]

○余亦將老矣一句。文情欲絕。

[絕。居士集作傑。於作于。]

# 釋祕演詩集序

予少以進士遊京師。因得盡交當世之賢豪。然猶以謂。國家臣一四海。休兵革。養息天下。以無事者四十年。而智謀雄偉非常之士。無所用其能者。往往伏而不出。山林屠販。必有老死而世莫見者。欲從而求之不可得。其後得吾亡友石曼卿。曼卿爲人。廓然有大志。時人不能用其材。曼卿亦不屈以求合。無所放其意。則往往從布衣野老。酣嬉淋漓。顛倒而不厭。予疑所謂伏而不見者。庶幾狎而得之。故嘗喜從曼卿遊。欲因以陰求天下奇士。浮屠祕演者。與曼卿交最久。亦能遺外世俗。以氣節相高。二人懽然無所間。曼卿隱於酒。祕演隱於浮屠。皆奇男子也。然喜爲歌詩以自娛。當其極飲大醉。歌唫笑呼。以適天下之樂。何其壯也。一時賢士皆願從其遊。予亦時至其室。十年之間。祕演北渡河。東之濟鄆。無所合。困而歸。曼卿已死。祕演亦老病。嗟夫二人者。予乃見其盛衰。則余亦將老矣。夫曼卿詩辭清絕。尤稱祕演之作。以爲雅健有詩人之意。祕演狀貌雄傑。其胸中浩然。既習於佛。無所用。獨其詩可行於世。而懶不自惜。已老。胠其橐。尚

〔數。昌黎集作較。揚作楊。〕

得三四百篇。皆可喜者。曼卿死。祕演漠然無所向。聞東南多山水。其巔崖崛峍。江濤洶涌。甚可壯也。遂欲往遊焉。足以知其老而志在也。於其將行。爲敍其詩。因道其盛時。以悲其衰。

古今第一等集序。韓蘇諸公集中皆無之。○文字帶雲烟氣者。古今有數。如此等是也。

## 再與鄂州柳中丞書。　昌黎

愈愚。不能量事勢可否。比常念。淮右以靡弊困頓三州之地。蚊蚋蟻蟲之聚。感兒豎煦濡飲食之惠。提童子之手。坐之堂上。奉以爲師。出死力以抗逆明詔。戰天下之兵。乘機逐利。四出侵暴。屠燒縣邑。賊殺不辜。環其地數千里。莫不被其毒。洛汝襄荊。許潁淮江爲之騷然。丞相公卿士大夫。勞於圖議。握兵之將。熊羆貙虎之士。畏懦蹙蹜。莫肯杖戈爲士卒前行者。獨閣下奮然率先。揚兵界上。將二州之守。親出入行間。與士卒均辛苦。生其氣勢。見將軍之鋒穎。凜然有向敵

○一轉不使讀者覺其轉妙。

○況此小寇照應篇首。又不使讀者覺其照應。

○末一段別爲他區畫處置。書牘之體與議論異。於此等可見。

之意。用儒雅文字章句之業。取先天下武夫。箝其口。而奪之氣。憑初開時方食。不覺棄匕箸起立。豈以爲閣下眞能引孤軍。單進與死寇角逐。爭一旦僥倖之利哉。就令如是。亦不足貴。其所以服人心。在行事適機宜。而風采可畏愛故也。是以前狀輒述鄙誠。春惠手翰還答。益增欣悚。夫一衆人心力耳目。使所至如時雨。三代用師。不出是道。閣下果能充其言。繼之以無倦。得形便之地。申兵足用。雖國家故所失地。旬歲可坐而得。況此小寇。安足置齒牙間。俛而卒之。以俟其至幸甚。夫遠徵軍士。行者有羈旅離別之思。居者有愁曠騷動之憂。本軍有饋餉煩費之難。地主多姑息形迹之患。急之則怨。緩之則不用命。浮寄孤懸形勢銷弱。又與賊不相諳委。臨敵恐駭。難以有功。若召募土人。必得豪勇。與賊相熟。知其氣力所極。無望風之驚。愛護鄉里。勇於自鬬。徵兵滿萬。不如召募數千。閣下以爲何如。儻可上聞行之否。計已與裴中丞相見。行營事宜。不惜時賜示及幸甚。不宜。

筆態如風雨驟至。所謂突陣法。用之起手更妙。杜子美兵車行起處類此。○

戰國策稱田單處。以洶洶之卽墨。三里之城。七里之郭云云。韓公筆態類此。

[於。昌黎集作于。]

○是中古以來獨韓公能獨見獨論。後來明李何一蹈襲之。王李再踏襲之。終爲常談矣。

答李翊書。　　昌黎

六月二十六日。愈白。李生足下。生之書辭甚高。而其問何下而恭也。能如是。誰不欲告生以其道。道德之歸也。有日矣。況其外之文乎。抑愈所謂望孔子之門牆。而不入於其宮者。焉足以知是且非耶。雖然。不可不爲生言之。生所謂立言者是也。生所爲者與所期者。甚似而幾矣。抑不知生之志。蘄勝於人而取於人耶。將蘄至於古之立言者耶。蘄勝於人而取於人。則固勝於人而可取於人矣。將蘄至於古之立言者。則無望其速成。無誘於勢利。養其根而竢其實。加其膏而希其光。根之茂者其實遂。膏之沃者其光曄。仁義之人。其言藹如也。抑又有難者。愈之所爲。不自知其至猶未也。雖然。學之二十餘年矣。始者非三代兩漢之書。不敢觀。非聖人之志不敢存。處若忘。行若遺。儼乎其若思。茫乎其若迷。當其取於心而注於手也。惟陳言之務去。戛戛乎其難哉。其觀於人。不知其非笑

○用心於古言久矣。故觀古書。鑒識其古與贋。贋者如古文尚書・孝經・晏子春秋之類是已。沈歸愚以爲荀楊班馬誤矣。

○陳言乃六朝以來習用套語。非曰不用古言也。

○宋人唯不迎而距之。乃隨平易矣。如東坡亦不免焉。

○東坡自稱其文。亦以萬斛泉源喩之。雖語妙似不如此親切。

[之。昌黎集作諸。]

之爲非笑也。如是者亦有年。猶不改。然後識古書之正僞。與雖正而不至焉者。昭昭然白黑分矣。而務去之。乃徐有得也。當其取於心而注於手也。汨汨然來矣。其觀於人也。笑之則以爲喜。譽之則以爲憂。以其猶有人之說者存也。如是者亦有年。然後浩乎其沛然矣。吾又懼其雜也。迎而距之。平心而察之。其皆醇也。然後肆焉。雖然不可以不養也。行之乎仁義之途。游之乎詩書之源。無迷其途。無絕其源。終吾身而已矣。氣水也。言浮物也。水大而物之浮者。大小畢浮。氣之與言。猶是也。氣盛則言之短長。與聲之高下者皆宜。雖如是。其敢自謂幾於成乎。雖幾於成。其用於人也。奚取焉。雖然待用於人者。其肖於器耶。用與舍屬之人。君子則不然。處心有道。行己有方。用則施諸人。舍則傳諸其徒。垂諸文而爲後世法。如是者其亦足樂乎。其無足樂也。有志乎古者希矣。志乎古必遺乎今。吾誠樂而悲之。亟稱其人。所以勸之。非敢褒其可褒。而貶其可貶也。問於愈者多矣。念生之言不志乎利。聊相爲言之。

是昌黎金鍼度人處。中間氣水也。言浮物也一段。最揭示奧祕。無復餘蘊。千

言萬語。不出于此。而人不能學者。以其氣不及昌黎耳。○兩意雙敲一短一長。以取姿致。是昌黎慣家。○篇中歷叙己平生。卽了前勿求速成。勿近勢利數語之案。以其蕩漾轉接處多。故覺不可捉摸耳。

〔微。唐柳先生集作徵。〕

## 與蕭翰林俛書。　柳州

思謙兄足下。昨祁縣王師範過永州。爲僕言。得張左司書。道思謙蹇然有當官之心。乃誠助太平者也。僕聞之喜甚。然微王生之說。僕豈不素知耶。所喜者。耳與心叶。果於不謬焉耳。僕不幸。嚮者進當臲卼不安之勢。平居閉門。口舌無數。況又有久與游者。乃岌岌而操其間。其求進而退者。皆聚爲仇怨。造作粉飾。蔓延益肆。非的然昭晰。自斷於內。則孰能了僕於冥冥之間哉。然僕當時年二十三。甚少。自御史裏行。得禮部員外郎。超取顯美。欲免世之求進者。怪怒媢嫉。其可得乎。凡人皆欲自達。僕先得顯處。才不能踰同列。名不能壓當世。世之怒僕宜也。與罪人交十年。官又以是進。辱在附會。聖朝弘大。貶黜甚薄。不能塞衆人

「讐。唐柳先生集作言。仇作讎。」
「怨。唐柳先生集作恩。」
○沈云。帶魏晉人氣息。沈評大是。
○似自李陵答蘇武書來。而直敍實況。故自然不腐。
○柳處患難。猶能有以安之。使昌黎遇之。未知能如此否。觀其干求太急。恐却不能然。

之怒。謗語轉移。囂囂嗷嗷。漸成怪民。飾智求仕者。更讐僕。以悅仇人之心。日爲新奇。務相喜可。自以速援引之路。而僕輩坐益困辱。萬罪橫生。不知其端。伏自思念。過大怨甚。乃以致此。悲夫。人生少得六七十者。今已三十七矣。長來覺日月益促。歲歲更甚。大都不過數十寒暑。則無此身矣。是非榮辱。又何足道。云云不已。秖益爲罪。兄知之。勿爲他人言也。居蠻夷中久。慣習炎毒。昏眊重膇。意以爲常。忽遇北風晨起。薄寒中體。則肌革慘懍。毛髮蕭條。瞿然注視。怵惕以爲異候。意緖殆非中國人。楚越間聲音特異。鴃舌啅譟。今聽之怡然不怪。已與爲類矣。家生小童。皆自然曉曉。晝夜滿耳。聞北人言。則啼呼走匿。雖病夫亦怛然駭之。出門見適州閭市井者。其十有八九杖而後興。自料居此尙復幾何。豈可更不知止。言說長短。重爲一世非笑哉。讀周易困卦。至有言不信。尙口乃窮也。往復益喜曰。嗟乎余雖家置一喙以自稱道。詬益甚耳。用是更樂瘖默。思與木石爲徒。不復致意。今天子興教化。定邪正。海內皆欣欣怡愉。而僕與四五子者獨淪陷如此。豈非命歟。命乃天也。非云云者所制。余又何恨。獨喜思遠之徒遺詩

○頓挫起伏。絕妙節奏。八家中未見其比。

○妙喩。雖東坡先生當斂衽也。

〔置。唐柳先生集作買。採作采。〕

言道。道之行。物得其利。僕誠有罪。然豈不在一物之數耶。身被之。目視之足矣。何必攘袂用力。而矜自我出耶。果矜之。又非道也。事誠如此。然居理平之世。終身爲頑人之類。猶有少恥。未能盡忘。儻因賊平慶賞之際。得以見白。使受天澤餘潤。雖朽株敗腐。不能生植。猶足蒸出芝菌。以爲瑞物。一釋廢錮。移數縣之地。則世必曰罪稍解矣。然後收召魂魄。置土一廛。爲耕甿。朝夕歌謠。使成文章。庶木鐸者採取獻之法官。增聖唐大雅之什。雖不得位。亦不虛爲太平之人矣。此在望外。然終欲爲兄一言焉。宗元再拜。

此篇及寄許孟容書。分疏開陳處。千載下讀之。足見肝膈。爲之涕下。小人不欲成人美者。猶謂其飾非文過。妄加詆呵。何哉。

## 捕蛇者說。　柳州

永州之野產異蛇。黑質而白章。觸草木盡死。以齧人。無禦之者。然得而腊之。以爲餌。可以已大風攣踠瘻癘。去死肌。殺三蟲。其始太醫以王命聚之。歲賦其二。

〔於。唐柳先生集作于。〕

○汪然出涕句使人欲哭。

〔則。唐柳先生集作而。〕

○一篇色彩在此數語。

募有能捕之者。當其租入。永之人爭奔走焉。有蔣氏者。專其利三世矣。問之則曰。吾祖死於是。吾父死於是。今吾嗣爲之十二年。幾死者數矣。言之貌若甚慼者。余悲之。且曰。若毒之乎。余將告於蒞事者。更若役。復若賦。則何如。蔣氏大戚。汪然出涕曰。君將哀而生之乎。則吾斯役之不幸。未若復吾賦不幸之甚也。嚮吾不爲斯役。則久已病矣。自吾氏三世居是鄉。積於今六十歲矣。而鄉鄰之生日蹙。殫其地之出。竭其廬之入。號呼而轉徙。餓渴而頓踣。觸風雨。犯寒暑。呼噓毒癘。往往而死者相藉也。曩與吾祖居者。今其室十無一焉。與吾父居者。今其室十無二三焉。與吾居十二年者。今其室十無四五焉。非死則徙爾。而吾以捕蛇獨存。悍吏之來吾鄉。叫囂乎東西。隳突乎南北。譁然而駭者。雖雞狗不得寧焉。吾恂恂而起。視其缶。而吾蛇尚存。則弛然而臥。謹食之。時而獻焉。退而甘食其土之有。以盡吾齒。蓋一歲之犯死者二焉。其餘則熙熙而樂。豈若吾鄉鄰之旦旦有是哉。今雖死乎此。比吾鄉鄰之死。則已後矣。又安敢毒耶。余聞而愈悲。孔子曰。苛政猛於虎也。吾嘗疑乎是。今以蔣氏觀之。猶信。嗚呼。孰知賦斂之毒

〔東坡事略作日喩說。〕

〔槃。東坡事略作盤。習作達。燭作鍾。孔子。作子夏。〕

有甚是蛇者乎。故爲之說。以俟夫觀人風者得焉。

結體古雅。鍊句蒼老。晩近劉伯溫賣柑者說類視此。何啻傖父面目。

## 日喩。　東坡

生而眇者不識日。問之有目者。或告之曰。日之狀如銅槃。扣槃而得其聲。他日聞鐘。以爲日也。或告之曰。日之光如燭。捫燭而得其形。他日揣籥。以爲日也。日之與鐘籥亦遠矣。而眇者不知其異。以其未嘗見。而求之人也。道之難見也。甚於日。而人之未習也。無以異於眇。達者告之。雖有巧譬善導。亦無以過於槃與燭也。自槃而之鐘。自燭而之籥。轉而相之。豈有既乎。故世之言道者。或卽其所見而名之。或莫之見而意之。皆求道之過也。然則道卒不可求歟。蘇子曰。道可致而不可求。何謂致。孫武曰。善戰者致人。不致於人。孔子曰。百工居肆。以成其事。君子學以致其道。莫之求而自至。斯以爲致也歟。南方多沒人。日與水居也。七歲而能涉。十歲而能浮。十五而能沒矣。夫沒者豈苟然哉。必將有得於水之

道者。日與水居。則十五而得其道。生不識水。則雖壯見舟而畏之。故北方之勇者。問於沒人。而求其所以沒。以其言試之河。未有不溺者也。故凡不學而務求道。皆北方之學沒者也。昔者以聲律取士。士雖學而不志於道。今也以經術取士。士知求道。而不務學。渤海吳君彥律。有志於學者也。方求舉於禮部。作日喩以告之。

○於無用處著精采。是文章家手段。

〔驛。居士集作課。於作于。沒作淪。〕

## 集古錄目序　　六一

物常聚於所好。而常得於有力之彊。有力而不好。好之而無力。雖近且易。有不能致之。象犀虎豹。蠻夷山海殺人之獸。然其齒角皮革。可聚而有也。玉出崑崙流沙萬里之外。經十餘驛。乃至乎中國。珠出南海。常生深淵。採者腰絙而入水。形色非人。往往不出。則下飽蛟魚。金礦於山。鑿深而穴遠。篝火餱糧而後進。其崖崩窟塞。則遂葬於其中者。率常數十百人。其遠且難而又多死禍。常如此。然而金玉珠璣世常兼聚而有也。凡物好之而有力則無不至也。湯盤孔鼎。岐陽

○至此知前面無用語皆有用。

○力雖未足一語不費力。絕妙。[嶧。居士集作澤。傳作轉。]

○末尾常山蛇勢。

之鼓。岱山鄒嶧會稽之刻石。與夫漢魏已來聖君賢士桓碑彝器銘詩序記。下至古文・籀・篆・分・隸諸家之字書。皆三代以來至寶。怪奇偉麗工妙可喜之物。其去人不遠。其取之無禍。然而風霜兵火。湮淪磨滅。散棄於山崖墟莽之間。未嘗收拾者。由世之好者少也。幸而有好之者。又其力或不足。故僅得其一二。而不能使其聚也。夫力莫如好。好莫如一。予性顓而嗜古。凡世人之所貪者。皆無欲於其間。故得一其所好於斯。好之已篤。則力雖未足。猶能致之。故上自周穆王以來。下更秦漢隋唐五代。外至四海九州。名山大嶧。窮崖絕谷。荒林破塚。神僊鬼物。詭怪所傳。莫不皆有。以爲集古錄。以謂傳寫失眞。故因其石本。軸而藏之。有卷帙次第。而無時世之先後。蓋其取多而未已。故隨其所得而錄之。又以謂。聚多而終必散。乃撮其大要。別爲錄目。因并載夫可與史傳正其闕謬者。以傳後學。庶益於多聞。或譏予曰。物多則其勢難聚。聚久而無不散。何必區區於是哉。予對曰。足吾所好。玩而老焉可也。象犀金玉之聚。其能果不散乎。予固未能以此而易彼也。

「居士集無之字。」

○物聚於所好。一語。與窮者而後工類。皆不朽之言。後人皆拾此殘膏賸馥耳。

「悅。居士集作說。於作乎。」

## 梅聖兪詩集序。　六一

予聞世謂詩人少達而多窮。夫豈然哉。蓋世所傳詩者。多出於古窮人之辭也。凡士之蘊其所有。而不得施於世者。多喜自放於山巓水涯之外。見蟲魚草木。風雲鳥獸之狀類。往往探其奇怪。內有憂思感憤之鬱積。其興於怨刺。以道羇臣寡婦之所歎。而寫人情之難言。蓋愈窮則愈工。然則非詩之能窮人。殆窮者而後工也。予友梅聖兪。少以蔭補爲吏。累舉進士。輒抑於有司。困於州縣。凡十餘年。年今五十。猶從辟書。爲人之佐。鬱其所蓄。不得奮見於事業。其家宛陵。幼習於詩。自爲童子。出語已驚其長老。既長。學乎六經仁義之說。其爲文章。簡古純粹。不求苟悅於世。世之人徒知其詩而已。然時無賢愚。語詩者必求之聖兪。聖兪亦自以其不得志者。樂於詩而發之。故其平生所作。於詩尤多。世既知之矣。而未有薦於上者。昔王文康公嘗見而歎曰。二百年無此作矣。雖知之深。亦不果薦也。若使其幸得用於朝廷。作爲雅頌。以歌詠大宋之功德。薦之清廟。而

〇此句不唯照應冒頭意。其窮之久而將老一句。筆底有淚。

追商周魯頌之作者。豈不偉歟。奈何使其老不得志而爲窮者之詩。乃徒發於蟲魚物類羈愁感歎之言。世徒喜其工。不知其窮之久而將老也。可不惜哉。聖兪詩既多。不自收拾。其妻之兄子謝景初。懼其多而易失也。取其自洛陽至於吳興已來所作。次爲十卷。予嘗嗜聖兪詩。而患不能盡得之。遽喜謝氏之能類次也。輒序而藏之。其後十五年。聖兪以疾卒於京師。余既哭而銘之。因索於其家。得其遺稿千餘篇。幷舊所藏。掇其尤者六百七十七篇。爲一十五卷。嗚呼。吾於聖兪詩。論之詳矣。故不復云。

沈云。玩今年五十句。知序爲生時作也。結處其後十五年。聖兪卒於京師云云。知他時補書於序後也。細玩自明。

謝選拾遺卷之一終

〔側。昌黎集作則。游作臨。報作執。於作于。〕

# 謝選拾遺卷之二

拔字集

## 新修滕王閣記。

昌黎

愈少時。側聞江南多游觀之美。而滕王閣獨爲第一。有瑰偉絶特之稱。及得三王所爲序賦記等。壯其文辭。益欲往一觀而讀之。以忘吾憂。係官於朝。願莫之遂。十四年以言事斥守揭陽。便道取疾。以至海上。又不得過南昌而觀所謂滕王閣者。其冬以天子進大號。加恩區內。移刺袁州。袁於南昌爲屬邑。私喜幸自語以爲、當得躬詣大府。受約束於下報事。及其無事且還。儻得一至其處。竊寄目償所願焉。至州之七月。詔以中書舍人太原王公爲御史中丞。觀察江南西道。洪江饒虔吉信撫袁。悉屬治所。八州之人。前所不便。及所願欲而不得者。公至之日。皆罷行之。大者驛聞。小者立變。春生秋殺。陽開陰閉。令修於庭戶。數日之間。而人自得於湖山千里之外。吾雖欲出意見。論利害。聽命於幕下。而吾州

○是兩扇合拍法。又是兩層啣接法。妙妙。

○前面是賓。故兩點二出滕王閣字一。後段是主。故不三復點二出閣名一。

[於。昌黎集作レ于。]

乃無下一事可二假而行一者上。又安得下捨二己所一事以勤中備人上。則滕王閣又無下因而至二焉矣。其歲九月。人吏浹和。公與二監軍使一燕二於此閣一。文武賓士皆與在レ席。酒半合レ辭言曰。此屋不レ修且壞。前公爲レ從二事此邦一。適理二新之一。公所レ爲文實書在レ壁。今三十年而公來爲二邦伯一。適及二期月一。公又來燕二於此一。公烏得レ無レ情哉。公應曰諾。於レ是棟楹梁桷板檻之腐黑橈折者。蓋瓦級甎之破缺者。赤白之漫漶不レ鮮者。治レ之則已。無レ侈二前人一。無レ廢二後觀一。工既訖レ功。公以レ衆飲。而以レ書命レ愈曰。子其爲レ我記レ之。愈既以レ未レ得レ造レ觀爲レ歎。竊喜レ載二名其上一。詞列二三王之次一。有二榮耀一焉。乃不レ辭而承二公命一。其江山之好。登望之樂。雖レ老矣。如獲レ從レ公游。尙能爲レ公賦レ之。

未レ造レ觀而爲二之記一。自是難レ措レ手。乃因二未レ造レ觀處一生二景情一。結處亦因レ此。悠然不盡文情・筆致。使二人一讀十起。後人皆借二此殘香賸馥一。如二東坡達景樓記一。學レ之而不レ至者○終不レ脫二記文正體一。通篇無二一閑語一。又無二一句議論習氣一。宋諸家洗レ臟換レ骨。亦不レ能レ到二此地位一。○閣上所レ眺不レ可レ不レ記。然不レ獲レ造レ觀。故通篇以二此命意一。至二末段云云一。是自主意。沈云餘波。非也。

〔東坡事略作李君山房記。〕

○惟書乎三字。收上生下。一字。千金。

〔東坡事略。史下有老字。經下有諸字。以作已。便作編。〕

○引三典。尤切於書。妙在簡捷。是用典之法也。使曾子固爲之。則數百言未已。

○上言少書。此言多書。以何哉一頓折。故對股不方板。

## 李氏山房藏書記　　東坡

象犀珠玉怪珍之物。有悅於人之耳目。而不適於用。金石草木。絲麻五穀六材。有適於用。而用之則弊。取之則竭。悅於人之耳目。而適於用。用之而不弊。取之而不竭。賢不肖之所得。各因其才。仁智之所見。各隨其分。才分不同。而求無不獲者。惟書乎。自孔子聖人。其學必始於觀書。當是時。惟周之柱下史聃爲多書。韓宣子適魯。然後見易象與魯春秋。季札聘於上國。然後得聞詩之風雅頌。而楚獨有左史倚相。能讀三墳五典八索九邱。士之生於是時。得見六經。蓋無幾。其學可謂難矣。而皆習於禮樂。深於道德。非後世君子所及。自秦漢以來。作者益衆。紙與字畫。日趨於簡便。而書益多。世莫不有。然學者益以苟簡何哉。余猶及見老儒先生。自言。其少時欲求史記漢書。而不可得。幸而得之。皆手自書。日夜誦讀。惟恐不及。近歲市人轉相摹刻。諸子百家之書。日傳萬紙。學者之於書。多且易致如此。其文詞學術。當倍蓰於昔人。而後生科擧之士。皆束書不觀。游

○余猶及見云云。將及今事。故擡出改端。文有波折。其實一段耳。

○又以何也結之。不說破其故。留下文餘地。此文品也。

[以。東坡事略作已。所故。作故所。]

○而書固自如也云云一語。忽拗折。歸入篇首之意。此仁者之心也一語。結了悠然。有餘韻。他人必不能如此結了。此文品也。

○此段一篇餘波。而風韻委致。全在於此。

談無根。此又何也。余友李公擇。少時讀書於廬山五老峰下。白石菴之僧舍。公擇既去。而山中之人思之。指其所居。爲李氏山房。藏書凡九千餘卷。公擇既以涉其流。探其源。採剝其華實。而咀嚼其膏味。以爲己有。發於文詞。見於行事。以聞名於當世矣。而書固自如也。未嘗少損。將以遺來者。供其無窮之求。而各足其才分之所當得。是以不藏於家。而藏於其所故居之僧舍。此仁者之心也。余既衰且病。無所用於世。惟得數年之間。盡讀其所未見之書。而廬山固所願游而不得者。蓋將老焉。盡發公擇之藏。拾其餘棄。以自補。庶有益乎。而公擇求余文以爲記。乃爲一言。使來者知昔之君子見書之難。而今之學者。有書而不讀。爲可惜也。

東坡諸記中。此篇最嚴整可法。○自歐公金石錄序來。而彼婉宕。此緊嚴。○惟書乎句以前一意。以後至此又何也句。又一意。此仁者之心也句以前。與庶有益乎句以前。二段各一意。皆照應篇首而題腹論構之意獨缺。收拾故於末尾兩行補足之。文法周匝。無滲漉。又見表裏變化處。

〔臺。東坡事略作國。最麗作麗山。履作屨。蒼作危。荒草野田作荒田野草。〕
○臺下脫因字。
○起手自意外。落筆突兀之甚。
○儲在陸評此段。爲宋派先。獲我心。
○形容妙。與下山踴躍而出。皆非于膽不能言。直仙人口吻。
○括出全題於此。不泛學文者所當知也。
○一篇生色在此。他日作

## 凌虛臺記　　東坡

臺於南山之下。宜若起居飲食與山接也。四方之山。莫高於終南。而都邑之最麗者。莫近於扶風。以至近求最高。其勢必得。而太守之居。未嘗知有山焉。雖非事之所以損益。而物理有不當然者。此凌虛之所爲築也。方其未築也。太守陳公杖履逍遙於其下。見山之出於林木之上者。纍纍如人之旅行於牆外。而見其髻也。曰是必有異。使工鑿其前爲方池。以其土築臺。高出於屋之簷而止。然後人之至於其上者。怳然不知臺之高。而以爲山之踊躍奮迅而出也。公曰。是宜名凌虛。以告其從事蘇軾。而求文以爲記。軾復於公曰。物之廢興成毀。不可得而知也。昔者荒草野田。霜露之所蒙翳。狐虺之所竄伏。方是時。豈知有凌虛臺耶。廢興成毀。相尋於無窮。則臺之復爲荒草野田。皆不可知也。嘗試與公登臺。而望其東。則秦穆之祈年・橐泉也。其南則漢武之長楊・五柞。而其北則隋之仁壽。唐之九成也。計其一時之盛。宏傑詭麗。堅固而不可動者。豈特百倍於臺

超然臺記。亦有類此一段。蓋自史遷周武王營洛語來。子瞻平生所喜爾。

○而況於此臺歟一句。頓落歸入全題。妙又赴前語勢。冉以而況成章。

○世有足恃者。不說破。妙。有千里烟波之致。況曰。三不朽。倫父語耳。

［屋。東坡事略作瓦。］

而已哉。然而數世之後、欲求其髣髴。而破屋●頹垣。無復存者。既已化爲禾黍荊棘丘墟隴畝矣。而況於此臺歟。夫臺猶不足恃以長久。而況於人事之得喪。忽往而忽來者歟。而或者欲以夸世而自足。則過矣。蓋世有足恃者。而不在乎臺之存亡也。既已言於公。退而爲之記。

此篇自歐公峴山亭記眞州東園記等立思、而別出一机柚。駕上之。子瞻此時二十七八、而波瀾老成如此。宜乎。老歐畏之。所謂自今廿餘年。人不復說老夫者。眞矣。

## 畫舫齋記　六一

予至滑之三月、卽其署東偏之室。治爲燕私之居。而名曰畫舫齋。齋廣一室。其深七室。以戸相通。凡入予室者。如入乎舟中。其溫室之奧。則穴其上以爲明。其虛室之疏以達。則欄檻其兩旁。以爲坐立之倚。凡偃休於吾齋者、又如偃休乎舟中。山石崷崒。佳花美木之植列於兩簷之外。又似汎乎中流。而左山右林之

〔居士集。舟下有二之字。〕

相映。皆可愛者。故因以舟名焉。周易之象。至於履險蹈難。必曰涉川。蓋舟之爲物。所以濟險難。而非安居之用也。今予治齋於署。以爲燕安。而反以舟名之。豈不戾哉。矧予又嘗以罪謫。走江湖間。自汴絶淮。浮于大江。至于巴峽。轉而以入于漢沔。計其水行。幾萬餘里。其羇窮不幸。而卒遭風波之恐。往往叫號神明。以脫須臾之命者數矣。當其恐時。顧視前後。凡舟之人。非爲商賈。則必仕官。因竊自歎以謂。非冒利與不得已者。孰肯至是哉。賴天之惠。全活其生。今得除去宿負。列官于朝。以來是州。飽廩食而安署居。追思曩時山川所歷。舟檝之危。蛟鼉之出沒。波濤之洶欻。宜其寢驚而夢愕。而乃忘其險阻。猶以舟名其齋。豈眞樂於舟居者耶。然予聞。古之人有逃世遠去江湖之上。終身而不肯反者。其必有所樂也。苟非冒利於險。有罪而不得已。使順風恬波。傲然枕席之上。一日而千里。則舟行豈不樂哉。顧予誠有所未暇。而舫者宴嬉之舟也。姑以名予齋。奚曰不宜。予友蔡君謨。善大書。頗怪偉。將乞其大字以題於楹。懼其疑予之所以名齋者。故具以云。又因以置于壁。

○起處自眺望敘起。大是有色。

〔流風。居士集作風流。〕

○特自待者一轉。是歐公慣用家法。八家中獨擅風骨者。

## 峴山亭記。　六一

峴山臨漢上。望之隱然。蓋諸山之小者。而其名特著於荊州者。豈非以其人哉。其人謂誰。羊祜叔子。杜預元凱是已。方晉與吳以兵爭。常倚荊州以爲重。而二子相繼於此。遂以平吳。而成晉業。其功烈已蓋於當世矣。至於流風餘韻。藹然被於江漢之間者。至今人猶思之。而於思叔子也尤深。蓋元凱以其功而叔子以其仁。二子所爲雖不同。然皆足以垂於不朽。予頗疑其反自汲汲於後世之名者何哉。傳言叔子嘗登茲山。慨然語其屬。以謂此山常在。而前世之士皆已湮滅於無聞。因自顧而悲傷。然獨不知茲山待己而名著也。元凱銘功於二石。一置茲山之上。一投漢水之淵。是知陵谷有變。而不知石有時而磨滅也。豈皆自喜其名之甚。而過爲無窮之慮歟。將自待者厚。而所思者遠歟。山故有亭。世傳以爲叔子之所遊止也。故其屢廢而復興者。由後世慕其名。而思其人者多也。熙寧元年。余友人史君中煇。以光祿卿來守襄陽。明年。因亭之舊廣而新之

「於。居士集作「予。」

○終亦以景色結之。與起處相應。

○樂字通篇神理。

既周以回廊之壯。又大其後軒。使與亭相稱。君知名當世。所至有聲。襄人安其政。而樂從其遊也。因以君之官。名其後軒爲光祿堂。又欲紀其事於石。以與叔子元凱之名。並傳於久遠。君皆不能止也。乃來以記屬於予。余謂。君知慕叔子之風。而襲其遺跡。則其爲人與其志之所存者可知矣。襄人愛君而安樂之如此。則君之爲政於襄者。又可知矣。此襄人之所欲書也。若其左右山川之勝勢。與夫草木雲煙之杳靄。出沒於空曠有無之間。而可以備詩人之登高。寫離騷之極目者。宜其覽者自得之。至於亭屢廢興。或自有記。或不必究其詳者。皆不復道也。

## 超然臺記。　東坡

凡物皆有可觀。苟有可觀。皆有可樂。非必怪奇偉麗者也。餔糟啜漓。皆可以醉。果蔬草木。皆可以飽。推此類也。吾安往而不樂。夫所爲求福而辭禍者。以福可喜而禍可悲也。人之所欲無窮。而物之可以足吾欲者有盡。美惡之辨戰乎中。

○是坡翁一生本領。故言之。玲瓏透徹如此。

〔東坡事略無挾字。〕

○妙論。

〔烏。東坡事略作焉。予作余。庇作蔽。行作適。〕

○見非故意構成者。

〔完。東坡事略作全。桓作威。〕

而去取之擇、交乎前。則可樂者常少。而可悲者常多。是謂求禍而辭福。夫求禍
而辭福。豈人之情也哉。物有以蓋之矣。彼游於物之內。而不遊於物之外。物非
有大小也。自其內而觀之。未有不高且大者也。彼挾●其高大以臨我。則我常眩
亂反覆。如隙中之觀鬭。又烏●知勝負之所在。是以美惡橫生。而憂樂出焉。可不
大哀乎。予●自錢塘移守膠西。釋舟楫之安。而服車馬之勞。去雕牆之美。而庇●采
椽之居。背湖山之觀。而行●桑麻之野。始至之日。歲比不登。盜賊滿野。獄訟充斥。
而齋廚索然。日食杞菊。人固疑予之不樂也。處之期年。而貌加豐。髮之白者。日
以反黑。予既樂其風俗之淳。而其吏民亦安予之拙也。於是治其園囿。潔其庭
宇。伐安邱高密之木。以脩補破敗。爲苟完●之計。而園之北。因城以爲臺者舊矣。
稍葺而新之。時相與登覽。放意肆志焉。南望馬耳常山。出沒隱見。若近若遠。庶
幾有隱君子乎。而其東則盧山。秦人盧敖之所從遁也。西望穆陵。隱然如城郭。
師尙父齊桓●公之遺烈。猶有存者。北俯濰水。慨然太息。思淮陰之功。而弔其不
終。臺高而安。深而明。夏涼而冬溫。雨雪之朝。風月之夕。予未嘗不在。客未嘗不

○挽到樂字上。

〔湘沅。欒城集作沅湘。〕

○起法簡老。韓柳不過。

○略敍形勢。後遂點題。敍事兩層。頂題而出。此法尤佳。

〔馳騖。欒城集作驟。〕

從擷園蔬、取池魚、釀秫酒、瀹脫粟而食之、曰樂哉遊乎。方是時予弟子由適在濟南。聞而賦之。且名其臺曰超然。以見予之無所往不樂者。蓋游於物之外也。

極閑瀞之意。極偉麗之文。○登樓所眺、乃見超然意。鋪敍宏麗。有韻有調。讀之萬遍不厭。節奏全在乎而其三字上。○至最尾乃點題。然後兩句掉尾。通體皆動。

## 黃州快哉亭記　　潁濱

江出西陵。始得平地。其流奔放肆大。南合湘沅。北合漢沔。其勢益張。至於赤壁之下。波流浸灌。與海相若。清河張君夢得。謫居齊安。卽其廬之西南爲亭。以覽觀江流之勝。而余兄子瞻名之曰快哉。蓋亭之所見。南北百里。東西一舍。濤瀾洶涌、風雲開闔。晝則舟楫出沒於其前。夜則魚龍悲嘯於其下。變化倏忽。動心駭目。不可久視。今乃得玩之几席之上。舉目而足。西望武昌諸山。岡陵起伏。草木行列。煙消日出。漁夫樵父之舍。皆可指數。此其所以爲快哉者也。至於長洲之濱。故城之墟。曹孟德孫仲謀之所睥睨。周瑜陸遜之所馳騖。其流風遺跡。亦

〔雄雌〕欒城集作雌雄。收作竊。
○夫風以下至而風何與焉數句。一篇根柢。語氣酷肖乃兄。
○而況。不然。以反振見勢。而後以烏字哉字掉尾。文字雄麗。與題相稱。
〔欒城集無哉字。〕

足以稱快世俗。昔楚襄王。從宋玉景差於蘭臺之宮。有風颯然至者。王披襟當之。曰快哉此風。寡人所與庶人共者耶。宋玉曰。此獨大王之雄風耳。庶人安得共之。玉之言蓋有諷焉。夫風無雄雌之異。而人有遇不遇之變。楚王之所以爲樂。與庶人之所以爲憂。此則人之變也。而風何與焉。士生於世。使其中不自得。將何往而非病。使其中坦然。不以物傷性。將何適而非快。今張君不以謫爲患。收會計之餘功。而自放山水之間。此其中宜有以過人者。將蓬戶甕牖無所不快。而況乎濯長江之清流。挹西山之白雲。窮耳目之勝。以自適也哉。不然。連山絶壑。長林古木。振之以清風。照之以明月。此皆騷人思士之所以悲傷憔悴而不能勝者。烏覩其爲快哉也哉。

范文正岳陽樓記。雖古今所稱。而視此篇。工拙天淵。無他。板與活。春與靈異焉耳。

謝選拾遺卷之二終

於字集

## 游黃溪記

柳州

北之晉。西適豳。東極吳。南至楚越之交。其間名山水而州者以百數。永最善。環永之治百里。北至於浯溪。西至於湘之源。南至於瀧泉。東至於黃溪東屯。其間名山水而村者以百數。黃溪最善。黃溪拒州治七十里。由東屯而行六百步。至黃神祠。祠之上。兩山牆立。丹碧之華葉。駢植與山升降。其缺者爲崖峭巖窟。水之中皆小石平布。黃神之上。揭水八十步。至初潭。最奇麗。殆不可狀。其略若剖大甕。側立千尺。溪水卽焉。黛蓄膏渟。來若白虹。沈沈無聲。有魚數百尾。方來會石下。南去又行百步。至第二潭。石皆巍然臨峻流。若頦頷斷齶。其下大石離列。可坐飲食。有鳥赤首烏翼。大如鵠。方東嚮立。自是又南數里。地皆一狀。樹益壯。石益瘦。水鳴皆鏘然。又南一里。至大冥之川。山舒水緩。有土田。始黃神爲人時。

〔而。唐柳先生集作南。〕

〔唐柳先生集立下有如字。〕

○沈沈無聲。鏘然。山舒水緩等。皆筆有造化。

〔驗。唐柳先生集作驗。〕

〔惴惴。唐柳先生集作惴慄。〕

居其地。傳者曰、黃神王姓。莽之世也、莽既死。神更號黃氏。逃來擇其深峭者潛焉。始莽嘗曰。余黃虞之後也、故號其女曰黃皇室主。黃與王聲相邇。而又有本。其所以傳言者益驗。神既居是。民咸安焉。以爲有道。死乃俎豆之。爲立祠後稍徙近乎民。今祠在山陰溪水上。元和八年五月十六日。既歸爲記。以啓後之好游者。

韓作柳碑銘曰。益務記覽作詞章。爲深博無涯涘而自放於山水間。山水與柳之文相發。而柳文中狀山水者、最獨出古今。不知其所源由蓋獨造創獲也。〇此文起處。未免襲史記。至後十記。則飄然神來。不見所由矣。

## 始得西山宴游記　　柳州

自余爲僇人居是州。恆惴惴。其隟也則施施而行。漫漫而遊。日與其徒上高山。入深林。窮迴溪。幽泉怪石。無遠不到。到則披草而坐。傾壺而醉。醉則更相枕以臥。意有所極。夢亦同趣。覺而起。起而歸。以爲凡是州之山有異態者皆我有也

○高下之勢以下九句。古今詩文敍遠望臨瞰之狀者。莫盡於此。莫妙於此。

○蒼然暮色。至無所見云云。亦高處情景。與前數句相映爲致。非閑語也。

「典、唐柳先生集作顚。」

「唐柳先生集無一字。」

而未始知西山之怪特。今年九月二十八日。因坐法華西亭。望西山。始指異之。遂命僕過湘江。緣染溪。斫榛莽。焚茅茷。窮山之高而止。攀援而登。箕踞而遨。則凡數州之土壤。皆在袵席之下。其高下之勢。岈然洼然。若垤若穴。尺寸千里。攢蹙累積。莫得遯隱。縈青繚白。外與天際。四望如一。然後知是山之特出。不與培塿爲類。悠悠乎與灝氣俱。而莫得其涯。洋洋乎與造物者游。而不知其所窮。引觴滿酌。頽然就醉。不知日之入。蒼然暮色。自遠而至。至無所見。而猶不欲歸。心凝形釋。與萬化冥合。然後知吾嚮之未始游。游於是乎始。故爲之文以志。是歲元和四年也。

山無他奇。唯其登望佳耳。故於所望景勝上著力。與他記自別。

## 鈷鉧潭記

鈷鉧潭在西山西。其始蓋冉水自南奔注。抵山石。屈折東流。其典委勢峻。盪擊益暴。齧其涯。故旁廣而中深。畢至石乃止。流沫成輪。然後徐行。其淸而平者。且十畝。有樹環焉。有泉懸焉。其上有居者。以予之亟游也。一旦款門來告曰。不勝

○則字用法。自史記來。○與字。於字亦妙。

［狀。唐柳先生集作壯。於作乎。］

○凡筆必曰土中皆石。或曰石上有土而已。一經柳州之筆。乃如此奇妙。

官租私劵之委積。既芟山而更居。願以潭上田。貿財以緩禍。予樂而如其言。則崇其臺。延其檻。行其泉於高者。墜之潭。有聲潨然。尤與中秋觀月爲宜。於以見天之高氣之迥。孰使予樂居夷而忘故土者。非茲潭也歟

以下七篇。乃柳州文中神品。空前絶後者。○沈云。句句剪削。乃有此詣。稍一放筆。便平常語矣。○沈評得之。然徒見其剪削。不見其筆墨之淸。不善觀此文者也。

## 鈷鉧潭西小邱記

得西山後八日。尋山口西北道二百步。又得鈷鉧潭。西二十五步。當湍而浚者爲魚梁。梁之上有邱焉。生竹樹。其石之突怒偃蹇。負土而出。爭爲奇狀者。殆不可數。其嶔然相累而下者。若牛馬之飮於溪。其衝然角列而上者。若熊羆之登於山。邱之小不能一畝。可以籠而有之。問其主。曰。唐氏之棄地。貨而不售。問其價。曰。止四百。余憐而售之。李深源元克己時同遊。皆大喜。出自意外。卽更取器用。剷刈穢草。伐去惡木。烈火而焚之。嘉木立。美竹露。奇石顯。由其中以望則山

［伎。唐柳先生集作技。］

○起法在諸記中。此爲最妙。

［全。唐柳先生集作泉。］

之高。雲之浮。溪之流。鳥獸魚之遨遊。舉熙熙然廻巧獻伎。以效茲邱之下。枕席而臥。則清泠之狀與目謀。瀯瀯之聲與耳謀。悠然而虛者與神謀。淵然而靜者與心謀。不匝旬而得異地者二。雖古好事之士。或未能至焉。噫以茲邱之勝。致之澧鎬鄠杜。則貴游之士。爭買者。日增千金。而愈不可得。今棄是州也。農夫漁父。過而陋之。賈四百。連歲不能售。而我與深源克己。獨喜得之。是其果有遭乎。書於石。所以賀茲邱之遭也。

## 至小邱西小石潭記

從小邱西行百二十步。隔篁竹。聞水聲。如鳴佩環。心樂之。伐竹取道。下見小潭。水尤清冽。全石以爲底。近岸卷石底以出。爲坻。爲嶼。爲嵁。爲巖。青樹翠蔓。蒙絡搖綴。參差披拂。潭中魚可百許頭。皆若空遊無所依。日光下徹。影布石上。怡然不動。俶爾遠逝。往來翕忽。似與遊者相樂。潭西南而望。斗折蛇行。明滅可見。其岸勢犬牙差互。不可知其源。坐潭上。四面竹樹環合。寂寥無人。凄神寒骨。悄愴幽邃。以其境過清。不可久居。乃記之而去。同遊者。吳武陵龔古。余弟宗玄。隷而

〔奇。唐柳先生集作其。〕○三都二京。連篇累牘、不如此數十字。采色絢爛動人。○不敢專也云云。是其所以記耳。與前渴清不可久居同結了。又點出地名名義。無一篇不變化。

從者、崔氏二小生。曰恕己。曰奉壹。

摩詰詩中有畫、余曰。恐不如柳州文中有畫也。○言所以記之由。而通篇精神亦動。結法瀟洒、開後人法門。

## 袁家渴記

由冉溪西南。水行十里、山水之可取者五、莫若鈷鉧潭。由溪口而西。陸行可取者八九、莫若西山。由朝陽巖東南。水行至蕪江、可取者三、莫若袁家渴。皆永中幽麗奇處也、楚越之間。方言謂水之反流者、為渴、音若衣褐之褐、渴上與南館高嶂合、下與百家瀨合。其中重洲小溪。澄潭淺渚。間廁曲折。平者深黑、峻者沸白。舟行若窮。忽又無際。有小山出水中。山皆美石、上生青叢。冬夏常蔚然。其旁多巖洞。其下多白礫。其樹多楓柟石楠楩櫧樟柚、草則蘭芷。又有異卉、類合歡而蔓生。轇轕水石。每風自四山而下。振動大木、掩苒衆草、紛紅駭綠。蓊葧香氣。衝濤旋瀨。退貯谿谷。搖颺葳蕤。與時推移。其大都如此。余無以窮其狀、永之人未嘗遊焉、余得之不敢專也。出而傳於世。其地世主袁氏、故以名焉。

○舟行如窮。忽又無際。睨若無窮。然卒入於渴。視之既靜。其聽初遠。是韓柳州獨造。蓋自晉宋間文字悟入也。

○亦言所以記。忽記年月。著渠之美於是始窮也一句。掉尾結法又變。

[步。唐柳先生集作尺。於作乎。]

南國山水清氣。爲文人筆墨所攝取者。古今二次。曰屈原。曰柳子厚。二子之不遇於人。乃遇於天也。

石渠記

自渴西南行。不能百步。得石渠。民橋其上。有泉幽幽然。其鳴乍大乍細。渠之廣。或咫尺。或倍尺。其長可十許步。其流抵大石。伏出其下。踰石而往。有石泓。菖蒲被之。青鮮環周。又折西行。旁陷巖石下。北墮小潭。潭幅員減百步。清深多儵魚。又北曲行紆餘。睨若無窮。然卒入於渴。其側皆詭石怪木。奇卉美箭。可列坐而庥焉。風搖其巔。韻動崖谷。視之既靜。其聽始遠。予從州牧得之。攬去翳朽。決疏土石。既崇而焚。既釃而盈。惜其未始有傳焉者。故累記其所屬。遺之其人。書之其陽。俾後好事者求之得以易。元和七年正月八日。蠲渠至大石。十月十九日。踰石得石泓小潭。渠之美。於是始窮也。

自鈷鉧潭至此。敍水聲凡三次。愈出愈妙。乍大乍細。無大奇然。讀之覺可喜。世間萬象。一經清者之筆。便化爲清物也。

○起法又變。

○前狀水聲。後併狀形聲。

## 石淵記

石渠之事既窮。上由橋西北。下土山之陰。民又橋焉。其水之大。倍石渠三之。亘石爲底。達于兩涯。若牀若堂。若陳筵席。若限閫奧。水平布其上。流若織文。響若操琴。揭跣而往。折竹掃陳葉。排腐木。可羅胡牀十八九居之。交絡之流。觸激之音。皆在牀下。翠羽之木。龍鱗之石。均蔭其上。古之人。其有樂乎此耶。後之來者。有能追余之踐履耶。得意之日。與石渠同。由渴而來者。先石渠。後石淵。由百家瀨上而來者。先石淵。後石渠。淵之可窮者。皆出石城村東南。其間可樂者數焉。其上深山幽林。途峭險。道狹不可窮也。

前曰。全石以爲底。近岸卷石底以出。爲坻爲嶼云云。此曰。亘石爲底。達于兩厓。若牀若堂。其實同一景耳。乃筆墨變化如此。○此記比諸篇。較覺平平。至結處。乃驚心動魂矣。○此結處。與韋應物落葉滿空山。何處尋行跡。同一雋絕。豈淺人所能解。歐公五代史外國傳結處。似學此結。

## 小石城山記

○先撇脱一路。後敍二路。是作史法也。

○絶妙結法。亦非淺人所解。

自西山道口徑北、踰黄茅嶺而下。有二道。其一西出、尋之無所得。其一少北而東。不過四十丈。土斷而川分。有積石横當其垠。其上爲睥睨梁欐之形。其旁出堡塢、有若門焉、窺之正黑。投以小石。洞然有水聲。其響之激越。良久乃已。環之可上。望甚遠。無土壤而生嘉樹美箭。益奇而堅。其疏數偃仰。類智者所施設也。噫吾疑造物者之有無久矣。及是愈以爲誠有。又怪其不爲之於中州。而列是夷狄。更千百年不得一售其伎。是固勞而無用。神者儻不宜如是。則其果無乎。或曰。以慰夫賢而辱於此者。或曰。其氣之靈。不爲偉人。而獨爲是物。故楚之南。少人而多石。是二者。余未信之。

柳州八記。與遊黄溪記并九篇。其寫水寫石。可謂盡矣。寫水之奇。至石澗極矣。寫石之奇。至小石城山極矣。○沈以爲學莊子。余則謂。一篇伯夷傳縮本也。

## 石鐘山記

東坡

○體面好。

○石字。鐘字。一順一逆。此文章定法。

〔硿硿然。東坡事略作空空焉。〕

○無此一段文字。無色態濃厚處。

○洗發鐘字。

〔獻子。東坡事略作莊子。〕

水經云。彭蠡之口。有石鐘山焉。酈元以爲下臨深潭。微風鼓浪。水石相搏。聲如洪鐘。是說也人常疑之。今以鐘磬置水中。雖大風浪。不能鳴也。而況石乎。至唐李渤。始訪其遺蹤。得雙石於潭上。扣而聆之。南聲函胡。北音清越。枹止響騰。餘韻徐歇。自以爲得之矣。然是說也。予尤疑之。石之鏗然有聲者。所在皆是也。而此獨以鐘名何哉。元豐七年。六月丁丑。予自齊安。舟行適臨汝。而長子邁將赴饒之德興尉。送之至湖口。因得觀所謂石鐘者。寺僧使小童持斧。於亂石間擇其一二扣之。硿硿然。予固笑而不信也。至其夜月明。獨與邁乘小舟。至絕壁下。大石側立千尺。如猛獸奇鬼。森然欲搏人。而山上棲鶻。聞人聲亦驚起。磔磔雲霄間。又有若老人欬且笑於山谷中者。或曰。此鸛鶴也。予方心動欲還。而大聲發於水上。噌吰如鐘鼓不絕。舟人大恐。徐而察之。則山下皆石穴罅。不知其淺深。微波入焉。涵澹澎湃而爲此也。舟迴至兩山間。將入港口。有大石當中流。可坐百人。空中而多竅。與風水相呑吐。有窾坎鏜鞳之聲。與向之噌吰者相應。如樂作焉。因笑謂邁曰。汝識之乎。噌吰者。周景王之無射也。窾坎鏜鞳者。魏獻子

○不聞見而臆斷句。沈云。通首眼目。是未然。然著此句乃深遠矣。

○獨書酈元。而及士大夫漁工水師。以而字一轉入李渤。文勢不板。掉尾酈李雙收。篇法匝密。

「揖。東坡事略作挹。於作于。陂作坂。」

「東坡事略無未字。」

之歌鐘也。古之人不予欺也。事不目見耳聞。而臆斷其有無可乎。酈元之所見聞。殆與予同。而言之不詳。士大夫終不肯以小舟夜泊絕壁之下。故莫能知。而漁工水師雖知而不能言。此世所以不傳也。而陋者乃以斧斤考擊而求之。自以為得其實。予是以記之。蓋歎酈元之簡。而笑李渤之陋也。

## 放鶴亭記　　東坡

熙寧十年秋。彭城大水。雲龍山人張君之草堂。水及其半扉。明年春水落。遷於故居之東。東山之麓。升高而望。得異境焉。作亭於其上。彭城之山。岡嶺四合。隱然如大環。獨缺其西十二。而山人之亭。適當其缺。春夏之交。草木際天。秋冬雪月。千里一色。風雨晦明之間。俯仰百變。山人有二鶴。甚馴而善飛。旦則望西山之缺而放焉。縱其所如。或立於陂田。或翔於雲表。暮則傃東山而歸。故名之曰放鶴亭。郡守蘇軾。時從賓客僚吏往見山人。飲酒於斯亭而樂之。●揖山人而告之曰。子知隱居之樂乎。雖南面之君。●未可與易也。易曰。鳴鶴在陰。其子和之。詩

〔東坡事略。久留下有二元豐元年十一月初八日記十一字一。〕

曰。鶴鳴二于九皐一。聲聞二于天一。蓋其爲レ物。淸遠閑放。超二然於塵埃之外一。故易詩人。以比二賢人君子隱德之士一。狎而玩レ之。宜レ若二有レ益而無一レ損者。然衞懿公好レ鶴則亡二其國一。周公作二酒誥一。衞武公作二抑戒一。以爲荒惑敗亂。無レ若二酒者一。而劉伶。阮籍之徒。以レ此全二其眞一。而名二後世一。嗟夫。南面之君。雖二淸遠閑放如レ鶴者一。猶不レ得レ好。好レ之則亡二其國一。而山林遁世之士。雖二荒惑敗亂如レ酒者一。猶不レ能レ爲レ害。而況於レ鶴乎。由レ此觀レ之。其爲レ樂。未レ可三以同日而語二也。山人欣然而笑曰。有レ是哉。乃作二放鶴招鶴之歌一曰。

鶴飛去兮。西山之缺。高翔而下覽兮。擇レ所レ適。翻然斂レ翼。婉將レ集兮。忽何所レ見。矯然而復擊。獨終二日於澗谷之間一兮。啄二蒼苔一而履二白石一。鶴歸來兮東山之陰。其下有レ人兮。黃冠草屨。葛衣而鼓レ琴。躬耕而食兮。其餘以汝飽。歸來歸來兮西山不レ可二以久留一。

敍事空潤淸曠。非二坡翁一無二此筆氣一。○題目是放鶴亭記。却把二酒爲二個陪客一。兩意對結他人爲レ之。如何收二到於鶴上一。今全不レ置二結於對一。結最末爲二一擬翻勢一。

〔陂、欒城集作攜。上作止。返作反。少作小。林作木。太作大。變作營。諸作之。〕

因以爲結。放蕩之甚。

## 武昌九曲亭記　　頴濱

子瞻遷於齊安。廬於江上。齊安無名山。而江之南。武昌諸山。陂陁蔓延。澗谷深密。中有浮圖精舍。西曰西山。東曰寒谿。依山臨壑。隱蔽松櫪。蕭然絕俗。車馬之迹不至。每風止日出。江水伏息。子瞻杖策載酒。乘漁舟。亂流而南。山中有二三子。好客而喜游。聞子瞻至。幅巾迎笑。相攜徜徉而上。窮山之深。力極而息。掃葉席草。酌酒相勞。意適忘返。往往留宿於山上。以此居齊安三年。不知其久也。然將適西山。行於松栢之間。羊腸九曲而獲少平。遊者至此必息。倚怪石。蔭茂林。俯視太江。仰瞻陵阜。旁矚溪谷。風雲變化。林麓向背。皆效於左右。有廢亭焉。其遺址甚狹。不足以席衆客。其旁古木數十。其大皆百圍千尺。不可加以斤斧。子瞻每至其下。輒睥睨終日。一旦大風雷雨。拔去其一。斥其所據。亭得以廣。子瞻與客入山。視之笑曰。茲欲以成吾亭耶。遂相與營之。亭成。而西山之勝始具。子

〔棲賢堂記。欒城集作廬山棲賢寺新修僧堂記。〕

瞻於是最樂。昔余少年。從子瞻遊。有山可登。有水可浮。子瞻未始不褰裳先之。有不得至。爲之悵然移日。至其翩然獨往。逍遙泉石之上。擷林卉。拾澗實。酌水而飲之。見者以爲仙也。蓋天下之樂無窮。而以適意爲悅。方其得意。萬物無以易之。及其既厭。未有不洒然自笑者也。譬諸飲食雜陳於前。要之一飽而同委於臭腐。夫孰知得失之所在。惟其無愧於中。無責於外。而姑寓焉。此子瞻之所以有樂於是也。

宋人記文大抵皆主議論。後世摹倣愈出愈腐。此篇平平敍事。末著數行議論。沒緊沒要。無甚結構。而讀之有餘味。乃兄恐又閣筆矣。〇棲賢堂記敍山水處。亦不下此篇。

## 棲賢堂記　　潁濱

元豐三年。余得罪遷高安。夏六月。過廬山。知其勝。而不敢留。留二日。涉其山之陽。入棲賢谷。谷中多大石。岌嶫相倚。水行石間。其聲如雷霆。如千乘車行者。震

〔滙、欒城集作匯、于作於、杉作衫、埃作垢。岩作岸。〕

掉不能自持。雖三峽之嶮、不過也。故其橋曰三峽。渡橋而東、依山循水。水平如白練。橫觸巨谷。滙為大車輪。流轉洶湧。窮水之變。院據其上流。右倚石壁。左俯流水。石壁之趾。僧堂在焉。狂峯怪石。翔舞于簷上。杉松竹箭。橫生倒植。葱蒨相糾。每大風雨至。堂中之人。疑將壓焉。問之習廬山者。曰。雖茲山之勝。棲賢蓋以一二數矣。明年長老智遷。使其徒惠遷。謁余于高安。曰。吾僧堂自始建至今六十年矣。瓦敗木朽。無以待四方之客。惠遷能以其勤力新之。完壯邃密。非復其舊。願為文以志之。余聞之。求道者非有飲食衣服居處之求。然使其飲食得充。衣服得完。居處得安。于以求道而無外擾。則其為道也輕。此古之達者。所以必因山林。築室廬。蓄蔬米。以待四方之遊者。而二遷之所以寘力而不懈也。夫士居於塵埃之中。紛紜之變。日遘于前。而中心未始一日忘道。況乎深山之岩。野水之垠。有堂以居。有食以飽。是非榮辱。不接于心耳。而忽焉不省也哉。孔子曰。朝聞道夕死可矣。今夫騁騖乎俗學。而不聞大道。雖勤勞沒齒。余知其無以死也。苟一日聞道。雖即死無餘事矣。故余因二遷之意。而以告其來者。夫豈無人

〔於。居士集作于。下同。〕

○夫舉天下之至美云云。清人曹份者評之。以爲句弱。是不能知歐文佳處者。〔彼。居士集作後。〕

乎哉。四年五月初九日。眉陽蘇軾記。

## 有美堂記　六一

嘉祐二年。龍圖閣直學士。尚書吏部郎中梅公。出守於杭。於其行也。天子寵之以詩。於是始作有美之堂。蓋取賜詩之首章而名之。以爲杭人之榮。然公之甚愛斯堂也。雖去而不忘。今年自金陵遣人走京師。命予誌之。其請至六七而不倦。予乃爲之言曰。夫舉天下之至美與其樂。有不得而兼焉者多矣。故窮山水登臨之美者。必之乎寬閑之野。寂寞之鄉。而後得焉。覽人物之盛麗。夸都邑之雄富者。必據乎四達之衝。舟車之會。而後足焉。蓋彼放心於物外。而此娛意於繁華。二者各有適焉。然其爲樂。不得而兼也。今夫所謂羅浮天台衡嶽廬阜洞庭之廣。三峽之險。號爲東南秀偉秀絕者。乃皆在乎下州小邑。僻陋之邦。此幽潛之士。窮愁放逐之臣之所樂也。若乃四方之所聚。百貨之所交。物盛人衆爲一都會。而又能兼有山水之美。以資富貴之娛者。惟金陵錢塘。然二邦皆僭竊

「樹。」居士集作「榭。」

於亂世。及聖宋受命。海內爲一。金陵以後服見誅。今其江山雖在。而頽垣廢址、荒煙野草。過而覽者。莫不爲之躊躇而悽愴。獨錢塘自五代時。知尊中國。效臣順。及其亡也。頓首請命。不煩干戈。今其民幸富完安樂。又其俗習工巧。邑屋華麗、蓋十餘萬家。環以湖山。左右映帶。而閩商海賈。風帆浪舶。出入於江濤浩渺煙雲杳靄之間。可謂盛矣。而臨是邦者。必皆朝廷公卿大臣。若天子之侍從。又有四方遊士。爲之賓客。故喜占形勝。治亭樹。相與極遊覽之娛。然其於所取。有得於此者。必有遺於彼。獨所謂有美堂者。山水登臨之美。人物邑居之繁、一寓目而盡得之、蓋錢塘兼有天下之美。而斯堂者。又盡得錢塘之美焉。宜乎。公之甚愛而難忘也。梅公清愼。好學君子也。視其所好。可以知其人焉。

歐公文、要看其豐腴處。〇文有畫意者難多獲。如此文。敍景不數語。而錢塘風景如在目底。眞古今有數文。覺范文正岳陽樓記徒費藻葩矣。

謝選拾遺卷之三 終

〔於。昌黎集作于。下同。〕

# 謝選拾遺 卷之四

道字集

## 平淮西碑

昌黎

天以唐克肖其德。聖子神孫。繼繼承承於千萬年。敬戒不怠。全付所覆。四海九州。罔有內外。悉主悉臣。高祖太宗既除既治。高宗中睿。休養生息。至於玄宗。受報收功。極熾而豐。物衆地大。孽牙其間。肅宗代宗。德祖順考。以勤以容。大慝適去。稂莠不薅。相臣將臣。文恬武嬉。習熟見聞。以爲當然。睿聖文武皇帝。既受羣臣朝。乃考圖數貢曰。嗚呼天既全付予有家。今傳次在予。予不能事事。其何以見於郊廟。羣臣震懾。奔走率職。明年平夏。又明年平蜀。又明年平江東。又明年平澤潞。遂定易定。致魏博貝衛澶相。無不從志。皇帝曰。不可究武。予其少息。九年蔡將死。蔡人立其子元濟以請。不許。遂燒舞陽犯葉襄城以動東都放兵四劫。皇帝歷問於朝。一二臣外。皆曰。蔡帥之不廷授於今五十年。傳三姓四將。其

○作碑文。不可不敍當時諸將姓名部署兵數。今乃借憲宗口中呼出。歷歷一個不漏。故不見梁疊碎瑣之病。而愈繁愈雅。又描寫憲宗英風鬚眉畢動。非必擬虞書命官也。

［以其節。］呂黎集。作其以節。

○數次呼度。非是歸重晉公。以此錯綜作波瀾。文勢乃不板。

樹本堅。兵利卒頑。不與他等。因撫而有。順且無事。大官聽決唱聲。萬口和附。幷爲一談。牢不可破。皇帝曰。惟天惟祖宗所以付任予者。庶其在此。予何敢不力。況一二臣同。不爲無助。曰光顏。汝爲陳許帥。維是河東魏博郃陽三軍之在行者。汝皆將之。曰重胤。汝故有河陽懷。今益以汝。維是朔方義成陝益鳳翔延慶七軍之在行者。汝皆將之。曰弘。汝以卒萬二千屬而子公武往討之。曰文通。汝守壽。維是宣武淮南宣歙浙西四軍之行於壽者。汝皆將之。曰道古。汝其觀察鄂岳。曰愬。汝帥唐鄧隨。各以其兵進戰。曰度。汝長御史。其往視師。曰度。惟汝予同。汝遂相予。以賞罰用命不用命。曰弘。汝以其節都統諸軍。曰守謙。汝出入左右。汝惟近臣。其往撫師。曰度。汝其往。衣服飮食予士。無寒無飢。以既厥事。遂生蔡人。賜汝節斧通天御帶衞卒三百。凡茲廷臣。汝擇自從。惟其賢能。無憚大吏。庚申。予其臨門送汝。曰御史。予閔士大夫戰甚苦。自今以往。非郊廟祠祀。其無用樂。顏胤武合攻其北。大戰十六。得柵城縣二十三。降人卒四萬。道古攻其東南。八戰降萬三千。再入申。破其外城。文通戰其東。十餘遇降萬二千。愬入其西。

○愬專戰功。晉公袖手享之處。見之敘次中。明白如此。當時何因憤懣。

愬。古擊集作搶。

○文先呼天。次呼唐。而詩先呼唐。次呼天。錯綜得妙。

○予家與文中予有家。皆唐字針線。

得賊將。輒釋不殺。用其策。戰比有功。十二年八月。丞相度至師。都統弘責戰益急。顏胤武合戰益用命。元濟盡幷其衆洄曲以備。十月壬申。愬用所得賊將。自文城。因天大雪。疾馳百二十里。用夜半到蔡。破其門。取元濟以獻。盡得其屬人卒。辛巳丞相度入蔡。以皇帝命。赦其人。淮西平。大饗賚功。師還之日。因以其食賜蔡人。凡蔡卒三萬五千。其不樂爲兵。願歸爲農者十九。悉縱之。斬元濟京師。冊功。弘加侍中。愬爲左僕射。帥山南東道。顏胤皆加司空。公武以散騎常侍帥鄜坊丹延。道古進大夫。文通加散騎常侍。丞相度朝京師。道封晉國公。進階金紫光祿大夫。以舊官相。而以其副總爲工部尚書。領蔡任。既還奏。羣臣請紀聖功被之金石。皇帝以命臣愈。臣愈再拜。稽首而獻文曰。

唐承天命。遂臣萬邦。孰居近土。襲盜以狂。往在玄宗。崇極而圮。河北悍驕。河南附起。四聖不宥。屢興師征。有不能克。益戍以兵。夫耕不食。婦織不裳。輸之以車。爲卒賜糧。外多失朝。曠不嶽狩。百隷怠官。事亡其舊。帝時繼位。顧瞻咨嗟。惟汝文武。孰恤予家。既斬吳蜀。旋取山東。魏將首義。六州降從。淮蔡不順。自以爲彊。

〔奸。呂黎集作姦。〕

○天誅終天字綫索。而篇末曰天子天天子。是合縫天唐兩項爲一也。

〔卒。呂黎集作一。頟作攝。凡作允。〕

○連呼天子。至末點出明斷。韓公本意。如揭不獨臣子之言當然。其實如此。非諛也。

提兵叫讙。欲事故常。始命討之。遂連奸●隣。陰遣刺客。來賊相臣。方戰未利。內驚京師。羣公上言。莫若惠來。帝爲不聞。與神爲謀。乃相同德。以訖天誅。乃救顚胤。愬武古通。咸統於弘。各奏汝功。三方分攻。五萬其師。大軍北乘。厥數倍之。常兵時曲。軍士蠢蠢。既翦陵雲。蔡卒●大窘。勝之邵陵。郾城來降。自夏入秋。復屯相望。兵頓不勵。告功不時。帝哀征夫。命相往釐。士飽而歌。馬騰於槽。試之新城。賊遇敗逃。盡抽其有。聚以防我。西師躍入。道無留者。頟頟蔡城。其疆●千里。既入而有。莫不順俟。帝有恩言。相度來宣。誅止其魁。釋其下人。蔡之卒夫。投甲呼舞。蔡之婦女。迎門笑語。蔡人告饑。船粟往哺。蔡人告寒。賜以繒布。始時蔡人。禁不往來。今相從戲。里門夜開。始時蔡人。進戰退戮。今旰而起。左飧右粥。爲之擇人。以收餘憊。選吏賜牛。教而不稅。蔡人有言。始迷不知。今乃大覺。羞前之爲。蔡人有言。天子明聖。不順族誅。順保性命。汝不吾信。視此蔡方。孰爲不順。往斧其吭。凡●叛有數。聲勢相倚。吾強不支。汝弱奚恃。其告而長。而父而兄。奔走偕來。同我太平。淮蔡爲亂。天子伐之。既伐而饑。天子活之。始議伐蔡。卿士莫隨。既伐四年。小大

〔夜、昌黎集作初。傳作使。〕

〔昌黎集無蜉字。〕

並疑。不赦不疑。由天子明。凡此蔡功。惟斷乃成。既定淮蔡。四夷畢來。遂開明堂。坐以治之。

昌黎畢生大手筆。事實爲此篇。試想其受詔運思。先下一筆。如何著語。看他開口唱起一天字。次以一唐字起勢敍出。何等眼孔。何等手腕。○通篇歸功皇帝。眞得體得實也。

## 張中丞傳後敍　　昌黎

元和二年四月十三日夜。愈與吳郡張籍閱家中舊書。得李翰所爲張巡傳。翰以文章自名。爲此傳頗詳密。然尙恨有闕者。不爲許遠立傳。又不載雷萬春事首尾。遠雖材若不及巡者。開門納巡。位本在巡上。授之柄而處其下。無所疑忌。竟與巡俱守死成功名。城陷而虜。與巡死。先後異耳。兩家子弟材智下。不能通知二父志。以爲巡死而遠就虜。疑畏死而辭服於賊。遠誠畏死。何苦守尺寸之地。食其所愛之肉。以與賊抗而不降乎。當其圍守時。外無蚍蜉蟻子之援。所欲

職。昌黎集作藏。

○大聲一喝噤衆口。而奪其氣。見比逆亂設淫辭數句。嘗得痛快。是韓公本色。比史遷更覺生氣。

○是等處。直逼史遷。

忠者。國與主耳。而賊語以國亡主滅。遠見救援不至。而賊來益衆。必以其言爲信。外無待而猶死守。人相食且盡。雖愚人亦能數日而知死處矣。遠之不畏死。亦明矣。烏有城壞其徒俱死。獨蒙愧恥求活。雖至愚者不忍爲。嗚呼。而謂遠之賢而爲之耶。說者又謂。遠與巡分城而守。城之陷。自遠所分始。以此詬遠。此又與兒童之見無異。人之將死。其臟腑必有先受其病者。引繩而絕之。其絕必有處。觀者見其然。從而尤之。其亦不達於理矣。小人之好議論。不樂成人之美。如是哉。如巡遠之所成就。如此卓卓。猶不得免。其他則又何說。當二公之初守也。寧能知人之卒不救。棄城而逆遁。苟此不能守。雖避之他處何益。及其無救而且窮也。將其創殘餓羸之餘。雖欲去必不達。二公之賢。其講之精矣。守一城捍天下。以千百就盡之卒。戰百萬日滋之師。蔽遮江淮。沮遏其勢。天下之不亡。其誰之功也。當是時。棄城而圖存者。不可一二數。擅強兵坐而觀者相環也。不追議此。而責二公以死守。亦見其自比於逆亂。設淫辭而助之攻也。愈嘗從事於汴徐二府。屢道於兩府間。親祭於其所謂雙廟者。其老人往往說巡遠時事云。

○根上議論中插兵坐觀來。敘議渾融得體。

○雜己所見聞言之。故有俯仰感慨之致。吾知李翰傳平平直敘。必無是等風神。不獨其筆力懸絕。

○以字恐衍。

〔歷呂家集作曆。少作小。遍作徧。〕

南霽雲之乞救於賀蘭也、賀蘭嫉巡遠之聲威功績出己上。不肯出師救。愛霽雲之勇且壯。不聽其語、強留之、具食與樂、延霽雲坐。霽雲慷慨語曰、雲來時睢陽之人。不食月餘日矣。雲雖欲獨食。義不忍。雖食且不下咽。因拔所佩刀。斷一指。血淋漓。以示賀蘭。一座大驚、皆感激爲雲泣下。雲知賀蘭終無爲雲出師意。卽馳去。將出城、抽矢射佛寺浮圖、矢著其上甎半箭。曰吾歸破賊。必滅賀蘭、此矢所以志也。愈貞元中過泗州。船上人猶指以相語。城陷、賊以刃脅降巡。巡不屈、卽牽去、將斬之、又降霽雲。雲未應。巡呼雲曰。南八男兒死耳。不可爲不義屈。雲笑曰。欲將以有爲也。公有言、雲敢不死。卽不屈。張籍曰。有于嵩者、少依於巡。及巡起事。嵩常在圍中。籍大歷中、於和州烏江縣見嵩。嵩時年六十餘矣。以巡初嘗得臨渙縣尉、好學無所不讀。籍時尚少。粗問巡遠事、不能細也。云巡長七尺餘、鬚髯若神。嘗見嵩讀漢書。謂嵩曰。何爲久讀此。嵩曰。未熟也。巡曰吾於書讀不過三遍、終身不忘也。因誦嵩所讀書、盡卷不錯一字。嵩驚以爲巡偶熟此卷、因亂抽他帙以試、無不盡然。嵩又取架上諸書試以問巡、巡應口誦無疑。嵩

○畫人物者。寫畢點睛。此即其法。

〔藉。昌黎集作籍。〕

○主簿尉云云。是却似太史公口吻。

從巡久。亦不見巡常讀書也。爲文章。操紙筆立書。未嘗起草。初守睢陽時。士卒僅萬人。城中居人。戶亦且數萬。巡因一見問姓名。其後無不識者。巡怒鬚髯輒張。及城陷。賊縛巡等數十人坐。且將戮。巡起旋。其衆見巡起。或起或泣。巡曰。汝勿怖。死命也。衆泣不能仰視。巡就戮時。顏色不亂。陽陽如平常。遠寬厚長者。貌如其心。與巡同年生。月日後於巡。呼巡爲兄。死時年四十九。嵩貞元初死於亳宋間。或傳。嵩有田。在亳宋間。武人奪而有之。嵩將詣州訟理。爲所殺。嵩無子。張藉云。

敍議夾雜。而風神益遒。不摹史遷。而得史遷神髓。恨不倩此筆。作一部唐史。

## 藍田縣丞廳壁記　昌黎

丞之職。所以貳令。於一邑無所不當問。其下主簿尉。主簿尉乃有分職。丞位高而偪。例以嫌不可否事。文書行。吏抱成案詣丞。卷其前。鉗以左手。右手摘紙尾。雁鶩行以進。平立睨丞曰。當署。丞涉筆占位署。惟謹。目吏問可不可。吏曰得。則

〔責。昌黎集作職。〕
○書前任人名氏。大是有情。
○寫出絕悶絕不平之意耳。

退不敢略省。漫不知何事。官雖尊。力勢反出主簿尉下。諺數慢必曰丞。至以相訾謷丞之設。豈端使然哉。博陵崔斯立。種學績文。以蓄其有。泓涵演迤。日大以肆。貞元初。挾其能。戰藝於京師。再進再屈於人。元和初。以前大理評事。言得失。黜官。再轉而爲丞茲邑。始至。喟曰。官無卑。顧材不足塞責。既噤不得施用。又喟曰。丞哉丞哉。余不負丞。而丞負余。則盡枿去牙角。一躡故跡。破崖岸而爲之。丞廳故有記。壞漏汚不可讀。斯立易桷與瓦。墁治壁。悉書前任人名氏。庭有老槐四行。南牆鉅竹千梃。儼立若相持。水㶁㶁循除鳴。斯立痛掃漑。對樹二松。日哦其間。有問者。輒對曰。余方有公事。子姑去。

敍事。是昌黎獨擅處。史漢亦無此也。○此文。在記文中前無古人。後無來者。不如是。何以爲昌黎。

## 送鄭尙書序。

昌黎

嶺之南。其州七十。其二十二。隷嶺南節度府。其四十餘。分四府。府各置帥。然獨

○昌黎是等處當時所觀。而敍之以儀禮。句法高於太史公一等矣。

○雖學西京。畢竟是這老本色。非如明人句句摹擬也。

〔跡。昌黎集作迹。〕

嶺南節度爲大府。大府始至。四府必使其佐啓問起居。謝守地不得即賀。以爲禮。歲時必遣賀問。致水土物。大府帥或道過其府。府帥必戎服。左握刀。右屬弓矢。帕首袴鞾迎郊。及既至。大府帥先入據館。帥守屏。若將趨入拜庭之爲者。大府與之爲讓。至一再。乃敢改服。以賓主見。適位執爵皆興拜。不許。乃止。虔若小侯之事大國。有大事。諮而後行。隸府之州。離府遠者。至三千里。懸隔山海。使必數月而後能至。蠻夷悍輕。易怨以變。其南州皆岸大海。多洲島。颿風一日踔數千里。漫瀾不見蹤跡。●控御失所。依險阻。結黨仇。機毒矢。以待將吏。撞搪呼號。以相和應。蜂屯蟻雜。不可爬梳。好則人。怒則獸。故常薄其征入。簡節而疏目。時有所遺漏。不究切之。長養以兒子。至紛不可治。乃草薙而禽獮之。盡根株痛斷乃止。其海外雜國。若躭浮羅流求毛人夷亶之州。林邑扶南眞臘于陀利之屬。東南際天地以萬數。或時候風潮朝貢。蠻胡賈人。舶交海中。若嶺南帥得其人。則一邊盡治。不相寇盜賊殺。無風魚之災。水旱癘毒之患。外國之貨日至。珠香象犀玳瑁奇物。溢於中國。不可勝用。故選帥常重于●他鎭。非有文武威風。知大體。

〔于。昌黎集作於。又作入。侍作待。〕

可畏信者。則不幸往往有事。長慶三年四月。以工部尚書鄭公。爲刑部尚書。兼御史大夫。往踐其任。鄭公嘗以節鎭襄陽。又帥滄景德棣。歷河南尹華州刺史皆有功德可稱道。入朝爲金吾將軍。散騎常侍。工部侍郎尚書。家屬百人。無數畝之宅。僦屋以居。可謂貴而能貧。爲仁者不富之效也。及是命。朝廷莫不悅。將行。公卿大夫士。苟能詩者。咸相率爲詩。以美朝政。以慰公南行之思。詔必以來字者。所以祝公成政而來歸疾也。

鄭權當以此文當座右箴。有用之文。不可以文章家言視之。○始諷其不可失體面。次諷其不可苛細。終諷其勿敗於貨。蓋皆鄭項門一鍼。○通篇以敍事爲議論。樸雅濃厚。其氣味色態。直逼西漢。歐・蘇・曾・王夢想所不及也。○到底不著一句議論。而大議論在其中。宋人所不能辨。○沈云。古奥錯綜。法度亦極嚴整。○沈評未允當。曰。古樸藻雅。味厚色濃。

## 段太尉逸事狀　　柳州

〔于。唐柳先生集作於。流作留。〕

〇宋景文唐書。刪去下吾字。遂爲千古咲柄。夫劉昫文猶可刪。柳宗元寧可刪乎。景文可謂沒眼涵日鈍漢也。

太尉始爲涇州刺史。時汾陽王。以副元帥居蒲。王子晞爲尚書。領行營節度使。寓軍邠州。縱士卒無賴。邠人偸嗜暴惡者。率以貨竄名軍伍中。則肆志。吏不得問。日羣行丐取于●市。不嗛輒奮擊。折人手足。椎釜鬲甕盎盈道上。把臂徐去。至撞殺孕婦人。邠寧節度使白孝德。以王故戚不敢言。太尉自州以狀白府。願計事。至則曰。天子以生人分公理。公見人被暴害。因恬然。且大亂。若何。孝德曰。願奉敎。太尉曰。某爲涇州。甚適少事。今不忍人無寇暴死。以亂天子邊事。公誠以都虞候命某者。能爲公已亂。使公之人不得害。孝德曰。幸甚。如太尉請。既署一月。晞軍士十七人。入市取酒。又以刃刺酒翁。壞釀器。酒流●溝中。太尉列卒取十七人。皆斷頭注槊上。植市門外。晞一營大譟。盡甲。孝德震恐。召太尉曰。將奈何。太尉曰。無傷也。請辭於軍。孝德使數十人從太尉。太尉盡辭去。解佩刀。選老躄者一人。持馬至晞門下。甲者出。太尉笑且入曰。殺一老卒。何甲也。吾戴吾頭來矣。甲者愕。因諭曰。尚書固負若屬耶。副元帥固負若屬耶。奈何欲以亂敗郭氏。爲白尚書。出聽我言。晞出見太尉。太尉曰。副元帥勳塞天地。當務始終。今尚書

○暴字、亂字、罪字、皆用頂針法。以狀拉雜峻急語氣。是史記法。

〔遂、唐柳先生集作還。來作求。〕

恣卒爲暴。暴且亂。亂天子邊。欲誰歸罪。罪且及副元帥。今邠人惡子弟。以貨竄名軍籍中。殺害人。如是不止。幾日不大亂。大亂由尚書出。人皆曰。尚書倚副元帥。不戢士。然則郭氏功名。其與存者幾何。言未畢。晞再拜曰。公幸教晞以道。恩甚大。願奉軍以從。顧叱左右曰。皆解甲散還火伍中。敢讙者死。太尉曰。吾未晡食。請假設草具。既食曰。吾疾作。願留宿門下。命持馬者去。旦日來。遂臥軍中。晞不解衣。戒候卒擊柝衛太尉。旦俱至孝德所。謝不能。請改過。邠州由是無禍。先是。太尉在涇州。爲營田官。涇大將焦令諶。取人田。自占數十頃。給與農曰。且熟歸我半。是歲大旱。野無草。農以告諶。諶曰。我知入數而已。不知旱也。督責益急。且飢死。無以償。即告太尉。太尉判狀辭甚巽。使人來諭諶。諶盛怒。召農者曰。我畏段某耶。何敢言我。取判鋪背上。以大杖擊二十。垂死。輿來庭中。太尉大泣曰。乃我困汝。即自取水洗去血。裂裳衣瘡。手注善藥。旦夕自哺農者。然後食。取騎馬賣。市穀代償。使勿知。淮西寓軍帥尹少榮。剛直士也。入見諶。大罵曰。汝誠人耶。涇州野如赭。人且飢死。而必得穀。又用大杖擊無罪者。段公仁信大人也。而

〔媿。唐柳先生集作愧。隷作隸。我作吾。〕

〔外宗元。唐柳先生集作柳宗元。〕

○今之稱太尉以下。似一篇贊評。

○至此寫其平生狀貌言語。如太史公留侯傳。李廣傳。皆於贊中寫其形貌。柳州可謂善學古人者也。

汝不知敬。今段公唯一馬。賤賣市穀入汝。汝又取不恥。凡爲人傲天災。犯大人。擊無罪者。又取仁者穀。使主人出無馬。汝將何以對天地。尙不媿奴隸耶。誰雖暴抗。然聞言則大媿流汗。不能食。曰。我終不可以見段公。一夕自恨死。及太尉自涇州以司農徵。戒其族。過岐朱泚幸致貨幣。愼勿納。及過泚固致大綾三百疋。太尉壻韋晤。堅拒不得命。至都。太尉怒曰。果不用吾言。晤謝曰。處賤無以拒也。太尉曰然。終不以在吾第。以如司農治事堂。棲之梁木上。泚反。太尉終吏以告泚。泚取視。其故封識具存。元和九年月日。永州司馬員外置同正員外宗元謹上史館。今之稱太尉大節者。出入以爲武人一時奮不慮死。以取名天下。不知太尉之所立如是。宗元嘗出入岐周邠斄間。過眞定。北上馬嶺。歷亭障堡戍。竊好問老校退卒。能言其事。太尉爲人。姁姁常低首拱手行步。言氣卑弱。未嘗以色待物。人視之。儒者也。遇不可。必達其志。決非偶然者。會州刺史崔公來。言信行直。備得太尉遺事。覆校無疑。或恐尙逸墜未集太史氏。敢以狀私於執事。謹狀。

〔唐柳先生集。不下有知字。譚作談。〕

〔沮。唐柳先生集作怛。無麋字。〕

雖不如昌黎張巡傳後敍。然亦足雁行耳。

三戒。幷序　　柳州

吾恆惡世之人不。推己之本。而乘物以逞。或依勢以干非其類。出技以怒強。竊時以肆暴。然卒迨于禍。有客譚麋・驢・鼠三物。似其事。作三戒。

臨江之麋

臨江之人。畋得麋麑。畜之入門。羣犬垂涎揚尾皆來。其人怒沮之。自是日抱就犬。習示之。使勿動。稍使與之戲。積久。犬皆如人意。麋麑稍大。忘己之麋也。以爲犬良我友。抵觸偃仆益狎。犬畏主人。與之俯仰甚善。然時啖其舌。三年。麋出門。見外犬在道甚衆。走欲與戲。外犬見而喜且怒。共殺食之。狼藉道上。麋至死不悟。

黔之驢

黔無驢。有好事者。船載以入。至則無可用。放之山下。虎見之。尨然大物也。以爲

〔唐柳先生集無而字。臭作臰。〕

神。蔽林間窺之。稍出近之。慭慭然莫相知。他日驢一鳴。虎大駭遠遁。以為且噬己也。甚恐。然往來視之。覺無異能者。益習其聲。又近出前後。終不敢搏。稍近益狎。蕩倚衝冒。驢不勝怒蹄之。虎因喜。計之曰。技止此耳。因跳踉大㘚。斷其喉。盡其肉乃去。噫。形之尨也類有德。聲之宏也類有能。向不出其技。虎雖猛。疑畏卒不敢取。今若是焉。悲夫。

永某氏之鼠

永有某氏者。畏日拘忌異甚。以為己生歲直子。鼠子神也。因愛鼠。不畜猫犬。禁僮勿擊鼠。倉廩庖廚。悉以恣鼠不問。由是鼠相告。皆來某氏。飽食而無禍。某氏室無完器。椸無完衣。飲食大率鼠之餘也。晝纍纍與人兼行。夜則竊嚙鬭暴。其聲萬狀。不可以寢。而終不厭。數歲。某氏徙居他州。後人來居。鼠為態如故。其人曰。是陰類惡物也。盜暴尤甚。且何以至是乎哉。假五六猫。闔門撤瓦灌穴。購僮羅捕之。殺鼠如丘。棄之隱處。臭數月乃已。嗚呼。彼以其飽食無禍為可恆也哉。

○敍ニ名所ㇾ由。駝聞ㇾ之曰云云。乃借ㇾ此爲ニ波瀾一也。

○橐駝非三能使ニ木壽且孳一也一句妙。

〔驗。唐柳先生集作ㇾ驗。〕

## 種樹郭橐駝傳　柳州

郭橐駝不ㇾ知ニ始何名一。病ㇾ僂。隆然伏行。有ㇾ類ニ橐駝一者。故鄕人號ニ之駝一。駝聞ㇾ之曰。甚善。名ㇾ我固當。因捨ニ其名一。亦自謂ニ橐駝一云。其鄕曰ニ豐樂鄕一。在ニ長安西一。駝業ニ種樹一。凡長安豪富人爲ニ觀游一。及賣ㇾ果者。皆爭迎取養。視ニ駝所ㇾ種樹一。或移徙。無ㇾ不ㇾ活。且碩茂蚤實以蕃。他植者雖ニ窺伺傚慕一。莫ニ能如一ㇾ也。有ㇾ問ㇾ之。對曰。橐駝非ニ能使ニ木壽且孳一也。能順ニ木之天一。以致ニ其性一焉爾。凡植木之性。其本欲ㇾ舒。其培欲ㇾ平。其土欲ㇾ故。其築欲ㇾ密。既然已。勿ㇾ動勿ㇾ慮。去不ニ復顧一。其蒔也若ㇾ子。其置也若ㇾ棄。則其天者全。而其性得矣。故吾不ㇾ害ニ其長一而已。非ㇾ有ニ能碩ニ茂之一也。不ㇾ抑ニ耗其實一而已。非ㇾ有ニ能蚤而蕃一ㇾ之也。他植者則不ㇾ然。根拳而土易。其培ㇾ之也。若不ㇾ過焉則不ㇾ及。苟能有ニ反ㇾ是者一。則又愛ㇾ之太恩。憂ㇾ之太勤。旦而暮撫。已去而復顧。甚者爪ニ其膚一。以驗●其生枯一。搖ニ其本一。以觀ニ其疏密一。而木之性日以離矣。雖ㇾ曰ㇾ愛ㇾ之。其實害ㇾ之。雖ㇾ曰ㇾ憂ㇾ之。其實讎ㇾ之。故不ニ我若一也。吾又何能爲哉。問者曰。以ニ子之道一。移ニ之官理一可乎。駝曰。我知ㇾ種ㇾ樹而已。理非ニ吾業一也。然吾居ㇾ鄕。見ニ長ㇾ人者一。好ㇾ煩ニ其令一。若ニ甚憐一焉。而卒以

○駝曰。我知種樹而已。得此句。便不平平。不然則與梓人傳同一模樣。

○學莊子庖丁解牛一段結法。然不如捕蛇者結處。

禍。旦暮吏來而呼曰。官命促爾耕。勗爾植。督爾穫。蚤繰而緒。蚤織而縷。字而幼孩。遂而雞豚。鳴鼓而聚之。擊木而召之。吾小人輟飧饔以勞吏者。且不得暇。又何以蕃吾生而安吾性耶。故病且怠。若是則與吾業者。其亦有類乎。問者嘻曰。不亦善夫。吾問養樹。得養人術。傳其事。以爲官戒也。

簡老大勝梓人傳。與捕蛇者說伯仲之間也。

謝選拾遺卷之四　終

# 謝選拾遺 卷之五

宋字集

## 死節傳　六一

語曰。世亂識忠臣。誠哉。五代之際。不可以爲無人。吾得全節之士三人焉。作死節傳。

王彥章字子明。鄆州壽昌人也。少爲軍卒。事梁太祖。爲開封府押衙。左親從指揮使。行營先鋒馬軍使。末帝即位。遷濮州刺史。又徙澶州刺史。彥章爲人驍勇有力。能跣足履棘行百步。持一鐵鎗。騎而馳突。奮疾如飛。而他人莫能舉也。軍中號王鐵鎗。梁晉爭天下。爲勁敵。獨彥章心常輕晉王。謂人曰。亞次鬬雞小兒耳。何足懼哉。梁分魏相六州爲兩鎭。懼魏軍不從。遣彥章將五百騎入魏。屯金波亭。以虞變。魏軍果亂。夜攻彥章。彥章南走。魏人降晉。晉軍攻破澶州。虜彥章妻子。歸之太原。賜以第宅。供給甚備。間遣使者招彥章。彥章斬其使者以自絕。

然晉人畏彥章之在梁也。必欲招致之。待其妻子愈厚。自梁失魏博。與晉夾河而軍。彥章常爲先鋒。遷汝鄭二州防禦使。匡國軍節度使。北面行營副招討使。又徙宣義軍節度使。是時晉已盡有河北。以鐵鎖斷德勝口。築河南北爲兩城。號夾寨。而梁末帝昏亂。小人趙巖張漢傑等用事。大臣宿將多被讒間。彥章雖爲招討副使。而謀不見用。龍德三年夏。晉取鄆州。梁人大恐。宰相敬翔顧事急。以繩內靴中。入見末帝。泣曰。先帝取天下。不以臣爲不肖。所謀無不用。今彊敵未滅。陛下棄忽臣言。臣身不用。不如死。乃引繩將自經。末帝使人止之。問所欲言。翔曰。事急矣。非彥章不可。末帝乃召彥章爲招討使。以段凝爲副。末帝問破敵之期。彥章對曰。三日。左右失笑。彥章受命而出。馳兩日至滑州。置酒大會。陰遣人具舟於楊村。命甲士六百人。皆持巨斧。載冶者。具鞴炭。乘流而下。彥章會飲。酒半。佯起更衣。引精兵數千。沿河以趨德勝。舟兵舉鎖燒斷之。因以巨斧斬浮橋。而彥章引兵急擊南城。浮橋斷。南城遂破。蓋三日矣。是時莊宗在魏。以朱守殷守夾寨。聞彥章爲招討使。驚曰。彥章驍勇。吾嘗避其鋒。非守殷敵也。然彥

〔巖。五代史作岩。〕

〔五代史。右下有皆字。六百下無人字。鞴作韛。〕

〔三十里。五代史作二十里。無擊字。吾作我。屬作提。敗下有退字。〕

章兵少。利於速戰。必急攻我南城。即馳騎救之。行三十里。而得夾寨報者。曰彥章兵已至。比至而南城破矣。莊宗徹北城為栰。下楊劉。與彥章俱浮于河。各行一岸。每舟栰相及輒戰。一日數十接。彥章至楊劉。攻之幾下。晉人築壘博州東岸。彥章引兵攻之。不克。還擊楊劉。戰敗。是時段凝已有異志。與趙巖張漢傑交通。彥章素剛。憤梁日削。而嫉巖等所為。嘗謂人曰。俟吾破賊還。誅姦臣以謝天下。巖等聞之。懼與凝叶力傾之。其破南城也。彥章與凝。各為捷書以聞。凝遣人告巖等。匿彥章書。而上己書。末帝初疑其事。已而使者至軍。獨賜勞凝。而不及彥章。軍士皆失色。及楊劉之敗也。凝乃上書言。彥章使酒輕敵。而至於敗。趙巖等從中日夜毀之。乃罷彥章。以凝為招討使。彥章馳至京師入見。以笏畫地。自陳勝敗之迹。巖等諷有司。劾彥章不恭。勒還第。唐兵攻兗州。末帝召彥章。使守屬東路。是時梁之勝兵。皆屬段凝。京師秖有保鑾五百騎。皆新募之兵。不可用。乃以屬彥章。而以張漢傑監之。彥章至遞坊。以兵少戰敗。保中都。又敗。與其牙兵百餘騎死戰。唐將夏魯奇。素與彥章善。識其語音。曰。王鐵鎗也。舉矟刺之。彥

【五代史無有字。昭作招。】

章傷重。馬踣被擒。莊宗見之曰。爾常以孺子待我。今日服乎。又曰。爾善戰者。何不守兗州。而守中都。中都無壁壘。何以自固。彥章對曰。大事已去。非人力可爲。莊宗惻然。賜藥以封其創。彥章武人。不知書。常爲俚語。謂人曰。豹死留皮。人死留名。其於忠義。蓋天性也。莊宗愛其驍勇。欲全活之。使人慰諭彥章。彥章謝曰。臣與陛下。血戰十四年。今兵敗力窮。不死何待。且臣受梁恩。非死不能報。豈有朝事梁。而暮事晉。生何面目。見天下之人乎。莊宗又遣明宗。往諭之。彥章病創臥不能起。仰顧明宗。呼其小字曰。汝非邈佶烈乎。我豈苟活者。遂見殺。年六十一。晉高祖時。追贈彥章太師。與彥章同時。有●裴約者。潞州之牙將也。莊宗以李嗣昭。爲昭義軍節度使。約以裨將。守澤州。嗣昭●卒。其子繼韜。以澤潞叛。降于梁。約召其州人。泣而諭曰。吾事故使。二十餘年。見其分財饗士。欲報梁仇。不幸早世。今郎君。父喪未葬。遽背君親。吾能死于此。不能從以歸梁也。衆皆感泣。梁遣董璋。率兵圍之。約與州人。拒守。求救於莊宗。是時莊宗方與梁人戰河上。而已建大號。聞繼韜叛降梁。頗有憂色。及聞約獨不叛。喜曰。吾於繼韜何薄。於約何

〔楊。五代史作陽。版作戲。號下有爲字。于作於。無州字。〕

厚。而約能分逆順耶。顧符存審曰。吾不惜澤州與梁。一州易得。約難得也。俯識機。使爲我取約來。存審以五千騎馳至遼州。而梁兵已破澤州。約見殺。至周世宗時。又有劉仁贍者焉。仁贍字守惠。彭城人也。父金事楊行密。爲濠滁二州刺史。以驍勇知名。仁贍爲將。輕財重士。法令嚴肅。少略通兵書。事南唐。爲左監門衛將軍、黃袁二州刺史。所至稱治。李景使掌親軍。以爲武昌軍節度使。周師征淮。先遣李穀攻壽春。景遣將劉彥貞拒周兵。以仁贍爲清淮軍節度使。鎮壽州、李穀退守正楊●浮橋。彥貞見周兵之却。意其怯。急追之。仁贍以爲不可。彥貞不聽。仁贍獨按兵城守。彥貞果敗於正楊。世宗攻壽州。圍之數重。以方舟載礮。自淝河中流擊其城。又東巨竹數十萬竿。上施版●屋。號●竹龍。載甲士以攻之。又決其水砦。入于淝河。攻之百端。自正月至于●四月。不能下。而歲大暑。霖雨彌旬。周兵營寨。水深數尺。淮淝暴漲。礮舟竹龍皆飄南岸。爲景兵所焚。周兵多死。世宗東趨濠梁。以李重進爲廬壽州●都招討使。景亦遣其元帥齊王景達等。列砦紫金山下。爲夾道以屬城中。而重進與張永德。兩軍相疑不協。仁贍屢請出戰。

〔五代史。賜下有以字。病作疾。〕

景達不許。由是憤惋成疾。明年正月。世宗復至淮上。盡破紫金山砦。壞其夾道。景兵大敗。諸將往往見擒。而景之守將廣陵馮延魯。光州張紹。舒州周祚。泰州方訥泗州范再遇等。或走或降。皆不能守。雖景君臣。亦皆震懾。奉表稱臣。願獻土地輸貢賦。以效誠款。而仁贍獨堅守不可下。世宗使景所遣使者孫晟等至城下示之。仁贍子崇諫。幸其父病。謀與諸將出降。仁贍立命斬之。監軍使周廷構。哭於中門救之。不得。於是士卒皆感泣。願以死守。三月仁贍病甚。已不知人。其副使孫羽詐爲仁贍書。以城降。世宗命舁仁贍至帳前。嘆嗟久之。賜玉帶御馬。復使入城養病。是日卒。制曰。劉仁贍。盡忠所事。抗節無虧。前代名臣。幾人可比。予之南伐。得爾爲多。乃拜仁贍檢校太尉。兼中書令。天平軍節度使。仁贍不能受命而卒。年五十八。世宗遣使弔祭。喪事官給。追封彭城郡王。以其子崇讚爲懷州刺史。賜莊宅各一區。李景聞仁贍卒。亦贈太師。壽州故治壽春。世宗以其難尅。遂徙城下蔡。而復其軍。曰忠正軍。曰。吾以旌仁贍之節也。

嗚呼。天下惡梁久矣。然士之不幸而生其時者。不爲之臣可也。其食人之祿者。

〔五代史無後字。予作於。〕

〔晉梁。五代史作梁晉。太原下有下字。〕

必死人之事。如彥章者。可謂得其死哉。仁贍既殺其子。以自明矣。豈有垂死而變節者乎。今周世宗實錄。載仁贍降書。蓋其副使孫羽等所爲也。當世宗時。王環爲蜀守秦州。攻之。久不下。其後力屈而降。世宗頗嗟其忠。然止以爲大將軍。視世宗待二人之薄厚。而考其制書。乃知仁贍非降者也。自古忠臣義士之難得也。五代之亂。三人者。或出于僞國之臣。可勝歎哉。可勝歎哉。

## 周德威傳　六一

周德威字鎭遠。朔州馬邑人也。爲人勇而多智。能望塵以知敵數。其狀貌雄偉。笑不改容。人見之凜如也。事晉王爲騎將。稍遷鐵林軍使。從破王行瑜。以功遷內衙指揮使。其小字陽五。當晉梁之際。周陽五之勇聞天下。梁軍圍晉太原。令軍中曰。能生得周陽五者。爲刺史。有驍將陳章者。號陳野叉。常乘白馬被朱甲以自異。出入陣中。求周陽五。欲必生致之。晉王戒德威曰。陳野叉欲得汝以求刺史。見白馬朱甲者。宜善備之。德威笑曰。陳章好大言耳。安知刺史非臣作邪。

〔稍。五代史作梢。拒作距。〕

因戒其部兵曰。見白馬朱甲者。當佯走以避之。兩軍皆陣。德威微服雜卒伍中。陳章出挑戰。兵始交。德威部下見白馬朱甲者。因退走。章果奮稍●急追之。德威伺章已過。揮鐵鎚擊之。中章墮馬。遂生擒之。梁攻燕。晉遣德威將五萬人。爲燕攻梁。取潞州。遷代州刺史。內外蕃漢馬步軍都指揮使。梁軍捨燕攻潞。圍以夾城。潞州守將李嗣昭閉城拒●守。而德威與梁軍相持於外。踰年。嗣昭與德威素有隙。晉王病且革。語莊宗曰。梁軍圍潞。而德威與嗣昭有隙。吾甚憂之。王喪在殯。莊宗新立。殺其叔父克寧。國中未定。而晉之重兵。悉屬德威于外。晉人皆恐。莊宗使人以喪及克寧之難告德威。且召其軍。德威聞命。卽日還軍太原。留其兵城外。徒步而入。伏梓宮前。慟哭幾絕。晉人乃安。遂從莊宗。復擊梁軍。破夾城。與李嗣昭歡如初。以破夾城功。拜振武節度使。同中書門下平章事。天祐七年秋。梁遣王景仁。將魏滑汴宋等兵七萬人擊趙。趙王王鎔。乞師于晉。晉遣德威先屯趙州。冬。梁軍至于栢鄉。趙人告急。莊宗自將出贊皇。會德威于石橋。進距栢鄉五里。營于野河北。晉兵少。而景仁所將神威龍驤拱宸等軍。皆梁精兵。人

〔五代史。皆下有予字。〕

馬鎧甲。飾以組繡金銀。其光耀日。皆軍望之色動。德威勉其衆曰。此汴宋傭販兒。徒飾其外耳。其中不足懼也。其一甲之直數十千。得之適足爲吾資。無徒望而愛之。當勉以往取之也。退而告莊宗曰。梁兵甚銳。未可與爭。宜少退以待之。莊宗曰。吾提孤軍出千里。其利速戰。今不乘勢急擊之。使敵知吾之衆寡。則吾無所施矣。德威曰。不然。趙人能城守。而不能野戰。吾之取勝。利在騎兵。平川廣野。騎兵之所長也。今吾軍於河上。迫賊營門。非吾用長之地也。莊宗不悅。退臥帳中。諸將無敢入見。德威謂監軍張承業曰。王怒老兵。不速戰者非怯也。且吾兵少而臨賊營門。所恃者一水隔耳。使梁得舟栰渡河。吾無類矣。不如退軍鄗邑。誘敵出營。擾而勞之。可以策勝也。承業入言曰。德威老將知兵。願無忽其言。莊宗遽起曰。吾方思之耳。已而德威獲梁游兵。問景仁何爲。曰。治舟數百。將以爲浮梁。德威引與俱見。莊宗笑曰。果如公所料。乃退軍鄗邑。德威晨遣三百騎。叩梁營挑戰。自以勁兵三千繼之。景仁怒。悉其軍以出。與德威轉鬪數十里。至于鄗南。兩軍皆陣。梁軍橫亘六七里。汴宋之軍居西。魏滑之軍居東。莊宗策馬登

〔五代史地下有也字。纔可進作可纔進。軍作陣。無于字。常作嘗。〕

高。望而喜曰。平原淺草。可前可卻。眞吾之勝地。乃使人告德威曰。吾當爲公先。公纔可進。德威持馬諫曰。梁軍輕出、而遠來。與吾轉戰。其來必不暇齎糧糗。縱其能齎。亦不暇食。不及日午。人馬俱饑。因其將退而擊之勝。諸將亦皆以爲然。至未申時。梁軍東偏塵起。德威鼓譟而進。麾其西偏曰、魏滑軍走矣。又麾其東偏曰。梁軍走矣。梁軍動不可復整。乃皆走、遂大敗。自鄗追至于柏鄉。横屍數十里、景仁以十餘騎僅而免、自梁與晉爭。凡數十戰、其大敗未嘗如此。劉守光僭號於燕。晉遣德威、將兵三萬、出飛狐。以擊之。德威入祁溝關。取涿州、遂圍守光於幽州。破其外城。守光閉門距守。而晉軍盡下燕諸州縣、獨幽州不下。圍之踰年。乃破之。以功拜盧龍軍節度使。德威雖爲大將、而常身與士卒馳騁於矢石之間。守光驍將單廷珪望見德威於陣曰。此周陽五也、乃挺槍馳騎追之。德威佯走。度廷珪垂及。側身少卻、廷珪馬方馳不可止。縱其少過、奮檛擊之。廷珪墜馬、遂見擒。莊宗與劉鄩相持于魏。鄩夜潛軍出黃澤關、以襲太原。德威自幽州、以千騎入土門以躡之。鄩至樂平、遇雨不得進而還。德威與鄩俱東、爭趨臨淸、

「五代史周德威傳。常務持重之句。直接晉高祖追封云云。中間三百五十九字。同書符存信傳中之文也。」
「汴宋。五代史作汴州。遂作逐。」

臨淸有積粟。且晉軍餉道也。德威先馳據之。以故莊宗卒能困鄩軍而敗之。莊宗勇而好戰。尤銳於見敵。德威老將。常務持重。以挫人之鋒。故其用兵。常伺敵之隙以取勝。十五年。德威將燕兵三萬人。與鎭定等軍從莊宗于河上。自麻家渡進軍臨濮。以趨汴州。軍宿胡柳陂。黎明候騎報曰。梁軍至矣。莊宗問戰於德威。德威對曰。此去汴宋。信宿而近。梁軍父母妻子皆在其中。而梁人家國繫此一舉。吾以深入之兵。當其必死之戰。可以計勝。而難與力爭也。且吾軍先至此。糧爨具。而營柵完。是謂以逸待勞之師也。王宜按軍無動。而臣請以騎軍擾之。使其營柵不得成。樵爨不暇給。因其勞乏而乘之。可以勝也。莊宗曰。吾軍河上。終日俟敵。今見敵不擊。復何爲乎。顧李存審曰。公以輜重先。吾爲公殿。遂督軍而出。德威謂其子曰。吾不知死所矣。前遇梁軍而陣。王軍居中。鎭定之軍居左。德威之軍居右。而輜重次右之西。兵已接。莊宗率銀槍軍。馳入梁陣。梁軍小敗。犯晉輜重。輜重見梁朱旗。皆驚走入德威軍。德威軍亂。梁軍乘之。德威父子皆戰死。莊宗與諸將相持而哭曰。吾不聽老將之言。而使其父子至此。莊宗卽位。

〔於。五代史作于。下同。自作咎。亡作忘。〕

贈德威太師。明宗時加贈太尉。配享莊宗廟。晉高祖追封德威燕王。子光輔官至刺史。

## 伶官傳敍論　六一

嗚呼盛衰之理。雖曰天命。豈非人事哉。原莊宗之所以得天下。與其所以失之者。可以知之矣。世言。晉王之將終也。以三矢賜莊宗。而告之曰。梁吾仇也。燕王吾所立。契丹與吾約爲兄弟。而皆背晉以歸梁。此三者吾遺恨也。與爾三矢。爾其無忘乃父之志。莊宗受而藏之於廟。其後用兵。則遣從事以一少牢告廟。請其矢。盛以錦囊。負而前驅。及凱旋而納之。方其繫燕父子以組。函梁君臣之首。入於太廟。還矢先王。而告以成功。其意氣之盛。可謂壯哉。及仇讐已滅。天下已定。一夫夜呼。亂者四應。倉皇東出。未及見賊而士卒離散。君臣相顧。不知所歸。至於誓天斷髮。泣下沾襟。何其衰也。豈得之難而失之易歟。抑本其成敗之迹。而皆自於人歟。書曰。滿招損。謙受益。憂勞可以興國。逸豫可以亡身。自然之理

〔壽昌。五代史作壽張〕

也。故方其盛也。擧天下之豪傑。莫能與之爭。及其衰也。數十伶人困之。而身死國滅。爲天下笑。夫禍患常積於忽微。而智勇多困于所溺。豈獨伶人也哉。作伶官傳。

錦囊三矢。是口碑俗說不得出之本紀。而不出可惜。故不得已而見於伶人傳中。遂膾炙千古人口。〇歐公議論。每不直說破。作俯仰低回之態。所以文態旖旎。史中論贊。尤須用此體。使三蘇倣之。必張膽明目。一語喝破而已。

## 王彥章畫像記　六一

太師王公諱彥章。字子明。鄆州壽昌人也。事梁爲宣義軍節度使。以身死國。葬於鄭州之管城。晉天福二年。始贈太師。公在梁。以智勇聞。梁晉之爭。數百戰。其爲勇將多矣。而晉人獨畏彥章。自乾化後。常與晉戰。屢困莊宗於河上。及梁末年。小人趙巖等用事。梁之大臣老將。多以讒不見信。皆怒而有怠心。而梁亦盡失河北。事勢已去。諸將多懷顧望。獨公奮然自必。不少屈懈。志雖不就。卒死以

○一頓然後洗發妙。

○得此一段考據、見文非徒作。讀之覺有精神。

○沈云。插入自己用奇取

忠。公既死而梁亦亡矣。悲夫。五代終始纔五十年。而更十有三君。五易國。而八姓。士之不幸而出乎其時。能不汚其身。得全其節者鮮矣。公本武人。不知書。其語質。平生嘗謂人曰。豹死留皮。人死留名。蓋其義勇忠信出於天性而然。予於五代書。竊有善善惡惡之志。至於公傳。未嘗不感憤歎息。惜乎。舊史殘略。不能備公之事。康定元年。予以節度判官來此。求於滑人。得公之孫睿所錄家傳。頗多於舊史。其記德勝之戰尤詳。又言。敬翔怒末帝不肯用公。欲自經於帝前。公因用笏畫山川。爲御史彈而見廢。又言。公五子。其二同公死節。此皆舊史無之。又云。公在滑。以讒自歸於京師。而史云。召之。是時梁兵盡屬段凝。京師羸兵不滿數千。公得保鑾五百人之鄆州。以力寡敗於中都。而史云。將五千以往者。亦皆非也。公之攻德勝也。初受命於帝前。期以三日破敵。梁之將相聞者皆竊笑。及破南城。果三日。是時莊宗在魏。聞公復用。料公必速攻。自魏馳馬來救。已不及矣。莊宗之善料。公之善出奇。何其神哉。今國家罷兵四十年。一旦元昊反。敗軍殺將。連四五年。而攻守之計。至今未決。予嘗獨持用奇取勝之議。而歎邊將

勝在內。文家用拓用縱法。忽斷忽續。筆法如游龍。沈評妙妙。先獲我心。

○沈云。勒歸本傳。東住卽以引起下文。沈評得肯綮。

○隱隱可見。是一篇精采處。

[五代史無尤字。]

○畫已百餘年云云。是雖似近語。大有風韻。

屢失其機。時人聞予說者。或笑以爲狂。或忽若不聞。雖予亦惑。不能自信。及讀公家傳。至於德勝之捷。乃知。古之名將必出於奇。然後能勝。然非審於爲計者。不能出奇。奇在速速在果。此天下偉男子之所爲。非拘牽常算之士可到也。每讀其傳。未嘗不想見其人。後二年予復來通判州事。歲之正月。過俗所謂鐵槍寺者。又得公畫像而拜焉。歲久磨滅隱隱可見。亟命工完理之。而不敢有加焉。懼失其眞也。公尤●善用槍。當時號王鐵槍。公死已百年。至今俗猶以名其寺。童兒牧豎皆知王鐵槍之爲良將也。一槍之勇。同時豈無。而公獨不朽者。豈其忠義之節使然歟。畫已百餘年矣。完之復可百年。然公之不泯者。不繫乎畫之存不存也。而予尤區區如此者。蓋其希慕之至焉耳。讀其書尙想乎其人。況得拜其像識其面目。不忍見其壞也。畫既完。因書予所得者于後。而歸其人使藏之。

與昌黎張巡傳敍一派。而面目皆換。彼敍議截然兩斷。此敍議渾融如斷如續。則又得子長骨法。

〔於。居士集作于。〕

## 豐樂亭記　　六一

修既治滁之明年夏。始飲滁水而甘。問諸滁人。得於州南百步之近。其上豐山聳然而特立。下則幽谷窈然而深藏。中有清泉滃然而仰出。俯仰左右。顧而樂之。於是疏泉鑿石。闢地以爲亭。而與滁人往遊其間。滁於五代干戈之際。用武之地也。昔太祖皇帝。嘗以周師。破李景兵十五萬於清流山下。生擒其將皇甫暉姚鳳於滁東門外。遂以平滁。修嘗考其山川。按其圖記。升高以望清流之關。欲求暉鳳就擒之所。而故老皆無在者。蓋天下之平久矣。自唐失其政。海內分裂。豪傑竝起而爭。所在爲敵國者。何可勝數。及宋受天命。聖人出而四海一。嚮之憑恃險阻。剗削消磨。百年之間。漠然徒見山高而水清。欲問其事。而遺老盡矣。今滁介於江淮之間。舟車商賈。四方賓客之所不至。民生不見外事。而安於畎畝衣食。以樂生送死。而孰知上之功德。休養生息。涵煦百年之深也。修之來此。樂其地僻而事簡。又愛其俗之安閑。既得斯泉於山谷之間。乃日與滁人仰而望山。俯而聽泉。掇幽芳而蔭喬木。風霜冰雪。刻露清秀。四時之景。無不可愛。

○少時云云伏案。

○筆墨瀟洒處。是其本色。非故意摸史遷者。

○不先點姓名。結構奇處。全在於此。

又幸其民樂其歲物之豐成。而喜與予遊也。因爲本其山川。道其風俗之美。使民知所以安此豐年之樂者。幸生無事之時也。夫宜上恩德。以與民共樂。刺史之事也。遂書以名其亭焉。

憑弔古跡。多悽愴悲深之意。而此文叙本朝創業之跡。畫出北宋全盛氣象。如紙上有瑞雲祥烟。是古今一種出色文字。○公之爲人。宏壯而敦厚。故其文章類之。其宏壯可及。其敦厚不可及。是東坡所以有遜色。

## 方山子傳　　東坡

方山子。光黃間隱人也。少時慕朱家郭解爲人。閭里之俠皆宗之。稍壯。折節讀書。欲以此馳騁當世。然終不遇。晩乃遯於光黃間。曰岐亭。庵居蔬食。不與世相聞。棄車馬。毀冠服。徒步往來山中。人莫識也。見其所著帽。方屋而高。曰。此豈古方山冠之遺像乎。因謂之方山子。余謫居於黃。過岐亭。適見焉。曰。嗚呼此吾故人陳慥季常也。何爲而在此。方山子亦矍然。問余所以至此者。余告之故。俯而

○此段。文之中權。得此前後皆有生色。

○而豈山中之人哉。是坡翁常調。然以此句混融敍議。如伯夷傳。因此觀之。怨邪非邪。蓋神合也。

不答、仰而笑。呼余宿其家。環堵蕭然。而妻子奴婢。皆有自得之意。余既聳然異之。獨念方山子。少時使酒好劍。用財如糞土。前十有九年。余在岐山。見方山子從兩騎。挾二矢。游西山。鵲起於前。使騎逐而射之。不獲。方山子怒馬獨出。一發得之。因與余馬上論用兵及古今成敗。自謂一世豪士。今幾日耳。精悍之色。猶見於眉間。而豈山中之人哉。然方山子。世有勳閥。當得官。使從事於其間。今已顯聞。而其家在洛陽。園宅壯麗。與公侯等。河北有田。歲得帛千匹。亦足以富樂。皆棄不取。獨來窮山中。此豈無得而然哉。余聞。光黃間多異人。往往陽狂垢汙。不可得而見。方山子儻見之與。

東坡自謂。軾雖能言語。於史事不是當行家。後人亦服其議論。不稱敍事。然如此一傳。可謂得龍門神髓矣。○文如游龍在雲中。乍現乍隱。究不露全身。所以爲妙。

謝選拾遺卷之五 終

# 謝選拾遺 卷之六

爲字集

○讀起即如開戶見山。

○狹天下。是一篇精神所爭。

「唯。東坡事略作推。辨作辯。讓作遜。」

○一鄉之推也之下。如何接去。忽出一譬。以智不若與上文關合。可博超凡之訣。

## 伊尹論

東坡

辨天下之大事者。有天下之大節者也。立天下之大節者。狹天下者也。夫以天下之大而不足以動其心。則天下之大節有不足立。而大事有不足辨者矣。今夫匹夫匹婦。皆知潔廉忠信之爲美也。使其果潔廉而忠信。則其智慮未始不如王公大人之能也。唯其所爭者。止於簞食豆羹。而簞食豆羹足以動其心。則宜其智慮之不出乎此也。簞食豆羹非其道不取。則一鄉之人。莫敢以不正犯之矣。一鄉之人莫敢以不正犯之。而不能辨一鄉之事者。未之有也。推此而上。其不取者愈大。則其所辨者愈遠矣。讓天下。與讓簞食豆羹無以異也。治天下。與治一鄉亦無以異也。然而不能者。有所蔽也。天下之富。是簞食豆羹之積也。天下之大是一鄉之推也。非千金之子。不能運千金之資。販夫販婦。得一金而

○是作論根柢。

〔東坡事略無以字。不知下有其字。〕

○沈云。拓開一步。是文章斷法。

○沈評。善觀坡文之天倪者。

○坡老不愧此言者。

○後之君子云云。是東坡慣用手法。又是東坡喜出語調。

〔讓。東坡事略作遜。〕

○孔子安取哉。筆態飛舞。

不知所措。非智不若。所居之卑也。孟子曰。伊尹耕於有莘之野。非其道也非其義也。雖祿之以天下弗受也。夫天下不能動其心。是故其才全。以其全才而制天下。是故臨大事而不亂。古之君子。必有高世之行。非苟求爲異而已。卿相之位。千金之富。有所不屑。將以自廣其心。使窮達利害不能爲之芥蒂。以全其才。而欲有所爲耳。後之君子。蓋亦嘗有其志矣。得失亂其中。而榮辱奪其外。是以後役至於老死而不暇。亦足悲矣。孔子敍書。至於舜禹皐陶相讓之際。蓋未嘗不太息也。夫以朝廷之尊。而行匹夫之讓。孔子安取哉。取其不汲汲於富貴。有以大服天下之心焉耳。夫太甲之廢。天下未嘗有是。而伊尹始行之。天下不以爲驚。以臣放君。天下不以爲僭。既放而復立。太甲不以爲專。何則其素所不屑者足以取信於天下也。彼其視天下。眇然不足以動其心。而豈忍以廢放其君求利也哉。後之君子蹈常而習故。惴惴焉懼不免於天下。一爲希闊之行。則天下羣起而誚之。不知求其素。而以爲古今之變時有所不可者。亦已過矣夫。

此文。士子當每日一誦。不獨養文心。乃養浩氣。○沈云。其才在辨大事。而其

○因一喩帶說商周了。筆氣宕逸。

本由於立大節。論伊尹公亦自抒其志概也。○沈評、可謂坡老知己也。然余平生所見如此。不圖、睹想先生先獲我心。

## 論周東遷。

東坡

太史公曰、學者皆稱周伐紂、居洛邑。其實不然。武王營之。成王使召公卜居之。居九鼎焉、而周復都豐鎬。至犬戎敗幽王周乃東徙於洛。蘇子曰、周之失計、未有如東遷之謬也。自平王至於亡、非有大無道者也。髭王之神聖、諸侯服享。然終以不王。由東遷之過也。昔武王克商、遷九鼎於洛邑。成王周公復增營之。周公既沒、蓋君陳畢公更居焉、以重王室而已。非有意於遷也。周公欲葬成周。而成王葬之畢。此豈有意於遷哉。今夫富民之家、所以遺其子孫者、田宅而已。不幸而有敗、至於乞假以生可也。然終不敢議田宅。今平王舉文武成康之業、而大棄之。此一敗而鬻田宅者也。夏商之王、皆五六百年。其先王之德、無以過周。而後王之敗亦不減幽厲。然至於桀紂而後亡。其未亡也。天下宗之。不如東周

○以下歷擧遷者。論所以遷有不同。直到篇末。一氣流注。中間波瀾起伏。使讀者不見其平列。
○就無數遷者之中。忽擧不遷者二。趁筆勢歸到平王。縱恣不羈。
○使平王有一王導。此句妙。即武王論中。是文王之道。文若之心也。同一手法。
○而秦何自伯哉。作飛舞之筆。生四畏秦之句。眞仙人狡獪技倆。

之名存而實亡也。是何也。則不鬻田宅之效也。盤庚之遷也。復殷之舊也。古公遷於岐。方是時。周人如狄人也。逐水草而居。豈所難哉。衞文公東徙渡河。恃齊而存耳。齊遷臨淄。晉遷於絳於新田。皆其盛時。非有所畏也。其餘避寇而遷都。未有不亡。雖不即亡。未有能復振者也。春秋時。楚大饑。羣蠻叛之。申息之北門不啓。楚人謀徙於阪高。蔿賈曰。不可。我能往。寇亦能往。於是乎。以秦人巴人滅庸。而楚始大。蘇峻之亂。晉幾亡矣。宗廟宮室盡爲灰燼。溫嶠欲遷都豫章。三吳之豪欲遷會稽。將從之矣。獨王導不可曰。金陵王者之都也。王者不以豐儉移都。若弘衞文大帛之冠。何適而不可。不然。雖樂土爲墟矣。且北寇方强。一旦示弱。竄於蠻夷。望實皆喪矣。乃不果遷。而晉復安。賢哉導也。可謂能定大事矣。嗟夫。平王之初。周雖不如楚之强。顧不愈於東晉之微乎。使平王有一王導定不遷之計。收豐鎬之遺民。而修文武成康之政。以形勢臨東諸侯。齊晉雖强。未敢貳也。而秦何自霸哉。魏惠王畏秦。遷於大梁。楚昭王畏秦。遷於鄀。頃襄王畏秦遷於陳。考烈王畏秦。遷於壽春。皆不復振。有亡徵焉。東漢之末。董卓劫帝遷於

○起法突兀。一篇英奇之文。非此提不起。

○夫唯智勇句。是蘇家常調。

○時爲詠歎。亦其家法。

○入題未幾。忽又入高帝一去。手法不測。

○惜乎句。如憑風而呼下

長安。漢遂以亡。近世李景。遷於豫章。亦亡。故曰。周之失計。未有如東遷之繆也。

志林論古。皆偶見隨筆。與少時結構作論不同。往往把數件故事。打成一片。如陶工埴土成器。心手相應。作法自在。

## 三國論　　潁濱

天下皆怯而獨勇。則勇者勝。皆闇而獨智。則智者勝。勇而遇勇。則勇者不足恃也。智而遇智。則智者不足恃也。夫唯智勇之不足以定天下。是以天下之難蠭起而難平。蓋嘗聞之。古者英雄之君。其遇智勇也。以不智不勇。而後眞智大勇。乃可得而見也。悲夫。世之英雄。其處於世。亦有幸不幸耶。漢高祖唐太宗。是以智勇獨過天下。而得之者也。曹公孫劉。是以智勇相遇。而失之者也。以智攻智。以勇擊勇。此譬如兩虎相捽。齒牙氣力無以相勝。其勢足以相擾。而不足以相斃。當此之時。惜乎。無有以漢高帝之事制之者也。昔者項籍乘百戰百勝之威。而執諸侯之柄。咄嗟叱咤。奮其暴怒。西向以逆高祖。其勢飄忽震蕩。如風雨之

面趁勢捲起。

○此等形容委曲詳盡。筆無遺憾。使讀者人人領解。古今唯蘇氏。唯子由而已。

○而項籍一句。頓落絕妙。他人必費幾句。然後至項籍。

○一小段洗發主意。承上起下。

○前面說用其不智不勇。閉門拒敵之意。已詳盡。此處唯說所以用之之術。

至。天下之人以爲遂無漢矣。然高帝以其不智不勇之身。橫塞其衝。徘徊而不得進。其頑鈍椎魯。足以爲笑於天下。而卒能摧折項氏。而待其死。此其故何也。夫人之勇力。用而不已。則必有所耗竭。而其智慮。久而無成。則亦必有所倦怠而不舉。彼欲用其所長。以制我於一時。而我閉門而拒之。使之失其所求逡巡求去而不能去。而項籍固已憊矣。今夫曹公・孫權・劉備。此三人者。皆知以其才相取。而未知以不才取人也。世之言者曰。孫不如曹。而劉不如孫。劉備唯智短而勇不足。故有所不若於二人者。而不知因其所不足以求勝。則亦已惑矣蓋劉備之才。近似於高祖。而不知所以用之之術。昔高祖之所以自用其才者。其道有三焉耳。先據勢勝之地。以示天下之形。廣收信越出奇之將。以自輔其所不逮。有果銳剛猛之氣而不用。以深折項籍猖狂之勢。此三事者。三國之君其才皆無有能行之者。獨有一劉備近之。而未至其中。猶有翹然自喜之心。欲爲椎魯。而不能純。欲爲果銳而不能達。二者交戰於中。而未有所定。是故所爲而不成。所欲而不遂。棄天下而入巴蜀。則非地也。用諸葛孔明治國之才而當紛

○添漢高帝一句。掉尾。呼應惜夫云云句。

紘征伐之衝。則非將也。不忍忿忿之心。犯其所短而自將以攻人。則是其氣不足尚也。嗟夫。方其奔走於二袁之間。困於呂布。而狼狽於荊州。自敗而其志不折。不可謂無高祖之風矣。而終不知所以自用之方。夫古之英雄。唯漢高帝爲不可及也夫。

有果銳剛猛之氣而不用。是主意。却在最末入劉備處頂之而說。一順一倒。主意明白。○又把地與將與氣三事。順敍。以奔走狼狽承之應上半篇。不智不勇以所以自用結之。應下半篇之意。

## 隋論　　　頴濱

人之於物。聽其自附。而任其自去。則人重而物輕。人重而物輕。則物之附人也堅。物之所以去人分裂四出。而不可禁者。物重而人輕也。古之聖人。其取天下。非其驅而來之也。其守天下。非其劫而留之也。使天下自附。不得已而爲之長。吾不役天下之利。而天下自至。夫是以去就之權在君。而不在民。是之謂人重

○以術留天下。而天下去。即物重人輕之意。下面說秦說隋處。皆以此血泳通貫其中。

○重失天下云云。即以術留天下。以上是客。故入題處。直頂此意。見天下之久不定云云。冒議論起。主客體裁宜如此。

○說客處。敍事多。說主處。

而物輕。且夫吾之於人。己求而得之。則不若使之求我而後從之。己守而固之。則不若使之不忍去我而後與之。故夫智者。或可與取天下矣。而不可與守天下。守天下。則必有大度者也。何者非有大度之人。則常恐天下之去我。而以術留天下。以術留天下。而天下始去之矣。昔者三代之君。享國長遠。後世莫能及。然而亡國之暴。未有如秦隋之速。二世而亡者也。夫秦隋之亡。其弊果安在哉。自周失其政。諸侯用事。而秦獨得山西之地。不過千里。韓魏壓其衝。楚脅其肩。燕趙伺其北。而齊掉其東。秦人被甲持兵。七世而不得解。寸攘尺取。至始皇然後合而爲一。秦見其取天下若此其難也。而以爲不急持之。則後世且復割裂以爲敵國。是以銷名城。殺豪傑。鑄鋒鏑。以絕天下之望。其所以備慮而固守之者。甚密如此。然而海內愁苦無聊。莫有不忍去之意。是以陳勝項籍。因民之不服。長呼起兵。而山澤皆應。由此觀之。豈非其重失天下。而防之太過之弊歟。今夫隋文之世。其亦見天下之久不定。而重失其定也。蓋自東晉以來。劉聰石勒慕容垂苻堅姚興赫連之徒。紛紛而起者。不可勝數。至於元氏。迭存滅取。略已

議論多。以客形主。法宜如此。

〇說隋一段。多議論。故結處不復別著斷語。以無以異於秦也。結之與上段相聯合而已。是取捨詳略法。宜如此。

〇又歸到篇首之意。忽挿入慘急一句。倒收不脫題。出以對語。使讀者不覺用筆敏甚。

〇起處用短語。結處用長句。全勢勻稱。

盡矣。而南方未服。元氏自分而爲周齊。周幷齊。而授之隋。隋文取梁滅陳。而後天下爲一。彼亦見天下之久不定也。是以既得天下之衆。而恐其失之。享天下之樂。而懼其不久。立於萬民之上。而常有猜防不安之心。以爲舉世之人。皆有覬者英雄割據之懷。制爲嚴法峻令。以杜天下之變。謀臣舊將。誅滅略盡。而獨死於楊素之手。以及於大故。終於煬帝之際。天下大亂。塗地而莫之救。由此觀之。則夫隋之所以亡者。無以異於秦也。悲夫。古之聖人修德。以來天下。天下之所爲去就者。莫不在我。故其視失天下甚輕。夫惟視失天下甚輕。是故其心舒緩。而其爲政也寬。寬者生於無憂。而慘急者生於無聊耳。昔嘗聞之。周之興。太王避狄於岐。豳之人民。扶老攜幼。而歸之岐山之下。累累而不絕。喪失其舊國。而卒以大興。及觀秦隋唯不忍失之。而至於亡。然後知聖人之爲是寬緩不速之行者。乃其所以深取天下者也。

隋唐二論。子由文中之最足不朽者。父兄無此著實。又無此明亮。非二十分識力透徹人情世故。不能做此等文。〇一篇結構在物重人輕。人重物輕兩

意。使他人作之。必對擧兩意。爲雙關法。今以人重物輕說起。末亦以此結住。而物重人輕句。唯一見。不復言。古人之不可及處。正在於此。

○複固不可使在內一語。故客主判然。又化板爲活法也。

## 唐論　頴濱

天下之變。常伏於其所偏重而不擧之處。故內重則爲內憂。外重則爲外患。古者聚兵京師。外無强臣。天下之事。皆制於內。當此之時。謂之內重。內重之弊。奸臣內擅。而外無所忌。匹夫橫行於四海。而莫能禁。其亂不起於左右之大臣。則生於山林小民之英雄。故夫天下之重。不可使專在內也。古者諸侯大國。或數百里。兵足以戰。食足以守。而其權足以生殺。然後能使四夷盜賊之患。不至於內。天子之大臣。有所畏忌。而內患不作。當此之時。謂之外重。外重之弊。諸侯擁兵。而內無以制。由此觀之。則天下之重。固不可使在內。而亦不可使在外也。自周之衰。齊晉秦楚。縣地千里。內不勝於其外。以至於滅亡而不救。秦人患其外之已重。而至於此也。於是收天下之兵。而聚之關中。夷滅其城池。殺戮其豪傑。

○極言內重之弊。且爲結尾伏案。

○數代間。亦有外重之禍。八王之亂。最其彰較者。作者意在說內重之弊。故輕輕說過。直至朝廷權臣山林匹夫。大聲暢言。

○此似總收內外。然以下且夫天子之於天下一段承之。仍說內重之害耳。

○唐初之制內外兩重。其至外重者。後人不善守其法之所致。宋

使天下之命。皆制於夫子。然至於二世之時。陳勝吳廣。大呼起兵。而郡縣之吏。熟視而走。無敢誰何。趙高擅權於內。頤指如意。雖李斯爲相。備五刑而死於道路。其子李由守三川。擁山河之固。而不敢校也。此二患者。皆始外之不足。而無有以制之也。至於漢興。懲秦孤立之弊。乃大封侯王。而高帝之世。反者九起。其遺孽餘烈。至於文景。而爲淮南濟北吳楚之亂。於是。武帝分裂諸侯。以懲大國之禍。而其後百年之間。王莽遂得以奮其志於天下。而劉氏之子孫。無復齟齬。魏晉之世。乃益侵削諸侯。四方微弱。不復爲亂。而朝廷之權臣。山林之匹夫。常爲天下之大患。此數君者。其所以制其內外輕重之際。皆有以自取其亂。而莫之或知也。夫天下之重。在內則爲內憂。在外則爲外患。而秦漢之間。不求其勢之本末。而更相懲戒。以就一偏之利。故其禍循環無窮。而不可解也。且夫天子之於天下。非如婦人孺子之愛其所有也。得天下而謹守之。不忍以分於人。此匹夫之所謂智也。而不知其無成者。未始不自不分始。故夫聖人將有所大定於天下。非外之有權臣。則不足以鎭之也。而後世之君。乃欲去其爪牙。翦其股

太祖矯枉過直。偏重其內。是子由平生所憂。故喻以婦人女子。極論不可。

○此段眞個總收內外。爲唐制內外兩重張本。

○杜收之戰守二論。原十六衛。新唐書兵志。俱似讓此通暢明盡。

○前而說周秦處。實借客形主。故入主處。視前較短。而不疊其短。

肱。而責其成功。亦已過矣。夫天下之勢。內無重。則無以威外之強臣。外無重。則無以服內之大臣。而絕姦民之心。此二者。其勢相持而後成。而不可一輕者也。昔唐太宗既平天下。分四方之地。盡以沿邊爲節度府。而范陽朔方之軍。皆帶甲十萬。上足以制夷狄之難。下足以備匹夫之亂。內足以禁大臣之變。而將帥之臣。常不至於叛者。內有重兵之勢。以預制之也。貞觀之際。天下之兵。八百餘府。而在關中者五百。舉天下之衆。而後能當關中之半。然而朝廷之臣。亦不至於乘間釁以邀大利者。外有節度之權。以破其心也。故外之節度。有周之諸侯外重之勢。而易置從命。得以擇其賢不肖之才。是以人君無征伐之勞。而天下無世臣暴虐之患。內之府兵。有秦之關中內重之勢。而左右謹飭。莫敢爲不義之行。是以上無逼奪之危。下無誅絕之禍。蓋周之諸侯。內無府兵之威。故陷於逆亂。而不能以自止。秦之關中。外無節度之援。故脅於大臣。而不能以自立。有周秦之利。而無周秦之害。形格勢禁。內之不敢爲變。而外之不敢爲亂。未有如唐制之得者也。而天下之士。不究利害之本末。猥以成敗之遺蹤。而論計之得

〇以上窮其所由勝敗。以下趨筆驚外重之利。遙應前面說秦弊處。手法甚奇敏。

〇此處猶可說數語。以前已詳盡。故約略結去。

失。徒見開元之後。強兵悍將。皆爲天下之大患。而遂以太宗之制。爲猖狂不審之計。夫論天下。論其勝敗之形。以定其法制之得失。則不若窮其所由勝敗之處。蓋天寶之際。府兵四出。萃於范陽。而德宗之世。楚兵皆戍趙魏。是以祿山朱泚。得至於京師。而莫之能禁。一亂塗地。終於昭宗。而天下卒無寧歲。内之強臣。雖有輔國元振守澄士良之徒。而卒不能制唐之命。誅王涯。殺賈餗。自以爲威震四方。然劉從諫爲之一言。而震慴自斂。不敢復肆。其後崔昌遐倚朱溫之兵。以誅宦官。去天下之監軍。而無一人敢與抗者。由此觀之。唐之衰。其弊在於外重。而外重之弊。起於府兵之在外。非所謂制之失。而後世之不用也。

古今論天下大勢者。賈生治安第一策以下。不世出。至柳州封建論。老蘇審敵。結構布置。猶有典刑。此論。却於數子法外。爲一往明暢流易之文。尤益初學。作大文字者。當自此等悟入。〇封建論不置破題於首。此論不然。〇唐初之制。内外兩重。其衰也外重。而外重者由後世不用其制。

○東坡兄弟。善用之字。爲句調。蓋老泉鼓之也。

○不義之徒。不仁之器。殺人之事。此等語。讀疊大可駭。徐而考之。其實然也。特凡人不能見到。不能道出。

〔行。嘉祐集作試。〕〔作日。〕〔嘉祐集無則思以爲姦五字。〕

## 上韓樞密書。　老泉

太尉執事。洵著書無他長。及言兵事。論古今形勢。至自比賈誼。所獻權書。雖古人已往成敗之迹。苟深曉其義。施之於今。無所不可。昨因請見。求進末議。太尉許諾。謹撰其說。言語朴直。非有驚世絕俗之談。甚高難行之論。太尉取其大綱。而無責其纖悉。蓋古者非用兵決勝之爲難。而養兵不用之可畏。今夫水激之山。放之海。決之爲溝塍。壅之爲沼沚。是天下之人能之。委江河。注淮泗。滙爲洪波。瀦爲大湖。萬世而不溢者。自禹之後。未之見也。夫兵者聚天下不義之徒。授之以不仁之器。而教之以殺人之事。夫惟天下之未安。盜賊之未殄。然後有以施其不義之心。用其不仁之器。而行其殺人之事。當是之時。勇者無餘力。智者無餘謀。巧者無餘技。故其不義之心。變而爲忠。不仁之器。加之於不仁。而殺人之事。施之於當殺。及夫天下既平。盜賊既殄。不義之徒。聚而不散。勇者有餘力。則思以爲亂。智者有餘謀。則思以爲姦。巧者有餘技。則思以爲詐。於是天下之患。雜然出矣。蓋虎豹終日而不殺。則跳踉大叫。以發其怒。蝮蝎終日而不螫。則

〔嘉祐集無臂字。莽作莾、方是時。作方將。涉作履。〕
○是三蘇。每每爲談柄者。
○三蘇長於取譬。而老泉最奇逸。
○秦楚無賴子弟云云。是亦其實爲近。而人不能道者。
○嗚呼不有聖人一句。出聖人意表。結漢事。及本朝事。總以此爲過渡處。絕妙。
○非人得千金一句。有萬鈞力。

噬齧草木。以致其毒。其理固然。無足怪者。昔者劉項奮臂於草莽之間。秦楚無賴子弟。千百爲輩。爭起而應者。不可勝數。轉鬪五六年。天下厭兵。項籍死。而高祖亦已老矣。方是時。分王諸將。改定律令。與天下休息。而韓信黥布之徒。相繼而起者七國。高祖死於介冑之間。而莫能止也。連延及於呂氏之禍。訖孝文而後定。是何起之易。而收之難也。劉項之勢。初若決河。順流而下。誠有可喜。及其崩潰四出。放乎數百里之間。拱手而莫能救也。嗚呼。不有聖人。何以善其後。太祖太宗。躬擐甲冑。跋涉險阻。以斬刈四方之蓬蒿。用兵數十年。謀臣猛將滿天下。一旦卷甲而休之。傳四世而天下無變。此何術也。荊楚九江之地。不分於諸將。而韓信黥布之徒。無以啓其心也。雖然天下無變。而兵久不用。則其不義之心。蓄而無所發。飽食優游。求逞於良民。觀其平居無事。出怨言以邀其上。一日有急。是非人得千金。不可使也。往年詔天下。繕完城池。西川之事。洵實親見。凡郡縣之富民。舉而籍其名。得錢數百萬。以爲酒食饋餉之費。杵聲未絕。城輒隨壞。如此者。數年而後定。卒事。官吏相賀。卒徒相矜。若戰勝凱旋而待賞者。比來

〔譜。嘉祐集作饒。横作尤。於作于。無辟字。狠作狼。〕

○敍事處。錬句簡老。而意態生動。最不可及。

○天下之勢今何如也一句。截住。然後言馭兵之方。斷而復續。文調可喜。

〔嘉祐集無使字。昵作妮。〕

○言人情洞胸擢髓。

京師。遊阡陌間。其曹往往偶語。無所諱忌。聞之士人。方春時。横不忍聞。蓋時五六月矣。會京師憂大水。鋤耰畚築。列於兩河之壖。縣官日費千萬。傳呼勞問之聲。不絶者數十里。猶且睊睊狠顧。莫肯效用。且夫內之如京師之所聞。外之如西川之所親見。天下之勢今何如也。御將者天子之事也。御兵者將之職也。天子者。養尊而處優。樹恩而收名。與天下爲喜樂者也。故其道不可以御兵。人臣執法而不求情。盡心而不求名。出死力以捍社稷。使天下之心繫於一人而已不與焉。故御兵者人臣之事。不可以累天子也。今之所患。大臣好名而懼謗。好名則多樹私恩。懼謗則執法不堅。是以天下之兵。豪縱至此而莫之或制也。頃者狄公在樞府。號爲寬厚愛人。狎昵士卒。得其歡心。而太尉適承其後。彼狄公者。知御外之術。而不知治內之道。此邊將材也。古者兵在外。愛將軍而忘天子。在內愛天子而忘將軍。愛將軍所以戰。愛天子所以守。狄公以其御外之心而施諸其內。太尉不反其道。而何以爲治。或者以爲兵久驕不治。一旦繩以法。恐因以生亂。昔者郭子儀去河南。李光弼實代之將至之日。張用濟斬於轅門。三

○引或者疑。爲一段問答。是文中波瀾。不然則天子者可以生人。直接前段。不過反覆一意。文體平直矣。

〔慄。嘉祐集作栗。無敢字。可以殺人。作殺人。無歸字。惰作情。〕

軍股慄。夫以臨淮之悍。而代汾陽之長者。三軍之士竦然。如赤子之脫慈母之懷。而立乎嚴師之側。何亂之敢生。且夫天子者。天下之父母也。將相者。天下之師也。師雖嚴。赤子不敢以怨其父母。將相雖厲。天下不敢以咎其君。其勢然也。天子者可以生人。可以殺人。故天下望其生。及其殺之也。天下曰是天子殺之。故天子不可以多殺人。臣奉天子之法。雖多殺。天下無所歸怨。此先王所以威懷天下之術也。伏惟太尉思天下所以長久之道。而無幸一時之名。盡至公之心。而無邮三軍之多言。夫天子推深仁以結其心。太尉厲威武以振其惰。彼其思天子之深仁。則畏而不至於怨。思太尉之威武。則愛而不至於驕。君臣之體順。而畏愛之道立。非太尉吾誰望耶。

老泉言馭兵之方。無他術。唯多殺而已。所謂言語朴直。非有驚世之談者。乃以天子與將對待錯綜。故如有千波萬折。此法二子傳以爲祕訣。（）東坡。潁濱。論天下之勢。每取喩於水。總學於父者。而總不及父妙。

## 論養士　東坡

春秋之末。至於戰國。諸侯卿相皆爭養士。自謀夫說客。談天雕龍。堅白同異之流。下至擊劍扛鼎雞鳴狗盜之徒。莫不賓禮。靡衣玉食以館於上者。何可勝數。越王勾踐。有君子六千人。魏無忌・齊田文・趙勝黃歇呂不韋。皆有客三千人。而田文招致任俠姦人六萬家於薛。齊稷下談者亦千人。魏文侯燕昭王太子丹。皆致客無數。下至秦漢之間。張耳陳餘號多士。賓客廝養。皆天下豪傑。而田橫亦有士五百人。其略見於傳記者如此。度其餘當倍官吏而半農夫也。此皆姦民蠹國者。民何以支。而國何以堪乎。蘇子曰。此先王之所不能免也。國之有姦也。猶鳥獸之有猛鷙。昆蟲之有毒螫也。區處條理。使各安其處。則有之矣。鋤而盡去之。則無是道也。吾考之世變。知六國之所以久存。而秦之所以速亡者。蓋出於此。不可以不察也。夫智勇辯力。此四者皆天民之秀傑者也。類不能惡衣食以養人。皆役人以自養者也。故先王分天下之富貴與此四者共之。此四者不失職。則民靖矣。四者雖異。先王因俗設法。使出於一。三代以上出於學。戰國

○是爲神宗朝議裁減進士。借戰國養客一事立論。昔人未嘗窺破此意。

○敍事中帶有議論。

○至此純入議論。

○起得宏濶深遠。而亦無荆棘礙目。使讀者快心。看坡翁文要著眼此等處。

○吾考之云云入題。夫智勇辨力方聲本意。
○篇中四出先王。相呼應。
○隋唐至今。出於科擧。是作論本意。不可輕輕看過。
○皆安歸哉。爲撤翻勢。然後以乎字・也字斷之。全篇着精神處。
○秦之亂再反覆議論。其意始圓備。
○應有猛鷙。爲一篇結冗處。縱字・世字。皆不冒虚字。要看其音調。
○楚漢以下餘波。

至秦出於客。漢以後出於郡縣吏。魏晉以來出於九品中正。隋唐至今。出於科擧。雖不盡然。取其多者論之。六國之君。虐用其民。不減始皇二世。然當是時。百姓無一人叛者。以凡民之秀傑者。多以客養之。不失職也。其力耕以奉上。皆椎魯無能爲者。雖欲怨叛。而莫爲之先。此其所以少安而不卽亡也。始皇初欲逐客。用李斯之言而止。既并天下。則以客爲無用。於是任法而不任人。謂民可以恃法而治。謂吏不必才。取能守吾法而已。故墮名城。殺豪傑。民之秀異者。散而歸田畝。向之食於四公子。呂不韋之徒者。皆安歸哉。不知其能槁項黃馘以老死於布褐乎。抑將輟耕太息以俟時也。秦之亂雖成於二世。然使始皇知畏此四人者。有以處之。使不失職。秦之亡。不至若是速也。縱百萬虎狼於山林而饑渴之。不知其將噬人。世以始皇爲智。吾不信也。楚漢之禍。生民盡矣。豪傑宜無幾。而代相陳豨。從車千乘。蕭曹爲政。莫之禁也。至文景武之世。法令至密。然吳濞淮南梁王魏其武安之流。皆爭致賓客。世主不問也。豈懲秦之禍。以爲爵祿不能盡縻天下士。故少寬之。使得或出於此也邪。若夫先王之政。則不然。曰。君

子學道則愛人。小人學道則易使也。嗚呼。此豈秦漢之所及也哉。

放開一筆。曲終奏雅。應篇首先王不能免取深遠勢。

## 韓非論　東坡

○亂天下天下之亂一語。重復爲順逆勢。是戰國語調。

〔百餘年。東坡事略作百有餘年。賢作嚴。無而字。〕

○段法斬截。

〔東坡事略有所不敢下有夫字。〕

○夫無有。豈誠足治天下哉。筆勢掀擧。是長公文調。

聖人之所爲惡夫異端盡力而排之者。非異端之能亂天下而天下之亂所由出也。昔周之衰。有老聃莊周列禦寇之徒。更爲虛無淡泊之言。而治其猖狂浮游之說。紛紜顚倒。而卒歸於無有。由其道者。蕩然莫得其當。是以忘乎富貴之樂。而齊乎死生之分。此不得志於天下。高世遠擧之人。所以放心而無憂。雖非聖人之道。而其用意固亦無惡於天下。自老聃之死百餘年。有商鞅韓非。著書言治天下。無若刑名之賢。及秦用之。終於勝廣之亂。敎化不足而法有餘。秦以不祀。而天下被其毒。後世之學者。知申韓之罪。而不知老聃莊周之使然。何者。仁義之道。起於夫婦父子兄弟相愛之間。而禮法刑政之原。出於君臣上下相忌之際。相愛則有所不忍。相忌則有所不敢。不敢與不忍之心合。而後聖人之

○如手舞雙劍。是亦長公得意文法。

○一篇議論主意正面在此。却用爲綴結。以下引史公語。防勸說之譏。末亦爲搖曳勢應篇首。文局圓。文態濃。

〔覈。東坡事略作礉。皆作恩。由作自。於作于。無而字。未知作愚不知。〕

道。得存乎其中。今老聃・莊周論君臣父子之間。汎汎乎若萍游於江湖而適相値也。夫是以父不足愛。而君不足忌。不忌其君。不愛其父。則仁不足以懷。義不足以勸。禮樂不足以化。此四者皆不足用。而欲置天下於無有。夫無有豈誠足以治天下哉。商鞅韓非求爲其說而不得。得其所以輕天下。而齊萬物之術。是以敢爲殘忍而無疑。今夫不忍殺人。而不足以爲仁。而仁亦不足以治民。則是殺人不足以爲不仁。而不仁亦不足以亂天下。如此則舉天下唯吾之所爲。刀鋸斧鉞。何施而不可。昔者夫子未嘗一日易其言。雖天下之小物。亦莫不有所畏。今其視天下。眇然若不足爲者。此其所以輕殺人歟。太史遷曰。申子卑卑。施於名實。韓子引繩墨。切事情。明是非。其極慘覈少恩。皆原於道德之意。嘗讀而思之。事固有不相謀而相感者。莊老之後。其禍爲申韓。由三代之衰至於今。凡所以亂聖人之道者。其弊固已多矣。而未知其所終奈何。其不爲之所也。

是等文蓋公壯年極力構成者。晩年志林諸篇。反不如此嚴密也。

謝選拾遺卷之六終

# 謝選拾遺 卷之七

尊字集

○發端至此數行。起落頓折。九轉而下。筆力尤高。

## 封建論　柳州

天地果無初乎。吾不得而知之也。生人果有初乎。吾不得而知之也。然則孰爲近。曰。有初爲近。孰明之。由封建而明之也。彼封建者。更古聖王堯・舜・禹・湯・文・武。而莫能去之。蓋非不欲去之也。勢不可也。勢之來。其生人之初乎。不初無以有封建。封建非聖人意也。彼其初與萬物皆生。草木榛榛。鹿豕狉狉。人不能搏噬。而且無毛羽。莫克自奉自衞。荀卿有言。必將假物以爲用者也。夫假物者必爭。爭而不已。必就其能斷曲直者而聽命焉。其智而明者。所伏必衆。告之以直而不改。必痛之而後畏。由是君長刑政生焉。故近者聚而爲羣。羣之分。其爭必大。大而後有兵有德。又有大者。衆羣之長。又就而聽命焉。以安其屬。於是有諸侯之列。則其爭又有大者焉。德又大者。諸侯之列。又就而聽命焉。以安其封。於是

○篇中扼要三處同語。柳每每用此法。蓋自荀卿來。〔於。唐柳先生集作于。下同。〕

○周八百年。秦二世而亡。古來熟套。柳乃云。周之喪久矣。又見其贍識。

有方伯連帥之類。則其爭又有大者焉。德又大者。方伯連帥之類。又就而聽命以安其人。然後天下會於一。是故有里胥。而後有縣大夫。有縣大夫。而後有諸侯。有諸侯。而後有方伯連帥。有方伯連帥。而後有天子。自天子至於里胥。其德在人者。死必求其嗣而奉之。故封建非聖人意也。勢也。夫堯・舜・禹・湯之事遠矣。及有周而甚詳。周有天下。裂土田而瓜分之。設五等。邦羣后。布履星羅。四周於天下。輪運而輻集。合爲朝覲會同。離爲守臣扞城。然而降於夷王。害禮傷尊。下堂而迎覲者。歷於宣王。挾中興復古之德。雄南征北伐之威。卒不能定魯侯之嗣。陵夷迄於幽厲。王室東徙。而自列爲諸侯。厥後問鼎之輕重者有之。射王中肩者有之。伐凡伯。誅萇弘者有之。天下乖盭。無君君之心。余以爲周之喪久矣。徒建空名於公侯之上耳。得非諸侯之盛強末大不掉之咎歟。遂判爲十二。合爲七國。威分於陪臣之邦。國殄於後封之秦。則周之敗端其在乎此矣。秦有天下。裂都會而爲之郡邑。廢侯衛而爲之守宰。據天下之雄圖。都六合之上游。攝制四海。運於掌握之內。此其所以爲得也。不數載而天下大壞。其有由矣。亟役

〔恐。唐柳先生集作怨。於作于。役作設。〕

○秦・漢・唐利害各以一語斷之。識力筆力並高千古。非此安得與昌黎對壘。

○以上專言天下叛服之由。以下設問答。言施化難易。周秦得失亦以一語斷定。至漢事尤詳悉。其實詳周秦得失。借漢事形之也。故至唐事數句說過。

〔跡。唐柳先生集作迹。於作

萬人。纂其威刑。竭其貨賄。負鋤梃。謫戍之徒。圜視而合從。大呼而成羣。時則有叛人。而無叛吏。人恐於下。而吏畏於上。天下相合。殺守劫令而並起。咎在人怨。非郡邑之制失也。漢有天下。矯秦之枉。徇周之制。剖海內而立宗子。封功臣。數年之間。奔命扶傷而不暇。困平城。病流矢。陵遲不救者三代。後乃謀臣獻畫而離削自守矣。然而封建之始。郡國居半。時則有叛國而無叛郡。秦制之得亦以明矣。繼漢而帝者。雖百代可知也。唐興制州邑。立守宰。此其所以爲宜也。然猶桀猾時起。虐害方域者。失不在於州而在於兵。時則有叛將而無叛州。州縣之役固不可革也。或者曰。封建者必私其土。子其人。適其俗。修其理。施化易也。守宰者。苟其心思遷其秩而已。何能理乎。余又非之。周之事跡斷可見矣。列侯驕盈。黷貨事戎。大凡亂國多。理國寡。侯伯不得變其政。天子不得變其君。私土子人者。百不有一。失在於制。不在於政。周事然也。秦之事跡亦斷可見矣。有理人之制。而不委郡邑是矣。有理人之臣。不使守宰是矣。郡邑不得正其制。守宰不得行其理。酷刑苦役。而萬人側目。失在於政。不在於制。秦事然也。漢興。天子之

于。」

○又一小段包括八代作波瀾。

○借或者口中釣出聖王也三字趁勢歸到非聖人之意也主意上。文心尤巧妙。

政。行於郡。不行於國。制其守宰。不制其侯王。侯王雖亂。不可變也。國人雖病。不可除也。及夫大逆不道。然後掩捕。而遷之。勒兵而夷之耳。大逆未彰。姦利浚財。怙勢作威。大刻於民者。無如之何。及夫郡邑。可謂理且安矣。何以言之。且漢知孟舒於田叔。得魏尙於馮唐。聞黃霸之明審。覩汲黯之簡靖。拜之可也。復其位可也。臥而委之。以輯一方可也。有罪得以黜。有能得以賞。朝拜而不道。夕斥之矣。夕受而不法。朝斥之矣。設使漢室盡城邑而侯王之。縱令其亂人。戚之而已。孟舒魏尙之術。莫得而施。黃霸汲黯之化。莫得而行。明譴而導之。拜受而退。已違矣。下令而削之。締交合從之謀。周於同列。則相顧裂眦。勃然而起。幸而不起。則削其半。削其半。民猶瘁矣。曷若擧而移之以全其人乎。漢事然也。今國家盡制郡邑。連置守宰。其不可變也固矣。善制兵。詳擇守。則理平矣。或者又曰。夏・商・周・漢。封建而延。秦郡邑而促。尤非所謂知理者也。魏之承漢也。封爵猶建。晉之承魏也。因循不革。而二姓陵替。不聞延祚。今矯而變之。垂二百祀。大業彌固。何繫於諸侯哉。或者又以爲殷・周聖王也。而不革其制。固不當復議也。是大不然。

○議論風生。快絕雄絕。

○遮莫寒溪千萬折。到頭大海蹴天濤。此文爲法也。

[於。唐柳先生集作乎。]

夫殷周之不革者。是不得已也。蓋以諸侯歸殷者三千焉。資以黜夏。湯不得而廢。歸周者八百焉。資以勝殷。武王不得而易。徇之以爲安。仍之以爲俗。湯武之所不得已也。夫不得已。非公之大者也。私其力於己也。私其衞於子孫也。秦之所以革之者。其爲制。公之大者也。其情私也。私其一己之威也。私其盡臣畜於我也。然而公天下之端自秦始。夫天下之道。理安斯得人者也。使賢者居上。不肖者居下。而後可以理安。今夫封建者。繼世而理。繼世而理者。上果賢乎。下果不肖乎。則生人之理亂。未可知也。將欲利其社稷。以一其人之視聽。則又有世大夫。世食祿邑。以盡其封略。聖賢生於其時。亦無以立於天下。封建者爲之也。豈聖人之制使至於是乎。吾固曰。非聖人之意也。勢也。

正正之旗。堂堂之陣。如諸葛武侯始出祁山時。韓文公恐甘受巾幗。○昌黎作柳碑文曰。踔厲風發。又曰。峻傑廉悍。議論證據今古。出入經史。豈謂此等文乎。

〔尙。嘉祐集作上。千萬年作萬千年。依據作據依。計作家。〕

○以上虛冒引起。○何則二字管到後段不可救止者乘之矣句。

## 審勢　老泉

治天下者。定所尙。所尙一定。至於千萬年而不變。使民之耳目純於一。而子孫有所守。易以爲治。故三代聖人。其後世遠者。至七八百年。夫豈惟其民之不忘其功。以至於是。蓋其子孫得其祖宗之法而爲依據。可以永久。夏之尙忠。商之尙質。周之尙文。視天下之所宜尙而固執之。以此而始。以此而終、不朝文而暮質。以自潰亂。故聖人者出。必先定一代之所尙。周之世。蓋有周公爲之制禮、而天下遂尙文。後世有賈誼者。說漢文帝。亦欲先定制度。而其說不果用。今者天下幸方治安。子孫萬世帝王之計。不可不預定於此時。然萬世帝王之計。常先定所尙。使其子孫可以安坐而守其舊。至於政弊。然後變其小節。而其大體卒不可革易。故享世長遠、而民不苟簡。今也考之於朝野之間。以觀國家之所尙者。而愚猶有惑也。何則天下之勢有強弱。聖人審其勢而應之以權。勢強矣強甚而不已則折。勢弱矣。弱甚而不已則屈。聖人權之。而使其甚不至於折與屈者。威與惠也。夫強甚者。威竭而不振。弱甚者。惠褻而下不以爲德。故處弱者利

〔哉。嘉祐集作我。飲作乳。無兩以字。大作太。彊作強。遯作遁。代作衽。〕

用威。而處強者利用惠。乘強之威以行惠。則惠尊。乘弱之惠以養威。則威發。而
天下震慄。故威與惠者。所以裁節天下強弱之勢也。然而不知強弱之勢者。有
殺人之威。而下不懼。有生人之惠。而下不喜。何者。威竭而惠褻故也。故有天下
者。必先審知天下之勢。而後可與言用威惠。不先審知其勢。而徒曰我能用威。
我能用惠者。末也。故有強而益之以威。弱而益之以惠。以至於折與屈者。是可
悼也。譬之一人之身。將欲飲藥餌石以養其生。必先審觀其性之爲陰。其性之
爲陽。而投之以藥石。藥石之陽。而投之以陰。藥石之陰。而投之以陽。故陰不至
於涸。而陽不至於亢。苟不能先審觀己之爲陰。與己之爲陽。而以陰攻陰。以陽
攻陽。則陰者固死於陰。而陽者固死於陽。不可救也。是以善養身者。先審其陰
陽。而善制天下者。先審其強弱。以爲之謀。昔者周有天下。諸侯大盛。當其盛時。
大者已有地五百里。而畿內反不過千里。其勢爲弱。秦有天下。散爲郡縣。聚爲
京師。守令無大權柄。伸縮進退。無不在我。其勢爲彊。然方其成康在上。諸侯無
小大。莫不臣伏。弱之勢未見於外。及其後世失德。而諸侯禽奔獸遯。各固其國

○以上强弱對舉。兩兩相形。無甚輕重。○以下方歸重於一邊。其實以上乃以下之序引耳。是與封建論異處也。〔於。嘉祐集作于。惟作唯。與刑。作典刑。〕○說周秦處體方未見波瀾。至說本朝處乃洶湧層出。可强之勢。此可字生出後面許多議論。〔曰。嘉祐集作田。匹作疋。彊作强。〕

以相侵伐。而其上之人卒不悟。區區守姑息之道。而望其能以制服强國。是謂以弱政濟弱勢。故周之天下。卒斃於弱。秦自孝公。其勢固已駸駸焉。日趨於强大。及其子孫。已幷天下。而亦不悟。專任法制。以斬撻平民。是謂以强政濟强勢。故秦之天下。卒斃於强。周拘於惠。而不知權。秦勇於威。而不知本。二者皆不審天下之勢也。吾宋制治有縣令。有郡守。有轉運使。以大系小。絲牽繩聯。總合於上。雖其地在萬里外。方數千里。擁兵百萬。而天子一呼於殿陛間。三尺豎子馳傳捧詔。召而歸之京師。則解印趨走。惟恐不及。如此之勢。秦之所恃以强之勢也。勢强矣。然天下之病。常病於弱。噫。有可强之勢如秦。而反陷於弱者何也。習於惠而怯於威也。惠太甚而威不勝也。夫其所以習於惠而惠太甚者。賞數而加於無功也。怯於威而威不勝者。刑弛而兵不振也。由賞與刑與兵之不得其道。是以有弱之實。著於外焉。何謂弱之實。曰。官吏曠惰。職廢不舉。而敗官之罰。不加嚴也。多贖數赦。不問有罪。而典刑之禁。不能行也。冗兵驕狂。負力幸賞。而維持姑息之恩。不敢節也。將帥覆軍。匹馬不返。而敗軍之責。不加重也。羌胡强

「凌。嘉祐集作陵。太作大。又作久。治作洽。請作諸。」

○審勢一篇分爲兩截。以上論勢。以下論裁勢之術。

○看他變化章法。不與周秦一樣處。

「固以。嘉祐集作固已。有爲焉。作有欲爲。刑作將。奸作姦。棄作乘。」

盛。凌壓中國。而邀金繒增幣帛之恥。不爲怒也。若此類者。太弱之實也。久而不治。則又將有大於此。而遂浸微浸消。釋然而潰。以至於不可救止者乘之矣。然愚以爲弱在於政。不在於勢。是謂以弱政敗強勢。今夫一輿薪之火。衆人之所憚而不敢犯者也。舉而投之河。則何熱之能爲。是以負強秦之勢。而溺於弱周之弊。而天下不知其強焉者。以此也。雖然政之弱。非若勢弱之難治也。借如弱周之勢。必變易其諸侯。而後強可能也。天下之諸侯。固未易變易。此又非一日之故也。若夫弱政。則用威而已矣。可以朝改而夕定也。夫齊古之強國也。而威王又齊之賢王也。當其即位。委政不治。諸侯竝侵。而人不知其國之爲強國也。一旦發怒。裂萬家封即墨大夫。召烹阿大夫。與常譽阿大夫者。而發兵擊趙魏衛。趙魏衛盡走請和。而齊國人人震懼。不敢飾非者。彼誠知其政之弱。而能用其威。以濟其弱也。況今以天子之尊。藉郡縣之勢。言脫於口。而四方響應其所以用威之資。固以完具。且有天下者患不爲。焉有爲焉而不可者。今誠能一留意於用威。一賞罰。一號令。一舉動。無不一切出於威。嚴用刑法。而不赦有罪。力

○然雖然借如況今數箇虛字。斡旋全身。有許大力量。

○忽挿入齊事。然後及本朝事。出人意表。

〔尙。嘉祐集作上。世作勢。參作矣。〕

○是老蘇。每每拈出爲談柄者。

○是可強之勢注脚。故不脫勢字。

行果斷。而不牽衆人之是非。用不測之刑。用不測之賞。而使天下之人。視之如風雨雷電遽然而至。截然而下。不知其所從發。而不可逃遁。朝廷如此。然後平民益務檢愼。而奸民猾吏。亦常恐恐然懼刑法之及其身。而斂其手足。不敢輒犯法。此之謂強政。政強矣。爲之數年。而天下之勢可以復強。愚故曰。乘弱之惠以養威。則威發而天下震慄。然則以當今之勢。求所謂萬世爲帝王。而其大體卒不可革易者。其尙威而已矣。或曰。當今之世。事誠無便於尙威者。然孰知夫萬世之間。其政之不變。而必曰威耶。愚應之曰。威者君之所恃以爲君也。一日而無威是無君也。久而政弊。變其小節而參之以惠。使不至若秦之甚可也。舉而棄之過矣。或者又曰。王者任德不任刑。任刑霸者之事。非所宜言。此又非所謂知理者也。夫湯武皆王也。桓文皆霸也。武王乘紂之暴。出民於炮烙斬刖之地。苟又遂多殺人。多刑人以爲治。則民之心去矣。故其治一出於禮義。彼湯則不然。桀之惡固無以異紂。然其刑不若紂暴之甚也。而天下之民化其風。淫惰不事法度。書曰。有衆率怠弗協。而又諸侯昆吾氏首爲亂。於是誅鋤其強梗怠

○不脫秦字。
○文有收拾。
○此段因或者之問。遂收全篇。大似封建論。
○歸宿勢字。

情不法之人。以定紛亂。故記曰。商人先罰而後賞。至於桓文之事。則又非皆任刑也。桓公用管仲。管仲之書好言刑。故桓公之治常任刑。文公長者。其佐狐趙先魏。皆不說以刑法。其治亦未嘗以刑爲本。而號亦爲霸。而謂湯非王而文非霸也得乎。故用刑不必霸。而用德不必王。各觀其勢之何所宜用而已。然則今之勢何爲不可用刑。用刑何爲不曰王道。彼不先審天下之勢。而欲應天下之務難矣。

二策是老蘇畢生心血所注。其文亦覃思研精而成。非淺人所能窺。○大抵本於賈生治安第一策。而間以封建論局法。○審勢似封建論。而奇峭不及焉。○審敵似治安第一章。而雄變殆過之。○三蘇學皆本申韓。往往有此論。然亦宋時救弊之策。莫過於此也。後來東坡在志林中。論秦始皇扶蘇。始說刑法之不及平恕。乃爲正論。

## 審敵　　老泉

〔在。嘉祐集作レ及。無二之字一。北作レ比。昔作レ曩。〕

〔嘉祐集不遜下有二之字一。嚆作レ强。塘作レ瑭。彊作レ强。無二昔字一。〕

中國內也。四夷外也。憂在內者。本也。憂在外者。末也。夫天下無內憂。必有外懼。本既固矣。盍釋其末以息肩乎。曰末也。古者夷狄憂在外。今者夷狄憂在內。釋其末可也。而愚不識方今夷狄之憂爲末也。古者夷狄之勢。大弱則臣。小弱則遁。大盛則侵。小盛則掠。吾兵良而食足。將賢而士勇。則患不在中原。如是而曰外憂可也。今之蠻夷。姑無望其臣與遁。求其志止於侵掠而不可得也。北胡驕恣。爲日久矣。歲邀金繒。以數十萬計。昔者幸吾有西羌之變。出不遜語以撼中國。天子不忍使邊民重困於鋒鏑。是以虜日益驕。而賄日益增。迨今凡數十百萬。而猶慊然未滿其欲。視中國如外府然。則其勢又將不止數十百萬也。夫賄益多。則賦斂不得不重。賦斂重則民不得不殘。故雖名爲息民。而其實愛其死。而殘其生也。名爲外憂。而其實憂在內也。外憂之不去。聖人猶且恥之。內憂而不爲之計。愚不知天下之所以久安而無變也。古者匈奴之强。不過冒頓。當暴秦刻剝。劉項戰奪之後。中國溘然矣。以今度之。彼宜遂入踐中原。如決大河潰蟻壤。然卒不能越其疆以有吾尺寸之地。何則中原之彊固。皆百倍於匈奴。雖

○以上論北胡非外憂其志非小。○每一改蹈。皆以何也二字反振。○此二段全篇精神所注。踴躍震動。筆力雄摯。賈生以下無敵手。
[速。嘉祐集作遠。]

種蓑新造。而猶足以制之也。五代之際。中原無君。晉塘苟一時之利。以子行事匈奴。割幽燕之地。以資其彊大。孺子繼立。大臣外叛。匈奴掃境來寇。兵不血刃。而京師不守。天下被其禍。匈奴自是始有輕中原之心。以爲可得而取矣。及吾宋景德中。大擧來寇。章聖皇帝一戰而卻之。遂與之盟以和。夫人之情勝則狃。狃則敗。敗則懲。懲則勝。匈奴狃石晉之勝。而有景德之敗。懲景德之敗。而愚未知其所勝。甚可懼也。雖然數十年之間。能以無大變者何也。匈奴之謀必曰。我百戰而勝人。人雖屈而我亦勞。馳一介入中國。以形凌之。以勢邀之。歲得金錢數十百萬。如此數十歲。我益數百千萬。而中國損數百千萬。吾日以富。中國日以貧。然後足以有爲也。天生北狄。謂之犬戎。投骨於地。狺然而爭者。犬之常也。今則不然。邊境之上。豈無可乘之釁。使之來寇。大足以奪一郡。小亦足以殺掠數千人。而彼不以動其心者。此其志非小也。將以蓄其銳。而伺吾隙。以伸其所大欲。故不忍以小利。而敗其速謀。古人有言曰。爲虺弗摧。爲蛇奈何。匈奴之勢。日長炎炎。今也柔而養之。以冀其卒無大變。其亦惑矣。且今中國之所以竭生

〔萬。嘉祐集作萬萬。傲作慠。無以字。辭作詞。辭彊作詞彊。閭作廬。所欲。作所能。所能作所欲。無作何。〕

民之力。以奉其所欲。而猶恐恐焉懼一物之不稱其意者。非謂中國之力不足以支其怒耶。然以愚度之。當今中國雖萬無有如石晉可乘之勢者。匈奴之力雖足以犯邊。然今十數年間。吾可以必無犯邊之憂。何也。非畏吾也。其志不止犯邊也。其志不止犯邊。而力又未足以成其所欲爲。則其心惟恐吾之一旦絕其好。以失吾之厚賂也。然而驕傲不肯少屈者。何也。其意曰。邀之而後固也。鷙鳥將擊。必匿其形。昔者冒頓欲以攻漢。漢使至。輒匿其壯士健馬。故兵法曰。辭卑者進也。辭彊者退也。今匈奴之君臣。莫不張形勢以夸我。此其志不欲戰明矣。闔閭之入楚也。因唐蔡。勾踐之入吳也。因齊晉。匈奴誠欲與吾戰耶。曩者陝西有元昊之叛。河朔有王則之變。嶺南有智高之亂。此亦可乘之勢矣。然終以不動。則其志之不欲戰又明矣。吁彼不欲戰。而我遂不與戰。則彼既得其志矣。兵法曰。用其所欲。行其所能。廢其所不能。於敵反是。今無乃與此異乎。且匈奴之力。既未足以伸其所大欲。而奪一郡。殺掠數千人之利。彼又不以動其心。則我勿賂而已。勿賂。而彼以爲辭則對曰。爾無功於吾。歲欲吾賂。吾有戰而已。賂

○泛論漢時勢。過詳。如不甚關係當世。然石晉賂契丹。其後遂不可復其勢。猶漢封同姓。出不得已。故借古以形今也。

〔彰。嘉祐集作章。今者作今日。彊作強。無勿賂二字。〕

不可得也。雖然天下之人必曰此愚人之計也。天下孰不知賂之爲害。而勿賂之爲利。顧勢不可耳。愚以爲不然。當今夷狄之勢。如漢七國之勢。昔者高祖急於滅項籍。故舉數千里之地。以王諸將。項籍死。天下定。而諸將之地。因遂不可削。當是時。非劉氏而王者八國。高祖懼其且爲變。故大封呉楚齊趙同姓之國。以制之。既而信越布綰皆誅死。而呉楚齊趙之強。反無以制。當是時。諸侯王雖名爲臣。而其實莫不有帝制之心。膠東・膠西・濟南。又從而和之。於是擅爵人。赦死罪。戴黄屋。刺客公行。匕首交於京師。罪至彰也。勢至逼也。然當時之人。猶且偷徉容與。若不足慮。月不圖歲。朝不計夕。循循而摩之。煦煦而吹之。幸而無大變。以及於孝景之世。有謀臣曰鼂錯。始議削諸侯地。以損其權。天下皆曰。諸侯必且反。錯曰。固也。削亦反。不削亦反。削之則反疾而禍小。不削則反遲而禍大。吾懼其不及今反也。天下皆曰鼂錯愚。吁七國之禍。期於不免。與其發於遠而禍大。不若發於近而禍小。以小禍易大禍。雖三尺童子皆知其當然。而其所以不與錯者。彼皆不知其勢將有遠禍。與知其勢將有遠禍。而度己不及見。謂可

○激昂頓挫。議論風生。是等處何減賈生哉。[嘉祐集無禍字。]

○直就最錯爲結。其實明自己勿賂之策非愚計。絕奇。

○以上反覆說其勢。以下方說要著下手處。

以寄之後人。以苟免吾身者也。然則錯爲一身謀則愚。而爲天下謀則智。人君又安可捨天下之謀。而用一身之謀哉。今者匈奴之彊。不減於七國。而天下之人。又用當時之議。因循維持。以至於今。方且以爲無事。而愚以爲天下之大計不如勿賂。勿賂則變疾而禍小。賂之則變遲而禍大。畏其疾也。不若畏其大。樂其遲也。不若樂其小。天下之勢。如坐弊船之中。駸駸乎將入於深淵。不及其尙淺也。舍之而求所以自生之道。而以濡足爲解者。是固夫覆溺之道也。聖人除患於未萌。然後能轉禍而爲福。今也不幸養之。以至此。而近憂小患。又憚而不決。則是遠憂大患。終不可去也。赤壁之戰。惟周瑜呂蒙知其勝。伐吳之役。惟羊祜張華以爲是。然則宏遠深切之謀。固不能合庸人之意。此鼂錯所以爲愚也。

雖然錯之謀。猶有遺憾。何者錯知七國必反。而不爲備反之計。山東變起而關內騷動。今者匈奴之禍。又不若七國之難制。七國反。中原半爲敵國。匈奴叛。中國以全制其後。此又易爲謀也。然則謀之奈何。曰匈奴之計不過三。一曰聲。二曰形。三曰實。匈奴謂中國怯久矣。以吾爲終不敢與之抗。且其心常欲固前好

〔耳、嘉祐集作爾。〕○以犬喩契丹。以弊船喩宋。以叫呼跳踉以氣先者喩宋與契丹之戰。三喩愈出愈奇妙。妙皆在於百忙中忽挿入之。故章法變化。

而得厚賂以養其力。今也遽絕之、彼必曰。戰而勝。不如坐而得賂之爲利也。華人怯。吾可以先聲脅之。彼將復賂我。於是宜言於遠近。我將以某日圍某所。以某日攻某所。如此謂之聲。命邊郡。休士卒。偃旗鼓。寂然若不聞其聲。聲既不能動、則彼之計將出於形。除道剪棘。多爲疑兵。以臨吾城。如此謂之形。深溝固壘。淸野以待。寂然若不見其形。形又不能動、則技止此矣。將遂練兵秣馬以出於實。實而與之戰、破之易耳。●彼之計。必先出於聲與形。而後出於實者。出於聲與形。期我懼而以重賂請和也。出於實。不得已而與我戰。以幸一時之勝也。夫勇者可以施之於怯。不可以施之於智。今夫叫呼跳踉、以氣先者。世之所謂善鬬者也。雖然、蓄全力以待之。則未始不勝。彼叫呼者聲也。跳踉者形也。無以待之。則聲與形者、亦足以乘人於卒。不然、徒自斃其力於無用之地。是以不能勝也。韓許公節度宣武軍。李師古忌公嚴整。使來告曰。吾將假道伐滑。公曰爾能越吾界爲盜耶。有以相待。無爲虛言。滑帥告急。公使謂曰。吾在此。公安無恐。或告除道剪棘兵且至矣。公曰、兵來不除道也。師古詐窮。遷延以遁。愚故曰彼計出

○上段結以下是鼂錯所以爲愚也。末段結以嗚呼七國之勢也。緊相呼應。然此結最出人意外。有高峯墜石勢。

○起手雖妙或可能。夫唯自棄一轉。出人意表。伏後

於聲與形。而不能動則技止此矣。與之戰破之易耳。方今匈奴之君。有内難新立。意其必易與。鄰國之難。霸王之資也。且天與不取。將受其弊。賈誼曰。大國之王。幼弱未壯。漢之所置傅相。方握其事。數年之後。大抵皆冠。血氣方剛。漢之傅相。以病而賜罷。當是之時。而欲爲安。雖堯舜不能。嗚呼。是七國之勢也。

余弱冠左右。喜誦老蘇二策。以爲二篇無優劣。今歲四十有三矣。再出讀之。審敵篇法・章法・句法。無一不出人意表。優審勢不啻數十等也。○審勢篇篇法整然。至審敵。則神出奇沒。不可端倪。余用刀斷亂絲法。截爲四大段。中三段皆以雖然二字反振。○三蘊立論。皆於破題著力。籠罩全篇大意。而獨此二策虛冒引起。蓋大篇之體。宜然也。

## 無沮善　　東坡

昔者。先王之爲天下。必使天下欣欣然常有無窮之心。力行不倦。而無自棄之意。夫惟自棄之人。則其爲惡也甚毒而不可解。是以聖人畏之。設爲高位重祿。

而無數意思。是不可及也。

○此段單說絕之則不用。却添用之則不絕一句。讀者不覺是坡文所以仙也。

○他人爲之必以用之則不絕。絕之則不用兩意。翻弄通尾。坡公乃忽於此出必得必不可得兩意來。與前兩意錯綜。如僚手弄丸。愈多愈妙。與進弊篇有法無法處同。

以待能者。使天下皆得踴躍自奮。扳援而來。惟其才之不逮。力之不足。是以終不能至於其間。而非聖人塞其門。絕其塗也。夫然。故一介之賤吏。閭閻之匹夫。莫不奔走於善。至於老死。而不知休息。此聖人以術驅之也。天下苟有甚惡而不可忍也。聖人既已絕之。則屏之遠方。終身不齒。此非獨不仁也。以爲既已絕之。彼將一旦肆其忿毒。以殘害吾民。是故絕之則不用。用之則不絕。既已絕之。又復用之。則是驅之於不善。而又假之以其具也。無所望而爲善。無所愛惜而不爲惡者。天下一人而已矣。以無所望之人。而責其爲善。以無所愛惜之人。而求其不爲惡。又付之以人民。則天下知其不可也。世之賢者。何嘗之有。或出於賈豎賤人。甚者至於盜賊。往往而是。而儒生貴族。世之所望爲君子者。或至於放肆不軌。小民之所不若。聖人知其然。是故不逆定於其始進之時。而徐觀其所試之效。使天下無必得之由。亦無必不可得之道。天下知其不可以必得也。然後勉强於功名。而不敢僥倖。知其不至於必不可得也。然後有以自慰其心。久而不懈。嗟夫。聖人之所以鼓舞天下之人。日化而不自知者。此其爲術歟。後

○此轉尤敏。撇開必得必不可得兩意。而必不可得之意則暗貫通徹尾。

○此轉尤不費力。雖本是兩段分截。而他人必不能陡然如此。

○不可得之三字應中權。在有意無意之間。

○三項最末。獨拈出用之之過而已一句。趁勢叢照頭結語。尤妙。與決壅弊篇結處同一慣家。

之爲政者則不然。與人以必得、而絕之以必不可得。此其意以爲進賢而退不肖。然天下之弊。莫甚於此。今夫制策之及第。進士之高第、皆以一日之間、而決取終身之富貴。此雖一時之文詞。而未知其臨事之能否。則其用之不已太遽乎。天下有用人而絕之者三。州縣之吏。苟非有大過而不可復用。則其他犯法。皆可使竭力爲善以自贖。而今世之法。一陷於罪戾。則終身不遷、使之不自聊賴。而疾視其民。肆意妄行。而無所顧惜。此其初未必小人也、不幸而陷於其中。途窮而無所入。則遂以自棄。府史賤吏、爲國者知其不可闕也、是故歲久則補以外官。以其所從來之卑也、而限其所至。則其中雖有出羣之才、終亦不得齒於士大夫之列。夫人出身而仕者、將以求貴也。貴不可得而至矣、則將惟富之求。此其勢然也。如是則雖至於鞭笞戮辱、而不足以禁其貪、故夫此二者、苟不可以遂棄。則宜有以少假之也。入貲而仕者、皆得補郡縣之吏。彼知其終不得遷、亦將逞其一時之欲、無所不至、夫此誠不可以遷也、則是用之之過而已、臣故曰、絕之則不用、用之則不絕、此三者之謂也。

○天子將軍對舉、徵頭徵尾。

○權在將與君。應天子將軍。敎上生下。通篇皆敎上生下法。

○古之善用兵者一語。五十三家總不出此。

○致勇有術。敎上生下。

○簡勁切實

## 倡勇敢　　東坡

臣聞。戰以勇爲主。以氣爲決。天子無皆勇之將。而將軍無皆勇之士。是故致勇有術。致勇莫先乎倡。倡莫善乎私。此二者。兵之微權。英雄豪傑之士。所以陰用而不言於人。而人亦莫之識也。臣請得以備言之。夫倡者何也。氣之先也。有人人之勇怯。有三軍之勇怯。人人而較之。則勇怯之相去。若莛與楹。至於三軍之勇怯。則一也。出於反覆之間。而差於毫釐之際。故其權在將與君。人固有暴猛獸而不操兵。出入於白刃之中。而色不變者。有見虺蜴而卻走。聞鐘鼓之聲而戰慄者。是勇怯之不齊。至於如此。彼閭閻之小民。爭鬭戲笑。卒然之間。而或至於殺人。當其發也。其心翻然。其色勃然。若不可以已者。雖天下之勇夫。無以過之。及其退而思其身。顧其妻子。未始不惻然悔也。此非必勇者也。氣之所乘。則奪其性。而忘其故。故古之善用兵者。用其翻然勃然於未悔之間。而其不善者。沮其翻然勃然之心。而開其自悔之意。則是不戰而先自敗也。故曰致勇有術。致勇莫先乎倡。均是人也。皆食其食。皆任其事。天下有急。而有一人焉。奮而爭

處。頗似二十三篇文字。

○是之謂倡。收上生下。

○倡莫善乎私。是主意。故特提天子將軍。應篇首一段。自異而上不異以下數語。通透事情。而修錬句辭。蘇文中亦不可多得者。

○層累私字。盡情洗發。亦透而錬。

先而致其死。則翻然者衆矣。弓矢相及。劍楯相交。勝負之勢。未有所決。而三軍之士。屬目於一夫之先登。則勃然者相繼矣。天下之大。可以名劫也。三軍之衆。可以氣使也。諺曰。一人善射。百夫決拾。苟有以發之。及其翻然勃然之間。而用其鋒。是之謂倡。倡莫善乎私。天下之人。怯者居其百。勇者居其一。是勇者難得也。捐其妻子。棄其身以蹈白刃。是勇者難能也。以難得之人。行難能之事。此必有難報之恩者矣。天子必有所私之將。將軍必有所私之士。視其勇者。而陰厚之。人之有異材者。雖未有功。而其心莫不自異。自異而上不異之。則緩急不可以望其爲倡。故凡緩急而肯爲倡者。必其上之所異也。昔漢武帝欲觀兵於四夷。以逞其無厭之求。不愛通侯之賞。以招勇士。風告天下。以求奮擊之人。然卒無有應者。於是嚴刑峻法。致之死地。而聽其以深入贖罪。使勉強不得已之人。馳驟於死亡之地。是故其將降而兵破。敗而天下幾至於不測。何者。先無所異之人。而望其爲倡。不已難乎。私者天下之所惡也。然而爲己而私之。則私不可用。爲其賢於人而私之則非私無以濟。蓋有無功而可賞。有罪而可赦者。凡所

○推拓。說出是斷。

○又提天子將軍。是續。

○西師之休云云語意。又拓開以下。一語緊於一語。掉尾勁拔之至。想見子瞻閣筆几上鏗然。

以媿其心、而責其爲倡也。天下之禍、莫大於上作而下不應。上作而下不應。則上亦將窮而自止。方西戎之叛也。天子非不欲赫然誅之。而將帥之臣。謹守封略。外視內顧。莫有一人先奮而致命。而士卒亦循循焉。莫肯盡力。不得已而出。爭先而歸。故西戎得以肆其猖狂。而吾無以應。則其勢不得不重賂而求和。其患起於天子無同憂患之臣。而將軍無腹心之士。西師之休。十有餘年矣。用法益密。而進人益難。賢者不見異。勇者不見私。天下務爲奉法循令。要以如式而止。臣不知其緩急將誰爲之倡哉。

明清諸家評此文者。極口稱其奇變。余見其嚴整勁錬耳。

## 策斷上　　東坡

二虜爲中國患。至深遠也。天下謀臣猛將豪傑之士。欲有所逞於西北者久矣。聞之兵法曰。先爲不可勝。以待敵之可勝。嚮者臣愚以爲。西北雖有可勝之形。而中國未有不可勝之備。故竊嘗以爲。可特設一官使獨任其責而執政之臣。

〔固將。東坡事略作內得。法作發。偪作逼。日作一日。全盛作全安甚盛。狄作胡。狄作胡。無中國下之字。間作間。〕

得以專治內事。苟天下之弊、莫不盡去。紀綱修明。食足而兵强、百姓樂業、知愛其君。卓然有不可勝之備。如此。則臣固將備論而極言之。夫天下將興。其積必有源。天下將亡。其法必有門。聖人者唯知其門而塞之。古之亡天下者四。而天子無道不與焉。蓋有以諸侯强偪。而至於亡者。周唐是也。有以匹夫橫行。而至於亡者。秦是也。有以大臣執權而至於亡者。漢魏是也。有以蠻夷內侵。而至於亡者。二晉是也。使此七代之君。皆能逆知其所由亡之門。而塞之。則至於今可以不廢。惟其諱亡。而不爲之備。或備之。而不得其門。故禍發而不救。夫天子之勢、蟠於天下。而結於民心者甚厚。故其亡也。必有大隙焉。而日潰之。其窺之甚難。其取之甚密。曠日持久。然後可得而間。蓋非有一日卒然不救之患也。是故聖人必於其全盛之時。而塞其所由亡之門。蓋臣以爲當今之患。外之可畏者、西戎北狄。而內之可畏者、天子之民也。西戎北狄。不足以爲中國之大憂而其動也。有以召內之禍。內之民。實執存亡之權。而不能獨起。其發也。必將待外之變。先之以戎狄。而繼之以吾民。臣之所謂可畏者。在此而已。昔者敵國之患、起

〔東坡事略敵國下有權在敵國四字。媾作路。其國作國其。征作兵。於秦下有則字。常作嘗。變作戰。陳軫作蘇秦。〕

於多求而不供。供者有倦、而求者無厭、以有倦待無厭、而能久安於無事。天下未嘗有也。故夫二虜之患。特有遠近耳、而要以必至於戰。敢問。今之所以戰者何也。其無乃出於倉卒。而備於一時乎。且夫兵不素定。而出於一時。當其危疑擾攘之間。而吾不能自必。則權在敵國。則吾欲戰不能、欲休不可。進不能戰。而退不能休。則其計將出於求和。求和而自我。則其所以爲媾者必重。軍旅之後。而繼之以重媾。則國用不足。國用不足。則加賦於民。加賦而不已。則凡暴取豪奪之法。不得不施於今之世矣。天下一動。變生無方。國之大憂。將必在此。蓋嘗聞之。用兵有權。權之所在。其國乃勝。是故國無小大。兵無强弱。有小國弱兵。而見畏於天下者。權在焉耳。千鈞之牛。制於三尺之童。弭耳而下之。曾不如狙猿之奮擲於山林。此其故何也。權在人也。我欲則戰。不欲則守。戰則天下莫能支。守則天下莫能窺。昔者秦嘗用此矣。開關出征。以攻諸侯。則諸侯莫不願割地而求和。諸侯割地而求和於秦。秦人未嘗急於割地之利。若不得已而後應。故諸侯常欲和。而秦常欲戰。如此則權固在秦矣。且秦非能强於天下之諸侯。秦

〔東坡事略無又字。平下有定字。以作已。有一作一有。無首字。〕

惟能自必。而諸侯不能。是以天下百變。而卒歸於秦。諸侯之利。固在縱横也。朝聞陳軫之説。而合爲從。暮聞張儀之計。而散爲横。秦則不然。横人之欲爲横。從人之欲爲從。皆使其自擇而審處之。諸侯相顧。而終莫能自必。則權之在秦。不亦宜乎。嚮者寶元慶曆之間。河西之役。可以見矣。其始也。不得已而後戰。其終也逆探其意而與之和。又從而厚餽之。惟恐其一日復戰也。如此則賊常欲戰。而我常欲和。賊非能常戰也。特持其欲戰之形。以乘吾欲和之勢。屢用而屢得志。是以中國之大。而權不在焉。欲天下之安。則莫若使權在中國。欲權之在中國。則莫若先發而後罷。示之以不憚。形之以好戰。而後天下之權有所歸矣。今夫庸人之論。則曰。勿爲禍始。古之英雄之君。豈其樂禍而好殺。唐太宗既平天下。而又歲歲出師。以從事於夷狄。蓋晩而不倦。暴露於千里之外。親擊高麗者再焉。凡此者皆所以爭先而處強也。當時羣臣。不能深明其意。以爲敵國無釁。而我則發之。夫爲國者。使人備己。則權在我。而使己備人。則權在人。當太宗之時。四夷狼顧。以備中國。故中國之權重。苟不先之。則彼或以執其權矣。而我又

〔有一。東坡事略作二一有一無二首字。舍作赦。〕

○是以舉皆數句。所謂太熟可厭處。

鰓鰓焉惡戰而樂罷。使敵國知吾之所忌。而以是取必於吾。如此則雖有天下。吾安得而爲之。唐之衰也。惟其厭兵而畏戰。有一敗衂。則兢兢焉縮首而去之。是故姦臣執其權。以要天子。及至憲宗。奮而不顧。雖小挫而不爲之沮。當此之時。天下之權。在於朝廷。伐之則足以爲威。舍之則足以爲恩。臣故曰。先發而後罷。則權在我矣。

## 臣事策一

潁濱

天下有權臣。有重臣。二者其迹相近而難明。天下之人。知惡夫權臣之專。而世之重臣。亦遂不容於其間。夫權臣者。天下不可一日而有。而重臣者。天下不可一日而無也。天下徒見其外。而不察其中。見其皆侵天子之權。而不察其所爲之不類。是以舉皆嫉之。而無所喜。此亦已太過也。今夫權臣之所爲者。重臣之所切齒。而重臣之所取者。權臣之所不顧也。將爲權臣耶。必將內悅其君之心。委曲聽順而無所違戾。外竊其生殺予奪之柄。黜陟天下。以見己之權。而沒其

○前面一正一反。似無輕重。此側重重臣一邊。天下安可云云。用倒挽之筆。佳絕。且今云云。頂此重說。益見側重之意。

君之威惠。內能使其君歡愛悅懌。無所不順。而安爲之上外。能使其公卿大夫百官庶吏。無所不歸命。而爭爲之腹心。上愛下順。合而爲一。然後權臣之勢遂成。而不可拔。至於重臣則不然。君有所爲不可。以必爭。爭之不能。而其事有所必不可聽。則專行而不顧。待其成敗之迹著。則上之心將釋然而自解。其在朝廷之中。天子爲之踧然。而有所畏。士大夫不敢安肆怠惰於其側。爵祿慶賞。已得以議其可否。而不求以爲己之私惠。刀鋸斧鉞。已得以參其輕重。而不求以爲己之私勢。要以使天子有所不可必爲。而羣下有所震懼。而已不與其利。何者。爲重臣者。不待天下之歸己。而爲權臣者。亦無所事天子之畏己也。故各因其行事。而觀其意之所在。則天下誰可欺者。臣故曰。爲天下安可一日無重臣也。且今使天下而無重臣。則朝廷之事。惟天子之所爲。而無所可否。雖天子有納諫之明。而百官畏懼戰慄。無平昔尊重之勢。誰肯觸忌諱。冒罪戾。而爲天下言者。惟其小小得失之際。乃敢上章諫諍。而無所憚。至於國之大事安危存亡之所繫。則將卷舌而去。誰敢發而受其禍。此人主之所大患也。悲夫後世之君。

○說重臣處。又忽帶說權臣。借客形主。又照應前文。雙關處。見爲法不疎脫。
○引證此一事。乃有生色。
○臨末別抽出一意。爲結處導引。然其實自前面意中來也。

徒見天下之權臣。出入唯唯。以爲有禮。而不知此乃所以潛潰其國。徒見天下之重臣。剛毅果敢。喜逆其意。則以爲不遜。而不知其有社稷之慮。二者淆亂於心。而不能辨其邪正。是以喪亂相仍而不悟。何足傷也。昔者衞太子聚兵以誅江充。武帝震怒。發兵而攻之京師。至使丞相太子。相與交戰。不勝而走。又使天下極其所往。而翦滅其迹。當此之時。苟有重臣。出身而當之。擁護太子。以待上意之少解。徐發其所蔽。而開其所怒。則其父子之際。尙可得而全也。惟無重臣。故天下皆知之。而不敢言。臣愚以爲。凡爲天下。宜有以養其重臣之威。使天下百官有所畏忌。而緩急之間。能有所堅忍持重。而不可奪者。竊觀。方今四海無變。非常之事。宜其息而不作。然及今日而慮之。則可以無異日之患。不然者。誰能知其果無有也。而不爲之計哉。抑臣聞之。今世之弊。在於法禁太密。一舉足不如律令。法吏且以爲言。而不問其意之所屬。是以雖天子之大臣。亦安敢有所爲於法律之外。以安天下之大事。故爲天子之計。莫若少寬其法。使大臣得有所守。而不爲法之所奪。昔申屠嘉爲丞相。召名天子之倖臣鄧通。立之堂下。

而詰責其過。是時通幾至於死。而不救。天子知之、亦不以爲怪、而中居嘉亦卒非漢之權臣。由此觀之。重臣何損於天下哉。

三蘇時務論策。並爲後世所讀爛。在今視爲陳腐。然在當時開天地未有之體。如子由。委曲明鬯。古今長技。特視諸乃兄微覺扳與太熟耳。〇蘇家爲議論。每於最尾引一故事爲證。趂勢爲結。其傳家訣也。此文以而字一轉、以非字決之。筆力最奇敏前而帶說權臣。以後數十行。總不見權臣二字。至結處忽見之。仍以重臣句掉尾。最妙。

## 臣事策八　　潁濱

臣聞。天下惟其有權者。可以使人。有利者。可以得衆。權者。天下之所爲去就也利者。天下之所爲奔走也。能是非可否者。之謂權。能貧富貴賤者。之謂利。天子者收天下之權而自執之。斂天下之利而親用之者也、故天下之人上自公卿大夫之尊、而下至於閭閻匹夫之賤、府史胥徒僮僕奴妾、以次相屬而相役。至

於疲弊勞苦。老死而不去。緩急可以使之相救。危難可以使之相死。蹈白刃。赴深谷。可使用命而不敢辭。何者。彼利於人者。固役於人也。千金之家。持其贏餘。以自貸鄰里之貧民。薄息緩取。而可以豪橫於鄉黨。刺客武士。爲之效死。而莫之能制。此權利之所致也。臣聞。天子者。執天下之權。而擅四海九州之利。爵祿慶賞。金玉錢幣。此其富非特千金之利也。予奪可否。刑戮誅滅。此其勢非特千金之權也。古之人君。得天下之權利而專之。是故所爲而成。所欲而就。謀臣猛將。爲之盡力。有死而無二。社稷之臣。可使死宗廟。郡縣之臣。可使死封疆。文吏可使死其職。武吏可使死其兵。天下之人。其存心積慮。皆以爲當然。是以寇至而不懼。難生而無變。方其平居無事之際。天子衣食而養之。以待天下之事。故有事而死。亦其勢然也。然當今天下之人。食天子之祿。被天子之爵。衣青紫。佩印綬。從吏卒。縱橫赫奕者。常偏天下。一旦有急。皆莫肯死者。此甚可怪也。往年廣南之亂。大吏據城擁兵。賊至而莫敢擊。逃遁奔竄。伏於草莽之間。以避兵革之禍。至使蠻夷之人。得以橫行於中原。人民流離。方數千里。幾爲丘墟。而無一

死戰之吏。國家每歲收天下之士。士之發於飢寒。取官而去者。動以數百爲輩。六年之間。考足而無過。則又爲之改爵。而增其祿秩。幸而有超羣拔類之才。則公卿大臣。又得薦之於天子。而特寵貴之。翺翔朝廷之間。不出十年。可以安坐談笑而爲兩制。此其爲法。尙何所負於天下。而士大夫終莫肯奮而爲之用。何也。夫明哲之君。以其法邀天下。今天下之人。反以其法。邀之。故邀在我。則奔走者人也。邀在人。則奔走者我也。今世之法。夫豈不欲以邀人哉。涖官六七考。求擧者五六人。凡此皆備具。而無所過失。然後爲之改爵。而增其祿秩。夫此豈誠足以邀人哉。爲法而不足以邀人。則人將反以吾法而相邀。今之官吏。考足而無過。且有擧者。則天子寧有以御之耶。是不得不從而予之矣。如此則是天子之爵祿。非天子之惠。而天下之勢也。士大夫以勢取爵祿。是以擧皆不得其上。凡今天子之權。反而入於下。而天子之利。變而爲輕取易得之物矣。蓋臣聞天下有二弊。有法亂之弊。有法弊之弊。法亂則使人紛紛而無所執。法弊則使人牽制而不自得。古之聖人。法亂則以立法救之。而法弊則受之以無法。夫無法

者。非縱橫放肆之謂也。上之人投棄規矩。而使天下無所執以邀其君。是之謂無法。今夫官吏之法。其亦無曰舉者與考而已。使一二大臣。得詳其才與不才。舉者具而考足。才者與之。而不才者置之。雖有考不足。而舉者不具。其可與者。則亦與之也。凡皆務與天下。爲所不可測、使吏無所執吾法以邀我。收天子之權利。而歸之於上。如此則議者將以爲蕩然無法。則大吏易以爲奸。臣聞。人惟不爲奸也、而後任以爲大吏。苟天下之廣。而無一二大臣可信者。則國非其國矣。且自唐季以來。世之設法者。始皆務以防其大臣。蓋唐之盛時。其所以試天下之士。以調天下之選人者。皆無一定之法。而惟有司之爲聽。夫是以下不得邀其上。而上有以役其下。臣故曰。惟有權者。可以使人。有利者。可以得衆。此不可不深察也。

○層累而上。直至夷齊乃

## 伯夷頌　昌黎

士之特立獨行。適於義而已。不顧人之是非。皆豪傑之士。信道篤。而自知明者

見究竟頂。此文字取勢法。○看花轉摺開合處。○再以今人形之。無此一節。不成文字。可見養局法。又可見反振法。○結處十五字。如秋霜烈日。此一篇主意。却置之散場後。出人意外。極正大之論。極奇變之文。

也。一家非之。力行而不惑者寡矣。至於一國一州非之。力行而不惑者。蓋天下一人而已矣。若至於舉世非之。力行而不惑者。則千百年。乃一人而已耳。若伯夷者。窮天地。亙萬世。而不顧者也。昭乎日月。不足爲明。崒乎泰山。不足爲高。巍乎天地。不足爲容也。當殷之亡。周之興。微子賢也。抱祭器而去之。武王周公聖也。從天下之賢士與天下之諸侯。而往攻之。未嘗聞有非之者也。彼伯夷叔齊者。乃獨以爲不可。殷既滅矣。天下宗周。彼二子。乃獨恥食其粟。餓死而不顧。由是而言。夫豈有求而爲哉。信道篤。而自知明也。今世之所謂士者。一凡人譽之。則自以爲有餘。一凡人沮之。則自以爲不足。彼獨非聖人。而自是如此。夫聖人。乃萬世之標準也。予故曰。若伯夷者。特立獨行。窮天地亙萬世。而不顧者也。雖然。微二子。亂臣賊子。接迹於後世矣。

韓公一代。作文滿家。其有大益於世教。吾竊以此篇爲第一。

## 王元之畫像贊　　東坡

[嘗。東坡事略作常。身作承。狥作徇。于作於。倂作皆。處作居。予作余。之作雖。信作伸。]

傳曰。不有君子。其能國乎。予嘗●三復斯言。未嘗不流涕太息也。如漢汲黯。蕭望之。李固。吳張昭。唐魏鄭公。狄仁傑。皆以身●狥●義。招之不來。麾之不去。正色而立于朝。則豺狼狐狸。自相吞噬。故能消禍於未形。救危于●將亡。使倂●如公孫丞相張禹胡廣。雖累千百。緩急豈可望哉。故翰林王公元之。以雄文直道。獨立當世。足以追配此六君子者。方是時。朝廷清明。無大姦慝。然公猶不容於中。耿然如秋霜夏日。不可狎玩。至於三黜以死。有如不幸而處●於衆邪之間安危之際。則公之所爲。必將驚世絕俗。使斗筲穿窬之流。心破膽裂。豈特如此而已乎。始予●過蘄州虎丘寺。見公之畫像。想其遺風餘烈。願爲執鞭。而不可得。其後爲徐州。而公之曾孫汾爲兗州。以公墓碑示余。乃追爲之贊。以附其家傳云。維昔聖賢。患莫己知。公遇太宗。允也。其時。帝欲用公。公不少貶。三黜窮山。之●死靡憾。咸平以來。獨爲名臣。一時之屈。萬世之信●。紛紛鄙夫。亦拜公像。何以占之。有泚其顙。公能泚之。不能已之。茫茫九原。愛莫起之。

族弟賴綱校

謝選拾遺卷之七終

## 書謝選拾遺後。

井上尚志

大凡作文。能立誠則足以適用。能修詞則足以動人。故唐宋八家。立誠與修詞並用。所以冠絕于古今也。」謝疊山先生。選古文有關世教者。軌範後學。首取八家。蓋爲是也。但疊山本爲擧業者設耳。故至其不切於擧業者。有所或遺也。且如吾邦人。擧業固無所用焉。則謝選未爲全盡善也。」近時山陽翁。就八家集中。收疊山所遺者。編爲十卷。名曰謝選拾遺。蓋欲與軌範並行也。而每篇詳加評語。闡析妙旨。莫復餘蘊。而所主在於適用。故讀者亦宜於此用力焉。所謂仁者得此。成其爲仁。智者得此。成其爲智。勇者得此。成其爲勇也。此翁之所以有選。卽人家之所以有文也。

# 唐絕新選

# 『唐絶新選』解題

文化七年八月、山陽、廉塾ニ在リ、『唐詩選』ノ選抄ニアキタラズシテ、『唐絶新選』ヲ編シ、自序ノ外、例言十六則ヲ述ブ。中ニイフ、

「余、性、酷ダ唐詩ヲ好メリ。客トナリテヨリ、平居無憀、スナハチコレヲ誦唫スルニ、古人ノ來リテ、相慰藉スルモノヽ如シ。是ニ於テ、マス〳〵唐人ノ妙處、後世ノ及バザル所アルコトヲ知レリ。」

ト、茶山ガ、山陽ノ將ニ去リテ京都ヘ向ハントスルニ臨ミ、特ニ唐句ヲ抽キテ、七絶一首ヲ作リ、ソノ行ヲ送リシガ如キ、蓋シ意ヲ寓スル所アリ。

文政七年十一月、京寓ニ迎ヘタル母梅颸ヲ送リテ、廣島ヨリ東還ノ途次、福山ニ入リ、最善寺主靜庵〔祐慶〕ヲ訪ヒシトキ、舊友・藩士今村蓮坡〔退翁〕ト會飲シ、談、昔日ニ及ビ、蓮坡ハ、當年原本ノ手寫ヲ藏セリト語リ、且イフ、「先生、コレヲ記スル乎ト。」翁〔山

陽答ヘテ」、然リ、コレ有リ、是レ閑居吟誦シツツ、意ノ適スルトコロヲ錄セシノミ、今ヲ去ルコト既ニ久シクシテ、マタ稿ヲ留メズトイヘリ。」從弟賴立齋、時ニ隨ヒテ座間ニ在リ、ソノ言フトコロ、此クノ如シ。立齋、卽チソノ寫本ヲ借リテ京都ニ入リシ後、諸友ノ間ニ轉寫セラレタリキ。

小石櫟園ノ子蘭屋ハ、文政八年、九歲ニシテ、山陽塾ニ通學ノ際、「先生ニ受ケテ、コレヲ手謄セリ」トイヘリ。ソノ師授ノ原本ハ、蓋シ新タニ今村本ノ轉寫ニ係レルモノナリシナルベシ。

此クテ蘭屋ハ、弘化元年八月ニ至リ、自家〔幽蘭書屋〕ノ藏版〔京都書肆・積書堂吉田治兵衛等發兌〕トシテ世ニ傳ヘラルルニ至レリ。「刻スルトコロノ原本ハ、コレヲ群書ニ校シ、異同ノ互ニ見ハルルモノハ、コレヲソノ後ニ注シ、」作者ノ名・字・號、若シクハ官銜ナド、ソノ人ヲ考ヘ、「人名指蒙」ト題シテ、コレヲ卷末ニ錄シ、自序〔天保十四年夏〕、及ビ支峯〔弘化元年九月十三日〕・三樹〔同五月十一日〕・立齋〔天保十四年五月〕ノ跋ヲ附セリ。今ソノ原版ハ、令孫小石暢太郎氏ニ襲藏セラル。〔好尙生〕

刻二唐絕新選一序。

故山陽賴先生所レ輯唐絕新選。紹九歲時。受二于先生一。而手謄レ之。然童子何知。及レ長則先生既沒。紹亦服二他業一。此書委二篋底一十二年。頃探二得之一。讀二例言一。始得レ知二先生新撰之意一矣。蓋先生以二經世之學一自許。詩則其餘事。而此撰又其餘事耳。獨取レ適レ己。固無レ意二于傳一レ世。然其取舍之間。論辨無レ遺。學者奉而諷詠。則其出二于己一者。自不レ陷二邪徑一矣。噫。紹事二先生一。齡幼。日淺。爾來西遊東行。未レ能下從二事韻語一以報中先生見レ授二此撰一之恩上。今若使二湮沒無一レ傳焉。則是重二忘慢之罪一也。因與二令嗣及同社一謀。而刻以遺二天下學レ詩者一。紹亦自レ今業暇不レ廢二吟哦一。則多年之間。庶丁幾得二一二絕句一。使丙先生領乙於地下甲者。未レ晚也。所レ刻原本校二之群書一。異同互見者注レ之。其後人名。或題字。號或官銜。今考二其人一。略錄二卷末一備錄。舊不レ書レ題。以三字撰多行二于世一也。今姑補入。以便二讀者一云。天保癸卯夏日。門末。小石紹拜撰。

## 自序

余餘力爲詩。詩最好七絕。欲以二十八字酬酢萬變。暇日取唐絕最可意者。以資諷詠。顧聲音之道。和漢殊異。我安準焉。況於其體最唐樂者乎。然自詩之與歌判也。彼撰焉與我選焉奚擇。余取吾之所感焉爾。余嘗撰秦漢文序之曰。自撰而自讀。取滿於我而已。人之讀之。必猶吾不滿於人也。而吾不遑恤焉。今於此選亦云。　文化庚午八月。賴襄題。

## 例言

一余性酷好唐絕。自爲客。平居無憀。輒誦唸之。如古人來相慰藉者。於是益知唐人妙處有後世所不及。遂欲得一集可意者置之坐側。而不得也。乃有自選之舉。且疏諸家選法不可曉者。以質君子。非敢歷詆昔賢。而自是慰也。

一輯唐詩者數十家。而行於此間者。于鱗爲最。三家村亦藏歷下之選。人人誦習。故今之所取。係彼所不載。已而又念。明珠翠羽萬目所珍。彼固不得獨私之。而我亦不得獨遺之也。因備錄於後。其間又有所去取。以竢識者覽觀。

一唐詩之選。至廷禮氏始備。于鱗氏欲超而上之。故不得不嚴酷焉。然亦有不嚴者。絕句如二崔唱和。眞爲不類。蓋以廷禮所遺。故意取之耳。卽少伯之眞成薄命。似意太巧。摩詰之綠樹重陰。似韻太卑。子美之一辭故國。似語太纖。世人結交爲輕薄語。紅粉青蛾爲褻媟語。他多此類。今皆淘而去之。

一竟陵之激於濟南也。猶濟南之剛於新寧也。故概不取焉。且濟南猶執正而爭。是假仁之覇耳。至竟陵則黃巾五斗矣。

一品彙失之繁。正聲失之簡。與其簡而有遺也。寧繁而過取。故今之選。取於品彙者爲多。而旁及群書。

一余來備後。備後人善說王新城萬首選。余謂。新城詩名蓋世。其選於古。必有大過人者。乃百方求索。獲如拱璧。先讀其序引。多獲我心。及披閱之。則不類其所言也。最可笑者。如一叫一回腸一斷。三春三月憶三巴。有時捫蝨獨搔首。日送歸鴻籬下眠。尋章摘句老彫蟲。曉月當窗挂玉弓。知君欲作閑情賦。應願將身作錦鞵。幾度木蘭舟上望。不知元是此花身。折得荷花渾忘却。空將荷葉蓋頭歸。當時如何下筆。後世如何竟傳。殆不可曉。盆［illegible］詠新城品 新城之有此選也。曰。是唐樂府也。如此者。可復被諸絃歌乎。

一新城之選。最不可曉者。如惆悵詩七首。比紅兒詞十二首。□□□□。亢復可厭。□□也非選。按山人此時年七十五。豈老焉耄乎。

一後於新城而選者。爲沈長洲。亦品彙之流。以其晚出。取捨頗公。然往往執學究科條。以律詩人。凡涉艶冶者。一切擯斥。非以刺者存。深第二義。爲戒少年

語。是寧可與言詩也哉。

一二客來閱我選。一客曰。某詩類明。享保前人所喜耳。一客曰。某詩類宋。安永後人所喜耳。余笑曰。公等所謂原將圖畫寫山水。却說溪邊似畫圖者也。

一或謂此所取。多係周氏三體詩所載。夫李選行。而三體如奴隸。李尚高雅。周取纖弱。今猶拄諸齒牙乎。余曰。是猶謂盜所持金非金也。且子以耳食者也。周意所主。誠不脫元人風習。然其所選。有至當不可易者。較諸李選。且如戴叔倫。李取半夜回舟。周取盧橘花開。如溫庭筠。李取館娃宮外。周取天寶年中。孰高雅孰纖弱。子且舍耳而目。

一我選中晩唐多。以其多也。汪鈍翁曰。唐不可四。余曰。四唐如四時。春多春佳處。秋有秋佳處。獨取春廢秋。有此理乎。然其盛衰榮枯。固有在焉。不察於此。而徒曰盛唐盛唐者。從人後嗟嘆耳。

一或病我所選有趣議論者。嚴滄浪斥以詩議論者為惡魔。誠至論也。然亦矯時之意耳。中晩名家別開境界。以其議論也。今何苦自狹其封域也。如義山。

以二十八字當一篇史論。絶句能事於是乎極矣。唯不可以此爲詩本色耳。
今取其最出意而不壞格調者數首。以備變態。

一明人論詩。皆嚴氏唾餘。而惛議論更甚。但使龍城飛將在。不敎胡馬度陰山。
非議論也乎。

一歷城推秦時明月。爲唐絶壓卷。太倉則以葡萄美酒壓卷。漁洋稱渭城朝雨。
朝辭白帝。奉帚平明黄河遠上。曰。終唐之世。絶句亦無出四章之右者矣。長
洲乃取回樂峯前。山圍故國。烟籠寒水。楊子江頭。曰。亦堪接武矣。其然豈其
然乎。詩言興趣。興趣千萬。焉可甲乙。且就此論之。秦時明月偏於議論。朝辭
白帝。有景無情。至奉帚平明山圍故國。則古今所稱爲絶唱。而余獨疑其織
巧故意布置也。故此撰不收此二首。抑在盛唐。工部之逢李龜年。在中唐。張
祜之郵亭殘花。余以爲當列此諸篇也。明人撰不及工部此詩。何也。

一劉項元來不讀書。薛王沈醉壽王醒之類。長洲不取。其論誠高。然如奇葩異
卉。造化所必有。不可獨以桃李爲花也。

一誰將詞賦從彫筆。寂莫相如臥茂陵。莫道中原無麟鳳。自是皇家結網疎。分明許負。却羨落花春不管。御溝流得至人間。分明怨曠。俱不可謂詩。諸家所取。余不敢從。

賴襄識。

# 唐絶新選 卷上

李白。字太白。蜀人。供奉翰林。

即。一作レ郎。

將。一作レ遠。

濕。一作レ人。

橫江詞。　　供奉

橫江館前津吏迎。向レ余東指二海雲生一。即今欲レ渡緣二何事一。如レ此風波不レ可レ行。

贈二汪倫一。

李白乘レ舟將レ欲レ行。忽聞岸上踏歌聲。桃花潭水深千尺。不レ及二汪倫送レ我情一。

南二流夜郎一寄レ內。

夜郎天外怨二離居一。明月樓中音信疎。北雁春歸看欲レ盡。南來不レ得二豫章書一。

從軍行。

百戰沙場碎二鐵衣一。城南已合數重圍。突レ營射殺呼延將。獨領二殘兵千騎一歸。

陪二李曄賈至一遊二洞庭一。

洞庭湖西秋月輝。瀟湘江北早鴻飛。醉客滿船歌二白紵一。不レ知霜露濕二秋衣一。

南。一作西。

春。一作秀。

王昌齡。江寧人。

山中問客。

問余何事棲碧山。笑而不答心自閑。桃花流水杳然去。別有天地非人間。

結襪子。

燕南壯士吳門豪。筑中置鉛魚隱刀。感君恩重許君死。泰山一擲輕鴻毛。

長門怨。

天廻北斗挂南樓。金屋無人螢火流。月光欲到長門殿。別作深宮一段愁。

少年行。

五陵年少金市東。銀鞍白馬度春風。落花踏盡遊何處。笑入胡姬酒肆中。

駿馬驕行踏落花。垂鞭直拂五雲車。美人一笑褰珠箔。遙指紅樓是妾家。

登廬山五老峯。

廬山東南五老峯。青天削出金芙蓉。九江春色可攬結。吾將此地巢雲松。

從軍行　　少伯

大漢風塵日色昏。紅旗半卷出轅門。前軍夜戰洮河北。已報生擒吐谷渾。

琵琶起舞換新聲。總是關山離別情。撩亂邊愁聽不盡。高高秋月照長城。

寄穆侍御出幽州

一從恩譴度瀟湘。塞北江南萬里長。莫道薊門書信少。雁飛猶得到衡陽。

青樓曲。

馳道楊花滿御溝。紅妝漫綰上青樓。金章紫綬千餘騎。夫婿朝回初拜侯。

西江寄越弟。

南浦逢君嶺外還。沅溪更遠洞庭山。堯時恩澤如春雨。夢裏相逢共入關。

芙蓉樓送辛漸。

丹陽城南秋海陰。丹陽城北楚雲深。高樓送客不能醉。寂寂寒江明月心。

長信秋詞。

金井梧桐秋葉黃。珠簾不捲夜來霜。熏籠玉枕無顏色。臥聽南宮清漏長。

觀獵。

角鷹初下秋草稀。鐵驄拋鞚去如飛。少年獵得平原兎。馬上橫鞘意氣歸。

岑參。南陽人。嘉州刺史。

春夢。　嘉州

洞房昨夜春風起。遙憶美人湘江水。枕上片時春夢中。行盡江南數千里。

秋夜聞笛。

天門街西聞擣帛。一夜愁殺湘南客。長安城中百萬家。不知何人夜吹笛。

送李明府赴睦州覲大夫人。

手把銅章望海雲。夫人堂上絳羅裙。嚴灘一點舟中月。萬里煙波也夢君。

趙將軍歌。

九月天山風似刀。城南獵馬縮寒毛。將軍縱博場場勝。賭得單于貂鼠袍。

原頭送范侍御。

百尺原頭酒色殷。路傍驄馬汗斑斑。別君只有相思夢。遮莫千山與萬山。

崔倉曹席上送殷寅充右相判官赴淮南。

清淮無底綠江深。宿處津亭楓樹林。駟馬欲辭丞相府。一尊須盡故人心。

草堂村尋人不遇。

高適。字達夫。一字仲武。滄州人。左散騎常侍。
皮。一作狐。
王維。字摩詰。太原人。尙書右丞。

數株垂柳欲依依。深巷斜陽暮鳥飛。門前雪滿無行跡。應是先生出未歸。

營州歌。　常侍

營州少年厭原野。皮裘蒙茸獵城下。虜酒千鍾不醉人。胡兒十歲能騎馬。

寄河上段十六。　右丞

與君相見卽相親。聞道君家在孟津。爲見行舟試借問。客中時有洛陽人。

戲題盤石。

可憐盤石臨泉水。復有垂楊拂酒杯。若道春風不解意。何因吹送落花來。

少年行。

新豐美酒斗十千。咸陽遊俠多少年。相逢意氣爲君飮。繫馬高樓垂柳邊。

送別。

送君南浦淚如絲。君向東州使我悲。爲報故人憔悴盡。如今不似洛陽時。

送元二使安西。

渭城朝雨裛輕塵。客舍青青柳色新。勸君更盡一杯酒。西出陽關無故人。

舟子。一作同舟人。

孟浩然。襄陽人。隱鹿門山。

賈至。字幼鄰。洛陽人。中書舍人。

名翰。晉陽人。

名光義。魯國人。又云潤州人。

名頎。東川人。

濟江問舟子。　鹿門

潮落江平未有風。輕舟共濟與君同。時時引領望天末。何處青山是越中。

出塞曲。　舍人

萬里平沙一聚塵。南飛羽檄北來人。傳道五原烽火急。單于昨夜寇新秦。

送王道士還京。

一片仙雲入帝鄉。數聲秋雁至衡陽。借問清都舊花月。豈知遷客泣瀟湘。

答嚴大夫。

今夕秦天一雁來。梧桐陰葉搗衣催。思君獨步華庭月。舊館秋陰長綠苔。

春日思歸。　王子羽

楊柳青青杏發花。年光誤客轉思家。不知湖上菱歌女。幾箇春舟在若耶。

明妃曲。　儲太祝

日暮驚沙亂雪飛。傍人相勸易羅衣。强來前殿看歌舞。共待單于夜獵歸。

過劉五。　李東川

名據。荊南人。太子司議郎。

名及。河南人。

名顥。

元結。濮州人。

三。一作二。

洛陽一別李花新。黃鳥飛飛逢故人。携手當年共爲樂。無驚蕙草惜殘春。

落第後口號。　薛議郎

十五能文西入秦。三十無家作路人。時命不將明主合。布衣空惹洛陽塵。

怨歌。　薛維翰

百尺朱樓臨狹斜。新妝能唱美人車。皆言賤妾紅顏好。要自狂夫可憶家。

海上憶洛中舊遊。　獨孤至之

涼風臺上三峯月。不夜城邊萬里沙。離別莫言關塞遠。夢魂長在子陵家。

桃花磯。　張長史

隱隱飛橋隔野煙。石磯西畔問漁船。桃花盡日隨流水。洞在清溪何處邊。

山中留客。

山光物態弄春暉。莫爲輕陰便擬歸。縱使晴明無雨色。入雲深處亦沾衣。

欸乃曲。　次山

湘江三月春水平。滿月和風宜夜行。唱橈欲過平陽戍。守吏相呼問姓名。

杜甫。字子美。襄陽人。參謀檢校。工部員外郎。

名長卿。字文房。河間人。隨州刺史。

名起。吳興人。

江南逢李龜年。 工部

岐王宅裡尋常見。崔九堂前幾度聞。正是江南好風景。落花時節又逢君。

解悶。

商胡離別下揚州。憶上西陵故驛樓。爲問淮南米貴賤。老夫乘興欲東遊。

寄別朱拾遺。 劉隨州

天書遠召滄浪客。幾度臨岐病未能。江海茫茫春欲遍。行人一騎發金陵。

奉使鄂渚至烏江道中。

滄州不復戀漁竿。白髮那堪帶鐵冠。客路向南何處是。蘆花千里雪漫漫。

暮春歸故山草堂。 錢仲文

谷口春殘黃鳥稀。辛夷花盡杏花飛。獨憐幽竹山窗下。不改清陰待我歸。

過故洛城。

故城門前春日斜。故城門裏無人家。市朝欲認不知處。漠漠野田空草花。

秋夜送趙冽歸襄陽。

名應物。長安京兆人。蘇州刺史。

斗酒忘言良夜深。紅萱露滴鵲鶩林。欲知別後思今夕。漢水東流是寸心。

登寶意寺上方舊遊。　韋蘇州

翠嶺香臺出半天。萬家烟樹滿晴川。諸僧近住不相識。坐聽微鐘記往年。

寒食寄京師諸弟。

雨中禁火空齋冷。江上流鶯獨坐聽。把酒看花想諸弟。杜陵寒食草青青。

九日。

今朝把酒復惆悵。憶在杜陵田舍時。明年九日知何處。世難歸家未有期。

春思。

野花如雪繞江城。坐見年芳憶帝京。閶闔曉開凝碧樹。曾陪鴛鷺聽流鶯。

滁州西澗。

生。一作行。上。一作尙。樹。一作處。

獨憐幽草澗邊生。上有黃鸝深樹鳴。春潮帶雨晚來急。野渡無人舟自橫。

赴李少府莊失路。　皇甫參軍

名冉。字茂政。潤州人。左金吾衞兵曹參軍左補闕。

君家南郭白雲連。正待情人弄石泉。月照烟花迷客路。蒼蒼何處是伊川。

楊柳枝詞。　楊司業

巨源。字景山。蒲州人。國子司業。

水邊楊柳緑烟絲。立馬煩君折一枝。唯有春風最相惜。慇懃更向手中吹。

題稚川山水。　戴幼公

名叔倫。潤州人。

松下茅亭五月涼。沙汀雲樹晴蒼蒼。行人無限秋風思。隔水青山似故鄉。

湘南即事。

盧橘花開楓葉衰。出門何處望京師。沅湘日夜東流去。不為愁人住少時。

夢嶺四望。　皇甫孝常

名曾。潤州人。

漢家僊仗在咸陽。洛水東流出建章。野老至今猶望幸。離宮秋樹獨蒼蒼。

春怨。　劉方平

河南人。

紗窗日落漸黄昏。金屋無人見涙痕。寂寞空庭春欲晩。梨花滿地不開門。

柏林寺南望。　郎君胄

名士元。中山人。

溪上遙聞精舍鐘。泊舟微徑度深松。青山霽後雲猶在。畫出東南四五峯。

峽口送友。　文明

司空曙。廣平人。

峽口花飛欲盡春　天涯去住淚沾巾　來時萬里同爲客　今日翻成送故人

發渝州卻寄韋判官

紅燭津亭夜見君　繁絃急管兩紛紛　平明分手空江遠　唯有猿聲滿水雲

江村卽事

罷釣歸來不繫船　江村月落正堪眠　縱然一夜風吹去　只在蘆花淺水邊

路傍墓　耿湋

河東人。

石馬雙雙當古樹　不知何代公侯墓　墓前靡靡春草深　唯有行人看碑路

小孤山　顧祕書

名況。字逋翁。姑蘇人。祕書郎。

古廟楓林江水邊　寒鴉接飯雁橫天　大孤山遠小孤出　月照洞庭歸客船

旅次寄湖南張郎中　戎昱

荊南人。

寒聲近戶漫流聲　竹影當窗亂月明　歸夢不知湖水濶　夜來還到洛陽城

尋山家

獨訪山家歇還涉　茅屋斜連隔松葉　主人聞語未開門　繞籬野菜飛黃蝶

名益。字君虞。隴西姑藏人。

山。一作春。

襄陽寒食寄宇文籍。

烟水初消見萬家。東風吹柳萬條斜。大堤欲上誰相伴。馬踏春泥半是花。

邊思。　　李庶子

腰垂錦帶佩吳鉤。走馬曾防玉塞秋。莫笑關西將家子。秖將詩思入涼州。

早度破訥沙。

破訥沙頭雁正飛。鸊鵜泉上戰初歸。平明日出東南地。滿磧寒光生鐵衣。

臨滹沱見蕃使列名。

漠南山色到滹沱。邊柳青青塞馬多。萬里江山今不閉。漢家頻許郅支和。

上黃堆峯。

心期紫閣山中月。身過黃堆峯上雲。年髮已從書劍老。戎衣更逐霍將軍。

送人歸嶽陽。

烟草連天楓樹齊。岳陽歸路子規啼。春江萬里巴陵戍。落日看沈楚水西。

上汝州郡樓。

枕。一作珍。是。一作此。

名禹錫。字夢得。中山人。太子賓客。

繫。一作駐。

唱。一作踏。

櫓。一作槳。

恨。一作怨。

黃昏鼓角似邊州。三十年前上此樓。今日山川對垂淚。傷心不獨爲悲秋。

寫情。

水紋枕簟思悠悠。千里佳期一夕休。從是無心愛良夜。任他明月下西樓。

竹枝詞。 劉賓客

日出三竿春霧消。江頭蜀客繫蘭橈。憑寄狂夫書一紙。家在成都萬里橋。

瞿塘嘈嘈十二灘。此中道路古來難。長恨人心不如水。等閑平地起波瀾。

楊柳青青江水平。聞郎江上唱歌聲。東邊日出西邊雨。道是無情還有情。

楊柳枝詞。

城外春風吹酒旗。行人揮袂日斜時。長安陌上無窮樹。唯有垂楊管別離。

堤上行。

酒旗相望大堤頭。堤下連檣堤上樓。日暮行人爭渡急。櫓聲幽軋滿中流。

江南江北望烟波。入夜行人相應歌。桃葉傳情竹枝恨。水流無限月明多。

踏歌詞。

名涉。字清溪。洛陽人。太子通事舍人。

舲。一作濡。春。一作東。

春江月出大堤平。堤上女郎連袂行。唱盡新詞歡不見。紅霞映樹鷓鴣鳴。

和令孤相公別牡丹。

平章宅裏一闌花。恰到開時不至家。莫道兩京非遠別。春明門外卽天涯。

聽舊宮人穆氏唱歌。

曾隨織女渡天河。記得雲間第一歌。休唱貞元供奉曲。當時朝士已無多。

過襄陽上于司空頔。　李通事

方城漢水舊城池。陵谷依然世自移。歇馬獨來尋故事。逢人唯說峴山碑。

竹枝詞。

十二峰頭月欲低。空舲灘上子規啼。孤舟一夜東歸客。泣向春風憶建溪。

送魏簡能東遊。

燕市悲歌又送君。目隨征鴻過寒雲。郵亭宿處時看劍。莫使塵埃蔽斗文。

獻賦論兵命未通。却乘羸馬出江東。灞陵道上重回首。十載長安似夢中。

題鶴林寺。

名建。潁州人。

終日昏昏醉夢間。忽聞春盡強登山。因過竹院逢僧話。又得浮生半日閑。

從秦城回再題武關。

遠別秦城萬里遊。亂山高下入商州。關門不鎖寒溪水。一夜潺湲送客愁。

居山亭望月。

大堤花裡錦江前。詩酒同遊四十年。不料中秋最明夜。洞庭湖上月當天。

邠州詞獻高尚書。

單于都護再分疆。西引雙旌出帝鄉。朝日詔書添戰馬。即聞千騎取河湟。

江陵使至汝州。　王仲初

回看巴路在雲間。寒食離家麥熟還。日暮數峰青似染。商人說是汝州山。

綺綉宮。

玉樓傾側粉牆空。重疊青山繞故宮。武帝去來紅袖盡。野花黃蝶領春風。

老歌者。

白髮歌人帶舊情。上皇生日出京城。如今供奉多新意。錯唱當時第一聲。

名仲素。
怨。一作思。
名元衡。河南人。
名鞏。
江東人。
韓愈。字退之。南陽人。元豐中封昌黎伯。
墳。一作闕。

秋閨怨。　張繪之

秋天一夜靜無雲。斷續鴻聲到曉聞。欲寄征人問消息。居延城外又移軍。

送張司祿赴京。　武伯蒼

江南烟雨塞鴻飛。西府文章謝椽歸。相送汀洲蘭杜晚。菱歌一曲涙沾衣。

春日偶作。

飛花寂寂燕雙雙。南客衡門對楚江。惆悵絃管何處發。春風吹送讀書窗。

南遊感興。　竇友封

傷心欲問前朝事。唯見江流去不回。日暮東風春草綠。鷓鴣飛上越王臺。

小江驛送陸侍御。　陳羽

鶴唳天邊秋水空。荻花蘆葉起秋風。今夜渡江何處宿。會稽山在月明中。

題楚昭王廟。　昌黎

丘墳滿目衣冠盡。城闕連雲草樹荒。猶有國人懷舊德。一間茅屋祭昭王。

次潼關先寄張十二閣老。

新。一作親。

柳宗元。字子厚。柳州刺史。

應。一作因。

名籍。蘇州人。又云。和州烏江人。

荊山已去華山來。日照潼關四扇開。刺史莫辭迎候遠。相公新破蔡州迴。

和李司勳過連昌宮。

夾道疎槐出老根。高甍巨桷壓山原。宮前遺老來相問。今是開元幾葉孫。

酬曹侍御過象縣見寄。　柳州

破額山前碧玉流。騷人遙駐木蘭舟。春風無限瀟湘意。欲採蘋花不自由。

柳州二月。

官情羈思共悽悽。春半如秋意轉迷。山城過雨百花盡。榕葉滿庭鶯亂啼。

種木槲花。

上苑年年占物華。飄零今日在天涯。祇應長作龍城守。剩種庭前木槲花。

春別曲。　張文昌

長江春水綠堪染。蓮葉出水大如錢。江頭橘樹君自種。那不長繫木蘭船。

哭孟寂。

曲江院裏題名處。十九人中最少年。今日春風君不見。杏花零落寺門前。

結。一作レ紹。

夜。一作レ搖。

誰。一作レ謝。

多住。一作₂住在₁。記。一作レ出。同李十一。一作レ遊₂慈恩₁。白居易。字樂天。

作。一作レ當。梁。一作レ涼。

送₂元結₁。

昔日同遊漳水邊。如今重說恨綿綿。天涯相見還相別。客路秋風又幾年。

愁思。

洛陽城裏見₂秋風₁。欲レ作₂家書₁意萬重。復恐忽忽說不レ盡。行人臨レ發又開封。

涼州詞。

邊城暮雨雁飛低。蘆筍初生漸欲レ齊。無數鈴聲夜過レ磧。應レ馱₂白練₁到₂安西₁。

感レ春。

遠客悠悠任₂病身₁。誰家池上又逢レ春。明年各自東西去。此地看レ花是別人。

蠻州。

瘴水蠻中入レ洞流。人家多住竹棚頭。青山海上無₂城郭₁。唯見₂松牌記₁象州₁。

同₂李十一醉憶₁₂元九₁。　香山

花時同醉破₂春愁₁。醉折₂花枝₁作₂酒籌₁。忽憶故人天際去。計程今日到₂梁州₁。

三月廿八日贈₂周判官₁。

一春惆悵殘三日。醉問周郎憶得無。柳絮送人鶯勸酒。去年今日到東都。

梁州夢。　長慶

元稹。字微之。河南人。有元氏長慶集。

夢君同繞曲江頭。也向慈恩院裡遊。亭吏呼人排去馬。忽驚身在古梁州。

寄庾敬休。

小來同在曲江頭。不省春時不共遊。今日江風好暄暖。可憐春盡古湘州。

雨聲。

明。一作鳴。

風吹竹葉休還動。雨點荷心暗復明。曾向西江船上宿。慣聞寒夜滴篷聲。

送客入蜀。　楊凝

劍閣迢迢夢想間。行人歸路繞梁山。明朝騎馬搖鞭去。秋雨槐花子午關。

酬答。　李長吉

名賀。

雍州二月海池春。潮水鵁鶄暖白蘋。試問酒旗歌板地。今朝誰是拗花人。

潮。一作御。

逢鄭三遊山。　盧玉川

名同。洛陽人。號玉川子。

相逢之處草茸茸。翠壁攢峯千萬重。他日期君何處好。寒流石上一株松。

翠。一作峭。

名肩吾。睦州人。

名祜。清河人。

名德裕。字文饒。趙州贊皇人。

名楚。

戲贈李主簿。　施希聖

官能江南客恨遙。二年空被酒中消。不知暗數春遊處。偏憶楊州第幾橋。

遊淮南。　張承吉

十里長街市井連。月明橋上見神僊。人生只合楊州死。禪智山光好墓田。

金陵渡。

金陵津渡小山樓。一宿行人自欲愁。潮落夜江斜月裡。兩三星火是瓜洲。

鄴亭殘花。

雲暗山橫日欲斜。鄴亭下馬看殘花。自從身逐征西府。每到花時不在家。

邠王小管。

虢國潛行韓國隨。宜春深院映花枝。金輿遠幸無人見。偸把邠王小管吹。

長安秋夜。　李贊皇

內官傳詔問戎機。載筆金鑾夜始歸。萬戶千門皆寂寂。月中清露點朝衣。

少年行。　令狐殼士

泰山人。

弓背霞明劍照霜。秋風走馬出咸陽。未收天子河源地。不擬回頭望故鄉。

臺中寓直覽壁畫山水。　羊士諤

蟲思庭莎白露天。微風吹竹曉淒然。今來始悟朝回客。暗寫歸心向石泉。

杜牧。字牧之。京兆人。其詩情致豪邁。人號爲小杜。

泊秦淮。　小杜

烟籠寒水月籠沙。夜泊秦淮近酒家。商女不知亡國恨。隔江猶唱後庭花。

寄揚州韓綽判官。

木。一作未。

青山隱隱水迢迢。秋盡江南草木凋。二十四橋明月夜。玉人何處教吹簫。

懷吳中馮秀才。

長洲苑外草蕭蕭。却算遊程歲月遙。唯有別時今不忘。暮烟秋雨過楓橋。

登樂遊原。

事。一作似。魂一作沈。

長空澹澹孤鳥沒。萬古銷魂向此中。看取漢家何事業。五陵無樹起秋風。

赤壁。

未。一作下。認。一作驗。

折戟沈沙鐵未銷。自將磨洗認前朝。東風不與周郎便。銅雀春深鎖二喬。

玉。一作ㇾ瑤。臥。一作ㇾ坐。

凭。一作ㇾ倚。

軋。一作ㇾ咽。

秋夕。

銀燭秋光冷二畫屛一。輕羅小扇撲二流螢一。玉階夜色涼如ㇾ水。臥看牽牛織女星。

漢江。

溶溶漾漾白鷗飛。綠淨春深好染ㇾ衣。南去北來人自老。夕陽長送釣船歸。

秋浦途中。

蕭蕭山路窮秋雨。淅淅溪風一岸蒲。爲問寒沙新到雁。來時還下杜陵無。

南陵道中。

南陵水面漫悠悠。風緊雲輕欲ㇾ變ㇾ秋。正是客心孤迥處。誰家紅袖凭江樓。

題二齊安城樓一。

嗚軋江樓角一聲。微陽瀲瀲落二寒汀一。不ㇾ用憑ㇾ欄苦回首。故鄉七十五長亭。

蘭溪。

蘭溪春盡碧泱泱。映ㇾ水蘭花雨發ㇾ香。楚國大夫憔悴日。應ㇾ尋此路去瀟湘。

初冬夜飲。

却。一作欲。

掉。一作擢。側。一作畔。

李商隱。懷州人。

淮陽多病偶求歡。客袖侵霜與燭盤。砌下梨花一堆雪。明年誰與凭闌看。

將赴吳興登樂遊原

淸時有味是無能。閑愛孤雲靜愛僧。却把一麾江海去。樂遊原上望昭陵。

遣懷。

落魄江湖載酒行。楚腰纖細掌中輕。十年一覺揚州夢。贏得靑樓薄倖名。

題僧院。

觥船一掉百分空。十歲靑春不負公。今日鬢絲禪榻側。茶烟輕颺落花風。

賈生。　義山

宣室求賢訪逐臣。賈生才調更無倫。可憐夜半虛前席。不問蒼生問鬼神。

瑤池。

瑤池阿母綺窗開。黃竹歌聲動地哀。八駿日行三萬里。穆王何事不重來。

岳陽。

漢水方城帶百蠻。四鄰誰道亂周班。如何一夢高唐雨。自此無心入武關。

溫庭筠。本名岐。幷州祁人。

齊宮詞。

永壽兵來夜不扃。金蓮無復印中庭。梁臺歌管三更罷。猶自風搖九子鈴。

過華淸內厩門。

華淸別館閉黃昏。碧草悠悠內厩門。自是明時不巡幸。至今靑海有龍孫。

龍池。

龍池賜酒敞雲屛。羯鼓聲高衆樂停。夜半宴歸宮漏永。薛王沈醉壽王醒。

嫦娥。

雲母屛風燭影深。長河漸落曉星沈。嫦娥應悔偸靈藥。碧海靑天夜夜心。

涉洛川。

通谷楊林不見人。我來遺恨古時春。宓妃漫結無窮恨。不爲君王殺灌均。

宿駱師亭寄懷崔雍。

竹塢無塵水檻淸。相思迢遞隔重城。秋陰不散霜飛晚。留得枯荷聽雨聲。

贈少年。　飛卿

江海相逢客恨多。秋風葉下洞庭波。酒酣夜別淮陰市。月照高樓一曲歌。

贈彈箏者。

天寶年中事玉皇。曾將新曲教寧王。鈿蟬金雁皆零落。一曲伊州淚萬行。

贈鄭徵君

本集。君字下有家匡山首春與丞相贊皇公遊山十三字。惆悵。一作悵望。

一抛蘭櫂逐燕鴻。曾向江湖識謝公。每到朱門還惆悵。故山多在畫屏中。

鄂杜郊居。

槿籬芳樹近樵家。麥隴青青一徑斜。寂莫遊人寒食後。夜來風雨送梨花。

渭上題。

呂公榮達子陵歸。萬古烟波遶釣磯。橋頭一通名利路。到今江鳥背人飛。

淮上與故人別。　鄭都官

鄭谷。字守愚。袁州人。都官郎中。

楊子江頭楊柳春。楊花愁殺渡江人。數聲風笛離亭晚。君向瀟湘我向秦。

江州江館。

向蜀還秦計未成。寒蛩一夜繞牀鳴。愁眠不穩孤燈盡。坐聽嘉陵江水聲。

名渾。丹陽人。

早入諫院。

紫雲重疊抱春城。廊下人稀唱漏聲。偸得微吟斜倚柱。滿衣花露聽宮鶯。

席上貽歌者。

花月樓臺近九衢。清歌一曲倒金壺。坐中亦有江南客、莫向春風唱鷓鴣。

街西晩歸。

御溝春水繞閑坊。信馬歸來傍短牆。幽樹名園臨紫陌。晩風時帶牡丹香。

江宿聞蘆管。

塞曲凄清楚水濱。聲聲吹出落梅春、須知風月千檣下。亦有胡蘆河畔人。

謝亭送別。　許用晦

勞歌一曲解行舟。紅葉青山水急流。日暮酒醒人已遠。滿天風雨下西樓。

下第懷故人。

獨掩衡門花落時。一封書信緩歸期。南宗更有瀟湘客、夜夜月明聞竹枝。

途經秦始皇廟。

寺處。一作人到。

故。一作舊。

名嘏。字承祐。山陽人。有長笛一聲人倚樓句。膾炙人口。

名陶。成都人。

名圖。河中人。

龍盤虎踞樹層層。勢入浮雲亦是崩。一種青山秋草裡。路人唯拜漢文陵。

客有卜居不遂薄遊汧隴因題

海燕西飛白日斜。天門遙望五侯家。樓臺深鎖無尋處。落盡東風第一花。

經汾陽故宅。　趙倚樓

門前不改舊山河。破虜曾輕馬伏波。今日獨經歌舞地。古槐疎冷夕陽多。

送客歸襄陽舊居。　雍國鈞

襄陽耆舊別來稀。此去何人共掩扉。唯有白銅鞮上月。水樓閑處待君歸。

城西訪友人別墅。

澧水橋西小路斜。日高猶未到君家。村園門巷多相似。處處春風枳殼花。

和孫明府懷舊山。

五柳先生本在山。偶然爲客落人間。秋來看月多歸思。自起開籠放白鷴。

修史亭。　司空表聖

烏紗巾上是青天。檢束酬知四十年。誰料平生臂鷹手。挑燈自送佛前錢。

遊邊感懷。　張喬

池州人。

兄弟江南身塞北。雁飛猶自半年餘。夜來因得思鄉夢。重讀前秋轉海書。

河湟舊卒。

少年隨將討河湟。頭白時淸返故鄉。十萬漢軍零落盡。獨吹邊曲向殘陽。

九華樓晴望。

一夜江潭風雨後。九華晴望倚天秋。重來此地知何日。欲別殷懃更上樓。

雁。　杜彥之

名荀鶴。池州人。

雁。一作題新雁。

暮天新雁起汀洲。紅蓼花疎水國秋。想得故園今夜月。幾人相憶在江樓。

公子行。　羅鄴

餘杭人。

金鞍玉勒照花明。過後香風特地生。半醉五侯門裏出。月高猶在禁街行。

金。一作雕。

寄友。　唐茂業

名彥謙。幷州人。

新酒秦淮縮項鯿。凌霄花下共流連。別來客邸空翹首。細雨春風憶往年。

仲山。

舊。一作漢。

客。一作旅。

名頫。陸州人。一作未識東西南北路。青春白日坐銷難。如何一別故園後。

名隱。餘杭人。上樓字。一作橋。頃。一作畝。

名龜蒙。三吳人。

名琮。

名莊。京兆杜陵人。

杜。一作灞。

千載遺蹤寄薜蘿。沛中鄉里舊山河。長陵亦是閑邱壟。異日誰知與仲多。

寄人。

別夢依依到謝家。小廊回合曲欄斜。多情唯有春庭月。猶爲情人照落花。

春日客舍。　李德新

識盡東南萬里山。青春日月坐消難。如何別却故園後。五度花開五處看。

煬帝陵。　羅昭諫

入郭登樓出郭船。紅樓日日柳年年。君王忍把平陳業。只換雷塘數頃田。

酒醒。　陸魯望

幾年無事傍江湖。醉倒黃公舊酒壚。覺後不知新月上。滿身花影倩人扶。

暮春滻水送別。　韓成封

綠暗紅稀出鳳城。暮雲宮闕古今情。行人莫聽宮前水。流盡年光是此聲。

江上別李秀才。　韋端已

前年相送杜陵春。今日天涯各避秦。莫向尊前惜沈醉。與君俱是異鄉人。

名蟷。清河人。社日。品彙作二王駕詩。萬首絕句作二張演詩。詩府作二張蟷詩。

絕。一作斷。

名陶。番陽人。

委。一作喪。

錢塘人。孝標之子。

社日。　張象文

鵝湖山下稻粱肥。豚柵雞栖對掩扉。桑柘影斜秋社散。家家扶得醉人歸。

庾信。　孫元晏

苦心詩賦向誰談。淪落咸陽志豈甘。可惜多才庾開府。一生惆悵憶江南。

邊庭四時怨。　盧弼

盧龍塞外草初肥。雁乳平蕪曉不飛。鄉國近來音信絕。至今猶自著寒衣。

隴西行。　陳嵩伯

誓掃匈奴不顧身。五千貂錦委胡塵。可憐無定河邊骨。猶是春閨夢裏人。

越溪怨。　後朝先

越王宮裡如花人。越水溪頭采白蘋。白蘋未盡人先盡。誰見江南春復春。

詠鷹。　高越

雪爪星眸世所稀。摩天專擬振毛衣。虞人莫漫張羅網。未肯平原淺草飛。

焚書阬。　章碣

竹帛烟消帝業虛。關河空鎖祖龍居。坑灰未冷山東亂。劉項元來不讀書。

名能。汾陽人。

遊嘉陵後溪。　薛太拙

屐。一作履。

山屐經過滿徑蹤。隔溪遙見夕陽春。當時諸葛成何事。只合終身作臥龍。

寇坦母。

閨杜羔登第。　趙氏

長安此去無多地。鬱鬱蒼蒼佳氣浮。良人得意正年少。今夜醉眠何處樓。

徐州妓。張建
納爲妾。

燕子樓詩。　關盼盼

北邙松柏鎖愁烟。燕子樓中思悄然。自埋冠劍歌塵散。紅袖香銷一十年。

成都妓。張。一
作業。

春思。　張窈窕

門前梅柳爛春暉。閉妾深閨繡舞衣。雙燕不知腸欲斷。啣泥故故傍人飛。

字洪度。蜀妓。

贈遠。　薛濤

芙蓉新落蜀山秋。錦字開緘總是愁。閨閣不知戎馬事。月高還上望夫樓。

姓名闕。

續韋蟾句。　武昌妓

悲莫悲兮生別離。登山臨水送將歸。武昌無限新栽柳。不見楊花撲面飛。

李益。同時人。

無レ傳。

姓名闕。

送二友人上一レ都。　　僧法振

玉帛微賢楚客稀。猿啼相送武陵歸。潮頭望入二桃花一去。一片春帆帶レ雨飛。

憶二潯陽舊居一兼贈二長孫郎中一。　　釋淸江

潯陽却到知何日。此地今無二舊使君一。長憶窮冬宿二廬嶽一。瀑泉冰折共僧聞。

閒吟。　　君山父老

湘中老人讀二黃老一。手援二紫藟一坐二碧草一。春至不レ知湘水深。日暮忘却巴陵道。

# 唐絕新選卷上終

# 唐絕新選 卷下

備錄

蜀中九日。　王子安

名勃。絳州人。

九月九日望鄉臺。他席他鄉送客杯。人情已厭南中苦。鴻雁那從北地來。

渡湘江。　杜必簡

名審言。襄陽人。

遲日園林悲昔遊。今春花鳥作邊愁。獨憐京國人南竄。不似湘江水北流。

送司馬道士遊天台。　宋延清

名之問。一名少連。汾州人。

羽客笙歌此地違。離筵數處白雲飛。蓬萊闕下長相憶。桐柏山頭去不歸。

送梁六。　張燕公

名說。字道濟。洛陽人。封燕國公。

巴陵一望洞庭秋。日見孤峯水上浮。聞道神仙不可接。心隨湖水共悠悠。

涼州詞。　王子羽

葡萄美酒夜光杯。欲飲琵琶馬上催。醉臥沙場君莫笑。古來征戰幾人回

清平調詞三首。　供奉

雲想衣裳花想容。春風拂檻露華濃。若非羣玉山頭見。會向瑤臺月下逢。

一枝濃艷露凝香。雲雨巫山枉斷腸。借問漢宮誰得似。可憐飛燕倚新粧

名花傾國兩相歡。常得君王帶笑看。解釋春風無限恨。沈香亭北倚欄干。

客中行。

蘭陵美酒鬱金香。玉碗盛來琥珀光。但使主人能醉客。不知何處是他鄉。

峨眉山月歌。

峨眉山月半輪秋。影入平羌江水流。夜發清溪向三峽。思君不見下渝州

聞王昌齡左遷龍標尉遙有此寄。

楊花落盡子規啼。聞道龍標過五溪。我寄愁心與明月。隨風直到夜郎西

黃鶴樓送孟浩然之廣陵。

故人西辭黃鶴樓。烟花三月下揚州。孤帆遠影碧空盡。唯見長江天際流。

陪族叔刑部侍郎曄及中書舍人賈至遊洞庭湖。

洞庭西望楚江分。水盡南天不見雲。日落長沙秋色遠。不知何處弔湘君。

望天門山。

天門中斷楚江開。碧水東流至北廻。兩岸青山相對出。孤帆一片日邊來。

早發白帝城。

朝辭白帝彩雲間。千里江陵一日還。兩岸猿聲啼不住。輕舟已過萬重山。

蘇臺覽古。

舊苑荒臺楊柳新。菱歌清唱不勝春。只今惟有西江月。曾照吳王宮裡人。

越中懷古。

越王勾踐破吳歸。義士還家盡錦衣。宮女如花滿春殿。只今惟有鷓鴣飛。

與史郎中欽聽黃鶴樓上吹笛。

一爲遷客去長沙。西望長安不見家。黃鶴樓中吹玉笛。江城五月落梅花。

春夜洛城聞笛。

誰家玉笛暗飛聲。散入春風滿洛城。此夜曲中聞折柳。何人不起故園情。

春宮曲。　少伯

昨夜風開露井桃。未央前殿月輪高。平陽歌舞新承寵。簾外春寒賜錦袍。

西宮春怨。

西宮夜靜百花香。欲捲珠簾春恨長。斜抱雲和深見月。朧朧樹色隱昭陽。

青樓曲。

白馬金鞍從武皇。旌旗十萬宿長楊。樓頭少婦鳴箏坐。遙見飛塵入建章。

閨怨。

閨中少婦不知愁。春日凝妝上翠樓。忽見陌頭楊柳色。悔教夫婿覓封侯。

出塞行。

白草原頭望京師。黃河水流無盡時。秋天曠野行人絕。馬首東來知是誰。

從軍行。

秦時明月漢時關。萬里長征人未還。但使龍城飛將在。不教胡馬度陰山。

芙蓉樓送辛漸。

寒雨連江夜入吳。平明送客楚山孤。洛陽親友如相問。一片冰心在玉壺。

送薛大赴安陸。

津頭雲雨暗湘山。遷客離憂楚地顏。遙送扁舟安陸郡。天邊何處穆陵關。

盧溪別人。

武陵溪口駐扁舟。溪水隨君向北流。行到荊門上三峽。莫將孤月對猿愁。

重別李評事。

莫道秋江離別難。舟船明日是長安。吳姬緩舞留君醉。隨意青楓白露寒。

少年行。　右丞

出身仕漢羽林郎。初隨驃騎戰漁陽。孰知不向邊庭苦。縱死猶聞俠骨香。

九月九日憶山中兄弟。

獨在異鄉爲異客。每逢佳節倍思親。遙知兄弟登高處。遍插茱萸少一人。

送韋評事。

欲逐將軍取右賢。沙場走馬向居延、遙知漢使蕭關外。愁見孤城落日邊、

送沈子福之江南。

楊柳渡頭行客稀。罟師盪槳向臨圻。唯有相思似春色。江南江北送君歸。

春思。　　舍人

紅粉當壚弱柳垂。金花臘酒解酴醾。笙歌日暮能留客、醉殺長安輕薄兒

西亭春望。

日長風暖柳青青。北雁歸飛入窅冥。岳陽城上聞吹笛、能使春心滿洞庭

初至巴陵與李十二白同泛洞庭湖、

楓岸紛紛落葉多。洞庭秋水晚來波、乘興輕舟無近遠。白雲明月弔湘娥、

送李侍郎赴常州。

雪晴雲散北風寒。楚水吳山道路難。今日送君須盡醉。明朝相憶路漫漫。

岳陽樓重宴別王八員外貶長沙。

江路東連千里潮。青雲北望紫微遙。莫道巴陵湖水濶。長沙南畔更蕭條。

玉關寄長安李主簿。　嘉州

東去長安萬里餘。故人那惜一行書、玉關西望腸堪斷。況復明朝是歲除。

逢入京使。

故園東望路漫漫。雙袖龍鍾淚不乾。馬上相逢無紙筆。憑君傳語報平安。

磧中作。

走馬西來欲到天。辭家見月兩回圓。今夜不知何處宿。平沙萬里絕人烟。

送人還京。

匹馬西從天外歸。揚鞭只共鳥爭飛。送君九月交河北。雪裏題詩淚滿衣。

赴北庭度隴思家。

西向輪臺萬里餘。也知鄉信日應疎。隴山鸚鵡能言語。爲報家人數寄書。

酒泉太守席上醉後作。

酒泉太守能劍舞。高堂置酒夜擊鼓。胡笳一曲斷人腸。坐客相看淚如雨。

送劉判官赴磧西。

四。一作兩。

火山五月行人少。看君馬去疾如鳥。都使行營太白西。角聲一動胡天曉。

虢州後亭送李判官使赴晉絳得秋字。

西原驛路掛城頭。客散江亭雨未休。君去試看汾水上。白雲猶似漢時秋。

苜蓿烽寄家人。

苜蓿烽邊逢立春。葫蘆河上淚沾巾。閨中只是空相憶。不見沙場愁殺人。

山房春事。

梁園日暮亂飛鴉。極目蕭條三四家。庭樹不知人去盡。春來還發舊時花。

贈花卿。　工部

錦城絲管日紛紛。半入江風半入雲。此曲秖應天上有。人間能得幾回聞。

奉和嚴武軍城早秋。

秋風嫋嫋動高旌。玉帳分弓射虜營。已收滴博雲間戍。欲奪蓬婆雪外城。

九曲詞。　常侍

鐵馬橫行鐵嶺頭。西看邏逤取封侯。青海只今將飲馬。黃河不用更防秋。

名之渙。幷州人。

名建。盱眙尉。

除夜作。

旅館寒燈獨不眠。客心何事轉凄然。故鄉今夜思千里。霜鬢明朝又一年。

別董大。

十里黃雲白日曛。北風吹雁雪紛紛。莫愁前路無知己。天下誰人不識君。

塞上聞吹笛。

雪淨胡天牧馬還。月明羌笛戍樓間。借問梅花何處落。風吹一夜滿關山。

寄孫山人。　儲太祝

新林二月孤舟還。水滿清江花滿山。借問故園隱君子。時時來往住人間。

涼州詞。　王幷州

黃河遠上白雲間。一片孤城萬仞山。羌笛何須怨楊柳。春光不渡玉門關。

九日送別。

薊庭蕭瑟故人稀。何處登高且送歸。今日暫同芳菊酒。明朝應作斷蓬飛。

塞下曲二首。　常盱眙

王呂朝回望帝鄉。烏孫歸去不稱王。天涯靜處無征戰。兵氣銷爲日月光

北海陰風動地來。明君祠上望龍堆。髑髏盡是長城卒。日暮沙場飛作灰。

送宇文六。

花映垂楊漢水清。微風林裡一枝輕。卽今江北還如此。愁殺江南離別情

三日尋李九莊。

雨歇楊林東渡頭。永和三日盪輕舟。故人家在桃花岸。直到門前溪水流

少年行。　吳象之

承恩射獵小平津。使氣常遊中貴人。一擲千金渾是膽。家無四壁不知貧

射。一作借。無。一作徒。

江南行。　張潮

潤州曲阿人。

茨菰葉爛別西灣。蓮子花開猶未還。妾夢不離江上水。人傳郎在鳳凰山。

軍城早秋。　嚴節度

名武。字季鷹。華州人。成都尹。劍南節度使。

昨夜秋風入漢關。朔雲邊月滿西山。更催飛將追驕虜。莫遣沙場匹馬還

春行寄興。　李遐叔

名華。趙州人。

襄陽人。

宜陽城下草萋萋。澗水東流復向西。芳樹無人花自落。春山一路鳥空啼。

水調歌第一疊。　張子容

平沙落日大荒西。隴上明星高復低。孤山幾處看烽火。戰士連營候鼓鼙。

重送裴郎中貶吉州　劉隨州

猿啼客散暮江頭。人自傷心水自流。同作逐臣君更遠。青山萬里一孤舟。

送李判官之潤州行營。

萬里辭家事鼓鼙。金陵驛路楚雲西。江春不肯留行客。草色青青送馬蹄。

登樓寄王卿。　韋蘇州

踏閣攀林恨不同。楚雲滄海思無窮。數家砧杵秋山下。一郡荊榛寒雨中。

酬柳郎中春日歸楊州南郭見別之作。

廣陵三月花正開。花裡逢君醉一回。南北相過殊不遠。暮潮歸去早潮來。

送魏十六還蘇州。　皇甫參軍

秋夜沈沈此送君。陰蟲切切不堪聞。歸舟明日毘陵道。回首姑蘇是白雲。

名翃。字君平。南陽人。中書舍人。

曾山送別。

凄凄遊子苦飄蓬。明月淸樽秖暫同。南望千山如黛色。愁君客路在其中。

寒食。　韓舍人

春城無處不飛花。寒食東風御柳斜。日暮漢宮傳蠟燭。靑烟散入五侯家。

宿昭應。　顧秘書

武帝祈靈太乙壇。新豐樹色繞千官。那知今夜長生殿。獨閉空山月影寒。

湖中。

靑草湖邊日色低。黃茅瘴裡鷓鴣啼。丈夫飄蕩今如此。一曲長歌楚水西。

從軍北征。　李庶子

天山雪後海風寒。橫笛偏吹行路難。磧裡征人三十萬。一時回首月中看。

夜上受降城聞笛。

回樂峯前沙似雪。受降城外月如霜。不知何處吹蘆管。一夜征人盡望鄉。

聽曉角。

興。一作爲。

邊霜昨夜墮關楡。吹角當城片月孤。無限塞鴻飛不度。秋風吹入小單于。

浪淘沙詞。　劉賓客

鸚鵡州頭浪颭沙。青樓春望日將斜。銜泥燕子爭歸舍。獨自狂夫不憶家。

自朗州至京戲贈看花諸君子。

紫陌紅塵拂面來。無人不道看花回。玄都觀裏桃千樹。盡是劉郎去後栽。

與歌者何戡。

二十餘年別帝京。重聞天樂不勝情。舊人唯有何戡在。更與殷勤唱渭城。

楊柳枝詞。

煬帝行宮汴水濱。數株楊柳不勝春。晩來風起花如雪。飛入宮墻不見人。

涼州詞。　張文昌

鳳林關裏水東流。白草黃楡六十秋。邊將皆承主恩澤。無人解道取涼州。

十五夜望月。　王仲初

中庭地白樹棲鴉。冷露無聲濕桂花。今夜月明人盡望。不知秋思在誰家。

未。一作不。

處。一作路。

送盧起居。　武伯若

相如擁傳有光輝。何事闌干淚濕衣。舊府東山餘妓在。重將歌舞送君歸。

嘉陵驛。

悠悠風旆遶山川。山驛空濛雨作烟。路半嘉陵頭已白。蜀門西更上青天。

漢苑行。　張繪之

回雁高飛太液池。新花低發上林枝。年光到處皆堪賞。春色人間總未知。

塞下曲二首。

三戍漁陽再度遼。騂弓在臂箭橫腰。匈奴似欲知名姓。休傍陰山更射鵰。

朔雪飄飄開雁門。平沙歷亂捲蓬根。功名恥計擒生數。直斬樓蘭報國恩。

秋閨思。

碧窗斜月藹深輝。愁聽寒螿淚濕衣。夢裡分明見關塞。不知何處向金微。

登樓。　羊士諤

槐柳蕭疏遶郡城。夜添山雨作江聲。秋風南陌無車馬。獨上高樓故國情。

名島。范陽人。

雨淋鈴。　　張承吉

雨淋鈴夜却歸秦。猶是張徽一曲新。長說上皇垂淚教。月明南内更無人。

渡桑乾。　　賈浪僊

客舍并州已十霜。歸心日夜憶咸陽。無端更渡桑乾水。却望并州是故鄉。

漢宮詞。　　義山

青雀西飛竟未回。君王長在集靈臺。侍臣最有相如渴。不賜金莖露一杯。

夜雨寄北。

君問歸期未有期。巴山夜雨漲秋池。何當共剪西窗燭。却話巴山夜雨時。

寄令狐郎中。

嵩雲秦樹久離居。雙鯉迢迢一紙書。休問梁園舊賓客。茂陵秋雨病相如。

秋思。　　許用晦

琪樹西風枕簟秋。楚雲湘水憶同遊。高歌一曲掩明鏡。昨日少年今白頭。

江樓書感。　　趙倚樓

獨上江樓思渺然。月光如水水連天。同來翫月人何處。風景依稀似去年。

楊柳枝。　飛卿

館娃宮外鄴城西。遠映征帆近拂堤。繫得王孫歸意切。不關春草綠萋萋。

折楊柳。　段柯古

名成式。

枝枝交影鎖長門。嫩色曾霑雨露恩。鳳輦不來春欲盡。空留鶯語到黃昏。

宮怨。　司馬禮

大中時人。

柳色參差掩畫樓。曉鶯啼送滿宮愁。年年花落無人見。空逐春泉出御溝。

退朝望終南山。　李昌時

名拯。

紫宸朝罷綴鵷鸞。丹鳳樓前駐馬看。唯有終南山色在。晴明依舊滿長安。

華清宮。　崔魯

僖宗廣明信士。

草遮回磴絕鳴鑾。雲樹深深碧殿寒。明月自來還自去。更無人倚玉欄干。

古別離。　韋端己

晴烟漠漠柳毿毿。不那離情酒半酣。更把玉鞭雲外指。斷腸春色在江南。

大曆中崔琮同時人。

雜詩。　陳祐

無定河邊暮笛聲。赫連臺畔旅人情。函關歸路千餘里。一夕秋風白髮生。

塞上曲。　王烈

紅顏歲歲老金微。沙磧年年臥鐵衣。白草城中春不入。黃花戍上雁長飛。

邊詞。　張敬忠

五原春色舊來遲。二月垂楊未掛絲。即今河畔冰開日。正是長安花落時。

和李秀才邊庭四時怨。　盧弼

朔風吹雪透刀瘢。飲馬長城窟更寒。夜半火來知有敵。一時齊保賀蘭山。

唐絕新選卷下 終

## 後序

唐賢七絶之妙。固非言語所能盡。而其要不過眞率著實。直行胸臆耳。音吐天然。不費刻畫。所以能使讀者人人舞蹈不能已也。國朝近古學詩者。前明・後宋及清。其習或事摹擬而失情實。或務豪爽而無餘蘊。或喜纖巧而乏氣魄。輒曰。吾能學宋。吾能學明・清。而不知絶句極於唐。唐絶句之鼻祖也。夫宋及明・清。皆不得不出于唐。而各有其弊。襲其末弊。而忘其本源。滔滔皆是。嗚呼。今之學詩者。非能讀唐詩。得其意。豈免陋習之誚耶。先考有慨于此。嘗就唐人絶句。采其可意者。名曰唐絶新選。以資諷詠。頃友人小石君厥。將刻行乎世。謀之於復。復謂。先考自序不云乎。自選自讀焉爾。固非有公行于世之意也。雖然此間唐調之衰久矣。今也刻行乎世。苟因是編。有以救詩風頽靡。則君厥此舉。先考當必首肯於地下。復豈可不慫慂乎。如其選次之旨趣。則世自有識焉者。不待復輩之喋喋也。』天保甲辰之歳秋九月十又三日。不肖・復謹撰。併書乎平安之古香書屋。

## 後敍

先君子有言。文以氣爲主。苟無氣。雖工不足觀。醇竊謂。詩亦然。無氣而作者。綺麗以爲新。粉飾以爲工。一覽絢爛如可喜。逾誦逾淺。所謂以氣者。明正勁拔。主意貫通。使人讀之。千遍不厭也。然唯務氣。則其語動涉議論。或不自知筋骨暴露。列世之詩。至唐創定體裁。專務敍實。而絕句尤貴率簡練。往往藏氣於平易中。而不見其鋒。流覽之際。音調風致。使人胸豁神遠。是得趣味於意匠外。不求粉飾於字句間者也。此間元祿及天明。數十百年。詰屈聱牙。頗乏氣韻。近世一變。復趨纖巧。豈皆受明・淸流弊歟。醇觀先君此選。若專取夫平易明白。而存氣其中者。或欲救其弊乎。頃者小石君厥。欲梓而公之。蓋此選。在先君則一時消遣之舉耳。今以災梨棗。恐非先君意。然苟有裨于世者。未可以小册子閣置之也。此君厥之志。而世之學詩者觀之。或有與醇同說者。書以問之。　天保甲辰〔弘化元年〕五月十二日。不肖醇謹識。

# 唐絕新選跋

文政甲申〔七年〕之冬。從山陽翁自鄉東上。道過福山最善寺而飲焉。時翁之故人今村緯夫在坐。曰。先生昔日。寓於夕陽村舍時。撰唐賢七絕。有自序並凡例。名曰唐絕新撰。吾寫而弆之。先生記之乎。翁曰。然有之。是閑居吟誦。錄意所適耳。去今既久。不復留稿也。於是余私借其冊入京。諸友傳寫。各藏一本。翁常謂吾輩曰。作詩之法。不必竟奇。則自新。吾取歷代之詩讀之。其能以絕句寫情景。莫若唐人爲勝焉。雖此撰未備。亦可以資子輩作詩之法矣。小石君厥。嘗遊翁之門。惜其竟沈沒。不傳于世。欲刻以贈之同志。綱慫慂之。且書親所聞見於卷尾云。　天保十四年癸卯蒲月。從弟。賴綱・子常。

書唐人絶句新選後。

七言絶句。是唐人本色。如蕭景暢詠春別。虞伯施詠司花女。頗近唐調。蓋梁陳隋稍已有之。至唐盛行。樂府非此不用。如汾水秋雁詞。至泣明皇。亦截長古尾四句者。如清江一曲柳千條。刪短古之末二句者。可以見焉。如涼州伊州水調。取戍夫妓女之作。不雅訓者。經名手之裁。然後被絃歌。稱太白昌齡擅長。以其尤豪壯清麗。其實人人皆能也。故老杜不爲。爲之則錦城絲管。豈非當家。至如逢李龜年。則可謂得其神境矣。禹錫竹枝。似本於杜江畔獨步體。而加流麗。李益乃太白之流。晩唐多佳作。杜牧鄭谷爲最。明人開口曰盛唐盛唐。要知此體是一代歌謠。何必區別。但中晩多布置痕迹。不如盛唐跌宕耳。至許渾李商隱。以此詠史爲議論。亦自一體。宋元詩餘興。絶句不復唱歌。雖極工緻。終不及唐人者坐此。洪容齋有唐萬首絶句。王阮亭就而選之。其所論先獲吾心。及視所選。大不滿意。嘗刪存數百首。又就諸集拾遺。雖不盡備。要皆不失樂府風味者。後不知散落何處。今逢備後故人今村綽夫。寫有一本。欣然略叙素論以付之。

又

唐絶歴卷。歴下稱秦時明月。婁東稱蒲桃美酒。王新城稱渭城・白帝・奉帚興黃河遠上。而沈長洲以李益聞笛・禹錫石頭・杜牧秦淮・鄭谷揚子。接武。余謂秦時墮議論。奉帚嫌太巧。皆似不若簾外春寒也。白帝乏風韵。似不若峨眉・蘭陵也。秦淮不若暮煙秋雨。石頭不若冒隨織女也。且杜逢李龜年。豈有遺乎。更有每到花時不在家。坐聽嘉陵江水聲等。豈不可接武。要之。詩因境變。各有可觀。況於一代詩。必求歴卷。詎可哉。

# 宋詩鈔

# 『宋詩鈔』〔選評本〕解題

賴山陽ガ、寛政六年十一月廿九日、江戸書肆・青黎閣〔須原屋伊八〕開版ノ、『宋詩鈔』ニ就キ、親シク朱批ヲ加ヘタル原本、予、コレヲ逗子・小宮三保松翁ノ書庫ニ閲覧スルヲ得タリ。

『宋詩鈔』〔『宋詩百一鈔』〕ノ舶載本ハ、モト『宋詩別裁集』ト題シ、張景星〔二銘〕、及ビ姚培謙〔述齋〕・王永祺〔補堂〕ノ點閲ニ係リ、乾隆廿六年〔寶暦十一年〕正月、傅玉露〔玉笥〕ノ序ヲ附セリ。ソノ我邦ニ在リテ新刻セラレシモノ、青黎閣本ヲ以テ初メトスベシ。コノ本、山本北山ノ手ニ成リ、ソノ序中、

「李于鱗ガ唐詩選ハ、唐ノ善ナルモノヲ選スルニ非ズシテ、其ノ自カラ善トスルモノヲ選スルナリ。……當時ノ詩家、多クハソノ毒ニ中リ、千篇一律、百章同趣ニシテ、陳言相襲リ、造語皆腐ナリ、唐詩ノコノ集ニ入ルモノヲ併與シテ、以テ腐ナラシムルニ至レリ。」

「近來、彼邦、コレガ爲メニ宋詩大ニ行ハル……然モ我邦、李・王ノ餘毒、未ダ全ク瘳エズ……雲間・張二銘ノ宋詩〔百卅七家・六百四十三首〕ヲ鈔セルハ、固ヨリ百中ノ一〔百一鈔〕ノミ、未ダ以テ宋詩ヲ盡スニ足ラザルモ、初學ヲシテ宋詩ノ清新、以テ觀ルニ足ルモノアルヲ知ラシム、則チ以テ腐毒ヲ解スルノ單法ニ充ツベキナリ。」

トイヒ、『聯珠詩格』・『瀛奎律髓』諸書ヲ以テ、未ダ陳腐錯雜ノ選タルヲ免レズトシテ、コノ書ヲ採リ、大ニ宋詩ヲ提唱スベク、大窪柳垞〔詩佛〕・山田天染・糸井榕湖等從遊ノ士ヲシテ校訂セシメタリ。知ルベシ、當時、宋詩盛行ノ機運ニ向ヒシハ、コノ新刻本ノ普及ニ待ツ所ノ少カラザルモノアリシヲ。

山陽ノ家藏、又、コノ書在リ、通讀ノ際、手ヅカラ朱筆ヲ用ヰテ、精細ナル評點ヲ加ヘ、ソノ取舍可否ノ迹、一家ノ詩眼、歷々トシテ窺ハルベシ。但、七言古〔卷一・三〕・五言排律〔卷七〕・七言絕〔卷九｜北山本、特ニ卷九ノ編目ヲ立ツ〕ノ部ニハ、朱批ノ迹ヲ見ズ、五言古・五言律・七言律・五言絕ノ諸卷ニハ、朱批ノ斕斑トシテ、獨リ、ソノ詩

眼ノ寛ハルベキノミナラズ、下筆縦横、ソゾロニソノ口講指授ヲ聴クノ思ヒアラシムルト共ニ、文苑ノ佳觀、以テ語ルベキナリ。

更ニコノ朱批本ニ就キ、ソノ原本ニハ山陽自身、藏書ノ印記ニ代ヘテ、「頼襄。子成」「杏坪刻」ノ印影ヲ各冊ノ末ニ施シタルヲ見テ、深キ興趣ノ寄セラルベキモノアリ。由來、山陽ハ、家ニ累々タル書架ヲ置カズ、ソノ藏書、特ニ藏書印ノ施サレタルモノ、如キハ、從來絶エテ見ル所アラズト稱セラル。而モソノ印記ノ儼在セルモノ、此ノ書ニ由リテ纔ニコレヲ見ルヲ得タルハ、亦深ク珍惜スベシトス。

寛政版『宋詩鈔』ノ盛行ニ伴ヒ、爾後、別版ノモノ二種アルヲ見ル。慶應元年十月ノ新刻本ニ、河野鐵兜ノ小引ヲ加へ、同二年春、釋徹雲「秋爽」トイフ人ノ校訂「跋トモ」ニ成レル大坂・尚友堂版、及ビ後藤元太郎トイフ人ノ纂評セル同・嵩山堂版、是レナリ、竝ビニソノ開版ノ年月ヲ署セズ、何レモ前述舶載本ノ飜刻ニ成リ、後者ニハ、前者ノ小引及ビ跋ヲ重版セリ。後者ノ纂評トシテハ、山陽及ヒ後藤松陰ノ評語ヲ錄シ

タルヲ見レバ、山陽朱批ノ原本ニ就キ松陰コレヲ轉寫シ、更ニ松陰自身ノ評注ヲ追補セル一本ニ就キ、後藤〔元太郎〕ソノ人ノ更ニ寫錄セルモノナルベキヲ想フ。但、山陽手筆ノ文字、行草雜體ニシテ、文字ノ難讀ニ苦ミテカ、訛謬百出、更ニ山陽ノ評語ヲ松陰ノニ誤マレルサヘアリ、皆當ニ本書ヲ以テ定本ト爲スベキナリ。

原本朱批ノ成リシ年月、今俄カニコレヲ徵證スルニ由ナキヲ恨ム、而モソノ筆意ニ考ヘテ、文政中年頃ノモノト見做スベキニ似タリ。ソノ評語ヲ著ケザルモノハ、今スベテコレヲ删除ニ附ス。

コノ原本ハ、今、山陽ノ印記アルニ徵シテ、ソノ京都・賴家ノ傳襲ニ係リシハ勿論コノ珍籍ガ嚮ニハ一タビ元治ノ兵燹ヲ免カレ、爾後更ニ關東ニ轉任シテ、大正ノ震災ニ當リ、ソノ危難ヲ脫シツツ、今ヤ幸ヒニコレヲ收載スルヲ得ルニ至レルヲ喜ブ。

山陽ガ、蘇東坡ノ作ヲ外ニシテハ、サノミ宋詩ニ魂ヲ打込マザルヲ以テシテ、尙且言ヘルアリ、「國朝ノ詩運、兩タビ開カレテ兩タビ壞ラレタリ……初ハ長慶體〔唐〕ニ壞ラ

レ、後ニハ萬曆體〔明〕ニ壞ラレテ、中間、爭亂アリ、中・晩〔唐〕・宋・元ヲ爲ムルニ暇アラズ」ト。而モ又、「唐宋詩醇」ノ不完全本ヲ獲テハ、却リテ自家ノ意ニ可ナラザル諸家ノ詩ヲ缺キ、同時ニソノ喜ベルモノヽ完備シタルヲ快トシ、「是レ恰カモ吾ガ心ヲ得タリ」ト云ヘリ。今、本書ノ上ニ就キ、ソノ選評ヲ附シタルハ、即チ宋一代ノ諸家ニ就キ、ソノ愛好ノ在ル所ヲ示シタルヲ觀ルベク、同時ニ宋詩ニ對スル批評眼ヲ察スルニ足ルモノアリ。コヽニ、ソノ選評ニ入ラザルモノヲ刪除シテ、一ニ原本ニ從ヒ、ソノ舊面目ヲ存セントス。

昭和五年十一月五日、同作ノ民友社並木淺峯君ト倶ニ、夕陽マサニ沒セントシテ小宮氏ヲ辭シ、眼ヲ湘南ノ濱ニ轉ズレバ、鎌倉山ノアタリ十三夜ノ月華、波上ニ燦々タリ。サキニ「時囊小結」ヲ福山ニ獲テ、コレヲ柄津ニ携ヘ、仙醉島ノ勝景ヲ控エテ、耽讀一過セシ當夜ノ快ヲ聯想シツツ、即夜匆々筆ヲ驅リテ、ソノ緣起ヲ錄ス。〔好尙生〕

# 例言

一、山陽先生ノ朱批ヲ施セル宋詩鈔ノ臺本ハ、宋詩百一鈔ニシテ山本北山ノ序ノ附隨セル飜刻本ナリ。所謂宋名家詩選ト題シテ行ハル丶者卽チ是ナリ。

一、宋詩百一鈔ハモト八卷ナリ。飜刻本ハ七絕ノ部ヲ離シテ別ニ一卷ヲ成シ、凡テ九卷トナス。

一、本書ハ批評批點ノ存スル詩ノミヲ抽出シテ之ヲ編ス。他之ニ及バザル者ハ總テ省略ニ從ヘリ。全卷朱批ナキハ卷二(七古)、卷三(七古)、卷七(五排)、卷九(七絕)ノ四卷ナリトス。

一、批評宋詩鈔ノ既ニ板行サレタルハ、卽チ小西山房五朝詩別裁集中ノ宋部ヲ摹刻セル後藤元太郎纂評本四册ナリ。而シテ此本別ニ後藤松陰ノ批評批點ヲモ加ヘタルヲ以テ、爲メニ往々顚倒錯雜ヲ來シ、後

生ヲ誤ル者尠カラズ。今本書ニ就イテ之ヲ觀レバ自ラ釋然タルベシ。

一、飜刻本ノ文字、訓讀ニハ往々首肯シ難キ者アリ。然レドモ既ニ此書ニ據ツテ朱批ヲ施サル。而シテ訓讀ノ誤尤モ甚ダシキ者ハ之ガ訂正ヲナセリ。故ニ其ノ舊ニ仍ルノ優レルニ若カザルヲ知ルナリ。

一、本書中〔 〕印ヲ附シタル者ハ皆編者ノ註記ナリ。又(批本)ト稱スルハ朱批ヲ斥シ、(纂評本)トハ後藤元太郎纂評批評宋詩鈔ヲ、(別裁集)トハ宋詩百一鈔一名宋詩別裁集ヲ、(北山本)トハ宋名家詩選ヲ斥ス。

昭和七年六月

賴　成　一　識

# 宋詩鈔序

北山　山本信有撰

李于鱗唐詩選。非選唐善者。選其自爲善者也。因謂唐詩盡於斯。莊語罔世也。嘗取唐人本集。細讀之。其不足以盡唐詩。可知耳。當時詩家。多中其毒。千篇一律。百章同趣。陳言相襲。造語皆腐。至併與唐詩入此集者。使以腐。幸有不腐者。宋代諸賢。盡取以陶錬變化。無敢餘。然則謂唐詩盡於宋。可也。故袁中郎有言。曰。唐無詩。詩在宋・元諸大家。中郎此言一出。而世人知尙宋。近來彼邦爲此宋詩大行。其證在漫堂說詩。曰。宋詩鈔幾於家有其書矣。然我邦李・王餘毒。未全瘳。猶有諱言宋。舉以相訾。唐云唐云。直輕視宋。唐固善矣。然余未嘗見宋下乎唐也。若人物政事。宜相伯仲。至學問文章。唐反屬雁行。豈有詩獨不及乎。宋初有西崑體。草昧日。陶錬不精。變化不盡。未免晚唐纖弱之氣。仁宗世。歐・梅・蘇・王超乘。宗杜・韓。大見清新之功。至神宗時。蘇東坡者

出。而脫凡出俗。入聖通神。如大海波濤。時沸騰。時平穩。能横吞舟鰌鯨、樂活潑鯈鮢。能躍怒擢蛟龍。徒垂天搏鵬。千怪隱焉。寶藏興焉。瀰溢汐涌。洎天環地。洸洸洋洋無津涯。杜實・李虛・孟寒・島瘦。無不有焉。推爲百世詩道大教主。若黃山谷。全出乎坡公。而爲江西初祖。別開一派。然而當時以黃及晁無咎・秦少游・張文潛。稱蘇門四學士。又加陳無忌・李方叔。爲蘇門六君子。一世爲此風靡。後有陸放翁。亦學坡公。併景仰杜老。與楊誠齋・范石湖・尤遂初其號南宋四大家。次之陳・熊諸人。大名乎時。宋牧仲棨此、皆爲坡公之支分派別也、信然。』凡宋・元際言詩者。皆稱東坡先生。不敢名。譬有旭日且開浪出海底也。萬道金光齊射、森羅萬象。無不被其明也、可謂千古以來一人矣。詩雖小道。關一世雅鄙風致。故天生少陵於唐、生坡公於宋、生中郎於明、使以揭詩燈。而斯道欲瞑復明者。非人所能也。抑非有神明加護之者乎。吳門張二銘。鈔宋詩。固百中之一耳。未足以盡宋詩也。使初學知宋詩清新、足以裋者、則可以充解腐毒單方也。』近本邦有編宋詩選者。取宋詩似唐詩而已蓋

其意欲將此附彼。豈不誤甚乎。又若聯珠詩格・瀛奎律髓諸書。非無佳詩然諸體不具。陳新錯雜。以鄙厠雅。以腐投淸。經具眼人裁正刪脩。當始僅可耳。要之不若此鈔醇乎備也」今茲寬政甲寅十月。靑黎閣主人翻刻此鈔。託常陸大窪行・武藏山田直文・出羽糸井高翼。及兒謹校訂。其舉庶幾乎助天而成之云爾〔井堇堂書〕

宋詩百一鈔者。雲間張培曹二銘。暨其同志姚徵士述齋。王孝廉補堂相與撰定之書也。鈔名百一。蓋謂嘗鼎一臠。窺豹一斑。亦可見宋詩宗派云爾。以予觀之。則一代源流。正變已具。其諸美善之會。歸鑒裁之至當者歟。夫論詩必宗唐。是也。然雲霞傳天。異彩同爛。花蕚發樹。殊色互妍。江醴陵云。楚謠漢風。既非一骨。魏製晉造。固亦二體。言古今辭章之變化也。變化者前人後人所以日出不窮。以磬天地之藏。而洩靈府之祕。否則銖銖稱之。寸寸度之。循聲躡影。僞種流傳。而不能相逐於變化無窮之域。惡足闚唐賢閫奧哉。第波瀾雖富。句律不可踈。煆煉雖精。情性不可遠。比興深婉。何貴乎走石揚沙。宮商協暢。何貴乎腐木濕鼓。斯則上下三百餘年。詩家金科玉尺端有在焉。而是書取舍。要爲實獲我心。杜兩宋末流之弊。踵三唐最勝之業。其在茲乎。其在茲乎。辱承諈諉。作序爲揭其大指於簡首。時

乾隆辛巳丑月。玉岑傳王露拜題。

# 宋詩鈔卷一

賴襄子成評
雲間　姚培謙述齋
張景星二銘編選
王永祺補堂

## 五言古

### 秋日白鷺亭。　王琪

白鷺敞西軒。棟宇窮爽塏。千峰若聯環。翠色不可解。是時天宇曠。六幕無纖靄。金斗熨秋江。素練橫衣帶。乾坤清且斂。氣象朝昏改。蘆花作雪風。飛舞來滄海。九霄汀鷺起。萬里檣烏快。月上三山頭。鳥沒橫塘外。蒼茫洲渚寒。銀錯星斗大。開樽屏絲竹。披襟向蕭籟。余生本江湖。偃蹇欣所會。清興雖自發。苦嗜亦吾累。魚龍憑夜濤。四面忽滂湃。安得犀燈然。煌煌發水怪。

［斗。別裁集作星。］

一轉成詩。結亦振掉全身。

二句弱。全篇亦不振。

梁王以下。意泛不接。可疑。

雍容高澹。不似宋詩。起結皆可法。

### 睡起。　劉　敞

日午吏稍休。池上逍遥眠。水木澹相映。庭戸清無喧。時有山中禽。
來鳴高樹巓。微風拂衽過。會意成脩然。有生滯形役。萬物安靜便。
姚無淮陽績。高臥亦終年。

### 牟駝岡閲馬。　江休復

牧馬散近坰。閲視乘高秋。駝岡似沙苑。堆阜帶川洲。坡陁故梁城。
榮薄西南陬。連栅映林樾。星羅倚層邱。回風吹陣雲。奔騰欻來游。
野性脱羈馽。飲齕遂所求。腹幹頗肥張。鬱怒何彪休。羣毆驟麋鹿。
逸勢凌蛟虬。軍戎選輕捷。和鑾御調柔。毛物有千名。衆美踏驊騮。
梁王愁思臺。佛刹居上頭。朅來一憑眺。遺墟莽悠悠。信陵骨已朽。
巖穴誰見收。當時英豪輩。事逐東波流。置酒臨風軒。聊以紓煩憂。

### 送孔先生還山。　韓　維

先生樂道者。於世淡無欲。高風自絶人。正行不違俗。朅來城闕游。

宋人學陶。雖是摹本。筆法自在。○時林別裁集作晴林。

起得雄偉。大家風骨。故自不同。○一轉出意表。

不受塵事觸。日久望林巒。駕言反幽築。家臨灘水陽。路轉春山曲。東風吹百花。紅紫滿巖谷。蠶桑事未起。農里得徵逐。社酒濁易求。山蔬晴可斸。幽尋月吐嶺。高臥日照屋。應念塵中人。胡爲自羈躅。

村居。　文同

日影滿松牕。雲開雨初止。時林梨棗熟。曉巷兒童喜。牛羊深澗下。凫雁寒塘裏。田父酒新成。缾罌償隣里。

至下馬磧。憩於北山僧舍。有閣曰懷賢。南直斜谷。西臨五丈原。諸葛孔明所從出師也。　蘇軾

南望斜谷口。三山如犬牙。西觀五丈原。鬱屈如長蛇。有懷諸葛公。萬騎出漢巴。吏士寂如水。蕭蕭聞馬檛。公才與曹丕。豈止十倍加。顧瞻三輔間。勢若風卷沙。一朝長星墜。竟使蜀婦髽。山僧豈知此。一室老煙霞。往事逐雲散。故山依渭斜。客來空弔古。清淚落悲笳。

送鄭戶曹。

歷敍古英雄。而以自己承之。大見抱負。

不曰吾憶君。而曰君憶吾。自負得妙。

風調嬝娜。坡公別種。○五言古。每四句換韻。其法。自六朝來。○不用以下。坡翁本色。

水遠彭祖樓。山圍戲馬臺。古來豪傑地。千歲有餘哀。隆準飛上天。重瞳亦成灰。白門下呂布。大星殞臨淮。尙想劉德輿。置酒此徘徊。邇來苦寂寞。廢圃多蒼苔。河從百步響。山到九里廻。山水自相激。夜聲轉風雷。蕩蕩淸河壖。黃樓我所開。秋月墮城角。春風搖酒杯。遲君爲坐客。新詩出瓊瑰。樓成君已去。人事固多乖。他年君倦游。白首賦歸來。登樓一長嘯。使君安在哉。

送運判朱朝奉入蜀。

藹藹青城雲。娟娟峨眉月。隨我西北來。照我光不滅。我在塵土中。白雲呼我歸。我游江湖上。明月濕我衣。岷峨天一方。雲月在我側。謂是山中人。相望了不隔。夢尋西南路。默數短長亭。似聞嘉陵江。跳波吹枕屛。送君無一物。淸江飲君馬。路穿慈竹林。父老拜馬下。不用驚走藏。使者我友生。聽訟如家人。細說爲汝評。若逢山中友。問我歸何日。爲話腰脚輕。猶堪踏泉石。

妙想。妙語。非此不能道出。然四句敍景。二句敍情。承得溫藉。乃成絕作。

公詩。起手每妙。有快心爽口不可言處。而其情高。得之天骨。非凡流可學。

游戲三昧。轉處結處。皆驚倒一世。

高郵陳直躬處士畫鴈。

野鴈見人時。未起意先改。君從何處看。得此無人態。無乃槁木形。
人禽兩自在。北風振枯葦。微雪落璀璀。慘澹雲水昏。晶熒沙礫碎。
弋人悵何慕。一擧渺江海。

書鄢陵王主簿所畫折枝。

瘦竹如幽人。幽花如處女。低昂枝上雀。搖蕩花間雨。雙翎決將起。
衆葉紛自擧。可憐采花蜂。清蜜寄兩股。若人富天巧。春色入毫楮。
懸知君能詩。寄聲求妙語。

金山妙高臺。

我欲乘飛車。東訪赤松子。蓬萊不可到。弱水三萬里。不如金山去。
清風半帆耳。中有妙高臺。取華嚴經德雲比丘所居妙高峯爲義。雲峰自孤起。仰觀初無路。
誰信平如砥。臺中老比丘。子元長老碧眼照牕几。巉巉玉爲骨。凜凜霜入齒。
機鋒不可觸。千偈如翻水。何須尋德雲。卽此比丘是。長生未暇學。

請學長不死。

登常山絕頂廣麗亭

西望穆陵關。東望瑯邪臺。南望九仙山。北望空飛埃。相將叫虞舜。
遂欲歸蓬萊。嗟我二三子。狂飲亦荒哉。紅裙欲仙去。長笛有餘哀。
清歌入雲霄。妙舞纖腰回。自從有此山。白石封蒼苔。何嘗有此樂。
將去復徘徊。人生如朝露。白髮日夜催。棄置當何言。萬劫終飛灰。

> 東西南。皆有所望。北望則茫茫。雖是實事。亦避板法。

端午遍遊諸寺。得禪字。

肩輿任所適。遇勝輒留連。焚香引幽步。酌茗開淨筵。微雨止還作。
小窗幽更妍。盆山不見日。草木自蒼然。忽登最高塔。眼界窮大千。
下峰照城郭。震澤浮雲天。深沉既可喜。曠蕩亦所便。幽尋未云畢。
墟落生晚煙。歸來記所歷。耿耿清不眠。道人亦未寢。孤燈同夜禪。

> 括前二案。起下一案。

與王郎昆仲及兒子邁遶城觀荷花。

清風定何物。可愛不可名。所至如君子。草木有嘉聲。我行本無事。

> 清風四句。眞妙喩。我行至中流四句。妙

理。竝以二清空之筆一出レ之。所三以誦レ之不二厭。

讀二坡詩一次讀二他人詩一。如レ有二仙凡之別一。

好結。

孤舟任二斜橫一。中流自俯仰。適與レ風相迎。舉レ盃屬二浩渺一。樂二此兩無一レ情。
歸來兩溪間。雲水夜自明。

## 月夜。　孔平仲

平生最好レ月。況此秋夜闌。長風送蕩漾。浩露洗團團。仰レ頭視二虛空一。
光采如レ可レ餐。星辰斂二芒角一。河漢收二波瀾一。更無二微雲翳一。挂二此白玉盤一。
六合靜皎皎。萬木涼珊珊。爲レ爾廢二昏臥一。裴回更漏殘。更登二高處一望。
歷歷見二湖山一。爽氣集二冰雪一。清心生二羽翰一。便欲レ御二泠然一。因レ之遊二廣寒一。
一臨二天池水一。沐浴隨二飛仙一。

## 曹亭獨登。

問レ我當二何之一。曹亭蒼木外。江湖水方漲。曠潤吾所レ愛。微風撼二晚色一。
爽氣回二秋籟一。楊柳隱二官堤一。芙蕖接二公廨一。白雲依レ山起。點綴若二圖繪一。
何須レ招レ客遊。清興自無レ輩。落日更憑レ欄。下看飛鳥背。

## 宿二寶泉山慧日寺一。　賀鑄

以前總無來歷。突然轉。喟然結。却是品高。

先自敍。次敍杜。終望其相過交驩備有次第。

日入不違息。驅車更之東。回蹊出蒙密。解袂迎長風。風從何許來。歷歷江南鐘。頓轡阿蘭若。虛庭月正中。流螢逗深竹。白鳥巢青松。華燈耿翠箔。瑤花擢春叢。絕境美清夜。悅非塵界逢。惜無一尊酒。幸與之子同。（遇越客嚴生。）明發卽南北。浮生兩飛蓬。

答杜仲觀登叢臺見寄。

高風蕩河漢。白露被寒菊。下有絡緯蟲。凄酸生意促。華年不相待。去我何流速。老步失騰驤。短轅甘跼蹙。伊人濮陽秀。方厭折腰辱。仕道塞榛蕪。低徊避蚖蝮。邯鄲古都會。陳迹武靈築。興發卽登臨。西南幾窮目。新詩琢琇琰。疊寄兩三幅。一聽郢中歌。陽春回草木。行將及瓜代。暫喜擺羈束。鞭馬徑相過。連朝奉遊矚。隻鷄與斗黍。禮意未爲足。何以遇高陽。多營甕頭醁。

上巳後一日登快哉亭。

上巳信嘉辰。流觴傳舊俗。良遊悵不遂。吏局方有屬。東風吹曉雨。

不繳上巳。古人不拘處。

黃學坡翁。得其奇。不得其暢。所以來人憎。

眞次韻詩也。○〔老〕恐迭。

萬籟嘷林麓。疑有泊舟人。狂歌河女曲。逾朝始澄霽。物色如新沐。
城角趨危亭。登臨慰幽獨。紛華掃不見。蝴蝶飛平綠。好倚窮夕曛。
悠哉此心目。

## 題竹石牧牛。　黃庭堅

野次小峥嶸。幽篁相依綠。阿童三尺箠。御此老觳觫。石吾甚愛之。
勿遣牛礪角。牛礪角尚可。牛鬪殘我竹。

## 次韻吳宣義三徑懷友。

佳眠未知曉。屋角聞晴哢。萬事頗忘懷。猶牽故人夢。采蘭秋蓬深。
汲井短綆凍。起看冥飛鴻。乃見天宇空。甚念故人寒。誰省機與綜。
在者天一方。日月老賓送。往者不可言。古柏守翁仲。

## 留王郎。

河外吹沙塵。江南水無津。骨肉常萬里。寄聲何由頻。我隨簡書來。
顧影將一身。留我左右手。奉承白頭親。小邦王事略。蟲鳥聲無人。

千錘而成。終不可人意。

近齊梁綺靡。蓋非少游本色。

是自謂似老杜玉華宮者。然其音韻近耳。○前後叙景皆佳。然有此情語。而其景皆活矣。

王甥解鞍馬。夜語鷄喚晨。母慈家人肥。女慧男垂紳。有田爲酒事。豚韭及秋春。生涯得如此。舊學更光新。索去何草草。少留慰精勤。百年才一炊。六籍經幾秦。要知胸中有。不與跡同陳。郢人懷妙質。聊欲運吾斤。

春日雜興。　　秦觀

寢寮倦文史。駕言從遨嬉。颸風擧遙溆。規日麗清漪。含桃粲朱實。杜若懷碧滋。嫋嫋弱絮墮。圉圉文魴馳。明霞廓遠矚。哀鴻攪離思。縟草天際合。孤雲川上移。寬閑絕輪鞅。重復多路岐。信美雖久佇。歸歟從所治。

離黃州。　　張耒

扁舟發孤城。揮手謝送者。山回地勢卷。天豁江面寫。中流望赤壁。石脚插水下。昏昏烟霧嶺。歷歷漁樵舍。居夷實三載。鄰里通假借。別之豈無情。老淚爲一洒。篙工起鳴鼓。輕櫓健於馬。聊爲過江宿。

寂寂焚山夜。

宿長山寺。　　劉弇

> 風骨清矯。自是北宋人手筆。

蒼山兩蟠虬。傑勢分天矯。不緣事幽尋。茲地終難到。破暝紫烟生。寫谷清樾好。村長下牛羊。雲綻入歸鳥。松風卷孤聲。夜半秋聲小。客懷方未央。千里漫白道。庭樹一鳥驚。愁看楚天曉。

次韵毛達可給事秋懷念歸。　　倪濤

> 馬蹄•蝶夢。恐近纖弱。

結茅遠人村。破屋水半扉。涼葉墮清響。空山轉斜暉。微官臥江漢。素心久依依。十年天涯秋。搖落幾芳菲。馬蹄歲月去。蝶夢東南飛。平生邱壑志。有言輒乖違。不如孤征鴻。春風自知歸。

懷西山。　　葉夢得

西山十畝强。高下略不齊。嵌空抱奇秀。上有淩雲梯。架屋八九間。茅簷敢辭低。所欲面勢好。老稚通扶携。密竹轉修徑。老松故成蹊。仲冬景氣肅。碧草猶萋萋。仰視天宇大。四觀渺回溪。徐行信足力。

如此對伏。如此用處。乃不纖弱。

翻柳州南澗之意。

坡翁嗣音。

未長成顛隮。用意各有適。孰云無町畦。平生幾濡首。末路乃噬臍。
不作巢幕燕。肯從觸藩羝。胡爲濫麾鉞。坐聽鳴鼓鼙。外物委蟲臂。
全生思馬蹄。可能三徑草。歸路老更迷。

出山道中。　陳與義

雨歇濯春曉。雲氣山腰流。高崖落絳葉。恍如人世秋。避地時忽忽。
出山意悠悠。溪急竹影動。谷虛禽響幽。同行得快士。勝處頻淹留。
乘除了身世。未恨落房州。

夏日集葆眞池上。以綠陰生晝靜賦詩。得靜字。

清池不受暑。幽討起予病。長安車轍邊。有此荷萬柄。是身唯可懶。
共寄無盡興。魚遊水底涼。鳥語林間靜。談餘日亭午。樹影一時正。
清風不負客。意重百金贈。聊將兩鬢蓬。起照千丈鏡。微波喜搖人。
小立待其定。梁王今何許。柳色幾衰盛。人生行樂耳。詩律已其賸。
邂逅一尊酒。他年五君詠。重期踏月來。夜半嘯煙艇。

北宋之季。其詩猶不等南渡以後。

簡齋遭靖康之際。不可無此語。

理語如此。下着。乃自不村俗。

夜步隄上。

人間睡聲起。幽子方獨步。倚杖看白雲。亭亭水中度。十月鴈背高。
三更河流去。物生各擾擾。念此煎百慮。聊將憂世心。數遍橋西樹。

夜賦。

泊舟華容縣。湖水終夜明。凄然不能寐。左右菰蒲聲。窮途事多違。
勝處亦心驚。三更螢火鬧。萬里天河橫。阿瞞狼狽地。山澤空崢嶸。
強弱與興衰。今古莽難平。腐儒憂平世。況復值甲兵。終然無寸策。
白髮滿頭生。

秋興。　張九成

半夜驚夢回。桐葉紛索索。杖藜視天宇。雨龍雲收脚。清風拂襟裾。
片月墮籬落。嗟我遊已倦。悵此久淹泊。豆畦今已花。稻壠行可穫。
翻思黃卷中。古人誰可作。田園愛潛歸。簞瓢識顏樂。譬彼鵾鷄心。
平生在叢薄。

其人其詩。竝不レ爲二時代所一レ局。宜乎淵二源朱子一。○朱子論詩不レ屑二近體一。蓋所レ聞二於師長一也。

末幅。恨露二筋骨一。

## 涼月。　劉子翬

涼月未出山。浮雲半空白。徘徊步軒窓。宛若待佳客。經林漏飛輝。映瀫生華澤。及茲秋景淸。吾廬更幽寂。殊觀發祕藏。妙聽生寥闃。熒熒息初機。炯炯懷新得。豈無平生心。所樂已非昔。天旋河漢動。夜久鄰機息。淒淒感庭蘭。歲莫霜霰集。呼兒溫濁醪。獨酌醉永夕。

## 聞箏作。

月高夜鳴箏。聲從綺牕來。隨風更迢遞。縈雲暫徘徊。餘音若可玩。繁絃互相催。不見理箏人。遙知心所懷。寧悲舊寵棄。豈念新期乖。含情鬱不發。寄曲宣餘哀。一彈飛霜吝。再撫流光頹。每恨聽者稀。銀甲生浮埃。幽幽孤鳳鳴。衆鳥聲難諧。盛年嗟不偶。況乃容華衰。道同符片諾。志異勞百媒。栖栖牆東客。亦抱凌雲才。

## 過平望。　范成大

寸碧閡高浪。孤墟明夕陽。水柳搖病綠。霜蒲蘸新黃。孤嶼乍舉網。

是南宋人之古詩。非眞古詩。佳句可摘者。其實皆律體中句。非古詩中句。

是蓋范北使所經諸險阻處。不襲杜秦諸古。却是有見。

陸詩雖頗古傳骨格自別。

蒼烟忽鳴榔　波明荇葉顫。風熟蘋花香。鷄犬各村落。蓴鱸近江鄉。野寺對客起　樓陰濯滄浪。古來離別地。清詩斷人腸。亭前舊時水。還照兩鴛鴦。

新嶺。

瘦馬兀嶒騰。荒鷄號蒼莽。絲窠罥朝露。羅落羃蛛網。宿雲拂樹過。飛泉擘山響。老桑踞潛蚪。怪蔓挂騰蟒。山行何許深。空翠滴羈鞅。釀愁積雨寒。破悶朝日放。曈曈赤幟張。昱昱金鉦上。浮動草花馥。清和野禽唱。僕夫有好語。沙平路如掌。惟憂三溪阻。橋斷山水漲。

雁翅夾口小酌。　陸游

爐烟淡將散。江雨細欲無。回風吹衣襟。晴光滿菰蒲。隱几樂此時。清和如夏初。犬吠船丁歸。小市得美蔬。歎言酌清醥。侑以案上書。雖云泊江渚　何異歸林廬。

夜出偏門還三山。

陸詩有レ似レ無二緊要者一。所三以爲二佳作一。

月行南斗邊。人歸西郊路。水風吹二葛衣一。草露濕二芒屨一。漁歌起二遠汀一。
鬼火出二破墓一。凄清醒二醉魂一。荒怪入二詩句一。到レ家夜已半。佇立叩二蓬戸一。
稚子猶讀レ書。一笑慰二遲暮一。

東西家。

一結成レ詩。

東家雲出レ岫。西家籠二半山一。西家泉落レ澗。東家鳴二珮環一。相對籬數掩。
各有二茆三間一。芹羹與二麥飯一。日不レ廢二往還一。兒女若二一家一。雞犬意自閑。
我亦思レ卜レ鄰。餘地君忽レ慳。

齋中雜興。

一轉一結成レ詩。[文許輩。別裁集作二文許輩一。]

閉居寂無レ客。柴門晝常關。孤舟小二於葉一。放浪烟水間。樹暗楊梅村。
露下白蓮灣。釣レ魚樵風涇。買レ酒石帆山。向來文許輩。恐亦無二此閒一。
道逢二若耶叟一。握レ手開二蒼顏一。

蘇木灘。　楊萬里

灘雪清濺レ眸。灘雷怒醒レ耳。落レ洪翠壁立。跳レ波碧山起。船進若二戰勝一。

船退亦遊戲。若非篙師苦。進退皆可喜。忽逢下灘舟。掀舞快雲駛。
何曾費一棹。纔瞬已數里。會有上灘時。得意君勿恃。

誠齋之時。主標新領異。而多冗雜凡近之病。如此篇。秀拔警妙。眞不易獲。雖東坡不過如此。

明發陳公徑過摩舍那灘石峰下

澄潭湧晴暈。不風自成花。回流如倦客。出門復還家。江晴已數日。
新漲沒舊沙。知是前溪雨。濕雲尚橫斜。山轉江亦轉。江行山亦行。
風鬟照玉鏡。素練縈青屏。我本山水客。澹無軒冕情。塵中悔一來。
事外懷孤征。忽乘滄浪舟。仰高俯深淸。餐翠腹可飽。飲淥身須輕。
鷗鷺不相識。還作故園聲。
南中山絶佳。所恨人烟稀。略無好事人。結茅臨深溪。峰頂可月亭。
岸石即釣磯。空令烟中猿。挂崖弄漣漪。山多人自少。人遠山益奇。
我舟行不留。過眼山如馳。過眼意已足。久留亦何爲。

第三句。楊家句法。〇兩篇。結皆高濃。亦楊集中所罕。

秋日苦病齋居奉懷黃子厚劉平父及山間諸兄友　朱子

出山今幾時。忽忽歲再秋。江湖豈不永。我輿終悠悠。況復逢旱魃。

仁者。懷抱寫出。自穆穆有致。其詩亦不墮宋人蹊逕。

起手酷肖彭澤。○結處太雋者。其味却薄。必如此。乃爲合格。

農畝無餘收。赤子亦何辜。黃屋勞深憂。而我忝朝寄。政荒積愆尤。
懷痾臥空閣。惻愴增綢繆。東南望故山。上有玄烟浮。平生采芝侶。
寂寞今焉儔。朝遊雲峰巓。夕宿寒巖幽。爲我泛瑤瑟。冷然發清謳。
裂牋寄晨風。問我君何求。洪濤振君枕。狹硤摧君輈。君還苦不早。
無乃非良謀。再拜謝故人。低徊更包羞。桂華幸未歇。去矣從公遊。

石馬斜川之集。分韵賦詩。得燈字。

改歲風日好。出門欣得朋。復招里中彥。及此雲間僧。行行涉清波。
斯亭一來登。徙倚綠樹蔭。摩挲蒼石稜。遙瞻原野春。仰視天宇澄。
一水既紆鬱。羣山正崚嶒。時禽悅新陽。潛魚躍輕氷。却念去年日。
俯仰愁予膺。長吟斜川詩。日落寒烟凝。瞑色變晴景。清尊照華燈。
頹顏感川徂。稚齒歎年增。酒盡不能起。朱欄各深凭。

陶公醉石歸去來館（廬山雜詠之十一。）

予生千載後。尙友千載前。每尋高士傳。獨歎淵明賢。及此逢醉石。

平平無他奇。乃見大家。

以文公視桑苧何人。乃曰敬酹云々。可見昔人不輕物。〔批本。無昔人二字。恐脫。〕〔賞鑿。別裁集作噴鑿。〕是章佳作。當不止此。

謂言公所眠。況復巖壑古。縹緲藏風烟。仰看喬木陰。俯聽橫飛泉。
景物自清絕。優游可忘年。結廬倚蒼峭。舉觴酹潺湲。臨風一長嘯。
亂以歸來篇。

康王谷水簾　廬山雜詠之十三。

循山西北騖。崎嶇幾經邨。前行荒蹊斷。豁見清溪流。一涉臺殿古。
再涉川原幽。縈紆復屢渡。乃得寒巖陬。飛泉天上來。一落散不收。
披崖日璀璨。賞鑿風颼飀。追薪爨絕品。淪茗澆窮愁。敬酹古陸子。
何年復來遊。陸鴻漸茶經。第此水爲天下第一。

昔遊詩。　姜夔

洞庭八百里。玉盤盛水銀。長虹忽照影。大哉五色輪。我舟渡其中。
晃晃驚我神。朝發黃陵祠。暮至赤沙曲。借問此何處。滄灣三十六。
青蘆望不盡。明月耿如燭。灣灣無人家。只就蘆邊宿。

效孟郊體。　謝翱

皐羽節高。文亦高。生遭滄桑。其詩自具寒苦之氣。不獨擬孟而然。然此詩高於孟。

閒庭生柏影。荇藻交行路。忽忽如有人。起視不見處。牽牛秋正中。海白夜疑曙。野風吹空巢。波濤在孤樹。

宋詩鈔卷一終

柳花大窪行天民校

# 宋詩鈔 卷四

## 五言律

春日登樓懷歸。　寇準

高樓聊引望。杳杳一川平。野水無人渡。孤舟盡日横。荒村生斷靄。古寺語流鶯。舊業遙清渭。沈思忽自驚。

全篇秀雅。卓乎唐音。豪傑不為時代所局。信哉。

縣齋秋夕。　張詠

才薄難勝任。空銷懶惰情。公堂羣吏散。苔地亂蛩聲。隔歲鄉書絕。新寒酒病生。方今聖明代。不敢話辭榮。

乖崖。其詩不乖崖。

寒食。　王禹偁

寒食江都郡。青旗賣楚醪。樓臺藏綠柳。籬落露紅桃。妓女穿輕屐。笙歌泛小舠。使君慵不出。愁坐讀離騷。

眞北宋人佳句。

〔第二句〕翻用老子語。

頷聯似半山。

五更睡。

數載直承明。寵深還若驚。趁朝雞喚起。殘夢馬馱行。左宦離雙闕。高眠盡五更。如將閑比貴。此味敵公卿。

再遊海雲寺作。　宋　祁

十里雲邊寺。重驅千騎來。天形欹野盡。江勢讓山回。園柰濃成幄。樓鐘近殷雷。斜陽歸鞅促。飛蓋冒輕埃。

臘後晚望。

寒日繫難定。鳴笳弄已休。凍崖初辨馬。昏谷自量牛。漢樹臨關密。胡泉入塞流。登高能賦未。風物古堯州。

城隅晚意。

寥寥天意晚。稍覺井閭間。水落呈全嶼。雲生失半山。牛羊樵路暗。燈火客舟還。瞑思輸鳧鵠。歸飛沆滯間。

中秋新霽。壕水初滿。自城東隅泛舟回。謝公命賦。

中四語似放翁。

蓋經略西夏時作。彷彿盛唐人。勳業兼文章。若人豈易得哉。

詩麗不類潞公爲人。豈選去獨所如此者。而有所遺耶。

齋舫譚經後。官池載酒行。斜陽鳥外落。新月樹端生。演漾思江浦。夷猶遶郡城。東轅有遺恨。日日物華清。

集江瀆池。

飛檻枕溪光。歡言客徧觴。暫雲消樹影。驟雨發荷香。辛臼橙虀熟。庖刀鱠縷長。蘋風如有意。盈衽借浮凉。

過故關。　韓琦

春入并州路。羣芳夾故關。前騶驅弩過。別境荷戈還。古戍餘荒堞。新耕入亂山。時平民自適。白首樂農閑。

春曉。　文彥博

宿靄藏飛觀。晨霞晃繡甍。錦幃人未起。珠樹鵲先驚。爐熜香初爇。牕幽燭尚明。更開花上露。妝淚鬬盈盈。

晚至松門僧舍懷寄李太祝。　余靖

日暮倦行役。解鞍初息肩。霧昏臨水寺。風勁欲霜天。蓼浦初開鴈。

其境可想。

人家半在船。思君正惆悵。黄葉更翩翩。

雨後。獨行洛北。　歐陽修

句中。各自成對。

北闕望南山。明嵐雜紫烟。歸雲向嵩嶺。殘雨過伊川。樹繞芳堤外。
橋横落照前。依依半荒苑。行處獨聞蟬。

伊川獨遊。

歐公佳律。當不止此。

綠樹繞伊川。人行亂石間。寒雲依晚日。白鳥向青山。路轉香林出。
僧歸野渡閑。巖阿誰可訪。興盡復空還。

和解生中秋月。　蘇舜欽

銀塘。金餅。惡語。

不為人間意。居然節物清。銀塘通夜白。金餅隔林明。醉客樽前倒。
棲鳥露下驚。悲歎古今事。寂寂墮荒城。

夏日晚霽。與崔子登周襄故城。　梅堯臣

全篇一氣呵成。自具鏗鏘之音。

雨脚收不盡。斜陽半古城。獨攜幽客步。閑閲老農耕。寶氣無人發。
陰蟲入夜鳴。余非避喧者。坐愛遠風清。

金山寺。

吳客獨來後。楚橈歸夕曛。山形無地接。寺界與波分。巢鶻寧窺物。馴鷗自作羣。東小峯謂之鶻山。有海鶻雌雄棲其上。每歲生雛。羽翮既成。與之縱飛迷而後返有年矣。惡禽猛鷙不敢來。茲以搏魚鳥。老僧忘歲月。石上看江雲。

秋晴西樓。　　劉敞

清風卷陰翳。廣野見秋毫。木落山覺瘦。雨晴天似高。開窗置尊酒。看月湧江濤。高臥淹湖海。非關氣獨豪。

道翁不以詩鳴。而其詩老氣橫九州。宜其輕視歐公。

梅花。

澤國春還蚤。山梅臘競花。繽紛迷雪意。浩蕩逼年華。驛使紅塵遠。江風短日斜。芳菲恐易失。愁思亂悲笳。

起結凡吻。首思不吐得。

春陰。

江上浮雲聚。城中暮景兼。東風酒味澀。小雨客愁添。寒色端侵牖。斜陽不滿簾。滯留成楚老。卑濕意無嫌。

眞名句也。

何減二老杜七字一。

不レ靜則不レ來。不レ遙則不レ入。字眼百鍊。

前聯如二光風一。後聯如二霽月一。

雄傑。似レ不レ稱二其人一。細看。見二其平夷處一。

月夜。

月出浮雲盡。風生中夜清。星辰競搖動。河漢湛虛明。老樹稀疎影。
驚禽斷續聲。秋懷先已亂。蟋蟀更宵征。

獨行。

南山半雲雨。天氣雜二暄寒一。野興宜二獨往一。春愁無二定端一。鳥聲來靜聽。
柳色入遙看。郤謝芳尊酒。悠悠誰與歡。

遊二大林一。　周子

三月山房暖。林花互照明。路盤層頂上。人在二半空一行。水色雲含白。
禽聲谷應清。天風拂二襟袂一。縹緲覺二身輕一。

送二峽州陳廉祕丞一。　司馬光

地險三巴口。江流百折蟠。騶珂通二峽響一。門戟照二秋寒一。翠壁虎牙石。
素花狼尾灘。孫劉置レ柵處。細爲二寫圖一看。

送二鄭推官戩赴一邠州一。

形便邠公國。旌旗擁將壇。秦雲低落日。寒樹怯春寒。草檄無留思。
投壺不廢歡。還應笑黃卷。寂寂守儒官。

郭氏園送張仲通出刺棣州。

名園送嘉客。冠蓋去傾朝。小雨塵微斂。餘寒酒易消。雁歸春近塞。
日上海生潮。北道平如掌。東風五馬驕。

詩人口氣。

半山春晚即事。　王安石

春風取花去。酬我以清陰。翳翳陂路靜。交交園屋深。牀敷每小息。
杖屨或幽尋。惟有北山鳥。經過遺好音。

開口要勝人。

即事。

徑暖草如積。山晴花更繁。縱橫一川水。高下數家村。靜憩雞鳴午。
荒尋犬吠昏。歸來向人說。疑是武陵源。

三四天然句法。五六入人巧。

宿雨。

綠攪寒蕪出。紅爭暖樹歸。魚吹塘水動。雁拂塞垣飛。宿雨驚沙盡。

押堅字。是東坡句法。

露本相。

晴雲晝滿稀。卻愁春夢短。燈火著征衣。

江亭晚眺。

日下崦嵫外。秋生流碭間。清江無限好。白鳥不勝閒。雨過雲收嶺。天空月上灣。歸鞍使調角。回首六朝山。

荊州。　蘇軾

游人出三峽。楚地盡平川。北客隨南賈。吳檣間蜀船。江侵平野斷。風卷白沙旋。欲問興亡意。重城自古堅。朱檻城東角。高王此望沙。江山非一國。烽火畏三巴。戰骨淪秋草。危樓倚斷霞。百年豪傑盡。擾擾見魚蝦。

遊鶴林招隱。

郊原雨初霽。春物有餘妍。古寺滿修竹。深林聞杜鵑。睡餘柳花墮。日眩山櫻然。西隱有病客。危坐看香烟。

新年。

四十個賢人。不著一沽兒。此詩是已。

曉雨晴人日。春愁連上元。水生挑菜渚。烟濕落梅村。小市人歸盡。孤舟鶴踏翻。猶堪慰寂寞。漁火亂黃昏。

[春恐秦訛。]

春淮夜泊。 賀鑄

起聯如不經意。而工巧秀麗。非夷所思。

官柳動春條。秦淮生暮潮。樓臺見新月。燈火上雙橋。隔岸開朱箔。臨風弄紫簫。誰憐遠遊子。心旆正搖搖。

登烏江柏子岡懷景仁。

驅車柏子岡。引首東南望。孤戍帶寒日。長江流大荒。故人越五嶺。旅雁留三湘。好待春風暖。相隨還北鄉。

[批本。娘改鄉]

呻吟齋睡起。 黃庭堅

棐几坐清晝。博山凝妙香。蘭芽依客土。柳色過鄰牆。巷僻過從少。官閑氣味長。江南一枕夢、高臥聽鳴榥。

頷聯近唐。頸聯則宋。

建平途次。 張耒

野橋田徑滑。官路柳條新。流水伴遲日。野花留晚春。點空知去翼、

閉門覓句。故當有此等。

日雖寓河上。句仍覓門裏也。

沈鬱。然根襟露耳。

衙縁有歸人。自笑諳岐路。無勞更問津。

宿濟河。　陳師道

燭暗人初寂。寒生夜向深。潛魚聚沙窟。墜鳥滑霜林。稍作他年計。初回萬里心。還家只有夢。更著曉寒侵。

寓目。

曲曲河回復。青青草接連。去帆風力滿。來雁一聲先。野曠低歸鳥。江平進晚牽。望鄉從此始。留眼未須穿。

道中書懷　李昭玘

平野青蕪合。長橋緑樹低。客愁須白酒。春意屬黃鸝。落日鄉關遠。孤邨烟水迷。清明能幾日。卻過浙江西。

除夕。　唐庚

患難思年改。龍鍾惜歲徂。關河先壟遠。天地小臣孤。吾道憑溫酒。時情付擁爐。南荒足妖怪。此日謾桃符。

何減老杜天寶諸篇所缺者。沈深之思耳。

靖康之禍。成此輩幾篇好詩。

是今世人所好。

己酉亂後。寄常州使君姪。　汪藻

汾水遊仍遠。瑤池宴未歸。航遷羣廟主。矢及近臣衣。戎馬窺天塹。邊烽斷日畿。百年淮海地。回首復成非。

草草官軍渡。悠悠敵騎旋。方嘗勾踐膽。已補女媧天。諸將爭陰拱。蒼生忍倒懸。乾坤滿羣盜。何日是歸年。

身老今何向。兵拏未肯休。經旬甘半菽。盡室委扁舟。台拆星猶北。農飢麥未收。日邊無一使。兒女詎知愁。

春到花仍笑。時危特自哀。平城隆準去。爪步佛狸來。地下皆寃肉。人間半刼灰。只今衰淚眼。那得向君開。

春事。　孫覿

茆棟依林出。松扉傍水斜。浮蒼圍百疊。亂綠翳三叉。屋破蝸書壁。庭蕪鶴印沙。小桃供一笑。已著兩三花。

贈蕭光祖。　周孚

此等惡詩。何入選乎。

第二字是眼。然宋人常調。

作家故自不同。

之子固絕俗。少年甘寂寥。田園一蚊睫。書卷百牛腰。雪徑晴猶凍。烟江晚不潮。箇中勤著語。老耳欲聞韶。

元日懷陳道人幷憶焦山舊遊。

故人應白髮。今我尙華顚。舊約鷗能記。新詩雁不傳。功名畫地餠。歲月下江船。回首留題處。淒涼已去年。

雨過。　周紫芝

池面過小雨。樹腰生夕陽。雲分一山翠。風與數荷香。素月自有約。綠瓜初可嘗。鸕鷀莫飛去。留此伴新涼。

九日晨起。　呂本中

漸歇敺蚊手。眞成把酒天。長河印曉月。老木聚荒烟。了了江山夢。區區文字緣。南堦兩三菊。極意作今年。

道中寒食。　陳與義

斗粟淹吾駕。浮雲笑此生。有詩酬歲月。無夢到功名。客裏逢歸雁。

愁邊有亂鶯。楊花不解事。更作倚風輕。

寒食。

草草隨時事。蕭蕭傍水門。濃陰花照野。寒食柳圍村。客袂空佳節。鶯聲忽故園。不知何處笛。吹恨滿清尊。

岸幘。

岸幘立清曉。山頭生薄陰。亂雲交翠壁。細雨濕青林。時改客心動。鳥鳴春意深。窮鄉百不理。時得一閒吟。

雨。

霏霏三日雨。藹藹一園春。霧澤含元氣。風花過洞庭。地偏寒浩蕩。春半客竛竮。多少人間事。天涯醉人醒。

元氣。洞庭。異樣不俗。

晚步。

畎畝意不適。出門聊散憂。雨餘山欲近。春半水爭流。衆嶺夕還作。孤懷行轉幽。溪西篁竹亂。微徑雜歸牛。

全篇神韵。近杜。

放慵。

暖日薰楊柳。濃春醉海棠。放慵眞有味。應俗苦相妨。宦拙從人笑。交疎得自藏。雲移穩扶杖。燕坐獨焚香。

名言。

出郊。　劉子翬

路轉囊山北。扶輿憶舊過。乾坤征戰久。游宦別離多。瘴樹餘紅葉。春江又綠波。平生豪橫氣。未老半消磨。

古氣。

初入巫峽。　范成大

鑚火巴東岸。縱金峽口船。東江崖欲合。漱石水多旋。卓午三竿日。中間一罅天。偉哉神禹跡。疏鑿此山川。

石湖集中。豈無他作可收。〇東江。別裁集作東江。

寄張眞父舍人。　陸游

諸公方袞袞。無地著斯人。萬里夔州守。中朝禁省臣。孤帆秋上峽。五馬曉班春。想見懷明主。登臨白髮新。

陸五律。名作不勝收。收此者。以其音節近唐耳。其實非陸詩之至者。

小舟遊西涇。度西岡而歸。

視蘇公人日上元作。似不多讓。然氣味厚薄。自別。

三四妙語。五六則淺俗。楊常調。

大抵五字之詩。最不可不高古者。誠齋之筆。不宜下五字。

以本朝人對周人。恐爲不倫。

允文挽詞。使放翁作。不止如此。

小雨重三後。餘寒百五前。聊乘瓜蔓水。閒泛木蘭船。雪暗梨千樹。烟迷柳一川。西岡夕陽路。不到又經年。

和周仲覺。　楊萬里

月淡猶明樹。霜嚴不剩雲。天寒一雁叫。夜半幾人聞。詩只令吾瘦。清聊與子分。頻來仍恨少。此去更離羣。

和仲良春晚即事。

欲與東風說。休吹墮絮飛。吾行正無定。魂夢豈忘歸。花暖能醺眼。山濃欲染衣。只嫌春已老。此景也應稀。

虞丞相挽詞。

保爽方爲左。希文自請西。不勞三尺劍。已辨一丸泥。已矣歸黃壤。傷哉夢白雞。清風誰作誦。何石不天齊。

一老堂堂日。諸賢得得來。但令元氣壯。不慮塞塵開。名大天難著。人亡首忍回。東風好西去。吹淚到泉臺。

風濕・日青奇語。

五六過宿王儲。

過張王廟

地迥人烟寂。山盤水勢回。怪松欹岸出。古廟背河開。晚色催征棹。斜陽戀去桅。丹徒誰道遠。一眺正悠哉。

宿大冶縣　王十朋

隔岸呼舟子。湖山日欲曛。人家數點火。風物一川雲。小渡漁人古。中流縣界分。秋深山驛冷。蕭瑟夜深聞。

桐柏觀　趙師秀

山深地忽平。縹緲見殊庭。瀑近春風濕。松多曉日青。石壇遺鶴羽。粉壁剝龍形。道士玉靈寶。輕強滿百齡。

大慈道

青苔生滿路。人迹至應稀。小寺鳴鐘晚。深林透日微。野花春後發。山鳥澗中飛。或有相逢者。多因採藥歸。

黃碧　徐璣

黃碧平沙岸。陂塘柳色春。水清知酒好。山瘦識民貧。雞犬田家靜。桑麻歲事新。相逢行路客。半是永嘉人。

憑高。

憑高散幽策。綠草滿春坡。楚野無林木。湘山似水波。客懷隨地改。詩思出門多。倘有溪西寺。斜陽未得過。

春日游張提舉園池。

西野芳菲路。春風正可尋。山城依曲渚。古渡入脩林。長日多飛絮。遊人愛綠陰。晚來歌吹起。惟覺畫堂深。

桐廬道中。 姚鏞

兩岸山如簇。中流鏁翠微。風帆逆水上。江鶴背人飛。野廟青楓樹。人家白板扉。巖陵臺下過。不敢浣塵衣。

泊歙浦。 方岳

此路難爲別。丹楓似去年。人行秋色裏。雁落客愁邊。霜月歛寒渚。

江聲驚夜船。孤城吹角處。獨立渺風烟。

南宋之季。衰色。當如此。〇〔何。甸訛〕

野望。 周弼

春日晚荒荒。平沙極渺茫。樓欹三面水。城臥數條岡。白草吳京甸。黃桑楚戰場。長江俱不問。一片瀉斜陽。

義士之詩。故自有稜角。

宿台州城外。 林景熙

荒驛丹邱路。秋高酒易醒。霜增孤月白。江截亂峰青。旅雁如曾識。哀猿不可聽。到家追此夕。三十五郵亭。

宋詩鈔卷四終

槎湖糸井翼君鳳校

以不對爲對。然非玉堂金馬之署。此對不可下。

二聯。皆不免偏枯。

是七言妙境。不可下以五字暢言上者。作長句當會此境。

# 宋詩鈔卷五

## 七言律

### 禁林春直。　李昉

疎簾搖曳日輝輝。直閣深嚴半掩扉。一院有花春晝永。八方無事詔書稀。
樹頭百囀鶯鶯語。梁上新來燕燕飛。豈合此身居此地。妨賢尸祿自知非。

### 京口江際弄水。　徐鉉

退公求靜獨臨川。楊子江南二月天。百尺翠屏甘露閣。數帆晴日海門船。
波澄瀨石寒如玉。草接汀蘋綠似烟。安得乘槎更東去。十州風外弄潺湲。

### 送鄒郎中爲浙西判官。

大藩從事本優賢。幕府仍當北固前。花繞樓臺山倚郭。寺臨江海水連天。
恐君到郎忘歸日。憶我遊曾歷二年。若許他時作閑伴。殷勤爲買釣魚船。

舟中晩望桃源山。　張詠

仙山初指眼初明。倚棹因妨半日程。雲裏未忘尋去路。世間爭合有浮名。嵓空闊老松千尺。天靜時聞鶴一聲。更謝暮霞憐惜別。滿坡紅影照峥嵘。

七律。結局當如此。

寒食。　王禹偁

今年寒食在商山。山裏風光亦可憐。雅子就花拈蛺蝶。人家依樹繫鞦韆。郊原曉綠初經雨。巷陌春陰乍禁烟。副使官閑莫惆悵。酒錢猶有撰碑錢。

〔雅子。別裁集作稚子。〕

日長簡仲咸。

日長何計到黄昏。郡僻官閑晝掩門。子美集開詩世界。伯陽書見道根源。風騷北院花千片。月上東樓酒一樽。不是同年來主郡。此心牢落共誰論。

俗詩。

寄獻潤州趙舍人。

南徐城古樹蒼蒼。衙府樓臺畫枕江。甘露鐘聲清醉榻。海門山色滴吟窓。直廬久負題紅藥。出鎮何妨擁碧幢。聞說秋來自高尚。道裝筇竹鶴成雙。

已開東坡。

送羅著作奉使湖湘。

好結。

宋人錬句。

眞西崑體也。

小人之詞。自不可掩。○猶辨俗吏風流之別乎。

使星躔次入長沙。曉別延英去路賖。數刻漏中承密旨。幾重湖外奉皇華。山行馬拂湘川石。寺宿僧供嶽麓茶。廻日期君在西掖。當階紅藥正開花。

新秋即事。

宦途流落似長沙。賴有詩情遣歲華。吟弄淺波臨釣渚。醉披殘照入僧家。石挨苦竹旁抽筍。雨打戎葵臥放花。安得君恩許歸去。東陵閑種一園瓜。

成都。　楊億

五丁力盡蜀山通。千古成都綠酎醲。白帝倉空蛙在井。青天路險劍爲峰。漫傳西漢祠神馬。已見南陽起臥龍。張載勒銘堪作戒。莫矜函谷一丸封。

公舍春日。　丁謂

綠楊垂線草鋪茵。觸處烟光舉眼新。一品也須妨白髮。千金莫惜買青春。鶯聲圓滑堪清耳。花艷鮮明欲照身。獨向此時爲俗吏。風流知是不如人。

燈。　穆脩

杳杳有時當永恨。依依何處照閑眠。靜臨客枕愁寒雨。遠逐漁篷耿暝烟。

詠物七律。難二古人一。未レ免二意竭一。

纖影乍欹還自立。冷花時結不レ成レ圓。銷レ魂猶憶江樓夜。曾對二離觴一賦二短篇一。

山園小梅。　林逋

和靖以二梅花數聯一得レ名。然不レ如二蘇陸諸公全篇體一レ物。

衆芳搖落獨暄妍。占二盡風情一向二小園一。疎影橫斜水清淺。暗香浮動月黃昏。
霜禽欲レ下先偸レ眼。粉蝶如知合レ斷レ魂。幸有二微吟可一レ相狎。不レ須二檀板共一レ金尊。

梅花。

疎影・暗香。畢竟當レ讓二半樹橫枝一。予左二袒歐公一也。

吟懷長恨負二芳時一。爲レ見二梅花一輒入レ詩。雪後園林纔半樹。水邊籬落忽橫枝。
人憐二紅艶一多應レ俗。天與二清香一似レ有レ私。堪レ笑胡雛亦風味。解將二聲調一角中吹。

寒食。　宋祁

已題二糕字一。何遺二糜餌一。

九門烟樹蔽二春廛一。小雨初晴潑火前。草色引開盤馬地。簫聲催暖賣餳天。
縈レ絲蚤絮輕無レ著。弄レ袖和風細可レ憐。蓬署侍臣貪二出沐一。珉糜珠餌愧二須宣一。

落花。

雖二名聯一哉。一讀意盡。○（思。別裁集作レ忍。）

墜素翻紅各自傷。青樓烟雨思二相忘一。將レ飛更作二迴風舞一。已落猶成二半面妝一。
滄海客歸珠迸レ淚。章臺人去骨遺レ香。可二能無一レ意傳二雙蝶一。盡付二芳心一與二蜜房一。

借字。容字。亦宋人口吻。不可以此擬少陵。

俗句。○來。別裁集作未。

承白樂天。開陸放翁。

宋人又有下設梨花落々柳絮滾々句中各倒置者上。亦非無趣意。○幾月一作殘日。

擬杜子美峽中意。

天入虛樓倚百層。四方遙謝此登臨。驚風借聲爲寒籟。落日容雲作瞑陰。峴井北拋王粲宅。楚衣南逐女嬃砧。十年不識長安道。九籥虛開紫氣深。

集西園。

日日西園春思催。攜觴結客上高臺。正緣從事青州至。更許書生洛下來。（時州醞既美。又命座客賦詩。）蛩葉已成花半落。新巢來定燕千回。芳辰物物皆堪愛。併作高陽倒載媒。

示張寺丞王校勘。　晏殊

元巳清明假未開。小園幽徑獨徘徊。春寒不定斑斑雨。宿醉難禁灩灩杯。無可奈何花落去。似曾相識燕歸來。遊梁賦客多風味。莫惜青錢萬選才。

寓意。

油壁香車不再逢。峽雲無迹任西東。梨花院落溶溶月。柳絮池塘淡淡風。幾月寂寥傷酒後。一番蕭索禁烟中。魚書欲寄何由達。水遠山長處處同。

〔纂評本。訓爲和子淵云云。〕

如公勳業。

木强人。亦爲纖麗語。

頷聯絕妙。全篇亦稱。眞傑作也。

登廣教院閣。　韓琦

岑寂禪扉啓晝關。公餘爲會一開顏。高臺面壘包平野。老柏參天礙遠山。
花去春叢蝴蝶亂。雨勻朝圃桔槹閑。徘徊軒檻何時下。直待前枝倦鵲還。

次韻和子淵學士春雨。

天幕沈沈淑氣溫。雨絲輕軟䕃雲根。洗開春色無多潤。染盡花光不見痕。
寂寞畫樓和夢鎖。依微芳樹過人昏。堂虛座密珠簾下。試問淳于醉幾樽。

初入峽。　趙抃

峽江初過三遊洞。天氣新調二月風。樵戶人家隨處見。仙源雲路有時通。
峰巒歷歷東西碧。桃李臨波上下紅。險磧惡灘各幾許。晚停征棹問漁翁。

三日赴宴口占。　歐陽修

賜飮初逢禊節佳。昆池新漲碧無涯。九門寒食多遊騎。三月春陰正養花。
共喜流觴修故事。自憐霜鬢惜年華。鳳城殘照歸鞍晚。禁籞無風柳自斜。

懷嵩樓新開南軒與郡僚小飮

即荊公翦翦春風陣陣寒之時也。

頷聯。人人膾炙。昔所未解。

用典。當如此貼切。如此乾淨。

歐公長七律。篇篇合格。吾輩可學者。

繞郭雲烟匝幾重。昔人曾此感懷嵩。霜林落後山爭出。野菊開時酒正濃。解帶西風飄畫角。倚欄斜日照青松。會須乘醉携嘉客。踏雪來看群玉峰。

內直對月寄子華舍人持國廷評。

禁署沉沉玉漏傳。月華雲表溢金盤。纖埃不隔光初滿。萬物無聲夜向闌。蓮燭燒殘愁夢斷。薰爐薰歇覺衣單。水精宮鎖黃金闕。故比人間分外寒。

唐崇徽公主手痕和韓內翰。

故鄉飛鳥尙啁啾。何況悲笳出塞愁。青塚埋魂知不返。翠崖遺迹爲誰留。玉顏自古爲身累。肉食何人與國謀。行路至今空歎息。巖花澗草自春秋。

蘇主簿挽歌。

布衣馳譽入京都。丹旐俄驚反舊閭。諸老誰能先賈誼。君王猶未識相如。三年弟子行喪禮。千兩鄉人會葬車。我獨空齋挂塵榻。遺編時閱子雲書。

戲答元珍。

春風疑不到天涯。二月山城未見花。殘雪壓枝猶有橘。凍雷驚筍欲抽芽。

子美以酒徒得罪。猶憶之不措乎。

聖俞之詩。見北宋風氣未漓。至范陸。雖極宏壯。終不似此數字。○[纂評本。使君連讀。]

南豐不以詩見長。而此皆詩人口吻。

夜聞歸雁生鄉思。病入新年感物華。曾是洛陽花下客。野芳雖晚不須嗟。

滄浪懷貫之。　蘇舜欽

滄浪獨步亦無悰。聊上危臺四望中。秋色入林紅黯淡。日光穿竹翠玲瓏。
酒徒漂落風前燕。詩社凋零霜後桐。君又暫來還徑去。醉吟誰復伴衰翁。

送樂職方知泗州。　梅堯臣

長堤凍柳不堪折。窮臘使君單騎行。蘇合輕裘霜莫犯。銅牙大弩吏先迎。
山旁楚賈連檣泊。水上禹書寒磬清。試向郡樓東北望。烟波千里月臨城。

和韓欽聖學士襄陽聞喜亭。

亭欄下望漢江水。淨綠無風寫鏡明。日腳穿雲射洲影。槎頭擺子出潭聲。
檣帆落處遠鄉思。砧杵動時歸客情。使者徘徊有佳興。高吟不減謝宣城。

錢塘上元夜。祥符寺陪咨臣郎中丈燕席。　曾鞏

月明如晝露華濃。錦帳名郎笑語同。金地夜寒消美酒。玉人春困倚東風。
紅雲燈火浮滄海。碧水樓臺浸遠空。白髮蹉跎歡意少。強顏猶入少年叢。

伏蒙留守相公賜示陪太師潞公東田宴集詩。輒敢屬和。　司馬光

舞雩新雨浹公田。水滿東溪上下天。行徑乍迂初見筍。浮舟正好未生蓮。
絃收裂帛胡琴闋。袖結清風楚舞妍。相國火城光滿路。夜歸不假玉蟾圓。

蓮生則舟凝敗蓮。仁人之言。隨觸而露。

金陵懷古　王安石

霸祖孤身取二江。子孫多以百城降。豪華盡出成功後。逸樂安知與禍雙。
東府舊基留佛刹。後庭餘唱落船窻。黍離麥秀從來事。且置興亡近酒缸。

天兵南下北橋江。敵國當時指顧降。山水雄豪空復在。君王神武自難雙。
留連落日頻回首。想像餘墟獨倚窻。却怪夏陽纔一葦。漢家何事費罌缸。

地勢東回萬里江。雲間天闕古來雙。兵纏四海英雄得。聖出中原次第降。
山水寂寥埋王氣。風烟蕭颯滿僧窻。廢陵壞冢空冠劍。誰復沾纓酹一缸。

憶昨天兵下蜀江。將軍談笑士爭降。黃旗已盡年三百。紫氣空收劍一雙。
破冢自生新草木。廢宮誰識舊軒窻。不須搔首尋遺事。且倒花前白玉缸。

疊韻。自宋人習氣。然如此什。篇々穩稱妥貼。沒滅痕迹。亦神技也。

登寶公塔。

倦僮疲馬放松門。自把長筇倚石根。江月轉空爲白晝。嶺雲分暝與黃昏。鼠搖岑寂聲隨起。鷄嬌荒寒影對翻。當此不知誰客主。道人忘我我忘言。

次韻平甫金山會宿寄親友。

天末海門橫北固。烟中沙岸似西興。已無船舫猶聞笛。遠有樓臺祇見燈。山月入松金破碎。江風吹水雪崩騰。飄然欲作乘桴計。一到扶桑恨未能。

段氏園亭。

欹眠隨水轉東垣。一點炊烟映水昏。漫漫芙蕖難覓路。翛翛楊柳獨知門。青山呈露新如染。白鳥嬉遊靜不煩。朱雀航邊今有此。可能搖蕩武陵源。

次御河寄城北會上諸友。

客路花時祇攪心。行逢御水半晴陰。背城野色雲邊盡。隔屋春聲樹外深。香草已堪回步屐。午風聊復散衣襟。憶君載酒相追處。紅萼青跗定滿林。

寄袁州曹伯玉使君。

宋人善用與字分字。〔〕鼠搖、鷄嬌、瑣細之極、而不纖弱。南宋人爲此。便不能如此。此氣運使然。

明人竹裡布金。視此。眞傖父而已也。

遙知楊柳是門處。似爾芙蓉先路通。視此似勝。

〔會上〕纂評本連讀〔〕

七字何減唐人。恨對句不稱。

能言能言。

上流民圖。氣魄宜。

直字下得奇。卻是不可易。

全篇妙麗。頸聯直逼唐人。

宜春城郭繞樓臺。想見登臨把一盃。濕濕嶺雲生竹菌。冥冥江雨熟楊梅。
政成定入邦人詠。詩就還隨驛使來。錯莫風沙愁病眼。不知何日爲君開。

登湖光亭。　韓維

雪盡塵消徑露沙。公家池館似山家。翠痕滿地初生草。紅氣通林未放花。
匝岸平波清照雁。壓城危榭斗回鴉。自慚白首猶圭組。此地年年賞物華。

烟雨樓。　鄭俠

仙人居處即龍宮。更作層樓峭倚空。羣岫西來烟漠漠。大江南去雨濛濛。
花鑣柳策熙怡裏。耘笠漁簑笑語中。別有夜橋千里月。凭欄清興與誰同。

思京口。戲周器之。　王令

江南別日醉方醺。貪愛青天帶水痕。忘卻碧山歸路直。誤投浮世俗塵昏。
終期散髮江邊釣。當有漁舟日繫門。但恨故人猶喜仕。他時胸腹未堪論。

郊行即事。　程伯子

芳原綠野恣行時。春入遙山碧四圍。興逐亂紅穿柳巷。困臨流水坐苔磯。

豈道學先生詩哉。莫是朝莫之莫。作入聲讀。便殺風景矣。對起。（頷聯）坡翁常調。

此即放翁山靈喜我馬蹄聲之淵源也。○三四他人言之。不耐其俗。○一段風韵不可及處。坡翁亦不自知也。而其刻意自負者。却不在此。

莫辭盞酒十分醉。只恐風花一片飛。況是清明好天氣。不妨游衍莫忘歸。

傳堯兪濟源草堂。　蘇軾

微官共有田園興。老罷方尋隱退廬。栽種成陰十年事。倉皇求買萬金無。
先生卜築臨清濟。喬木如今似畫圖。鄰里亦知偏愛竹。春來相與護龍雛。

新城道中。

東風知我欲山行。吹斷簷間積雨聲。嶺上晴雲披絮帽。樹頭初日挂銅鉦。
野桃含笑竹籬短。溪柳自搖沙水清。西崦人家應最樂。煮芹燒筍餉春耕。

正月二十日往岐亭。郡人潘古郭三人送余於女王城東禪莊院。

十日春寒不出門。不知江柳已搖村。稍聞決決流冰谷。盡放青青沒燒痕。
數畝荒園留我住。半瓶濁酒待君溫。去年今日關山路。細雨梅花正斷魂。

與秦太虛參寥會於松江而關彥長徐安中適至分韵得風字。

吳越溪山興未窮。又扶衰病過垂虹。浮天自古東南水。送客今朝西北風。
絕境自忘千里遠。勝遊難復五人同。舟師不會留連意。擬看斜陽萬頃紅。

如此。全篇合格者。坡翁集中亦不易得。〇結末何等風致。

坡翁之調。

二子緣詩老更窮。人間無處吐長虹。平生睡足連江雨。盡日舟橫擘岸風。人笑年來三黜慣。天教我輩一樽同。知君欲寫長相憶。更送銀盤尾鬣紅。

二月三日。點燈會客。

江上東風浪接天。苦寒無賴破春妍。試開雲夢羔兒酒。快瀉錢塘藥玉船。蠶市光陰非故國。馬行燈火記當年。冷烟濕雪梅花在。留得新春作上元。

出潁口。初見淮山。是日至壽州。

我行日夜向江海。楓葉蘆花秋興長。平淮忽迷天遠近。青山久與船低昂。壽州已見白石塔。短棹未轉黃茆岡。波平風軟望不到。故人久立烟蒼茫。

壽星院寒碧軒。

清風肅肅搖窗扉。窗前修竹一尺圍。紛紛蒼雪落夏簟。冉冉綠霧沾人衣。日高山蟬抱葉響。人靜翠羽穿林飛。道人絕粒對寒碧。爲問鶴骨何緣肥

正月二十日。與潘郭二生出郊尋春。忽記去年是日同至女王城作詩乃和前韻。

何等放逸。〇〔憶、懷訛。〕

風流大守。盛事在目。〇〔纂評本。使君連讀。〕

以押法取勝。玉樓・銀海。費多少注疏。畢竟俗句。

東風未背入東門。走馬還尋去歳村。人似秋鴻來有信。事如春夢了無痕。
江城白酒三杯釅。野老蒼顏一笑溫。已約年年爲此會。故人不用賦招魂。

竹閣。

海山兜率兩茫然。古寺無人竹滿軒。白鶴不留歸後語。蒼龍猶是種時孫。
兩叢却似蕭郎筆。千畝空憶渭上村。欲把新詩問遺像。病維摩詰更無言。

與述古自有美堂乘月夜歸。

娟娟雲月稍侵軒。瀲瀲星河半隱山。魚鑰未收清夜永。鳳簫猶在翠微間。
凄風瑟縮經絃柱。香霧凄迷著髻鬟。共喜使君能鼓樂。萬人爭看火城還。

雪夜書北臺壁。

黄昏猶作雨纖纖。夜靜無風勢轉嚴。但覺衾裯如潑水。不知庭院已堆鹽。
五更曉色來書幌。半夜寒聲落畫簷。試掃北臺看馬耳。未隨埋沒有雙尖。
城頭初日始翻鵶。陌上晴泥已沒車。凍合玉樓寒起粟。光搖銀海眩生花。
遺蝗入地應千尺。宿麥連雲有幾家。老病自嗟詩力退。空吟氷柱憶劉叉。

愈出愈妙。眞炙轂本事。○第四句是放翁有考。○溫字未免強押。

格律平正。與乃兄大有逕庭。以此兄弟唱和。能得和香。

六年正月二十日。復出東門。仍用前韻。

亂山環合水侵門。身在淮南盡處村。五畝漸成終老計。九重新掃舊巢痕。豈惟見慣沙鷗熟。已覺來多釣石溫。長與東風約今日。暗香先返玉梅魂。

送龔鼎臣諫議移守青州。　蘇轍

稷下諸公今幾人。三爲諫議髮如銀。梁王宮殿歸留鑰。尚父山河屬老臣。沂水絃歌重曾點。菑川故舊識平津。過家定有金錢費。千里爭看衣錦身。

西山負海古諸侯。信美東南第一州。勝槩未容秦地險。奇花僅比雒城優。新絲出盎冬裘易。貢棗登場歲事休。鈴閣虛閑官釀熟。應容將佐得遨遊。

西行。　孔平仲

繚繞西行入亂山。白雲深處據征鞍。蕎花着雨相爭秀。棗頰迎陽一半丹。鞅掌未能逃物役。乾坤何處托身安。蒿臺東嚮情無限。那更秋風作暮寒。

海陵西樓寓目。　賀鑄

天涯尊酒與誰開。風外徂春挽不回。掃地可憐花更落。卷簾無奈燕還來。

［十里。別裁集作二千里一。］

王孫莫レ顧漳濱臥。漁父何知楚客才。强策駑筋懷故國。浮雲十里思悠哉。

烏江東鄕。往還馬上作。

結佳。

悠悠東去欲二何之一。草草西還可レ是歸。殘日兩竿荒戍遠。青山滿眼故園非。江田經レ雨菰蔣熟。石路無レ風蛺蝶飛。回羨耕夫閑勝我。蚕收鷄犬閉柴扉。

九日登二戲馬臺一。

合作。結處每巧。

當年節物此山川。倦客登臨獨惘然。戲馬臺荒年自久。斬蛇人去事空傳。黃華半老淸霜後。白鳥孤飛落照前。不レ與興亡城下水。穩浮漁艇入淮天。

懷寄二寇元弼一。

君投二筅庫一可レ知レ非。我飽二官糧一又願違。舊國秋高鴻雁過。長淮水落白魚肥。西風吹レ夢端相覓。南物留レ人也念レ歸。何日廬軒下二雙榻一。滿持尊酒洗二塵機一。

江上有レ懷二李易初一。

七律正體。可レ爲二吾儕法度一。○頷聯。風韻欲レ絕。

何處經行特惘然。津頭曾送木蘭船。桃花春水生前夜。楊柳秋風憶故年。驛路尺書疑斷絕。官倉斗米愧二留連一。飄飄復作江湖計。從レ此長安是日邊。

卷五終

乏風韻。

# 宋詩鈔 卷六

## 七言律二

### 題落星寺

黃庭堅

落星開士深結屋。龍閣老翁來賦詩。寺僧擇隆作小軒於落星之勝處。小雨藏山客坐久。

長江接天帆到遲。宴寢清香與世隔。畫圖妙絕無人知。僧隆畫甚富。而寒山拾得畫最妙。

蜂房各自開戶牖。處處煮茶藤一枝。

### 次韻裴仲謀同年。

交蓋春風汝水邊。客牀相對臥僧氈。舞陽去葉纔百里。賤子與公俱少年。

白髮齊生如有種。青山好去坐無錢。烟沙篁竹江南岸。輸與鸕鷀取次眠。

[坐無錢。謂本應國。謂爲坐無錢。]

### 登快閣

語語勃窣。卻是大家口氣。

綺靡。

[朱火。別裁集作朱李。]

癡兒了卻公家事。快閣東西倚晚晴。落木千山天遠大。澄江一道月分明。朱絃已爲佳人絕。青眼聊因美酒橫。萬里歸船弄長笛。此心吾與白鷗盟。

夏日夢伯兄。寄江南。

故園相見略雍容。睡起南窗日射紅。詩酒一年談笑隔。江山千里夢魂通。河天月暈魚分子。槲葉風微鹿養茸。幾度白沙青影裏。審聽嘶馬自搘筇。

遊龍瑞宮。次程公韵。　秦觀

靈祠眞館閟山隈。形勢相高對越臺。蘚徑翠依屏上轉。藕花紅繞鑑中開。鶴啣寶篆排烟去。龍護金書帶雨來。夾道萬星攢騎火。滿城爭看使君回。

次韵子瞻贈金山寶覺大師

雲峰一變隔炎涼。猶喜重來飯積香。宿鳥水干迎曉鬧。亂帆天際受風忙。青鞋踏雨尋幽徑。朱火籠紗語上方。珍重故人敦妙契。自憐身世兩微茫。

魚溝懷家。　晁補之

生涯身事任東西。藥筒書囊偶自齎。柳嫩桑柔鵶欲乳。雪消水動麥初齊。

神味。在直字低字。

落々大方。不類宋人。全篇格局亦可學。

簷牙・屋角。恐傍犯。此則宋人手筆○疊字。此與幽花一聯皆妙。但此虛彼實。而各有神味。

閒適之心。出以冷語。

城門。唯文潛最才。少游輩不及也。

沙頭晚日檣竿直。淮上春風雁鶩低。歸去未應芳物老。桃花如錦遍松溪。

登海州城樓。　張耒

城外滄溟日夜流。城南山直對城樓。溪田雨足禾先熟。海樹風高葉易秋。疎傳里閭詢故老。秦皇車甲想東游。客心不待傷千里。檻外風烟盡是愁。

夏日。

長夏村墟風日清。簷牙燕雀已生成。蝶衣曬粉花枝午。蛛網添絲屋角晴。落落疎簾邀月影。嘈嘈虛枕納溪聲。久判兩鬢如霜雪。直欲樵漁過此生。

黃簾翠幕斷飛蠅。午影當軒睡未興。枕穩海魚鐫紫石。扇涼山雪畫青繒。廊陰日轉彫欄樹。坐冷風生玉椀冰。滿案詩書塵蠹甚。故應疎懶過炎蒸。

東徑瓜畦經雨涼。白衫烏帽野人裝。幽花避日房房斂。翠樹含風葉葉涼。養拙久判藏姓字。置身安事巧文章。漢庭卿相皆豪傑。不遇何妨白髮郎。

和周廉彥。

天光不動晚雲垂。芳草初長襯馬蹄。新月已生飛鳥外。落霞更在夕陽西。

〔天津。別裁集作₂尺津₁。〕

花開有レ客時携レ酒。門冷無レ車出畏レ泥。修禊洛濱期₂一醉₁。天津春浪綠浮レ堤。

九日寄₂秦觀₁。　陳師道

名句。

疾風回雨水明レ霞。沙步叢祠欲レ莫鴉。九日清樽欺₂白髮₁。十年爲レ客負₂黃花₁。登レ高懷レ遠心如レ在。向レ老逢レ辰意有レ加。淮海少年天下士。可₃能無₂地落₁烏紗。

次₃韻李節推九日登₂南山₁。

平林廣野騎臺荒。山寺鳴鐘報₂夕陽₁。人事自生今日意。寒花只作去年香。巾欹更覺霜侵レ鬢。語妙何妨石作レ腸。落木無邊江不レ盡。此身此日更須レ忙。

春懷示₂鄰里₁。

沈鬱近₂老杜₁。但筋骨露。故不レ肯耳。

斷墻著レ雨蝸成レ字。老屋無レ僧燕作レ家。剩欲₃出レ門追₂語笑₁。却嫌歸鬢著₂塵沙₁。風翻蛛網開₂三面₁。雷動蜂窠趁₂兩衙₁。屢失南鄰春事約。只今容レ有未レ開花。

和₃冠十一晚登₂白門₁。

〔冠。寇訛〕

重門傑觀屹相望。表裏山河自一方。小市張レ燈歸意動。輕衫當レ戶晚風長。孤臣白首逢₂新政₁。遊子青春見₂故鄉₁。富貴本非吾輩事。江湖安得更相忘。

淺薄。

叔黨故自有父風。

亦善用疊字者、

妙語天然。雖放翁不能過也。

寄隱居士。　謝逸

處士骨相不封侯。卜居但得林塘幽。家藏玉唾幾千卷。手校韋編三十秋。
相知四海孰青眼。高臥一菴今白頭。襄陽耆舊節獨苦。只有龐公不入州。

借陳調翁龍山買舟。待夜潮發。　蘇過

來逢春雨長魚苗。去見秋風擘蟹螯。久矣歸心到鄉國。依然水宿伴漁舠。
一天如許皆明月。二客所須惟濁醪。今夜四更潮有信。更須留眼看銀濤。

夜泊寧陵。　韓駒

汴水日馳三百里。扁舟東下更開帆。旦辭杞國風微北。夜泊寧陵月政南。
老樹挾霜鳴窣窣。寒花垂露落毿毿。茫然不悟身何處。水色天光共蔚藍。

和李上舍冬日書事。

北風吹日晝多陰。日暮擁階黃葉深。倦鵲遶枝翻凍影。飛鴻摩月墮孤音。
推愁不去如相覓。與老無期稍見侵。顧藉微官少年事。病來那復一分心。

書寧川驛壁。　汪藻

郭索已陳。換以穲稏。

二聯。各偏枯一半。

贈稼軒。當有此語。

何減少陵情懷。唯氣味有唐宋之別耳。

○緩鞚。別裁集作綠鞚。

過眼空花一餉休。坐狂猶得佐名州。雖遭瀧吏嗤韓子。却喜溪神識柳侯。
盡日野田行穲稏。有時雲嶠聽鉤輈。會將新濯滄浪足。踏遍千巖萬壑秋。

渡橫溪。　李彌遜

百尺滄浪兩岸沙。肩輿徒涉步欹斜。溪聲猶帶夜來雨。山色漸分雲外霞。
岸曲斷林開鳥道。水邊疎竹近人家。塵埃何處尋眞境。試逐寒流認落花。

送辛幼安。　周孚

西風掠面不勝塵。老欲從君自濯薰。兩意未成還忤俗。一飢相迫又離羣。
只今參佐須孫楚。何日公卿厲范雲。節物關心那可別。斷紅疎綠正春分。

城西卽事。　王琮

清曉離家去路遙。絕憐寒景太蕭條。松深漸覺風聲緊。雲動還知雪意銷。
沙嘴客擔魚種賣。山頭人拾樹枝燒。梅花多處誰家酒。斜舞青帘隔小橋。

春日山行。　王庭珪

緩鞚青絲馬不嘶。春山草長靜柴扉。迸林新笋斑斑出。隔水幽禽款款飛。

以此詩連累遠謫者。

世事漸不可為之時。宜有此等詩。

雨過泉聲鳴嶺背。日長花氣撲人衣。雲藏遠岫茶烟起。知有僧居在翠微。

題郭秀才釣亭。

野濶江寒一雁飛。碧蘆花老鱖魚肥。遶欄綠水秋初淨。滿棹白蘋人未歸。
醉任狂風揭茅屋。臥聽殘雪打簑衣。他年欲訪沙頭路。會自携竿扣竹扉。

送胡邦衡之新州貶所。

囊封初上九重關。是日清都虎豹閑。百辟動容觀奏牘。幾人回首愧朝班。
名高北斗星辰上。身墮南州瘴海間。不待他年公議出。漢廷行召賈生還。

雨後至城外。　呂本中

日日思歸未就歸。只今行露已霑衣。江村過雨蓬麻亂。野水連天鸛鶴飛。
塵務埽嫌經意少。故人新更得書稀。鹿門縱隱猶多事。苦向人前說是非。

次韻周教授秋懷。　陳與義

一官不辨作生涯。幾見秋風捲岸沙。宋玉有文悲落木。陶潛無酒對黃花。
天機袞袞山新瘦。世事悠悠日自斜。誤矣載書三十乘。東門何地不宜瓜。

十四字。宋三百年間。不可多得。根頸聯不稱。〇竹枝。竹杖訛。

不必多讓少陵登高。觀者胸中有唐宋之分。故別耳。〇徙倚。徙倚訛。

寓居劉倉廨中。晩步過鄭倉臺上。

紗巾竹枝過荒陂。滿面春風二月時。世事紛紛人易老。春陰漠漠絮飛遲。士衡去國三間屋。子美登臺七字詩。草遶天西青不盡。故園歸計入支頤。

登岳陽樓。

洞庭之東江水西。簾旌不動夕陽遲。登臨吳蜀橫分地。徙倚湖山欲暮時。萬里來遊還望遠。三年多難更凭危。白頭弔古霜風裏。老木蒼波無限悲。

巴邱書事。

三分書裏識巴邱。臨老避兵初一遊。曉木聲酣洞庭野。晴天影抱岳陽樓。四年風露侵遊子。十月江湖吐亂洲。未必上流須魯肅。腐儒空白九分頭。

題東家壁。

斜陽步屧過東家。便置清尊不煮茶。高柳光陰初罷絮。嫩鳧毛羽欲成花。羣公天上分時棟。閑客江邊管物華。醉裏吟詩空跌宕。借君素壁落栖鴉。

懷天經智老。因訪之。

名句。不虛。全篇不稱。可恨。

七八對句結。老杜多有此法。而後人竟不及也。

頷聯奇傑。頸聯。宋人常套。

前後疑粗率。古人如此處。多不可解者。

今年二月凍初融。睡起苕溪綠向東。客子光陰詩卷裏。杏花消息雨聲中。西菴禪伯還多病。北柵儒先只固窮。忽憶輕舟尋二子。綸巾鶴氅試春風。

舟行遣興。

會稽尙隔三千里。臨賀初盤一百灘。殊俗問津言語異。長年爲客路岐難。背人山嶺重重去。照鷁梅花樹樹殘。酌酒柂樓今日意。題詩船壁後來看。

雨晴。

天缺西南江面清。纖雲不動小灘橫。墻頭語鵲衣猶濕。樓外殘雷氣未平。盡取微涼供穩睡。急搜奇句報新晴。今宵勝絕無人共。臥看星河盡意明。

對酒。

陳留春色撩詩思。一日搜腸一百廻。燕子初歸風不定。桃花欲動雨頻來。人間多待須微祿。夢裡相逢記此杯。白竹扉前容醉舞。烟村渺渺欠高臺。

謝人分餉洞庭柑。　曾幾

黃柑分似得嘗新。坐我松江震澤濱。想見霜林三百顆。夢成羅帕一雙珍。

競病。梁曹景宗事。訓者不知。可咲。

有情。又有識。

流雲喚霧眞成洒。帶葉連枝絕可人。莫向君家樊素口。瓠犀微齔遠山顰。

〔流雲・帶葉二語。批本竝施朱鈎。訓爲流雲帶葉。〕

西湖泛舟。　朱松

望湖樓下照衰顏。羞見塵埃兩鬢斑。風艇縱看山轉側。烟堤儘逐水回還。喚人歸去城鐘急。觸處相親嶺月彎。不用新詩摹絕境。定知長到夢魂間。

贈范直夫。

將軍競病詩成處。南浦春歸蘭玉叢。漸減心情身老大。久乖談笑路西東。鄉關落日蒼茫外。樽酒寒花寂歷中。且與寓公同放曠。浩歌相屬倚秋風。

〔競・病。景宗所用之韻字。當連讀。北山本國訓競病。故朱批云不知。〕

別張自彊。　王銍

燕子低飛入壞簷。柳條輕拂綠毿毿。故園更在北山北。佳節可憐三月三。萬古愁多憑濁酒。九京事往落淸談。都門別恨終難寫。滿眼風光思不堪。

入春半月。未有梅花。　尤袤

以下四首。結處。皆淺語。可恨。

枯樹扶疎水滿池。攀翻未見玉團枝。應羞無雪教誰伴。未肯先春獨探支。幾度杖藜貪看早。一年芳信恨開遲。留連東閣空愁絕。只誤何郎作好詩。

德翁有詩。再用前韵。

前聯俗惡。後聯絕高。殆如二手。

文章仙伯記仇池。每想橫斜竹外枝。未放柔柯攢玉雪。稍看紅蕊染燕支。別來望遠憑誰寄。老去尋春只恐遲。把酒問花花解語。定應催促要新詩。

襯杜句。唯換蒼茫字耳。杜甫樂遊園歌云。獨立蒼茫自詠詩。是也。

立馬黃昏遶曲池。幾回踏雪問南枝。不應春到花猶未。定恐寒侵力不支。隴上已驚傳信晚。樽前只想弄粧遲。臨風不語空歸去。獨立無憀自詠詩。

嘗記尋芳到習池。攀條頻認去年枝。曉穿曲徑千林去。晚度危橋一木支。不避春寒來得得。只緣人望故遲遲。無錢可辨羅浮醉。報答春光只有詩。

後聯妙語。放翁不能及者。非此何以爲石湖。世乃舍此。而嘖嘖稱南聯。何哉。如前聯。有才思人。少攜須臾可做。

暮春上塘道中。 范成大

店舍無烟野水寒。競船人醉鼓闌珊。石門柳綠清明市。洞口桃紅上巳山。飛絮著人春共老。片雲將夢晚俱還。明朝遮日長安道。慚愧江湖釣手閒。

四月五日。集陳園照山堂。

尋壑經邱到此堂。官閑聊作送春忙。短籬水面殘紅滿。團扇風前衆綠香。
盡捲簾旌延竹色。深斟杯酒納山光。洞門無鎖城門近。轉午雞啼日正長。

四月五日。眞是貴客遊野詩。

鄂州南樓。

誰將玉笛弄中秋。黃鶴飛來識舊遊。漢樹有情横北渚。蜀江無語抱南樓。
燭天燈火三更市。搖月旌旗萬里舟。郤笑鱸鄉垂釣手。武昌魚好便淹留。

明人極力學唐七律。豈有如此合作乎。

初歸石湖。

曉霧朝暾紺碧烘。横塘西岸越城東。行人半出稻花上。宿鷺孤明菱葉中。
信脚自能知舊路。驚心時復認鄰翁。當時手種斜橋柳。無限鳴蜩翠掃空。

歸鄉實況。

再題瓶中梅花。

園林疎落凍芳塵。南北枝間玉蘂皴。風袂挽香雖淡薄。月窻横影已精神。
雪霜春事年年晚。今古詩情日日新。鐵石如翁猶索句。眞成嚼蠟對横陳。

偏枯之病。雖名家不能免乎。

宋詩鈔卷六 終

一代偉人。其在朝在外。關宋室盛衰。而在其人。則無入不自得。其詩亦從容高雅。可想見其人。

數首。不讓王孟韋柳。大家無所不有也。

# 宋詩鈔 卷八

## 五言絕

### 出守桐廬道中。　　范仲淹

素心愛雲水。此日東南行。笑解塵纓處。滄浪無限清。
滄浪清可愛。白鳥鑑中飛。不信有京洛。風塵化客衣。

### 白菩提步月。歸廣化寺。　　歐陽修

春巖瀑泉響。夜久山已寂。明月淨松林。千峰同一色。

### 晚過水北。

寒川消積雪。凍浦漸通流。日暮人歸盡。沙禽上釣舟。

### 遠山。

出色無遠近。看山終日行。峰巒隨處改。行客不知名。

筆墨蒼潤。

青苗法行後。天下凋弊。無復此景氣也。

唐音。

畫之不能寫處。執拗人乃有此風致。

百鍊之後。如未嘗經意。

曉霽。　司馬光

夢覺繁聲絕。林光透隙來。開門驚烏鳥。餘滴墮蒼苔。

題齊安壁。　王安石

日淨山如染。風暄艸欲薰。梅殘數點雪。麥漲一溪雲。

再題南澗樓。

北山雲漠漠。南澗水悠悠。去此非吾願。臨分更上樓。

南浦。

南浦隨花去。廻舟路已迷。暗香無覓處。日落畫橋西。

溝港。

溝港重重柳。山坡處處梅。小輿穿麥過。狹徑礙桑回。

梅花。

墻角數枝梅。凌寒獨自開。遙知不是雪。爲有暗香來。

江上。

青溪不必照。當時諸公。古義如絕鑑。而公未嘗肯照。何哉。狼人有此等好詩。詩不可以卜其人。〇〔閒〕閒此。

何必選之。

卻是古調。

書卷上。盡樹影也。

江上漾西風。江花脫晚紅。離情被橫笛。吹過亂山東。

秣陵道中。

經世才難就。田園路欲迷。慇懃將白髮。下馬照青溪。

雜詠。

證聖南朝寺。三年到百回。不知墻下路。今日幾荷開。

桃李石城塢。餉田三月時。柴荊常自開。花發少人知。

蓼嶼。　文同

孤嶼紅蓼深。清波照寒影。時有雙鷺鷥。飛來作佳景。

望雲樓。

巴山樓之東。秦嶺樓之北。樓上捲簾時。滿樓雲一色。

溪光亭。

橫湖決餘波。瀲瀲瀉寒溜。日影上高林。清光動窻牖。

遺老齋。　蘇轍

長公習用長。不習用短。故五絶無可選乎。

亦是省事。

久無叩門聲。啄啄問何故。田中有人至。昨夜盈尺雨。

西郊。　郭祥正

遠近皆僧刹。西村八九家。得魚無賣處。沽酒入蘆花。

翠樾堂。

深堂待遊客。老木競留春。花發多臨水。雲開始見人。

詠雪。　傅察

都城十日雪。庭戸皓已盈。呼兒試輕掃。留伴小窻明。

俗句。得三四。便可誦。

凡士人名所乘舟。曰釣月菴。求詩爲賦。

昔人釣忘餌。今師釣忘鈎。靜夜江不滿。孤光送歸舟。

春日。　崔鶠

古氣。

落日不可盡。丹林紫谷閒。明明遠色裏。歷歷暝鴉囘。

入山。　陳與義

都迷去時路。策杖烟漫漫。微雨洗春色。諸峰生晩寒。

一二可學。三四不可企。

二十字。色澤音響。無一不作。

不獨其詩妙。其任運不蹤。可師也。

有三四。便絕妙。

氣味厚。風韵長。咀嚼不厭。

早行。　劉子翬

村鷄已報晨。曉月漸無色。行人馬上去。殘燈照空驛。

梅花絕句。　陸游

低空銀一鉤。穆野玉三尺。愁絕水邊花。無人問消息。

柳橋晚眺。

小浦聞魚躍。橫林待鶴歸。閑雲不成雨。故傍碧山飛。

雪晴欲出而路濘未通。戲作。

欲覓溪頭路。春泥不可行。歸來小牕下。袖手看新晴。

野牧圖。　張孝祥

吳牛三十角。久與牧相忘。忽憶淮南路。春風滿柘岡。

春晚。　葛天民

向晚一鶯鳴。道人春睡足。無處寫幽懷。巡檐數修竹。

有所思。　葉茵

擬語卻近古。

仰天有所思。心遠日苦短。西風驅殘雲。千里月華滿。

閏九。　嚴　粲

無閑語。無冗字。眞成五言絕句。

前月登高去。猶嫌菊未黃。秋風不相負。特地再重陽。

沽酒。　利　登

尖。

有錢但沽酒。莫買南山田。勾引催租人。驚散青松烟。

春日。

雨過苔猶濕。風來戶半開。閑花忽落盡。啼鳥自飛來。

嶺梅。　張道洽

稱句。

到處皆詩境。隨時有物華。應酬都不暇。一嶺是梅花。

塵外。　朱繼芳

即安排句法。便難尋者。

塵飛不到處。山色入芒屨。乘興一長吟。回頭已忘句。

江上。　俞　桂

江頭雲閣雨。柳色與春深。船發春風闊。誰知客子心。

［閑雨。批本加朱鈎。訓爲閑雨。］

寄江南故人。　家鉉翁

古調。

曾向錢唐住。聞鵑憶蜀鄉。不知今夕夢。到蜀到錢唐。

送歸使絕句。　羅公升

唐人風致。

梁楚連天闊。江湖接海浮。故人相憶夜。風雨定何州。

［朱批止於此。］

宋詩鈔卷八終

洗居山本謹公行校

# 浙西六家詩評

# 『浙西六家詩評』解題

清・道光七年〔我ガ文政十年〕四月十六日、呉應和ノ原本序文ニ、六家ノ詩品ヲ舉ゲ、厲樊榭〔名鶚・字太鴻、錢塘人〕ノ清峭・嚴海珊〔遂成・松瞻 烏程〕ノ豪邁・王穀原〔又曾・受銘、秀水〕ノ沉靜・錢籜石〔載・坤一、同上〕ノ博大・袁隨園〔枚・子才、錢塘〕ノ奇詭、及ビ呉穀人〔錫麒・聖徵、同上〕ノ工鍊ナルヲ稱セリ。

賴山陽、偶々ソノ新舶載本ヲ獲テ、天保二年〔五十二歲〕九月ノ歸省ニ當リ、コレヲ携ヘ、十一月、歸京ノ途、尾道以東、旅程ノツレ〴〵ニ、輿中・店頭、スナハチ行硯ヲ抽キ、原本ノ次第ヲ逐ハズ、隨讀隨評、岡山ヲ出離レテ、十八日、海珊ノ「明史雜詠」〇卷之二アタリニ筆ヲ加ヘツヽ、

「片上ニ至ルマデニ、轎中ニ閱セシガ、扛夫搖兀シテ、字ヲ成サズ、ソノ節ヲ撐ヘテ、乍チ憩ヘル時ヲ候ヒテ疾ク書セリ。」

十九日、片島ノ驛店ニ宿シテ、ユクリナクモ穀原ガ「次ニ荄道店」〇卷之三ノ作、

「一水穿ニ官道ー。 數峯環ニ小村ー。……夕照依レ林滅。寒鐙背レ雨昏。」

ノ句ガ、サナガラニ、明日ハ冬至トイフ日ノ風物ゾト思ヒ做サレケン、

「旅況ハ、ソノ境ヲ踐メルモノニ非ズンバ、ソノ妙ヲ知ラザラン。今夕、倒行シテ片島驛ニ宿シツツ、燈ヲ挑ゲテ、讀ミテココニ至リ、コノ人、アラカジメ我ガ爲メニ情ヲ寫セルカヲ疑ハシム。」

ト、自カラ終日ノ旅疲レヲ慰メ、ヤガテ、姫路ニ著シ、仁壽山ノ學舍ニ開講ノ課餘、樊榭ノ諸作〇巻之一ヲ展ベテハ、

「酒罷ミテ、吏生皆退キケレバ、衾ヲ擁シテ未ダ眠ラズ、枕頭ニ就キテ、コノ卷ヲ閲ツツアリシニ、厨人ハ、猶夜ノ闌ケタルニ語レリ。」

ト注シ、十二月二日ニハ、尼ケ崎マデ還リテ、大坂ヘ向フベキ舟中、ソノ「東呂阻レ風」、

「伏日舟中聽ニ曉雞ー。無レ端風雨其淒淒。浮雲西去遙連レ魏。」

ノ句ニ至リ、季節違ヒニハアレド、

「尼ケ崎ノ第一渡舟「一番舟」中ニ在リ、看テ遂ニ「評語ヲ」識ス。昨雨ハ霽レナガ

ラ、零片、乍チニシテ飛ベリ。」

ト、ソノ詩想ヲ馳セ、五日、歸京ノ後ニ至リ、全部ノ評語ヲ整ヘ了レリ。

ソノ開版ハ、歿後、嘉永二年ニ至リ、大坂書肆藤屋禹三郎〔翠香居〕・江戸須原屋茂兵衛〔千鍾房〕、ソノ發兌ニ當リ、後藤松陰ノ校讀ヲ經テ、篠崎小竹ノ序ヲ冠セリ。藤屋禹三郎ハ、北尾氏、翠香ト號シ、業務ノ上ニ小竹ノ眷顧ヲ得タル外、文墨ヲ解シ、本書ノ版下ハ、卽チソノ一筆ニ成レリ。予、嚮ニソノ嗣二世禹三郎ノ囑ヲ以テ、墓碣ノ文ヲ撰セリ、今コレヲ述ブルニ當リ、感愴ノ餘、聊コレニ及ブ。〔好尙生〕

序。

山陽評清人詩文。有抑有揚。至於隨園。則抑之殊甚。予察其意。非惡隨園也。亦爲隨園也。隨園才學。能壓當時。其議論著作。悉脫陳腐。出人意表。凌轢古今。自成一家。觀者爽然。莫之敢攖矣。山陽以爲。子才實才子。然亦太傲慢。因索其疵瑕。指摘不遺。使隨園不得專權藝圃。乃移史筆於詩詞。發新意於詠懷。自成其家。一時仰之。亦近世之隨園也。學者欲名世者。不可無隨園・山陽之志。然所須先自量其才與學。才學不足。任氣勇往。其不畫虎類狗者幾希。浙西六家詩。山陽所評。褒貶的確。若以流滑引茶翁。以險澁證杏翁。皆後學之指南。我輩宜從其說。以進詩之正道。不必別爲山陽可也。是爲序。

嘉永二年。己酉夏五。　浪華。小竹散人篠崎弼撰。幷書。

昌黎非三代兩漢之書不敢觀。北地・信陽不讀唐以後書。立論之嚴如此。故其製作不懈。而及於古。然而文章風氣。隨時代遞遷。志乎古。而遺乎今。則源流升降之故不明。何由擬議以神其變化。此少陵所以愛古人而不薄今人也。昔漁洋山人欲選古今二十五家詩。未成。予竊取其意。而更定之。陳思王・陶靖節・謝康樂・鮑參軍・謝宣城・庾開府・李供奉・杜工部・王右丞・韋蘇州・白太傅・韓文公・李義山・蘇長公・黃涪翁・陸放翁・元遺山・虞道園・高青邱・李空同・何大復・吳梅村・王漁洋・朱竹垞・查初白。爲古今二十五家詩選。又有漢魏詩選・盛唐詩選。少年用力於漢魏・六朝・三唐・兩宋・元明之詩。多歷歲月。今老矣。懶於纂述。偶然興之所發。編刻浙西六家詩鈔。將必有誚予喜新厭舊不免爲習俗所移。而孰知予近日言詩。不復以時代爲界限。上下千百年。窮極變態。變而不失乎性情之正。則皆可以感人。而興起於善。雖今人之詩。作三百篇讀。有何不可。六家詩。各自成家。樊榭徵君之清峭。海珊刺史之豪邁。穀原比部之沉靜。蘀石宗伯之博大。隨園太史之奇詭。穀人司成之工鍊。皆足繼朱查。爲世取法。獨怪隨園專尙才情。

而不師古。放浪褻狎。自命風流。數十年來。學詩者。爭相揣摩。不得不嚴汰之。以求不悖於無邪之旨。斯可矣。是則輔翼詩教之微意也。至於吾郡錢・王兩先達有古人之性情。而得古人詩之精詣。非淺識浮慕者所能窺測。表而出之。以見不侔乎同時諸家。直與古作者。竝有千古。若謂古今人不相及。而沾沾於千百年之上。執軌迹以爲步趨。何異專己守殘之說經者哉。

道光七年。歲次丁亥。夏四月既望。海鹽吳應和書於硤石微山館。

# 浙西六家詩鈔　卷之一

安藝　賴　襄子成　選許
美濃　後藤機世張　校點

熟於宋元以來稗說。是屬根柢。詩自其中生。宜不免小家數。

歸愚評。在劉常之間。蘭泉評。幽新等八字。眞確當也。

初白自別。

## 樊榭山房詩

厲鶚。字大鴻。號樊榭。錢塘人。康熙五十九年舉人。乾隆元年。薦擧博學鴻詞。有樊榭山房集。○沈歸愚曰。樊榭學問淹洽。尤熟精兩宋典實。人無敢難者。而詩品清高。五言在劉眘虛常建之間。今浙西談藝家。專以飣餖撘爲樊榭流派。失樊榭之眞矣。○王蘭泉曰。徵君性孤峭。義不苟合。讀書搜奇愛博。鉤新摘異。尤熟於宋元以來叢書稗說。以孝廉需次縣令。將入京。道經天津。査蓮坡先生留之水西莊。觴詠數月。同撰周密絕妙好詞箋。遂不就選而歸。揚州馬秋玉兄弟延爲上客。館後來往水西者。凡數載。馬氏小玲瓏山館多藏舊書善本。間以古器名書。因得端居探討。所撰宋詩紀事。遼史拾遺。極爲詳洽。今皆錄入四庫書中。其先世家於慈溪。故以四明山樊榭爲號。所作幽新雋妙。刻琢研錬。五言尤勝。大抵取法陶謝及王孟韋柳。而別有自得之趣。瑩然而淸。窅然而邃。擷宋詩之精詣。而去其疎蕪。時沈文愨公。方以漢魏盛唐。倡於吳下。莫能相掩也。○歸愚蘭泉兩先生評樊榭山房詩。固已確當。獨賞五古。而不及七律。殆以七律不近唐音耳。參用性靈書卷。自闢蹊逕。諸體皆工。七律更耐尋繹。如秦淮懷古。悼亡姬。答鶴谷移居等作。皆通體渾成。非獨有句可摘而已。其餘美不勝數。遙情逸致。誦之口角生香。近時擅厥體者。初白翁後。爲一大宗。

白描能事。混之唐賢什中。不可辨。所以爲樊樹。

勝於海珊七古。

纖巧法門。前半晚唐。後半南宋。

宿龍門山巢雲上人房。山在錢塘之西。俗名小和山。

山樓出樹杪。夜宿萬山中。虎嘯不驚定。鐘聲疑在空。背窗棲鳥影。滅燭聽松風。明日尋堦水。應添十二筒。

晚步。

斜景忽已暝。流鶯時一鳴。水光知月出。花落見風行。僻地非遺世。新畦欲耦耕。孤吟少儔侶。發興自江城。

羊流店。拜羊太傅祠。

茅屋疎林雜晚炊。羊公祠下獨來遲。探環已失前生樹。墮淚猶存故里碑。盛德在人如昨日。淸談誤世詎同時。雍容裘帶瞻遺像。深愧無才進些辭。公歸自江陵。務修德以懷吳人。豈有敵人羊叔子盛德感人之深。蓋如此。從甥王衍方以盛名處大位。獨言其敗俗傷化。衍遂憾之。卒致舉世習於浮誕。而不可救。五六兩句。與其大者。見可爲百世師矣。

夏至前一日同少穆耕泛湖。

雨後看山綠繞城。鏡裀初卷半湖明。荷邊魚在香中戲。橋上人從畫裏行。料理

前半疎宕有眞氣。後半纖巧。如出兩手。選者所圈不在前。而在後何。

分字約字。錘錬之極。然不成痕處在此。頓其前後淡拖。足相配合。沒其痕迹。乃爲可誦。前絕句。重字淺。亦然。此樣句法。開袁子才輩前茅。

洒杯無俗物。銷除席帽足閒情。水風忽送涼如許。搖曳新蟬一兩聲。

春日泛舟北郭。

出郭逢初霽。篷窗任意凭。氣新如有獲。興到亦無朋。遠水浮春寺。青山落晚罾。爲憐桃李色。歸待月東升。

春寒。

漫脫春衣浣酒紅。江南三月最多風。梨花雪後酴醾雪。人在重簾淺夢中。

雨後坐孤山。

林巒幽處好亭臺。上下天光雨洗開。小艇淨分山影去。生衣涼約樹聲來。能耽清景須知足。若逐浮名媿不才。誰見石闌頻徙倚。斜陽滿地照青苔。

和余葭白題唐子畏畫韓熙載夜宴圖。

韓郎自是江北人。避地去作江南臣。更從江南到江北。便道江南有人憶。歸來笑擁名花叢。疎眉小面居當中。千枝銀燭照舞影。滿堂賓客看驚鴻。門生解事執樂句。燕支拍碎聲穿空。酣嬉跌宕君莫笑。一半桃李無春風。宮中唱念家山

此首。却有韓蘇之氣局。

以下十數首。七律竝織褊。不足觀。

評四字允當。

破。燒槽哀怨傳何窮。聊將羣婢汙名檢。此意未必聞重瞳。六如居士不竝時。何由戶外三更窺。筆底故有嬙與施。我不見畫但見詩。詩工直疑畫遜之。眼倪鉛黛嘲貧兒。從來裴休說法爲人願。不妨衲衣乞食隨歌姬。

坐聖幾秋聲館作。

吳水抽帆乍到來。梧桐高館共遲回。屋頭大葉自吟雨。衣上綠陰如染苔。五柳先生雖寂寞。雙楠居士不塵埃。明朝知有書船至。珍重荊扉手爲開。

南湖秋望。

幾點城隅接翅鴉。意行烏帽任欹斜。橫塘秋水明菰葉。老屋殘陽上蘚花。渺矣高鴻猶避弋。落然寒事又辭家。南湖多少閑風物。魚罨誰分一片沙。

夜宿松寥閣。用薩天錫韻。

深松耿禪燈。江黑疑有雨。平生託宿處。奇勝此堪數。微聞金山鐘。漸辨瓜州路。海色與西風。又將陳跡去。江山晦明。恍惚變幻光景。數語盡之。眞是箇老奇橫。

晚秋夜雨。有懷故園。

終是長於五律矣。

清人題此器者不少。並似遜此篇。誰謂樊榭不長歌行也。

恨不以下十四字。一氣讀爲長句。可。分讀各七字句。亦可。

是如意也。故以王家珊瑚映發之。又以不如意反言之。巧極鍊極。而不露痕迹。老手老手。通篇四句成解。臨末忽分爲各二句。又以

---

落葉卷風雨。客愁仍去年。背燈三峽水。攲枕九江船。預想他時話。須妨此夕眠。南湖煙翠色。應濕草堂前。

趙忠毅公鐵如意歌。上有銀鏤銘云。其鉤無鐵。廉而不劌。以歌以舞。以弗若是折。唯君子之器也。趙南星。凡小篆二十六字。

鐵花鏽澀尺有咫。一朶冷雲吹不起。四周銀鏤篆畫嚴。古器曾經近君子。高邑趙公卓犖才。東林黨籍標渠魁。要扶衆正黜羣小。不悟晩乃爲身災。高皇辛苦營九有。輕擲乾坤崔魏手。椓人假子滿朝廷。豈獨見泉竟無後。見泉無後。趙公日南樂魏廣微語。見泉。廣微父允貞號也。廷推禍伏三案根。遙遣荷戈出雁門。匹如祥麐在苑囿。貜貐檮杌驅之奔。擊壺歌罷提攜舞。北闕關心淚如雨。恨不親將逆豎頭。碎如王氏珊瑚樹。力疏四害論四凶。公於神宗朝。爲選郎。上四大害疏。光宗朝。爲總憲。斥元詩教趙興邦官應震吳亮嗣。著四凶論。願鑄禹鼎代天功。人間萬事不如意。佳名眞與奇觚同。鐵兮何清寒。乃是公之忠義肝。鐵兮何突兀。乃是公之戍死骨。我購得此常賣家。傳觀四座寂不譁。若采銘文備史事。流傳億代可以箴官邪。

題秋玉洞庭詩卷後。

長短句出之。結處置一長句。以避太整。動盪而不失步趨。諸家所不及。

第三句俗。讀至五律。如出二手。

選者所圈起手二語。俗目所喜。識者所擊。

第一首。落落大方。

自古浮天兩洞庭。千年詞客幾揚舲。愛君淡著有聲畫。收拾秋光補水經。

五月二十八日。渡太湖。

千古繁華地。茫茫浸遠空。猶傳濬臺墓。不見吳王宮。一鳥墮寒鏡。衆山移釣篷。如聞習流戰。零落藕花紅。高古簡淡。王孟後。又開一境。

紅橋春遊曲祝荔亭席上西唐授衣同作

客愁當春亂如絲。挂在紅橋新柳枝。主人官小肯愛客。載酒喚船波拍拍。孟婆跋扈作餘寒。玉簫吹過曲闌干。東陵飛下三靑鳥。女兒破顏鈿窩小。繁華暫眼徒紛紜。牛羊踏穿阿麻墳。隔江山映殘梅晚。招之不來殊偃蹇。主人勸客爲樂方。陳郎叩舷發老狂。高子哦詩妙五字。遊魚出聽燈在水。風花上已連淸明。有約更賦麗人行。

移居四首

南湖結隱八年餘。又向東城賦卜居。頗愛平橋通小市。也多喬木映淸渠。杜陵突兀見此屋。韓子辛勤始有廬。笑我天慵俱未遂。不妨隨地狎耕漁。

前聯纖巧之極。却自可喜。所謂一寸析二寸析同。食毒紙皿。苟爲纖巧。當如是方好。

此則一變至鍾譚也。

不愧和蘇。

華髮蕭蕭漸滿顚。可無淸境著閑仙。安排桑苧新茶閣。位置樵靑慣釣船。細雨連畦容緩步。涼風動樹足幽眠。欒公祠宇今相竝。且逐鄰翁掠社錢。（里有古社。祀蜀漢欒公子仲。）

涉徑梅坪密復斜。百弓堪作小園誇。繞牆細數遲生筍。縛架親扶已臥花。叢雜琴樽臨頓宅。淸貧眷屬伏川家。從人畫出村夫子。舊事佗時一笑譁。

封軺前日斷知聞。月渚煙林介策勳。仰屋著書聊耳耳。閉門種菜漫云云。驗時巢燕方新乳。迎客昏鴉欲作羣。稍待芟除荒穢了。一軒風景任支分。

九月十三夜月。

夜靜樓陰冱。蕭寥犬吠闌。江聲喧歲稔。霜信壓秋殘。桃葉經教誦。巴童藥遣丸。無眠五更轉。隙月近人寒。（杭俗以潮大爲有年之兆。）

同西林遊水陸寺。追和東坡先生韻。

笑指東坡宿處村。卅年重打老僧門。詩中修竹還依舊。劫外疏花又返魂。龍攫何年香殿壞。烏啼向夕石幢昏。歲殘眞有幽居味。喜得龐居士其論。

此則一變至二錢劉一也。

前聯求レ巧得レ拙。學レ詩者所レ當レ戒也。

韓偓之亞。是亦食レ毒舐レ皿之類。

前聯偏枯。

鄭筠谷招二欲書帶草堂一同二張南濟一作。

焚レ魚卻賦遂初衣。卜レ築東皐願不レ違。湖上青山如レ有レ約。京華白髮幾人歸。舉レ杯中散情偏洽。撫レ足梅公歎亦非。時以二足疾一得レ告。猶有二舊時耕釣作一。遲君西崦筍牙肥。

係二金家堰一。入二阜亭西麓一。至二崇先寺一。寺爲二宋顯仁韋太后功德院一。

石路風輕逗二嫩寒一。繁花遠近幾千攢。花明正要二微陰襯一。路轉多從二隔竹一看。春似合江堪レ載レ酒。揭來古寺記レ迎レ鑾。誰知當日龍沙恨。不レ見吹レ香到レ地殘。太后北歸。曹勛作二迎鑾七賦一。

初秋有感。

一室呼レ童淨掃除。流塵深鎖半年餘。履綦聲已銷二閑砌一。粉指痕猶印二故書一。命似涼蟬偏易レ斷。情如二暮雨一肯教レ疎。驚心棖觸傷心候。正是荷姬秋病初。文生二於情一。悽惋欲レ絕。

顧丈月田遺二羅浮丹竈泥一。

尋レ眞高步向二羅浮一。曾向二沖虛觀裏一遊。九轉已成仙歲月。一丸猶帶晉陽秋。虹光幾度巖頭現。赤埴今從二掌上一留。學取方回封戶法。也堪獨往謝二凡儔一。

此篇辛苦經營。却遜他歌行。

末句長語。不見大聲策。

一罏水。自漢唐并全明盛衰。盡涵有其中。歷敘無一冗語。亦不使才。眞名篇也。

題沈石田寒驢覓雪圖。

兩崖對聳寒空峭。霽色雲端迴相照。瀑冰挂折板橋低。千丈玉龍尾不掉。山腰居人下無路。狐瓜兎迹迷窅藹。疎林欹倒深澗埋。獨凭危闌展孤眺。長耳銜風前爲誰。袖裏鞭梢若垂釣。後者據鞍自呵手。涕凍鼻中強爲笑。乾坤清氣入詩脾。口不能言領其妙。君不見欵後鄭五作相時。心腸冷落無人知。風雪灞橋驢子上。何如二十四考居台司。又不見黃山先生句得髓。圭璧絮鹽良可已。詩名世號趙寒驢。何如頭鵝獻龍吟春水。昔年眯眼輭塵紅。髭冰不到河伯宮。寒風密雪郭熙畫。張之秋暑銷爐爐。丙辰秋日。在長安。觀郭熙寒風密雪圖於徐亮直太史席上。此圖物色將毋同。眼明今見石田翁。安得人間五六月。移置覓雪圖當中。我當爲文策拜廬山公。

洪熙古刺水歌同全謝山作。銅罏上刻云。洪熙元年監造。古刺水一罏。淨重八兩。罏重三觔。

哀牢九隆漢所開。唐代六詔爭喧豗。玉斧畫河段氏立。阿蓋殉節梁王摧。濠梁眞人設郡縣。炎徼西南俱革面。分司古刺始羈縻。永樂四年。大古刺土酋潑地那浪人貢。立宣慰司。又立小古刺長官司。貢琛莽怕旋來見。洪熙元年。底馬撒宣慰司署古刺司妹塔跌偭莽怕人貢。取寶船回恤遠夷。萬方輻輳

悼明亡處蘊藉。在清人不當如此邪。可謂苦心妙手。

末尾。可恨微俗。

仁宗時。此香不滅芬陀味。此水應超蘇合池。甲煎百和花盈缶。六一泥封篝火後。斑衣染麝鏤耳脅。珠絡挈餅馬郎婦。熬成細字鐫青銅。進入春風生六宮。一灑羅衣長不滅。氤氳願與君恩終。可憐僨帥如香尉。購得朱門媚權貴。分宜遺臭塞兩儀。當時壓倒龍涎氣。籍沒嚴氏。有洪熙宣德古剌水十二罐。枕頂餘芳世廟修。御衣小炷純皇留。南都讕記春橋顧。勛戚方傳恭順侯。華胥舊事無人識。流落江南幷江北。金仙鉛淚一函中。夢破香銷彈不得。

覺範畫梅爲敬身作。

古來畫梅誰最好。僧中獨數花光老。花光衣鉢付何人。石門釋子得其眞。曾聞花光能畫影。墨暈寒苞偏耐冷。石門畫梅兼畫月。比校烘雲尤幻絕。只圈花瓣不安鬚。看去朧朧月如潑。畫月之外更畫煙。煙籠玉質難爲傳。斜枝一抹忽中斷。似倚孤山向晚船。流落南屛定幾時。君今幸得收藏之。寫作春風十分態。畢似湘西瘦阿師。箇是浪子無聲詩。筆筆靈活。與阿師同參畫禪。

青溪歎。

頓挫有杜之影。

芊綿之極。却自朴雅。有古樂府遺響。結尾尤好。

纖麗之詩。中藏大議論。無使氣之態。不必待結句。始見詩品之高也。

七月三日天沈沈。海風吹作三日霖。彭山妖蛟最得意。夜拔潭穴漂嶔岑。水來青溪十丈許。鼓怒直使胥濤瘖。胥濤氣短退三舍。人如白蘋蔽江下。屋材家具滿江汉。嗚呼青溪之人何辜於蒼穹。人人盡在秋夢中。不知魂游龍伯宮。

西湖采蓴曲。

湖波春深碧於苔。游魚布影三潭隈。三潭倒浸三塔小。中有蓴根不用栽。蓴根歷亂蓴絲滑。半捲玄荷縈石髮。曉光蕩漾膩山煙。夜色微茫冒水月。大姑采采瓜皮舟。小姑盪漿歌中流。指纖爲怕龍涎失。腕弱尤憐雉尾柔。春風采蓴蓴正好。秋風采蓴蓴已老。願如蓴好繫郎思。歸來同拜水仙祠。

錢舜擧摹周昉內人雙陸圖。爲梁茝林作。

深宮晏起花陰午。尚覺春寒入眉嫵。只將握槊當嬉遊。不亂窗前白鸚鵡。兩人對局如有思。寶釵半墮雲鬟欹。旁觀一人凭小婢。骰子欲下春葱遲。雙鞾踏地紅鶴觜。金鉼力挽薔薇水。女官未敢促朝妝。宿粉殘黃憶濃睡。睡濃曾夢雙陸輪。唐家社稷須人扶。柘袍又出點籌手。樂事可憐同婦姑。畫師著眼非窮相。曲

奇傑稱題。乃知道翁蹤跡不奇。故少奇詩。

視前詩雌雄蝶子母牛。何啻兒童語。

通篇六轉韻。皆每句押。自成一格。極魚龍曼延之樂。末段議論。關係太大。不爲徒作。卷中題畫諸作。是爲壓卷。

眉豐頰當時倚。錢郎摹古能逼眞。寫出徒令意惆悵。豈知絕代佳人住茅屋。寒機軋軋無膏沐。反結二句。力鎭全篇。始見詩品之高。

題吳志行從軍圖。

故寫軍裝作遠遊。比於客帳夢封侯。書生有分垂青史。烈士何當歎白頭。草檄手閑秋巷冷、淅矛語險莫雲愁。不如共我跏趺坐。千古貂蟬付一漚。

送舒雲亭明府還京。

送春兼送客、湖上夕陽船。欲折蘋花贈。相將別思牽。後期如此水、前事只經年。不斷吳雲影。迢迢直至燕。

題嶰谷所藏郭河陽寒風密雪圖。

宋已無李成。寒林尺幅徒强名。今尙有郭熙。官畫風雪重見之。主人云此來京師珍重出自我友貽。不用明窗拂蛛絲。滿堂寒色動鬚眉。峩峩羣玉峯下積陰靄濃。皎皎千樹瘦。上絕窮鳥影。但聞虛牝怒號飛湍哀。馬蹶得得翻銀杯。擠雪危棧胡爲哉。誰家寬廈柴門開。別有凍粟生樓臺。浦漵一色相縈廻。幽人高臥

挿單殺句。頓挫。生奇響。作家手段。唯一出尤妙。

窺字。作者苦心。讀者刺眼。

渲碧滲金。放翁亦有如此者。然彼不覺纖。何哉。是可思也。

集中如此詩。蓋不少矣。使唯選此等。誰敢容喙。

無人猜。熙寧天子多清燕。詔遣從容埽東絹。是時相公成法變。豈悟涼雲將集霰。闔成高張清暑殿。不數十年同席卷。蠒壓明昌眼中見。歌聲又唱青山轉。青山轉。亡金時謠也。寶繪流傳仍自汴。零落宣和幾宮扇。何如坡谷詩才擅。發興春山玉堂院。

曉登南屏。渡湖歸。舟中寫望。

乍解輕舟曉色交。僧房回首小於巢。一湖春水窺山影。十里初陽上柳梢。爛漫狂名幽鳥識。參差老態野人嘲。遊蹤未逐香塵動。遠聽漁榔隔浦敲。

三月三日。同穆門叢林竹田恒公。酹顧丈月田墓。兼修禊湖上。分得之字。

料峭東風上巳期。故人一去更何之。經年來酹橋公酒。此日空題逸少詩。渲碧湖寬春雨後。滲金山好夕陽時。回船不盡餘寒意。安得英靈共此奇。

月夜泊呉江。

兼葭望極淨無煙。小泊秋娘渡口船。對月心情多往事。阻風滋味又今年。江空列宿依人近。夏淺餘寒與水連。正是清和好時節。潛虬光動不成眠。

高朗朴雅。稱題。焚樹豈易嗤議。

全首宏壯。細膩兼備。七八著陋俗語。可惜。

十二月二日。在尼崎二第一渡舟中看。遂識。昨雨霽。隻片乍飛。

南池拜杜少陵祠。

太息杜陵叟。空垂萬古名。文章羇旅賤。身世腐儒輕。勝地跡猶在。荒池風自清。迎神有新曲。讀罷一含情。○祠爲椒園所椒。有碑甚工。文章十字。寄慨自深。

東昌阻風。

伏日舟中聽曉雞。無端風雨其淒淒。浮雲西去遙連魏。綠樹南來漸入齊。災後名區絲竹少。病餘舊僕語言低。愁城如許攻難下。一矢書成亦枉題。

開平王孫種菜歌。并序

常延齡。字喬若。號蒼谷。開平王遇春十二世孫。襲封懷遠侯。官南京錦衣衛指揮使。有賢行。嘗疏劾馬阮。鼎革後。與夫人徐氏。中山上公之愛女。種菜於金陵湖墅。裔孫執桓乞詩。

高皇初定江南日。采石磯頭功第一。橫行十萬常將軍。帶礪河山永無失。滄桑抱節有賢孫。鍾阜秋青入淚痕。飄零大樹不復見。鶺鴒故侯安足論。中山同志深閨婦。曲折天吳移舊繡。誰知偕隱灌園人。俱爲異姓分茅後。幾稜荒畦非賜

名評。有益於學詩者。

此等。所謂數典而已者。小朝廷句。最俗。

田。晚菘早韭資寒泉。可憐一紙釘姦疏。卻裏長街買菜錢。歸來假仰棲衡宇。猶勝貂蟬與阜伍。鳳臺園裏鬼迷花。雞鳴廟前狐嘯雨。漫向金陵弔夕曛。百年寂寂但孤墳。籬邊尚發東風菜。一任空原野火焚。序内多述遺事。應有鋪排。而詩只就種菜上作說。幾句何等簡捷。若落庸手。不知消納之法。非千百言不止。

蕭照中興瑞應圖曹勛贊幷書。明吾杭陳弧菴故物。今在廣陵吳氏。

趙家九葉承平業。乾坤初換紅羊劫。鑾輿哀痛塵再蒙。自此中原滿兵甲。肅王已去康王留。神人助順先磁州。卽眞當念衣中詔。避敵翻爲海上遊。艱難百戰英雄死。小朝廷在臨安矣。迎得慈寧阿母歸。不負黃羅卜棊子。太平功就稱翁翁紹興間。禁中呼秦檜爲太平翁翁。見賓退錄。西湖歌舞驕春風。倦勤竟受天下養。瑞應圖呈德壽宮。蕭郎曾畫延祥壁蕭照奉敕畫四聖延祥觀壁。見四朝聞見錄。六百年來撫眞蹟。中間李固渡頭冰。彷彿扶得光武厄。臣勛書贊官職俱。北狩見聞非貢諛曹勛有北狩見聞錄。何如元叟浯溪頌。漫比簡子常山符。

爲董浦悼亡姬

不レ爲二猥褻語一。情景欲レ絕。詩品高矣。

知君急淚制無レ因。客舍驚聞玉化レ塵。夢斷畫簾微有レ雨。歸來錦瑟但如レ人。碧桃落盡空留レ子。白髮生多最苦レ春。想到金臺定情夜。殘燈向レ壁喚二眞眞一。

巧而不レ弱。所三以爲二獎樹一。

晩春感興。

水外茅檐竹裏扉。閒窗人靜試二單衣一。壓レ枝梅子多難レ數。貼レ地楊花弱更飛。白日如レ年娛二我老一。綠陰似レ水送二春歸一。如何倚著二虀鹽累一。又理二雲帆一別二舊磯一。

十一月。宿二仁壽山一。洒罷。吏生皆退。擁レ衾未レ眠。就二枕頭一。閱二此卷一。廚人猶語夜闌也。
山陽外史

浙西六家詩鈔卷之一終

# 浙西六家詩鈔 卷之二

## 海珊詩

嚴遂成。字松瞻。號海珊。烏程人。雍正二年進士。官嵩明州知州。乾隆元年。薦舉博學鴻詞。有海珊詩鈔。○海珊與樊榭同年。相友善。而詩思豪邁。迥不相類。所作明史雜詠。時稱詩史。又有梅花詩。傳誦京師。遂得膺詞科之薦。丁母憂不赴試。成進士後。需次二十餘年。始補縣令。蹇傷遲暮。乃益發憤於詩。歷遊豫楚滇黔。登臨弔古之作。率皆悲壯激烈。奇氣橫溢。鐵崖樂府。淵潁歌行。殆兼師其意。而不襲其貌。少陵所云。語不驚人死不休。海珊有焉。第不免矜才騁博。有貪多之病。賞其奇。仍繩之以法。故是編所錄。轉不及樊榭篇什之多。明史雜詠。尚有流播。全集甚不易覯。借得詒安堂朱氏藏本。不啻希世之寶。

### 梅花。

誰教春信破寒來。江北江南幾樹梅。此品亦宜員外置。無花敢向雪前開。平湖煙散閒移櫂。小閣風徐數舉杯。佳趣箇中殊好在。始知凡豔是輿臺。

山家籬落兩三枝。特地嶔𡾊不入時。老氣直教無我敵。清名頗亦畏人知。那堪薄俗輕描畫。祇向前賢大索詩。問影問形都不似。高樓玉笛莫頻吹。集中前後梅花詩八首。茲今前四首。其二首。三四一聯皆新警。有名士兀傲氣骨。後梅花詩。絕無佳致。又爲一時傳誦。名動京師。殊不可解。

詠梅。即是自道。直老氣無敵。

不見甚奇。大抵嚴詠古。無大豎義。而卒然成章者多矣。清人如此者不少。不但嚴也。

歌風臺。

狐鳴篝火蛇横草。亭長手提一劍掃。京索榮陽百戰餘。難得生還見父老。雞犬新豐樂故鄉。萬歲千秋魂渺茫。酒酣起舞涙霑臆。風聲慘澹雲蒼蒼。西顧山河要人守。誅夷半出兒女手。宮中雉雊反九起。胡乃藏弓烹走狗。嗚呼鐘室之死冤最深。從赤松遊非本心。

沛公威加海内。不能制一婦人。韓彭葅醢。吏何猛士之可得哉。子房且去。只留平勃一雙軟媚人。共事女主耳。此詩足爲乾綱不振之徒。發嘆啓牘。

五人墓。

起惜薪司盜國柄。表裏朋奸挾奉聖。羅鉗吉網踞北寺。一獄同文鈎黨譴。封疆案入魏大中。吏部出餞吳門東。臥起三日聘以女。地下逢比行相從。刺天緹騎大聲吼。呼囚地擲銀鐺手。開讀未竟一傳香。蠹擁山崩負傷走。嗚呼荊軻聶政非丈夫。輕生一擲胡爲乎。死利於國乃得所。五人髑髏血糢糊。昔不見飛星墮月恣鸞啄。皇嗣殄絶主勢孤。内摻衷甲僭鹵簿。兒孫彪虎繁有徒。自有此舉駕帖止。封清危言其魄褫。明年眞龍捧日飛。倒塌冰山滅禍水。適知五人不死死

始末語意。頗似變漁洋衛將軍祠。而不及遠甚。

猶生一怒強踰十萬兵。豈惟東林借生氣。力扶天柱東南傾。普惠祠基鬼其宅。穹碑大字書姓名。行人下馬酹杯酒。神鴉墓木悲風聲。普惠祠。卽忠賢建祠處。毀以葬五人。〇五人之死。不但東林生色。實能挽回國事。非尋常俠客義士可比。詠古有特識。其詩始傳。

起手古風口角。所奇。氣遂爾。一筆揮去。大奸。

## 金山。

江自西來萬里強。橫當一柱屹中央。生犀不敢燃溫嶠。古鎖誰能引李陽。樓勢蘢浮趨海近。山根劍削倚天長。老僧見慣風波惡。鐘鼓閒宵禮法王。

五十六字鐵案。德遠如何解免。詩亦渾老。古中傑作。

## 過符離。讀張忠獻公傳。書後。

北使來朝輒問安。隱然敵國膽先寒。十年作相遲秦檜。自註。高宗問相。公以檜闇對。遂忤檜。紹興二十五年死。公於隆興二年復相。萬里長城壞曲端。柔石一舟風浪大。富平五路戰場寬。傳中功過如何序。爲有南軒下筆難。魏公志在恢復。急國家之難。不俟終日。重用曲端。屢違節制。金婁室併力攻陝。公檄端救李彥仙。竟不奉命。以致彥仙寡不敵衆。力盡城陷而死。諸葛武侯祁山之敗。必誅馬謖。公特優容之。蓋深惜其才。欲用之於他日耳。明年。婁室遂謂宋室無人。孤軍深入。公議卽出師擣之。問計於端。端按兵不動。欲一二年後。待其久而自斃。然後圖之。又嘗議出師伐金。聚八十萬之衆。拜端爲大將。端曰。殺却四十萬兵。其餘乃可用矣。公於端固有積疑。遂罷其官。富平敗後。復召起用。吳玠以端有異志。下書曲端謀反四字示公。王庶又言。其詩指斥乘輿。乃下獄。非寔殺之也。獄吏康隨報宿怨。致死獄中。端雖有才。不肯終爲宋用。豈有萬里長城之足恃哉。其死於獄。亦非如

前聯已盡。聯語輕近俳。可惜。

清人時喜用个樣句。不免村俗。

此及鄱陽詩。五律中傑作。

宋義成之殺檀道濟也。本傳謂。端恃才傲物。剛愎自用。至於窺視主將。不奉軍令。不恤國難。宜其見殺於魏公久矣。先是三年。王庶爲陝西節制使。金陷延安。使端將兵救之。次於襄樂。不進。乃自將百騎。馳赴襄樂勞軍。端彌不平。謀襲殺之。不果。乃奪其節制使印。朝廷謂端叛。公以百口保之。端實負公。公豈欲殺端哉。明季有極誕妄者。事不核實。作詩以比奸檜之害岳忠武。更有拾其唾餘。從而暢論之。明攻魏公。暗攻朱子。非朱子作文。不至苛求若此。世惟末段較量牧羊牧豕兒之富貴。衍襲初白翁詩意。殊欠識力。

伍相廟題壁。

父讐一報臣應死。死後評量恨轉生。枉厲叔方成國士。申包胥不負交情。言之已驗吳其沼。疾未全除越有兵。今日廟門車馬絕。滿江猶吼夜濤聲。自評。漁洋不義豫讓。最爲有識。包胥不作七日哭。殆不足交。我幸存之。斯言不食。眞乃不負。皆翻論。實正論也。

富陽舟曉。

曉色能移山。置之煙雨裏。重簾隔美人。朦朧倦梳洗。須臾雲褰帷。闖然裝假詭。物忌太分明。以此悟妙理。若有若無間。目成而已矣。

常山旅夜。

江館雲陰合。青燈耿夜闌。櫓聲離岸小。山氣壓城寒。樹老鴉棲穩。泉枯鹿飲乾。草坪。離常山四十里。與玉山交界。明日路。細雨濕征鞍。

過險近鬼語。我家杏坪翁詩。多類此者。

頷聯十四顆夜光珠。恨頸聯不以議論語承之。故減光輝也。

敍事數典。不見其奇。但三四難字且字。諒獨眼龍心。可謂簡而盡。曲而亮。

夜宿龍門縣。

崎嶇不知遠。入夜林轉深。月黑虎斯怒。泉枯龍不吟。饑民瘦如鬼。長吏清有琴。滿屋朔風大。集枝翻凍禽。

曲峪鎮遠眺。時西陲方用兵。

地近邊秋殺氣生。朔風獵獵馬悲鳴。鵰盤大漠寒無影。冰裂長河夜有聲。白草衰如征髮短。黃沙積與陣雲平。洗兵一雨紅燈濕。羊角魫魚堠火明。前明邊燧。掛紅燈其上。魫魚皮爲之。膠以羊角。雨濕不壞。○邊塞之什。應作秋笳曉角之音。此篇絕似陳黃門仿高岑詩。

三垂岡。

英雄立馬起沙陀。奈此朱梁跋扈何。隻手難扶唐社稷。連城且擁晉山河。風雲帳下奇兒在。鼓角燈前老淚多。蕭瑟三垂岡畔路。至今人唱百年歌。袁子才曰。海珊自負詠古。爲第一。余讀三垂岡等作。果然。

題耕巖草堂圖。爲沈樗崖山人。

河邊石人眼一隻。翟泉鵝二蒼白色。劓餉練餉名無實。六隈四正空豢賊。畢纏

結用兩典。對縮收上。是這翁慣手。此篇用得大佳。

此評似溢。

據坐中樞堂。三疏抗論直臣直。帝閽沉沉日月黑。鼎湖大去廟祏空。一馬渡江魚非龍。春燈蟋蟀獅子賺。持此籌國何從容。漢起黃巾赦鉤黨。小朝廷反張羅網。網盡東林復社人。報復私讎忘板蕩。但見蒼鷹擊殿飛。誰防鐵騎橫江上。耕巖名在刊章中。弋者何篡冥冥鴻。破家無事容張儉。亡命皤然貿蔡邕。金華山深瑤草秀。有流可枕石可漱。亂定草堂歸去來。白髮如新而已綿。彭澤松菊認宋遺。武陵衣冠襲秦舊。文孫翠妙繪作圖。展卷一片煙糢糊。君不見洛陽銅駝臥荊棘。玉津金谷青蕪國。此堂猶作魯靈光。不受昆明劫灰蝕。他年宛水去揚舲。門巷依稀夢飽經。其旁定種冬青樹。其下應修野史亭。明徵士宣城沈眉生。曾於思陵朝。上疏論時政。猶宋之陳東歐陽澈也。其孫樗崖工繪事。樊榭畫松歌。送樗崖歸宣城。可下與此詩參看。

龍泉關。

燕晉分疆處。雄關控上遊。地寒峯障日。天近鴞橫秋。虎護千年樹。人披六月裘。夜來風不止。嚴鼓出譙樓。字字沈著。無一虛字可攻。真可謂五言長城。

長城嶺。

極意峭險。才筆相副。可俯視實子才趙雲松輩。

頷聯名句。其外不甚刻意。淡濃相配。是謂作家手已。

太行從西來。一折亘南朔。龍脊長蜿蜒。天塹劃地軸。三關尾龍泉。（在紫荊倒馬二關下。）歷
五臺山麓。晉所據者高。勝勢瓴建居。東瞰幽燕束。萬象皆俯伏。有城跨兩戒。左
右歸掌握。敵樓高崔嵬。雲中大旗卓。西向莽周原。退即墮坑谷。直下二十里。里
里八九曲。中休喘小憩。僧寺結丹臒。幽森老樹精。甲鱗霜皮綠。（有大樹。相傳楊延釗掛甲于此。）近
關峭然雄磊砢石聚族。雙壁削劍刃一門斷箭角。中通洞逼仄。人入虵之腹。萬
古本無路。巨靈以蹠摽。道很關轉嚴。鎖鑰攻守局。□乘輿昔巡幸。曾費斧斤斲。
盤蹬甃納級。犖犖就崩駮。雉堞亦半隳。我昔議興築。（乾隆五年。議修長城。嘗并阜平舊城等工。）興築良
獨難。源泉涌萬斛。涯以衆山力。輥雷震彭觱。頃刻亂縱橫。虎蹲羊抵觸。安得役
五丁。神通變平陸。車亦不必懸。馬亦不必束。天險今可忘。行歌聽樵牧。（近關一段。寫出。）
（山徑幽險。直發其事之祕。安得役五丁。神通變平陸。收束全局。句奇語重。）

夜聞沈樊桐內翰過泊頭。將由江南之江西。

聞道征帆過泊頭。離亭搖落遠含愁。壁蟲秋靜作人語。露葉夜明如水流。潮信
茫茫五馬渡。雨聲浛浛百花洲。憑君尋我題名處。廿載西風感舊遊。（壁蟲十四字。秋夜情景體。）

認入微。莫謂洪鐘無細響。

二聯。並名言不磨。

大兄將歸。誌別。

不如歸去子規魂。啼到家山第幾村。天各一方分弟妹。地無半畝與兒孫。薄遊滋味如嘗酒。垂老光陰佇閉門。只是我今愁獨寐。千章風雨樹黃昏。

前後伏案了案。結構宛然。雖露痕迹終是名篇。

題盧忠烈公祠為傑夫明府。

公生歷劫丁龍漢。白皙而文手搏戰。少負殊力抱大志。酒酣常讀張巡岳飛傳。天雄備軍殺賊多。大礪遮住燕山河。旋鎮鄖襄期盡賊。拘閡其奈中樞何。君不見車箱峽潰穀城火。前後庸臣受賊侮。擊之以舌不以手。亦不主剿專主撫。胡然下詔徵勤王。移督用遊其所長。我□□□□□□□□□朝龍與脅帝纜。仁義之師來堂堂。以衆克寡小逆大。遂獲死所于賈莊。在今鉅鹿縣。麻衣血裹鏃一斗。地掘故劍青燐光。傑夫求得公故所佩寶劍。嗚呼麗牲之碑孫述祖。國論回遹臣心苦。榜掠對簿詞不易。驗視經旬肉已腐。食廟應配唐睢陽。問年恰符宋忠武。諡忠武。死時年三十九。公與之同。忠臣死節之氣。堅剛如鐵。不可挽回。此詩筆力亦彷彿似之。得此表揚。竟與日星並重千古矣。

分明自老杜小篆歌來。結何學其口角。太竹有痕。然一氣流注。無艱苦態。故可師已。使朱竹垞査初白爲之。當不如此。

袁子才赤壁云。一面東風百萬軍。當年曾此定三分。似以此爲藍本。此二首。亦數典而已。無甚出色。評語陽羞。但須羽王

種山亭藏李陽冰篆。爲李刑部作。

秦相斯爲玉筯篆。史籀省文著顔變。歷東西漢迄于隋。絶筆空無一人半。師承乃有唐陽冰。隔一千年與相見。俯仰流峙窮元思。上出籒脚廿生之。篆法有籒脚。若廿生之等字。即以上出爲脚。直下不倒一縷墨。瓔珞垂露金薤披。種山山人得古本。書易謙卦爻象辭。不師其辭師其意。謙謙君子良我師。力猛格峻入篆室。摭書中虎無媿色。懸之可作座右銘。義取貞吉中心得。惜哉瑯琊鄒嶧之眾碑。斯乎斯乎侈頌秦功德。

昆陽城望光武軍戰處。

陣壓如山一面當。不勞突騎佐漁陽。兵因數少翻騰越。帝尚年輕易奮揚。計定入關除莽亂。功成踰月哭兄喪。艱危卒就中興業。此是開基大戰場。

尸塡滿野水流丹。雷鼓從天怒上干。項羽不能誇鉅鹿。王郎多事起邯鄲。尚尊讖緯誣周禮。劉歆以讖緯竄入周禮。故此書眞僞各半。而光武仍以緯學治天下。旋睹威儀復漢官。從此執金吾不羨。遷都終合建長安。熟請史事。有識有筆。宜其立論堅卓。引喩確當。似此登臨懷古之作。近代罕有其匹。

郎一聯。爲切當耳。

短於將略。是陳壽本傳贊語。不必咎後世俗儒。俗儒同聲附和。於武侯不敢指疵。余嘗題仲達觀諸葛營圖云。死諸葛。生仲達。吾能料生不料死。此語大癡。使小黠。卻有天下奇才目。可知姦雄心眞服。壽曰管蕭亞。甫曰伊呂儔。後儒贊頌雷同耳。不如三公論出敵讐。庶幾乎允。

臥龍岡。訪武侯草廬。明宣德中。就廬址建祠。春秋致祭。

山脈起嵩少。蜿蜒西南馳。崖斷截奔風。龍頭覆壓之。武侯本流寓。相地愜所宜。
躬耕置理亂。長謝與世辭。其時天下才。魏得什八九。吳亦大有人。抗衡畫江守。
帝胄無尺土。又無開濟手。躍馬避險艱。拊髀歎衰朽。軒軒三顧餘。一龍爲我有。
出處關際會。漢厦扶將傾。世盡昧大義。卓哉趙順平。後世短將略。據蜀宜斂兵。
惟顧付託重。敢忘白帝城。伯仲見伊呂。杜陵實公評。竊比於管樂。謙詞慴過情。
草廬今安在。凭軾興不淺。廟勢拱荊樊。博望鎮有廟。在山頂。泉神達漢沔。廬有井。井石爲欄。汲綆渠數百道。數不能眞。入夜聞兵聲。有道士居住。夜聞兵聲。乃移去。馨香臚祀典。歌罷神絃曲。風雲莽舒卷。俗儒毎以成敗論人。至謂武侯短於將略。不知在草廬時。已畫定天下大計。前後出師。盡瘁以報先帝知遇之恩而已。千載而下。深悉武侯心事。惟少陵一人。此篇帝胄以下一段。亦庶乎可無愧公評。

明史雜詠。集中登臨懷古之作。多有奇氣。而明史雜詠一百八十首。尤於董戰轉疊平實。且大半鋪序本傳事實。殊少作意。人以少陵詩史目之。又比之西涯新樂府。恐不相類。茲僅錄五七古三首。七律八首。皆以議論筆力。庶乎與集中空靈矯健諸作。異曲同工。

張士誠。

擣舟運鹽張九四。白駒亭場樹戟幟。萬戶告身拒不受。棟射三矢承天寺。吳趨

雜詠檃無足觀。疑是少作。選手采之。不害周旋者已。

十一月十八日。岡山至片上。轎中閒。扛夫搖兀。不成字。候其撑第午憩時。疾書。

山陽外史

踞坐拓土寬。遂與元絕稱天完。諸將偃蹇載樂器。樗蒲蹴踘軍中歡。一破飛空碎城堞。耳聵風謠黃蔡葉。錦衣銀鎧十條龍。萬里橋邊喪舟檝。嗚呼以身死國眞英雄。江東不降宋錢俶。河西不歸漢竇融。妻劉亦挾丈夫氣。齊雲樓火通天紅。

### 東甌王湯和。

此城據之屋脊坐。鐵券時時書酒過。部勒羣兒夙負奇。容棺之墟無穩臥。忽然治第中都中。安車迎入朝元宮。里開兵興敍舊事。御膳法酒時相從。是時元臣率麗法。若胡爲者封甌東。妾媵資遣日臥疾。失音之老其遂窮。乃知韓彭葅醢坐少壯。從赤松遊庶無恙。不然吏事既以責三公。兵權不釋酒盃中。安得人人以壽終。

### 誠意伯劉基。

西湖異雲西北至。十年前識金陵氣。陳强張富決雌雄。帷幄屛人其語祕。虬髯侍側踞胡牀。如以眞王易假王。躍起大呼徙別舸。難星一破古鄱陽。公何有術

不自救。談洋茗洋吏訐奏。僨轅之駕挾讐來。積中拳石吞烏咮。京房郭璞數莫逃。天文象緯書可燒。幸而遇時佐洪武。不然著郁離子。究何補。異授有神亦有師。泯沒平生鄧祥甫。

齊尚書泰黃學士子澄。

龍虎山高北燕翔。兵聲藉口罪齊黃。忍因發難誅鼂錯。恃以成功相李綱。一死報君猶氣節。兩人誤國其文章。齊。順天鄕試第一。黃。會試廷試皆第一。與齊同榜。金川門啓宮中火。漫指西南路渺茫。

鐵尙書鉉。

百萬旌旗一夜摧。金陵王氣漸寒灰。天留鐵漢居中坐。手挽燕軍向北廻。雷電直教平地起。魚龍不敢上城來。指火攻水灌事。全齊無恙屯淮去。南望遺民器草萊。李景隆敗後。燕乘勝破德州。遂以全力攻濟南。蓋得此斷南北道。金陵不難圖。鉉死守三閱月。攻者萬端。卒不拔。燕王氣索。解圍歸北平。自註。

解學士縉。

入直三朝禮遇隆。蛾眉害寵譖偏工。鬈江豈必適無往。試卷如何讀不公。異議

窮兵踰絶徼。苦心奪嫡護儲宮。漢王法死古城棄。應弔忠魂積雪中。自註。洪武中。縉侍書内殿。太祖親持硯。論之曰。朕與爾。恩猶父子。遂應詔。上萬言書。成祖朝。與六人同參機務。鯁直沽禍。入廷臣濟。始以讀試卷不公。謫海外。繼以奏請鑿廣東山川通贛江。遂震怒。下詔獄。其實罪在諫征安南。及議建儲。不直漢王耳。然二事卒如縉言。而錦衣衞希旨。醉之酒。立死積雪中。亦冤矣。

李文正東陽。

經濟雖然倚介夫。介夫。楊廷和字。公自言經濟事。須歸介夫。二公謝劉歸去勢終孤。横流都作抽帆計。盡寝空懸負扆圖。此獄可生宜善解。斯文將墜要潛扶。保全國體知多少。識得丹心一片無。

曾襄愍銑。

八圖營陣最分明。規復三年事可成。裴度不能邀帝斷。李晟竟自負天生一腔東市朝衣血。三面黃河戰鼓聲。游牧從茲淪異域。傷心莫問受降城。自註。套寇起。天順六年。歷爲邊患。至嘉靖二十五年。襄愍出塞督戰。生擒脫脫虎。敵移帳漸北。因條上十八事。并營陣八圖。期以三年規復套地。所謂天生李晟。爲社稷也。帝亦優旨下廷臣議。忽中變。聽嵩構。被逮。即日棄市。以開釁召寇之罪。坐宜力任事之臣。終其世莫不悔恨之。世言世宗明察。吾謂其暗於晉惠帝焉。

陳將軍第。

身兼數器貢明廷。老嫗生兒亦寧馨。上馬鄒枚能殺賊。閉門絳灌竟通經。燕雲重鎭催頭白。吳楚名山慰眼青。歎息故人零落盡。天風莫撼海濤亭。

自註。第字季立。有文武才。嘗受知于譚襄毅。目爲俞戚之亞。歷遊擊將軍。鎭薊十年。失督府意。歸游羅浮。西樵崖山梧桂嵩山。與焦弱侯講學。謝弗如所著毛詩古音考。家置一編。傳習者。不知其爲故將軍也。俞戚二公先將軍死。其時島夷卉服。設海氛復熾。舍將軍。其誰與歸。將軍連江人。閩郡故有天風海濤亭。朱子書額。

高忠憲攀龍。

衣冠具飲入池沈。緹騎無勞再枉臨。黨錮漸看空北部。講壇可惜廢東林。屬鏤不受鴟夷賜。香草如聞楚些吟。得力一生唯此處。熒燈照見大臣心。

史督輔可法。

鼓聲鈴閣夜驚眠。縞素孤臣茗飲年。一死平生文信國。千秋奏通陸忠宣。國殤有母呼遼鶴。家祭無兒拜杜鵑。淚灑隔江埋骨處。梅花斑竹黯春煙。

浙西六家詩鈔卷之二終

# 浙西六家詩鈔　卷之三

## 丁辛老屋詩

王又曾。字受銘。號穀原。秀水人。乾隆十六年。召試。賜內閣中書。十九年。成進士。官刑部主事。有丁辛老屋集。○畢秋帆曰。穀原比部。才本大。而約之以歸於切實。氣最盛。而斂之以底於和平。削膚郭而見性情。汰塵腐而存警策。於漢魏六朝。及唐宋諸家外。能融會變化。自成一家。而世之貌爲李杜韓蘇者。卒莫能及焉。至於取材於衆所不經見。用意於前人所未發。此又穀原之所獨到。而亦吾郎所共推者也。予嘗謂。國朝之詩。浙中最盛。而浙中又莫盛於嘉禾。竹垞先生以沈博絕麗之才。主東南壇坫最久。不五十年。而穀原與蘀石繼之。此三家者。均足以信今而傳後。可謂盛矣。○王蘭泉曰。穀原在都下。極爲陳文勤公。汪文端公稱許。釋褐後。皆以爲當得上第。既入三甲。人猶以秀水朱檢討爲比。後用爲主事。觀政禮部。又以王儀曹稱之。至補刑部主事。穀原以律例向非素習。且病遂乞假歸。性善飮。談笑風生。神情蕭灑。雖飄泊江湖。而東南長吏皆接者。多賦詩鬪韻。凡十餘年。卒憔悴偃蹇而沒。作詩專仿宋人。信手拈來。自多生趣。休寧曹農部自遴選刻其詩。予復再刻之。皆不及十之四五。而采擇未當。全集六百餘首。予曾點定。今尚藏其家。○丁辛老屋集。秋帆序說。足爲藝苑定評。當是時。錢王並稱。錢之博大。王之沈靜。各成一家。天下共相推服。王之才氣。非不敵錢。時時流露。李杜韓蘇筆意。卻時時洗剔。不留渣滓。意在斂華就實。其至高者。多見性理。專務沈靜工夫。明窗淨几。掃地焚香。讀之令人矜躁浮囂之氣頓釋。惜此時識者之少。亦如蘀石齋集矣。比部遺集。曹忍庵編刻於前。蘀翁刪改於後。盡汰浮華。以歸一轍。是選實取資於此。間從原本補錄數首。都非深造入微之作。益見蘀翁審擇至當。蒲褐山房詩話。不可盡信。

兩首。可與金史本傳併傳。撰詞下語。斤兩畢合。使遺山有知。一一點頭地下矣。

疑是前明遺民不仕。在山谷間。而又會逢之。託之夢耳。

題元遺山詩集後。二首。

庾信頭顱雪滿顚。傷時傷事足歔欷。干戈掃蕩吾才子。禾黍叢殘寘布衣。遺山有个是中原一布衣句。燈炧歌闌塵劫換。天荒地老夢華非。可憐醉殺長安酒。不抵思鄉一涕揮。

蕭蕭走馬傍長楸。一代聲華剩楚囚。野史盡煩供樂府。劫灰飛不到中州。亂來花草銅駝淚。夢裡家山渭水流。血漬糢糊難卒讀。打窗寒雨颯窮秋。此二首。從原本選入。

語語切題。不作浮辭空響。神完氣足。洵是七律正宗。

夢緣詩。二首。并序

壬子孟夏。宿緣谿小築。夢一自稱白松居士者。贈余絕句云。攜君入座愛君才。略話三生庾信哀。谿上小軒題夢緣。那年春盡見君來。忽忽四年矣。憶而賦之。乃又夢中說夢也。

把袖驚看漬淚新。鄰雞喔喔倍關人。君如華表歸來鶴。我昆明劫後塵。綠蟻燈前尋舊夢。紫桐花下說殘春。一彈指頃三生事。只未消磨現在身。

後聯。意出題外。尤妙。

以古風行排律。老手無敵。

青衫何苦枉鬚眉。蟻穴槐根悔較遲。歷歷仙凡原自隔。茫茫桑海暫相期。芙蓉別後應無主。蝴蝶飛來不記誰。谿上綠陰濃似夢。歸乎有日是醒時。五六兩句。說夢。妙無痕跡。

## 張伯雨墓。

荒碣沉薶五百年。空山一鶴語蒼烟。魂依葛令燒丹竈。名挂茅君小洞天。亂世江湖聊自放。平生虞趙定誰賢。玉鉤橋下寒泉碧。也合祠堂配水仙。句句著實。又極自在。

應是此題絕唱。

## 經釣臺下作。

地迥湍聲急。峯廻石氣青。高臺凌莽蒼。之子颯精靈。把釣人千古。披裘爾獨醒。清風標隱節。豐碣耀巖扃。河洛誰與主。東南自客星。狂奴輕帝腹。佳婦悵仙娙。去矣金刀漢。歸哉白鶴丁。君臣是朋友。山水可門屏。藥草香成霧。鷗鷺晒一汀。江河尊大澤。天地屹孤亭。晩唱樵人合。斜陽牧豎停。灘危愁上水。風正快揚舲。初服誇蘭蕙。天涯媿梗萍。長懷竹如意。直爲折芳馨。對起四句。老辣得勢。江河十字。莊重。結用謝皐羽作。子陵陪客。本題固有。餘韻悠長。

朴而婉。讀之可涕。得古樂府遺意。

七絶神境。宜乎使袁叟低頭。

尤要看不使氣處。

## 梭船小女歌。

梭船小女十歲餘。日日弄船如弄梭。船梢把舵辨風色。邪許學得青篙挐灘危溜急挽不上。敢與風力爭嬴虛。眼明手捷嘴吻利。對客儼以成人居。自訴前年阿母死。阿爺憐將置船裏。江行風水多苦辛。生女應須當生子。嗚呼年歲盛壯身蹉跎。有父不養子則那。柰汝梭船小女何。感觸傷懷自責。抑何沈痛。詩必有爲而作。乃佳。

## 臨平道中。看白荷花。同朱冰壑陳漁所二首。

船窗六扇拓銀紗。倚槳風前正落霞。依約前灘涼月曬。但聞花氣不看花。

皐亭來往省年時。香飲連筒醉不辭。莫怪花容渾似雪。看花人亦鬢成絲。袁簡齋曰。穀原詩。工於遊覽。此兩絶句。與陶然亭七律。皆傳誦一時。

## 三峽橋。

吾聞三峽橋。萬古此急溜。惟天設奇觀。水石鏖一鬪。高舂南斗傍。迴落大江右。雷霆隳磋峨。鉛汞洩坑竇。陰寒藏鬼神。險疾竄鼯狖。雲外午鐘孤。松根老僧瘦。逼眩霜雪翻。遠慨笙竽奏。決若鳥脫籠。迅於箭離彀。便當入棲賢。憩衍百昏晝。

旅況非踐其境者。不知其妙。今夕倒行。宿片島驛。挑燈讀至此。疑此人豫爲我寫情。

辛卯十一月十九日。此日短至。

驅鶴下潺湲。先令毛羽濺。此兩首。俱能狀幽險。句奇語重。直可步武大蘇。而上闖杜韓之門徑。

次菱道店。

一水穿官道。數峯環小村。趁墟人裹飯。畏虎客關門。夕照依林滅。寒鐙背雨昏。
平生幾緉屐。欲共阮孚論。

浙西六家詩鈔卷之二終

# 浙西六家詩鈔　卷之四

## 籜石齋詩

錢載。字坤一。號籜石。秀水人。乾隆元年。薦擧博學鴻詞。十七年進士。官至禮部侍郎。有籜石齋詩集。○黃培芳香石詩話。錢籜石先生詩。大約不拘

唐宋。空所依傍。生面獨開。或譏其別調。不知仍從小心入。控來。非無故撤翻也。其七律之獨到者。體大思精。字字眞實沈著。洗盡矜浮之氣。非摛章繪句之徒。專事皮相者。所能望見。○吳修。書籜石齋詩集後序曰。向聞王少寇蒲褐山房詩話。評公之詩。謂率然而作。信手便成。不復深加研鍊。殆其鄉姚雲東李竹懶一輩人。朱梓盧先生語修曰。少寇所論。適與籜翁詩相反。至哉斯言。蓋未悉公詩工力之深。止以禾中耆閣畫家目之。故以姚李爲比。又聞隨園詩話。謂公吟詩。多眞率任意。有天子自道之樂。語意亦略同少寇。似於籜石齋詩。全未研閱。袁王兩家。並海內詩壇盟主。頗自負其辨識。且與公皆有縞紵之好。而其評論膚泛不可至此。可見文章知己之難。因作此詩。以質世之讀公集者。詩曰。公詩精緒求。於杜得髓密。韓蘇並沈酣。浩翁亦心折。辭必出由己。伸紙吐德物。先使皮骨換。乃復追險絕。氣勇快千夫。脈細歸一髮。鍊剛指可繞。經線絕已滅。盡化陳腐去。而能神理傑。嗟古不傳祕。皆於人所忽。二老未深味。如何漫稱述。不愁背面笑。無乃妄嘗失。識曲誰聽眞。安用歎白雪。詎手且如此。餘子數遑悉。吾生恨不才。知己感徒切。已惜虛居詐稱說傳衣鉢。作詩聊見志。非敢具辨舌。文章價有定。終當得其實。好豈待阿私。理或無久屈。滔滔天下大。會見子貢出。○籜翁篤於根本。孝弟忠信。至性至情。發而爲詩。其旨敦厚。其氣清剛。其意沈著。其辭排奡。漢魏六朝三唐兩宋體勢。靡不備有。尤專力於少陵。造詣深沈。既盡脫膚言浮響。自成一大家面目。蒼莽之極。轉似荒率。宜乎難爲識者矣。茲錄其有門徑可尋。極就規矩之作。爲昧於讀全集者導。

夫先路。有一種渾噩眞樸。不假修詞屬對爲工。其品愈高。反不敢選。恐索解人更不可得也。

登燕子磯。望金陵。

觀音門外春風濕。磯石橫當大江立。磯頭客袂吹江急。岷山脈。趨建康中脊而降翕復張。鍾阜石頭孫郎作。始江爲溝長淮塹。山合沓以內向。昆明秦漬環宮流。司馬劉蕭陳與李。割裂竊據悲徒爾。江爲家戶淮籬樊。指麾半壁誠難安。何來興王混區夏。再傳宗祐仍相殘。江平江平吾酹汝。南北之限吾勿與。波寒野靜天收雨。擧酒問天天不語。江月白。江花開。庾蘭成賦千秋哀。可惜春風閣霸才。筆力矯健。辭氣跌宕。極感歎淋漓之致。足與青邱登金陵雨花臺望大江之作相匹。

橫塘曲。

吹瘦門前樹。秋鶯坐夢中。橫塘雨猶可。不願橫塘風。後二句古質。唐人不能有。

題仇實父人物冊。四首。

芳澤無加體閑雅。是時王孫女新寡。纖腰如束眉如削。石几風涼碧梧下。孤坐無言微展襟。斜看侍者囊素琴。夜光明月瑩無垢。保之那不輸千金。可憐車騎

數數換韻。又以單句。迫離觀者心目。頗弄狡獪。選者謂四季迪雨花臺。恐屬溢詞。此間。不可欠此南宋。此末。不可欠殘明。季迪自覺蒼茫萬古意。遠自長烟落日之中來等語。一圈一闘。波瀾洋溢。與小家局促氣象自別。

前二句纖佻。唐人不爲。

題文君相如。相如是客。然著意在相如上。結得深厚。

抄二一飛燕外傳語一耳。然以雜糅了爲妙。

詠二蔡文姬一者。最劣。

是亦抄二開天遺事楊妃外傳等一以雜了僞貫。

雍容客得婦分錢買田宅。
違條館春風不寒。淳于已佚樊嬺驢。太液池秋風大起。纓褭一曲憐持履。手執花枝顫顫何。薄倖卷髮嬌孰多。踽步而今愁見畫。十年禍水同興敗。木門風響倉琅根。燕飛何來啄王孫。夜長其被寒殊耐。憶否不眠深擁背。

身羌心漢無雙翼。舉手祝天天晦色。誤疑公主嫁當年。只少琵琶彈絕域。遠陽草木春不榮。河流入塞南無聲。牽衣索母攫二子。渠寧啼笑知其情。魏公金璧勞相贖。鄙賤流離悲續續。青史蓬頭董祀妻。黄沙血淚胡笳曲。辨絃識律傷所遭。中郎且復蒙訾訾。

義髻黄裠來窈窕。春風任爾吹多少。寧王玉笛倚朱唇。能使開元作天寶。琵琶聲中舞阿蠻。臂支未覺纏頭慳。興慶池東移芍藥。繡巾再拜清平樂。生死恩深髮一縷。鼓鞞愁散桃千蕚。水邊秋草諸姨粧。冷涵夜月驪山湯。殺粉未應誇院本。更誰憐得荔枝香。四詩句奇語重。可當史論。第一首皆摘相如之行後歸可憐。他人詠美人只作豔語了事。豈能具此識見。

送萬二之陽山。

樸老語。用得自喜。而不爲人所喜者。好古者。不可不省此處。

學李者。每流此派。邦人七古多此類。

陽山漢縣今連州。阿兄作宰遣迎母。便挈全家大庾南。且過明月中秋後。車船幾出處同里。寒暑纔歸又分手。山鷓愁人覓趁飛。免株落我仍孤守。上灘下灘灘轉急。上嶺下嶺嶺忽阧。此客非貪趙尉金。此心直送錢塘口。湟溪關清瘴收涎。桂陽山碧城如斗。官無丞尉巷無人。昔者云然今或否。縣東釣魚磯可詩。縣北讀書臺可洒。小廨波羅密覆檐。佳日太夫人上壽。嗟君從官身偏暇。入界探奇天豈偶。五羊雖說雁鴻無。頓首尺書還寄某。中幅數語。勁氣直達。眞如百鍊剛。

題顧孝廉洞庭秋汎圖。

五溪九江。滙此七百里。岳陽樓前八月水。桂舟有客湘江回。神鶴迎舞荊江開。君不見黃陵山高黃陵廟。鷓鴣一聲相送來。嫋嫋兮秋風。木葉微脫吹參差。誰思。搴芙蓉木末。湘君所遊之青山。齣齣綰結十二鬟。中有地道通。包山安能遂子須臾還。竹枝歌怨兒歌樂。橘社東西采蘅葯。已完。又接君不見二首。知何容遑。後一段殊近太白。其奇處用心。騷。

儻歸十七首。

全采傖歸詩。猶全采焚樹悼姬詩。選者非無意。然竟是失書體矣。

詩無事不可說。況於古詩。然詩自有體。不可傷氣骨。以杜韓蘇之縱橫。當如不敢盡者。爲此也。如此篇。滑易絮復。無復氣體。不可曰詩。近時茶翁晩年古詩。多類此者。余常戒學詩者勿學。

此評允當。清人七律沈厚如此者。僅羅。

傖沈僕於錢。乃祖父以來。父慈怍我祖。遺去辭其儕。卅年數飄轉。擠薪纍官街。一日我父起。秋風掃庭槐。我旁見傖父。泥首堂南階。自言有此兒。多病奴已衰。諒當委溝壑。乞主憐孤孩。傖爾父竟去。去去不復回。明旦忽有耗。流然隨黃埃。

## 王安道華山圖

十年想望華山圖。但見詩記序跋云。一朝見畫不暇憶華山。何況畫之前後詩與文。華山遊者或詩文。未聞兼以能畫聞。老人能畫復能詩文。遊華山以來無匹儔。盈尺松雲四十幅。不知此身猶在屋。親見商周出鼎彝。師承流別俱凡碌。下士欲識畫之妙。先觀詩記何靈奇。吾人胸中要自空。洞無一物。然後腕底動與造化相淋漓。結二語。現身說法。不啻金針度人。作詩文作畫者。不可不知。

## 長沙

大翠秋陣清復清。江山迴合處開城。新圖實始周熊繹。騷怨空傳漢賈生。岳麓寺頭書擬讀。湘潭驛口路催行。已聞早稻匙翻雪。只少銀鱗鱠作羹。以上七律二首。皆力追盛唐。可爲空同大復後勁。

遣已。時用樸老難解語。是其擬古避今處也。妙篇亦自一體。萬壽云云一句。無心有心間。有明時不仕之意在。與結處相映。

痩堅朴老。洵稱此題。余藏倪公眞蹟。未嘗得其書。得隴望蜀。唯仰止而已。

將然未然。與陰符相關而已。鳳山汴水一德閣。並無交涉。如何。

## 題南岳藤杖

壽嶽之陽赤帝居。道人劚贈冰雪餘。持歸隔歲親剔除。中若精鐵外瑤琚。紀在萬壽月吉初。欲銘而詩復自書。願以扶老隨所如。梅花修竹東海廬。出爲我船亦爲輿。有山可眺借徐徐。何必直上崑崙墟。（前凝重。而後疎宕。欲銘而詩。體應如是。）

## 倪文貞公畫冊歌

畫山非山水非水。畫樹非樹石非石。胸中有物不得消。墨海鯨波隨戲劇。制實制虛力籌策。朝端祭酒俄掃迹。廉隅砥礪應時須。眞氣滂流閒可惜。我今見畫如見公。世間藤蘚哀其窮。（册皆自題。其一云。石介已極。木淡無過。世間藤蘚。將若之何。○文貞仕思陵朝。爲時宰所忌。退歸閒居之日居多。此時求治雖急。而正人君子。不得與聞國政。漫圖樹石。以遣窮愁。作詩者。所以深惜之。）

## 觀李伯時畫驪山老母與李筌論陰符秘文執扇（高宗小楷。書陰符經于後幅。）

杖扶右手鶴髮鬆。左顧指與人鞠躬。微焰樹根俄燁炵。茂陰煙裏本蘢葱。伯時舊物儲行在。紈素團團分面背。妙絕鍾繇隸書傳。數行未讀爲心慨。若若一德方格天。孰是將然孰未然。鳳皇山翠濃于畫。汴水無聲落照邊。（高宗信用秦檜。君臣契合。安於湖山。）

漁洋題子昂畫牛作。已用此典矣。以銅盤別漢為之對。稍為換面耳。

寫文敏。前人每然。此不下一惡言。亦高矣。然此文敏書馬也。與它手別處。不可不言。

簡練遒勁。評得允當。

頷聯二句。斤兩不敵。

一角。無恢復中原之志。意深責之。語特含蓄。

趙文敏公寄右之兄札墨蹟。首云。奉別已復三年。中云。不肖一出之後。每南望矯首。不覺涕淚之橫集。今秋累罷既歸。子然一身。僅有一小廝自隨。末云。十二月二十九日。

羅綺難勝儼惡臨。疎行矮本尚傳今。絲來玉馬朝周客。未絕銅盤別漢心。燕市夢孤將盡夜。弁山春杳送迴音。江南今遣人才訪。不獨王孫有故林。極好周旋。語亦典重。

題趙文敏公五花圖。

坡沙起伏川流淺。草豐樹涼秋漫衍。一立樹陰一臥坡。一匹齕草行逶迤。兩匹飲川一仰吻。各無羈靮無叱呵。清時散牧非嬉戲。豢君之惠急君事。但識成功萬里心。能從敵愾三軍帥。五花五花不以毛。趙公相爾八尺高。既簡鍊。亦復遒勁。老杜詠馬圖。虞道園具體而微。此則道園之嗣響也。

清明後一日。蔣少司農招集文肅公　賜第北臺。鴻少司農有望積水潭一帶柳色之作。次其韻。

似我何由鬢雪消。看伊臨水又垂條。山光城上愁風雨。人影欄前泥管簫。高會

結構嚴整。敍次不費語。而無不曲盡。洵見筆力。末句畫龍點睛手段。亦妙。

恐是中年以前之作。沈著

也知三月僅。故情難忘十年饒。不須跨馬穿陰去。更遣嘶風蹋絮驕。領聯致楚楚。莫謂得力杜韓者。不能作綺語。

黃文節公小像。

銀河飛落三千尺。古潭噴薄盤陀石。翠壁交撐陰黯淡。丹楓倒挂秋蕭撼。兀坐西江詩派祖。烏帽方袍手提麈。我所思兮王右丞。誰其畫者李晞古。元豐之年此徜徉。太和之令初頷頗。公行及強面非瘦。唐也亦壯筆已蒼。李唐。建炎間。授成忠郎。年近八十。文節。元豐三年。遊廬山。方任太和。則唐之爲公寫此。當在三十許歲時。蒼然脩然萬物表。戎州宜州後難道。唐筆不入時人眼。公面頗遭俗人惱。李唐句。早知不入時人眼。多買胭脂畫牡丹。文節自作戎州寫眞贊云。頗遭俗人惱。石牛往嘗寫伯時。努力何因食細草。不如留此終讀書。太白開之爲絕倒。屏風高翳玉叉孤。布水不響游氛無。我今醮墨爲公起。題作廬山觀瀑圖。題古人圖畫。必考時地以實之。始有下筆處。定爲廬山觀瀑。全篇皆躍躍其辭。直至篇終。一句點出。遂應起手四句。章法奇奧。

夜行將至柳前作。

柳前跋馬經三度。雨後題詩剩一心。滕縣南來衆山靜。徐州東下大河深。浮生

老成。非如後來之頽放也。

不能稱題。問何以然。欲辨忘言。

未敢言過杜。然視諸時詩。鐵中錚錚矣。前聯較諸舊。故後聯可解。如何景明輩先主祠飄泊依劉計。間關入蜀身。中原無社稷。亂世有君臣。則可謂之過杜也。

那必關天地。轉瞬眞憐郎古今。明月落將滄海外。暫教不見鬢毛侵。險道夜行。驚魂莫定。幾何一夜髮白。說得渾融。眞是大家手筆。

陶靖節墓碣。

過江數人物。見道有先生。墓在廬山口。橋猶栗里名。田園樂仁智。甲子秉忠貞。緬想不封樹。當年蓋寡營。樸實。

紫栢山下留侯祠。

祠屋近柴關。高峯四面環。猶傳赤松子。相望定軍山。事業興衰際。英雄氣數間。洞門七十二。惟有洩雲還。直逼少陵。

上巳後二日。蔣侍郎招集北臺。看桃花。

春木無愁客自愁。春長春短豈知由。園桃風色扶雕檻。堤柳湘光盼雉樓。二十年來靑鬢改。管絃聲裏夕陽流。稀疏舊雨成今雨。落托前遊付後遊。後半二十八字。包裹數十年莫劇譚讌存亡聚散之情。纏綿悱惻。含意不盡。此種又似大蘇筆墨。范陸不能有也。

雝門。

此等。晚年頽唐之作。所﹅以來﹅蘭泉倉山之譏評﹅也。

籬門開閣野田香。楊樹灣東近﹅漢塘﹅。曉露滿畦豌豆綠。晚風連項菜花黃。年光只有﹅春來好﹅。日景誰知老去長﹅。村裏乞﹅書尋乞﹅畫。白頭成﹅笑不﹅成﹅忙。

浙西六家詩鈔卷之四終

# 浙西六家詩鈔　卷之五

## 小倉山房詩

袁枚。字子才。號簡齋。錢塘人。乾隆元年。薦舉博學鴻詞。四年成進士。官江寧知縣。有小倉山房集。〇王蘭泉湖海詩傳詩話。子才少舉宏詞旋

成進士。嗣以改館。出爲縣令。初在江寧。總督尹文端公。絕愛其才。既丁憂。再起至陝西。與總督黃文襄。臭味差池。上書萬餘言。不省。遂乞病歸。得廢圃于江寧小倉山下。疏泉架石。盤爲四十四景。隨園皆用五色琉璃。遊人闐集。時吳越老成凋謝。子才來往江湖。從者如市。太邱道廣。無論貴郎蠢夫。互相酬倡。又取英俊少年。著錄爲弟子。授以才調等集。挾之遊東諸侯。更招士女之能詩者。共十三人。繪爲授詩圖。燕釵蟬鬢。傍花隨柳。問業於前。而子才白鬚紅舄。流盼旁觀。悠然自得。亦以此素當途題句。於是人爭愛之。所至延爲上客。適館授餐。而子才又擇其精饌。彙作食單梓以行世。故三十年中。掃門納履。爲向來名人所未有。才華既盛。信手拈來。矜新鬬捷。不必盡遵軌範。且清鑱雋妙。筆舌互用。能解人意中蘊結。今石庵相公在江寧時。聞其蕩佚。將訪而案之。子才投以二詩。公閱畢。即請相見。頓釋前嫌。其詩得力如此。然謝世未久。頗有違言。吳君嵩梁謂。其詩人多指摘。今予汰淫哇蕪穢。去纖佻。清新雋逸。自無慚於大雅矣。〇歸愚宗伯以漢魏盛唐之詩唱率後進。爲一時詩壇宗匠。隨園起而一變其說。專主性靈。不必師古。初學立腳未定。莫不喜新厭舊。於是小倉山房集。人置一編。而漢魏盛唐之詩。絕無掛齒。蓋其有軼羣之才。騰空之筆。落想不凡。新奇眩目。誠足傾倒一世。惟是輕薄浮蕩習氣。與三百篇無邪之旨相悖。數年來。雖聲譽折滅。而詩猶膾炙人口。流弊正無底止。茲取雅正可爲圭臬者錄之。七古七律。儘有獨出冠時之作。非白非蘇。卻有先民矩矱。至於五古之合度者。不過寥寥數篇。餘則一味淺俗。無可抉擇。實於漢魏皆未

人詩。未曾留意。宜其無能爲役矣。集中投贈應酬諸詩。多見才情。人皆樂於摹倣。各有抄撮。此選之外。自知遺珠尙多。難免訾議。人之好尙不同。不能强其之同於人。亦不能强人之同於我也。

浯溪碑。

夷吾難歸辱社稷。射姑來朝無貶詞。從曰撫軍守監國。古家冢嗣良如斯。宋儒不明春秋義。題浯溪碑多刺譏。當時明皇躍馬去。五更昏黑西川馳。若非靈武張位號。九州不見天皇旗。望賢宮前重返蹕。黃袍手著如嬰兒。一辭一卑見眞性。此際慈孝天皆知。玉眞公主具尊酒。上皇父老相娛嬉。監奴攬權艶妻惑。從此兩宮生猜疑。君子原情論大義。事有後累無前非。魯公忠孝立人極。金石腕力尤淋漓。先拜新君心抃舞。後望南內空淒其。書能大唐中興一頌。刻山石再書請朝上皇一表鋪丹墀。事有後累無前非一句。論斷平允。結引魯公一頌一表以證之。筆力横絕。

子才長篇。皆弄狡獪。欺凡目者。如此篇。簡勁奇拔。如老木無枝。槎枒雲表。選者取此。可謂具眼。

落花。

江南有客惜年華。三月憑闌日易斜。春在東風原是夢。生非薄命不爲花。仙雲影散留香雨。故國臺空賸館娃。從古傾城好顏色。幾枝零落在天涯。

七律咏物。不墮小家。不如此。何以稱倉山叟哉。

是其詩話中亦云者。蓋自謂才力厚矣。其所以爲厚者。乃其所以俗也。渠嘗評阮翁爲一良家女。五官端正。藻以名香。被以錦繡。假動一時耳。非天仙化人。一見銷魂者。是爲精確。然余欲評此叟曰。隨園如點

風雨瀟瀟春滿林。翠波籠幙影沉沉。清華曾荷東皇寵。飄泊原非上帝心。舊日黃鸝渾欲別。天涯綠葉半成陰。榮衰花是尋常事。轉爲韶光恨不禁。

金光瑤草雨三莖。吹落紅塵我亦驚。讓路忍將香雪踏。開憁權當美人迎。蛛絲力弱留難住。羊角風狂數不清。昨夜月明誰唱別。可憐費盡子規聲。

剪綵隋宮事莫論。天涯極目總消魂。旗亭酒醒風千里。牧笛歌回水一村。遊子相逢終是別。美人有壽已無恩。流年幾度殘春裏。潮落空江葉打門。

倣元遺山論詩

不相菲薄不相師。公道持論我最知。一代正宗才力薄。望溪文集阮亭詩。王新城。

確是定評。

生逢天寶亂離年。妙咏香山長慶篇。就使吳兒心木石。也應一讀一纏綿。吳梅村。

他山書史腹便便。每到吟詩盡棄捐。一味白描神活現。畫中誰似李龍眠。査他山。

小雅才兼大雅才。僧虔用典出新裁。幽懷妙筆風人旨。浙派如何學得來。厲樊榭。

樊榭之妙。莫可名言。一經指出。可謂有後世揚子雲矣。

妓雖無姿色。善爲妖媚態。眩惑少年子也。
是所謂狡獪者。何必取之。

同金十一沛恩遊棲霞寺。望桂林諸山。

奇山不入中原界。走入窮邊才逞怪。桂林天小青山大。山山都立青天外。我來六月遊棲霞。天風拂面吹霜花。一輪白日忽不見。高空都被芙蓉遮。山腰有洞五里許。秉火直入衝烏鴉。怪石成形千百種。見人欲動爭谽谺。萬古不知風雨色。一羣仙鼠依爲家。出穴登高望衆山。茫茫雲海墜眼前。疑是盤古死後不肯化。頭目手足骨節相鉤連。又疑女媧氏一日七十有二變。青紅隱現隨雲煙。蚩尤噴妖霧。尸羅袒右肩。猛士植竿髮。鬼母戲青蓮。我知混沌以前乾坤毀。水沙激盪風輪顚。山川人物鎔在一爐內。精靈騰踔有萬千。彼此遊戲相愛憐。忽然剛風一吹化爲石。清氣既散濁氣堅。至今欲活不得欲去不能。只得奇形詭狀蹲人間。不然造化縱有千手眼。亦難一一施雕鐫。而況唐突眞宰豈無罪。何以耿耿羣飛欲刺天。金臺公子酌我酒。聽我狂言呼否否。更指奇峯印證之。出入白雲亂招手。幾陣南風吹落日。騎馬同歸醉兀兀。我本天涯萬里人。愁心忽挂西斜月。

遊山詩。不過狀寫景物。乃於中幅忽發奇議。以洩壘䃂。非才大如海者不辦。

秋字雁。蹤對。唯以心字辟字取對而已。

前聯粗俗極矣。後聯次之。

此首前聯雖粗。亦好。

白鳳白裙。何其體物隨手段也。使逢歐蘇白戰。不能為斷卒。廣厦多裘。學語小兒。亦能言之。結句粗俗極矣。自唐人詠春草閒門要

淮上中秋對月。

長淮波冷碧雲殘。皎皎當空白玉盤。四海共傳斯夕好。八年不在故鄉看。銀河有影秋心老。仙露無聲雁背寒。建業風清京國夢。一時和酒上眉端。

詠雪。

空山雪墜一聲鐘。花落花開萬萬重。窗外亂飛蝴蝶影。客來多帶鷺鷥容。人情應笑青雲改。版籍全歸白帝封。我自瑤臺廿小謫。三年只種玉芙蓉。

東皇剪水正紛紛。吹上梅花不見痕。但覺關河開曙色。竟忘天地有黃昏。一生影落書窗好。半世身從玉案尊。記得西湖尋酒伴。斷橋西去最消魂。

騎出青天白鳳凰。羅衣誰耐九秋霜。擬張廣厦遮寒士。可有多裘徧洛陽。蔥嶺風高花不隱。南山樹盡絹猶長。朝來取共寒梅嚼。賤子平生有熱腸。

愛著羊欣白練裙。清標自顧也超羣。方圓不定原無我。去住何心只問雲。已盡芭蕉招隱士。更歌黃竹賦從軍。消金帳暖茅菴冷。一樣能來只有君。中二首。語氣渾成。用意亦好。何必刻意求新。

路一時生來。而雅俗適別。

語多重複。結處輕鬆。此類集中不少。

此叟識漁洋。過是地。乃有是詠。見性情不眞似也。至其自寫。亦不免焉。讀本集。

光武原陵。

滹沱河伯呼且奔。白水眞人夜踏冰。凍合玻璃三十丈。陰風澹澹白日凝。中原妖氣猶未消。擊賊深入馬太騎。三日眞龍旗不見。蕪亭麥飯風蕭蕭。人道蕭王遜高祖。我道蕭王較英武。五槍銅馬萬千羣。不比鴻溝當一楚。白蛇當道一劍分。九日爭天太陽苦。山東兵亂伯升亡。枕上淒涼淚數行。未必中興輸草創。生來天性勝高皇。掃除四海淨風沙。遂得初心陰麗華。豈是糟糠忘故婦。免教人說出劉家。一時馮鄧皆師友。殊勝爭功半鷹狗。扶風俠客馬文淵。刺刺面廷亂張口。兩朝天子定低昂。只在閒中一杯酒。人道蕭王四句。極爽健。生來天性勝高皇一七字。斷得確實。可當一篇史論。後半首。雖兩兩相較。只以游戲作餘波而已。

秦中雜感。

高登秦嶺望褒斜。鐘鼓樓空噪暮鴉。古井照殘宮殿影。書堂吹入戰場沙。賀蘭風信三邊笛。杜曲霜痕九塞花。每欲憑欄怕惆悵。二千年是帝王家。

天府長城勢壯哉。秋風落葉滿章臺。一關開閉隨王氣。絕頂河山屬霸才。安石

知之。選者淘汰。僅取此等什。可謂具眼已。

本爲江左出。賈生偏過洛陽來。漢朝宣室知何處。金馬門前月更哀。

一城秋與華山分。骨賣千金馬不羣。燕影尙尋田竇宅。蟲聲如弔帝王墳。涼州樂府清商曲。玉女蓮花薄暮雲。惆悵無雙李都尉。低頭還盼大將軍。（時制軍巡邊。）

連宵擊筑唱嗚嗚。小隊黃麾逐酒壚。秦代只存明月好。西方偏覺美人無。山尊白帝都朝嶽。客到咸陽怕作儒。季子黑貂裘已敝。書燈空照塞雲孤。

末二句。使出它人口。則必識謂學究惡語也。

## 馬嵬。

莫唱當年長恨歌。人間亦自有銀河。石壕村裏夫妻別。淚比長生殿上多。

此首。不失風人之旨。詩亦駘蕩而沈痛。大勝前詩。評語粗矣。學太白。而不作者。

## 靈武。

南內歸來玉璽涼。爲兒親著帝衣裳。願兒只學宮鸚樣。長向風前問上皇。（兩絕句。一沈痛。一悽婉。皆足以動人。與樊川義山詠古諸作。並傳無疑。）

## 曳杖看雲歌。贈張玉川。

太湖白雲三萬頃。有人看過五十年。神仙贈與綠玉杖。追雲直到湖水邊。白雲都向煙波入。先生曳杖湖邊立。煙波重見白雲生。先生曳杖湖邊行。疑是騎雲

惹疑若。

隨園喜人心目處。正在是等。

沈歸愚亦有此詩。勝袁作遠矣。

鶴。皎潔隨風落。又疑雲中君。飄飄白練裙。誰知乃是玉川子。半生脚踏長安市。故人不相待。富者乘車貴張蓋。或如麟鳳翔高天。或惹鷲風飄塞外。不見爲霖澤物有餘功。但覺白衣蒼狗無多在。長揖五侯門。吳江一葉開。看雲揩老眼。重理舊生涯。鎖雲囊製更贏手。攓雲篇費蘇公才。醉倒洞庭山頂最高處。大呼七十二峯雲出來。

贈沈南蘋畫師。有序

吳興沈南蘋。畫名籍甚。雍正間。日本國王持倭牌聘。往居其國三年。授弟子若干。老病辭歸。國王貺施累萬。同舟人受簿錄之累。南蘋傾所有以償。至家。竟不名一錢。

東陽隱侯畫筆好。聲名太大九州小。片紙能開異國春。鶴書遠賁東夷島。東夷之國日本强。晉唐書畫多收藏。倭人字乞蕭夫子。行賈詩歌白侍郎。將軍重幣聘高賢。高士乘舟去若仙。眼驚紅日初生處。畫到中華以外天。天風吹下三千里。行盡魚頭見魚尾。斫取扶桑作管城。揮毫更進羊皮紙。紫貝千雙國主恩。鮫

鳥疑島。

此等詩。不愧古人。不如此。何以稱子才哉。

珠十斛門生禮。蠟點屏風墨未乾。方諸拾涙寫牛欄。奇花增入宣和譜。怪石常橫粉本看。三年重作還鄉夢。侏儷傑休歌相送。金壓蕭雲行李遲。船因陸賈歸裝重。同舟人欠水衡錢。羽化銀杯意灑然。元振萬金揮手盡。長康廚內空雲煙。還家身世兩蕭條。流落江湖酒一瓢。遊子青衫餘兩袖。畫師白髮老三朝。人生意境何偪仄。盛名坎壈如一轍。但使文傳黑水碑。奚須家住黃金穴。春來日日鳥船通。猶道夷王遣問恭。七十二島依然在。只隔人間海一重。

到清江。再呈四首。幷序

枚遁跡隨園。塵思久斷。公手書招之。命沈凡民苦加規戒。類慈母之投杼。誤聞蜚語。如良醫之下藥。未切脈情。恐愛之過深。而知之轉淺。率爾言志。請學仲由。

自愛清溪水最清。忽聞老鳳喚流鶯。商量江上新行李。檢點人間舊姓名。般浩何妨東高閣。龐公久已事躬耕。夔龍簫管巢由唱。請自分途慶太平。

一笛斜陽萬木飛。中年哀樂雪飄衣。水邊花淡春將暮。山裏梁空燕獨歸。卓氏

情韻雙絕。

四首四顆。無瑕璧也。

李長吉句云。骨重神寒天廟器。隨園之不能追古人者。正坐骨輕神濁也。宛然一句。其輕處。到眼忽青好句。高山云云。不足以對之。疎對。古人亦有之。無如此者也。風雲天子一聯。亦然。

酒壚三月斷。鄂君翠被十年違。如何野草鴛鴦夢。尙有襄王說是非。

每望旌旗洒淚痕。當初薦表苦推袁。想傳衣鉢終無分。賴有文章好報恩。書卷一編常按日。梅花三百自成村。他年李泌金鑾殿。莫說陽城尙在門。

接得郇公五色箋。敢辭雙槳木蘭船。蒼生望淺人難起。絳帳情深月再圓。白下孤雲芳草渡。龍門高浪夕陽天。可憐桃李青青樹。虛領春風十六年。此四章。不特見師門恩義之重。與自占身分之高。風華點染。婉曲圓融。可謂情韻雙絕。若只憑性靈書卷。無才無筆以達之。詎能臻此妙境。

題史閣部遺像。幷序

像爲蔣心餘太史所藏。幷其臨危家書。都爲一卷。書中勸夫人同死。託某某。慰安太夫人。末云。書至此。肝腸寸斷。

每過梅花嶺。思公淚欲零。高山空仰止。到眼忽丹青。勝國衣冠古。孤臣鬢髮星。宛然文信國。獨立小朝廷。

已斷長淮臂。難揮落日戈。風雲方慘淡。天子正笙歌。四鎭調停苦。三軍涕淚多。至今圖畫上。如盼舊山河。

此全首濁處。何能得少陵氣息哉。少陵大佬欠伸時。氣息或如此。

剩有家書在。銀鉤字數行。淒涼招命婦。宛轉託高堂。黯淡知和血。篇終說斷腸。當時濡筆際。光景莫思量。

太師留畫像。交付得歐公。展卷人如在。焚香禮未終。江雲千里外。心史百年中。怕向空堂捲。霜天起朔風。李西臺曰。南渡情形。閣部心跡。一一如繪。淒涼悲壯。欲泣欲歌。可與杭董浦先生題陳元孝傳並傳。○此四章。竟得少陵氣息。

欲作一氣流注體。然輕率。無高朗簡勁之旨。使樊榭爲之。當勝之。

## 夜過瓜州。

霜雁一聲語。煙江兩岸秋。蘆花三十里。吹雪滿船頭。我欲乘潮去。孤帆夜不收。蒼茫雲樹外。明月出瓜州。

學東坡之不善者。

## 春風。

春風如貴客。一到便繁華。來掃千山雪。歸留萬國花。有情羅幔捲。無力紙鳶斜。慣送梅消息。孤山處士家。

起手乃有傖氣。識者棄而

## 施將軍廟。

將軍名全。以小校刺秦檜。不克死。

不顧也。嗚呼二句。俗而穉。

警則有矣。錬則未也。

唯是輕率。不得稱題。

此等虛處。俗耳所驚。

一德格天閣正新。一刀殺賊乃有人。敷天寃憤使誰雪。殿前小校施將軍。將軍煉心如煉鐵。可惜荊軻疎劔術。事雖不了神鬼驕。懸頭市上香三日。當時元兇黨滿朝。縛虎如羊氣太驕。忽然刀光狹路照。太師頸上風蕭蕭。嗚呼三字獄兩宮駕。總在將軍此刀下。後代聞英風。尙且有興者。君不見腦碎銅椎阿合馬。警錬。

如老吏斷獄。不煩辭費。

謁張曲江祠。

天寶當年事漸非。先生進退履危機。篋中秋扇恩難忘。天際冥鴻翼早飛。金鑑果致言在耳。玉環何至涙沾衣。千秋丞相祠堂在。留與行人拜夕暉。此詩極就規矩。應選

詩。秋扇賦。一虛一實。對法活動。

飛來寺。

不是青山生羽翼。緣何兩峽如人立。空中一寺更嶔奇。樓臺眞欲將天逼。我來小住帶玉堂。迎面一片屏風張。濃綠萬重裹錦繡。當時帝子猶深藏。紫匡繞礎尋幽徑。流泉未見聲先迎。拏雲三樹一根連。不知木母如何孕。條條白練從容

斜。銀河亂落風雷譁。妙有蕭齋當瀑起。坐來看水如看花。雲外忽聞曳杖響。老僧抱詩來見訪。半是吟聲半水聲。一時佳處難分賞。下界鐘鳴日漸昏。轉身急學猿猱奔。戲立山門指山笑。世間我亦解飛人。僧名懷遠。○白練從空一段。說得天花亂墜。應接不暇。結句與起相應。章法甚密。惜不免露狡獪技倆。

浙西六家詩鈔卷之五終

三四新奇。其實自放翁傍水無家無好竹。捲簾是處是青山來。

# 浙西六家詩鈔 卷之六

## 有正味齋詩集

吳錫麒。字聖徵。號穀人。錢唐人。乾隆四十年進士。官祭酒。有有正味齋集。○王蘭泉曰。浙中詩派。自竹垞初白兩先生後。二十餘年。大宗太鴻起而振之。及兩公殂謝。嗣音者少。司成以雲蒸霞蔚之文。合雪淨冰清之作。馳聲藝苑。獨出冠時。既工駢體。尤擅倚聲。而詩才超越。直繼朱查杭厲之後。宜中外望之。指爲景嚮也。情殷蔭背。乞假南還。雖未即安於閒適。而世已以白晃兩太傅相期。性好溪山。流連詩酒。青鞵畫舫。綠箬紅衫。遊節所造。無不承蓋扶輿。掃門納屨。○覃溪學士謂。祭酒詩。最深於杜。非貌似也。如義山山谷之學杜。在若離若合之間。此言誠是。然細味之。自晉宋以還。諸家之妙蘊。莫不燦然俱備。不拘一格。七古之自出機杼。一空依傍。洵足稱名家。間或存似青蓮。似昌谷。似東坡。似梅村者。非盡學杜。五古五七律之極自在者。多近樊榭。雖尚辭華。仍歸清峭。蓋生平服膺鄉先達爲尤深也。是編。皆於正集採取。參用初刻本。至於續集。多應酬之作。所選不過數篇而已。

### 江夜。

萬峯壁立大江橫。秋色連天露洗清。但覺無船無月載。不知是水是風行。隔汀孤鳥欲同夢。逆浪老魚微有聲。半夜月沉潮又上。漁燈流過蓼花明。圓轉活潑。妙句天成。

### 鳳凰山懷古。

兩嗚呼氣弱。

俊爽無匹。

松光透天天欲濕。作勢蟠拏萬蛟立。咫尺蒼茫不辨人。厓山晴捲寒濤入。杭人故事說康王。行宮十里營錢唐。西湖花鳥奉宴賞。不與汴水同荒涼。納涼開幸翠寒堂。講武還過御教場。此時此山入大內。鳳凰爾在雲中翔。百官環珮花漏午。不知今者惟斜陽。嗚呼宴安鴆毒厚。金牌竟阻黃龍酒。風波獄起隳長城。從此中原非宋有。嗚呼游戲干戈生。襄陽礮火燒空明。笙歌夢轉秋風急。蟋蟀聲催白雁聲。主失乾綱臣誤國。撞壞家居良可惜。殘山留作畫圖看。一片傷心天水碧。鳳兮鳳兮爾亦哀。眼見宮闕成蒿萊。幾樹冬青怪鵑宿。隔江風雨諸陵來。

中幅兩嗚呼。一歎高宗之誤於秦檜。一歎理宗之誤於賈似道。古詩中用兩股文體。章法獨闢。後一段節刪數句。較爲簡老。諒作者不以爲妄也。

硯雨楊丈自三塔歸。畫梅數十幀。以其一貽余。且曰不可無詠。因作二絕句報之。

君家畫梅楊補之。吾家畫竹梅沙彌。晴梢雨葉無人會。奉敕村梅見此枝。（畫梅不畫竹）

竹。兩姓牽合。妙無痕跡。結句頂楊補之來。

枝枝不用寫橫斜。萬丈花光萬樹遮。不到阜亭人不識。月明如雪雪如花。

不免拖沓。

雨中過七里瀧作歌。

蒼蒼茫茫江一面。雨入江光吹不見。前灘後灘白如練。有風頃刻七里過。無風奈此七里何。忽然雨勢挾風至。但聽來船爭唱順風歌。我船廿讓來船走。畫本留看黃子久。望窮寒水竹廻環。洗出青山觸前後。牧童白驢黃犢回。漁郎正放鸕鷀來。笠檐蓑袂盡鄰舍。對江幾扇柴門開。丹青未見今見此。水外是山山外水。客到先愁無路通。何況迷離煙雨裏。山頭雨作山中泉。蜿蜒都在樹杪懸。東峯一瀉落千丈。雷霆乃般西峯顛。此時憶殺嚴先生。羊裘孤擁寒不輕。我欲松門一杯酹。苦荒路滑無人行。傳聞名利人。不泊釣臺下。扁舟獨縱橫。問我何爲者。玉壺買春雨堪賞。尺半白魚新出網。飲酣抱甕臥船頭。聽得舟人齊拍掌。數枝柔艣劃玻璃。百幅蒲帆眼底齊。夕照乍明風亦轉。行行一路畫眉啼。機勢暢。詩頗近大蘇。蘇詩儘有通篇作對語者。儘有通篇不作對語者。此詩重刻本。改就對語數聯。翻疊勉强。且改去畫本留看黃子久句。而下文丹青未見云云。似無著落。茲從原本。

韓蘄王將臺。

峯後峯跗尊連其下一珠龍抱眠烏龍不烏光蜿蜒赤龍銜銜欲上天是何草

五六爲警聯耳。

起句最宕逸。五古取勢。在起手。

三四妙對。

木當緖鞭。百蟲將軍畀爾權。爾生爾殺爾自專。象以齒焚蘭膏煎。蕉夢不醒秋墳邊。哀哉牧火遺荒阡。禍幷玉石成灰煙。我惜山黛蛾眉妍。使彼濯濯誠何愆。有酒欲噀術不仙。安得倒挽山下泉。女丁婦壬驅爾辦。遊山明日衣同褰。手巧舌圓。描摹盡態。然終是演戲法。說西遊記本事。非詩文正派。至後半篇。乃見詩意。與他山危時莫以烽爲戲。我意方燮玉亦焚。俱仁者之言。

泛舟出東新關。至皐亭看梅。

春風吹艫聲。搖曳在煙際。湖游從迴波。謀野獲新霽。柳條綠已舒。草脚青尙細。微微曖松雪。稍稍出山髻。前村暝逾深。遠樹明復翳。徐聞鐘磬招。願結瓶鉢契。人來僧語熟。月大寺門閉。三匝繞花身。讚以妙香偈。化選體之板重。而以疎宕出之。不必似謝。而謝之神理自到。

葛嶺。

絕壁蒼茫石氣青。舊時師相盛園亭。鬪書小押壺盧印。韜略高談蟋蟀經。白雁風及秋易冷。襄堂敵打夢難醒。可憐徹夜笙歌樂。換得杭州曲子聽。浪子宰相。實爲馬阮先聲。

誦三四兩語。却亦可想見秋壑風趣。

蜀鏡詞。鏡徑三寸六分。重十兩有半。背作寶相花八鸞捧雙魚海螺之屬。銘曰。鍊形神冶。瑩質良工。當眉洗翠。對臉傳紅。如珠出匣。似月停空。綺

不如漁洋秦鏡詞。

有意刻畫眉山。是醴本之奪眞者。

古鏡蒼涼秋一片。鏡中之人今不見。三十二字銘在陰。寫翠傳紅過如電。麗情窗繡幌。俱涵影中。凡三十二字。小篆。按張君房麗情集載。蜀後主衍幸鳳州。天雄軍節度使王承休妻嚴氏有美色。衍愛幸之。賜以妝鏡。其銘云云。記自張君房。王家阿婦承恩長。菱花但照顏色好。不照國家興與亡。嘉王酒悲涕泗橫。諫書上者蒲禹卿。眼前金鑑不如貴。乾德匆匆了此行。綺窗繡幌都安在。千里山河一朝改。鸞鳳徒聞泣玉臺。蟾蜍已分沈滄海。十蝕苔侵又幾時。摩挲祇益後人悲。蛾眉夢斷狐狸穴。金盌人間那得知。自從花落芳林園。賸有鵑嘯三趙村。莫笑武當山上鏡。山精獨自拜黃昏。起得蒼老。後幅哀豔。極悲涼酸楚之致。

月夜過泖湖。

沙鷗熟眠不可呼。明月欲出秋滿湖。煙中劃槳有人去。但聞幽響生菰蒲。天空岸闊望無際。倒浸幾點星模糊。征衣颯颯風漸緊。涼宇蕩蕩雲先逋。銀盤涌上浪花頂。萬頃盡化琉璃鋪。虛涵荇藻透空洞。淨洗耳目生清娛。暗潮嗚咽蚓竅細。遠樹濛密牛毛麤。乘洲東指海門近。咫尺身似凌蓬壺。馮夷惝怳弭遙節。鮫女倏忽馳明珠。珠光水氣蕩摩久。夜闌幾滅隨須臾。僧鐘遠聽發山寺。林鵲驚

勁錬無冗語。

結處意出題外。勁拔。然足見思路竭處。故出于此。

未谷得之句以後。無復關印。肘金如斗一語。徽露針線。直至末尾大露。詩品頗高。

起盤浮圖。留人旅夢歸不得。漁火一痕汀外孤。純乎大蘇。

顏魯公名印歌。

精神萬丈光燭垣。朱文二字蛟螭蟠。浩然之氣在天地。至今尚識顏平原。生竭臣忠死臣職。嶽嶽公名呼不得。誰狀嚴霜烈日心。如見握拳透爪力。功德記田神功。坐位帖魚朝容。書成鼠尾健。鈐以芝泥紅。外而藩鎮內閹寺。直欲鎮之方寸銅。二十四郡義士死。又聽鄭州鼙鼓起。此身幸脫軋犖山。此口難逃藍面鬼。羽衣蛻去碧草愁。乘風身已歸羅浮。仙壇小字空押尾。桃花一笑三千秋。泥沙洗濯寒芒紫。漉漉血痕能沁紙。吁嗟乎睢陽齒南八指。常山之舌亦如此。詩有堅剛之氣。擲地當作金石聲。

桂未谷以所藏山谷詩孫印。贈黃仲則。屬余爲詩記之。

金華仙伯歸玉峯。踏雲去弄青芙蓉。詩孫未識是何代。朱文小印銅花封。未谷得之不自有。却付公家後人手。後人詩好繼前人。如向蘇門見黃九。西江妙語誰討論。心香一瓣今猶存。公於此派爲鼻祖。後起毋乃昔兒孫。淵源況復同一

起手大作。文謝二詩、結處皆用平調。却是大方。友人田君彝常云。茶翁結法。不免有意爲雋逸。亦是一病。觀此詩、憶起其言。

綫、豈謂工詩例貧賤。夢中綵筆倘能傳、但作詩孫吾亦美。乃公昔日淪謫多。簪花白髮愁如何。磯頭徒感新婦石、天上自唱琵琶歌、黃生黃生今少年。置身合在青雲邊。肘金如斗亦容易、蠹魚不用窮雕鐫。春燈搖綠杯浮蠟、座上如君能有幾。我歌便欲索君詩、還乞芝泥紅抑尾。點染風華。情意周匝。一時韻事。得此好詩、良足傳爲千古佳話。

文丞相琴歌、琴爲閩中何氏家藏。上刻文山詩云。松風一榻雨瀟瀟。萬里封疆不寂寥。獨坐瑤琴遺世慮、君恩猶恐壯懷消。後題云。時景炎元年。家恩遣間召入。夜宿清原寺。感懷之作。譜于琴中識之。梁斯儀同年。上國拓其文。來示余。爲作此歌。

上絃謖謖松風鳴。下絃汩汩乃作匡山之海聲。當時一彈再鼓處。山石欲裂天爲驚。永嘉道出清原寺。雨黑燈昏不成睡、手揮行篋七條絃。詩寫孤臣兩行淚。泣山鬼兮雲沉沉。感君恩兮波深深。哀哉丞相琴。卽是丞相心。慘㦧倘記板橋道、麥飯誰哭冬青林。景炎時事可知矣。空抱壯懷猶不已。五坡嶺、零丁洋、可憐道路摧肝腸。何如清原山中留宿夜、清商一曲龍吟長。生在南天死北地、流落孤琴舊時字。故友惟留玉帶生、西臺已碎竹如意。吁嗟乎壞漆淒涼五百秋、茫茫誰刺海濱舟。高山流水臣心在、彷彿黃冠故國遊。玉帶生。竹如意、作琴之陪客。恰好一結。感慨淋漓。神韻雙

絕。

謝文節橋亭卜卦硯歌、

謝侍郎。自從信州不守趨建陽。橋亭賣卜卜何事。乾坤到此倶茫茫。惟有一片石。與之偕行藏。此身拚爲趙家死。此硯千秋歸謝氏。捲起匡山百丈濤。紛紛吹作硯池水。朱鳥化去白雁來。君家義士哭西臺。可憐市上垂簾日。陵畔冬青花已開。吁嗟乎三寸舌。不可說。一腔血。不能滅。車馬誰將龔勝迎。雪氈背學蘇卿齧。萬里行行采石磯。山河破碎涙沾衣。久拋此硯橋亭路。瓦礫斜陽秋草肥。摩挲重在孤燈下。蟠鬱蛟螭寒氣瀉。問石難尋卜卦人。作銘誰是采薇者。轉茶坂頭夢不回。憫忠閣畔靈當來。當時却聘書曾寫。遺墨氤氳萬古哀。匡山二句。上句時事。下句拍到硯。市上二句。上句卜。下句拍到時事。作此等題。必如此承接。方見緊而捷。

題吳仲圭墨竹。款云。至正十年。五月十三日。梅道人。

梅道人賣卜春波里。得錢沽酒飲不已。醉後槎枒芒角生。夢魂飛渡瀟湘水。一竿兩竿搖夕陽。旁抽新筍三尺強。胸中自有成竹在。不妨紙上隨低昂。雲溶溶

用虛字。未免粗俗。

不免襲杜。羣山句。忽起爲頓折。大好。

結處稍淺。鐵崖或有。西堂絕無。

兮煙蒼蒼。南風吹來疎粉香。却思今日是何日。竹醉不如我醉長。開萬樓中多墨寶。動我相思此君好。年年風雨擇龍吟。聽到秋聲棱秋早。美人翠袖何日還。對此恍惚疑家山。欲邀載酒入林去。長鑱劚笋于其間。從竹醉日落想。胸中自有成竹在。不妨紙上隨低昂。

乃先生自言詩況。

灤河大雪。約潘穀堂舍人宋芝山廣文同作。

前飛鴛鵝後飛鶻。毛羽漲空吹不滅。寒光昨夜射紙窗。如挂遺牆古時月。羣山莽莽西北來。玉立朝天森萬笏。色相迷離粉墨圖。蓬萊晃漾金銀闕。不辭沽酒斗十千。曉出搖鞭醉兀兀。坡陀十里迷起伏。翻動銀杯馬蹄滑。翩然自訝白鳳騎。歸去眞思紫皇謁。瓊壺跳入人不知。目極中原青一髮。回頭忽墮浮雲中。此身尙恨非仙骨。禽飢獸凍野漫漫。但聽樵歌聲未歇。書生豪氣那足道。炙硯且須煨榾柮。豐年爲報塞上農。預備家家動耕垡。一起爽健。中間奇氣橫溢。不可思擬。

悲臺城。

皇帝菩薩佛寺居。頓首頓首三答書。一億萬錢幾贖得。袈裟十里送鑾輿。君王

此結則平調之不佳者。

泉紳字。太僻。

祈佛須祈福。不料興亡如轉燭。御殿花迎狗子紅。臺城草上龍衣綠。五代荒淫二百年。蕭梁文物亦成煙。金甌破碎無完局。賊在江山佛在天。嗚呼蕭老公。捨身竟何益。能武能文豈不賢。自成自敗眞堪惜。雨花臺前花雨春。石頭城邊戰血新。君自召禍非他人。賀雅疏。佛亦嗔。荷荷聲。佛不聞。此種詠史新樂府。鐵崖西堂。俱遜其雅鍊。

清涼居士。

中興名將眞英雄。錦衣驄馬稱相公。西湖一角殘山水。攜酒騎驢號居士。南山北山往復還。晚風吹透刀箭瘢。歸來山月照孤夢。夢中猶念龍沙寒。心頭念念憂朝廟。如此清涼初不料。鐵棒呑人地下熱。金牌怨我軍中召。滿眼風花不當春。閉門借隱最情親。一聲戰鼓黃天蕩。同是今朝白首人。

南屏。觀司馬溫公摩崖隸書。

幽禽喚客南山隅。飛空青雨生衣裾。千尋直上蓄奇勢。乃有涑水摩崖書。八分字字萬鈞力。今古空山留正色。陡落泉紳渴驥奔。孤蟠石骨神龍逆。刊此始何年。傳自紹興康定間。翠微無人樵斧絕。稜稜千載含松煙。三十二行二百字。前

不言生前事。而敘身後事。思路出人意表。而措語撰詞不墮纖儇。大好。用單殺結。大好。

定元活元。是等句淸人習氣。不免粗俗。

書家人次樂記。庸行庸言人共知。讀書所貴求其義。靖康南渡江山殘。君親大節言之難。可憐遺老垂泣處。東南半壁斜陽寒。惜公不作知公寡。滿目殷憂動朝野。金牌已見召將軍。中國何時相司馬。此書當日稱箴銘（宋思陵云。司馬光隷。眞似漢人。朕有五卷。日夕置座右。所書乃中庸。與家人卦。皆修身治國之道。不特玩其字而已。）此旨誰思自六經。西湖花鳥易消歇。片石獨峙青山青。不見思陵石經在太學。幾年白塔經崩剝。何如公書正直莫敢窺。常作琴臺秋一角。配者何人米海嶽。（旁有米芾書琴臺二大字。○中幅一段。感高宗遺事。頓挫含蓄。不失詩人溫厚之旨。通體皆極就規矩。洵是此題合作。）

## 元耶律文正畫像。

生不願立功與名。但願角端示警休甲兵。亦不願加爵與祿。但願此生免爲百姓哭。寬厚長者長髯人。兩朝恩遇無等倫。定元一代之制度。活元百萬之黎民。君王雖有羊髀卜。不若從公決禍福。齊民但取大黃一兩馳。齊國急須書數束。念念憂危竟喪身。拜公畫像容猶蹙。北風號寒啼夜烏。靈兮靈兮如可呼。王孫異代多感慨。荒亭誰寫鷗波圖。如公磊落眞丈夫。瓜分馬首肉雞吞酒釀葡萄

蒼莽雄渾中。含有和平雍容之氣。章法篇法。無不如意。是吳古詩中之無瑕璧也。

浮綠雪。思公嗜好誦公詩。一瓣靈香爐裏爇。李屏山。趙閑閑。公亦師承二老間。至今面目憑人識。只有此心誰照得。公嘗趙閑閑爲吾道主盟。李屏山爲中州豪傑。又謂惟屏山閑閑可照吾心。○筆力堅卓。文正公心跡勳名。數語寫盡。乃以遺言瑣事作餘波。此詩文輕重疎密相參之法也。

出古北口放歌。

佪佪仄仄萬峯立。蕭蕭寥寥匹騎入。寒氣待人如欲吸。不知山從太行西來幾千里。陡然一支頓于此。人言虎北口。又云古北平。但見居庸山海。白馬紫荊羣關絡繹以拱向。綫路險與天門爭。下有潮河不測之洪濤。上有嬴秦作俑之長城。愁雲慘結百戰地。古來白骨如山撐。即如明末年。防邊計何拙。可憐邊牆柞築盡黎庶血。萬壑千巖剩哭聲。一朝事去秋煙滅。方今甌脫皆一家。關門日出鳴清笳。白頭戍卒老無事。獨立細數城頭鴉。年年迎輦歌新曲。處處。君恩喜霑足。關內人耕關外田。北來牛乳南來犢。書生兀兀搖馬鞭。雪花如掌墮我前。不顧姓名萬古銅柱鐫。亦不用短衣射虎消殘年。十千但醉葡萄酒一

仲冬十三日。舟自レ鞆赴二笠岡一。篷窗讀二此卷一至レ此。襄。

唱今朝出塞篇。寫二中外一統昇平之氣一。關内十四字。語簡而意該。前言二古來守戰之苦一。與二今日昇平之樂一相形。章法之妙。筆力之健。非二大家一不レ能。

浙西六家詩鈔卷之六終

先師頼翁省藝時。携浙西六家詩鈔。以備客途排悶之具。每遇其可否於意者。輒抽行硯下批評。不問轎中店上也。此本就其詩鈔中。特抄出有翁評語者耳。書肆墨香一見謂。亦吉光片羽也。懇乞刻之。囑余謀之於翁二子士剛・士春。皆領焉。既又請其校於余。余熟閲之。其評語或似有脱字者。不敢妄補。姑存其舊云。嗚乎。此先師一時興到所爲。而取舍不失權衡。皆有裨益於後學。則其源於詩。亦可以見一斑矣。墨香乞余一言。因書此與之。

嘉永己酉榴華月初吉　　門人。後藤機拜題

# 韓蘇詩鈔

# 『韓蘇詩鈔』解題

文政二年、『西遊稿』成リ、ソノ遊歴中、手鈔ノ杜・韓・蘇古詩三巻ヲ携ヘタリトイヘル、モノ、或ハ本書ノ底稿ナルベキ歟。但、ソノ「古詩」以外、五・七言絶句ヲ加ヘタルヲ異トスルノミ。

後藤松陰ハ、後ニ同窓ノ後輩タル大坂ノ齋藤石城〔履侯〕ガ、山陽塾ニ在リテ、コレヲ寫録シ、ソノ甥永策ノ家ニ傳ヘラレタルヲ見テ、當年、聽講生ガ評語ヲ筆記セシモノナルベシトイヒ、ヤガテ支峯・三樹、及ビ牧百峯ニ謀リテ、コレヲ開版セントスルニ當リ、百峯ハ又、二種ノ寫本ヲ提供シタリトイヘリ。

ソノ刻版ハ、『浙西六家詩評』ト同ジク、大坂書肆・藤屋〔北尾〕禹香居ノ手ニ托セラレ、松陰〔嘉永五年閏二月〕ノ外、齋藤拙堂〔六年十月廿四日〕ノ序文ヲ冠シテ、安政元年、江戸・千鍾房トノ聯名ヲ以テ發兌セラルルニ至レリ。〔好尙生〕

敍。

余嘗與山陽翁交熟。知其爲人。骨力似昌黎。才識似東坡。故平生尤心醉於二公。其於詩詞亦然。乃取其詩手鈔之。備加評語。寘乎篋中。時出諷誦之。是以其所作之詩。亦克肖焉。然翁眼孔頗大。所慕於二公。豈徒詩詞哉。假使翁出於元和之時。淮西之役。必有所計畫矣。假使翁出於熙寧・元豐之間。浙燈之費。新法之害。必有所論駁矣。今不然。時屬太平。不得爲行軍司馬。身在草莽。不得預蓮燭之寵。衣褐懷寶。以終其世。不甚惜乎。然身優遊於京華最勝之地。詩酒自適。時著書以論述古今。以諗後世。身已沒。而名益揚。亦非其幸耶。浪華墨香生。請後藤世張。校翁韓蘇詩鈔。欲以授梓。來請序於余。余乃書平生所推服於翁者。以應之。人或以余爲阿所好。亦所不辭也。

嘉永六年。龍集癸丑。冬十月念有四日。題於津城春星草堂之東廂。伊勢。鐵研學人齋藤謙。

余頃見韓蘇詩抄於齋藤永策氏。乃先師賴翁選而評焉者。蓋永策伯父履侯。遊學輦下。寫之於翁家云。因憶。機昔寓翁塾於京。一日過小書肆。見舶來昌黎詩。購而歸。當時非有能辨其詩旨否也。但以其名與其價廉耳。翁見之莞爾咲曰。韓・蘇二家。皆特立獨行。各爲一代偉人。豈可以詩論者哉。既而余下帷於浪華。凡二十年許矣。今始見之、蓋其門人聽講筆記者。故其語或似有脫誤焉。余抃然喜曰。嗚乎有此哉。有如此之選。而後非可以詩論者。亦可以詩而論也。因謀之於翁二子士剛・子春。及同門牧信侯。信侯又見借其所藏一種。乃參校一過。以付書肆墨香梓之。乃墨香之請云。抑讀此抄者。希爲一代偉人。而不希爲可以詩論者。則庶乎不愧讀二公之詩者矣。

嘉永壬子。閏二月

松陰後藤　機

# 韓昌黎詩抄 卷一

賴襄子成選　後藤機校

## 五古

### 秋懷

秋氣日惻惻。秋空日凌凌。上無枝上蜩。下無盤中蠅。豈不感時節。
耳目去所憎。清曉卷書坐。南山見高稜。其下澄湫水。有蛟寒可罾。
惜哉不得往。豈謂吾無能。
秋夜不可晨。秋日苦易暗。我無汲汲志。何以有此憾。寒雞空在栖。
缺月煩屢瞰。有琴具徽絃。再鼓聽愈淡。古聲久埋滅。無由見眞濫。
低心逐時趨。苦勉祇能暫。有如乘風船。一縱不可纜。不如覷文字。
丹鉛事點勘。豈必求贏餘。所要石與甔。

持一作將。

霜風侵梧桐。衆葉著樹乾。空階一片下。琤若摧琅玕。謂是夜氣滅。
望舒實其團。青冥無依倚。飛轍危難安。驚起出戶視。倚檻久汍瀾。
憂愁費晷景。日月如跳丸。迷復不計遠。爲君駐塵鞍。
鮮鮮霜中菊。既晚何以好。揚揚弄芳蝶。爾生還不早。運窮兩値遇。
婉孌死相保。西風蟄龍蛇。衆木日凋槁。由來命分爾。泯滅豈足道。

雜詩。四首

朝蠅不須驅。暮蚊不可拍。蠅蚊滿八區。可盡與相格。得時能幾時。
與汝恣啖咋。涼風九月到。掃不見蹤跡。
鵲鳴聲楂楂。烏噪聲擭擭。爭鬬庭宇間。持身博彈射。黃鵠能忍飢。
兩翅久不擘。蒼蒼雲海路。歲晚將無獲。

出門

長安百萬家。出門無所之。豈敢尙幽獨。與世實參差。古人雖已死。
書上有其辭。開卷讀且想。千載若相期。出門各有道。我道方未夷。

且於此中息。天命不吾欺。

雜詩

古史散左右。詩書置後前。豈殊蠹書蟲。生死文字間。古道自愚惷。
古言自包纏。當今固殊古。誰與爲欣歡。獨攜無言子。共升崑崙巓。
長風飄襟裾。遂起飛高圓。下視禹九州。一塵集毫端。遨嬉未云幾。
下已億萬年。向者夸奪子。萬墳壓其巓。惜哉抱所見。白黑未及分。
慷慨爲悲咤。涙如九河翻。指摘相告語。雖還今誰親。翩然下大荒。
被髮騎騏驎。

調張籍

李杜文章在。光焰萬丈長。不知羣兒愚。那用故謗傷。蚍蜉撼大樹。
可笑不自量。伊我生其後。擧頸遙相望。夜夢多見之。晝思反微茫。
徒觀斧鑿痕。不矚治水航。想當施手時。巨刃磨天揚。垠崖劃崩豁。
乾坤擺雷硠。惟此兩夫子。家居率荒涼。帝欲長吟哦。故遣起且僵。

翦翮送籠中。使看百鳥翔。平生千萬篇。金薤垂琳琅。仙官敕六丁。
雷電下取將。流落人間者。太山一毫芒。我願生兩翅。捕逐出八荒。
精誠忽交通。百怪入我腸。刺手拔鯨牙。擧瓢酌天漿。騰身跨汗漫。
不著織女襄。顧語地上友。經營無太忙。乞君飛霞佩。與我高頡頏。

## 齪齪

齪齪當世士。所憂在飢寒。但見賤者悲。不聞貴者歎。大賢事業異。
遠抱非俗觀。報國心皎潔。念時涕汍瀾。妖姬坐左右。柔指發哀彈。
酒肴雖日陳。感激寧爲歡。秋陰欺白日。泥潦不少乾。河堤決東郡。
老弱隨驚湍。天意固有屬。誰能詰其端。願辱太守薦。得充諫諍官。
排雲叫閶闔。披腹呈琅玕。致君豈無術。自進誠獨難。

## 路傍堠

堆堆路傍堠。一雙復一隻。迎我出秦關。送我入楚澤。千以高山遮。
萬以遠水隔。吾君勤聽治。照與日月敵。臣愚幸可哀。臣罪庶可釋。

何當迎送歸。緣路高歷歷。

## 食曲河驛

晨及曲河驛。悽然自傷情。羣烏巢庭樹。乳雀飛簷楹。而我抱重罪。孑孑萬里程。親戚頓乖角。圖史棄縱橫。下負明義重。上孤朝命榮。殺身諒無補。何用答生成。

## 宿曾江口示姪孫湘

雲昏水奔流。天水漭相圍。三江滅無口。其誰識涯圻。暮宿投民村。高處水半扉。犬雞俱上屋。不復走與飛。篙舟入其家。暝聞屋中唏。何知歲常然。哀此爲生微。海風吹寒晴。波揚衆星輝。仰視北斗高。不知路所歸。

## 送李翺

廣州萬里途。山重江逶迤。行行何時到。誰能定歸期。揖我出門去。顏色異恆時。雖云有追送。足跡絶自茲。人生一世間。不自張與施。

譬如浮江木。縱橫豈自知。寧懷別時苦。勿作別後思。

送石處士赴河陽幕

長把種樹書。人云避世士。忽騎將軍馬。自號報恩子。風雲入壯懷
泉石別幽耳。鉅鹿師欲老。常山險猶恃。豈惟彼相憂。固是吾徒恥。
去去事方急。酒行可以起。

醉贈張祕書

人皆勸我酒。我若耳不聞。今日到君家。呼酒持勸君。爲此座上客。
及余各能文。君詩多態度。藹藹春空雲。東野動驚俗。天葩吐奇芬。
張籍學古淡。軒昂避雞羣。阿買不識字。頗知書八分。詩成使之寫。
亦足張吾軍。所以欲待酒。爲文俟其醺。酒味既冷冽。酒氣又氤氳。
性情漸浩浩。諧笑方云云。此誠得酒意。餘外徒繽紛。長安衆富兒
盤饌羅羶葷。不解文字飲。惟能醉紅裙。雖得一餉樂。有如聚飛蚊。
今我及數子。故無蕕與薰。險語破鬼膽。高詞媲皇墳。至寶不雕琢。

神功謝鋤耘。方今向泰平。元凱承華勛。吾徒幸無事。庶以窮朝曛。

新竹

筍添南堦竹。日日成清閟。縹節已儲霜。黃苞猶掩翠。出欄抽五六。當戶羅三四。高標凌秋嚴。貞色奪春媚。稀生巧補林。併出疑爭地。縱橫乍依行。爛漫忽無次。風枝未飄吹。露粉先涵淚。何人可攜翫。清景空瞪視。

奉和錢七兄曹長盆池所種

翻翻江浦荷。而今生在此。擢擢菰葉長。芳根復誰徙。露涵兩鮮翠。風蕩相磨倚。但取主人知。誰言盆盎是。

初南食貽元十八協律

鱟實如惠文。骨眼相負行。蠔相黏爲山。百十各自生。蒲魚尾如蛇。口眼不相營。蛤卽是蝦蟆。同實浪異名。章擧馬甲柱。鬬以怪自呈。其餘數十種。莫不可歎驚。我來禦魑魅。自宜味南烹。調以鹹與酸。

芼以椒與橙。腥臊始發越。咀吞面汗騂。惟蛇舊所識。實憚目眼獰。
開籠聽其去。鬱屈尙不平。責爾非我罪。不屠豈非情。不祈靈珠報。
幸無嫌怨幷。聊歌以記之。又以告同行。

病中贈張十八

中虛得暴下。避冷臥北窗。不蹋曉鼓朝。安眠聽逢逢。籍也處閭里。
抱能未施邦。文章自娛戲。金石日擊撞。龍文百斛鼎。筆力可獨扛。
談舌久不掉。非君亮誰雙。扶几導之言。曲節初摐摐。半途喜開鑿。
派別失大江。吾欲盈其氣。不令見麾幢。牛羊滿田野。解旆束空杠。
傾尊與斟酌。四壁堆罌缸。玄帷隔雪風。照鑪釘明釭。夜闌縱捭闔。
哆口疎眉厖。勢侔高陽翁。坐約齊橫降。連日挾所有。形軀頓胮肛。
將歸乃徐謂。子言得無哤。迴軍與角逐。斫樹收窮龐。雌聲吐款要。
酒壺綴羊腔。君乃崑崙渠。籍乃嶺頭瀧。譬如蟻垤微。詎可凌崆峴。
幸願終賜之。斬拔枿與樁。從此識歸處。東流水淙淙。

韓昌黎詩抄　卷一　終

是等。最似漢魏歌謠。

# 韓昌黎詩抄　卷二

## 七古

### 汴州亂二首

汴州城門朝不開。（哀王孫起法）天狗墮地聲如雷。（與李盧好言奇怪異。）健兒爭誇殺留後。連屋累棟燒成灰。諸侯咫尺不能救。孤士何者自興哀。（滿腹憤悶以反語出之。所云言者無罪聞者足戒。）母從子走者爲誰。大夫夫人留後兒。（與腰下寶玦青珊瑚。可憐王孫泣路隅同一法。此篇最似古謠。）昨日乘車騎大馬。坐者起趨乘者下。廟堂不肯用干戈。嗚呼奈汝母子何。（爲獨憐母子即意味索然。）

韓詩。粗險中。有一種剔刻處。這公文章本色。嘗云。非三代兩漢不敢見。故詩亦不故意擬漢魏。自有古韻。李杜却有模效痕跡。○上篇事實相牽連而下。故用一韻。下篇唯詠一事。故三換韻。（山陽評。下同）

### 利劍

我字劍字。爲雙關。一順一逆。故可誦。故意以我對劍。沒比體痕跡。

利劍光耿耿。（寸鐵殺人。○用長短句。不可增減一字。）佩之使我無邪心。故人念我寡徒侶。（節綴却是歌嘔體。）持用贈我比知音。我心如冰劍如雪。（用一單句。爲中權。）不能刺讒夫。使我心腐劍鋒折。（須下添安得二字讀上）決雲中斷開靑天。噫劍與我俱變化歸黃泉。（古怪之氣過人。）

山石

山石犖确行徑微。（倒入○有色態。二句似絕句。）黃昏到寺蝙蝠飛。（又有色態。）升堂坐階新雨足。（此句成古風。）芭蕉葉大支子肥。僧言古壁佛畫好。（一頓挫爲上下過脈。）以火來照所見稀。鋪牀拂席置羮飯。疏糲亦足飽我飢。（暗伏後人生如此句。）夜深靜臥百蟲絕。（不言鳴而言絕。更妙。）淸月出嶺光入扉。（梅中見月。深夜光景。）天明獨去無道路。出入高下窮煙霏。（暗帶首句氣脈。）山紅澗碧紛爛熳。時見松櫪皆十圍。當流赤脚踏澗石。水聲激激風吹衣。（此句逗出下四句。）人生如此自可樂。（得此成詩）豈必局促爲人鞿。嗟哉吾黨二三子。安得至老不更歸。

此詩。元非昌黎本色。其最精采者。顧嗣立評。尤得肯綮。是見于詩醇。文多不錄。○茶山云。結句氣似衰殺。今按結意自出題外。全不覺衰殺。是適茶山所不好耳。

## 雉帶箭

原頭火燒靜兀兀。野雉畏鷹出復沒。（三字生無數情態）將軍欲以巧伏人。（通篇無限變化。皆自此二句生。）盤馬彎弓惜不發。地形漸窄觀者多。雉驚弓滿勁箭加。衝人決起百餘尺。紅翎白鏃隨傾斜。（幕客目中所在態色）將軍仰笑軍吏賀。五色離披馬前墮。（是留野雉爲結應上。是如合二絕句。又添二句。爲結。全是唐人絕句眞色。）

是爲張建封幕客時詩。當公壯年。故尤神采英發。○是如長篇中擧一篇精采處。爲一首。要看其結局作法。

## 汴泗交流贈張僕射

汴四交流郡城角。築場千步平如削。短垣三面繚逶迤。擊鼓騰騰樹赤旗。新秋朝涼未見日。（二句前後過接處。）公早結束來何爲。（是與上篇點出將軍同法。）分曹決勝約前定。百馬攢蹄近相映。毬驚杖奮合且離。紅牛纓紱黃金羈。（是百馬攢蹄中物、及其進毬。分明視色態、畢竟絕句作法。）側身轉臂著馬腹。霹靂應手神珠馳。超遙散漫兩閒暇。（自見唐人語調）揮霍紛紜爭變化。發難得巧意氣粗。讙聲四合壯士呼。此誠習戰非爲劇。豈若安坐行良圖。當

汴泗交流處。即可見妥貼。是作者微意。何爲二字。呼起後段。猶文中用何哉字。赤旗以上。用一韻。以下二句。又用一韻。是常法。這老故意用變法。眩讀者。下此誠二句。亦此法。舊注。爲本張良發八難。是結語突然而已。用歌謠體。莫字如莫渡河之莫。結二句。忽意換韻。取突然之勢。不獨眩讀者之目也。

此等明白的語。却是歌謠遺音。

角字觸字谷字。看下用ニ韻脚一之穩當上。

昨者二句韻。當レ屬ニ下段一。此等韻法。不レ可レ學。

今忠臣不レ可レ得。公馬莫レ走須レ殺レ賊。

此篇全脫ニ化少陵冬狩行一來。然比レ之。甚覺ニ平平一。却是中唐本色。

### 贈唐衢

虎有レ爪兮牛有レ角。合ニ六句一爲ニ二句一。語有ニ䟽稜一。是短古祕訣。虎可レ搏兮牛可レ觸。奈何君獨抱ニ奇材一。手把ニ鉏犂一餓ニ空谷一。演ニ二句一爲ニ四句一。自然節奏。當今天子急ニ賢良一。匭函朝出開ニ明光一。何不ニ上レ書自薦達。坐令ニ四海如ニ虞唐一。

唐衢讀ニ此詩一。當ニ痛哭一。

### 八月十五夜贈張功曹

纖雲四卷天無レ河。清風吹レ空月舒レ波。沙平水息聲影絕。一杯相屬君當レ歌。君歌聲酸辭且苦。不レ能レ聽終淚如レ雨。以下功曹歌。洞庭連レ天九疑高。蛟龍出沒猩鼯號。十生九死到ニ官所一。幽居默默如レ藏レ逃。下レ牀畏レ蛇食畏レ藥。海氣濕蟄熏腥臊。昨者州前搥ニ大鼓一。嗣皇繼レ聖登ニ夔皐一。赦書一日行ニ萬里一。罪從ニ大辟一皆除レ死。遷者追廻流者還。滌レ瑕蕩レ垢朝ニ清班一。州家申レ名使家抑。坎軻祇得レ移ニ荊蠻一。判司卑官不レ堪レ說。未

免捶楚塵埃間。同時輩流多上道。天路幽險難追攀。（以上功曹歌。） 君歌且休聽我歌。（以下自歌。以慰功曹。）我歌今與君殊科。一年明月今宵多。人生由命非由他。（一單句破功曹憤悶。）有酒不飲奈明何。（明一作月。是。）

通篇借功曹口。末五句。用自己語成結。與送李愿序同一機軸。

謁衡嶽廟遂宿嶽寺題門樓

五嶽祭秩皆三公。（起筆非重而雄大。二句總領五嶽。） 四方環鎮嵩當中。火維地荒足妖怪。（四句偏言南嶽。）天假神柄專其雄。（語自實見來。不下與獨祭者流同。） 噴雲泄霧藏半腹。雖有絕頂誰能窮。（先言衆峯不見。是省筆法。）我來正逢秋雨節。陰氣晦昧無清風。潛心默禱若有應。豈非正直能感通。（自贊語。極要簡約。） 須臾靜掃衆峯出。仰見突兀撐青空。紫蓋連延接天柱。石廩騰擲堆祝融。森然動魄下馬拜。（結上起下敏捷。） 松柏一逕趨雲宮。粉牆丹柱動光彩。鬼物圖畫塡青紅。升階傴僂薦脯酒。欲以菲薄明其衷。廟令老人識神意。睢盱偵伺能鞠躬。（遺公本色。盡廟令醜態。） 手持杯珓導我擲。云此最吉餘難同。（不免強押。）竄逐蠻荒幸不死。（暗用第四句。）（以下自言本領。壯語不必聞日嘆嗟。故有多少力。） 衣食纔足甘長終。侯王將相望久絕。神縱欲福難爲功。

日月星辰。皆言其胸中之昭然者。是在有意無意中。

眇茫荒唐。恍惚蒼蒼。是桃源中之神理。在有意無意之間。

上流水盤回山百轉。寫洞外光景了。架嵓鑿谷開宮室以下。入正面。直寫洞中所視。是凡想所不及。

旁注。挾作插。似可

大蛇中斷二句。借漁人口中。振全篇精

夜投佛寺上高閣。（得此四句成詩）星月掩映雲朣朧。猿鳴鐘動不知曙。杲杲寒日生于東。（結句更妙）

此不獨詩之可法。公之氣魄。俯仰天地。無所怍焉。讀者須諳記服膺。

## 桃源行

神仙有無何眇茫。桃源之說誠荒唐。流水盤回山百轉。（此一句備敍光景。忽入畫去。自是大家手段。）生綃數幅垂中堂。武陵太守好事者。（二句題目。用二韻。）題封遠寄南宮下。南宮先生欣得之。波濤入筆驅文辭。文工畫妙各臻極。（一句撇開之辭。直歸畫上。）異境恍惚移於斯。（此句生下數十句。）架嵓鑿谷開宮室。接屋連牆千萬日。（三字挾年月妙。）嬴顛劉蹶了不聞。（秀句）地坼天分非所恤。（二句包含三國西晉間。）種桃處處惟開花。（畫中正面。極力形容。唯用二句。）川原遠近蒸紅霞。初來猶自念鄉邑。歲久此地還成家。漁舟之子來何所。物色相猜更問語。大蛇中斷喪前王。（此二句。一篇傑絕。）羣馬南渡開新主。聽終辭絕共淒然。自說經今六百年。（此至洞中人。始知其年數。）當時萬事皆眼見。不知幾許猶流傳。爭持酒食來相饋。禮數不同樽俎異。（因食露器用異常。）月明伴宿玉堂空。骨冷魂清無夢寐。夜半金鷄啁哳鳴。火輪飛出

神。不與截頭劉斷重複。月明火輪。是人世所同。夜半鷄鳴。是人世所望。下半篇。稍多閒語。使老杜構思。更有驚人者。

筩一本作簟。元蘄州產竹。節短者作簟。節疎者作笛。其髓者作杖。或有筩簟字。此詩。至無瑕疵。專云簟之美。次寫鄭羣所藏。則所謂豐約失度。故第二句直來寫羣所藏。此口句之法也。卻顧句。沈叟

客心驚。人間有累不可住。依然離別難爲情。船開棹進一回顧。（結語更妙。）萬里蒼蒼烟水暮。世俗寧知僞與眞。至今傳者武陵人。（僞眞應渺茫。武陵應太守。常山蛇勢。）

是詩。專溫秀。韓詩中別格。源出自王參。自是中晚口吻。

鄭羣贈簟（鄭羣上元宜有謝字。唯於華稿上。志此四字耳。）

蘄州笛竹天下知。鄭君所寶尤瓌奇。攜來當晝不得臥。（伏後段卻顧天日句。）一府傳看黃琉璃。體堅色淨又藏節。盡眼凝滑無瑕疵。法曹貧賤所易。（時公爲法曹。）腰腹空大何能爲。自從五月困暑濕。如坐深甑遭蒸炊。手磨袖拂心語口。慢膚多汗眞相宜。日暮歸來獨惆悵。有賣直欲傾家資。誰謂故人知我意。卷送八尺含風漪。（此詩之起。）呼奴掃地鋪未了。光彩照曜驚童兒。青蠅側翅蚤蝨避。（有此二句。而述謝之情至矣。）（恐自此句初。）肅肅疑有淸飈吹。倒身甘寢百疾愈。卻願天日恆炎曦。明珠青玉不足報。贈子相好無時衰。

此詩。豐約合度。嘗記此詩作七古。思過半。

酬司門盧四兄雲夫院長望秋作

評之曰。透過一層法。

長安雨洗新秋出。極目寒鏡開塵函。（恐云秋天之淸。）終南曉望蹋龍尾。（地名）倚天更覺靑巉巉。自知短淺無所補。從事久此穿朝衫。歸來得便卽遊覽。暫似壯馬脫重銜。曲江荷花蓋十里。江湖生目思莫緘。樂遊下矚無遠近。綠槐萍合不可芟。（蘯揃）白首寓居誰借問。平地寸步扃雲嵒。雲夫吾兄有狂氣。嗜好與俗殊酸鹹。日來省我不肯去。論詩說賦相誦諵。（兒童語。）望秋一章已驚絕。猶言低抑避謗讒。若使乘酣騁雄怪。造化何以當鐫劖。嗟我小生値强伴。怯膽變勇神明監。馳坑跨谷終未悔。（言世路艱。此字及用源于此。）爲利而止眞貪饞。高揖羣公謝名譽。（卽是謂張籍詩意。）遠追甫白感至誠。樓頭完月不共宿。（反題）其奈就缺行攙攙。

此非韓詩之至者。然諸本多選此詩者。又具一體可。此詩起結秀麗。所以爲韓詩。

和虞部盧四酬翰林錢七赤藤杖歌

赤藤爲杖世未窺。臺郎始擕自滇池。滇王歸宮避使者。跪進再拜語嗢咿。繩橋拄過免傾墮。性命造次蒙扶持。途經百國皆莫識。（非公不能云）君臣聚觀逐旌麾。（本使）

跪進。云跪而進杖也。嗚咽夷人缺舌。形容得妙。

天戈劍佩。皆引器物相映帶。

少陵李潮八分歌。公每慕之。及作此篇。公乃效之。起手似學其結尾。是有昔人已言之者。得之。

旁注挾。疑當作插。

効少恐效老。

（至滇。故云。）共傳滇神出水獻。赤龍拔鬚血淋漓。（三句。韓公本色。）又云羲和操火鞭。暝到西極睡所遺。幾重包裹自題署。（此句撇開示杖之意。妙。）不以珍怪誇荒夷。歸來捧贈同舍子。浮光照手欲把疑。（透過一層。）空堂晝眠倚牖戶。飛電著壁搜蛟螭。南宮清深禁闈密。唱和有類吹塤篪。妍辭麗句不可繼。見寄聊且慰分司。（此時公為分司。）

此韓公本色。非前詩之比。起首與鄭羣贈簟相似。○結似無勢。然是以隱語結尾也。且韻脚有分司字。公之用心。可以見。

## 石鼓歌

張生手持石鼓文。勸我試作石鼓歌。少陵無人謫仙死。才薄將奈石鼓何。周綱陵遲四海沸。宣王憤起揮天戈。大開明堂受朝賀。諸侯劍佩鳴相磨。蒐於岐陽騁雄俊。萬里禽獸皆遮羅。鐫功勒成告萬世。鑿石作鼓隳嵯峨。從臣才藝咸第一。揀選撰刻留山阿。（用留字。撇開周以來變遷。）雨淋日炙野火燎。鬼物守護煩撝呵。公從何處得紙本。（挾一句入紙本。敏妙。）毫髮盡備無差訛。辭嚴義密讀難曉。字躰不類隸與科。年深豈免有缺畫。快劍斫斷生蛟鼉。（以下五句。一篇精采。皆形容篆文。亦效少杜。）鸞翔鳳翥衆仙下。珊瑚

六經中無載石鼓事者。是昌黎著眼處。是及下俗書。後世多非之者。是眞鄙儒。宜乎其見愚弄。薦諸大廟比郜鼎。是滿腹感慨。爲之而作。則此篇不屬徒作。東坡續歌。多用駢語。筆力似退三舍。

碧樹交枝柯。金繩鐵索鎖紐壯。古鼎躍水龍騰梭。陋儒編詩不收入。二雅褊迫無委蛇。孔子西行不到秦。掎摭星宿遺羲娥。嗟余好古生苦晚。（二句收石鼓起下。）對此涕淚雙滂沱。憶昔初蒙博士徵。其年始改稱元和。故人從軍在右輔。爲我量度掘臼科。濯冠沐浴告祭酒。如此至寶存豈多。（此等句不可欠。）氈苞席裹可立致。十鼓秖載數駱駝。薦諸太廟比郜鼎。光價豈止百倍過。聖恩若許留太學。諸生講解得切磋。觀經鴻都尚塡咽。坐見舉國來奔波。剜苔剔蘚露節角。（是等拙句却見筆力。）安置妥帖平不頗。大廈深簷與蓋覆。經歷久遠期無他。中朝大官老於事。詎肯感激徒媕婀。牧童敲火牛礪角。誰復著手爲摩挲。日消月鑠就埋沒。六年西顧空吟哦。羲之俗書趁姿媚。（收字應元和體。）數紙尚可博白鵝。繼周八代爭戰罷。（收與應。）無人收拾理則那。（用左傳華元語。）方今太平日無事。柄任儒術崇丘軻。安能以此上論列。願借辨口如懸河。石鼓之歌止於此。（歸作石鼓之歌。）嗚呼吾意其蹉跎。（或云。東坡石鼓歌結尾。似勝之。然其俯仰感慨之意。公坡欲言。而遺是先寫去耳。）

## 東方半明

起句有以三字句首者。然以三字句結尾者。甚少。此又具一體可也。

周行。如諸位也。用詩經字。

東方半明大星沒。獨有太白配殘月。嗟爾殘月勿相疑。同光共影須臾期。殘月暉暉。大白睒睒。雞三號。（言曙光稍近。故音節亦切。）更五點。

此詩有所寄。此時順宗在位。小人執權。太子憲宗卽位。卽賢者立朝。小人被退。小人之在朝。猶東方半明將曙之間。云其須臾也。

贈鄭兵曹

罇酒相逢十載前。君爲壯夫我少年。罇酒相逢十載後。我爲壯夫君白首。我材與世不相當。戢鱗委翅無復望。當今賢俊皆周行。君何爲乎亦遑遑。盃行到君莫停手。破除萬事無過酒。

古意

太華峯頭玉井蓮。開花十丈藕如船。冷比雪霜甘比蜜。一片入口沉痾痊。我欲求之不憚遠。青壁無路難夤緣。安得長梯上摘實。下種七澤根株連。

此詩立意奇健造句流麗。○公欲使萬民登古昔聖王仁壽之域。然顯然云之嫌道學。故寓意蓮云之也。

起二句一韻。以下盡用陽韻。此法甚少。猶下疊下君不見又不見。以下直用其韻。到底篇尾。然是難師法。

天皇送楊凝郎中賀正

天皇牢落雞喔咿。（即景）僕夫起餐車載脂。正當窮冬寒未已。（過度）借問君子行安之。會朝元正無不至。（正面對語）受命上宰須及期。（餘勢）侍從近臣有虚位。公今此去歸何時。

應酬之詩。不易短古出之。此等。看其韻脚平穩。語法古雅。

聽穎師彈琴

昵昵兒女語。（二句言急而細。）恩怨相爾汝。劃然變軒昂。（二句言忽然超越。）勇士赴敵場。浮雲柳絮無根蔕。（二句言暢揚。）天地闊遠隨飛揚。喧啾百鳥羣。（是昵昵。）忽見孤鳳凰。（是劃然。）躋攀分寸不可上。（極高）失勢一落千丈強。（極低）嗟余有兩耳。（以下用五言。）未省聽絲篁。自聞穎師彈。起坐在一旁。（公本色。）推手遽止之。濕衣淚滂滂。穎乎爾誠能。無以冰炭置我腸。（一句七言。）

西清詩話。歐公以爲是琵琶詩。吳僧義海非之。且論列其妙處。今按其形容聲調處。甚不似琴聲。大與琵琶行相類。是短簡耳。歐公之說近是。疑題而彈

潔字似強押。後聯不可為者。意奇險。而法穩秀。十三字。難解。作六十。可通。恐字之誤也。起手二句。言劉之外。都是言自身。至末一句。下子共字。可以為贈劉詩。

遊況如畫。

琴彈琵琶誤歟。

## 贈劉師服

羨君齒牙牢且潔。大肉硬餅如刀截。我今呀豁落者多。(先言劉。次入自身。) 所存十餘皆兀臲。(押句沈着。當如此。) 匙抄爛飯穩送之。合口軟嚼如牛呞。妻兒恐我生悵望。盤中不飣栗與梨。(實但。却是好。) 祇今年纔四十五。後日懸知漸莽鹵。朱顏皓頸訝莫親。此外諸餘誰更數。憶昔太公仕進初。口含兩齒無贏餘。虞翻十三比豈少。遂自惋恨形於書。丈夫命存百無害。誰能檢點形骸外。(言齒無益。妙在不露筋骨。) 巨緡東釣儻可期。與子共飽鯨魚膾。(隱然以天下大政自任者。)

## 盧郎中雲夫寄示送盤谷子詩兩章。歌以和之

昔尋李愿向盤谷。正見高崖巨壁爭開張。是時新晴天井溢。(不先言雨。忽點晴字。佳佳。) 誰把長劍倚大行。衝風吹破落天外。飛雨白日灑洛陽。東蹈燕川食曠野。有饋木蕨芽滿筐。馬頭溪深不可厲。借車載過水入箱。平沙綠浪榜方口。雁鴨飛起穿垂楊。窮探極覽頗恣横。物外日月本不忙。(承上起下。) 歸來辛苦欲誰為。坐令再往之計

結語。似暴露筋骨。而其實非言自身。讀者可察而味。蓋送章之和。而言李事起句與又知李侯云云而已。故於結尾。舍著李事。其意言自身在官途。不能如李耕桑以樂生也。

隨眇茫。閉門長安三日雪。推書撲筆歌慨慷。旁無壯士遣屬和。遠憶盧老詩顚狂。公能用此等字。開緘忽覩送歸作。字向紙上皆軒昂。乃公自言。又知李侯竟不顧。方冬獨入崔嵬藏。拙句公本色。我今進退幾時決。十年蠢蠢隨朝行。家請官供不報答。無異雀鼠偸太倉。行抽手版付丞相。用俗字乃成佳。不待彈劾還耕桑。

昌黎集中。此等最饒變化。一韻到底。如有換韻之妙。東坡嘗以爲不減李杜也。

韓昌黎詩抄卷二終

# 韓昌黎詩抄 卷三

## 七律

### 答張十一功曹

山淨江空水見沙。哀猿啼處兩三家。篔簹競長纖纖筍。躑躅閑開艶艶花。未報恩波知死所。莫令炎瘴送生涯。吟君詩罷看雙鬢。斗覺霜毛一半加。

### 奉和庫部盧四兄曹長元日朝迴

天仗宵嚴建羽旄。春雲送色曉雞號。金爐香動螭頭暗。玉佩聲來雉尾高。戎服上趨承北極。儒冠列侍映東曹。太平時節難身遇。郎署何須歎二毛。

### 晉公破賊回。重拜台司。以詩示幕中賓客。愈奉和

南伐旋師太華東。天書夜到冊元功。將軍舊壓三司貴。相國新兼五等崇。鵷鷺欲歸仙仗裏。熊羆還入禁營中。長慚典午非材職。得就閑官即至公。

左遷至藍關。示姪孫湘

一封朝奏九重天。夕貶潮州路八千。欲爲聖明除弊事。肯將衰朽惜殘年。
雲橫秦嶺家何在。雪擁藍關馬不前。知汝遠來應有意。好收吾骨瘴江邊。

韓昌黎詩抄卷三終

# 韓昌黎詩抄 卷四

把酒

擾擾馳名者。誰能一日閑。我來無伴侶。把酒對南山。

酬馬侍郎寄酒

一壺情所寄。四句意能多。秋到無詩酒。其如月色何。

題楚昭王廟

邱墳滿目衣冠盡。城闕連雲艸樹荒。猶有國人懷舊德。一間茅屋祭昭王。

湘中酬張十一功曹

休垂絕徼千行淚。共泛清湘一葉舟。今日嶺猿兼越鳥。可憐同聽不知愁。

題木居士 原二

火透波穿不計春。根如頭面幹如身。偶然題作木居士。便有無窮求福人。

聞梨花發。贈劉師命

桃蹊惆悵不能過。紅艷紛紛落地多。聞道郭西千樹雪。欲將君去醉如何。

入關。詠馬

歲老豈能充上駟。力微嘗自愼前程。不知何故翻驤首。牽過關門妄一鳴。

榴花 題張十一旅舍。三詠。節二

五月榴花照眼明。枝間時見子初成。可憐此地無車馬。顚倒青苔落絳英。

蒲萄

新莖未徧半猶枯。高架支離倒復扶。若欲滿盤堆馬乳。莫辭添竹引龍鬚。

春雪

新年都未有芳華。二月初驚見艸芽。白雪却嫌春色晩。故穿庭樹作飛花。

盆池。五首 錄二

莫道盆池作不成。藕梢初種已齊生。從今有雨君須記。來聽蕭蕭打葉聲。

瓦沼晨朝水自清。小蟲無數不知名。忽然分散無蹤影。唯有魚兒作隊行。

晩春

艸樹知春不久歸。百般紅紫鬭芳菲。楊花楡莢無才思。惟解漫天作雪飛。

風折花枝

浮艶侵天難就看。清香撲地只遙聞。春風也是多情思。故揀繁枝折贈君。

過鴻溝

龍疲虎困割川原。億萬蒼生性命存。誰勸君王回馬首。眞成一擲賭乾坤。

奉和裴相公東征。途經女几山下作

旗穿曉日雲霞雜。山倚秋空劍戟明。敢請相公平賊後。暫携諸吏上崢嶸。

和李司勳過連昌宮

夾路疎槐出老根。高甍巨桷壓山原。宮前遺老來相問。今是開元幾葉孫。

次潼關先寄張十二閣老使君

荊山已去華山來。日出潼關四扇開。刺史莫辭迎候遠。相公新破蔡州廻。

題臨瀧寺

不覺離家已五千。仍將衰病入瀧船。潮陽未到吾能說。海氣昏昏水拍天。

將至韶州。先寄張端公使君。借圖經。

曲江山水聞來久。恐不知名訪倍難。願借圖經將入界。每逢佳處便開看。

游西林寺。題蕭二兄郎中舊堂 蕭兄有女出家

中郎有女能傳業。伯道無兒可保家。偶到匡山曾住處。幾行衰淚落煙霞。

夕次壽陽驛。題吳郎中詩後

風光欲動別長安。春半邊城特地寒。不見園桃并巷柳。馬頭惟有月團團。

同水部張員外。曲江春游。寄白二十二舍人

漠漠輕陰晚自開。青天白日映樓臺。曲江水滿花千樹。有底忙時不肯來。

早春呈水部張十八員外。二首 節一

天街小雨潤如酥。草色遙看近却無。最是一年春好處。絕勝花柳滿皇都。

韓昌黎詩抄卷四 大尾

春江試作江水。卽小兒語耳。此等可以悟奇凡之別。
感作見。九重深作深九重。是。
死灰濕葦等字。於有意無意間相映。

# 東坡詩鈔　卷一

賴襄子成選　後藤機校

## 五古

### 黃州寒食　節一

本集寒食二首。前詩起手雖可觀。至中段往往見病處。故今不取。如此章。實是完然傑作也。

春江欲入戶。雅麗而新奇。 雨勢來不已。小屋如漁舟。凡筆必以此起筆一顚倒。乃見東坡。 濛濛水雲裡。空庖煮寒菜。寫瑣事。亦自無郊寒島瘦之態。 破竈燒濕葦。那知是寒食。但感烏銜紙。止此三字。寒食景象 君門九重深。一轉妙絕。 墳墓在萬里。也擬哭途窮。死灰吹不起。餘音悠然。

韓蘇二公之詩。竝皆骨力過人。而其風韻之妙。韓亦輸蘇幾籌。如此篇雅健

公詩。起處每佳。以景起。以景結。念我云云。恐非即夜之事。佳結。亦是有餘韵。

雋絕。自是這老獨擅處。非韓非杜。王孟以下。宋之諸作家。夢想所不及。然近人選公詩。多收難題疊韻。難題疊韻。畢竟是公詩之病。而雋絕風韻。以不用意得之爾。是最在人品上。所不可及也。（山陽評。下同）

秋懷

海風東南來。吹盡三日雨。（盡字有味。）空堦有餘滴。似與幽人語。（奇奇。前人所未言。）念我平生歡。（交歡之歡。蓋指朋友也。）寂寞守環堵。壺漿慰作勞。裹飯救寒苦。今年秋應熟。過從飽雞黍。嗟我獨何求。萬里涉江浦。居貧豈無食。自不安畎畝。念此坐達日。殘燈翳復吐。（復歸景物。）

初秋。寄子由

百川日夜逝。（何等起手。四句眞這老本色。）物我相隨去。惟有宿昔心。依然守故處。憶在懷遠驛。閉門秋暑中。藜羹對書史。揮汗與子同。西風忽淒厲。落葉穿戶牖。子起尋裌衣。感歎執我手。朱顏不可恃。（以下四句。是子由言。）此語君莫疑。別離恐不免。功名定難期。當時已悽斷。況此兩衰老。失望既難追。學道恨不早。買田秋已議。築室春當成。

雪堂風雨夜、已作對牀聲。

自情事起筆。全篇唯是言宿昔之事。而其言卽時之景。此結末二語。是此詩之妙。後覺所可法。○全篇四句一解。六解六韻亦是五古變體。

## 歲暮寄子由。三首

### 饋歲

農功各已收。歲事得相佐。爲歡恐無及。假物不論貨。山川隨出產。貧富稱小大。賓盤巨鯉橫。（一篇采色在此二句。）發籠雙兔臥。富人事華麗。綵繡光翻座。貧者愧不能。微摯出春磨。官居故人少。里巷佳節過。亦欲舉鄉風。（非坡公不能言。）獨唱無人和。

### 別歲

故人適千里。（其所言者陳腐。而自故人下筆。卽爲奇。）臨別尙遲遲。人行猶可復。歲行那可追。問歲安所之。遠在天一涯。已逐東流水。赴海歸無時。東鄰酒初熟。西舍彘亦肥。且爲一日歡。慰此窮年悲。勿嗟舊歲別。行與新歲辭。去去勿回顧。還君老與衰。（用詼諧筆。）

### 守歲

旁評疑有脫誤。

題用紀行筆法。

起得雄偉。大家風骨。故自不同。

詩醇云。不着議論。而鬱拔縱橫之氣自寓。最是高格。

一轉出意表。奇奇妙妙。

敍引記事。因篇長短。各有詳略。此等細記。不遺一事。自與八首稱。

欲知垂盡歲。有似赴壑蛇。（譬喩出意表。而却切。）修鱗半已沒。去意誰能遮。況欲繫其尾。（韵脚。蛇押匀宜如此。）雖勤知奈何。兒童強不睡。相守夜讙譁。晨雞且勿唱。更鼓畏添撾。坐久燈燼落。起看北斗斜。明年豈無年。心事恐蹉跎。努力盡今夕。少年猶可誇。

是日至下馬磧。憩於北山僧舍。有閣曰懷賢。南直斜谷。西臨五丈原。諸葛孔明所從出師也。

南望斜谷口。三山如犬牙。西觀五丈原。鬱屈如長蛇。有懷諸葛公。萬騎出漢巴。吏士寂如水。蕭蕭聞馬檛。公才與曹丕。豈止十倍加。顧瞻三輔間。勢若風卷沙。一朝長星墜。竟使蜀婦髽。山僧豈知此。一室老烟霞。往事逐雲散。故山依渭斜。（歸到起首。）客來空弔古。清淚落悲笳。

東坡。八首

余至黃二年。日以困匱。故人馬正卿。哀余乏食。爲於郡中。請故營地數十畝。使得躬耕其中。地既久荒。爲茨棘瓦礫之場。而歲又大旱。墾闢之勞。筋力殆盡。釋耒而歎。乃作是詩。自愍其勤。庶幾來歲之入以忘其勞

此詩源于淵明。而其面目不同。旁注所字。疑當作處。端。正字意。云公正當拾瓦礫之時也。

桑果好竹等句。如此下筆。便不板。

雨到。與前詩欲剖句。並微見語品不高。

焉。

廢壘無人顧。（此等所。使白香山作之。必用對語。）頽垣滿蓬蒿。誰能捐筋力。（押勻宜如此切實。）歲晚不償勞。獨有孤旅人。天窮無所逃。端來拾瓦礫。歲旱土不膏。崎嶇艸棘中。（云崎嶇于草棘中也。）欲剖一寸毛。（剖字自毛字生來。）喟焉釋耒歎。我廩何時高。（分用詩經高廩字妙。）

又

荒田雖浪莽。（古調）高庳各有適。下濕種秔稌。東原蒔棗栗。江南有蜀士。桑果已許乞。好竹不難栽。（異樣不俗。）但恐鞭橫逸。（細膩）仍須卜佳處。規以安我室。家童燒枯艸。走報暗井出。一飽未敢期。（收結起意妙句。）瓢飲已可必。

此詩。八首中之最者也。奇絕佳絕。此坡公本色。

又

自昔有微泉。來從遠嶺背。穿城過聚落。流惡壯蓬艾。（言惡水流蓬艾長。）去爲柯氏陂。十畝魚鰕會。歲旱泉亦竭。枯萍粘破塊。（形容旱竭得妙。此一篇精采處。）昨夜南山雲。雨到一犁外。泫然尋故瀆。（此公本色。非公不能言者。）知我理荒薈。泥芹有宿根。一寸嗟獨在。雪芽何時動。

此詩。八首中。是爲中權。極用細膩之筆。看他坡公極力處。

古朴

通篇極古調。結尾用精采句。是宋詩之所以爲貴也。

春鳩行可膾。春字有味。試作鳩肉。便不振。

又

種稻清明前。自是八首中起手。樂事我能數。一篇運轉句。毛空暗春澤。蜀人細雨云雨毛。稻初生云鍼水。鍼水聞好語。分秧及初夏。漸喜風葉舉。言稻葉漸長。擧揚于風也。月明看露上。一一珠垂縷。擧縷押韻俱佳。秋來霜穗重。顛倒相撐拄。但聞畦壠間。蚱蜢如風雨。蝗飛如風雨。新春便入甑。玉粒照筐筥。我久食官倉。自玉粒句一轉來。轉法可學。紅腐等泥土。行當知此味。口腹吾已許。

又

良農惜地力。幸此十年荒。桑柘未及成。一麥庶可望。投種未踰月。覆塊已蒼蒼。農父告我言。勿使苗葉昌。君欲富餅餌。要須縱牛羊。再拜謝苦言。得飽不敢忘。

又

種棗期可剝。古調。種松期可斲。事在十年外。吾計亦已愨。十年何足道。進一層轉來。此東坡本色。千載如風雹。舊聞李衡奴。此策疑可學。我有同舍郎。李公擇也。官居在灊岳。遺我三寸柑。照坐光卓犖。百栽儻可致。當及春冰渥。下字妙妙。想見竹籬間。無此二句。全篇便索然。

中段極往復。而起結最佳。亦不可不收。諸選遺之。何

青黃垂屋角。

又

潘子久不調。沽酒江南村。郭生本將種。賣藥市西垣。古生亦好事。沽酒與賣藥同事。變局而一如此。是化板爲活法。恐是押牙孫。富平縣俠客也。家有十畝竹。無時客叩門。我窮交舊絕。三子獨見存。從我於東坡。勞餉同一飧。可憐杜拾遺。事與朱阮論。梅熟許同朱老喫。松高擬對阮生論。吾師卜子夏。四海皆弟昆。

又

馬生本窮士。從我二十年。日夜望我貴。求分買山錢。我今反累生。借耕輟茲田。刮毛龜背上。何時得成氈。可憐馬生癡。至今夸我賢。衆笑終不悔。施一當獲千。

此篇。歸到自己身上畢篇。

和子由記園中艸木。十一首

煌煌帝王都。煌字對起。音調極古。又對三四當複一聯。古法自然。赫赫走群彥。嗟汝獨何爲。閉門觀物變。微物豈足觀。觀字連下作。汝獨觀不倦。牽牛與葵蓼。是一物。是二物。採摘入詩卷。此等語稍似害古調。吾

哉。開門觀羣彥走。閉門觀微物。微物亦可以觀變。比喩。在讀者得之言外爾。

旁評押韵。疑强押誤。

聞東山傳。置酒携嬿婉。富貴未能忘。聲色聊自遣。汝今又不然。時節看瓜蔓。懷寶自足珍。此等處。見非徒作也。藝蘭那計畹。吾歸於汝處。愼勿嗟歲晚。

此詩。十一首之冒頭。此篇以下。並似有比喩。然未必每章鑿之可。

又

荒園無數畝。艸木動成林。春陽一已敷。妍醜各自矜。起下蒲萄雖滿架。困倒不能任。是小人。可憐病石榴。花如破紅襟。是君子。葵花雖燊燊。滯淺不勝簪。不任用叢蓼晚可喜。輕紅隨秋深。是晚進。物生感時節。此理等廢興。逗漏本意。飄零不自由。先言零。次言盛。使佳。若一顚有何味。盛亦非汝能。

此諸篇中。最爲佳。讀者要看其下句下字著切處。每二句言一物。寫得如見。

又

種栢待其成。栢成人已老。不如種叢篁。春種秋可倒。倒字似押韵。然味之甚切。陰陽不擇物。美惡隨意造。栢生何苦艱。似亦費天巧。天工巧有幾。肯盡爲汝耗。君看藜與藿。生意常艸艸。

二物之形容。其妙殆使人失咲。後之咏物家。百思不能出者。

疊秋瓜。最妙。是此詩之所以可味。結處。不言必復點秋瓜。乃見詩品。

又

萱艸雖微花。（是君子）孤秀能自拔。亭亭亂葉中。一一芳心插。牽牛獨何畏。（是小人）詰曲自芽蘗。走蔓荊與榛。如有宿昔約。南齋讀書處。亂翠曉如潑。偏工貯秋雨。歲歲壞籬落。此傾朝廷。

又

蘆筍初似竹。稍開葉如蒲。方春節抱甲。漸老根生鬚。不愛當夏綠。愛此及秋枯。黃葉倒風雨。白花搖江湖。江湖不可到。移植苦勤劬。安得雙野鴨。飛來成畫圖。非公亦能言。

此章蓋無寓意。此恐諸章中最下者。

又

行樂惜芳晨。秋風常苦早。誰知念離別。喜見秋瓜老。秋瓜感霜霰。莖葉颯已槁。宦遊歸無時。身若馬繫皁。悲鳴念千里。耿耿志空抱。多憂竟何爲。使汝玄髮縞。

又

言君子爲小人所阻。要在人主辨之。然不必爲此。亦可。

官舍有叢竹。結根間因廳。下爲人所徑。土密不容釘。殷勤戒吏卒。揷棘護中庭。遶砌忽墳裂。走鞭瘦玲瓏。我常携枕簟。來此蔭寒青。日暮不能去。臥聽颸風冷。

又

芎藭生蜀道。白芷來江南。漂流到關輔。猶不失芳甘。濯濯翠莖滿。愔愔清露涵。及其未花實。可以資筐盤。秋節忽已老。苦寒非所堪。剷根取其實。對此微物慙。

韻脚不穩。

又

自我來關輔。南山得再遊。山中亦何有。艸木媚深幽。雖然日比。菖蒲人不識。生此亂石溝。山高雪霜苦。苗葉不得抽。下有千歲根。蹙縮如蟠虬。長爲鬼神守。德薄安敢偸。

全首神韻有不可言者。陶詩時見此種。

又

我歸自南山。山翠猶在目。目字生心字。心字生夢字。心隨白雲去。夢遶山之麓。汝從何方來。

菊與蛩。似比子由及已。

一結出意表。自東坡本色。而意歸到小摘山僧句。短篇宜有此轉環處。自下緊當有是字。

笑齒粲如玉。探懷出新詩。秀語奪山綠。是坡公本色句。然不必以此概通首古調。不尤可也。覺來已茫昧。但記說秋菊。起下。有如採樵子。入洞聽琴筑。歸來寫遺聲。猶勝人間曲。

又

野菊生秋澗。芳心空自知。無人驚歲晚。唯有暗蛩悲。花開澗水上。兩句澗字自起生來。花落澗水湄。菊衰蛩亦蟄。試作菊開蛩亦出。便小兒語耳。與汝歲相期。楚客方多感。秋風詠江蘺。落英不滿掬。何以慰朝饑。

每篇竝皆古調。非此詩之古韵。不足以之壓尾。

雨後行菜

夢回聞雨聲。五字品格不下王孟。喜我菜甲長。我字試作得字便不振。平明江路濕。竝岸飛兩槳。玆猶循。孟子循海至琅琊。天公眞富有。乳膏瀉黃壤。淵明語氣。霜根一蕃滋。風葉漸俯仰。未任筐筥載。已作盃盤想。東坡本色。艱難生理窄。一味敢專饗。小摘飯山僧。淸安寄眞賞。芥藍如菌蕈。以下極細寫。脆美牙頰響。白菘類羔豚。冒土出蹯掌。誰能視火候。小竈當自養。除二語

攜其妻子。登鹿門山。因不返。德公上先人墓。德操至其堂云。徐元直約來就我。與德公談。諸葛孔明每至德公家。獨拜牀下。茅容殺鷄爲饌。林宗以爲已設。既而供母。自以草蔬與客同飯。閔仲叔豈以口腹累人邪。公外制集序。談金鑾。自歎得來者。

言送君雖無

此詩。自公之別調。受淵明之神理。而構之以宋詩者。○天公句。氣品不高。一篇中白璧微瑕。此等句。稍覺後人不可倣。

送千乘千能兩姪還鄉

治生不求富。讀書不求官。譬如飮不醉。陶然有餘歡。其句其識見。並絕頂好譬喩。宋詩人夢想所不及。勝一篇經訓。君看龐德公。白首終泥蟠。豈無子孫念。顧獨遺以安。鹿門上冢回。牀下拜龍鸞。躬耕竟不起。耆舊節獨完。念汝少多難。氷雪落綺紈。五子如一人。奉養眞色難。烹鷄獨饋母。自甕苜蓿盤。口腹雖累人。寧我食無肝。西來四千里。敝袍不言寒。至此初及姪。秀眉似我兄。亦復心閑寬。忽然捨我去。歲晩留餘酸。我豈軒冕人。公時爲翰林學士。青雲意先闌。汝歸蒔松菊。環以青琅玕。樾陰三年成。可以挂吾冠。淸江入城郭。敍故里之景。小圃生微瀾。相從結茆舍。曝背讀金鑾。見仕宦不終生也。

此詩。平叙無他奇。唯見作者識見耳。

送運判朱朝奉入蜀

藹藹青城雲。娟娟峨眉月。雲月不必青城峨眉之物。而專言之却有味。隨我東北來。照我光不滅。我在

一物。此江吾時時所夢之處。若到此江。則幸想吾矣之意也。是此詩之主意。而不使讀者知之矣。

泉石字。與前雲月字。於有意無意間照應。

清遒儁逸。五古最至者。

旁評是字疑

塵土中。白雲呼我歸。上云青城雲。故呼字有味。我游江湖上。明月濕我衣。濕字試作照。便平凡。起夢句。岷峨天一方。雲月在我側。謂是山中人。相望了不隔。此公常談。自有禪氣。夢尋西南路。起清江句。默數長短亭。似聞嘉陵江。跳破吹錦屏。破疑波。一本作枕。送君無一物。清江飲君馬。路穿慈竹林。父老拜馬下。不用驚走藏。使者我友生。聽訟如家人。細說為汝評。若逢山中友。問我歸何日。為話腰脚輕。猶堪踏泉石。

五古每四句換韻。其法自六朝來。看此詩。要看其首尾相貫。神氣流通。常山蛇勢處。起手似自天外出。然此詩本意所命。在清江飲君馬之句。故以所見之雲月起夢。以夢起清江也。

## 端午遍遊諸寺得禪字

肩輿任所適。起手佳。遇勝輒留連。焚香引幽步。酌茗開淨筵。不必點寺字。是寺內妙。妙是寺上。疑脫自字。微雨止還作。小窗幽更妍。盆山不見日。景況如見。草木自蒼然。忽登最高塔。一轉折出遠景。令人驚絕。眼界窮大千。卞峰照城郭。以對使取上。是省筆法。震澤浮雲天。深沈既可喜。括前二韻起下一韻。曠蕩亦所便。幽尋未云畢。墟落生晚煙。是塔上所見也。倒置乃不凡。歸來記所歷。耿耿清不

百忙中挿ニ議論一。極敏妙。忽言ニ籬菊一。似ニ命意岐一。古人之不レ拘如レ此。

レ眠。道人亦未レ寢。孤燈同ニ夜禪一。結筆亦超然。

宿臨安淨土寺

鷄鳴發ニ餘杭一。二字尤佳。到レ寺已亭午。參禪固未レ暇。飽食良先務。平生睡不レ足。坡翁慣家語。急掃清風宇。閉レ門羣動息。香篆起ニ煙縷一。覺來烹ニ石泉一。紫筍發ニ輕乳一。細膩晚涼沐浴罷。衰髮稀可レ數。浩歌出レ門去。暮色入ニ村塢一。微月半隱レ山。圓荷爭瀉レ露。只寫ニ一物一。其餘景況。不レ言而可レ想。妙妙。相攜石橋上。夜與ニ故人一語。是即月微隱レ山之時也。倒置如レ此便佳。明朝入ニ山房一。石鏡炯當レ路。昔照熊虎姿。今爲ニ猿鳥顧一。廢興何足レ弔。萬世一仰俯。就ニ此一物一即收レ筆。不ニ以ニ憂一不レ管ニ到前面一後覺悟ニ入ニ此法一。乃令ニ人刮目一。

竹

今日南風來。吹亂庭前竹。起得。東坡五古之起。宜レ有ニ如レ此用力句一。亂字字眼。低昂中ニ音會一。甲刃紛相觸。實際如レ此。寫得却新奇。蕭然風雪意。可レ折不レ可レ辱。許大議論。說ニ自己身上一。而不レ見ニ其痕迹一。妙妙。風霽竹已回。如霽忽之聲言忽止也。猗猗散ニ青玉一。故山今何有。秋雨荒ニ籬菊一。此君知健否。歸掃ニ南軒宿一。餘音悠然。

此詩東坡本色。其清淡簡逸如ニ淵明一。其精悍如ニ昌黎一。其用筆周到如ニ放翁一。而

此等詩。極清高者。定何物三字。若作如君子。便俗陋。此中隱然見以清風自比也。

翁無此氣格高絕處。

雨中看牡丹

霧雨不成點。自雨下筆。便不凡。映空疑有無。時於花上見。的皪走明珠。秀色洗紅粉。暗香生雪膚。黃昏更蕭瑟。絕妙形容。頭重欲相扶。

此等詩。東坡中一種出色。極細膩清高者。所謂大家無不有者。

與王郎昆仲及兒子邁。遶城觀荷花。登峴山亭。晚入飛英寺 原四

清風定何物。可愛不可名。所至如君子。草木有嘉聲。四句妙喩。非東坡不能言。我行本無事。孤舟任斜横。中流自偃仰。適與風相迎。舉杯屬浩渺。樂此兩無情。歸來兩谿間。雲水夜自明。

題楊公春蘭

春蘭如美人。不採羞自獻。時聞風露香。蓬艾深不見。丹青寫眞色。欲補離騷傳。對之如靈均。冠佩不敢燕。

書鄢陵王主簿所畫折枝 原二

此等詩。兵法所謂辭險而節短者。

徐州俗。送太守以生華。

瘦竹如幽人。幽花如處女。就所見起想。低昂枝上雀。借雀形容他物妙。搖蕩花間雨。雙翎決將起。衆葉紛自舉。可憐採花蜂。淸蜜寄兩股。若人富天巧。春色入毫楮。懸知君能詩。寄聲求妙語。

高郵陳直躬處士畫雁　原二

野雁見人時。未起意先改。君從何處看。得此無人態。無乃槁木形。人禽兩自在。北風振枯葦。下半篇不出雁字。言景物而雁在其中。微雪落璀璀。慘淡雲水昏。晶熒沙礫碎。弋人悵何慕。一舉渺江海。暗說君人。

此詩於前五首中尤勝者。妙語非公不能道出。

罷徐州。往南京。馬上走筆。寄子由。

吏民莫扳援。歌管莫淒咽。用二莫字。是省語法。吾生如寄耳。寧獨爲此別。別離隨處有。悲惱緣愛結。而我本無恩。此涕誰爲設。紛紛等兒戲。鞭鐙遭割截。道邊雙石人。幾見太守發。有知當解笑。撫掌冠纓絕。

父老何自來。花枝裹長紅。洗盞拜馬前。請壽使君公。前年無使君。魚鼈化兒童。

白香山詩中。有使君公字。是非強押。

用倒語。舉鞭謝父老。正坐使君窮。窮人命分惡。所向招災凶。水來非吾過。去亦非吾功。

泛潁

我性喜臨水。得潁意甚奇。到官十日來。九日河之湄。吏民笑相語。使君老而癡。使君實不癡。流水有令姿。遶郡十餘里。不駛亦不遲。上流直而清。下流曲而漪。畫船俯明鏡。笑問汝爲誰。忽然生鱗甲。亂我須與眉。散爲百東坡。頃刻復在茲。此豈水薄相。與我相娛嬉、聲色與臭味。顚倒眩小兒。等是兒戲物。水中少磷緇。趙陳兩歐陽。同參天人師。觀妙各有得。共賦泛潁詩。

贈眼醫王生彥若

鍼頭如麥芒。氣出如車軸。間關絡脈中。性命寄毛粟。而況淸淨眼。內景含天燭。琉璃貯沆瀣。輕脆不任觸。而子於其間。來往施鋒鏃。笑談紛自若。觀者頸爲縮。運鍼如運斤、去翳如拆屋。常疑子善幻。他技雜符祝。子言吾有道。此理君未矚。形骸一塵垢、貴賤兩草木、世人方重外。妄見瓦與玉。而我初不知。刺眼如刺肉。

君看日與翳。是翳要非目。目翳苟二物。易分如麥菽。寧聞老農夫。去草更傷穀。
鼻端有餘地。肝膽分楚蜀。吾於五輪間。蕩蕩見空曲。如行九軌道。並驅無擊轂。
空花誰開落。明月自朏朒。請問樂全堂。忘言老尊宿。公自註。彥若樂全先生門下醫也。

新居

朝陽入北林。竹樹散疎影。短籬尋丈間。寄我無窮境。舊居無一席。逐客猶遭屏。
結茅得茲地。翳翳村巷永。數朝風雨涼。畦菊發新穎。俯仰可卒歲。何必謀二頃。

送蘇伯固。效韋蘇州。

三度別君來。此別眞遲暮。白盡老髭鬚。明日淮南去。酒罷月隨人。淚濕花如霧。
後夜逐君還。夢繞江南路。

# 東坡詩鈔卷一終

此公不用意而成者。然諸作家無及此者。

尋下得成佳。意與促字同。落日字雅雋。作暮色晚景等字。便不健。起結皆佳。

此等天然七言。讀者須要看下他下句。無一字可搖動也。

# 東坡詩鈔　卷二

## 七古

### 游金山寺

我家江水初發源。宦游直送江入海。聞道潮頭一丈高。暗伏末段江神。天寒尚有沙痕在。中冷南畔石盤陀。古來出沒隨濤波。試登絕頂望鄉國。江南江北青山多。羈愁畏晚尋歸楫。山僧苦留看落日。微風萬頃靴文細。斷霞半空魚尾赤。是時江月初生魄。二更月落天深黑。江心似有炬火明。飛焰照山棲鳥驚。悵然歸臥心莫識。非鬼非人竟何物。自注。是夜所見如此。江山如此不歸山。江神見怪驚我頑。我謝江神豈得已。有田不歸如江水。

### 臘日游孤山訪惠勤惠思二僧

天欲雪。雲滿湖。宜下爲三字句讀。樓臺明滅山有無。水清出石魚可數。林深無人鳥相呼。

臘日不歸對妻孥。名尋道人實自娛。（自是坡翁語。）　道人之居在何許。寶雲山前路盤紆。孤山孤絶誰肯廬。道人有道山不孤。紙窓竹屋深自暖。擁褐坐睡依團蒲。天寒路遠愁僕夫。整駕催歸及未晡。出山廻望雲木合。但見野鶻盤浮圖。茲游淡薄歡有餘。（作此詩根本。全在下四句。）到家怳如夢蘧蘧。作詩火急追亡逋。（一篇所成。先得此二句乎。）　清景一失後難摹。

海市。并引

予聞登州海市舊矣。父老云。常出於春夏。今歲晚。不復見矣。予到官五日而去。以不見爲恨。禱於海神廣德王之廟。明日見焉。乃作此詩。

東方雲海空復空。（自所聞起筆。）　群仙出沒空明中。蕩搖浮世生萬象。豈有貝闕藏珠宮。心知所見皆幻影。敢以耳目煩神工。歲寒水冷天地閉。爲我起蟄鞭魚龍。重樓翠阜出霜曉。異事驚倒百歲翁。人間所得容力取。世外無物誰爲雄。率然有請不我拒。信我人厄非天窮。潮陽太守南遷歸。喜見石廩堆祝融。自言正直動山鬼。豈知造物哀龍鍾。信眉一笑豈易得。神之報汝亦已豐。斜陽萬里孤鳥沒。

此詩與上詩。竝皆見其風韻。押韻之切如此者。皆見其詩之妙。

放翁夜聞松

言海市已滅之跡。此二句極妙。但見碧海磨青銅。歸宿起手空復空處。新詩綺語亦安用。相共變滅隨東風。

此詩。與呂黎謁衡岳廟詩。欲相敵。故句亦與彼同。然彼極莊重。而此極流麗。帶嘲咲之氣。竝皆本領而已。然畢竟不如呂黎之莊重。爲得古詩之體也。〇詩醇曰。海市。只是重樓翠阜。此固不盡形容。亦正不能形容也。從未見之前。既見之後。與歲晚得見之異。結撰至思。煒煒精光。欲奪人目。然此不寬破坡翁者。若極形容。使與衡岳廟詩合掌。反此東坡苦心處。

再過泗上

眼明初見淮南樹。淮南樹再所見。眼明字甚切。十客相逢九吳語。旅程已付夜帆風。此非舟中之人。即言所逢之舟。或堤上行人也。言至淮南漸近也。客睡不妨背船雨。黃柑紫蟹見江海。紅稻白魚飽兒女。慇懃買酒謝船師。千里勞君勤轉櫓。櫓字成結。乃古體然耳。

泗州僧伽塔

我昔南行舟繫汴。以下六句。質樸如不肆者。七古之體宜如此。逆風三日沙吹面。舟人共勸禱靈塔。香

譬有感詩。學坡此詩。並看其氣格高下自見。

篇尾想像不見之景。妙妙。

六句中。叙大風之景。開合抑揚。波瀾頓挫。盡具此。以有塔上云云句耳。

火未收旗脚轉。回頭頃刻失長橋。實際如見。却到龜山未朝飯。至人無心何厚薄。我自懷私欲所便。耕田欲雨刈欲晴。去得順風來者怨。若使人人禱輒遂。造物應須日千變。我今身世兩悠悠。去無所逐來無戀。得行固願留不惡。每到有求神亦倦。退之舊云三百尺。澄觀所營今已換。不嫌俗士汙丹梯。神聖自至人無心句來。一看雲山遶淮甸。此句所以留不惡。

大風留金山兩日

書題極簡潔。而金山之形勢如見。此等尤可法者。

塔上一鈴獨自語。自大風將來。着筆極妙。明日顚風當斷渡。朝來白浪打蒼崖。白浪與蒼崖句中爲對。倒射軒牕作飛雨。龍驤萬斛不敢過。漁艇一葉從掀舞。細思城市有底忙。却笑蛟龍爲誰怒。嘲笑語調。古來。今東坡一人耳。無事久留童僕怪。此風聊得妻孥許。灊山道人獨何事。如此結法。他人所無。五古猶可。如七古必不可用此等。後來不可學者。夜半不眠聽粥鼓。

東坡詩鈔卷二終

# 東坡詩鈔 卷三

## 七古

辛丑十一月十九日。（別時之月日不可忘。人之常情。故今具記之。此亦可法者。）既與子由別於鄭州西門之外。馬上賦詩一篇寄之。

不飲胡爲醉兀兀。此心已逐歸鞍發。歸人猶自念庭闈。今我何以慰寂寞。登高回首坡隴隔。惟見烏帽出復沒。（作樹間見烏帽。乃不振。）苦寒念汝衣裘薄。獨騎瘦馬踏殘月。（騎馬所以得見烏帽。）路人行歌居人樂。僮僕怪我苦悽惻。亦知人生要有別。（亦字我亦知之意。）但恐歲月去飄忽。寒燈相對記疇昔。夜雨何時聽蕭瑟。君知此意不可忘。愼勿苦愛高官職。

此篇不押韻。念庭闈。與不可忘。纔二處耳。此法。老杜往往有之。彼每句用韻者。以語意促迫耳。此篇變過。故置此二句以緩節奏也。

前面用倒入筆法。使不平直。
困窮之事。穩當之筆。
每解爲二一絕句。

吾謫海南。子由雷州被命。卽行。了不相知。至梧。廼聞尙在藤也。旦夕當追及。作此詩示之。

九疑聯緜屬衡湘。景中有情。極妙妙。或云。東坡敍景處卽無情。是未深考。蒼梧獨在天一方。孤城吹角煙樹裏。落日未落江蒼茫。幽人拊枕坐歎息。挿此二句。使不凡。我行忽至舜所藏。江邊父老能說子。白鬚紅頰如君長。采色莫嫌瓊雷隔雲海。聖恩尙許遙相望。其言如此。意益可憐似優。平生學道眞實意。豈與窮達俱存亡。天其以我爲箕子。要使此意留要荒。此遊奇絕冠平生。他年誰作輿地志。海南萬里眞吾鄕。此等處用穩當之筆。使讀者却沈痛。

詩醇云。水天景色。離合情懷。極排解。乃極沈痛。此與前詩所以異也。

邇英講後。賜御書。進詩表謝。

繡裳畫衮雲垂地。起手如畫。不作成王剪桐戲。日高黃繖下西淸。風動槐龍舞交翠。自注。邇英閣前有雙槐。樛然屬地。如龍形。壁中蠹簡今千年。是論語。漆書科斗光射天。諸儒不復憂吻燥。東宮賜酒如流泉。轉處不費言。酒酣復拜千金賜。一紙驚鸞回鳳字。蒼顏白髮便生光。袖有驪珠三十四。押韵大切。乃知坡公先得此一解。而後構思。綴前後上也。自注。臣所賜書。并題目。及臣姓名。凡三十四字。　歸來

車馬已喧闐。如此四句。自是一個好絕句。　爭看銀鉤墨色鮮。人間一日傳萬口。喜見雲章第一篇。自注。上前此未嘗以御書賜羣臣。　玉堂晝掩文書靜。鈴索不搖鐘漏永。莫言弄筆數行書。須信時平由主聖。大羊散盡沙漠空。自主聖入當今時勢。無此乃徒作耳。何足為東坡。　捷烽夜到甘泉宮。似聞指揮築上郡。已覺談笑無西戎。自注。時熙河新獲鬼章。是日涇原復奏夏賊數十萬人遁去。〇此一解興下一解。可合看。文思天子師文母。杜牧故事。終閉王關辭馬武。小臣願對紫薇花。試草尺書招贊普。

自注。按唐制。翰林學士帶知制誥。許綴中書舍人班。今臣以知制誥待罪禁林。故得以紫薇為故事。

九月十五日。邇英講論語終篇。賜執政講讀史官燕於東宮。又遣中使就賜御書詩各一首。臣軾得紫薇花絕句。其詞云。絲綸閣下文書靜。鐘鼓樓中刻漏長。獨坐黃昏誰是伴。紫薇花對紫薇郎。翌日。各以表謝。又進詩一篇。臣軾云。

此詩極莊雅。臺閣之體。宜然者。與其平生變化活動之詞。所謂大家無不有者。

河復。并序

注鉅野。入淮泗。自澶魏以北。皆絶流而濟。楚大被其害。彭城門下。水二丈八尺。七十餘日不退。淵下有此。乃作河復詩。歌之道路。以致民願。而迎神體。蓋守土者之志地。塞乎下如此。此序原文如此。不知何故改而刪之。當問之面受者。

熙寧十年秋。河決澶淵。彭城吏民疲於守禦。十月廿三日澶州大風終日既止。河流一枝、已復故道。聞之喜甚。庶幾可塞乎。作詩歌之。

君不見西漢元光元封間。河決瓠子二十年。鉅野東傾淮泗滿。楚人恣食黃河鱣。萬里沙回封禪罷。初遣越巫沈白馬。河公未許人力窮、薪芻萬計隨流下。吾君仁聖如帝堯。百神受職河神驕。帝遣風師下約束。北流夜起澶州橋。東風吹凍收微淥。神功不用淇園竹、楚人種麥滿河淤、仰看浮槎棲古木。

和李邦直沂山祈雨有應

高田生黃埃。下田生蒼耳。蒼耳亦已無。更問麥有幾、蛟龍睡足亦解慙、二麥枯時雨如洗。不知雨從何處來。但聞呂梁百步聲如雷。試上城南望城北、際天菽粟青成堆。飢火燒腸作牛吼。不知待得秋成否。半年不雨坐龍慵。共怨天公不怨龍。今朝一雨聊自贖、龍神社鬼各言功。無功日盜太倉穀、嗟我與龍同此責。勸農使者不汝容。因君作詩先自劾。

贈寫御容妙善師

憶昔射策干先皇。珠簾翠幄分兩廂。紫衣中使下傳詔。跪奉冉冉聞天香。仰觀眩晃日生暈。但見曉色開扶桑。迎陽晚出步就坐。絳紗玉斧光照廊。野人不識日月角、彷彿尚記重瞳光。三年歸來眞一夢。橋山松檜淒風霜、天容玉色誰敢畫、老師古寺晝閉房、夢中神授心有得。覺來信手筆已忘。幅巾常服儼不動。孤臣入門涕自滂。元老侑坐鬚眉古。虎臣立侍冠劍長。平生慣寫龍鳳質。肯顧草間猿與麞。都人踏破鐵門限、黃金白璧空堆牀。爾來摹寫亦到我。謂是先帝白髮郎。不須覽鏡坐自了。明年乞身歸故鄉。

贈寫眞河充秀才

君不見潞州別駕眼如電。左手挂弓橫撚箭。又不見雪中騎驢孟浩然。皺眉吟詩肩聳山。飢寒富貴兩安在。空有遺像留人間。此身常擬同外物。浮雲變化無蹤跡。問君何苦寫我眞。君言好之聊自適。黃冠野服山家容。意欲置我山岩中。勳名將相今何限。往寫襃公與鄂公。

慶源宣義王丈、以累舉得官。爲洪雅主簿、雅州戶掾。遇吏如家人。人安樂

七古。要學此質俚處。若過清麗。便陷平弱。唬字號字。並起怒字。着時有一句。便見慶源之爲民所愛。陽城爲道州刺史。觀察使謂。當上考功第。城自署曰。撫字心勞。徵科政拙。宜考下下。瑞草慈姥青衣。皆蜀地名。常所想像之處。可以見古人不徙出地名也。且伏下鄰舍字。左傳。澤中之晳。實興我役。邑中之黔。實

之。既謝事。居眉之青神瑞艸橋。放懷自得。有書來索紅帶。既以遺之。且作詩爲戲。請黃魯直學士秦少游賢良。各賦一首。爲老人光華。

青衫半作霜葉枯。（單刀直入法。下伏紅帶。）遇民如兒吏如奴。吏民莫作官長看。我是識字耕田夫。妻唬兒號刺史怒。時有野人來挽鬚。拂衣自注下下考。芋魁飯豆吾豈無。歸來瑞草橋邊路。獨游還佩平生壺。（杜牧詩云。獨佩一壺遊。秋毫太山小。）慈姥嵒前自呼渡。青衣江畔人爭扶。今年蠶市數州集。中有遺民懷袴襦。邑中之黔相指似。白髯紅帶老不癯。我欲西歸卜鄰舍。（至此方及已事。）隔墻拊掌容歌呼。不學山王乘駟馬。回頭空指黃公壚。（引一典故的切甚。且省多少筆。引典故當以此等爲法。）

次韻王鞏獨眼

居士身心如槁木。（自莊子來。）旅館孤眠體生粟。（飛燕外傳。體無軫粟。）誰能相思琢白玉。服藥千朝償一宿。（太平廣記。服藥千朝。不如獨臥一宵。）天寒日短銀燈續。欲往從之車脫軸。（用虛字。寫流動之勢。）何人吹斷參差竹。泗水茫茫鴨頭綠。（餘音悠然。）

東坡詩。次韻詩多過用典故。而乏詩本色者。如此詩。風調高邁。次韻詩中難

獲我心。王。言王戎也。山。言山濤也。然恐嵇康之説。山濤不嘗過黄公壚也。李謩吹笛。山石可裂。結末。放翁之輩。間有之。然氣味不及此高邁。是所以南北之有異歟。

得者。○廬同詩。白玉璞裏琢出相思心。黄金鑛裏鑄出相思淚。

與梁左藏會飲傳國博家

將軍破賊自草檄。論詩説劍俱第一。彭城老守本虚名。識字劣能欺項籍。風流別駕貴公子。欲把笙歌暖鋒鏑。下暖字妙。紅旆朝開猛士噪。翠帷暮卷佳人出。東堂醉臥呼不起。似與上不相接。是詩品之所以高。啼鳥落花春寂寂。試教長笛傍耳根。承笙歌字神理來。一聲吹裂堦前石。餘音悠然。

聽賢師琴

大絃春温和且平。小絃廉折亮以清。平生未識宮與角。四字一篇眼目。但聞牛鳴盎中雉登木。門前剝啄唯叩門。山僧未閑君勿嗔。歸家且覓千斛水。非東坡不能言。淨洗從前箏笛耳。精法除穎師琴詩。

歐公問東坡琴詩何者最佳。東坡舉退之穎師琴詩答之。公云是琵琶詩。義海聞之曰。公不精琴。故云爾耳。如東坡此詩。反不如退之之切。所以不可不輸也。

此寄題詩。自樂山構思。遂撤開題。

此詩。一韵到底。而變化無數。與老杜哀王孫哀江頭等。同一手段。

越州張中舍壽樂堂

青山偃蹇如高人。（如文破題。）常時不肯入官府。高人自與山有素。（如承題。）不待招邀滿庭戶。臥龍蟠屈半東州。萬室鱗鱗枕其股。背之不見與無同。（此句多虛字。與上景句相稱。）狐裘反衣無乃魯。張君眼力覷天奧。能遣荊棘化堂宇。持頤宴坐不出門。（插合起首。）收攬奇秀得十五。才多事少厭閑寂。（常時不入官府的人。）臥看雲烟變風雨。筍如玉筋椹如簪。強飲且爲山作主。不憂兒輩知此樂。（二句東坡本色。）但恐造物怪多取。（注射篇首。）春濃睡足午牕明。（青山妍明處。）想見新茶如潑乳。

百步洪遺同游參寥師。

長洪斗落生跳波。輕舟南下如投梭。水師絕叫鳧雁起。亂石一線爭磋磨。有如兎走鷹隼落。（下筆雖躍奮迅。四句宜作一句讀之。）駿馬下注千丈坡。斷絃離柱箭脫手。飛電過隙珠翻荷。四山眩轉風掠耳。但見流沫生千渦。嶮中得樂雖一快。何異水伯夸秋河。（自莊子來。）我生乘化日夜逝。（是關。無此四句。便小兒語耳。）坐覺一念逾新羅。（本傳燈錄。）紛紛爭奪醉夢裏。豈信荊棘埋銅駝。覺來俯仰失千劫。回視此水殊委蛇。（是置。）君看岸邊蒼石

機按。但應句旁。疑當有金剛經四字。

一韵到底。無一字强押。恐是作者極力者。後世於坡公眞蹟中。往往有專此詩。蓋爲其得意作。

上。古來篙眼如蜂窠。但應此心無所住。（百尺竿頭進一步。着此四句詩亦委蛇。）造物雖駛如吾何。

回船上馬各歸去。多言譊譊師所呵。

此詩。是東坡本色。詩本二首。其和韵之詩。雖世人所喜。畢竟不如此詩之妙。故特選之。

寓居定惠院之東。雜花滿山。有海棠一株。土人不知貴也（此三字。此詩之所以作。）

江城地瘴蕃草木。只有名花苦幽獨。嫣然一笑竹籬間。桃李漫山總麤俗。也知造物有深意。故遣佳人在空谷。自然富貴出天姿。不待金盤薦華屋。朱唇得酒暈生臉（極形容海棠。）翠袖卷紗紅映肉。林深霧暗曉光遲（乃雜花滿山之處。）日暖風輕春睡足。雨中有淚亦悽愴。月下無人更清淑。先生食飽無一事。散步逍遙自捫腹（二句不關題。自是大家手段。）不問人家與僧舍。拄杖敲門看修竹。忽逢絕艶照衰朽。歎息無言揩病目。陋邦何處得此花。無乃好事移西蜀。寸根千里不易到。銜子飛來定鴻鵠。天涯流落俱可念（歸到自己身上。）爲飲一尊歌此曲。明朝酒醒還獨來。雪落紛紛那忍觸。（添此二句尤妙。）

書題簡潔。此等尤可法者。

得芒角槎牙等字。而詩劍如始相與者。

題署試院字。是爲著眼。

當時滿朝公卿。猶雜花滿山。偶有海棠一株。空使在山谷間。是此詩之寓意。而讀者在以意迎之耳。

郭祥正家。醉畫竹石壁上。郭作詩爲謝。且遺二古銅劍。

空腸得酒芒角出。起得奇絕。肝肺槎牙生竹石。森然欲作不可回。吐向君家雪色壁。自空腸肝肺等字來 平生好詩仍好畫。書墻涴壁長遭罵。不嗔不罵喜有餘。世間誰復如君者。一雙銅劍秋水光。言劍只是蜻蜓點水法。 兩首新詩爭劍芒。劍在牀頭詩在手。不知誰作蛟龍吼。何等結法。

此等詩。所謂寸鐵殺人者。短古絕調。

試院煎茶

蟹眼已過魚眼生。單刀直入。語法秀麗。全是近體格調。 颼颼欲作松風鳴。用數虛字。使活動。 蒙茸出磨細珠落。眩轉遶甌飛雪輕。銀缾瀉湯誇第二。未識古人煎水意。起二句。即是古人煎水意。○自注。古語云。煎水。不煎茶。 君不見昔時李生好客手自煎。貴從活火發新泉。李生謂李公擇。 又不見今時潞公煎茶學西蜀。定州花瓷琢紅玉。我今負病常苦飢。分無玉盌捧蛾眉。且學

一韻到底。無他奇屈處。故章段歷然。篇中說君子小人。故先點出故人字。此詩。自茗字下筆。遂用其韻。故韻脚多不切者。獨如性永猛餅等字甚切。一篇微策。在汲黯寬饒張禹等之處。當時多譏權倖者。故云。

公家作茗飲。塼爐石銚行相隨。不用撐腸拄腹文字五千卷。沉著痛快。但願一甌常及睡足日高時。一字與五千相反映。

和錢安道寄惠建茶

我官於南今幾時。落筆所謂骨清之處。嘗盡溪茶與山茗。胸中似記故人面。形容妙妙。非東坡不能言。口不能言心自省。爲君細說我未暇。試評其略差可聽。建溪所產雖不同。一一天與君子性。森然可愛不可慢。形容茶妙妙。骨清肉膩和且正。此句可以評此詩。雪花雨脚何足道。肉膩之處。啜過始知眞味永。縱復苦硬終可錄。汲黯少戇寬饒猛。無此微策之處。一篇便爾然。草茶無賴空有名。高者妖邪次頑礦。體輕雖復强浮汎。性滯偏工嘔酸冷。其間絕品豈不佳。張禹縱賢非骨鯁。微策之處。○韻有硬字。故如此倒用。亦法。拈合篇首。葵花玉銙不易致。道路幽嶮隔雲嶺。誰知使者來自西。開緘磊落收百餅。形容妙。嗅香嚼味本非別。透紙自覺光炯炯。粃糠團鳳友小龍。用襯貼之筆。奴隸日注。草茶名。臣雙井。草茶之所生。收藏愛惜待佳客。不敢包裹鑽權倖。此詩有味君勿傳。結自攙字來。是東坡長技。空使時人怒生癭。因三國志。

韵脚皆牢。

此詩起首。與二後林逋詩一同一章法。

老杜詩。一篇中複二一韵一者。往往有レ之。而不レ如二此詩之每解相複一。彼取二踊躍變化一。此取二齊齊一耳。

此詩。非レ有二他奇一。所謂肉賦骨淸者。故撰レ之也。

豆粥

君不レ見虖沱流レ澌車折レ軸。公孫倉皇奉二豆粥一。濕薪破竈自燎レ衣。飢寒頓解劉文叔。又不レ見金谷敲レ冰草木春。帳下烹煎皆美人。萍齏豆粥不レ傳レ法。咄嗟而辨石季倫。干戈未レ解身如レ寄。文叔 聲色相纏心已醉。季倫 身心顚倒自不レ知。更識人間有二眞味一。豈如江頭千頃雪色蘆。二字運二動全篇一。如レ畫。茆簷出沒晨煙孤。乃炊粥之烟。 地碓舂レ秔光似レ玉。沙缾煮レ豆軟如レ酥。此句下不レ着二一語一。是詩品。 我老此身無二著處一。轉得音節大妙。 賣レ書來問二東家一住。自二杜五律一出來。 臥聽鷄鳴粥熟時。蓬頭曳レ履君家去。

四月十一日初食茘子。以二此時一食二茘子一。不レ至二嶺南一不レ得也。讀者先宜下詳二其題一而後窺中古人上也。

南村諸楊北村盧。起手如二史傳叙論一。自注謂二楊梅盧橘一也。 白華青葉冬不レ枯。垂レ黄綴レ紫烟雨裏。特與二茘支一爲二先驅一。衛接 海山仙人絳羅襦。複二一韵一是換韵之意。 紅紗中單白玉膚。不レ須二更待一妃子笑。進二一層一是公本色。 風骨自是傾城姝。不レ知天公有レ意無。遣二此尤物一生二海隅一。雲山得レ伴松檜老。不レ言二茘子一而言二松檜擅一製所謂疏枝大葉者。是大家手段。 霜雪自困樝梨麤。先生洗レ盞酌二桂醑一。以下四八

老杜五日一水。堂上楓樹等詩。便題畫之淵源。而其後無次之者。如東坡此詩。或可次諸。此詩一韻到底。自老杜哀王孫。哀江頭詩來。而每章似換韻。是此詩之妙處。機抜。謂作詩似可。

句爲一解。氷盤薦此赬虬珠。似聞江鰩斫玉柱。更洗河豚烹腹腴。自注。予嘗謂。荔支厚味。高格兩絕。果中無比。惟江鰩柱河豚魚近之耳。我生涉世本爲口。承上先生句神理來。不然突出。一官久已輕蓴鱸。四句出意外。罵盡世人。無此句。何足爲東坡。人間何者非夢幻。南來萬里眞良圖。

書王定國所藏烟江疊嶂圖　自注。王晉卿畫。

江上愁心千疊山。起手注題。○二句如一篇。浮空積翠如雲烟。山耶雲耶遠莫知。分說雲烟二字。烟空雲散山依然。歸到山。但見兩崖蒼蒼暗絕谷。中有百道飛來泉。縈林絡石隱復見。下赴谷口爲奔川。川平山開林麓斷。小橋野店依山前。行人稍度喬木外。漁舟一葉江呑天。使君何從得此本。具謂景來。至此忽入題。以後不謂畫。歸至自己身上。作者深意。○此處四句爲一章。點綴毫末分淸姸。不知人間何處有此境。徑欲往買二頃田。君不見武昌樊口幽絕處。東坡先生留五年。二句爲一章。春風搖江天漠漠。暮雲卷雨山娟娟。前體此用。故意不重複。有出題外歸添畫之意。丹楓翻鴉伴水宿。長松落雪驚醉眠。四句爲一章。桃花流水在人世。武陵豈必皆神仙。江山淸空我塵土。雖有去路尋無緣。四句爲一章。還君此畫三歎息。山中故人應有招我歸來篇。二句爲一章。○結法暗倣老杜靑鞋布襪之意。

馬詩。老杜至多。後來雖二東坡一。不レ得レ不レ出レ之。

此詩起手。出レ自二老杜國初以來之起一。而變二其面目一者。

## 書韓幹牧馬圖

南山之下。起手平直正大。自是大局面手法。　汧渭之間。汧渭下加二之字一。句便雄傑。是亦大局面手法。　想見開元天寶年。八坊分屯隘二秦川一。四十萬匹如二雲烟一。騅駓駰駱驪騮騵。驪字若作二與字一。騂字作二雜等字一。句便平弱。　白魚赤兎騂皇鶬。二句雄傑。　龍顱鳳頸獰且妍。雄傑。公本色。　奇姿逸德隱二駑頑一。是亦雄傑。而微露二後案一。碧眼胡兒手足鮮。歲時剪刷供二帝閑一。二句取レ姿。　柘袍臨レ池侍三千。牧者之所レ衣。　紅粧照日光流レ淵。御馬從レ幸之處。　樓下玉螭吐二清寒一。往來蹙踏生二飛湍一。衆工舐レ筆和二朱鉛一。轉筆徹。先生曹霸弟子韓。自二老杜丹青引一來。而變二其面目一者。　廐馬多レ肉尻脽圓。　肉中畫レ骨誇二尤難一。金羈玉勒繡羅鞍。鞭箠刻烙傷二天全一。不レ如二此圖近二自然一。平沙細草荒芊綿。驚鴻脫兎爭二後先一。王良挾レ策飛上レ天。何必俯レ首服二短轅一。學二老杜天育驃騎詩結一。得二此二句一。全篇飛動。非レ此何足レ爲二東坡一。○二句出二題外一。奇拔。

## 韓幹馬十四匹

二馬並驅攢二八蹄一。單刀直入。　二馬宛レ頸騣尾齊。一馬任レ前雙舉レ後。韓非子云。馬之能任レ前者。任レ前舉レ後。一馬却避長鳴嘶。老髯二字取レ姿。　奚官騎且顧。前身作レ馬通二馬語一。後有二八匹一飲且行。

微流赴吻若有聲。（東坡本色。是畫。）前者既濟出林鶴。後者欲渉鶴俛啄。（新奇）最後一匹馬中龍。不嘶不動尾搖風。韓生畫馬眞是馬。蘇子作詩如見畫。世無伯樂亦無韓。此詩此畫誰當看。

韓幹所畫十四匹馬圖。當時人之所能知。故書題如此。〇此詩比前詩。雖句數稍齊。自是小品局面。故起亦用單刀直入筆也。此詩詠誰。不如前詩之嚴正可法。而今撰之者。徒取其本色耳。〇此詩。無一句淵源古人之作者。是東坡自我作古之意。

## 書林逋詩後

此詩用筆如題跋。又可當一篇後序。

吳儂生長湖山曲。呼吸湖光飲山綠。不論世外隱君子。（此句既逗林逋。）傭奴販婦皆氷玉。（銜接）先生可是絕俗人。神清骨冷無由俗。我不識君曾夢見。（二句化凡爲奇。非東坡不能言。）瞳子瞭然光可燭。遺篇妙字處處有。步遶西湖看不足。詩如東野不言寒。書似西臺差少肉。平生高節已難繼。將死微言猶可錄。自言不作封禪書。（東坡之取林逋。不爲其愛

梅愛鶴。特有此一事耳。是不可不出者。更背悲吟白頭曲。我笑吳人不好事、好作祠堂傍修行。不然配食水仙王。（黃州有永仙王廟）一盞寒泉薦秋菊。（承篇首血脉來。結法是題跋筆法。）

凡大家之作。皆健俊縱逸。而少清脆之氣。雖如老杜能兼之。而猶過豪奇。如東坡此詩。自出別調。而過清脆者。故今撰之。

孫莘老求墨妙亭詩

蘭亭璽紙入昭陵。世間遺跡猶龍騰。顏公變法出新意。細筋入骨如秋鷹。徐家父子亦秀絕。字外出力中藏稜。嶧山傳刻典刑在。千載筆法留陽冰。杜陵評書貴瘦硬。此論未公吾不憑。短長肥瘦各有態。玉環飛燕誰敢憎。吳興太守眞好古、購買斷缺揮縑繒。龜趺入坐螭隱壁。空齋晝靜聞登登。奇蹤散出走吳越、勝事傳說誇友朋、書來乞詩要自寫。爲把栗尾書溪藤。後來視今猶視昔、過眼百世如風燈。他年劉郎憶賀監。還道同時須服膺。

次韵答舒敎授觀余所藏墨

異時長笑王會稽。野鶩膻腥汙刀几。暮年却得庾安西。自厭家雞題六紙。二子

雪羽用孟子字。

風流冠當代。顧與兒童爭愠喜。秦王十八已龍飛。嗜好晚將蛇蚓比。我生百事不掛眼。時人謬說云工此。世間有癖念誰無。傾身障簏尤堪鄙。一生當著幾緉屐。定心肯爲微物起。此墨足支三十年。但恐風霜侵髮齒。非人磨墨墨磨人。缾應未罄罍先恥。逝將振衣歸故國。數畝荒園自鋤理。作書寄君君莫笑。但覔來禽與青李。一螺點漆便有餘。萬竈燒松何處使。君不見永寧第中擣龍麝。列屋閑居清且美。倒暈連眉秀嶺浮。雙鴉畫鬢香雲委。時聞五斛賜蛾綠。不惜千金求獺髓。聞君此詩當大笑。寒窻冷硯冰生水。

近以月石硯屏獻子功中書公。復以涵星研獻純父侍講。子功有詩。純父未也。復以月石風林屏贈之。謹和子功詩。并求純父數句

紫潭出玄霜。縈我潭中星。獨有潭上月。倒挂紫翠屏。我老不看書。默坐養此昏花睛。時時一開眼。見此雲月眼自明。久世界一泡影。大小眞僞何足評。笑彼三子歐梅蘇。無事自作雪羽爭。自注。事見二人詩集。故將屏硯送兩范。要使珠璧棲窻櫺。大范忽長謠。語出月脇命人驚。小范當繼之。說破星心如鷄鳴。牀頭一月下有風

促句格。

林横。急送小范家。護此涵星泓。願從少陵博一句。山木盡與洪濤傾。

書晁說之考牧圖後

我昔在田間。但如羊與牛。川平牛背穩。如駕百斛舟。舟行無人岸自移。我臥讀書牛不知。前有百尾羊。聽我鞭聲如鼓鼙。我鞭不妄發。視其後者而鞭之。澤中草木長。草長病牛羊。尋山跨坑谷。騰趠筋骨强。烟蓑雨笠長林下。老去而今空見畫。世間馬耳射東風。悔不長作多牛翁。

書丹元子所示李太白眞

天人幾何同一漚。謫仙非謫乃其游。麾斥八極隘九州。化爲兩鳥鳴相酬。一鳴一止三千秋。開元有道爲少酉。縻之不可矧肯求。西望太白横峨岷。眼高四海空無人。大兒汾陽中令君。小兒天台坐忘身。平生不識高將軍。手汚吾足乃敢瞋。作詩一笑君應聞。

次韻黃魯直畫馬試院中作

少年鞍馬勤遠行。臥聞齕草風雨聲。見此忽思短策横。十年髀肉磨欲透。那更

陪君作詩瘦。不如芋魁歸飯豆。門前欲斷御史驄。詔恩三日休老翁。羨君懷中雙橘紅。自注。黃有老母。

武昌銅劍歌。并引

供奉官鄭文。嘗官於武昌。江岸裂。出古銅劍。文得之以遺余。冶鑄精巧。非鍛冶所成者。

雨餘江清風卷沙。雷公躡雲捕黃蛇。蛇行空中如枉矢。電光煜煜燒蛇尾。或投以塊鏗有聲、雷飛上天蛇入水。水上青山如削鐵。神物欲出山自裂。細看兩脊生碧花。猶是西江老蛟血。蘇子得之何所爲。蒯緱彈鋏詠新詩。君不見凌煙功臣長九尺。腰間玉具高拄頤。

秧馬引。并引

過廬陵。見宣德郎致仕曾君安止。出所作禾譜。文既溫雅。事亦詳實。惜其有所缺。不譜農器也。予昔遊武昌。見農夫皆騎秧馬。以榆棗爲腹。欲其滑。以楸桐爲背。欲其輕。腹如小舟。昂其首尾。背如覆瓦。以便兩髀雀

躍於泥中。繫束藁其首以縛秧。日行千畦。較之傴僂而作者。勞佚相絕矣。史記禹乘四載。泥行乘橇。解者曰。橇形如箕。擿行泥上。豈秧馬之類乎。作秧馬歌一首。附於不譜之末云。

春雲濛濛雨淒淒。春秧欲老翠剡齊。嗟我婦子行水泥。朝分一壠暮千畦、腰如箜篌首啄雞。筋煩骨殆聲酸斷、我有桐馬手自提。頭尻軒昂腹脇低、背如覆瓦去角圭。以我兩足爲四蹄。聳踊滑汰如鳧鷖。纖纖束藁亦可齎、何用繁纓與月題。卻從畦東走畦西。山城欲閉聞鼓聲。忽作的盧躍檀溪。歸來挂壁從高栖。了無芻秣饑不嘶。少壯騎汝逮老黧。何曾蹶軼防顛隮。錦韉公子朝金閨。笑我一生蹋牛犂。不知自有木駃騠。

石鼓歌

冬十二月歲辛丑。我初從政見魯叟。舊聞石鼓今見之。文字鬱律蛟蛇走。細觀初以指畫肚。欲讀嗟如箝在口。韓公好古生已遲。我今況又百年後。強尋偏傍推點畫。時得一二遺八九。我車既攻馬亦同。其魚維鱮貫之柳。自注。其詞云。我車既攻我馬亦

同。又云。其魚維何。維鱮維鯉。何以貫之。維楊與柳。唯此六句可讀。餘多不可通。古器縱橫猶識鼎。衆星錯落僅名斗。模糊半已似瘢胝。詰曲猶能辨跟肘。娟娟缺月隱雲霧。濯濯嘉禾秀莨莠。漂流百戰偶然存。獨立千載誰與友。上追軒頡相唯諾。下揖冰斯同鷇鷇。憶昔周宣歌鴻雁。當時籀史變蝌蚪。厭亂人方思聖賢。中興天爲生耆耈。東征徐虜闞虓虎。北伏犬戎隨指嗾。象胥雜沓貢狼鹿。方召聯翩賜圭卣。遂因鼓鼙思將帥。豈爲考擊煩矇瞍。何人作頌比嵩高。萬古斯文齊岣嶁。勤勞至大不矜伐。文武未遠猶忠厚。欲尋年歲無甲乙。豈有名字記誰某。自從周衰更七國。竟使秦人有九有。掃除詩書誦法律。投棄俎豆陳鞭杻。當年何人佐祖龍。上蔡公子牽黃狗。登山刻石頌功烈。後者無繼前無偶。皆云皇帝巡四國。烹滅強暴救黔首。六經既已委灰塵。此鼓亦當遭擊掊。傳聞九鼎淪泗上。欲使萬夫沈水取。暴君縱欲窮人力。神物義不汙秦垢。是時石鼓何處避。無乃天工令鬼守。興亡百變物自閑。富貴一朝名不朽。細思物理坐歎息。人生安得如汝壽。

聚星堂雪并引

元祐六年。十一月一日。禱雨張龍公。得小雪。與客會飲聚星堂。忽憶歐陽文忠公作守時。雪中約客賦詩。禁體物語。於艱難中。特出奇麗。爾來四十餘年。莫有繼者。僕以老門生繼公後。雖不足追配先生。而賓客之美。殆不減當時。公之二子。又適在郡。故輒舉前令。各賦一篇。

窻前暗響鳴枯桑。龍公試手行初雪。映空先集疑無有。作態斜飛正愁絕。衆賓
起舞風竹亂。老守先醉霜松折。恨無翠袖點橫斜。祇有微燈照明滅。歸來尚喜
更鼓暗。晨起不待鈴索掣。未嫌長夜作衣稜。卻怕初陽生眼纈。欲浮大白追餘
賞。幸有回飈驚落屑。模糊檜頂獨多時。歷亂瓦溝裁一瞥。汝南先賢有故事。醉
翁詩話誰續說。當時號令君聽取。白戰不許持寸鐵。

法惠寺橫翠閣

朝見吳山橫。暮見吳山從。吳山多故態。轉側爲君容。幽人起朱閣。空洞更無物。
惟有千步岡。東西作簾額。春來故國歸無期。人言秋悲春更悲。已泛平湖思濯
錦。更著橫翠憶峩眉。雕樹能得幾時好。不獨憑欄人易老。百年興廢更堪哀。懸

知草莽化池臺。遊人尋我舊遊處。但覓吳山橫處來。

月夜與客飲杏花下

杏花飛簾散餘春。明月入戶尋幽人。褰衣步月踏花影。炯如流水涵青蘋。花間置酒清香發。爭挽長條落香雪。山城薄酒不堪飲。勸君且吸杯中月。洞簫聲斷月明中。唯恐月落酒杯空。明朝卷地春風惡。但見綠葉棲殘紅。

四時詞

春雲陰陰雪欲落。東風和冷驚羅幕。漸看遠水綠生漪。未放小桃紅入萼。佳人瘦盡雪膚肌。眉斂春愁知為誰。深院無人剪刀響。應將白紵作春衣。

又

垂柳陰陰日初永。蔗漿酪粉金盤冷。簾額低垂紫燕忙。蜜脾已滿黃蜂靜。高樓睡起翠眉顰。枕破斜紅未肯勻。玉腕半揎雲碧袖。樓前知有斷腸人。

又

新愁舊恨眉生綠。紛汗餘香在蘄竹。象牀素手熨寒衣。爍爍風燈動華屋。衣香

燒罷掩重扃。香霧空朦月滿庭。抱琴轉軸無人見。門外空階裂帛聲。

又

霜葉蕭蕭鳴屋角。黃昏斗覺羅衾薄。夜風搖動鎮帷犀。酒醒夢回聞雪落。起來呵手畫雙鴉。醉臉輕勻襯眼霞。眞態香生誰畫得。玉奴纖手嗅梅花。

春菜

蔓菁宿根已生葉。韭芽戴土拳如蕨。爛蒸香薺白馬肥、碎點青蒿涼餅滑。宿酒初消春睡起。細履幽畦掇芳辣。茵陳甘菊不負渠。鱠縷堆盤纖手抹。北方苦寒今未已、雪底波稜如鐵甲。豈知吾蜀富冬蔬。霜葉露芽寒更茁、久拋松菊猶細事。苦筍江豚那忍說。明年投劾徑須歸、莫待齒搖并髮脫。



東坡詩鈔卷三 終

# 書韓蘇古詩鈔後。

讀杜詩。必合讀韓蘇詩。猶讀孟可解論語也。又讀香山・山谷。及明李空同。猶讀法言・中說。見其摸擬不到處也。石藤枝學藤竹枝。汴泗交流學冬狩。石鼓白八分歌來。其變化逕蹊。略可窺伺矣。戊寅季春。識于赤關波濤聲中。是日將過海入豐也。

## 又

蘇古詩。有意與韓鬪。不特石鼓聽琴也。海市鬪於南岳廟。贈簟鬪於謝簟。以余觀之。石鼓交綏。其餘皆似輸一籌。且汴州亂。雉帶箭。東方半明等。蘇集無此健調。然至饋歲守歲。泛潁眼醫等。韓集亦無此妙語也。韓詩南山和月蝕等。與東坡諸次韵。並硬語排奡。特示腹笥腕力。一覽索然。後人學韓蘇者。專慕此等。遺山・牧齋・竹坨。及乾隆三家類。皆是。可謂不知取捨也。戊寅九月。讀于薩州旅舍。積薪堆中。小窓微明處。遂識。

## 又

世服蘇之廣長舌。不知其收舌不盡展者更好。試院煎茶。食荔枝。林逋詩後。考牧圖。韓幹牧馬。贈寫眞何充。秧馬。硯屛。墨妙亭。藏墨。畫竹。謝銅劍。橫翠閣。煙江疊嶂。皆豐約合度。姿態可觀。謝遞英賜御書。贈寫御容者。最莊雅精錬。別子由。諸作。皆眞朴動人。要看諧浪笑傲其貌。鐵心石腸其神也。後人舍其神襲其貌。非好學者。蘇詩雖戲猶士大夫之善謔也。如明清二袁。乃幇間牽頭耳。

# 陶詩鈔

# 『陶詩鈔』〔彭澤詩鈔〕解題

「五斗米ノ爲メニ腰ヲ折ラズ」シテ、歸去來ヲ歌ヒ、「酒アラバ輒チ設ケ、自カラ羲皇上ノ人ナリト謂」ヒシ、晉ノ陶潛・淵明・靖節ソノ人ト詩トハ、是レ頼山陽ノ特ニ思慕ト愛誦トヲ寄セシトコロナルベク、而モ單ニソノ田園趣味ノ上ニ於テノミナラズ、ソノ詩ヲ讀ミテ、

「陶詩ノ、六朝金粉ノ外ニ於テ、別ニ面目ヲ開ケルハ、ソノ人ノ六朝ノ人ニ非ザリシヲ以テス、故ニソノ詩、亦超卓ナルコト此ノ如シ。後人ノ陶ヲ學ベルモノ、ツネニ田野耕稼ノ事ニ託シテ、以テソノ面貌ヲ肖スル、イヅクンゾ能クソノ神情ヲ得ンヤ。陶ハ、オノヅカラ是レ將種〔曾祖ハ晉ノ顯官〕ニシテ、氣力アル人ナリキ。ソレヲシテ旄ヲ擁シ、節ヲ執ラシメナバ、則チソノ詩、必ズシモ山林ノ一體ニ專ナラザリシナラン、唯遭フ所ノ如何ヲ顧ミンノミ。」

トイヘリ。

コノ手稿本、何レノ年ニ成リシカヲ知ラズ。コヽニ、明治三十四年九月十日ノ開版ニ係レル、京都・山田永年〔名鈍・字子靜〕ガ、ソノ師・宮原節庵ノ、山陽塾ニ在リシ日、ソノ稿本ヲ謄寫シタルヲ授ケラレタリトイヘルモノ〔沈歸愚ノ『古詩源』ニ就キ、山陽ノ選評セシモノ〕ヲ取リ、コレヲ複製シタリ。〔好尙生〕

引

山陽賴先生。曾就沈歸愚古詩源。選評陶詩。節菴宮原翁。時在賴塾。謄寫之。後授諸余。余以爲帳祕。頃者先生嗣孫庫山賴君。慫慂公世。因照之本集。及古詩源等。校其異同。以付剞劂。夫先生高節。與彭澤類。故嗜其詩。評之尤精嚴。使歸愚瞠若乎後。嗚呼。若先生可謂彭澤眞知己矣。

明治三十四年。六月。後學。平安。山田鈍子靜。識於古硯堂之北窗。

彭澤詩。雖承漢魏骨法。至夫叙實情。有從容遠深之妙。則前後無匹矣。後來杜陶情懷相似乎。彭澤詩。取而可選者。多在去彭澤後。如此等數篇。蓋屬中年前作。而非其最者。此等叙、爲蛇足。韓柳以後所無。雖豪傑。未免爲時代所局束也。

○駱庭芝云、曾城落星寺也。始置之所有也。

○淮南子、崑崙中有增城九重。注云。中有五城十二樓。故云。靈山嘉名。

起手是陶句。皆宋所罕見。

# 彭澤詩鈔〔陶詩鈔〕

賴襄子成選評　山田鈍校

## 遊斜川。并序。

辛丑正月五日。天氣澄和。風物閑美。與二三鄰曲。同遊斜川。臨長流。望曾城。魴鯉躍鱗於將夕。水鷗乘和以翻飛。彼南阜者。名實舊矣。不復乃爲嗟歎。若夫曾城。傍無依接。獨秀中皐。遙想靈山。有愛嘉名。欣對不足。率爾賦詩。悲日月（漢魏以來常言）之遂往。悼吾年之不留。各疏年紀鄉里。以記其時日。

開歲倏五日。（日一作十字非）　吾生行歸休。　念之動中懷。　及辰爲茲遊。（二語皆宋口吻。是俗眼所喜耳）

氣和天惟澄。　班坐依遠流。　弱湍馳文魴。　閑谷矯鳴鷗。

○本集題下有序。

如第二用典故。是陶詩所罕有也。蓋亦係中年前作。

起處既言相知何必舊。而又言人惟古。是竟爲病。後人不可傚。古人則不拘耳。

○史記律書。景風者。居南方。景者。言陽道竟。故曰景風。

迴澤散游目。緬然睇曾丘。（卽曾城也）雖微九重秀。（此約而然爾）顧瞻無匹儔。

提壺接賓侶。引滿更獻酬。未知從今去。當復如此不。

中觴縱遙情。忘彼千載憂。（意歸到於起處。句健便好）且極今朝樂。明日非所求。（結語儁拔）

## 答龐參軍。

相知何必舊。（起亦佳）傾蓋定前言。有客賞我趣。每每顧林園。

談諧無俗調。所說聖人篇。或有數斗酒。閑飲自歡然。（以上說舊日事。）

我實幽居士。無復東西緣。物新人惟舊。弱毫多所宣。

情通萬里外。形迹滯江山。（二語倒置。便下語易承接）君其愛體素。來會在何年。

## 五月旦作和戴主簿。

虛舟縱逸棹。（是譬喩）回復遂無窮。發歲始俯仰。星紀奄將中。

南窓罕悴物。北林榮且豐。（四句。叙星紀將中時景物）神淵寫時雨。晨色奏景風。

晉宋人夢想。不及
既來孰不去。人理固有終。
道老本領
居常待其盡。曲肱豈傷仲。
遷化或夷險。肆志無窊隆。即事如已高。何必升華嵩。

九日閑居。并序。

余閑居。愛重九之名。秋菊盈園。而持醪靡由。空服九華。寄懷於言。

名言。凡吻百思不吐得。
世短意常多。斯人樂久生。日月依辰至。舉俗愛其名。
露淒暄風息。
可謂能寫
氣澈天象明。往燕無遺影。來雁有餘聲。
酒能祛百慮。菊為制頹齡。如何蓬廬士。空視時運傾。
塵爵恥虛罍。寒華徒自榮。歛襟獨閑謠。緬焉起深情。
棲遲固多娛。
不求餘韵。餘韵悠然。
淹留豈無成。

和劉柴桑。遺民嘗作柴桑令。

沈云。世短意常多。即所云生年不滿百。常懷千歲憂也。錬得更簡更遒。後人得古人片言。便衍作數語。

○空視時運傾。指易代之事。

陶詩。用虛疊等字。全是當時風習所移也。自上至此數首。起結並皆妙。是五古神訣。學古詩者。不可不悟入焉。

○淹留無成。騷人語也。今反之。

時時與荒塗不的對。却是有生色。是陶詩之所以超絶諸家耳。
谷風。春醪。自然的對。
○爾雅。田三歲曰畬。靖節自庚戌。徙居南村。已再稔矣。今秋穫後。復應畬也。
○爾雅釋云。東風謂之谷風。
去去猶言歸去來也。百年外。意屬下。
結處。不必照應起處。却是古調。
慨然。不的對櫚庭。便有生色。且爲之的對。與新葵嘉穟。語調雷同。此亦不可不避也。
携童弱三字妙。若作携酒肴。便少味。
登。非必登高之謂。
郭與劉。並非當時之仕者。署柴桑主簿者。蓋係其舊官。

山澤久見招。胡事乃躊躇。直爲親舊故。未忍言索居。
良辰入奇懷。挈杖還西廬。蓋即去彭澤時也。荒塗無歸人。時時見廢墟。
茅茨已就治。新疇復應畬。新作田。與茅茨爲的對。便是凡手。谷風轉凄薄。春醪解飢劬。
弱女雖非男。古人謂喩酒之薄也。可笑之甚。慰情良勝無。棲棲世中事。歲月共相疎。
耕織稱其用。過此奚所須。去去百年外。身名同翳如。

酬劉柴桑。

窮居寡人用。時忘四運周。櫚庭多落葉。慨然知已秋。
新葵鬱北牖。嘉穟養南疇。言不見處之景。今我不爲樂。知有來歲不。
命室携童弱。良日登遠遊。

和郭主簿。二首。

藹藹堂前林。中夏貯清陰。凱風因時來。回飆開我襟。

復似當作亦。豈書已樂琴書。復樂此事乎。此似讓上篇。然非漢。非唐。自是晉詩。

○旁評。澈字上。疑脫一作等字。耀列。豈作者自造乎。撫爾訣。蓋言奉君敎之意。不見郭詩。不可解。

○本集題下。有左軍羊長史銜使秦川。作此與之。之十三字。三季。豈指漢魏晉。或三代乎。

○山谷云。正賴古人書。蓋當時語。

---

息交游閑業。臥起弄書琴。園蔬有餘滋。舊穀猶儲今。
營己良有極。過足非所欽。春秫作美酒。酒熟吾自斟。
挿入二語。妙。讀者要看他詩品。
弱子戲我側。學語未成音。此事眞復樂。聊用忘華簪。
與息交云云相拍合。
遙遙望白雲。懷古一何深。
一結迸出題外。絕妙。
和澤周三春。清涼素秋節。
露凝無游氛。天高風景澈。陵岑聳逸峰。遙瞻皆奇絕。
是素秋節。
芳菊開林耀。青松冠巖列。懷此貞秀姿。卓爲霜下傑。
銜觴念幽人。千載撫爾訣。檢素不獲展。厭厭竟良月。
指郭。猶檢素心也。厭厭。按言不滿之意。

贈羊長史。松齡。

愚生三季後。慨然念黃虞。得知千載外。正賴古人書。
起出意表。
賢聖留餘跡。事事在中都。豈忘游心目。關河不可踰。
九域甫已一。逝將理舟輿。聞君當先邁。負痾不獲俱。

誦之流邑。味之精神沈鬱。

○洛陽。西晉之故都。長安。乃秦漢所都。羊爲劉裕使。此陶所不喜。故託綺角。暗言已意。與昌黎送董生序。言爲我弔望諸君墓。同一意趣。

○九域甫已一。謂宋公裕。始平一燕秦也。

○時松齡。銜左將軍朱齡石之命。詣裕行府。賀平關洛。原詩意。靖節初欲從松齡訪關洛。嘗病不果行。駟馬無貰患。託綺角言之。

○貰。待夜切。賒也。貸也。便不觸羊之忌。

○跡。一本作遊。盻。作盼。

傾耳。在目。爲對。下三字。便不對。是曰詩品。

○漢元朔中。武帝詔封公孫弘。爲平津侯。

別猶辨也

（一轉妙）路若經商山。爲我少躊躇。（下字好。帶史遷口氣）多謝綺與角。精爽今何如。

紫芝誰復采。深谷久應蕪。駟馬無貰患。貧賤有交娛。

清謠結心曲。人乖運見疎。擁懷累代下。言盡意不舒。

癸卯十二月中作。與從弟敬遠。

寢跡衡門下。邈與世相絕。顧盻莫誰知。荊扉晝長閉。（必結切）

淒淒歲暮風。翳翳經日雪。傾耳無希聲。在目皓已潔。（精神。）

勁氣侵襟袖。簞瓢謝屢設。（猶屢空。）蕭索空宇中。了無一可悅。

歷覽千載書。時時見遺烈。高操非所攀。深得固窮節。

平津苟不由。棲遲詎爲拙。寄意一言外。茲契誰能別。

始作鎭軍參軍。經曲阿作。

弱齡寄事外。委懷在琴書。被褐欣自得。屢空常晏如。

○登降。一作₌登陟₋。

○班賦。求₌幽貞之所₋廬。

○塗中。一作₌塗口₋。

○按是時淵明年三十七。中間除₌癸巳₋爲₌州祭酒₋。乙未距₌庚子參鎭軍事₋。三十載家居矣。

結似₋不₋撮。抹是古調。

時來苟冥會。宛₋轡憩₌通衢₋。投₋策命₌晨裝₋。暫與₌園田₋疏。

眇眇孤舟逝。綿綿歸思紆。（三字不對。使成情景錯綜之妙。）我行豈不₋遙。登降千里餘。

目倦川途異。心念山澤居。望₋雲慚₌高鳥₋。臨₋水愧₌游魚₋。

眞想初在₋襟。誰謂形迹拘。聊且憑₋化遷。終返班生廬。

辛丑歲七月。赴假還₌江陵₋。夜行塗中作。

（也法與上篇。同一格。）閑居三十載。遂與₌塵事₋冥。詩書敦₌宿好₋。（使凡筆。敦必作有。以爲的對。）林園無₌俗情₋。

如何捨₌此志₋。遙遙至₌南荊₋。叩₋枻新秋月。臨₋流別₌友生₋。

涼風起₋將₋夕。夜景湛₌虛明₋。昭昭天宇闊。皛皛川上平。

懷₋役不₋遑₋寐。中宵尙孤征。商歌非₌吾事₋。依依在₌耦耕₋。

投₋冠旋₌舊墟₋。不₋爲₌好爵縈₋。養₌眞衡茆下₋。庶以₋善自名。

桃花源詩。并記。（并。言下并₌錄之₋之意。）

寫委曲事。用簡明筆。而從容。絶無促迫之痕。非晉非宋。自是秦漢文。其詩則非其至者。然收靖節詩遺之。亦爲一缺。故選者取之。

爲業下。若下者字。使失小品體。

或說。非實有此事。陶老借此事。以寫其意趣。是大不可。若無之。則詩中句句。亦有何味。有此事。而寫己意。乃妙。

所言。只是所聞而已。是漁人。

---

晉時着晉字似失躰。然是爲下無論魏晉伏案。已帶畫景。

晉太元中。武陵人。捕魚爲業。緣溪行忘路之遠近。忽逢桃花林。夾岸數百步。中無雜樹。芳艸鮮美。落英繽紛。漁人甚異之。復前行。欲窮其林。林盡水源。便得一山。山有小口。髣髴若有光。便捨船從口入。初極狹。纔通人。復行數十步。豁然開朗。土地平曠。屋舍儼然。有良田美池桑竹之屬。阡陌交通。雞犬相聞。其中往來種作。男女衣著。悉如外人。黃髮垂髫。並怡然自樂。見漁人。乃大驚。問所從來。具答之。便要還家。設酒殺雞作食。村中聞有此人。咸來問訊。自云。先世避秦時亂。率妻子邑人。來此絶境。不復出焉。遂與外人間隔。問今是何世。乃不知有漢。無論魏晉。此人一一爲具言。所聞皆歎惋。餘人各復延至其家。皆出酒食。停數日辭去。

頂針。便流動。

使史公。便必作則。此字秦漢人所無。

扶恐誤字。豈或謂扶船乎。

○有。一作猶。
○歌行。一作行歌。

此中人語云。不足爲外人道也。既出得其船。便扶向路。處（着筆大佳。）處誌之。及郡下詣太守。說如此。太守卽遣人。隨其往尋向所誌。遂迷不復得路。南陽劉子驥。高尚士也。（有此得妙。）聞之欣然。欲往未果。尋病終。後遂無問津者。（文勢未收。自不可無詩。）

嬴氏亂天紀。賢者避其世。黃綺之商山。伊人亦云逝。
往迹浸復湮。來逕遂蕪廢。相命肆農耕。日入從所憩。
桑竹垂餘蔭。菽稷隨時藝。春蠶收長絲。秋熟靡王稅。
荒路曖交通。雞犬互鳴吠。俎豆有古法。衣裳無新製。
童孺縱歌行。斑白歡遊詣。草榮識節和。木衰知風厲。
雖無紀歷誌。四時自成歲。怡然有餘樂。於何勞智慧。
奇蹤隱五百。一朝敞神界。淳薄既異原。旋復還幽蔽。

有此一結。便成詩。

田園。一本作園田。

本集爲六首。末一首。淺俗不可誦。沈選爲可。然如此第一章。亦疑非陶公作。曖曖四句可取。而前後淺薄。不類陶公他篇。然爲後慝法。亦有餘也。駢語無數。仍應晉宋間人語。

○檐。一作園。

布置悠悠。而有轉折。妙妙。

二首最佳。五首中之精金良玉。陶公本色。於此等可觀焉。

前章四句一解。此章二句一解。

借問游方士。焉測塵囂外。願言躡輕風。高舉尋吾契。

歸田園居。五首。

少無適俗韻。性本愛丘山。誤落塵網中。一去三十年。
羇鳥戀舊林。池魚思故淵。開荒南野際。守拙歸園田。
方宅十餘畝。艸屋八九間。楡柳蔭後檐。桃李羅堂前。
曖曖遠人村。依依墟里煙。狗吠深巷中。雞鳴桑樹顚。
戸庭無塵雜。虛室有餘閒。久在樊籠裡。（意歸起手。然不免筋骨暴露。）復得返自然。

野外罕人事。窮巷寡輪鞅。白日掩荊扉。虛室絕塵想。
時復墟曲中。披草共來往。相見無雜言。但道桑麻長。
桑麻日已長。我土日已廣。（似有寓意。而必說所指。便淺薄。是古調之妙處。）常恐霜霰至。零落同草莽。

種豆南山下。草盛豆苗稀。稀興理荒穢。帶月荷鋤歸。

願字。豈指豆熟乎。

與上二篇。長短不同。而風韻各存焉。

是漢魏歌謠。晉宋間得之者。獨有陶公。後來杜詩。無家別。石壕吏之類。亦是此種風韻。

結處留可娛生前之意。不說破之。讀者須於言外見焉。

沈云。儲・王極力擬之。然終似微隔。厚處・朴處。不能到也。能學到者。乃少陵一人耳。

○一本。題下有序。

此等不必選可。

道狹草木長。夕露沾我衣。衣沾不足惜。但使願無違。

久去山澤遊。浪莽林野娛。（終當歸空無。豈可不娛乎。）試攜子姪輩。披榛步荒墟。

徘徊丘隴間。依依昔人居。井竈有遺處。桑竹殘朽株。

借問采薪者。此人皆焉如。薪者向我言。死後無復餘。

一世異朝市。此語眞不虛。人生似幻化。終當歸空無。

悵恨獨策還。崎嶇歷榛曲。山澗清且淺。遇以濯我足。

漉我新熟酒。隻雞招近局。日入室中闇。荊薪代明燭。

懽來苦夕短。已復至天旭。（已字妙。凡筆必作終等字。）

與殷晉安別。

遊好非久長。一遇盡殷勤。信宿酬清話。益復知爲親。

去歲家南里。薄作少時鄰。負杖肆遊從。淹留忘宵晨。

語默自殊勢。亦知當乖分。未謂事已及。興言在茲春。
飄飄西來風。悠悠東去雲。山川千里外。言笑難為因。
才華不隱世。江湖多賤貧。脫有經過便。念來存故人。

乞食。

饑來驅我去。（此等調。已開東坡。）不知竟何之。行行至斯里。叩門拙言辭。
主人解余意。遺贈副虛期。談話終日夕。觴至輙傾巵。
情欣新知懽。言詠遂賦詩。感子漂母惠。愧我非韓才。
銜戢知何謝。冥報以相貽。

諸人共遊周家墓柏下。

今日天氣佳。清吹與鳴彈。感彼柏下人。安得不為懽。
清歌散新聲。綠酒開芳顏。未知明日事。余襟良已殫。

○才華。一本作良才。

起筆突兀。故以下。直平承接。自亦不妨。

○副虛期。一本作豈虛來。巵作盃。

用漂母典故。省它筆力。引典故。當如此。

是等詩。雖他人亦或能之。收陶詩。何必取之。

似平平。而有多少味。

古朴而其中豐腴。是陶公詩。

杜詩題。時有此種筆法。

此詩。故自大局而。故起結語。皆稱之。

## 移居。二首。

昔欲居南村。非為卜其宅。聞多素心人。樂與數晨夕。
懷此頗有年。今日從茲役。弊廬何必廣。取足蔽牀席。
鄰曲時時來。抗言談在昔。奇文共欣賞。疑義相與析。
名言不磨。
春秋多佳日。登高賦新詩。過門更相呼。有酒斟酌之。
農務各自歸。閑暇輒相思。相思則披衣。言笑無厭時。
此理將不勝。無為忽去茲。衣食當須紀。力耕不吾欺。

## 庚戌歲九月中。於西田穫早稻。

人生歸有道。衣食固其端。孰是都不營。而以求自安。
開春理常業。歲功聊可觀。晨出肆微勤。日入負來還。
山中饒霜露。風氣亦先寒。田家豈不苦。弗獲辭此難。

一結。振二起全勢一。所レ願如レ此。可三以見二安分之意一。陶詩之補二六經一。可下於二是等一見上焉。

本首二十首。并有レ叙。今撰二十首一。不二必并叙一可。逝將。用二詩經字一。此等後賢不レ可レ學。

○能復。一作二復能一。

四體誠乃疲。庶無レ異二患干一。盥濯息二簷下一。斗酒散二襟顔一。
遙遙沮溺心。千載乃相關。但願長如レ此。躬耕非レ所レ歎。

飲酒。

（錬句。）衰榮無二定在一。彼此更共レ之。邵生瓜田中。寧似二東陵時一。
寒暑有二代謝一。人道每如レ茲。達人解二其會一。逝將不二復疑一。
（結出人意表。）忽與二一觴酒一。日夕懽相持。
積善云有レ報。夷叔在二西山一。善惡苟不レ應。（見滿腔不平。）何事立二空言一。
九十行帶索。飢寒況當年。不レ賴二固窮節一。百世當二誰傳一。
道喪向二千載一。人人惜二其情一。有レ酒不二肯飲一。但顧世間名。
所三以貴二我身一。豈不レ在二一生一。一生能復幾。倏如流電驚。
鼎鼎百年內。持レ此欲二何成一。

以上多言情事。此篇多言景。此與彼相交。便成篇什。着筆緩緩。亦自可愛。欲辨。言欲辨答前問之言也。以爲與上不相關。卽却是俗。然如此等。淵明而成新。後人傚之。便不可稱。
○眞味。他本皆作眞意。
○第四句。一本。作遠我遺世情。
上首。膾炙人口。而論其詩品。則亦在此下。
○汨。古沒切。

結廬在人境。而無車馬喧。問君何能爾。心遠地自偏。
采菊東籬下。如見悠然見南山。山氣日夕佳。作色。卽凡。飛鳥相與還。
此中有眞味。欲辨已忘言。

自景着筆。
秋菊有佳色。裛露掇其英。泛此忘憂物。泛一作況。似是。遺我遠世情。
一觴雖獨進。杯盡壺自傾。日入群動息。歸鳥趨林鳴。萬物得意。見之有意
嘯傲東軒下。無意間。便可。聊復得此生。寫得意。却是見不平。

清晨聞叩門。倒裳往自開。問子爲誰歟。田父有好懷。
壺漿遠見候。疑我與時乖。襤褸茅簷下。未足爲高栖。
一世皆尙同。願君汨其泥。深感父老言。稟氣寡所諧。
紆轡誠可學。違己詎非迷。且共歡此飮。吾駕不可回。
在昔曾遠游。直至東海隅。道路迥且長。風波阻中途。

○共。他本皆作在。

此行誰使然。似為飢所驅。傾身營一飽。少許便有餘。
恐此非名計。息駕歸閑居。
故人賞我趣。契壺相與至。班荊坐松下。數斟已復醉。
父老雜亂言。觴酌失行次。不覺知有我。安知物為貴。
悠悠迷所留。酒中有深味。
少年罕人事。遊好共六經。行行向不惑。淹留遂無成。
竟抱固窮節。飢寒飽所更。敝廬交悲風。荒艸沒前庭。
披褐守長夜。晨雞不肯鳴。孟公不在茲。終以翳吾情。
羲農去我久。舉世少復眞。汲汲魯中叟。彌縫使其淳。
鳳鳥雖不至。禮樂暫得新。洙泗輟微響。漂流逮狂秦。
詩書復何罪。一朝成灰塵。區區諸老翁。為事誠般勤。

如何絶世下。六籍無一親。終日馳車走。不見所問津。
若復不快飲。空負頭上巾。但恨多謬誤。君當恕醉人。

讀山海經。

孟夏草木長。繞屋樹扶疎。衆鳥欣有託。吾亦愛吾廬。
既耕亦已種。時還讀我書。窮巷隔深轍。頗迴故人車。
歡言酌春酒。摘我園中蔬。微雨從東來。好風與之俱。
泛覽周王傳。流觀山海圖。俯仰終宇宙。不樂復何如。

陶詩。於六朝金粉外。別開面目。以其人非六朝人。故其詩亦超卓如此。後人學陶者。每託於田野耕稼事。以肖其面貌。焉能得其神情哉。陶自是將種有氣力人。使其擁旄執節。則其詩不必專於山林一體。唯顧所遭如何而已。

彭澤詩鈔 終

# 錦繡段選選

# 『麝嚢小結』〔錦繡段選選〕解題

〔未刊本〕

予、『賴山陽全書』編纂ノ役ニ當リ、資料訪求ノ爲メ、頃日來リテ廣島ニ在リ。本會玉井源作氏ト倶ニ、十月三日、神邊ヲ經テ、福山ニ入リ、首トシテ門田宮一郎氏ヲ訪ヒ、ソノ祖父朴齋翁ノ遺儲ヲ覽ンコトヲ求メタリ。氏、ヨロコビテコレヲ諾シ、庫中ニ探リテ、ソノ繙閲ヲ縱ママニセシメラレタルモノ、無慮數十種、何レモ翁ノ手澤ナラザルハナク、殊ニソノ手寫ニ屬スルモノ、多クハ茶山・山陽ノ指敎ニ出デ、黽勉從事、當年從游ノ迹ヲ追想セシムルモノ最モ深シ。

席上、予ハ先ヅ山陽手錄ノ詩集三大册ヲ、ソノ手寫本ニ獲テ、更ニ翁自身ノ手稿『朴齋詩稿』初・中・後三編ヲ通覽シ、コレヲソノ刊本ニ照ラシテ、事ノ山陽ニ渉ルモノヲ檢覈スル外、幾多書幅・書翰ノ謄寫ヲ急ギ、日スデニ暮ルヽニ近ク、マサニ辭謝、日程ヲ追ヒテ、鞆浦ニ走ルベクアリシニ、偶々一小册ノ主人ノ座傍ニ打チ置カレタルヲ見

レバ、表紙ノ面ソノママニ、『麝嚢小結』ト題セラレタリ。ソノ内容ヲ検スルニ、是レ文化七年夏、山陽〔卅一歳〕ノ廉塾游寓中、塾中「兒輩」ノ誦讀セル『錦繡段』ニ就キ、ソノ意ニ可ナルモノヲ掇リ、命ジテ抄出セシメタルヲ、茶山〔六十三歳〕亦自カラ評語ヲ手錄セルモノニ係リ、抄本ノ寫手ハ、朴齋翁〔十四歳〕ノ一筆ニ成レリ。

ソノ原本、表紙裏ニハ、文化十一年四月、北條霞亭〔卅五歳、時ニ廉塾都講〕、ソノ題辭ヲ自書シテ「天放生」ト署セリ。山陽ノ小引ハ、冊後ニ朱書セラレ、「庚午〔文化七年〕夏日」トアルヲ見レバ、朴齋ノ手寫畢リテ、直チニコレヲ識シタリシヲ知ルベシ。而シテ茶山ノ評語ハ、各首ノ末ニ蠅頭墨字モテ錄セラレ、卷頭ニ、「門田氏記」•卷尾ニハ、「門田維鄰〔又、惟鄰•後、重鄰〕」•「堯佐父」、及ビ「門田氏記」ノ藏印ヲ複押シ、一冊僅ニ十二紙ニ過ギザルモノニハアレド、ソノ内容ノ「貴重」スベキコト、霞亭ノ言、マコトニ誣イザルモノアリ。表紙ノ題書、亦霞亭ノ筆ナルニ似タリ、蓋シ「麝嚢小結」ノ名ハ、ソノ新タニ命ジタル所ナルベシ。

予ハ、ユクリナクモ、自カラコノ珍籍ヲ、ソノ期セザリシニ探求シ得タルヲ詫シ、

乃チ主人ニ請ヒテ、コレヲ齎ラシ、卽夜、鞆浦ノ旅館ニ就キ、謄寫纔ニ成ルヲ告ゲタリ。

顧フニ、山陽ハ廉塾ニ在リテ、ヒタスラ京坂雄飛ノ宿志ヲ果サントシテ、而シテ未ダソノ機會ノ到來ニ逢ハズ、空シク「青天ヲ悵望」シツツ、而モ首ヲ俛レテ、唐詩ノ研鑽ニソノ悶々ノ情ヲ慰メ、『唐詩選』ノ選ニ慊焉タルノ餘リ、親カラ『唐絶新選』ヲ編シ、今又『錦繡段』ノ選本ニ抽キテ、コレヲ選選セルナリ。舊選ノ「玉石混淆」シテ、コレヲ誦讀スルダニ、時代ノ詩人、コレヲ稱シテ「愧ヅル所」トナセルモノ、而モ霞亭ソノ人ヲシテ、「石ヲ擲チ玉ヲ拾ヘリ」ト賞鑒セシメタリ。予、スデニ本書ノ長ク藝林ニ傳ヘラルベキモノタルヲ見テ、更ニソノ稿本ノ實ニ四家ノ手ニ完成セラレタルヲ珍トシ、而モ『賴山陽全書』編纂ノ日ニ當リテ、コレヲ因緣尤モ濃カナル門田氏ノ庫中ニ檢出シ得タルヲ喜ビ、更ニカノ『唐絶新選』ノ原本ガ、當年福山・今村蓮坡ノ手ニ謄寫セラレタリシヲ、文政七年、山陽ニ伴ハレテコノ地ニ遊ビシ賴立齋ノ手ニテ、轉寫シタリシ事實ニ思ヒ合ハセツツ、コヽニソノ姉妹本トシテ、コノ一編ヲ『全書』ノ中ニ登載スル

ニ當リ、感懷ノ淺カラザルモノアルヲ覺ユ。

『錦繡段』ハ、モト中唐ヨリ元季ニ至ル時代ノ詩ヲ選シ、初メ新編・新選ノ舶載本アリシヲ、前建仁寺住天隱（龍澤）ノ手ニテ、三百廿八篇ヲ抄錄シ、「康正二年林鐘十七日」成稿セシヲ、同寺栖芳菴字峯藏主、ソノ稿本ヲ得テ、文明十五年九月二日、天隱ノ序文ヲ附シ、コレヲ開版セリ。爾後寛永版ノ『錦繡段鈔』（五冊）・寛文版ノ『鼇頭錦繡段』（二冊）・延寶版ノ『增修評註錦繡段』（二冊）等ノ類書アリ。元祿ニ入リテハ、五年十二月、及ビ七年五月ノ兩版アリ、五年版ハ、苗村三徑（丈伯）ノ校注ニ成リ、最モ廣ク行ハレタリ。山陽ノ選選本、ソノ原本ノ果シテ何レナルカヲ知ラザルモ、ソノ廉塾ノ藏本ニ資リシハ明カナリ。今、試ミニ元祿五年版ニ就キ、ソノ原詩ノ由ルトコロヲ記シテ、參照ニ供スルコト左ノ如シ。

| | 詩題 | 作者 | 部門 | 丁數 |
|---|---|---|---|---|
| 一 | 「李白。 | 僧藏叟」 | 懷古 | 一三ウ |

四〇 「遊ニ仙枕一。 蕭服之」 哀傷 五〇ウ
四一 「趙子昂竝蔕芙蓉圖。 顧謹中」 畫圖 六八ウ
四二 「客ニ東湖一。 虞繼之」 雜賦 七〇オ
四三 「書レ憂。 陸務觀」 同 七三オ

本書原本ハ、即チ全部、朴齋ノ手ニヨリテ寫錄サレ、而モ第一・第二ノ二本アリ、ソノ選抄ニ少カラザル異同ヲ示シ、茶山ノ評語亦ソレ〳〵ニ附ケ加ヘラレタリ。今、ソノ複製ニ當リテハ、兩者ヲ對看シテ、コレヲ一本ニ取リ纏メタリ。

朴齋ハ、第一本ノ末ニ、「茶山先生評レ之・山陽先生選レ之」ト標記シ、更ニ別本トシテ、朴齋ノ第二子重長ノ複寫本アリ。

昭和五年十月三日夜、鞆浦對山館ノ旅窓ニ於テ識ス。時ニ更闌ケ人定マリテ、中秋後、半輪ノ明月、既ニ仙醉山ノアナタニ沒シ、漁燈點々トシテ夜潮ニ在リ。當年、山陽先生ノ遊蹤ヲ留メタル對仙醉樓ヲ咫尺ノ間ニ望ミツツ。 好尙生。

錦繡段。五山詩僧取其所喜也。其奈玉石混淆。山陽之手抄擲石拾玉也。菅翁下評琢之磨之。瑕疵露。光耀發。是可以貴重。 甲戌〔文化十一年四月〕。

天放生題。

# 錦繡段選選〔麝嚢小結〕

茶山先生評
山陽先生選
門田朴齋 錄

李白。〔僧藏叟善珍禪師〕

脫鞾殿上醉陽狂。觸撥春風睡海棠。放逐一身窮不恨。三郎入蜀吏郎當。

豬龍猶在海棠。何恤三郎郎當。老僧似不獨姦婦之姦。○深刻。非風人之致。〔茶山・下同〕

龍池。 李商隱

龍池賜酒敞雲屏。羯鼓聲高衆樂停。夜半宴歸宮漏永。薛王沈醉壽王醒。

此種爲沈長洲所譏、而亦不可捨。

過故縣。 李岫

憲宗皇帝射臺高。氣壓蠻江萬文濤。玉輦不歸巖樹冷。白雲深處醉蟠桃。

結出新意。

懷郭安道。　周景遠

江南江北道茫茫。明月高樓各異鄉。旅雁叫雲天似水。故人今夜泊瀟湘。

可入盛唐諸家集中。○第三句恐逗中晚。

和郭安道治書韻。　周馳

西風吹起白頭波。半夜扁舟掠岸過。不向長橋酤一醉。滿天明月奈秋何。

平平。

暮春灌水送別。　韓成封

綠暗紅稀出鳳城。暮雲宮闕古今情。行人莫聽宮前水。流盡年光是此聲。

含蓄。

惜別。　趙晟之母

暖有花枝冷有冰。惟人沒後却無憑。預愁離別苦相對。挑盡漁陽一夜燈。

三四可誦。一二似點禪語。

楓橋夜泊。　孫元實

畫船夜泊寒山寺。不信江楓有客愁。二八蛾眉雙鳳吹。滿天明月按涼州。

併觀張繼二絕句。始是好詩。

贈遠。　薛濤

芙蓉新落蜀山秋。錦字開緘揔是愁。閨閣不知戎馬事。月高還上望夫樓。

可憐生。

妓。　劉潛夫

涼殿吹笙露滿天。木犀花發月初圓。君王不御珊瑚枕。多就宮人玉臂眠。

筋骨盡露〔一作淺露〕

冬夜聽角聲。　陸務觀

媧媧清笳入暮雲。白頭老守臥中軍。自憐到老懷遺恨。不向居延塞外聞。

聞雞起舞、未非無人。此老家常茶飯。

邠王小管。　張祐

虢國潛行韓國隨。宜春深院映花枝。金輿遠幸無人見。偸把邠王小管吹。

不愧李杜。○自然。非宋元調。

宋徽宗雪江獨棹圖。　僧季潭

艮岳秋深百卉腓。胡塵吹滿袞龍衣。凄涼五國城邊路。得似寒江獨棹歸。

深刻。

題子卿牧羊圖。　李古溪

自是天工旨放回。回頭羞殺望鄉臺。漢風吹散羝羊隊。卻入麒麟隊裏來。

題太白像。　僧一初

歌罷秦樓月滿欄。天風兩袖錦袍寬。花前莫草淸平調。飛燕深宮不耐寒。

以上三首。同調連誦。使人厭。

題東坡墨竹。　同

儋翁老去氣崢嶸。尙擬長竿掣海鯨。好債官奴重秉燭。何山風雨寫秋色。

第二句豪語。不類三四溫雅。

宣和畫馬。　程鉅夫

夜半房星下九關。渥洼龍種入天閑。宣和得此渾無用。神駿爭雄粉墨間。

與子卿李白同調。〇深刻。

與趙子期趁閣。　虞伯生

屏風圍坐鬢毿毿。絳蠟搖光照暮酣。京國多年情盡改。忽聽春雨憶江南。

清人喜作此等語。〇伯生允文曾孫。其憶江南。不但風土佳麗。〇履翁所謂唐人唐人。

春月。　呂中孚

柳塘漠漠暗啼鴉。一鏡晴飛玉有華。好是夜闌人不寢。半庭寒影在梨花。

一月字。演作七字。終歸無味。

春夜作。　王安石

金爐香燼漏聲殘。剪剪輕風陣陣寒。春色惱人眠不得。月移花影上欄干。

一二似道宋室衰殘。三句似道新法惱亂諸州。四句似指元木輩者。宋室衰殘光景。略具此詩中。天恐使安石自首爾。

磻溪　　溫庭筠

呂公榮達子陵歸。萬古煙波遶釣磯。橋上一通名利路。至今江鳥背人飛。

名豈屬子陵。利豈屬呂公。寓意有不可解者。

明妃曲　　許忱甫

漢宮眉斧息邊塵。功壓貔貅百萬人。好把香閨舊脂粉。淡粧濃抹上麒麟。

腐甚。

子陵釣臺　　戴復古

萬事無心一釣竿。三公不換此江山。平生恨識劉文叔。惹得虛名滿世間。

子陵心事。固應如此。

王導　　蕭服之

揮淚新亭歲月多。可憐廟算竟蹉跎。西風空舉元規扇。如此胡塵漠漠何。

地下逢環狄輩。果何面目。江左夷吾。其器亦小邪。

陳後主祠。　洪舜愈

眞珠簾下變離聲。多少嬙妃掩袂聽。贏得牢愁三萬斛。孤舟撐入大梁城。

臺城。　韋莊

江雨霏霏江艸齊。六朝如夢鳥空啼。無情最是臺城柳。依舊烟籠十里堤。

二首。比前三首。較有風調。

項羽廟。　陸務觀

江東誰復識重瞳。遺廟欹斜草棘中。若比咿嚶念如意。烏江戰死尚英雄。

結是放翁心事。

讀唐人愁詩戲作。　元遺山

天恐文人未盡才。常教零落在蒿萊。不爲千載離騷計。屈子何由澤畔來。

眞個戲語。

冬初雜詠。　陸務觀

書生本欲輩滑萃。蹭蹬乃去爲詩人。囊中略有七千首。不負百年風月身。

家常茶飯。

寒食。寄京師諸弟。　韋應物

雨中禁火空齋冷。江上流鶯獨坐聽。把酒看花想諸弟。杜陵寒食草青青。

溫籍。

曉行。　晁叔用

老去功名意轉疎。獨騎瘦馬取長途。孤村到曉猶燈火。知有人家夜讀書。

深婉。

渡端州峽。　范德機

櫂郎得便泝淸流。忽報舟前曉霧收。蠻語酬人緋自苦。好山不敢問何州。

紀行妙境。

嘉陵驛。　武元衡

悠悠風旆遶山川。山驛空濛雨作煙。路半嘉陵頭已白。蜀門西更上靑天。

不言而言。

田家。　鄭毅夫

田家汨汨水流渾。一樹高華明遠村。雲意不知殘照好。却將微雨送黃昏。

即興。　趙子昂

春陰柳絮不能飛。雨足蒲芽綠更肥。政恐前呵驚白鷺。獨騎款段遶湖歸。

第三句。是王孫反語。

閨怨。　葉苔磯

長安遊子誤歸期。懶織回文錦字詩。約臂黃金寬一寸。逢人猶道不相思。

燕子樓。　白居易

滿窗明月滿簷霜。被冷燈殘拂臥床。燕子樓中霜月夜。秋來只爲一人長。

白傳之言。從議少含蓄。此二十八字。亦見其一隅。而過去七佛。皆彼岸舟筏。何擇如來菩薩。

宮中詞。　馬逢

玉樓天半起二笙歌一。風送二宮人笑語一和。月影殿開聞二曉漏一。水精捲レ簾近二秋河一。

月影疑殿名。不レ然幾偏枯。

寄レ衣曲。　嚴仁

遠戍蕭河遇便稀。回文織就久停レ機。家書到日寒應レ盡。不レ寄二寒衣一寄二暑衣一。

太巧。

遊二仙枕一。　蕭服之

一枕仙遊足二自娛一。蕭然憶思離二塵區一。十洲三嶋經行處。知レ有二岷峨劍閣一無。

過巧。

趙子昂並蔕芙蓉圖。　顧謹中

春入二毫端一散二彩霞一。無邊生意繞二穠華一。院鈴不レ動文書靜。貌得芙蓉並蔕花。

胡元亦有二許清時一乎。王孫膴仕。優游得意可レ想。○南北二花一房既落。王孫非二其遺種子一乎。

客二東湖一。　虞繼之

青燈耿耿思悠悠。寶鴨香寒吐復收。病枕不禁春睡重。東風吹夢落滄州。

書夢。　　陸務觀

時人應怪我何求。白盡從來未白頭。磅礴崑崙三萬里。不知何地可埋憂。

地毬一丸倒栖側住。盡是人界。埋憂無地。生愁有處。吾將奈之何。

錦繡段選選　終

偶見兒輩讀錦繡段者。此時人所愧學。然視之。亦有可喜。後之名家。百思而不至者。因點發。命抄之』茶翁見之戲援筆。加一二評語。翁隻字片語。皆詩家金針』 此等雖零碎。安知數百年後不有十襲藏焉者也』 庚午〔文化七年〕夏日。山陽外史。

頼山陽先生

# 一夜話

# 『賴山陽先生一夜話』解題

〔未刊本〕

コノ原寫本三冊、署シテ「林維章、聞記」トイヘリ。維章ハ、ソノ名、字ハ文卿、東溪ノ稱ヲ以テ行ハル。寬政四年、備後西城ニ生レ、家世、醫ニ名アリ、始祖雲仙、元龜元年、ソノ地大富山城主宮景盛ノ典醫タリ、維章ハソノ九世ノ裔ナリ。年十三、廣島藩醫惠美三白ノ門ニ入リ、後、菅茶山ニ從遊スルコト數年、文化八年、上京シテ山陽ニ從ヒ、業大ニ進メリ。ソノ鄉ニ歸ルニ臨ミ、山陽ハ疾ヲ力メテ「蘭亭記」、及ビ「抱甕」「扁額」ノ二字ヲ書シテコレヲ贐シ、又「爲春堂」ノ號ヲ命ジタリ、扁字ハ維章ノ家、一古甕ヲ傳フルニ因メルナリ。文政二年、祖業ヲ紹ギ、兼ネテ諸生ニ教授シ、人ト爲リ仁慈ニシテ、篤行ヲ以テ稱セラル。文久三年、歿シ〔七十二歲〕、今ノ曾孫廣之氏ニ及ベリ。

コノ原本、卽チ在學ノ日、聽講筆記スル所ニシテ、國史ノ部二冊・漢史一冊ニ分チ、卷

中ニ「文化八年」ノ年紀ヲ留メタルハ、塾ノ教課トセシトコロヲ、ソノ年代「山陽入京當年」ノ上ニ照ラシテ、尤モ重要ナル資料ヲ提供セリ。ソノ講説、簡ニシテ要ヲ得、殊ニ國史ノ如キハ、コレヲ『外史』・『政記』ノ著述ニ羽翼スベキモノタルヲ思ハシム。

山陽ガ國史ノ講説ニ當リ、ソノ教材トシテ日本地圖ノ大綱ト、山川ノ脈絡トヲ示シ、コレヲ史實ニ結ビ附ケタル手段ノ如キ、コレヲ時代ノ上ニ察シテ、ソノ著意ノ存スルトコロヲ觀ルベク、別卷『文集』第十卷ニ掲ゲタル「題ニ自作輿圖ニ」ノ文ニモ、

「二三子、史ヲ讀ムノ際。ソノ地理ヲ詳ニセズ。從前輿圖「日本地圖」、備ハレリト雖モ、未ダ專ラ山河ノ形勢ヲ指スモノアラズ、則チ戰爭ノ事跡、參觀スルニ難シトス。余、爲メニ臆ニ據リテ、コノ圖ヲ作ル。國郡ノ方位、大半齟齬セリト雖モ、而モ山脈ノ起止・水勢ノ源流、亦以テ槩略ヲ識ルベク、而シテ攻守ノ利害、又指掌スベシ。乙酉孟秋「文政八年七月」十二日。山陽外史。」

支峯ハ、コレニ跋シテイフ、

「先考、史學ヲ好ミ、最モ本邦ノ事蹟ニ詳ナリ。從遊子弟ノタメニ、史學ヲ談ズル

ニ、蘊奥ヲ竭クシテコレヲ說キ、ソノ未ダ了解セザルニハ、或ハ筆ヲ援リ、自カラ地圖ヲ書シテコレヲ示シ、ソノ意解スルニ至リテ止メリ、ソノ人ヲ導クニ諄々タルコト、厚シトイフベキカナ。」

コノ書、從來世ニ出デズ、本會故玉井源作氏ノ手ニ由リテ採訪セラレ、所藏主ノ快諾ヲ得テ、コヽニ始メテ公刊スルヲ得タリ。〔好尙生〕

# 賴山陽先生一夜話　第一

林維章　聞記

文化八年「文化癸酉歳。余初從二遊夫子於京師一。」

○日本六國史

日本書紀　續日本紀　日本後紀　續日本後紀　文德實錄（文德天皇一世ノ事ヲ紀ス）

三代實錄（三代トハ清和・陽成・光孝三帝ノコトヲ紀ス。）

右六國史ミナ編年ノ體ナリ、此後ニ續ク記錄アルコトナシ。

○野史ノ祖ト信ズベキ者

保元平治物語　源平盛衰記　平家物語　東鑑　北條九代記

太平記　明德記　嘉平記　應仁記　重編應仁記　北條五代記

甲陽軍鑑　信長記　太閤記

水戸黄門光圀卿、儒臣ヲ集メ、六國史以下、太平記アタリ迄ノ正說ヲ取リ、紀傳ノ史ヲ修メ玉フ、大日本史是也。但シ、日本史ハ、神武天皇ヨリ後小松天皇ニ至ル。武家ハ足利義滿迄ナリ。

神武天皇ハ、天照大神ノ神裔ニシテ、日向ヨリ兵ヲ起シ、山陽道ニ由テ、難波ニ著キ玉ヒ、紀伊・大和ノ豪族ト、八十梟帥・長髓彥等ヲ伐平ゲ、大和ノ橿原ニテ天子ノ位ニ卽キ玉フ。（周惠王ノ時ニ當ル）　神武ヨリ御子綏靖ニ傳ヘ、第十二世景行天皇迄、皆父子相繼玉フ。景行ノ御子日本武尊、東國ヲ征伐シテ功多シ、尾張熱田ニテ薨ジ玉フ。其御弟成務天皇ヲ世繼トス、成務ノ次、仲哀天皇ハ、日本武尊ノ御子ナリ。（景行ノ時、疆土大ニ闢ク、成務ノ時、國郡ヲ分チ置ク）　仲哀ノ后ヲ神功皇后ト云フ、夫婦共ニ筑紫ノ熊襲ヲ征シテ、仲哀ハ道ニテ崩ジ玉フ。皇后、大臣武内宿禰ト議シテ、海ヲ渡テ三韓ヲ征シ、歸テ應神天皇ヲ產ミ玉フ。（一ニ胎中天皇ト云フ）皇后政ヲ攝シ玉フコト歲久シクシテ、應神天皇卽位シ玉ヒ天皇ノ御子ヲ仁德天皇ト云フ、難波ニ都シ玉フ。

第二十二世雄略天皇、暴虐ニシテ、其ノ次淸寧天皇ニテ世繼絶エシガ、仁德ノ御子履

中天皇ノ孫二人、民間ニ在シヲ尋出シ、位ニ卽ケ奉ル、兄弟相禪テ相及ブ、顯宗・仁賢ノ二帝ナリ。仁賢帝ノ御子武烈天皇、暴虐ニテ亦世繼絕エタリ、應神帝六世ノ孫繼體天皇、位ニ卽キ玉フ。

第三十世欽明天皇ノ時、百濟國ヨリ佛法渡リ來リ、大臣蘇我稻目等、コレニ歸依ス、帝之レヲ禁ジ玉ヘドモ聽カズ。欽明ノ次敏達・用明・崇峻三世、ミナ欽明ノ御子ニシテ、位ヲ繼ギ玉フ、佛法漸ク盛ナリ。用明ノ御子ニ廄戶皇子、(卽聖德太子ナリ)大臣蘇我馬子ト、最モ之レヲ信ズ。馬子政ヲホシイママニシテ、終ニ崇峻帝ヲ弑シ奉ル、聖德太子、其ノ儘ニシテ罪ヲトハズ、用明ノ御姉妹ノ內ヲ位ニ卽ケテ、太子其政ヲ攝ス、是推古天皇ナリ。

隋ノ代ニ當ル

敏達天皇ノ御子、舒明・皇極・孝德、相繼デ位ニ卽ク。此時、蘇我蝦夷・蘇我入鹿、政ヲ肆ニス。舒明ノ御子ヲ中ノ大兄ノ皇子ト云フ、此ノ皇子中臣鎌足ト云フ賢者ト、密議シテ謀ヲ定メ、殿中ニ於テ蝦夷・入鹿ヲ誅シ、政ヲタスクルコト歲久クシテ、後ニ天子ノ位ニ卽ク、コレ天智天皇ノ御事ナリ。

推古・舒明ノ比ヨリ、隋ト通ジ、遣隋使ト云フ官アリ、西土ノ禮文ヲ取用ヒテ、官階衣冠ノ制ヲ建ラル。天智ニ至リ、制度大ニ備ル、帝、聖智スグレ玉ヒシ故、神武ヨリコノカタ、此帝ヲ太宗トモ申シ奉ルベキコトナリ。中臣鎌足、此ノ帝ヲ佐ケ、亂ヲ定メ、政ヲ興シ、功高カリシカバ、宮内大臣ニ至ル。コレヨリ前、大連・大臣、各左右アリテ、天子ヲ輔佐ス。帝、鎌足ヲ寵異シテ、別ニ内大臣ノ官ヲ置ク、此ノ人藤原家ノ元祖ナリ。

天智帝ノ御子大友皇子、ツイデ位ニ卽キ玉フ。此ノ時、天智ノ弟、大友ノ叔父ニ、大海人ト云アリ、遁隱シテ兵ヲ起シ、美濃ノ國ヨリ都ニ攻上リ、官軍戰敗レテ、大友崩ジ玉フ、於レ是大海人位ニツク、是天武天皇ナリ。（天智・大友ハ近江ニ都シ、天武ハ大和淸見原ニ遷ル）

天武ノ御子舍人親王、勅ヲ奉ジテ日本紀ヲ作ル。神代ヨリ天武・持統ノ兩帝ニ至ル。

大友ハ、帝ノ數ニ入レズ、天皇、帝ヲハバカリテナリ。

天武ノ御孫文武天皇、持統ノ世ヲツギ、其次元明・其次聖武・其次孝謙・其次淡路廢帝・其次稱德、ミナ天武ノ血脈ナリ。稱德世嗣ナクシテ、天智天皇ノ御子孫ヲ位ニ卽セ玉フ、コレ光仁天皇ナリ。（元正ノ朝、大和平城卽奈良ニ都ヲ遷シ、光仁迄六世、三十年平城ニ在スナリ。）

孝謙帝ハ女王ニシテ、淫亂甚シク、弓削道鏡ト云フ僧ヲ愛シ、太政大臣ニ至ラシム、終ニ位ヲ禪ラント欲スルニ至ル。和氣清麿ヲ宇佐ニ奉幣セシメテ、神意ヲ問フ、清麿鯁直ノ人ニシテ、歸朝ノ時、神託ヲ稱シテ道鏡ヲクジキ、事ナラズシテヤム。（稱德ハ孝謙ノ重祚ナリ、此ノ前ニ齊明モ皇極ノ重祚ナリ、重祚ノ諡ヲ別ニスルコト、日本ノ風ナリ。）

光仁ノ御子桓武天皇、始メテ都ヲ山城ニ遷ス、名テ平安ト云フ、終ニ不易ノ都トナレリ。

桓武、英明ニシテ、シバ〳〵將帥ニ命ジテ、東國ヲ征伐ス、坂上田村丸〔麿〕ナド、尤功有リ、征夷將軍・征東將軍等ノ官アリ、上毛・下毛・陸奧・出羽等ノ國々、全ク版圖ニ入リシハ此時ナリ。

桓武ノ次ニ、平城天皇。（平城ニ隱居シ玉ヒシ故ニ諡トス）其次嵯峨・其次淳和・其次仁明・其次文德。

此比、藤原家漸ク盛ニシテ、后妃ハ多ク此ノ家ヨリ取ル。文德ノ后ハ、藤原良房ノ女ナリ、清和天皇ヲ產ム。清和、幼冲ニシテ位ヲツギ、良房、外祖ヲ以テ政ヲ肆ニス、コレ藤原家、朝權ヲ竊ムノ始メナリ。

清和ノ次、陽成狂疾アリ、良房ノ子基經コレヲ廢テ、光孝文徳ノ兄弟ナリヲ立ツ。基經攝政タリ、藤原家ノ勢、マスマス盛ナリ。此ヨリ藤原氏ノ長者タルモノ、大臣ニテ攝政・關白・内覽・宣旨等ノ職ヲ帯ブ。光孝ノ御子、宇多院コレヨリ後天子ニ謚ヲセズ、院號ノミナリ英主ニテ、藤原家ノ權ヲ抑ヘント謀リ玉ヒ、菅原道眞ヲ儒家ヨリ拔キ用ヒテ、大臣ニ至ラシム。此ヨリ前、孝謙ノトキ吉備眞備、儒臣ニテ大臣ニ至ル、儒臣ノ大臣ニ至ルモノ、此ノ兩人ナリ。サレドモ吉備公ハ菅公ノ忠賢ニ及バザルコト遠キコト甚ダシ。

宇多天皇、位ヲ御子醍醐天皇ニ禪リ退キ玉フ、菅公ヲ輔佐トス。大臣藤原時平、コレヲ嫉ミ、帝ニ讒シ、貶シテ太宰ノ帥トス、上皇コレヲ聞キテ驚キ玉フ、サレドモ及バズ。

醍醐ヨリ御子朱雀ニ傳ヘ、朱雀ヨリ亦御子村上ニ傳フ。醍醐・村上二帝、文ヲ好ミ玉ヒテ、詩文ノスグレタル臣多シ。

村上ヨリ冷泉・圓融・花山・一條・三條・後一條・後朱雀・後冷泉ノ數朝、朝政スタレテ、攝家ノ權獨盛ナリ。東國ニ叛亂ノ者ヤヽ起リ、源・平二家ニ命ジテ、シバシバコレヲ伐平グ。東國ノ人民、自ラ武人ト稱シテ、源平兩家ノ家人トナルコト、此頃ヨリ起ル、將帥ノ權、亦

漸ク盛ナリ。

後朱雀ノ御子後三條天皇・後冷泉ニ次テ、位ニ即ク。此帝甚ダ英明ノ君ニテ、始メ記錄所ト云フ役所ヲ建テ、自ラ政ヲ聽キ、攝家ノ權ヲウバヒ玉フ、珎鋪天子ナリ。

後三條ノ御子白河、其次堀河・其次鳥羽ミナ、父子相續ケテ位ヲ禪ル、已ニ位ヲ禪テ後、何レモ院中ニ在テ政ヲ聽ク、コレ院政ノ始ナリ。

白河院、髮ヲ削リ、法皇（法皇ハコレヨリ前宇多院ヨリ始マル）ト云フ、法皇藤原璋子ト云女子ヲ養女トシテ、御孫ノ鳥羽院ノ后トス。此ノ腹ニ崇德院生ル。鳥羽ノ讓ヲ受ケテ位ニ即ク、實ハ白河帝密通シテ產マセ玉ヒシ御子ナリト云。故ニ鳥羽コレヲ字セズ、常ニ曰シテ叔父天子ト云。鳥羽ノ寵姬ヲ美福門院ト云、美福門院、近衞帝ヲ生ム、崇德ニ迫ツテ、位ヲ近衞ニ禪ラシム。崇德、常ニ位ニ復センコトヲ希フ。近衞、幼ニシテ位ニツキ、幾クモナクシテ早世ス。鳥羽法皇、美福門院ト內議シテ、後白河帝ヲ世ツギニ立ツ。後白河ハ崇德帝ノ同母弟ナリ、サレドモ崇德ノ意ニハ、此トキ自ラ重祚カ、又己レノ子重仁世嗣トナル可キト思ヒ居玉ヒ、中外ノ人望モ重仁ニ屬シ居タルニ、後白河

ノ即位ヲ聞キテ、ミナ大ニ驚ク。

後白河ノ保元元年ニ、鳥羽法皇崩ズ。崇德上皇、今ハ憚ル所ナシトテ、院中ニテ兵ヲ起シ、源平兩家ヲ賴ミ玉フ。後白河帝モ、兩家ノ將帥ヲ召集メ玉フ。兩家ノ父子兄弟、各分別シテ、兩御所ノ味方ヲナス。崇德上皇一夜ニ戰マケテ、後白河ノ爲ニ讃岐ニ執ヘ流サル、終ニ讃岐ニテ崩ジ玉フ、コレニ黨スル文武ノ諸臣、ミナ誅セラル、是所謂保元ノ亂ナリ。武家此ノ時ニ乘ジテ、漸ク朝權ニ關リ、王室終ニ振ハザルニ至ル。

後白河ヨリ二條・六條二帝、父子相續ク、政ハ後白河上皇ニアリ。上皇ノ愛子、六條ノ禪ヲ受ケテ位ニ即ク、此レ高倉院ナリ。

初保元ノ亂ニ、平清盛・源義朝、後白河帝ノ味方ヲナシ、義朝尤功アリシガ、後白河ノ寵臣少納言入道信西（才學ノ士ナリ）清盛ヲ佐ケ、義朝ヲ抑ユ。後白河ノ嬖臣藤原信賴、亦信西ニ抑ヘラレテ志ヲ得ズ。終ニ義朝ト亂ヲナシ、宮ヲ襲フ、清盛及其ノ子重盛等、コレヲ誅ス。是所謂平治ノ亂ナリ。（平治ハ此ノ時ノ年號ナリ。）

平治ノ亂ヨリ、清盛大ニ勢ヲ得、マタ後白河上皇ノ寵ヲ得テ、遂ニ太政大臣ニ至リ、

親族、朝廷ニミチ、釆邑、天下ニ半ナリ。清盛ノ女ヲ高倉ノ后ニ進メ、安德天皇ヲ生ム。安德帝、幼ニシテ卽位シ、外祖父清盛入道、政ヲ肆ニシ、源氏ノ餘類、諸國ニ兵ヲ起ス。後白河ノ皇子ニ高倉宮ト云フ御人、最初ニ源氏頼政ニススメラレ兵ヲ起シ、戰敗レテ薨ズ。其ノ後、源義仲、平家ヲ都ヨリ西ヘ逐出シ、京都ニ屯ス。平家ハ安德帝ヲ扶ケテ、西國ニアリ。於是後白河法皇、高倉帝ノ御子ヲ立テ位ニ卽ク、是レ後鳥羽院ナリ。

源義仲、暴亂ヲナシテ、法皇ヲ攻ムルニ至ル。源頼朝、此時關東ヲ切リ從ヘテ、兵ヲ遣ツテ義仲ヲ伐亡ス、終ニ平家ヲ西海ニ鏖ニス。已レハ鎌倉ニ在ツテ天下ノ政ヲ主ル、征夷大將軍ニ拜ス、武家天下ヲ治ムル始ナリ。

頼朝ノ後、三世ニ傳ヘテ世繼絶エ、其外戚、北條氏、陪臣ヲ以テ國命ヲ司ル。

後鳥羽帝ノ御子、土御門・順德兩帝、兄弟相及ビ、順德ノ御子、九條廢帝卽位ス。後鳥羽上皇、猶院ニアツテ、鎌倉ノ權ヲ專ニスルヲ惡ミ、兵ヲ起シテコレヲ伐ツ。北條義時、大軍ヲ遣ツテ、闕ヲ犯ス。九條廢帝ヲ廢シ、後鳥羽帝ヲ隱岐ニ流シ奉ル、土御門・順德モ流サレ玉フ、是承久ノ亂ナリ。（承久モ亦年號ナリ）

承久ノ亂ニ、北條氏、後堀河帝ヲ立ツ、高倉ノ御孫ナリ、後ニ御子四條帝ニ傳フ。其ノ次ニ、北條泰時、土御門ノ御子後嵯峨帝ヲ位ニ即ケ奉ル。其御子深草・龜山二帝、兄弟相及ビ、此帝ノ皇胤ヲ代ルヽヽ位ニ即ケ奉ル。攝家モ五流ニ分ケテ、代ルヽヽ關白職トス、ミナ北條氏ノ計ヒナリ。

龜山ノ御子後宇多・後宇多ノ御子後醍醐帝ナリ。此帝モ英武ノ君ニテ後三條ノ政ニ傚ヒ、記錄所ヲ置テ、自ラ民ノ訴ヲ聽斷ス。藤原俊基等ト密謀シテ、北條氏ヲ討亡サントス、謀漏レテ、俊基等執ヘ流サレ、其ノ後、帝再ビ兵ヲ發シ、戰敗レテ隱岐ニ流サレ玉フ。楠正成、兵ヲ發シテ王ヲ勤ス。新田・足利等ノ名族、北條ニソムヒテ、官軍ニ屬シテ鎌倉・六波羅、同時ニ亡ブ、帝位ニ復シ、天下シバラク王政ノ舊ニ復ス。

中興ノ政正シカラズ、賞罰宜ニ違ヒ、女謁、公ニ行ハレテ、天下又武家ノ政ヲシトウ。藤原藤房諫ムレドモ、行ハレズシテ遁隱ス。帝ノ庶子護良親王、中興ニ功多クシテ、官、征夷大將軍ニ至ル、足利尊氏ノ姦雄ナルコトヲ知ッテ誅セントス、尊氏、帝ノ寵姫・准后局ニ結ンデ、親王ヲ讒言シ、コレヲ鎌倉ニ囚ヘ、終ニコレヲ弑ス。

此ノ時、北條ノ餘類、東國ニ起リ、鎌倉ヲ襲フ。尊氏、自ラ乞テ赴キ討ツ、詔ヲ矯テ關東ヲ抑掠ス、帝始メテ其ノ姦ヲ知リ、新田義貞ヲ遣ハシコレヲ伐ツ、官軍敗レ歸リ、尊氏、闕ヲ犯ス、已ニシテ尊氏、敗レテ筑紫ニ走ル、再ビ攻上リ、正成等伐死シテ、帝、叡ニ幸ス。尊氏、佯和シテ、帝ヲ呼下シテコレヲ執フ、帝脱出シテ吉野ニ奔リ、行宮ニ居玉フ。

初、北條、後醍醐帝ヲ流セシ時、故ノ深草ノ皇胤ヲ立テ位ニ卽ク、コレヲ光嚴院ト云。後醍醐、重祚ノ時、コレヲ廢ス。尊氏、西海ヨリ攻上ル時、コノ廢帝ノ詔ヲ乞テ人心ヲ治ム。已ニシテ廢帝ノ兄弟ヲ立テ位ニツク。三種ノ神器ハ、後醍醐帝ノ方ニアリ、神器ナクシテ位ニツク、此レ光嚴院ナリ、コレヲ北朝ト云フ、吉野ヲ南朝ト云フ。

南朝ハ、後醍醐帝ノ御子・後村上ノ御子、後龜山・其御子照成王四世ナリ。北朝ハ崇光・後光嚴・後圓融・後小松、四世ナリ。此ノ時、武家足利義滿、兩統和穩ノコトヲ計リ、南朝ヨリ神器ヲ北朝ヘ讓リ、位ヲ退キ玉フ。南北ノ黨、諸國ニ分レ戰フコト五十四年ナリ、コヽニ至ッテ漸ク止ム。義滿、和穩ヲ乞フ時兩統更ル〳〵立ノ約ヲナセシカド、約ニソム

キ、北朝ノ皇胤斗ヲ立シガ、南朝ノ遺臣、シバ〱南朝ノ皇胤ヲ取立、兵ヲ起ス。然レドモ、足利氏ノ爲ニ伐滅セラレ、後小松・後奈良・正親町ミナ、北朝崇光院ノ御子孫ナリ。後花園ヨリ正親町ノ御孫ヲ後陽成トス。其御子ヲ後水尾トス、其御子ヲ明正院トス、明正院ノ御兄弟・後光明ノ御子令元院・東山院・中御門院・櫻町院・桃園院、ミナ父子相承玉フ。桃園、位ヲ御姉ニ讓ラセ玉フ、卽チ今ノ仙洞御所ナリ。仙洞、又桃園ノ御子ニ讓ラセ玉フ、コレヲ後桃園院トス。此帝、世嗣ナクシテ閑院ヨリ入テ大統ヲ繼玉フ。是今上皇帝ナリ。（文政癸酉年筆記）

後土御門ノ比、足利家衰ヘ、陪臣山名・細川ノ兩家、權ヲ爭テ京師ニ戰ヒ、其黨、又諸國ニ分レ戰ヒ、宮闕兵燹ニ荒レ、公家・武家、共ニ衰ヘ極レリ。其ノ後、群雄四方ニ割據シ、互ニ相呑噬ス、織田氏、其國京畿ニ近キ、故、先ヅ霸業ヲ成ス。豐臣氏、繼起リ、其遺業ニ因テ終ニ天下ヲ削平ス。此後陽成ノ比ナリ。德川氏繼起リ、太平ヲナスニ至レリ、コレ後水尾帝ノ比ナリ。

頼山陽先生一夜話　第一終

# 頼山陽先生一夜話　第二

武家ノ權ヲ得ル、平氏ヨリ始ッテ、終ニ源氏ノ手ニ歸シ、源氏亦其臣北條氏ニ簒ハレ、北條氏ハ、源氏ノ支族新田・足利ノ兩氏ニ亡ボサレ、兩家、權ヲ爭ッテ、足利伐勝チ、足利氏ノ末、其臣山名・細川等ニ亂サレ、陪臣織田氏ニ亡サル。織田氏ハ業未ダ全成ナラズシテ、其臣ニ弑セラレ、此トキ、豐臣氏ハ織田ノ將校ニテ、其アトヲ繼デ天下ヲ取レリ。德川氏ハ、新田氏ノ支族ニテ、織田・豐臣ノ際ニ家ヲ大ニシ、終ニ二氏ノ業ヲ收メテ泰平ヲ致ス、コレ武門興廢ノ大略ナリ。

源平ノ兩家ハ、皆王家ノ將帥ニテ、其職ヲ世々ニスル故、漸ク兵權ヲ取リテ、王政ノ廢レタルトキ、兵役アレバ必ズ二氏ノ力ヲ借ラザレバ事ナラズ。保元ノ役、帝王、兩家ヲ頼ミテ其ノ私ヲ濟ス。兩家コレヨリ、朝廷ヲ輕ンジ、爵賞ヲ要ス、終ニ制スベカラザルニ至ル、コレ朝廷武家ニ權ヲ奪ハレシ所以ナリ。後白河帝ノ平清盛ニ於ケル、尤ヲ見

ルベキナリ。其ノ後、賴朝、守護地頭ヲ乞ヒシモ此ワケナリ。鳥羽院ノ比、制符ヲ諸道ニ下シテ、天下ノ兵士、源平兩家ニ屬スルコトヲ禁ズ。蓋シ中古東國ノ兵役シバ〳〵起リ、其民、役ニ應ジ功ヲ立ツルモノ、ミナ兩家恩威ニ馴レ服シテ、往々兩家ノ家人ト稱シタルコトヲ、朝廷ニモ心ヅキテ、斯樣ニ禁ゼラレシコトヽ見ユ。サレドモ其勢既ニ成リテ破ルベカラズ、此レ武家、天下ヲ掌ル原由ナリ。

源平ハ、朝政ノユルミシニ乘ジテ、其權ヲ攘ミシナリ。北條氏ハ、源氏ノ業ヲ竊ミシナリ。足利ハ、北條ノ權、朝家ヘ復リテ、未ダ定ラザル内ヲ奪シナリ。足利ノトキニ至リテハ土地人民ノ權、全然王家ヲ去リテ、武家ノ有トナル、武家、又其權ヲ失ヒテ、天下、眞ノ戰國トナル。織田・豐臣ナドハ、其中ニ奮ヒ起テ、亂世ニ刪幷セシナリ。此レ古今ノ世變、一樣ニ論ズベカラザル者ナリ。織田・豐臣氏ハ、王家ノ權ヲ假ラズトモ、其ノ業ノ成ラザルヲ患ヘズ。然レドモ其ノ王室ヲ崇ビ、衰廢ヲ興セシハ、己ガ威暴ヲ修メントスルノ意ニ出ルト云ヘドモ、好ミスベキコトナリ。

## 平氏

平氏ハ、桓武天皇ノ御子葛原親王ニ出ヅ。親王ノ子・高望王ノ孫ヲ貞盛ト云。貞盛ノ從弟ニ將門ナル者アリ、東國ニ亂ヲ起シ、自ラ平親王ト稱ス、貞盛コレヲ伐ッテ平グ。將門ノ黨・藤原ノ純友ハ、四國ニ起リ伐亡ボサル。貞盛六世ノ孫忠盛、鳥羽ノ寵ヲ得テ、忠盛ノ子清盛、保元ノ亂ニ後白河ノ御味方ヲナス。其ノ叔父忠政ハ、崇德院ニ屬シ、戰敗レテ後、清盛ニ執ヘ殺サル。清盛、後白河ノ寵臣藤原通憲（信西入道）ト昏ヲ結ビ、爵賞、源氏ノ上ニ出ヅ。源義朝、コレヲ妬ミ、藤原信頼ト計ッテ、亂ヲナシテ宮ヲ襲フ。此トキ、清盛ハ熊野ニ詣デシガ、長子重盛ガス丶メニヨリ、急ニ引カヘシ京ニイタル。帝・上皇、何レモ信頼ニ執ヘラレ居玉ヒシガ、遁レ出デ清盛ノ第ニ入リ玉フ。源氏、コレヲ攻メテカタズ、信頼・義朝、ミナ平氏ノ爲ニ誅セラレ、後白河上皇・御子二條帝ト不和ニシテ、上皇、清盛ノ權ヲカリテ佐トスル故、頻ニ其官爵ヲススメテ、其後、終ニ太政大臣ニ至ル。コレヨリ以前、武家ノ位ハ三位ニ及ブ者少ナシ、清盛ヨリ其格ヤブレ、子弟親族、コトゴトク高階ヲ辱ニ、又、外家威ニヨリ權勢ナラビナシ、シバシバ後白河法皇ヲ押シコメン

トス、此レハ法皇、親臣ト議シテ清盛ヲ伐ントシ玉ヒシ故ナリ。重盛、シバシバ諫メテコレヲ止ム。重盛死シテ終ニ、法皇ヲトラヘ、政ニアヅカラシメ朝臣多ク廢流ス。諸國ノ源氏ナラビ起ル。清盛死シテ、次子宗盛、家ヲ嗣グ。源義仲ヲ避ケテ、安德帝ヲ挾テ西ニ走リ、已ニシテ福原ニ據ル。福原、ハ清盛ノシバラク都ヲ遷セシ所、一ノ谷・生田間地コレナリ。其後、源氏ニ攻オトサレ、讃岐八島ニ遷リ、亦長州壇ノ浦ニ奔リテ、一族コトゴトク滅ス、安德帝モ海ニ投ジテ崩ズ。

## 源氏

源氏ハ、清和天皇第六子貞純親王ニ出ヅ。親王ノ子經基、姓ヲ源氏ト賜フ、是ヲ世ニ六孫王ト云。經基ノ子滿仲・滿仲ノ三子頼光・頼信、何レモ武臣ナリ。頼信、平ノ忠常ヲ東國ニ伐ツテ功アリ。頼信ノ子頼義、陸奧ノ夷酋安倍頼時、及其子宗任ヲ伐平ゲ大功ヲ立ツ。頼義ノ長子義家、八幡太郎ト稱ス、父ヲ佐ケテ功多シ。其ノ後、出羽ノ豪族清原武衡亂ヲ起ス。義家、鎮守府將軍タリ、之ヲ伐平グ、コレヲ前九年・後三年ノ戰ト云フ。朝議、後

三年ノ戰ヲ私闘ナリト云テ賞ヲ下サズ。義家、恩威ヲ以テ東國ノ軍士ヲ撫循シ、關八州、大半源氏ノ家人トナル。

義家ノ子義親、亂ヲナシ誅セラル。其ノ後、爲義、孫ヲ以テ祖父ノ世嗣トナル。保元ノ亂ニ、崇德院ノ召ニ應ジ、七人ノ子ヲ帥テ、白河殿ヲ守ル。特ニ長子義朝ハ、大内ニ參ル、爲義ノ季子爲朝ノ策行ハレズ、義朝ノ爲ニ夜伐セラレ戰敗ル。爲義、髮ヲケヅリ、義朝ニ因テ降ヲ乞フ、朝廷コレヲユルサズ。義朝ヲシテ其父ヲ誅セシム。爲朝ハ執ヘ流サレ、諸弟ハミナ殺サル。義朝、又其ノ爵賞、平氏ノ下ニ出ルコトヲイキドホリ、終ニ藤原信頼ニ組シ亂ヲナシ、戰敗レテ尾張ニ走リ、其家人長田忠宗ノ爲ニ殺サル。其ノ長子義平モ、平氏ニ執ヘ殺サル。

此時、義朝ノ第三子頼朝、歳十三、父ニ從ヒ、道ヲオクレテ、美濃ニテ平家ノ士宗清ニ執ヘラレ、六波羅ニ至ル。清盛ノ繼母池ノ尼ニ命乞セラレ、死ヲ宥メテ伊豆ノ國ニ流サル。義朝ノ妾常盤ノ腹ニ二子アリ、清盛、常盤ヲ取ツテ妾トナシ、二子ヲ僧トス、義圓・義經コレナリ。頼朝ハ伊豆ニアリテ、北條時政ノ女政子ニ密通シ、時政及ビ土肥・佐々木

等ノ舊臣ト兵ヲ起ス。高倉宮ノ令ヲ奉ゼシナリ。石橋山ノ戰ニ敗レ、上總ニニゲ、再ビ關八州ノ家人ヲ集メ、關東ヲ切靡テ鎌倉ニ據ル。淸盛兵ヲ遣ッテ富士川ニ至リ、戰敗レテ歸ル。此時義經、都ヲ遁レ出デテ陸奧ニアリシガ、來テ賴朝ニ會ス。淸盛憂憤シテ死ス。賴朝ノ從弟義仲、又信濃ニ起ル、平家ノ討手ト北國ノ處々ニ戰勝チテ、直ニ京師ニ攻上ル、後白河法皇、竊ニ其軍ニ幸ス。是ニ於テ平家擧族西海ニ奔ス、義仲、野鄙暴戾ニシテ人望ニソムキシ故、賴朝ニ詔シテコレヲ討シム。賴朝乃チ第二弟範賴・義經ヲ遣シテ義仲ヲ亡ボシ、遂ニ平氏ヲ一ノ谷・八島・壇ノ浦ノ處々ニ攻滅ス。

義經、功多シ、法皇ニ寵アリ、賴朝ト不和ニナリ、遂ニ都ヲ出奔ス。其ノ時、法皇ニ迫リテ、賴朝ヲ追討スルノ宣旨ヲ乞ヒ下ス。賴朝、コレニ因テ大ニ朝廷ヲ怨ム。此ノ時ニ當リテ、平氏ノ餘類、諸國ニ伏シ、義經、又所在ヲ知ラズ、天下騷然タリ。コレヨリ先キ、大江廣元、朝廷世儒ノ臣ナリシガ、賴朝ノ乞ニ因テ鎌倉ニ下リ、政事ヲ與リ聞ク、コヽニ至ッテ策ヲ建テ、賴朝ニスヽメテ六十餘州國司ニ守護ヲ置キ、庄園ニ地頭ヲ置キ、皆武人ヲ以テコレヲ爲シテ、鎌倉ヨリコレヲ支配シ、所在ノ亂賊ヲ追捕セシム。其處ノ正稅

ノ外ニ、一段毎ニ米五升ヲ取テ兵粮トス。頼朝大イニ此ノ策ヲ忻ビ、朝廷ニ苦請ス、法皇、義經ニ院宣ヲ下セシ御誤リアル故、頼朝ノ乞ニ違フコトヲ憚リ、遂ニ其議ニ從フ。コレヨリ日本國中、次第ニ武家ノ號令ニ從テ、國司ノ權輕クナリタリ。世ニ頼朝ヲ總追捕使ト云フ、コレ武家天下ヲ司ルノ始メナリ。國司ハ朝廷ヨリ國守ヲ遣シテ其國ヲ治ムル役ナリ、守護・地頭ハ名ハ違ヘドモ、皆其處ノ古キ武人ニテ、鎌倉ノ命ヲ承テ、亂賊ヲ追捕スル役ナリ。コレ郡縣ノ治メ漸ク封建ニ變ズル原因ナリ。但シ、庄園ハ公卿ノ采邑也。

此時、義經ハ、陸奥ノ泰衡ノ所ニ伏シテ、終ニ泰衡ニ殺サル、頼朝ノ命ニ因テナリ。蝦夷ニ遁ルトモ云フ。頼朝、又泰衡ノ罪ヲ申タテ院宣ヲ乞ヒ、親ラ將トシテコレヲ討滅ス、範頼モ疑ヒヲ以テ殺サル。

朝廷、頼朝ヲ征夷大將軍ニ拜ス、位、從二位ニ至ル。頼朝病死シテ、二子頼家・實朝、ミナ北條氏ノ出ナリ、頼家、職ヲ襲ヒ、政ハ外祖時政ニアリ。頼家、淫昏ニシテ人望ナシ、病アリテ世繼ノコトヲ議ス。其ノ子一幡ニ職ヲ讓リ、外戚比企(ヒキ)能員ニ囑シテ、北條氏ヲ滅サントス。時政先ヅ能員ヲ攻殺シ、頼家ヲオシコメ、實朝ヲ立テ世嗣トス。時政、スデニ老テ、其子義時、執權タリ、頼家ノ子公曉禪師、實朝ヲ鶴ケ岡ニテ刺殺シ、公曉(クゲウ)又義時ニア

ザムキ殺サレテ、頼朝ノ血脈絶ス。コレミナ北條ノ陰謀ニ出ルト云。

## 北條氏

北條氏ハ、平貞盛ニ出ヅ。伊豆ノ北條ニ住セシ故ニ氏トス。貞盛七世ノ孫、時政ノトキニ至ッテ、源頼朝、伊豆ニ流サレ、時政ト伊東祐親ト二人、平家ノ命ニテコレヲ監ス。頼朝、祐親ノ女ニ通ジ、事顯レ、遁レテ北條ニユキ、又時政ノ女政子ニ通ジ、時政知ラザル爲（マネ）シテ、政子ヲ伊豆ノ目代八木鎌隆ニ嫁ス。政子、ニゲテ頼朝ニヨル。頼朝、鎌隆ノ勢兩立セザル故、頼朝遂ニ兵ヲ起シテ鎌隆ヲ討亡ス。此ノ時、平家漸ク亂レ、諸源ノ内ニテ、頼朝尤人望アリシ故、時政モ意ヲ屬シ、遂ニコレヲ助ケテ關東ヲ畧シ、平家ヲ亡スニ至ルハ、時政ノ力居多ナリ。頼朝薨ジ、朝家ノ世ニナリテ、外祖ヲ以テ益權アリ。已ニシテ頼家ノ外戚比企氏ヲ亡ボシ、頼家ヲ廢シ、其弟實朝ヲ立ツ。頼家・實朝、ミナ政子ノ出ナリ。時政、繼妻ニ惑ヒ、畠山重忠ヲ殺シ、又實朝ヲ廢セントス。政子ノ兄義時ト議シテ、時政ヲシテ政ヲ義時ニ禪リ、北條ニ隱居セシム、尋デ卒ス。

義時ハ、時政ノ子ニテ、執權ヲ襲ヒ、和田氏ヲ亡シ、政ヲ專ニス。實朝ノ良死セザルモ、義時ノ陰謀ニ出ルト云フ。其後、政子ト議シテ、攝政藤原道家ノ子賴經ヲ鎌倉ニ迎テ、將軍トシテ、自ラコレヲ補佐ス。承久ノ亂ニ、子弟ヲ遣シテ闕ヲ犯シ、三上皇ヲ流シ、帝ヲ廢シテヨリ、天子ノ廢立モ、北條氏ヨリコレヲ議スルニ至ル。後病死ス、或ル近臣ノ怨ヲ啣ム者ニ殺サレシトモ云。

時賴ノ子泰時、父祖ノ業ヲ繼ギ、益々家ヲ盛ニス。成敗式目ヲ作リ、訟獄ヲ平允ス、所謂貞永式目ナリ。泰時ノ子時氏、時氏ノ子經時、相繼ギ執權タリ。經時ノ弟時賴、心ヲ政事ニ止メシコト亟ク、青砥左衞門ヲ用ヒシモ此ノ人ナリ。時賴ノ子、時宗ノ世ニ當ッテ、蒙古ノ入寇ヲ防デ功アリ。時宗ノ子貞時ニ至テ、政ハ寖ク衰フ。貞時ノ子高時、少シテ執權ヲ襲ヒ、政ヲ嬖臣ニ委テ、武人始テ北條氏ニ背ク者多シ。後醍醐帝、此時ニ乘ジテ討伐ヲ行ヒ玉ヒ、高時誅ニ伏シ、宗族盡ク滅ス。

將軍ハ賴經ノ子賴繼二世ニテ、其ノ後ハ、後嵯峨皇子宗尊親王・其御子維康親王二世。其後、後深草ノ皇子久明親王・其ノ御子守邦親王二世。前後合テ六世、皆北條氏ニ擁立

セラレ、虚位ニ據ルノミニテ、軍政ニ關スルコトヲ得ズ。其ノ幼少ヲ利トシテ、コレヲ立テ、歳長ズルニ及ベバ、コレヲ廢シテ更ニ幼少ノ者ヲ撰ビ立テ、コレヲ陽尊シテ、自身ノ位ハ五位ニ過ギズ、官ハ國守ニ過ギズ、謙遜ヲ主トシ、節儉ヲ務メ、以テ上下ノ人心ヲ收ム、コレ北條氏、陪臣ヲ以テ國命ヲ司リ、能ク九世ノ久キニ及ビシ所以ナリ。政子ハ、其ノ初、父兄ニ紿カレテ、己ノ二子ヲ其計中ニ墮シテ、コレヲ失ヒシガ、後ハ專ラ北條氏ヲノミ爲セシナリ。此人、頼朝ヲ補佐シテ、天子上下ヲ定メ、諸將士畏伏スル所ナリシカバ、義時・泰時ノトモガラモ、コレヲ借リテ群臣ヲ鎭壓セシナリ。頼朝沒後、薙髪セシ故、世ニ尼將軍ト呼ベリ。此尼、泰時ノ世迄存在ス、北條氏ノ家ヲ興スハ、此女子ニ甚スト云ベシ。

頼朝、鎌倉ヲ草創シ、政所ヲ置ク、時政ヲ政所ノ別當トス。北條氏ノトキニ至テ、改メテ評定所ト稱シ、宗族連署ヲ以テ事ヲ行フ。其ノ頭タル者ヲ執權ト稱ス。承久ノ亂後、京師六波羅ニ南北府ヲ置キ、宗族ヲ遣シテコレヲ鎭ス。後又長門・筑紫ノ探題ヲ置キ、亦宗族ヲ以テコレヲ爲ス、元弘ノトキ、一時討滅セラル。

高時ノ子時行、再ビ亂ヲ起シ、鎌倉ヲ襲ヒ取ル、二十日ニシテ足利氏ノ爲ニ奪ハル、コレヲ世ニ二十日前代ト云、足利氏ノ代ノ辭ナルベシ。

## 新田氏

源義家ノ子義國、京師ニテ攝家ニ無禮ヲナセシ咎ニヨリ、上野ニ流サル、此ノ人、新田・足利兩家ノ祖ナリ。義國ノ子二人、兄ヲ義重ト云ヒ、弟ヲ義康ト云フ。義重、新田ノ郷ニ居ル、依テ氏トス。賴朝ノトキ、五位大炊助タリ。義重ヨリ七世ヲ賴氏ト云フニ至ル迄、何レモ新田ニ住シ、北條家ノ下ニ屬シ、勢ヒ足利ニ及バズ。（足利ハ義康ノ家ナリ。）元弘ノ亂ニ、北條高時、已ニ足利尊氏ヲ上方ノ討手ニ指上シ、更ニ新田家ヲモ金剛山（楠氏ノ城）ノ寄手ニ加ヘオキシガ、朝氏ノ長子義貞、竊ニ官軍ニ與スル志アリテ、大塔宮（即護良親王。）ノ令旨ヲ請下シ、本國ニ歸リ、遂ニ上野・越後ノ一族ト義兵ヲ起シ、鎌倉ニ攻入リ北條ヲ討亡ス。此トキ、尊氏モ六波羅ヲ亡シテ、後醍醐天皇ハ都ニ歸リ玉フ。尊氏ノ功、義貞ニ及バザレドモ、先世ヨリ家勢著シキヲ以テ、恩賞ハ其ノ上ニ出ヅ。於是尊氏、關東ニ據テ叛ス。

義貞、敕ヲ奉ジテ山門ニコモリ、遂ニ尊氏ヲ攻メヲトス。尊氏再ビ西海ヨリ攻上ルトキ、防ギ戰ッテ利アラズ、再ビ山門ニコモル。帝、尊氏ノ佯リ和スルヲ聽キテ、其ノ陣中ニ幸シ、義貞ニ敕シテ、太子ヲ奉テ北國ニ赴カシム、金ケ崎・杣山諸處ニ戰ヒ利アラズ、太子擒ニセラレ、義貞ハ黑丸ノ戰ニ討死ス。義貞ノ弟義助モ、吉野ニ赴キ、四國ニ渡ラントシテ病死ス。義貞ノ子義顯・義助ノ子義治モ、前後ニ討死ス。義顯ノ弟義宗、庶兄義興ト東北ニ兵ヲ起シ、尊氏ヲ討シテ竟ニ利アラズ、義興ハ足利ノ陪臣ニ欺キ殺サル。中興、政正シカラズ、天下武家ヲシタヒシトキ、兩家ノ嫡流、何レニテモ朝廷ニ背クモノヲ取立テ、大將ニスル人情ナリシヲ、義貞ハ始終、王ヲ勤メシ故、其家、南朝ト共ニ衰滅スルニ及ベリ。然レドモ足利十三世ハ、亂暴ニ終リテ、コレニ代リテ天下ノ權ヲ司リ、太平ノ業ヲ開ク者ハ、竟ニ新田ノ支流ニ歸ス、天道ナシト云ベカラズ。世良田・徳川、ミナ新田ノ支族ニテ、義貞ニ從テ官軍ニ與シ、後逃レ隱レテ三河ニ寓ス、是當代ノ由テ興ル所ナリ。

## 足利氏

源義國次子義康、足利ニ住シ、依テ氏トス。其子義兼、賴朝ノ時ニ軍功アリ。其後五代、北條ト婚ヲナシ、勢ヒ新田ノ上ニ出ヅ。元弘ノ亂ニ、尊氏（義兼六世ノ孫）竊ニ家ヲ起シ、賴朝ノ如クナランコトヲ希望ス。然ルニ、初メハナホ兩端ヲ持シテ成敗ヲ觀望セシガ、北條ノ家、兩度利ヲ失ヒシ故、意ヲ決シテ官軍ニ與シ、六波羅ヲ討亡ス。天子、固ヨリ其家名ヲ聞及玉ヒシ故、其官祿、諸將ノ上ニ在シム。尊氏ナホ其ノ欲ニ滿タズ、大塔宮ヲ讒殺シ、北條時行ノ亂ニ乘ジテ、征夷將軍・關東ノ管領ト矯リ稱シ、鎌倉ニ據ル。官軍來討ニ及ンデ、佯テ敢テ防ギ戰フコトヲ欲セズト云ヒ、髮ヲ削リ遁レントス。弟義直等ノ勸ニヨリテ、始メテ諸軍ヲ督シ、義貞ニ克テ京師ニ入寇ス。戰利アラズシテ九州ニ下リ、大友少貳ノ輩ヲ誘テ、再ビ東上ス。赤松圓心、首メニ尊氏ニ黨シ、播州ノ兵ヲ以テコレヲ迎フ。帝芳野ニ逃レ、義貞兄弟、前後ニ死亡シテ、尊氏終ニ志ヲ得タリ。尊氏、北朝ノ天子ヲ擁立シ、其ノ詔ヲ以テ征夷大將軍ニ至ル。弟忠義ノ子直冬ト、父子兄弟不和ナリ。諸將校モ各等ニ分テ爭戰ヤムコトナシ。然レドモ、嫡子義詮ヲ京師ニ置キ、次子基氏ヲ鎌倉ニ置テ、東西ヲ鎭シ、諸功臣ヲ各國ノ守護ニ充テヽ、南朝ノ諸將遂ニ、コレガ爲ニ

抑制セラル。

義詮、尊氏ノ嗣トナリテ、亂ヲ定ムルコト能ハズ。然レドモ、終ニ臨デ細川頼之ヲ識拔テ、コレニ其ノ子義滿ヲ以テ託ス。義滿、材武遠ク其父ニ勝リ、頼之コレヲ補導スルコト其心力ヲ盡シテ、南朝マス〳〵不レ能レ抗レ之。義滿、終ニ和議ヲ行ヒ、南北ヲ渾一ス。山名氏清・大内義弘ノ兩叛臣ニ克シテ、諸將マタ紛亂ノ患アルコトナシ。然レドモ、位人臣ヲ極メ、驕侈無度、一世ノ間、僭上ノ罪、擧テ算ヘ難シ。公方號、此時ヨリ始マル。

義滿ノ長子義持、尋デ將軍タリ。義滿ノ薨ズルトキ朝廷ヨリ太上天皇ノ號ヲ贈ラレシニ、義持是ヲ辭シ奉ル。其人トナリ父ノ驕僭ニ似ズ。其子義量、早世シ、管領等、義持兄弟ノ中ヲトシテ、第三弟ノ僧正ニナリ居タリシ人ヲ還俗セシメ將軍トス、名ヲ義教ト改ム。

尊氏ノ末子ヲ基氏ト云、關東ノ管領トシテヨリ、子氏滿・孫滿兼相繼、曾孫持氏ニ至ル。關八州・奥羽迄、皆其節度ヲ受ク。義滿常ニ其勢ヲ殺グ志アリ。義教ノ時ニ至リ、持氏其執事上杉憲貞ト不和ニナリテ、竝ニ京師ノ幕府ニ訟フ。義教上杉ノ指揮ヲ受ケテ、仍

テ管領ト稱ス。足利家ノ天下、コレ迄東西維持シテ小康ニ至リシガ、鎌倉亡ビシヨリ、親族衰テ、強臣漸ク忌憚ル處ナクシテ、竟ニ應仁ノ馴致スルニ至ル。

義教、內外共ニ嬖人多シ、赤松滿祐、所領ヲ減ジテ別家貞村ニ與セント欲ス。(貞村モ義教ノ嬖人タリ)又、滿祐ノ娘ヲ召遣ヒ、心ニサカウコトアリテ之ヲ殺シ、猶滿祐ヲ近ク、一日其家ニ遊テ、遂ニコレガ爲ニ弑セラル。

義教弑セラレテ、管領亦其幼義政ヲ立テ、滿祐ヲ討滅ス。山名持豐(後ニ入道シテ宗全ト云フ)最功アリ。其壻細川勝元、管領タリ。此時、畠山持國、養子政長ヲ家督トシ、後ニ實子義就ヲ生ミ、嫡ヲ易ルノ志アリ、山名・細川、竝ニ政長ヲ助ク、持國、死シテ後、義就ハ領國ノ河內ニ據リ、政長等ト戰ヒ止マズ。斯波ノ家ニモ、家督ノ爭ヒアリ、將軍義政、內訌ヲ聽キ、偏比ノ命アリ、山名等服セズ。此時、將軍、子無クシテ、弟義視ヲ嗣トス。後ニ實子義尙ヲ生ム。其母、政所、コレヲ立テント欲ス、竊ニ山名ヲ賴テ助トス、山名、又畠山義就ヲ召シテ黨トス。細川ハ義視ヲ助ケテ黨トシ、山名ノ勢ヲ抑ヘントス。諸國ノ大名、黨ヲ兩方ニ分ケテ、畢ク京師ニ集ル。細川方ハ東ニ陣シ、山名方ハ西ニ陣シ、連年爭戰ス。

是所謂應仁ノ亂ナリ。勝元、竟ニ義政ヲ挾ンデ諸將ニ令シ、義視ヲ山門ニ出奔セシム。山名、反テコレヲ其陣中ニ迎テ主トス。此時京師兵燹ニ荒ハテ、天子・上皇モ、幕府ニ在ス。兩陣互ニ勝敗アレドモ、天子・將軍、ミナ細川方ニアリシ故、西陣竟ニ志ヲ得ズ。宗全・勝元、前後ニ病死シテ、諸國ノ兵、各引歸ル。義政、東山ニ隱居シテ、義尙將軍タリ。勝元ノ子政元ヲ管領トス。義政、一世ノ奢侈ヲ極メ、國用甚ダ乏シク、屢々大名ニ金ヲ課シ、大名亦商賈ニ借貸シテ、武家益々衰フ。應仁ノ亂後、各其ノ國ニ引籠リ、文祿・元龜ノ比迄、爭亂止ム時ナシ。

義尙、人トナリ父ニ類セズ、文武ノ才能多シ。六角氏ヲ近江ニ征シテ、陣中ニ薨ズ。義尙、早世セシ故、義視ノ子義植ヲ養子トシテ、將軍ノ職ヲ繼ガシム。（義植ハ幼名ヲ義材又義尹ト改メ終ニ義植ト改ム）此時、畠山政長・細川政元、竝ニ管領タリ。兩人權ヲ爭テ不平ナル折柄、畠山義就ノ子義豐、河内ニ據テ兵ヲ起シ、政長ノ專橫ヲ訟フ。義植ノ諸將ヲ率ヒテ之ヲ伐ツ。政元、義豐ト心ヲ通ジ、義植ニ反シテ之ヲ圍ム。義植、逃走テ周防大内氏ニ依ル。義政ノ弟政知、兩上杉ノ請ニ因テ關東ニ下リ、伊豆ノ堀越ニ居ル、堀越殿ト稱セシ人ナリ。其子義澄

初ノ名ハ義通又義高ト改メ終ニ義澄ト云フナル者アリ、京都ニ在シテ、義植出奔セシ後ニテ、細川ノ謀ヲ以テ將軍トナル。後ニ、大内義興復義植ヲ取立テ、都ニ攻上リ、義澄ヲ廢シ、義植ヲ職ニ復ス。義澄ハ近江ニテ病死ス。細川政元ノ子高國、四國ヨリ兵ヲ起シテ、義澄ノ子義晴ヲ取立テ、義植ヲ廢ス。義植ハ淡路ニ出奔ス。高國ノ弟澄元、其家老三好元長ト共ニ高國ト不和ナリ、終ニ高國ヲ攻殺シ、澄元ノ子晴元、繼デ管領タリ。元長ノ子長慶、家老タリ。長慶、悍雄ニシテ、細川氏ノ權ヲ專ラニシ、其家臣松永久秀、商賈ヨリ起テ、又三好ノ家ヲ專ニスルニ至ル。此義晴薨ジテ、其子義輝、職ヲ繼グ。サレドモ京畿ノ政ハ、三好・松永ノ手ニアリ。長慶死シテ、子義繼ノ世トナリ、久秀トトモニ義輝ヲ弑ス。義晴ノ弟義維ノ子義榮ヲ立テテ將軍トス。此時、義晴ノ弟義昭、僧トナリテ鹿圓寺ニアリシガ、逃走リテ六角・淺倉抔ニ依リ、終ニ美濃ノ織田氏ヲ賴ミテ兵ヲ起シ、都ニ上リ、義榮ヲ廢シテ將軍ノ職ニツク。三好・松永等、織田氏ニ降ル。後又織田ト不和ニナリテ、都ヲ攻落サレ、安藝ノ毛利ニタヨリ、備後ニテ病死ス、足利氏遂ニ滅ブ。足利十三世トハ、義視・義榮ヲ除キタル數ナリ。義榮ノ父義維、淡路ノ義植ニ養ハレ、子孫、世々平島ニ居ル、是所謂

平島公方ナリ。喜連川ハ、鎌倉ノ持氏三世ノ孫基朝ト云人、下總ニ在リシ苗裔ナリ。

## 織田氏

足利義滿ノトキ、三職・七頭ヲ立ツ。斯波・細川・畠山三家、更々管領タリ、此ノ三職トモ三管トモ云フ。細川ハ阿波・讃岐、畠山ハ河內・紀伊、斯波ハ越前・尾張ヲ領ス。斯波ノ家三人ノ家老アリ、甲斐・織田・朝倉是ナリ。織田ハ、世々尾張ヲ支配ス、織田信秀ニ至テ、武威漸ク盛ナリ。此時、斯波ノ家ハ、已ニ絕果テ、越前ハ朝倉ノ有トナリ、尾張ハ織田ノ有トナル。信秀ノ子ヲ信長ト云、勇智人ニ過グ。信秀死シテ信長ノ世トナリ、其ノ母、少子信行ヲ立ツル志アリ。信長、計ヲ以テ信行ヲ誘殺ス。柴田・林等ノ舊臣、盡クコレニ畏服ス。（信長少時無賴ニテ、其傅平手中務ナル者、諫死セルコトアリ、此ヨリ前ノコトナルベシ）此ノ時ニ當リ、天下瓜ノ如クニ分レ、強弱相兼、東ニ北條・武田・上杉・細川等アリ、西ニ大友・島津・尼子・毛利アリ、畿內近國ハ、細川・三好・六角・淺井・朝倉・齋藤等アリテ、天子・將軍ハ有レドモ無キガ如シ。信長、竊ニ群雄ヲ芟夷スル志アリ、美濃ノ齋藤ノ壻トナリ、東向シテ今川氏ト三河・遠江ノ地ヲ爭フ、桶挾間

ノ戰ニ、寡ヲ以テ衆ニ克チ、遂ニ今川義元ヲ伐取リ、雄名四方ニ著ル。已而吾德川氏ヲ結納シ、コレヲ東西ニ當テテ、武田等ノ强敵ヲ拒ガシメ、已レハ專ラ西向シテ、京畿ヲ窺ントス。既ニ齋藤ニ克チ、美濃ヲ略シ、岐阜ニ移居ス。足利義昭ヲ佐テ、近江六角・淺井ニ勝テ、京都ニ攻上リ、義昭ヲ擁立シ、遂ニ近畿ヲ經略ス。越前ノ朝倉・伊勢ノ北畠等モ、竟ニコレニ夷滅セラル。此時、武田信玄・上杉謙信、竝ニ兵ヲ用ルニ長ジテ、織田ノ東鄰ニ當リ居リシガ、信長、卑辭厚禮ヲ以テ信玄ニ結ビ、共ニ力ヲ爭ハズ。コレヲ以テ信玄・謙信、交々上野・信濃ヲ爭テ、終身其鋒ヲ西スルコト能ハズ。信長、其間ヲ以テ、近畿ノ二十餘州ヲ略有スルコトヲ得テ、官位共ニ隆リ、信玄、死スルニ及テ、漸ク東方ヲ計ル。謙信モ程ナク死ス。信長、乃大軍ヲ以テ甲斐・信濃・武田勝頼ヲ殺攻シ、瀧川一益ヲ上野ニ置キ、柴田勝家ヲ越前ニ置キテ、東北ヲ計ラシム。羽柴秀吉ヲ播磨ニ置キ、丹羽長秀ヲ西海ニ向ハシメテ、西南ヲ平ゲントス。秀吉ハ、毛利ト備中ニ相持シテ、援兵ヲ請フ。信長諸將ヲ遣シテ、コレヲ助ケシメテ、已レモ繼ギ赴カントテ、少隊ヲ以テ京師ニ至ル。明智光秀、丹羽ノ兵、援兵ノ遣中ニ在リ、猝ニ旗ヲ轉ジテ、信長ヲ京師ノ本能寺ニ襲弑

ス。長子信忠モ、二條ニ在テ襲弑セラル。信忠ノ幼子三法師秀信、近臣ニ懷カレテ、尾州清洲ニ逃レテ走ル。秀吉等、信長ノ第三子信孝ヲ佐テ、明智ヲ誅シ、諸將ト共ニ清洲ニ會シ、遺跡ヲ分チ領ス。第二子信雄ハ、尾張ヲ取リ、信孝ハ濃州ヲ取リ、並ニ秀信ノ後見タリ。已ニシテ秀吉、勝家ト權ヲ爭ヒ、信雄ハ秀吉ヲ助ケテ、勝家・秀信ヲ攻メ、未ダ幾ナラズシテ、信雄、秀吉ト不和ニナリ、尾州ニ戰フ。秀吉和ヲ請テ、信雄官位ヲ進ム。小田原ノ役平グニ及ンデ、信雄ノ所領ヲ奪ヒ、コレヲ秋田ニ流ス、後免サレテ京師ニ隱居シ、大坂ノ役ニ、徳川氏ニ款ヲ效シテ、子孫斷ヘズシテ今ニ至ル。秀信ハ、關ケ原ノ役ニ石田ニ誘レテ關東ニ敵シ、岐阜ニ攻殺サル。信長、初メハ清洲ニ在城シ、次ニ岐阜ニ移リ、終ニ近江ノ安土ニ居ル、秀信ハ清洲ヨリ安土ニ移リ、岐阜ニ終ル。

信長、人トナリ猜忍ニテ、諸將ノ舊怨ヲ修メ、往々十數年ニ領地ヲ奪ヒ、誅殺ヲ加フ、勳功アル者ト雖モ免ルヽコトヲ得ズ。此ノ故ニ諸功臣ノ人々自ラ危ブム、特リ光秀ノミナラズ。秀吉ニ、西國ノ討手ヲ命ゼシ時、朝鮮ヲ領國ニ望ミシモ此意ナリ。光秀、特ニ信長ノ怒リニ觸レ、誅殺ノ意數々ノ言貌ニ露ハレシ故、危迫シテ先發セシナリ。信長、

薨ジテ、存スルトコロノ諸子、諸將ヲ駕御スルノ器ナク、盡ク秀吉ノ計中ニ陷レリ。然レドモ信長、撥亂ノ業、豐臣・德川ニ比スレバ、其時處最モ力ヲ爲シ難シトス。コレニ加フルニ、王朝ヲ尊ビ、公家ノ衰廢ヲ復セシ功、甚ダ大ナリト云ベシ。豐臣・德川ハ、多ク其遺緒ヲ繼デ、平治ヲ成スニ至ル、諸將ノ功ヲ立テ、家ヲ興シテ、今ニ見存スル者、大半信長ニ識拔セラレシ人々ナリ。

## 豐臣氏

尾州愛智郡中村一ニ銀杏村ト云フ、其村ニ銀杏樹多キ故ナリ。百姓彌助ナルモノアリ、其妻、日輪、懷ニ入ルト夢ミテ男子ヲ生ム、因テ日吉ト名ヅク、是天文年間ノコトナリ。彌助、死シテ其孤寡依ル所ナシ。同村ニ竹阿彌ト云者、織田信秀ノ僕從タリシガ、妻ヲ失ヒ、此寡婦ヲ納レテ繼妻トス。日吉、母ニ從ツテ其家ニアリ、其家、貧ニシテ共ニ存スルコト能ハズ、故ニ日吉ヲ僧寺ニ遣シテ僧トナサントス、僧其ノ無賴ヲ患ヒテ、コレヲ歸ス。已ニシテ又近國諸々ニ行キ、人ノ奴僕トナル、終ニ近江ノ松下氏ニ在リテ、其主人ノ命ヲ以テ、尾張

ニ之テ鎧ヲ買フ中途、其料金ヲ攘ンデ、衣服刀劍ヲ調ヘ、自ラ木下藤吉郎ト改ム。織田信長ヲ干シテ、僕從タルコト養父ノ舊ノ如シ。信長、其ノ才智ヲ喜ビ、漸クコレヲ親近ス。清洲城ヲ修ムルトキ、秀吉、其速ニ成ラザルヲ毀ル、信長、試ニ代テ其役ヲ董セシム、日ナラズシテ成ル、信長マス〳〵其用ユベキヲ識リ、シバ〳〵其食俸ヲ進メ、終ニ美濃堺ノ一砦ヲ護ラシメ戰功アリ。爾後、征行毎ニ從テ勳勞ヲ積ミ、義昭、將軍タリシ時、秀吉ヲ以テ京師ノ守護トス。コレヨリ其ノ名大イニ著レ、最西面ノ大將トナリ、播州姬路ニ據テ、浮田氏ヲ降シ、毛利氏ト戰ヒ、山陰・山陽ノ數國ヲ略シ、備中松山ノ城ヲ攻テ未ダ拔ケザルトキ、明智ノ變ヲ聞キ、毛利ト和シ、織田氏ノ親族將校、環視シテ未ダ發セザル內、秀吉先ヅ其兵ヲ以テ上國ニ驅上リ、山崎一戰ニ光秀ヲ誅シテ、遠近ノ耳目盡クコレニ屬ス、コレ織田氏ニ代ル所依ナリ。山崎ノ役ニ、織田信孝・中川清秀等、矢石ノ勞ヲ親ラスト雖モ秀吉ノ兵勢最盛ニシテ、諸人皆其號令ヲ待テ事ヲナセシ故、復讐ノ功ヲ專セリ。其他ハ柴田・瀧川等、ミナ事ニ及バス、且其ノ土地甲兵力ニ竝ニ秀吉ニ及バザル故、カタ〳〵其權ヲ爭フコト能ハズ、朝廷ヨリモ殊ニ其官爵ニ進メ賜

ヒシ故、イットナク京畿ヲ司ルニ至ル。此ノ時、信長ノ嫡孫秀信、安土ニアリテ、其二叔信雄・信孝、權ヲ爭ヒ、信孝ハ柴田勝家ヲ引テ自ラ援トス。秀吉ハ信雄ヲ攻メ、柳ケ瀨ノ戰ニ、柴田ノ兵ニ打勝テ、勝家ヲ攻殺シ、丹羽・瀧川以下ノ宿將、昔日コレト肩ヲ比シ者皆コレガ爲ニ役使セラルルニ至ル。已ニシテ信雄ト不和ニナリ、シバ〳〵尾張ニ戰ヒ、終ニコレト和シ、紀伊・大和等ノ寇亂ヲ平ゲ、四國ノ長曾我部ヲ服シテ、近畿粗ゝ定ル。於是吾德川氏ト和シ、東顧ノ虞ナカラシメテ、親ラ大兵ヲ以テ九州ニ下リ島津氏ヲ征伐シ、關以西盡ク平ラグ。此時ニ、後陽成帝ノ御宇ニ當ル、秀吉、信長ノ遺意ヲ繼ギ、大ニ朝廷ノ廢典ヲ復シ、終ニ天子ヲ請フテ其聚樂第ニ御幸シ、天下ノ大小名ヲ召シ、聚テ朝勤ノ禮ヲ行ハシメ、其ノ誓詞ヲ要ス。四遠ノ豪傑、來リテ服セザルモノハ、其不逞ヲ責テコレヲ召シイタス。其中ニ、北條氏政ハ小田原ニ在テ、關八州ヲ領シ來リ、其力ヲ負テ背シ來ラズ、秀吉、節刀ヲ奏請シテ、二十五萬ノ兵ヲ帥テ、親ラ往テコレヲ伐ツ、數月ヲ以テコレヲ拔キ、遂ニ奧羽ノ諸豪ヲ服シテ、天下盡ク平グ。秀吉意望未ダ厭カズシテ、西南諸將ヲ遣シテ、海ヲ渡テ朝鮮ヲ伐ツ、明ノ援兵ト戰テ勝敗アリ。已ニシ

テ和議ヲ講ジ、明ノ使ヲ伏水ニ承ケ、其ノ國書ノ辭、不禮ニシテ所レ望ト異ル故、再ビ兵ヲ起シテ朝鮮ニ入ル。其中ニ病ニカヽリ、遺命シテ海外ノ師ヲ班ス。秀吉薨ジテ、幼子秀頼、繼デ大坂ニ入ル。五大老・五奉行・三中老、遺命ニ依ッテ政ヲ布ク。石田三成、秀吉ノ在時ヨリ權寵アリテ、諸將ノ爲ニ嫉マレ、事ヲ起シテ一敗地ニ塗レ、天下ノ權、遂ニ豐臣氏ヲ去ル、大坂ノ役ヲ待テ亡ルニ非ザルナリ。

五大老　徳川　前田　毛利　浮田　小早川

五奉行　淺野　增田　石田　長東　前田法印

三中老　堀尾　田中　生駒

賴山陽先生一夜話　第一終

# 頼山陽先生一夜話　第三

○古史

左傳　國語　世本　呉越春秋　越絕書　楚漢春秋

右史記ヨリ以前ノ史

○二十一史

史記百三十卷　歴史ノ體ニ、紀傳・編年ノ二ツアリ。史記ヨリ以前ハ、皆編年也。司馬遷、上文ノ古史・書經等ニ因テ、始メテ紀傳ノ體ニテ史記ヲ作ル。班固、亦コレニ傚ッテ漢書ヲ作ル。其後ニ作ル者、並ビニミナ紀傳體ニテ、二十一史トナル。紀傳トハ本紀ト列傳ヲ分チタルナリ。編年トハ年月ノ次第ヲ以テ編ムナリ。

史記ハ、漢以前ノ帝王ノ事ヲ本紀トシ、諸侯ヲ世家トシ、匹夫ハ列傳トス。其外ニ年表ヲ作テ、年月ノ次第ヲ知ル樣ニナシ置タリ。其後ノ二十一史中ニハ、世家年表ハ、

有モアリ無モアリ。

漢　書百二十卷、後漢班固　後漢書百二十卷、宋范曄　三國志六十五卷、晉陳壽

晉　書百三十卷、唐大宗撰、或云唐房喬等撰　南　史八十卷、唐李延壽　宋　書百卷、梁沈約　南齊書五十九卷、梁蕭子顯　梁　書五十六卷、唐姚思廉　陳　書三十六卷、唐姚思廉　北　史百卷、唐李延壽　魏　書百十四卷、北齊魏收　北齊書五十卷、唐李百藥　周　書五十卷、唐令狐德棻　隋　書八十五卷、唐魏徵　唐　書二百二十五卷、宋歐陽修・宋祁　五代史七十四卷、歐陽修　宋　史四百九十六卷、元托克托(脫脫)　○以上十七史

趙(宋)英ノ時、司馬溫公名光通鑑ヲ作ル、戰國ヨリ五代マデヲ編年ノ體ニテ記ス。朱文公、其書ニ綱ト目トヲ分ケテ、綱目ヲ作ル。其後、元・明ノ間ニ通鑑モ綱目モ、ツヾイテ作ル人多シ。此二書ヲ合セテ節略シタルモノ、明ノ袁了凡ノ歷史綱鑑ナリ。其類ノ書甚多シ。

遼　史百十六卷、元托克托等　金　史百三十五卷、同　元　史二百十卷、明宋濂等

○以上二十一史

明　史三百三十六卷・張廷玉等　此書ヲ添テ二十二史ト云フ。

○三　皇

伏羲　神皇　黄帝

○五　帝

顓頊　少昊　帝嚳　堯　舜　又曰。伏羲・神皇・黄帝・堯・舜　史記ハ、黄帝以下ヲ記ス。

凡堯舜ヨリ以前ハ、鴻荒ノ世ニテ、誕妄ノ説多キ故ニ、孔夫子モ書ヲ删リテ、堯舜以後ヲ典謨・訓誥・誓盟ヲ存ス。

○三　代

夏夏后氏　殷一曰。商　周

堯舜ハ禪讓ニテ、禹ヨリ子孫相續ク世トナル。夏桀・殷紂ハ、皆暴虐ニテ、諸侯ノ德アルモノ、コレヲ放伐シテ自ラコレニ代ル。

周ヨリ以前ハ、天下ニ諸侯ヲ立テコレヲ治ム、コレヲ封建ノ世ト云フ。周ノ末、十二諸侯互ニ相呑滅シテ七國トナル。（戰國ト云フ）此時、周室彌々微弱ニシテ遂ニ亡ブ。七國ノ內、秦尤强クシテ、六國ヲ幷テ、遂ニ周ニ代ル。周封建ノ弊ニヨリテ、又諸侯ヲ建テズ、天下ヲ郡縣ニシテ、守令ヲ分チ置テコレヲ治ム。秦ヨリ以後ハ、今ニ至ル迄大概郡縣ノ治ナリ。

西土ハ、封建ヨリ郡縣ニ變ジ、本邦ハ郡縣ヨリ封建ニ變ズ。（本邦王代ハ、ミナ郡縣ナリ、武家ノ世ニナリテ、次第ニ封建ノ姿トナル。）

秦ハ、二世ノ時、匹夫亂ヲ興シ、遂ニ亡ブ。漢ノ高祖、亦匹夫ナリ。群雄ト戰ヒ勝テ、帝位ニ卽ク、子孫ニ至テ外戚ノ王氏ニ簒ハレテ亡ブ、是西漢ナリ。

後漢ノ太祖光武帝ハ、漢ノ宗室ニテ、民間ニアリシガ、兵ヲ起シ王莽ヲ亡シ、劉氏ヲ中興ス、是東漢ナリ。（前漢ハ長安ニ都シ、後漢ハ洛陽ニ都ス、故ニ西漢・東漢ト云フ、文章ニテ西京ノ文・東京ノ文ト云、此コトナリ）東漢モ、外戚シバシバ權ヲホシヽマヽニシ、終ニ宦官（廣舖役人ナリ、宮刑ニアタル者ヲ此役トス）ノ爲ニ政ヲ亂サル。

東漢ノ末、四方ノ將帥ヲ招キ、宦者ヲ誅ス、遂ニ將帥、權ヲ爭ヒ、其ノ中ノ姦雄ノ爲ニ

國ヲ簒ハル、コレ魏ノ曹操ナリ。

曹操ハ、國ヲ魏ト號シ、孫權ハ、國ヲ呉ト號シ、劉備ハ、蜀ヲ取ル。天下三分ニシテ、鼎足ニ立ツ、是三國ナリ。

三國ノ內、魏尤大ナリ、曹操ノ子曹丕、終ニ漢ニ代ル。蜀ハ、漢ノ正統ナレドモ、微弱ニテ魏ニ幷セラル。（魏晉トモニ洛陽ニ都ス）呉ハ、西晉ニ幷セラル。

司馬懿ハ、曹操ノ將帥ナリシガ、魏ノ權ヲ專ニシ、子孫ニ至テ終ニ魏ヲ簒テ自立ス。是西晉ナリ、晉ノ宗室ノ諸王、權ヲ爭ヒ、五胡ノ亂、コレニ乘ジテ起ル。

西晉ノ時、夷狄ノ種ヲ中國ニ移シタル者五種（劉氏•石氏•慕容氏•苻氏•李氏等ナリ）アリ、前後ニ亂ヲ起ス、コレヲ五胡ノ亂ト云フ。

晉ノ宗室ノ內、江東ニ遁レテ帝位ニ卽キ、建業ニ都ス、是東晉ナリ。

東晉ノ將帥劉裕、晉ヲ簒テコレニ代ル、是劉宋ナリ。

劉宋ノ將帥蕭道成、宋ヲ簒フ、是南齊ナリ。

南齊ノ將帥蕭道、齊ヲ簒フ、是梁ナリ。

梁ノ將帥陳霸先、梁ヲ簒フ、是陳ナリ。

呉ノ孫氏、建業ニ都セシヨリ、東晉・宋・齊・梁・陳迄、ミナ其都ニ據リ、江東ヲ有ス、卽チ後世ニ所謂江南ナリ、故ニ是ヲ南朝ト云フ。陳ハ、後ニ隋ニ亡サル。

此時、北方中國ハ、五胡互ニ相攻テ十六國トナリ、最後、跖拔氏ノ爲ニ、コトゴトク幷呑セラル。跖拔氏モ胡人ナリ、後ニ姓ヲ元氏ト改メ、國號ヲ魏ト云フ、是ヲ元魏トモ、跖拔魏トモ云、洛陽ニ都ス。

元魏、東西ニ分レ、東魏・西魏ト云、東魏、洛陽ニ都シ、西魏ハ、長安ニ都ス。

東魏ハ、其將帥高歡ニ簒ハル、是北齊ナリ。高齊ト云、宇文周ト云

西魏ハ、其將帥宇文泰ニ簒ハル、是周ナリ。

宇文周ノ外戚楊堅、周ヲ簒フ、是隋ナリ。

元魏ヨリ北齊・宇文周迄、北方中國ヲ有セシ故、是ヲ北朝ト云。

此數百年ノ間ヲ、南北朝ト云、南史・北史ノ作レル所以ナリ。然レドモ中國ノ正統ハ南朝ニアリ。

隋、周ニ代リ、北方ヲ平ゲ、終ニ陳ヲモ亡ボシ、南北ヲ混一ス。宇文氏ニ因テ、長安ニ都ス。

二世ノ煬帝、淫虐ニテ兵四方ニ起リ、遂ニ亡ブ。

隋ノ末、群雄爭ヒ起リシ内、大原ノ留守李淵ノ子、世民ト云人、其父ヲスヽメテ兵ヲ起シ、終ニ海内ヲ平治ス、是唐太宗ナリ。

太宗、天下ヲ十道ニ分ケ、節度使ヲ置ク、其ノ後、軍政廢壞シ、北邊ノ節度使ハ、多ク胡人ヲ用ヒテ、其役ニシタル故、玄宗ノ時、天寶ノ亂起ル。安祿山ナド、卽チ胡人ノ節度使ニナリタルナリ。其後、北方ノ節度、國ヲ子孫ニ傳ヘテ、天子ノ令ヲ聽カズ、是ヲ藩鎭ト云、唐ハ、外ノ藩鎭ト、内ノ宦官ニテ、終ニ亡ブルニ至ル。

唐ノ末ニ、黃巢ト云者、亂ヲ起シ、其同類朱全忠ナル者、唐ニ降リテ、功ヲ建テ節度使ニ至リテ、終ニ唐ヲ簒フ、是梁ナリ。汴京ニ都ス、古ノ大梁ノ地ナリ。

朱全忠ノ同時ニ、李克用ナル者アリ、本ト沙陀ト云フ胡ノ人ニテ、唐ニ降リ、功ヲ立テ節度使ニ至リ、朱全忠ト權ヲ爭ヒ、志ヲ得ズシテ病死ス。其子存勗、父ノ遺業ヲ繼ギ、大原ニ據リ、梁ト河ニ來ッテ百戰シ、終ニ梁ヲ亡シ、之ニ代ル、是後唐ナリ。後唐ノ節度使

ニ石敬塘ナルモノアリ、北邊ニアッテ、契丹ト云强胡ノ援兵ヲ借リテ、後唐ヲ滅シテコレニ代ル、是晉ナリ。石晉ノ節度使ニ劉知遠ナル者アリ、石晉ヲ滅ボシ、コレニ代ル、是漢ナリ。

漢ノ將帥ニ郭威ナル者アリ、（此ノ人微賤ナルヨリ起シテ額ニ雀ノ入墨アリシ故ニ、綽號ヲ郭雀兒ト云フ）功ヲ建テヽ位ヲ進ミ、終ニ漢ニ代ル、コレ周ナリ。

以上、梁・唐・晉・漢・周ヲ五代ト云、五代合テ百年ニ滿タズ、唐ノ末ニ引續キタル故、一ツニハ五季ト云。

周ノ末、世宗ト云天子、本柴氏ニテ、郭氏ノ世嗣トナル、此人中國ヲ大半平ゲタリ。世宗ノ將帥ニ趙匡胤ト云人アリ、功ヲ立テヽ人望アリ、世宗早世シ、其子恭帝、立チテ未ダイクバクナラズ、匡胤ニ命ジテ、外征ニ赴カシム。其トキ、匡胤殿前都點檢使ト云フ役ナリシガ、出テ陳橋驛ニ宿陣ス、其ノ夜軍人共俄カニ相議シテ、匡胤ヲ推シテ天子ノ位ニ卽カシメントテ、翌早、匡胤未ダ起キザル先ニ、黃袍ヲウチ著セテ、馬ニ乘ラセテ周都ニ歸ラシメ、恭帝ニ迫ッテ位ヲ讓ラシム、是宋ノ太祖ナリ。（藝祖トモ云、矢張汴京ニ都ス）

宋ノ藝祖、周世宗ノ遺業ヲ繼ギ、次第ニ四方ヲ削平ス。サレドモ幽燕ノ地ハ、石晉ノ將契丹ヲ賂ヒシヨリ、宋ニ至テモ、終ニ取反スコト能ハズ、終ニ子孫ノ禍ヲ基セリ。

宋ノ神宗ノ時、王安石、宰相トナリテ、青苗・差役等ノ新法ヲ行ヒ、小人コレニ因テススミ、海内愁怨シテ盗賊多シ。其後、徽宗、奢侈ヲ極メ、宗室益々亂ル。此時女眞ト云夷、契丹ヲ亡シテ、終ニ宗ニ逼リ、徽宗ノ子欽宗ノ朝ニ當テ、終ニ入寇シテ徽宗・欽宗ヲ執テ北ニ走ル。

宋ノ宗室、江南ヘ逃レテ帝位ニツク、是南宋ノ高宗ナリ、臨安ニ都ス。杭州、西湖ノ地ナリ

契丹ハ、國號ヲ遼ト云、燕ニ都ス、女眞、國號ヲ金ト云、汴京ニ都ス。

宋、金ト南北交々爭ヒ、宋ノ忠臣ハ戰ヲ主トシ、姦臣ハ和議ヲ主トシ、宋ノ世ヲ終ル迄、中興ノ業成ラズ。

此ノ時、北方蒙古ト云胡人、兵ヲ起シテ金ニ逼ル、宋、コレヲ幸トシテ、蒙古ト夾ニ攻テ、金ヲ亡ス。然ルニ終ニ蒙古ノ爲ニ呑滅セラル。

蒙古ノ主忽必烈、華・夷ヲ混一シテ國號ヲ元ト改ム、コレ元ノ世祖ナリ。

胡元、中國ヲ有ツコト百年ニ垂ントシテ、順帝、昏淫ニシテ朝廷政ヲ亂リ、盗賊幷ニ起ル。濠州ニ朱元璋ト云人、州ノ皇覺寺ニ入テ、亂ヲ避ケ僧トナル、後ニ郭子興ト云人、兵ヲ起ス。元璋、子興ニ依テ、終ニ還俗シ、コレガ將帥タリ、功ヲ立テテ人望ヲ得テ、江ヲ渡リ、金・梁ニ據有ス、陳友諒・張士誠等ヲ平ゲテ、終ニ中國ヲ恢復シ、胡元ヲ漠北ニ逐出ス、コレ明ノ太祖ナリ。

朱明、天下ヲ有ツコト三百年、萬曆ノ比ニ至リ、政スタレ、崇禎ノ時ニ、盗賊大ニ起ル、張獻忠・李自成等、其魁ナリ。李自成、終ニ北京ヲ陷レ、崇禎帝〔毅宗〕縊死ス。

此ノ時、吳三桂ト云將帥、北狄ヲ禦デ、遼東ニアリシガ、北京陷ルト聞テ、北狄ト和穆シ、其援兵ヲ乞テ、李賊ヲ逐ヒ落ス。明ノ時、北虜・南倭ト稱シテ、虜患コトニ甚シ。東北ノ虜ニ滿洲ト云種類アリ、諸ノ部落ヲ兼呑シテ、明ト境ヲ接ス、是吳三桂ヲ助ケタル故ナリ。既ニ北京ヲ服シテ明ニ歸シ、與ヘズシテ自ラ之ヲ取ル、國ヲ清ト號ス。（明思宗天啓九年、清太宗崇德元年、本邦寛永十三年）

清、中國ヲ有テ、世祖、順治ト改元シ、聖祖、康熙ト改元シ、世宗、雍正ト改元シ、次ハ乾隆・嘉

慶・道光ト改元ス。

吳三桂等降リ、後叛ヲ以テ誅セラル。明宗室唐王・福王等、江南ニ走リ、何レモウチマケテ亡ス。海賊ノ鄭司良〔芝龍〕ハ、明ニ降リ將帥トナリ、其子鄭成功、相繼デ明ニ忠ヲ盡シ姓ヲ賜テ朱氏ヲ冠シ、（所謂國姓爺ナリ）臺灣島ニ據リ、淸ニ構ス。其子及孫、ミナ父ノ志ヲツギ、終ニ淸ニ亡サル。胡元ハ、燕ニ都ス、明ノ太祖ハ、金陵ニ都セシガ、三世ノ永樂帝、燕ニ封ゼラレ、兵ヲ起シテ姪建文帝ヲ亡シ、都ヲ燕ニ遷ス。北京ニ居ル、金陵ヲ南京ト號ス、今ノ胡姓モコレニ依レリ。

唐虞以來、皆起ル處ノ地名ヲ以テ國號トス。明ト淸トハ、佳號ヲ選ブナリ。

頼山陽先生一夜話　第三終

# 藝圃茗談

# 『藝圃茗談』解題　〔未刊分〕

享和三年十一月、頼山陽、ソノ同窓ノ親友ニシテ、四歳ノ年長者タル石井豐洲ニ對シ、韓愈・柳宗元ノ文章ニ就キ、ソノ法格ヲ說キ、進ミテ孟子・莊子ノ文理ヲ解剖シ、『藝圃茗談』ト題シテ、コレヲ贈レリ。時ニ二十四歳、豐洲二十八歳。

豐洲、名威臣・字儀卿・稱儀右衛門、安永五年、安藝竹原ニ生レ、父ノ瀨戶內海・豐島ニ老ヲ養フニ及ビ、ソノ舊宅ヲ守ラシメラル。少クシテ賴春水ニ學ビ、又、江戶ニ游學スルコト二年、尾藤二洲ニ從ヒ、爾後再ビ春水及ビ春風ニ師事シ、文政八年八月、三原・淺野家ニ禮聘セラレ、弘化元年、老ヲ告ゲテ竹原ニ歸リ、春風ヲ助ケテ竹原書院ヲ興シ、大ニ鄉土ノ文教ヲ振起セリ〔書院ハ、今復興セラル〕。文久二年八月十日歿シ〔八十七歳〕、照蓮寺ニソノ墓碑ヲ存ス。山陽ノ文ニ、十三歳〔寛政四年〕、始メテソノ家〔嶺松廬〕ニ於テ交ヲ訂シタリトイヘリ。

豐洲ガ、韓・柳ノ文ヲ選輯シテ『佩書』ト題シ、ソノ序文ヲ山陽ニ求メシハ、卽チ享和

三年ノ事ニ屬シ、コノ稿本ノ、ソノ際ニ成レルハ、特ニ注意スベキナリ。序文ニイフ

「余十三歳〔寛政四年〕ニシテ、始メテ同邦人石井生ト交ハレリ、生、余ヨリ長ズルコト四〔十七歳〕ナリ……時ニ播磨〔曾根〕ノ人菅野生〔眞齋〕亦來レリ〔春水ノ家塾ニ入學セリ〕、余ヨリ長ズルコト七〔二十歳〕ナリキ。……菅野生、毎夕、韓・柳氏ノ文ヲ讀メリ、余、石井生トトモニ、先ヅ寢ヌ、時アリテ寤ムルニ、猶其ノ燈光ノ下ニ琅琅タルヲ見テ、笑ヒテ曰フ、何ゾ其ノ勉ムルヤト。」

「今ヤ、石井生、余ヲ窮愁ノ中〔幽屏中〕ニ顧ミ、此レ唱ヘ彼レ和シ、志ヲ斯文ニ立ツ。生、余ヲ以テ狂トナサズ、其ノ年ト才トヲ忘レテ、而シテ余ヲ兄トスルナリ……近ゴロ、生、韓・柳氏ノ文ヲ選輯シテ曰フ、兄、余ガ爲メニ序セヨト……。」

『名談』ノ述ブル所ヲ讀ムニ、ソノ大要、韓・柳文ノ解剖ト、孟・莊ノ文脈ヲ檢討スルニ在リ、因リテ以テ、「人ノ爲メニ謀ッテ忠」ナルベク、豐洲ノ文ヲ大成セシメンコトヲ期スベク、ソノ語氣ノ存スル所、全ク師弟關係ノ上ニ立チ、「耳提面命」―讀ンデ字

ノ如ク弟子ヲ指導スルガ如キハ、一讀異樣ニ感ゼラル、「僕ノ此宇内ニ在ル中ハ、足下、竟ニ僕ニ下ル一等ナラザルヲ得ズ、ソレヲ面白ク思ヒ玉ハズバ、僕ヲステテ、獨立シ玉フベシ」•「苟モ僕ヲ去テ獨立スル、其業不レ廣、其名不レ顯……僕ト組合テ、海内ヲ一掃セバ、譬ヘバ順風ニ帆ヲ揚ルガ如シ」•「語而至レ此、不レ遜之甚、人之見レ之、必謂ニ小史狂妄」々々二字、我所レ不レ辭也」•「是等ノ語、後世「ニハ」人ニ云モノナシ、古ノ狂者ノ詞也、コレヲ聞カシムルモノ、天下唯石子一人」トイヘルガ如キハ、ゲニモ「古ノ狂者」ノ言ニシテ、降レル世ニハ、カクモ思ヒ切リテ、ソノ忠言ヲ傾倒スルモノナカルベキナリ。而モソノ忠言ニ聽キテ、益ヲ受クル上ニ、豐洲ソノ人ノ存在セルヲ思ヒ、ソゾロニ兩者契合ノ深キト共ニ、學界ノ美談トシテ傳ヘラルベキヲ欽セズンバアラズ。〔好尙生〕

# 藝園茗談　凡二十條

## 小史藝園茗談

亨和癸亥仲冬。小史書與豐洲。後世勿以爲尋常故紙。一宵茗談。千秋心知。韓柳復起。不易我言。

●曾子與氏曰。爲人謀而不忠乎。今僕之爲足下謀。不敢爲裝飾不忠之言。故足下見之。或有似不遜者。唯足下諒焉。●昔人稱嚴滄浪詩話。數條而盡要。我論文訣亦然。

▲僕第一、足下ニ不得不言事アリ、僕四年來足下ノ奔走ノ勞ニ酬ンタメニ、此不朽業ヲ借エ、幸ニ足下和スルコト如響。僕ノ足下ノタメニ耳提手指、不遺餘力、焦思乾舌、佗々不倦モノ、無他、足下ノ我ヲ羽翼スルヲ期スレバ也。カク云ヘバ、利ヲ以テ交ル樣ナレドモ、カク打明ケザレバ、卽不忠也。故ニ僕ノ此宇內ニ在ル中ハ、足下竟ニ僕ニ下ル一等ナラザルヲ得ズ。ソレヲ面白ク思ヒ玉ハズバ、僕ヲステヽ、獨立シ玉フ

べシ。然ルニ、獨立シテ可ナル位ニ至リ玉ヒシハ、誰ノ力ゾヤ。古ノ人、謙スル時ハ謙ス、又、同盟朋友ノ内ニテ、輕々シク人ニ不許、是又今人ノ不及トコロ也。足下ノ生、僕ト同時ナル、コレ足下ノ不幸ノミ。然ルニ、足下ノ幸ナルモノアリ、足下少シテ無用ノコトニ勞苦シテ、惜シキ歳月ヲ費シ、今、三十ニ垂ントス、苟モ僕ヲ去テ獨立スル、其業不廣、其名不顯、此一事ハ、僕ノ心ニ、蓍龜ノ如クニ思ヒ居ル也。僕ト組合テ、海内ヲ一掃セバ、譬ヘバ順風ニ帆ヲ揚ルガ如シ、其勢、騒壇ニ一二ヲ爭ウニ至ル必セリ、是又僕ノ心ニ蓍龜ノ如キ也。元美與子相書ニ、子ト濟南ヲ左右スト云ヘリ、元美ノ才ヲ以テ、カクノ如シ、是其所以能風靡一世也、況不爲元美者乎。孟軻氏云、逢蒙學射于羿、盡羿之道、謂天下唯羿愈己、乃欲殺羿。是又羿有罪、儀卿亦勿謂天下唯小史愈己、乃欲殺小史、小史與豐洲、是同功一體、離之則兩不佳、合之則兩佳者、不有小史、豐洲不能獨顯、是質諸鬼神而無疑者、不知豐洲以爲何如、語而至此、不遜之甚、人之見之、必謂小史狂妄、々々二字、我所不辭也。

〔鼇頭〕 是等ノ語、後世人ニ云モノナシ、古ノ狂者ノ詞也。コレヲ聞カシムルモノ、

天下唯石子一人。天下文章、桑悦第一其次某、其次某ト、桑ガ自言ショシ、是レ桑ガ私ニ立ル等級ニ非ズ、造物ガ立ル天秩也。劉基自言、天子曰、天下宋濂文第一、其次臣基、其次方生、コレヲ以テ、後人、伯温ノ才ヲ稱ス。許生、自元・白ヲ壓倒スト云テ、時人、其自知ラザルヲ笑フ。此等ノコト、當世□□者少シ。

▲如有文盟ノ等、終身浮沈顯沒ノ所關、スデニ心中ニ一定セバ、ソレヨリ一己ノ磨礪ニカヽルベシ。一己ノ磨礪、第一其各有所長ヲシルベシ。左・馬、事ヲ紀スルニ長ズ、孟・莊、事ヲ論ズルニ長ズ。然ルニ、後人、其優劣ヲ立ル不能也。向ニ若左・馬自謂、我亦能論事而投其汗青之筆、孟・莊自謂、我亦能紀事而廢其立言之編、則是左・馬・孟・莊、一是ニ皆不得傳後也。コレ我雅ニ足下忠謀スルトコロ、足下深思之。足下ノ才、序・記諸體ニ長ズ、是無他、足下ノ性、冲淡閒率、高邁奇秀、如香爐之峯、特立雲間、而瀑泉映帶其間也。

〔鼇頭〕唐荊川、與茅鹿門書、論唐・宋不及秦・漢之由、載之文體綱領、可參考。

僕ガ如キ獷桀粗豪、豐沛間屠狗兒ノ如キ者ト異也。僕、史傳論策ニ長ズ、故ニ世ハ不好トコロトシレドモ、ヤハリ己ノ所好ニ従テ、コレヲ精研ス。足下ノ所好、在序記諸

體、而幸ニ世ノ所好ニ合ヘリ。乃チ棄此慕彼、コレ小兒ノ見ニ非ザルヲ得ン乎。僕、三年前、志ヲ此文ニ立ツルトキ思ヘルハ、經世之學・兵刑之言・算曆典故、コレ皆世ノ所適用、コレヲナセバ、世ノ譽ヲ得ルニ相違ナシ、然ルニ吾長ズルトコロニ非ルヲ如何。文章ハ支那ノ語、蜻蜓洲ノ語ニ非レバ、韓・柳ニ頡頏スルニ至ルトモ、世ノ人ハ、棄如土ナルニ相違ナシ。然ルニ、吾長ズルトコロナレバ、コレヲナスニ如クハナシ。且、此ハ吾所好也、彼ハ我サキニ浮慕スルトコロナレドモ、實ニ心中ニ好ムコトニアラズ、所不好ヲ勉強シテ、所不長ヲ企望スル、其人ノ後ニ從フ必セリ。且、蜉蝣ノ生、ナンゾ各爾ノ所好ニ從テ樂マザル。樂之生前、而又傳之死後ニ足レリ、是誠ニ我腰ヲ安ズル地也ト定メシ也。今、足下ノ序記諸體ニ於ル、又然リ。是、諸章ノ長キ樣ナル者、必史傳論策ヲナサント思ヒテ勉強セバ、愈小史ノ後ニ從ン。序記諸體、己ノ所好所長ニ從事シテ、コレヲ精研シテ、其至リニ及バ、何ンゾ小史ガ其後ニ瞠セザルヲシランヤ。晉書、及南北史、及六朝諸史、皆唐人ノ手ニナレリ、其中ニ、豈班・馬ニ髣髴タル敍事文ナカランヤ、然ルニ、其コレヲ著ス者、何人タルコトヲシル者ダニ少シ、而韓・

柳序記、今ニ至リテ經傳ニ歯ス。陸贄奏議、古ノ賈・董トイヘドモ不能過、間々賈・董ニ超ルモノアリ、然ルニ、其書アルコトヲシラザルモノ多シ。コレ等ノ所、足下ヨクヨク思フベシ。コレ文章立志ノ大根本也。故ニ啾々セザルコトヲ得ズ、シカラザレバ、一モ不取、二モ不取ト云諺ノ如クニナル也。

▲サテ、文章ノ體、生涯所精研ト云モノ定リテ後、ソノ所以精研ノ具ヲ求ムベシ。

●韓・柳　此二男子、百世ヲ經テ莫與之京モノ、議論雄俊如三蘇、紀事如畫女、歐陽善摸擬古人、如李空同・何大復トイヘドモ、終ニ此二男子ヲ超ル不能、而足下ノ性、幸ニ韓・柳ノ所爲ニ近シ。故ニ、コノ二氏ノ文ノ、己ノ所好ヲ引拔、暗誦スルニ不至トモ、ツネニ心口間ニ往來スル樣ニスベシ。カツ、第一肝要ナルコトハ、心中無一物トキニ向テ、二氏ノ文一二篇トリ來リ、從頭徹尾、句々吟誦シテ、ソノ筆路所來、節族所分、作者ノ苦心、コヽニアルト云トコロ迄、ソノ人ノ筆ヲトリシ時ノ心ニナリテ、咀嚼尋求スベシ。凡先秦・兩漢アタリノ文ハ文ニ無意シテ文スル者、故ニソノ筆路ノ苦心不可求而得、文ニ有意テ文スル韓・柳ニ始レリ。故ニ、後人ニ在テ、尤コレヲ求ルヲ要ト

ス。且、咀嚼シテ、作者落筆時ノ神情ヲ得ルニ至ツテハ、其樂有不可言者。韓・柳ノ文ヲ觀、韓・柳ノ文ヲ學ブニ、種々ノ訣アリ、後ニ詳也。

〔鼇頭〕▲我、足下ノ爲ニ忠謀シテ、足下ヲ陶鑄シテ韓・柳トナサントス。故ニ、從己所好ト云前ノ一條ハ、韓・柳ノ根本也、韓・柳ノ秘藏ハ後ニアリ。

●韓・柳　篇少シ、シカシ其篇ノ局法、十局アレバ萬局ニ變化スベシ。本因坊ノ碁法二十餘局ニシテ、天下ノ碁手、其範圍ヲ出ル能ハズ、韓・柳諸體、亦然。シカルニ、本因坊ノ外、天下ノ國碁ナヲ多シ、上手・下手ノ等ヲ云ハズ、多クミルニシクハナシ。故ニ、文體明辨ヲモツテ、コレヲ助クベシ。マタ其外、諸家ノ集ヲ購シ、其千萬篇局ヲミルベシ。集ヲミルハ、讀書中ノ第一可樂事也。叙事文ニハ局法ナシ、議論・小品ニハ局法第一也、韓・柳諸家ノ苦心在此。

●莊　小品諸體、此夫子ヲ學ブニシクハナシ、其段々ヲ分ツテ成文トミレバ、思過半也、奇變蒼雅、天地ノ至文也。

●凡ソ古文ヲ學ンデ失スルモノ多シ、左氏・檀弓・考工ヲ學デ失スル、落シバナシノ下

手ナルガ如シ。司馬遷ヲ學デ失スル、村婆ノ絮談、人ヲシテ欠伸厭倦嘔噦セシムルガ如シ。管・韓非・騷・賈・鼂、要之ミナ小家、不足以齒孟・莊。故ニ、孟・莊ヲ學ベバ、簡勁奇雋ニシテ、冗長可厭ノ失ナシ、高雅宏放ニシテ、短澁不可解ノ失ナシ。然ルニ、コレヲ學ブト云ハ、其文ヲ摸スルニ非ズ、材ヲ此中ヨリ取リ出シ、又常ニコレヲ循環歷涉シテ、己ノ文氣ヲ養ヒ、己ノ見解命意ヲ求ルノミ、文ヲ摸スルハ韓・柳也。

〔鼇頭〕 ▲孟莊ノ外、左・馬・國策・管・韓非・漢書等、ミナ〳〵ヨマザルベカラズ。シカシ、己ノ尸祝スルトコロ、精神ノ所注、コヽニアルト云者ヲ定メヲカズシテ、泛然多緒ナレバ、力倍而功少シ。故ニ、コノ下ニ列スルトコロヲ、心ニ定メヲキテ、其外、左・馬以下ノ古書、歐・蘇以下ノ諸集ヲ涉獵シテ、己ノ好ムトコロ・ヲモシロキトコロノミ獵讀スベシ、今不盡言。

▲諸大部ノ書、イラヌモノヲ購セシ多シ、漸ク典シサツテ、諸好書ヲ購スベシ。シカルニ、好書ヲヨムニモ課ヲ立ツベシ。課ハ、小兒ノ程式ノ如キニアラズ、是レ又省精力ノ法也。

## 五日、文一首

此課、アマリ緩疏ナルニ似タリ。然ルニ、緩疏ナルガ、卽長ク不ㇾ怠不ㇾ斷ノ方也。急密ニスレバ、必怠リ斷ルナリ。如ㇾ此立置テ、サテ其題ヲ擇ビ、意ヲ命ジ、意ヲ命ズルマデハ、アマリ書ヲ讀マヌ樣ニシ、意已ニ立、筆ヲトルバカリニナリテ、然後、韓・柳ヨリ諸書ヲ讀ムベシ。命意ノ前、頗ル韓・柳ノ佩書中ニアルモノヲ諷誦スル、亦可ナリ。韓・柳ヲ玩索スルハ、文課スミシ後ナルベシ。

●孟 サテ蒙莊ノ外、先秦古書中、尤序記諸體ノ助ケトナル者、此夫子也。此書ヲヨク見得テ、其口氣ヲ摸スレバ、韓トナル也。又、此書、ヨク譬喩ヲ設ケ、以ㇾ無ㇾ爲ㇾ有、言ㇾ不ㇾ可ㇾ不ㇾ言者。莊ハ奇ニシテ難ㇾ攀、孟ハ正ニシテ易ㇾ摸、且尤足ㇾ下ノ性ニ合ヘリ。管・韓非・列諸子、譬喩多ケレドモ、コレニ不ㇾ及。國策、譬喩アレドモ、大議論十八、譬喩小題十二也。

▲先如ㇾ此規模ヲ立置テ、入ラヌトコロヘ精神ヲ分タヌ樣ニスレバ、力省テ功倍スル

也、孟ヲ第一トシテ、輔ルニ蒙莊ヲ以テシ、コノ二書ヲ金礦ト思ヒ、ソノ金ヲ采テ、鎔之以韓・柳之模範セバ、誰カ愛玩セザラン、誰カ貴重セザラン、決シテ己ノ所不長ヲ外慕シテ兩失スル勿レ。

▲韓・柳ヲ見ルニ訣アリ、先其題ヲ見テ、其文ヲ掩卷、コノ題ヲ我得タルトキ、イカナル命意趣向ヲ立テ、イカナルトコロヨリ筆ヲ下シ、文ヲ起サンヤト精思ス。然後、開卷バ、大ニ得ルトコロアルベシ。コレハ韓・柳ニ不限、文體明辨ナド、諸家ノ文ヲ見ルニ、皆此心ヲ用ユベシ。タヾ秦漢以上ハ、コレヲ以テ不可求、其文ニ無意ヲ以テナリ、是レ非小史私言、古人亦云爾。下條亦然。

▲サテ、其後ニ一段ヲ讀了、又卷ヲ掩テ、此一段ノ次、イカ樣ニ御接シ、イカヤフニ卸脫スベキヤト思、又卷ヲ開ケバ、思ヒ過半也。起手ヲ見テ、結束ヲ考ルモヨシ。結束ノ訣、別ニアリ、如左。

▲凡、文、結束ヲ最要トス、結束不立、猶治絲而棼之、如以助木支大樹。古人、四唐ノ詩ヲ論ズルニ、前虛後實ト云コトヲ云ヘリ、コレ文ニ通ズベシ。文、寧前輕トモ、後虛ナルコ

トナカレ。後サヘ結束得テ緊健ナレバ、全篇佳ナル也。韓・柳、及諸家ノ文ヲミル、尤ソノ結束ヲ視ルベシ。足下小品諸文、未ダ此處不至、故ニ惜キ佳文不可取様ニナル也。コレ等ノ話ハ、足下固ヨリ飽クマデ知ルトコロナルベケレドモ、ナヲ能ク古人ニ求ムベシ。韓・柳諸家ノ結束無他、強弩引滿、不滿不發ガ如シ、此一髮、ヨク〳〵味ヒ玉ヘ。不滿ウチニ發スル故ニ、アタラ強弩、繁弱ト齊クナル也。故ニ結束ヲ見ルハ、結束ニ視テ不可得、必コレヲ起手ニ求ムベシ、又コレヲ中腹ニ求ムベシ。原道・封建論、尤コレヲ見易スシ、是レ小史年來苦心シテ知ルトコロ也、下條亦然。

▲原道・封建ノ如キ大文字、今人不可攀様ニ思ヒテ、其文ヲ摸スコト不能、又アマリ人ノ好ヌトコロ也。然ルニ、韓・柳ノ文法ヲ求メバ、二篇ニソナハレリ、此二篇ヲ庖丁解牛ガ如クニ見得レバ、其他小品諸篇、皆此二篇ノ具體而微ナルモノ也、孟ノ篇法ヲ參見スベシ。

▲韓・柳ノ小品、獲麟解・雜說・送薛存義序ナドヲミテ、其節族落筆ノ路ヲ求ント欲セバ、必ズコレヲ封建・原道諸大篇ニ比シテ見ルベシ。原道・封建諸大篇ヲミテ、ソノ筆路

ヲ求ント欲セバ、必諸小品短篇ヲ將チ來テ比方スベシ。譬如蜉蝣蛾蠓、形神無不具、與大象・獅子、其大小不齊、而其節族則一。是小史獨得ノ訣也。

▲自家ノ文ヲ作ルニ至ッテハ、第一ノ戒アリ、題ヲ擇ブ是ナリ、其次ハ意ヲ命ズル是ナリ。題不佳、則意不奇、意不奇、則文不可文其文也。題不佳ニ勉強シテ意ヲ求レバ、意不爽、意不爽レバ、文氣不昌、是文ノ好不好所以分也。文之不好無他、補塡也。文ノ好無他、無閑語剩字也。閑語剩字ヲ補塡スル、是東海文章ノ所以不振也。韓・柳生涯ノ苦心・大本領在此、子深思之。題不佳則棄而不作可也。題佳意出、胸中躍々然、不得不執筆トキニ至リテ、ナヲコレヲ抑ヘ、其意ノ起結・分段如此、如此、承接如此、脫卸如此ト明カニ定リテ、然後下筆一掃掃了、筆ヲトリテ後、遲吟スベカラズ。然後後先ステ置キ、心中無一物トキニ、又取出シテ、其承接・脫卸ヲカユルモ可也、起結終ニ不可易、起結所以不可易ハ、文氣ヲ以テ主トス、落筆時ノ氣、點竄時ノ氣ト異ナレバ也。

▲前條、是古今文訣第一條トスベキト、小史ハ存ジキハメ居ル也、サテ其次ハ、句法節奏也。前條、泛語世之學文者、固可也、然シテ足下、唯今ノ病痛、全ク亦コヽニアル也、第

二病痛ハ、句法節奏、未諧和也。句法ニハ天然ノ節奏アリ、人力ヲ以、易フベカラズト云コトハ、小史雅言〔常談〕スルトコロ也。然ルニ、天然節奏、人力不可以易モノナレバ、學ブニ學バレズ、唯多ク書ク內ニ、自知ルベシ。先強テ其要領ヲ云ハヾ、四字句ノ上下、必ズ四字句ヲ用ユベシ、三字句・五字句ノ類、亦然リ。ソノ必ズコレヲ用ルト云トコロヲ、長短ニカユルトコロ、所謂節奏ニテ、作者ノ苦心コヽニ在ルコト也。然ルニ、長短ニカユルトコロハ、必ズ虚字ヲ以テ斡旋ス、故ニ長短異ナリトイヘドモ、虚字一也。コレ韓・柳一代工夫、所以變八代衰風。シカルニ、韓ヤヽ勝ルニ似タリ、韓ノ原道前半・柳ノ車說等ニテ、其一斑ヲ窺フベシ。

▲第三ニハ、所謂虚字斡旋ナリ、コレ亦足下當時ノ未至トコロ也。此一訣ヲ不得、全篇破碎ス、コレモ多ク書ク內ニ、自知ルベシト云內、強テ云ヘバ、タヾ虚字ヲ多ク用ヌニ若クハナシ、用ネバナラヌトコロニテ用ユル也。莊ナドハ滅多ニ用ルニ似タレドモ、其斡旋自如タリ。シカルニ、コレハ見ガタシ、孟ヲ以テ見ルニシカズ。孟ノ文、虚字ヲ多ク用ズ、不得不用トコロニテ用ユ。又、前ノ句法節奏モ、孟ニテ視レバ易見也。

是等、人所常視、而不能見、子深思之。ヲヨソ以上諸訣、筆ニ盡スベカラザルトコロアリ、而命耳提ヲマツ。

▲以上、擇題命意・句法節奏・虛字斡旋三訣、貫之以結束・啣接・脫卸三法。百家ノ文ヲ作ルニ、古人ノ文ヲ觀ルヲ以シ、彼此融通無間バ、一己ノ磨礪具ハレリ。然後、生涯ノ浮沈顯沒所關、自思テ得之也。我言ニ有序、間言、無益ニ似テ大有益、大關係ナルモノハ存ス、深思之々々々。

▲寒鄉乏友トコロニ居レバ、聞見自然ニセマシ。己ニ不如モノト居レバ、自然ニ鋒鋭鈍退スル也。コレ第一ノ警也。又、交トモシケレバ、序記ノ題、自ラ出デ來ラズ、タヾ題ヲ設ケ書テ、異日中原ノ資トスベシ。又、コヽニ要言アリテ、韓ノ獲麟・雜說・讀跋ノ類、柳ノ三戒ノ類ノ如キ、己レ一人ニテ放言セラルヽ題ヲ多ク書クベシ。モスコシ大ニシテ、原道・原性・原鬼ノ如キ、蘇家ノ史論ノ如キ、亦可也。是非足下所長、非足下所好バ、一向ニ三戒・雜說ノ風ヲ專一ニ書クベシ。是韓・柳ノ孟・莊諸子ヲ學ビテ、一家ノ游戲ヲナシ、百代ニ橫絕スルモノ也。凡ソ足下ノ性近諸子、而不近諸史。諸史有粗俗者、

諸子則悉雅錬、故足下ノ文、雅錬ヲ主トスベシ。且、史ハ物ヲアテニシテ云文也、子ハ獨リ云也、故似韓・柳也。

〔鼇頭〕韓・柳文自子來、蘇文自史來。

●群言ヲ合セテ、其要訣ヲ示サバ、多觀古人文、多作自家文、二句ニ不出。

儀卿足下　小史氏

凡二十條

藝園茗談　終

昭和七年七月十五日印刷
昭和七年七月二十一日發行

賴山陽全書〔全集下〕

不許複製

發行者　廣島縣廳內
賴山陽先生遺蹟顯彰會
代表者　大田清

印刷者　東京市京橋區銀座西七丁目一番地
大谷仁兵衞

印刷者　東京市京橋區銀座西八丁目五番地
渡邊安雄

發行所　廣島縣廳內　賴山陽先生遺蹟顯彰會
電話　五七七八番
振替　下關六三三〇番

帝國地方行政學會印刷
民友社印刷所印刷



